神戸市
小学校・義務教育学校(前期課程)
教育課程基準

平成31年4月

神戸市教育委員会

はじめに

神戸の教育は，「心豊かに　たくましく　生きる人間」の育成を目指して，確かな学力，豊かな心，健康・体力の知・徳・体を子供たちにバランスよく身に付けさせていくため，着実に歩みを進めてきました。

この目指す子供像の実現に向けて，日々の教育活動のよりどころとなる新学習指導要領が平成 29 年３月に示されました。前回の平成 20 年より，９年ぶりの改訂となります。ご存知のように，学習指導要領は，全国どこの学校で教育を受けても一定の教育水準を確保するために，各教科等の目標や内容などを文部科学省が定めているもので，教科書や学校の指導内容のもととなるものです。

学校は，この学習指導要領の趣旨を受けて教育課程を編成しますが，神戸市ではそれに加えて，各学校が神戸の特色を生かした教育課程を編成するための基準となるものとして，神戸市教育課程基準を策定してきました。これは，子供たちの生きる力の育成にあたり，様々な教育活動を計画するための基準書という意味では，まさに「神戸版学習指導要領」といえます。

新学習指導要領においては，全体像として次の４つのキーワードが挙げられています。

①「社会に開かれた教育課程」
②「主体的・対話的で深い学び」の実現
③　育成を目指す「資質・能力」
④「カリキュラム・マネジメント」の確立

目指す理念として「社会に開かれた教育課程」が掲げられました。これは，「よりよい学校教育を通じて，よりよい社会を創る」という目標を，学校と社会が共有し，両者が連携して子供たちに必要な「資質・能力」を身に付けさせるということを意味しています。「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて，教育課程基準策定委員会では，保護者や地域の代表にもご参加いただき，積極的に学校と社会が連携・協働していけるよう貴重なご意見をいただきました。

また，策定に当たっては，日々子供たちに向き合う先生方にも多大なご協力をいただきました。子供たちに確かな学力を付けるために各調査や経験をもとに課題を出し合い，学習内容の系統性を把握したうえで，指導の手立てを考えまとめました。

今回の神戸市教育課程基準では，教科の「指導内容」「内容の取扱い」等において，「主体的・対話的で深い学び」の創造により，「資質・能力」の３つの柱「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の育成を目指す具体的な手立てが示されており，授業づくりにおおいに参考となります。

各学校においては，この神戸市教育課程基準をもとに適切かつ特色のある教育課程を編成し，４つのキーワードを重視した活発な教育活動が展開されることを期待します。

最後に，神戸市教育課程基準を作成するに当たって，巻末に掲載した多くの方々にご協力いただいたことを記し，心より感謝の意を表します。

平成31年４月１日

教育長　長田　淳

目　　次

はじめに

学校教育法施行規則（抄本）

第１章　総　則 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第２章　神戸の教育の充実に向けて ・・・・・・・・・・・・ 9

第３章　各教科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
第１節　国　語 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
第２節　社　会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
第３節　算　数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
第４節　理　科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 165
第５節　生　活 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203
第６節　音　楽 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 223
第７節　図画工作 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 257
第８節　家　庭 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 285
第９節　体　育 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 313
第10節　外国語 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 365

第４章　特別の教科　道　徳 ・・・・・・・・・・・・・・ 379

第５章　外国語活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 401

第６章　総合的な学習の時間 ・・・・・・・・・・・・・・ 411

第７章　特別活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 431

第８章　小中一貫カリキュラム ・・・・・・・・・・・・・ 447
国語，社会，算数・数学，理科，外国語活動・外国語

作成者名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 479

学校教育法施行規則（抄）

第四章　小学校

第二節　教育課程

〔教育課程の編成〕

第五十条　小学校の教育課程は，国語，社会，算数，理科，生活，音楽，図画工作，家庭，体育及び外国語の各教科（以下この節において「各教科」という。），特別の教科である道徳，外国語活動，総合的な学習の時間並びに特別活動によって編成するものとする。

〔授業時数〕

第五十一条　小学校（第五十二条の二第二項に規定する中学校連携型小学校及び第七十九条の九第二項に規定する中学校併設型小学校を除く。）の各学年における各教科，特別の教科である道徳，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの授業時数並びに各学年におけるこれらの総授業時数は，別表第一に定める授業時数を標準とする。

〔教育課程の基準〕

第五十二条　小学校の教育課程については，この節に定めるもののほか，教育課程の基準として文部科学大臣が別に公示する小学校学習指導要領によるものとする。

第五章の二　義務教育学校並びに中学校併設型小学校及び小学校併設型中学校

第一節　義務教育学校

第七十九条の六　義務教育学校の前期課程の教育課程については，第五十条，第五十二条の規定に基づき文部科学大臣が公示する小学校学習指導要領及び第五十五条から第五十六条の四までの規定を準用する。－略－

別表第一（第五十一条関係）

区分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
各教科の授業時数	国語	306	315	245	245	175	175
	社会			70	90	100	105
	算数	136	175	175	175	175	175
	理科			90	105	105	105
	生活	102	105				
	音楽	68	70	60	60	50	50
	図画工作	68	70	60	60	50	50
	家庭					60	55
	体育	102	105	105	105	90	90
	外国語					70	70
特別の教科である道徳の授業時数		34	35	35	35	35	35
外国語活動の授業時数				35	35		
総合的な学習の時間の授業時数				70	70	70	70
特別活動の授業時数		34	35	35	35	35	35
総授業時数		850	910	980	1015	1015	1015

備考

一　この表の授業時数の一単位時間は，四十五分とする。

二　特別活動の授業時数は，小学校学習指導要領で定める学級活動（学校給食に係るものを除く。）に充てるものとする。

「神戸市小学校・義務教育学校（前期課程）教育課程基準」を

次のように改訂し，2020 年４月１日から施行する。

平成 31 年４月１日

教育長　　長　田　　淳

第 1 章

総　　則

第１章　総　則

第１　小学校教育の基本と教育課程の役割

１　各学校においては，教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い，児童の人間として調和のとれた育成を目指し，児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して，適切な教育課程を編成するものとし，これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。

２　学校の教育活動を進めるに当たっては，各学校において，第３の１に示す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して，創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で，次の（1）から（3）までに掲げる事項の実現を図り，児童に生きる力を育むことを目指すものとする。

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力等を育むとともに，主体的に学習に取り組む態度を養い，個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際，児童の発達の段階を考慮して，児童の言語活動など，学習の基盤をつくる活動を充実するとともに，家庭との連携を図りながら，児童の学習習慣が確立するよう配慮すること。

(2) 道徳教育や体験活動，多様な表現や鑑賞の活動等を通して，豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること。

学校における道徳教育は，特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道徳科はもとより，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，児童の発達の段階を考慮して，適切な指導を行うこと。

道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。

道徳教育を進めるに当たっては，人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭，学校，その他社会における具体的な生活の中に生かし，豊かな心をもち，伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛し，個性豊かな文化の創造を図るとともに，平和で民主的な国家及び社会の形成者として，公共の精神を尊び，社会及び国家の発展に努め，他国を尊重し，国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意すること。

(3) 学校における体育・健康に関する指導を，児童の発達の段階を考慮して，学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより，健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に，学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導，安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については，体育科，家庭科及び特別活動の時間はもとより，各教科，道徳科，外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また，それらの指導を通して，家庭や地域社会との連携を図りながら，日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し，生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

３　２の（1）から（3）までに掲げる事項の実現を図り，豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に，生きる力を育むことを目指すに当たっては，学校教育全体並びに各教科，道徳科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動（以下「各教科等」という。ただし，第２の３の（2）のア及びウにおいて，特別活動については学級活動（学校給食に係るものを除く。）に限る。）の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら，教育活動の充実を図るものとする。その際，児童の発達の段階や特性等を踏まえつつ，次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。

(1) 知識及び技能が習得されるようにすること。

(2)　思考力，判断力，表現力等を育成すること。

(3)　学びに向かう力，人間性等を涵養すること。

4　各学校においては，児童や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと，教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと，教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して，教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

第２　教育課程の編成

1　各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては，学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ，各学校の教育目標を明確にするとともに，教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際，第５章総合的な学習の時間の第２の１に基づき定められる目標との関連を図るものとする。

2　教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

(1)　各学校においては，児童の発達の段階を考慮し，言語能力，情報活用能力（情報モラルを含む。），問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう，各教科等の特質を生かし，教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする 。

(2)　各学校においては，児童や学校，地域の実態及び児童の発達の段階を考慮し，豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を，教科等横断的な視点で育成していくことができるよう，各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

3　教育課程の編成における共通的事項

(1)　内容等の取扱い

ア　第２章以下に示す各教科，道徳科，外国語活動及び特別活動の内容に関する事項は，特に示す場合を除き，いずれの学校においても取り扱わなければならない。

イ　学校において特に必要がある場合には，第２章以下に示していない内容を加えて指導することができる。また，第２章以下に示す内容の取扱いのうち内容の範囲や程度等を示す事項は，全ての児童に対して指導するものとする内容の範囲や程度等を示したものであり，学校において特に必要がある場合には，この事項にかかわらず加えて指導することができる。ただし，これらの場合には，第２章以下に示す各教科，道徳科，外国語活動及び特別活動の目標や内容の趣旨を逸脱したり，児童の負担過重となったりすることのないようにしなければならない。

ウ　第２章以下に示す各教科，道徳科，外国語活動及び特別活動の内容に掲げる事項の順序は，特に示す場合を除き，指導の順序を示すものではないので，学校においては，その取扱いについて適切な工夫を加えるものとする。

エ　学年の内容を２学年まとめて示した教科及び外国語活動の内容は，２学年間かけて指導する事項を示したものである。各学校においては，これらの事項を児童や学校，地域の実態に応じ，２学年間を見通して計画的に指導することとし，特に示す場合を除き，いずれかの学年に分けて，又はいずれの学年においても指導するものとする。

オ　学校において２以上の学年の児童で編制する学級について特に必要がある場合には，各教科及び道徳科の目標の達成に支障のない範囲内で，各教科及び道徳科の目標及び内容について学年別の順序によらないことができる。

カ　道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は，第３章特別の教科 道徳の第２に示す内容とし，その実施に当たっては，第６に示す道徳教育に関する配慮事項を踏まえるものとする。

(2)　授業時数等の取扱い

ア　各教科等の授業は，年間 35 週（ 第１学年については 34 週）以上にわたって行うよう計画し，週当たりの授業時数が児

童の負担過重にならないようにするものとする。ただし，各教科等や学習活動の特質に応じ効果的な場合には，夏季，冬季，学年末等の休業日の期間に授業日を設定する場合を含め，これらの授業を特定の期間に行うことができる。

イ　特別活動の授業のうち，児童会活動，クラブ活動及び学校行事については，それらの内容に応じ，年間，学期ごと，月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。

ウ　各学校の時間割については，次の事項を踏まえ適切に編成するものとする。

(ｱ)　各教科等のそれぞれの授業の１単位時間は，各学校において，各教科等の年間授業時数を確保しつつ，児童の発達の段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して適切に定めること。

(ｲ)　各教科等の特質に応じ，10 分から 15 分程度の短い時間を活用して特定の教科等の指導を行う場合において，教師が，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した中で，その指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任をもって行う体制が整備されているときは，その時間を当該教科等の年間授業時数に含めることができること。

(ｳ)　給食，休憩などの時間については，各学校において工夫を加え，適切に定めること。

(ｴ)　各学校において，児童や学校，地域の実態，各教科等や学習活動の特質等に応じて，創意工夫を生かした時間割を弾力的に編成できること。

エ　総合的な学習の時間における学習活動により，特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては，総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる。

(3)　指導計画の作成等に当たっての配慮事項

各学校においては，次の事項に配慮しながら，学校の創意工夫を生かし，全体として，調和のとれた具体的な指導計画を作成するものとする。

ア　各教科等の指導内容については，(1)のアを踏まえつつ，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら，そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加え，第３の１に示す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導ができるようにすること。

イ　各教科等及び各学年相互間の関連を図り，系統的，発展的な指導ができるようにすること。

ウ　学年の内容を２学年まとめて示した教科及び外国語活動については，当該学年間を見通して，児童や学校，地域の実態に応じ，児童の発達の段階を考慮しつつ，効果的，段階的に指導するようにすること。

エ　児童の実態等を考慮し，指導の効果を高めるため，児童の発達の段階や指導内容の関連性等を踏まえつつ，合科的・関連的な指導を進めること。

4　学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては，次の事項に配慮しながら，学校段階等間の接続を図るものとする。

(1)　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより，幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し，児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また，低学年における教育全体において，例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が，他教科等の学習においても生かされるようにするなど，教科等間の関連を積極的に図り，幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に，小学校入学当初においては，幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが，各教科等における学習に円滑に接続されるよう，生活科を中心に，合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など，指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

(2)　中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領を踏まえ，中学校教育及びその後の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に，義務教育学校，中学校連携型小学校及び中学校併設型小学校においては，義務教育９年間を見通した計画的

かつ継続的な教育課程を編成すること。

第３　教育課程の実施と学習評価

１ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

各教科等の指導に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1)　第１の３の（1）から（3）までに示すことが偏りなく実現されるよう，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら，児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

特に，各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり，思考力，判断力，表現力等や学びに向かう力，人間性等を発揮させたりして，学習の対象となる物事を捉え思考することにより，各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し，児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

(2)　第２の２の（1）に示す言語能力の育成を図るため，各学校において必要な言語環境を整えるとともに，国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて，児童の言語活動を充実すること。あわせて，(7) に示すとおり読書活動を充実すること。

(3)　第２の２の（1）に示す情報活用能力の育成を図るため，各学校において，コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え，これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また，各種の統計資料や新聞，視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。あわせて，各教科等の特質に応じて，次の学習活動を計画的に実施すること。

ア 児童がコンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動

イ 児童がプログラミングを体験しながら，コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動

(4)　児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を，計画的に取り入れるように工夫すること。

(5)　児童が生命の有限性や自然の大切さ，主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう，各教科等の特質に応じた体験活動を重視し，家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的に実施できるよう工夫すること。

(6)　児童が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど，児童の興味・関心を生かした自主的，自発的な学習が促されるよう工夫すること。

(7)　学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り，児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに，児童の自主的，自発的な学習活動や読書活動を充実すること。また，地域の図書館や博物館，美術館，劇場，音楽堂等の施設の活用を積極的に図り，資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。

２　学習評価の充実

学習評価の実施に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1)　児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し，学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また，各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して，学習の過程や成果を評価し，指導の改善や学習意欲の向上を図り，資質・能力の育成に生かすようにすること。

(2)　創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう，組織的かつ計画的な取組を推進するとともに，学年や学校段階を越えて児童の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

第４　児童の発達の支援

１ 児童の発達を支える指導の充実

教育課程の編成及び実施に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

⑴ 学習や生活の基盤として，教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため，日頃から学級経営の充実を図ること。また，主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと，個々の児童の多様な実態を踏まえ，一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により，児童の発達を支援すること。あわせて，小学校の低学年，中学年，高学年の学年の時期の特長を生かした指導の工夫を行うこと。

⑵ 児童が，自己の存在感を実感しながら，よりよい人間関係を形成し，有意義で充実した学校生活を送る中で，現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう，児童理解を深め，学習指導と関連付けながら，生徒指導の充実を図ること。

⑶ 児童が，学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら，社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう，特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて，キャリア教育の充実を図ること。

⑷ 児童が，基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め，学習内容を確実に身に付けることができるよう，児童や学校の実態に応じ，個別学習やグループ別学習，繰り返し学習，学習内容の習熟の程度に応じた学習，児童の興味・関心等に応じた課題学習，補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや，教師間の協力による指導体制を確保することなど，指導方法や指導体制の工夫改善により，個に応じた指導の充実を図ること。その際，第３の１ の⑶ に示す情報手段や教材・教具の活用を図ること。

２　特別な配慮を必要とする児童への指導

⑴　障害のある児童などへの指導

ア　障害のある児童などについては，特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ，個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

イ　特別支援学級において実施する特別の教育課程については，次のとおり編成するものとする。

(ｱ) 障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため，特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第７章に示す自立活動を取り入れること。

(ｲ) 児童の障害の程度や学級の実態等を考慮の上，各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり，各教科を，知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたりするなどして，実態に応じた教育課程を編成すること。

ウ　障害のある児童に対して，通級による指導を行い，特別の教育課程を編成する場合には，特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第７章に示す自立活動の内容を参考とし，具体的な目標や内容を定め，指導を行うものとする。その際，効果的な指導が行われるよう，各教科等と通級による指導との関連を図るなど，教師間の連携に努めるものとする。

エ　障害のある児童などについては，家庭，地域及び医療や福祉，保健，労働等の業務を行う関係機関との連携を図り，長期的な視点で児童への教育的支援を行うために，個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに，各教科等の指導に当たって，個々の児童の実態を的確に把握し，個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。特に，特別支援学級に在籍する児童や通級による指導を受ける児童については，個々の児童の実態を的確に把握し，個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し，効果的に活用するものとする。

⑵　海外から帰国した児童などの学校生活への適応や，日本語の習得に困難のある児童に対する日本語指導

ア　海外から帰国した児童などについては，学校生活への適応を図るとともに，外国における生活経験を生かすなどの適切な指導を行うものとする。

イ　日本語の習得に困難のある児童については，個々の児童の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。特に，通級による日本語指導については，教師間の連携に努め，指導についての計画を個別に作成すること

などにより，効果的な指導に努めるものとする。

⑶　不登校児童への配慮

ア　不登校児童については，保護者や関係機関と連携を図り，心理や福祉の専門家の助言又は援助を得ながら，社会的自立を目指す観点から，個々の児童の実態に応じた情報の提供その他の必要な支援を行うものとする。

イ　相当の期間小学校を欠席し引き続き欠席すると認められる児童を対象として，文部科学大臣が認める特別の教育課程を編成する場合には，児童の実態に配慮した教育課程を編成するとともに，個別学習やグループ別学習など指導方法や指導体制の工夫改善に努めるものとする。

第５　学校運営上の留意事項

１　教育課程の改善と学校評価等

ア　各学校においては，校長の方針の下に，校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ，相互に連携しながら，各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努めるものとする。また，各学校が行う学校評価については，教育課程の編成，実施，改善が教育活動や学校運営の中核となることを踏まえ，カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意するものとする。

イ　教育課程の編成及び実施に当たっては，学校保健計画，学校安全計画，食に関する指導の全体計画，いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針など，各分野における学校の全体計画等と関連付けながら，効果的な指導が行われるように留意するものとする。

２　家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

教育課程の編成及び実施に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

ア　学校がその目的を達成するため，学校や地域の実態等に応じ，教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど，家庭や地域社会との連携及び協働を深めること。また，高齢者や異年齢の子供など，地域における世代を越えた交流の機会を設けること。

イ　他の小学校や，幼稚園，認定こども園，保育所，中学校，高等学校，特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに，障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け，共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすること。

第６　道徳教育に関する配慮事項

道徳教育を進めるに当たっては，道徳教育の特質を踏まえ，前項までに示す事項に加え，次の事項に配慮するものとする。

１　各学校においては，第１の２の⑵に示す道徳教育の目標を踏まえ，道徳教育の全体計画を作成し，校長の方針の下に，道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に，全教師が協力して道徳教育を展開すること。なお，道徳教育の全体計画の作成に当たっては，児童や学校，地域の実態を考慮して，学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに，道徳科の指導方針，第３章特別の教科道徳の第２に示す内容との関連を踏まえた各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと。

２　各学校においては，児童の発達の段階や特性等を踏まえ，指導内容の重点化を図ること。その際，各学年を通じて，自立心や自律性，生命を尊重する心や他者を思いやる心を育てることに留意すること。また，各学年段階においては，次の事項に留意すること。

⑴　第１学年及び第２学年においては，挨拶などの基本的な生活習慣を身に付けること，善悪を判断し，してはならないことをしないこと，社会生活上のきまりを守ること。

⑵　第３学年及び第４学年においては，善悪を判断し，正しいと判断したことを行うこと，身近な人々と協力し助け合うこと，

集団や社会のきまりを守ること。

⑶　第５学年及び第６学年においては，相手の考え方や立場を理解して支え合うこと，法やきまりの意義を理解して進んで守ること，集団生活の充実に努めること，伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重すること。

３　学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに，集団宿泊活動やボランティア活動，自然体験活動，地域の行事への参加などの豊かな体験を充実すること。また，道徳教育の指導内容が，児童の日常生活に生かされるようにすること。その際，いじめの防止や安全の確保等にも資することとなるよう留意すること。

４　学校の道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動などの情報を積極的に公表したり，道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど，家庭や地域社会との共通理解を深め，相互の連携を図ること。

第 ２ 章

神戸の教育の充実に向けて

１．「言葉の力」の充実

子供たちには，論理や思考を深め，他者と円滑なコミュニケーションを図り，感性・情緒を深める言葉の力を身に付けていくことが求められている。学習指導要領においても，国語科だけでなく教科等横断的に言語に関する能力を育成していくことの重要性が強調されている。

・国語科においては，次のことを重視して指導を行う。

①様々な言語活動を工夫し，その充実を図る。

②各教科の言語活動の基本となる言語の能力を身に付けさせるよう指導を行う。

③目的に応じて本や文章などを選んで読んだり，それらを活用して自分の考えを記述したりすることを重視した読書指導の改善を図る。また，学校図書館を計画的に利用するなど，読書活動を充実させる。

・各教科においては，国語科で培った能力を基本に次のような学習活動・言語活動を重視する。

知的活動の基盤として	コミュニケーションや感性・情緒の基盤として
・多角的に考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり，立場や根拠を明確にして議論したりする。（社会科） ・具体物，図，言葉，数，式，表，グラフなどを用いて考えたり，説明したり，互いに自分の考えを表現し伝え合ったり，学び合ったり，高め合ったりするなどの学習活動（算数科） ・問題を見いだし，予想や仮設，観察，実験などの方法について考えたり説明したりする学習活動，観察，実験の結果を整理し考察する学習活動，科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする。（理科） ・言葉，絵，動作，劇化などの多様な方法により表現し，考えられるようにする。（生活科）	・音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り，音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫すること（音楽科） ・感じたことや思ったこと，考えたことなどを，話したり聞いたり話し合ったりする，言葉で整理するなどの言語活動（図画工作科） ・衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や，自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり，説明したりするなどの学習活動（家庭科） ・筋道を立てて練習や作戦について話し合うことや，身近な健康の保持増進について話し合うこと（体育科） ・多様な感じ方や考え方に接する中で，考えを深め，判断し，表現する力などを育むことができるよう，自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの言語活動（道徳科）

□ 学校図書館の充実

・学校図書館については，学校の教育活動全般を支える基礎的な設備であり，①児童生徒の想像力を培い，学習に対する興味・関心等を呼び起こし，豊かな心や人間性，教養，創造力等を育む自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能，②児童生徒の自主的・自発的かつ協働的な学習活動を支援したり，授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能，③児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり，児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有している。

・「学校図書館活用神戸モデル」等を活用して，学校図書館が教育課程の展開において，その役割を果たすことができるようにする。具体的には，子供たちが学習の課題を学校図書館の資料で調べ，自分で課題を解決していく学習を積み重ねていくことで，言語能力や情報活用能力，問題解決能力などの育成につなげていく。

・神戸市は平成 26 年 10 月より順次，学校図書館を担当する専門職の学校司書を配置している。

・家庭での読書を推進し，読書習慣を付けるため，家庭への協力呼びかけ・推薦図書リストの活用・新聞など幅広く活字に親しむ活動などの取組を進める。

２．力のつく授業の充実

「個に応じた指導の充実」，「授業の内容・質の向上」，「学校のチーム力の向上」を３本柱とし，小・中・義務教育学校において，きめ細やかな指導や学力向上，授業改善のより一層の推進を図っている。

「力のつく授業」とは，これまでの「分かる授業」の成果を発展的に継承し，「分かった！ できた！ 活かせる！」を目指した授業とし，カリキュラム・マネジメントを行っていきながら，確かな学力の育成を目指していくものである。

□　個に応じた指導の充実

・知識の定着を図るための時間を授業の中に確保しましょう。
・授業の内容と実生活とを関連付ける指導を図りましょう。
・自分の考えの根拠を明らかにした発表ができるような指導を心掛けましょう。

①「学ぶ力・生きる力向上支援員」

全小中学校・義務教育学校に配置し，同室複数指導や少人数指導・放課後学習など，一人一人の学習状況に応じたきめ細やかな指導が行えるようにする。

②「学習支援ツール」

全小中学校・義務教育学校などに導入し，個に応じた教材プリントの作成や個別配信による児童生徒の自主学習に活かせるようにする。

③「神戸市学力定着度調査」

全国学力・学習状況調査と合わせて，小４から中３までの６年間の学力定着状況を把握し，個に応じた指導に生かせるようにする。

□　授業の内容・質の向上

・単元冒頭の授業で，児童生徒が単元全体の見通しをもち，興味・関心を高められるような工夫をしましょう。
・授業のめあて，ねらいを伝えることと合わせて，授業の最後には，次の学習に対する意欲につながるような振り返りの時間を確保しましょう。
・すべての教科で言語活動を取り入れ，指導の充実を図りましょう。

①「力のつく授業－神戸方式－」

授業の流れや学習規律などのモデルを提示し，各校の実情に応じたスタンダードが作成できるようにしている。

②「授業動画の配信」

授業力を高め，児童生徒の確かな学力を育成するため，授業動画を，教員が神戸市情報教育基盤サービス(KIIF2)内で視聴できるように配信している。

③「神戸授業マイスター」

優れた教科指導力を有する教員を「神戸授業マイスター」に認定し，マイスターなどの行う授業を動画配信している。

□　学校のチーム力の向上

・自校の学力の傾向や課題について，学年を越えて全教員で共通理解したうえで，授業の組立を工夫しましょう。
・宿題の出し方等について，校内・学年の共通理解をしましょう。

①「学力向上担当者」

授業改善に向けた校内研修を推進する役割を担う。また，「学力向上担当者連絡会」を開催し，優れた実践の共有や取組の情報交換を行う。

②「学力向上支援チーム」

指導主事や教員 OB・OG からなる「学力向上支援チーム」を学校に派遣し，教員の授業力を高める。

③「力のつく授業研究指定校」

学力向上に向けた研究実践を積み重ね，その成果を広く発信する。

３．新たな神戸の防災教育の充実

□「震災」と「復興」の過程で得た教訓を生かす　　～神戸の防災教育の目指す方向～

神戸の防災教育は，阪神・淡路大震災という未曾有の災害を乗り越えていく過程で学んだ教訓を学校教育の中で生かし，未来に向かって力強く生きていく子供の育成を図っていくことをねらいとしている。一人一人の子供に「生きる力」を育むために，防災教育をその中心に位置付けている。震災以降，次の３つの視点から考えてきた。

① **震災体験から学んだ教訓を生かす**
命の大切さ，生きるということの意味，人間と自然の在り方，人と人とのつながり等，震災から学んだことを生かします。

② **防災・減災**
災害の予防，災害時の被害の抑制，災害復旧などについて学習を深めて，「自分の命は自分で守る力」を身に付けた子供たちを育成します。

③ **思いの共有化**
震災を体験していない子供たちが，相手に寄り添い，震災の痛みを理解することで，人と人とのつながりをつくります。

□　神戸の防災教育が目指す子供像

「生きる力を育む防災教育」として再出発した神戸の防災教育が目指す子供像は次の６つである。

- ○　困難な状況に出会った時，自ら判断し，主体的に行動できる子供
- ○　自他の命や人権を尊重できる子供
- ○　相手の思いに寄り添い，共感的に受け止める優しさをもつ子供
- ○　自然を正しく理解し，そのすばらしさに気付くとともに畏敬の念をもつ子供
- ○　社会の一員としての自覚をもち，社会に対して積極的にかかわろうとする子供
- ○　自らのかけがえのない命を自分で守ることができる子供

□　防災教育カリキュラムの教育課程への位置付け

各学校園で，地域の特性に応じた防災教育カリキュラム(年間指導計画)を作成し，防災マニュアルとともに教職員全員で共通理解を図ることが大切である。

- ○　防災教育に関する単元・題材等を明確にした，教科指導としての防災教育の推進
- ○　防災訓練等，特色ある活動の特別活動，道徳，総合的な学習の時間への位置付け
- ○　危険箇所の点検等のフィールドワーク，防災マップづくり等の体験的な学習の重視
- ○　防災教育副読本「しあわせ　はこぼう」(小学校用)「幸せ　運ぼう」(中学校用)の活用計画の策定
- ○　学校園独自の教材，特色ある教育活動等の開発・活用
- ○　防災福祉コミュニティと連携した防災教育(防災学習・避難訓練)の推進
- ○　家庭・地域・近隣学校園・関係機関・大学・ＮＰＯ等との連携
- ○　児童会・生徒会活動への位置付けられた，ボランティア活動や地域行事への参加

□　防災マニュアルの作成・見直しにあたって

「防災マニュアル見直しの５つの視点」
- 学校園の地域特性に応じた避難場所，避難経路の設定
- 学校園の地域特性に応じた避難訓練の計画，実施
- 災害発生時における教職員の状況別役割分担の明確化
- 避難所の開設準備や役割分担の明確化
- 児童生徒等の引渡し方法の明確化と保護者への周知

「ＰＤＣＡサイクルで」
「Ｐ」・地域特性に応じた防災マニュアルを作成
　　・改善点を防災マニュアルに反映させる。
「Ｄ」・防災マニュアルに基づいた防災訓練を実施
「Ｃ」・防災訓練についての評価を行い，改善点を見つけ出す。
「Ａ」・改善点についての話合い，共通理解する。

４．人権教育の充実

人権は，人間の尊厳，一人一人の幸せにつながる基本的な理念である。子供たちに人権の意義やその重要性の理解を図り，日常生活の中で，人権尊重の意識が態度や行動として表れるような人権感覚を身に付けさせる必要がある。

□　神戸の人権教育の４つの目標

学校教育においては，自ら学び自ら考える力の育成とともに，基礎・基本の確実な定着を図り，命を尊び幸せにつながる生き方・考え方を育むことが求められている。これを踏まえ目標と内容を次のように定めている。

（１）自己実現の力の育成･･･①自尊感情を育む　②基礎学力の定着・向上を図る　③自立・向上心を育成する

（２）共生の態度の育成　･･･①「共に生きること」についての理解を深めるようにする

②違いを認め，協力し合う態度を育てる

（３）偏見や差別の解消　･･･①人権尊重の感性を育む　②人権についての理解を深めるようにする

③人権に関わる技能・態度を身に付けるようにする

（４）人権感覚豊かな学習環境の創造･･･①自立を目指した生活を確立できるようにする

②豊かな人間関係を築き責任感を育てる

□　教職員の役割と研修，実践について

人権尊重の意識を高める

・人権に関する歴史や現状，課題の認識を深め，人権尊重の意識や感性を高める。

・「子供は権利を行使する主体である」（児童の権利条約）ことを認識し，子供への共感的な理解を深める。

・子供同士の認め合い，高め合いがある，「力のつく授業」を実践する。

・体罰や不適切な言動，セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを許さない環境をつくる。　等

人権教育の進め方を工夫する

・人権教育推進委員会の充実と活性化を進め，人権に関する知識，技能，態度の習得を図り，教職員の感性を磨く。

・新たな課題に対する正しい知識を習得し，社会の変化に対応しうるための研修や研究を推進する。

・体験学習や，ボランティア活動，参加型学習の手法について研修を進める。

・研究校園指定事業や区域別学校園人権教育推進協議会などを活用する。

家庭・地域との連携を進める

・「開かれた学校園づくり」を進め，家庭・地域及び関連機関との連携を図る。

校種間の連携を進める

・幼稚園，小学校，中学校，高等学校，特別支援学校，義務教育学校間の協力と連携を進めるために，区域別学校園人権教育推進協議会の充実を図る。

□　すべての教育活動で人権教育を

児童生徒の人権感覚の育成には，正規の教育課程と並び，「隠れたカリキュラム」が重要であるとの指摘がある。これは，教育する側が意図する，しないに関わらず，学校生活を営む中で，児童生徒自らが学び取っていくすべての事柄を指すものであり，学校・学級の「隠れたカリキュラム」を構成するのは，それらの場の在り方であり，雰囲気といったものである。例えば，「いじめ」を許さない態度を身に付けるためには，「いじめはよくない」という知的理解だけでは不十分である。実際に，「いじめ」を許さない雰囲気が浸透する学校・学級で生活することを通じて，児童生徒ははじめて「いじめ」を許さない人権感覚を身に付けることができるのである。だからこそ，教職員一体となっての組織づくり，場の雰囲気づくりが重要である。

５．伝統文化の教育・地域学習の充実

国際社会で活躍する日本人の育成を図るうえで，我が国や郷土の伝統や文化を受け止め，そのよさを継承・発展させるための教育を充実することが必要である。グローバル化社会の中で，自分とは異なる文化や歴史に敬意を払うことにより，これらに立脚する人々と共存することができる。また，伝統や文化への深い理解は，他者や社会との関係だけでなく，自己と対話しながら自分を深めていくうえでも重要である。（平成 28 年 12 月中央教育審議会答申より）

□　伝統文化に関する教育の目的

・日本の伝統・文化を尊重し，郷土を愛するとともに，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。

視点　・日本の伝統や文化への理解　　・地域の文化財や伝統文化・芸能の継承　　・豊かな国際性の育み

□　各教科等での学習を通して推進する伝統や文化に関する教育

・国語

昔話や神話，伝承，日本において長く親しまれている古典や近代以降の物語などの作品に触れ，理解を深める。

・社会

古くから残る建造物,地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事,伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域,伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域，郷土の発展に尽くした先人の働きなどを地域学習で取り上げる。

・算数・数学，理科

算数ではそろばんを，理科では里山などの自然環境保全や産業史などを取り上げる。

・音楽

我が国や郷土の伝統音楽にかかわる指導を充実させ，伝統文化の継承と創造への関心を高める。

・図画工作・美術

伝統的かつ創造的な側面をもつ美術文化への関心を高める。

・家庭（小学校）技術・家庭（中学校）

技術分野では，日本古来の建築，製紙，陶器など，伝統的な技術について取り上げ，緻密なものづくりの技が我が国の伝統や，木の文化・和の文化を支えてきたことに気付かせるように指導する。家庭分野では，衣食住にわたって伝統的な生活文化に親しみ，和服の基本的な着装や，地域の伝統的な行事食，郷土料理などを扱い，その継承と発展を図る。

・保健体育

武道の指導を充実し，日本固有の伝統や文化に，より一層触れる。

・道徳

国際社会と向き合い，我が国や郷土の伝統と文化を尊重し，それらを愛する心を育む。

・総合的な学習の時間

伝統や文化など地域，学校の特色に応じた課題について学習活動などを行う。地域の人材や文化遺産などを効果的に活用して取り組む。

・特別活動

地域の伝統や文化に触れる機会を積極的に設定し，地域の理解と郷土に対する誇りや愛情を育む。

□　地域教材等を活用した地域学習や，地域の実態に応じた体験的な活動の取組

・「ことばひろがる　よみときブック」（小学校３～６年生用）の活用
・「神戸はかせトライアル」（小学校４年生対象）の実施
・「わたしたちの神戸」（小学校）・「私たちの神戸」（中学校）の活用
・「Science & Technology in Kobe」（中学校）の活用
・「トライやる・ウィーク」（中学校２年生）を通しての地域理解など

６．外国語教育・国際理解の充実

社会や経済のグローバル化が急速に進展する中，学校教育において外国語によるコミュニケーション能力の向上が課題となっている。そのため，小学校中学年からあいさつ等の初歩的な外国語に親しみ，高学年で教科としての外国語を学んだ上で，中学校への接続を図るとともに，高等学校への一貫した外国語教育を実施している。

小学校において外国語を通じてコミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験することは，中学校以降の英語教育におけるコミュニケーション能力の育成に大変重要である。また，外国語を用いて伝えることができた満足感や達成感を味わう体験は，日本語も含め，言語に対する興味・関心を高めていくことになる。さらに，日本と外国との文化の違い，多様なものの見方や考え方があることに気付かせることによって，国際理解の基礎を培うようにする。

□　神戸市の目標と今後の展開

・国際都市神戸にふさわしい特色ある英語教育を推進し，児童生徒の国際性を育むために，小学校における外国語教育が果たす役割は大きい。「英語が楽しい，もっと勉強してみたい」「日本と世界のことをもっと知りたい」というような児童の育成が，中学校以降の英語教育あるいは国際性豊かな人格形成に大きく寄与することになる。

・小学校学習指導要領の目標は「コミュニケーション能力の素地・基礎を養う」ことであるが，神戸市が目標とする具体的な姿としては，自分のことや自分の気持ちを英語で伝えることができる「英語に親しむ神戸の小学生」を描いている。外国人に臆することなく，知っている英語を使ってコミュニケーションをとろうとする児童である。中学校では，より具体的な姿として，互いの考えや気持ちを英語で伝え合うことができる「英語が話せる中学生」を目標としている。

・神戸市では，国のＪＥＴプログラムによる外国人英語指導助手（ＡＬＴ）を小・中・義務教育学校・高等学校・特別支援学校に配置している。小学校では，担任等による指導に加えて，ＡＬＴの力を最大限に生かしたティームティーチング（協同授業）を行っている。ティームティーチングでは，神戸市が大切にしてきたネイティブスピーカーとの生きたコミュニケーションを児童が直接体験できるような学習を展開している。また，小・中のＡＬＴチームによるイングリッシュデイを企画して英語に慣れ親しませる等，特色ある国際教育を推進している。

□　小中の連携

・指導計画の作成や指導内容に当たっては，中学校及びその校区にある小学校との連携を図り，小学校の外国語教育が中学校の英語教育に効果的につながるようにする。

・小・中学校間で授業を公開したり，教員やＡＬＴとの交流をしたりして互いに研修を進める。

□　外国語活動・外国語の実施に当たって

・英語を取り扱うことを原則とする。

・中学校段階の学習内容を前倒しにするのではないこと等，小学校における外国語教育の趣旨を十分に理解した上で学年ごとの目標を適切に定め，３・４年生の外国語活動や５・６年生の外国語科の目標の実現を図る。

・小中一貫カリキュラムによる指導は，特に中学校１年生における英語指導との接続に留意して行う。

・指導計画の作成や授業の実施は，学級担任又は外国語活動・外国語を担当する教員が行う。

・ＡＬＴとの効果的なティームティーチングの中で，担任等は自ら英語を学ぼうとするモデルになるよう努める。

・中学校との連携以外にも，イングリッシュサポーターや英語に堪能な地域人材の協力を得る等，指導体制を工夫する。

・指導内容や活動は，児童に身近なものや他の教科等で学習したことを活用して，体験的な理解を図る。

・指導内容が必要以上に細部にわたったり，形式的になったりしないようにする。また，音声やリズムに慣れ親しませる指導に際しては，歌やチャンツ等の音声教材，ＣＤ，ＤＶＤ等の視聴覚教材も積極的に活用する。

・様々な国の言語や文化に関心をもち，尊重できる態度を育成すると同時に，日本語や日本の文化に対する理解を深めることができるようにする。

７．道徳教育の充実

学校における道徳教育は，教育活動全体を通じて行うものであり，道徳科はもとより，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，児童生徒の発達の段階を考慮して適切な指導を行う。学校における道徳教育は，自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする教育活動である。これは，社会の変化に対応し，その形成者として生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている。

中でも，道徳教育の要となる道徳科の授業を積極的に公開し，家庭や地域との連携を図り，心の教育を推進することが重要である。道徳科は，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てることを目標としている。「学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」では，発達の段階に応じ，答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え，向き合う「考える道徳」，「議論する道徳」へと転換を図ることが示されている。

□　小学校における道徳教育

①児童の自立心や自律性，自他の生命を尊重する心，基本的な生活習慣，規範意識，人間関係を築く力などの育成は，いずれの段階においても指導の充実を図る。

②重点指導内容（発達段階ごとに配慮する）

○低学年　基本的な生活習慣を身に付ける，善悪の判断をする，きまりを守る

○中学年　集団や社会のきまりを守る，身近な人々と協力し合う

○高学年　相手の立場を理解する，法やきまりの意義を理解する，人間関係を築く

□　中学校における道徳教育

①自他の生命を尊重し，規律ある生活ができ，自分の将来を考え，法やきまりの意義の理解を深め，人間としての生き方についての自覚を深める指導を重視する。

②学校としての重点目標を明確にし，内容項目の指導の充実を図る中で，生徒や学校の実態に応じ，３年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導を行うよう工夫する。

□　高等学校における道徳教育

①高等学校における道徳教育の考え方として示されていることは「人間としての在り方生き方」に関する教育である。道徳教育の目標を踏まえ，指導の重点や方針を明確にし，学校の教育活動全体を通して行う道徳教育について，その全体計画を作成する。

②社会の一員として自己の生き方を探求するなど，公民科やホームルーム活動を中心に各教科・科目等の特質を踏まえ，適切な指導を行う。

□　道徳教育に関する配慮事項

①各学校においては，校長の方針の下に，道徳教育の推進を主に担当する教師（道徳教育推進教師）を中心に，全教員が協力して，道徳教育を推進する。

②各学校においては，児童生徒の発達の段階や特性等を踏まえ，指導内容の重点化を図る。

③学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに，集団宿泊活動やボランティア活動，自然体験活動，地域の行事への参加などの豊かな体験を充実させる。

④道徳教育の充実のために，家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど，家庭や地域社会との共通理解を深め，相互の連携を図る。

8．キャリア教育の充実

□　キャリア教育の定義

キャリア教育は，子供・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけである。そして，キャリアの形成にとって重要なのは，自らの力で生き方を選択していくことができるよう必要な能力や態度を身に付けることである。したがってキャリア教育は，子供・若者一人一人のキャリア発達を支援し，それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育てることを目指すものである。自分が自分として生きるために，「学び続けたい」「働き続けたい」と強く願い，それを実現させていく姿がキャリア教育の目指す子供・若者の姿である。これらのことを踏まえ，平成23年に中央教育審議会はキャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，キャリア発達を促す教育」と定義している。そのことをもとに，新学習指導要領の改定にあたり，「総則」の中でキャリア教育の在り方について以下のように定めている。

> 児童が，学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じてキャリア教育の充実を図ること。
>
> 小学校学習指導要領「総則」（平成29年告示）より

□　キャリア教育を通して育てる４つの基礎的・汎用的能力（キャリア教育の４つの視点）

人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し，相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに，自分の置かれている状況を受け止め，役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し，今後の社会を積極的に形成することができる力

自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について，社会との相互関係を保ちつつ，今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に，自らの思考や感情を律し，かつ，今後の成長のために進んで学ぼうとする力

課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し，適切な計画を立ててその課題を処理し，解決することができる力

キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し，自らの果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け，多様な生き方に関する様々な情報や適切に取捨選択・活用しながら，自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

□　小学校におけるキャリア教育の目標とキャリア発達課題

目標例	**●自己及び他者への積極的関心の形成・発展** 自分及び他者の大切さに気付き，家族や友達・周囲の人々にかかわりながら積極的に働きかけようとする能動的な子供	**●身の周りの仕事や環境への関心・意欲の向上** 身の周りには様々な仕事がたくさんあることに気付き，そこで働いている人の思いや願いを探ろうとする子供
	●夢や希望，憧れる自己のイメージの獲得 得意なことや好きなことを生かして将来なりたい自分の姿を描いたり，目標をもったりすることを通して，できることをやり尽くそうと努力する子供	**●勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成** 係活動やお手伝いなど，その場で自分にできることを見つけて進んで実践しようとしたり，目標をもって努力しようとしたりする意欲をもった子供

発達課題例	低学年	中学年	高学年
	・小学校生活に適応する ・身の周りの事象への関心を高める ・自分の好きなことを見つけて，のびのびと活動する	・友達と協力して活動する中でかかわりを深める ・自分の持ち味を発揮し，役割を自覚する	・自分の役割や責任を果たし，役立つ喜びを体得する ・集団の中で自己を生かす

□　特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じてキャリア教育の充実を図る

特別活動が，学校教育全体で行うキャリア教育の要となることが示されたことを踏まえ，学習や生活の見通しを立て，学んだことを振り返りながら，新たな意欲につなげたり，将来の生き方を考えたりするキャリア教育にかかわる様々な活動を行うこととされた。また，その際，児童が見通しを立てたり振り返ったりするための教材等を活用することとされた。

９．特別支援教育の充実

障害のある児童などへの指導

障害のある児童などには，視覚障害，聴覚障害，知的障害，肢体不自由，病弱・身体虚弱，言語障害，情緒障害，自閉症，LD（学習障害），ADHD（注意欠陥多動性障害）などのほか，学習面又は行動面において困難のある児童で発達障害の可能性のある者も含まれている。このような障害の種類や程度を的確に把握した上で，障害のある児童などの「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し，個に応じた様々な「手立て」を検討し，指導に当たっていく必要がある。また，このような考え方は学習状況の評価に当たって児童一人一人の状況をきめ細かに見取っていく際にも参考となる。その際に，小学校学習指導要領解説の各教科等編のほか，文部科学省が作成する「教育支援資料」などを参考にしながら，全ての教師が障害に関する知識や配慮等について正しい理解と認識を深め，障害のある児童などに対する組織的な対応ができるようにしていくことが重要である。（小学校学習指導要領解説編）

□　障害の種類や程度の的確な把握

□　個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容・指導方法の工夫

・障害の種類や程度によって一律に指導内容や指導方法が決まるわけではない。特別支援教育において大切な視点は，児童一人一人の障害の状態等により，学習上又は生活上の困難が異なることに十分留意し，個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を検討し，適切な指導を行うことである。

□　組織的・継続的かつ計画的な指導や支援の推進

・特別支援学級に在籍する児童や通級による指導を受ける児童全員について，学びの支援ネットワークプラン（個別の教育支援計画）及び，個別の指導計画を作成し，教職員の共通理解の下にきめ細やかな指導や支援を行う。また，通級による指導を受けていない障害のある児童などの指導に当たっては，学びの支援ネットワークプラン（個別の教育支援計画）及び，個別の指導計画を作成し，活用に努める。

・担任を含む全ての教師間において，個々の児童に対する配慮等の必要性を共通理解するとともに，教師間の連携に努める必要がある。そのため，特別支援教育コーディネーターを中心にした校内委員会を開催し，学校全体の支援体制を充実させる。

・特別支援学校や医療・福祉などの関係機関と連携を図り，障害のある児童の教育について専門的な助言や援助を活用する。

・小学校の学級の一つである特別支援学級は，通常の学級と同様に適切な運営のために，すべての教師の理解と協力が必要である。そのため，学校全体の協力体制をつくり，すべての教師が障害について正しい理解と認識を深め，教師間の連携に努める必要がある。

・通級による指導を受けている児童に対する通常の学級における指導と，通級による指導とが効果的に行われるために，担当教師同士が児童の様子や変化について随時，情報交換を行うとともに，通級による指導の効果が，通常の学級においても波及することを目指していくことが重要である。

交流及び共同学習

障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習は，児童が障害のある幼児児童生徒とその教育に対する正しい理解と認識を深めるための絶好の機会であり，同じ社会に生きる人間として，お互いを正しく理解し，共に助け合い，支え合って生きていくことの大切さを学ぶ場である。

□　特別支援学校との交流及び共同学習

・交流の内容としては，学校行事や学習を中心に交流する直接的なもののほか，文通や作品の交換といった間接的なものもある。

・実施に当たっては，双方の学校同士が十分に連絡を取り合い，指導計画に基づく内容や方法を事前に検討し，各学校や障害のある幼児児童生徒一人一人の実態に応じた様々な配慮を行うなど，組織的に計画的，継続的に実施することが大切である。

□　特別支援学級との交流及び共同学習

・日常の様々な場面で活動を共にすることが可能であり，双方の児童の教育的ニーズを十分把握し，校内の協力体制を構築し，効果的な活動を設定することが大切である。

10. 保幼小，小中連携の充実

子供の発達や学びの連続性を確保するため，幼児期の教育（幼稚園，保育所，認定こども園等における教育）と児童期の教育（小学校における教育）との円滑な接続を目指した，体系的な教育を組織的に行うことは極めて重要である。幼稚園教育要領，小学校学習指導要領の総則等に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有しながら，各学校園において，地域の実態に応じた保幼小連携の取組を推進する。

小学校と中学校が連携し，相互に児童生徒の実態や在り方等について理解を深めることは，それぞれの学校段階の役割の基本を再確認するとともに，広い視野に立って教育活動の改善を図っていく上でも極めて有意義である。児童生徒に対する一貫性のある教育を協力し合って推進することで，長い期間にわたる連続した教育活動の充実を図る。

保幼小の連携

幼児・児童の学びや育ちを理解し，幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図る。

□ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに学びの連続性を踏まえた教育内容と指導法の充実を図る。

・幼稚園においては，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに，学びの連続性を捉えながら，教育課程を編成するとともに，一人一人に応じた評価と指導の充実を図る。

□ スタートカリキュラムの作成等による協力体制づくり

・小学校においては，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとにスタートカリキュラム等を作成するなどして指導を工夫することにより，幼児期に育まれた資質･能力を踏まえた教育活動を充実し，児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができるよう体制を整える。

小中連携

義務教育９年間で子供を育てるという視点に立ち，学習や生活指導での継続的，系統的な教育活動を展開する。

□ 確かな学力の育成に向けての学習面での円滑な接続

・「小中一貫カリキュラム」を活用して，児童生徒に９年間で必ず身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能とそれらを活用して大きく伸ばしたい力（思考力・判断力・表現力）について共通理解を図る。

・スパイラルな学習，問題解決的な学習などの取組を進め，指導方法，指導内容等の連続性・発展性を重視した学習指導を推進する。

・中学校での小学校教材の活用（よみときブック，算数エース等）や英語教材の開発等，教材の活用や開発について小中が共同して研究を進める。

□ 進学に伴う教育環境の変化による児童生徒の様々な不安を解消するための生活面での円滑な接続

・各地域における小中関係校による研究協議会や懇話会等で，児童生徒の状況や課題などについての共通理解を深める。

・小中学生の交流授業，体験入部や合同行事，地域行事等への合同参加等を推進する。

・小学校高学年に教科担任制を導入したり，中学校教員による小学生への授業を行ったりするなど進学に向けての円滑な接続を推進する。

11. 環境・福祉教育の充実

環境教育の推進について

・環境教育の年間指導計画を作成し，環境や環境問題についての基本的なことを各教科で学ぶ。
・生命や自然を大切にしたり環境に優しい取組をしたりして，自然に直接触れる体験型の学習を行う。
・社会の変化への対応の観点から教科などを横断して進め，環境局や地域社会，NPOなどと連携して，学校における持続可能な開発のための教育（ESD）を推進する。

□　具体的な取組

①理科　生物と環境とのかかわりや環境の保全，自然エネルギーの活用など
②社会科　くらしとごみ，国土の開発と自然，自然を守る運動など
③家庭科(小)や技術・家庭科(中)　自然に優しい暮らし，消費と環境など
④「くらしとごみ」や「わたしたちの神戸」など副読本の活用
⑤総合的な学習の時間では，例えば，地域の希少な生物の保全やエネルギーや資源の有効活用など学校や地域に合った内容を取り入れた取組
⑥学校ビオトープや学習園などの校内の自然環境を整え，豊かにしたことを生かした学習
⑦ごみの分別やリサイクルについて学ぶ「ふれあいごみスクール」や下水処理場やクリーンセンターなどの施設見学
その他，プールのいきもの救出作戦，環境ポスター展，身近な生き物調査，ミニ田んぼなど

□　環境体験事業

・小学校第３学年では，環境体験事業を神戸市全小学校で継続して実施し，直接生き物や自然に触れる体験を通して，生命の大切さを学ぶとともに，子供たちのふるさと意識を育む。

福祉教育とは

国民の社会福祉への関心と理解を深め，ボランティア活動や実習体験などを通して社会福祉活動への参加を促し，福祉社会の担い手の育成を目指す教育活動である。

・児童生徒の発達の段階に応じて，各教科，道徳科，総合的な学習の時間，特別活動などにおいて，社会福祉についての理解を深める指導を行う。
・学校教育の目標と福祉教育の具体的目標との関連を図り，地域と連携を取りながら多様な実践が行えるよう工夫する。

□　具体的な取組

①小学校では６年間，中学校では３年間で一貫性のある，子供たちの発達の段階に応じた計画的・組織的に継続した指導を行う。
②手話の啓発，UD（ユニバーサルデザイン）学習，シニア体験，車いす体験等の体験学習，特別支援学校や地域の高齢者，障害者などとの交流を通して障害のある人とない人との相互理解を促進し，豊かな人間性を育む。
③各区社会福祉協議会ボランティアセンターやNPO及びボランティア団体などと連携を図り，学校教育の場を中心にした福祉活動の体験学習を推進する。

□　指導にあたって

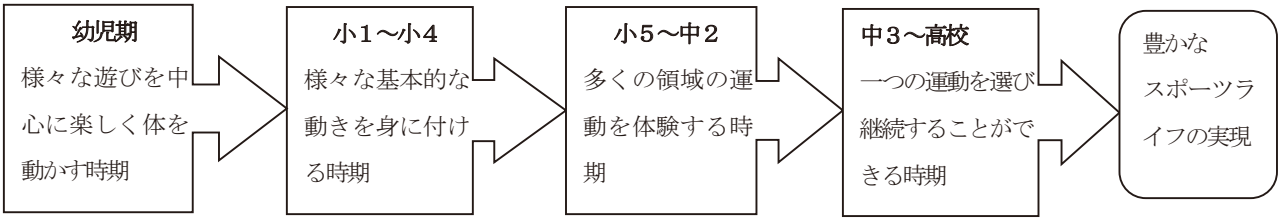
・「神戸市みんなの手話言語条例」が平成27年４月から，「障害者差別解消法」が平成28年４月から施行された。それに基づき，障害についての正しい理解を深め，障害のある人と共に学び共に暮らす「共生社会」について考えていく指導を図るようにする。
・「神戸市福祉教育副読本」（平成24年）の活用や，UD出前授業（保健福祉局），みちの学校出前授業（建設局），市バス福祉体験事業（交通局）などの福祉体験活動を積極的に利用する。

12. 健やかな体の育成の充実

□体力の向上を図るとは

・各種の運動を適切に行うことによって活力ある生活を支え，たくましく生きるための体力の向上を図る。

・発達の段階に応じて高める体力の内容を重点化し，自己の体力や体の状態に応じた高め方を学ぶことはもとより，学習したことを家庭などで生かすなど，体力の向上を図るための実践力を身に付けることができるようにする。



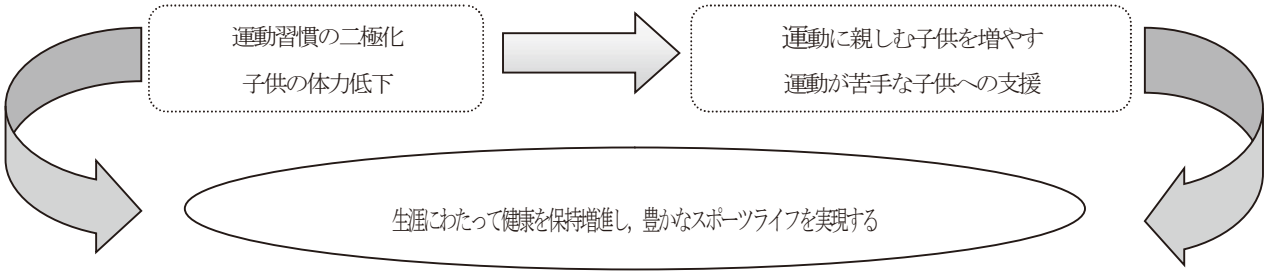
※幼少期（幼児期～小学校低学年期）における運動遊びの充実

・幼少期の運動経験が，その後の運動意欲や体力・運動能力に及ぼす影響は大きい。研究会や研修会の折に，校園種を越えて子供の育ちと課題，各校園の運動遊びや体育学習・体力向上の現状を知り，運動遊びに親しむ機会の保障，その重要性について共通理解し，系統性をもたせる。

□ 学校教育活動において

学校における体育・健康に関する指導を，児童もしくは生徒の発達の段階を考慮して，学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより，健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。

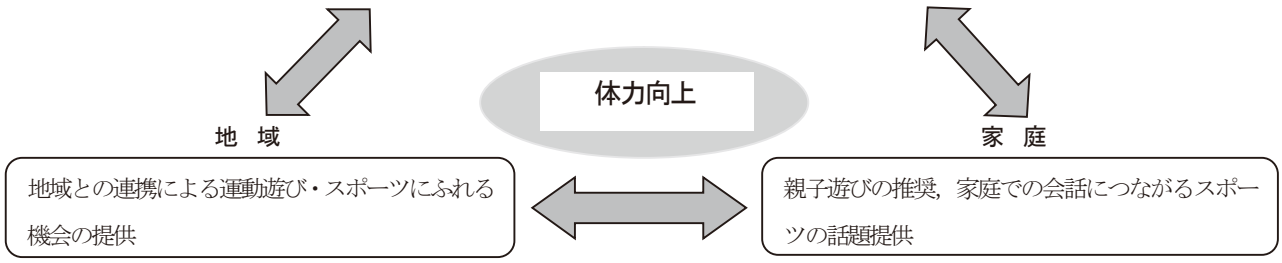
【学習指導要領 総則 第1章 第1の2（3） より】



□ 学校・家庭・地域の連携

学　校

運動会・体育大会・集会などの特別活動，教育課程外・運動部活動（含：拠点校方式）の学校教育活動，実態に応じた全体計画の作成と実践，児童生徒の体力や健康状態の的確な把握



13. ＩＣＴ教育・プログラミング教育の充実

□　ＩＣＴ教育

情報活用能力は「学習の基盤となる資質・能力」であり，確実に身に付けさせる必要があるとともに，身に付けた情報活用能力を発揮することにより，各教科等における主体的・対話的で深い学びへとつながっていくことが期待される。コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段の活用については，こうした情報活用能力の育成もそのねらいとするとともに，人々のあらゆる活動に今後一層浸透していく情報技術を，児童が手段として学習や日常生活に活用できるようにするため，各教科等においてこれらを適切に活用した学習活動の充実を図る必要がある。

各教科等の指導に当たっては，教師がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段のほか，各種の統計資料や新聞，視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ることも重要であり，そのためには，教師は機器の操作等に習熟するだけではなく，それぞれの教材・教具の特性を理解し，指導の効果を高める方法について絶えず研究することが求められる。また，小学校においては特に，情報手段の基本的な操作の習得に関する学習活動及びプログラミングの体験を通して論理的思考力を身に付けるための学習活動を，カリキュラム・マネジメントにより各教科等の特質に応じて計画的に実施しなければならない。

□　プログラミング教育

子供たちが将来どのような職業に就くとしても時代を越えて普遍的に求められる『**プログラミング的思考**』を育むため，小学校においては，児童がプログラミングを体験しながら，コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を計画的に実施する必要がある。

> プログラミング的思考：　自分が意図する一連の活動を実現するために，どのような動きの組合せが必要であり，一つ一つの動きに対応した記号を，どのように組み合わせたらいいのか，記号の組合せをどのように改善していけば，より意図した活動に近づくのか，といったことを論理的に考えていく力。

その際，小学校段階において学習活動としてプログラミングに取り組むねらいは，以下に示すとおりである。

> ①　論理的思考力である『プログラミング的思考』を育むこと。
> ②　プログラムの働きやよさ，情報社会がコンピュータをはじめとする情報技術によって支えられていることなどに気付き，身近な問題の解決に主体的に取り組む態度やコンピュータ等を上手に活用してよりよい社会を築いていこうとする態度などを育むこと。
> ③　教科等で学ぶ知識及び技能等をより確実に身に付けさせること。

プログラミング言語を覚えたり，プログラミングの技能を習得したりといったことではなく，教科等における学習上の必要性や学習内容と関連付けながら計画的かつ無理なく確実に実施されるものであることに留意する必要があることを踏まえ，小学校においては，教育課程全体を見渡し，プログラミングを実施する単元を位置付けていく学年や教科等を決定する必要がある。なお，小学校学習指導要領では，児童がプログラミングを体験しながら，論理的思考力を身に付けるための学習活動を取り上げる内容やその取扱いについて例示しているが，例示以外の内容や教科等においても，プログラミングを学習活動として実施することが可能であり，プログラミングに取り組むねらいを踏まえつつ，学校の教育目標や児童の実情等に応じて工夫して取り入れていくことが求められる。

また，こうした学習活動を実施するに当たっては，地域や民間等と連携し，それらの教育資源を効果的に活用していくことも重要である。

第 3 章

各　教　科

第1節　国　　語

第１　目　　標

(小学校)

言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 日常生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。

(3) 言葉がもつよさを認識するとともに，言語感覚を養い，国語の大切さを自覚し，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力及び言語感覚を養い，国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

※「言葉による見方・考え方を働かせる」とは，児童が学習の中で，対象と言葉，言葉と言葉との関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉えたり問い直したりして，言葉への自覚を高めること。

(中学校)

言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに，言語感覚を豊かにし，我が国の言語文化に関わり，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

	小　学　校						中　学　校		
標準授業時数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
	306	315	245	245	175	175	140	140	105

▲：他校種とのつながり，◎：他学年とのつながり，★：他教科とのつながり
※：特に配慮を要する事項，◆：参考事項（神戸の特色等）

第２　各学年の目標及び内容

【第１学年及び第２学年】

１　目　標

（1）日常的に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができようにする。（知識及び技能）

（2）順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをもつことができるようにする。（思考力，判断力，表現力等）

（3）言葉がもつよさを感じるとともに，楽しんで読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。（学びに向かう力，人間性等）

2 内 容

【知識及び技能】

指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。	
言葉の働き	
ア 言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	・日常的に使用している言葉には，事物の内容や自分が経験したことを表現したり伝達したりする主要な働きがあることに気付くようにする。 ・事物の内容や経験したことなど，具体的なことを伝える働きに重点を置いて気付くようにする。
話し言葉と書き言葉	
イ 音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに，姿勢や口形，発声や発音に注意して話すこと。	・音節と文字との関係については，児童の発達や学校の状況に応じて，一文字ずつ文字と音とを対応させて読むことなどが有効である。 ・アクセントによる語の意味の違いについては，実際に発音を聞いたり発音したりすることを通して気付くようにする。 ・姿勢や口形，発声や発音に注意して話すことは，相手に内容を正確に伝えるために重要である。姿勢は発声をしやすくしたり明瞭な発音をしたりする基礎となる。 ・正しい発音のためには，母音の口形及び発音，発声について適切に指導するとともに，一音一音を識別させ，安定した発声や明瞭な発音へと導いていくようにする。
ウ 長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。	・長音，拗音，促音，撥音は，発音に関する指導と関連させるとともに，日々の学習の中でその規則性に気付かせ，身に付けさせていく。 ・助詞の「は」，「へ」及び「を」については，視写や聴写などを取り入れながら繰り返し指導し，文の中で使えるようにする。 ・句点は，文を書く際には，文末に必ず句点を打つように指導し，文意識を育てていく。 ・読点は，文頭の接続語などの後，主語の後，従属節の後，並列する語の後など必要な箇所に打つことを理解させる。 ・会話文におけるかぎ（「 」）の使い方を中心に指導し，その他の箇所でも使われていることに気付かせるようにする。 ・片仮名については，擬声語や擬態語，外国の地名や人名，外来語など片仮名で書く語がどのような種類の語であるかを知

	り，実際に文や文章の中で使えるようにする。
漢字 エ　第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。	・第１学年では，漢字に対する興味や関心，字形に関する意識などを養いながら，学年に配当されている８０字の漢字を読めるようにする。 ・漢字が表意文字であることを意識し，漢字単独の読みだけではなく，文や文章の中で漢字を読むことも大切にして，文脈の中での意味と結び付けることができるようにする。
語彙 オ　身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。【新設】	・日常生活や学校生活で用いる言葉，周りの人について表す言葉，事物や体験したことを表す言葉など，身近なことを表す語句を，話や文章の中で使うことを通して，自分の語彙として身に付けさせるようにする。 ・意味による語句のまとまりとは，ある語句を中心として，同義語や類義語，対義語など，その語句と様々な意味関係にある語句が集まって構成している集合である。 ・自分の語彙を量と質の両面から充実させ，使用する語句の量や範囲を広げながら，語句相互の意味関係を理解することで，語彙を豊かにしていく。
文や文章 カ　文の中における主語と述語との関係に気付くこと。	・書き言葉としての文章だけでなく，話し言葉としての話の中に含まれる文においても主語と述語との関係に気付かせる。 ・表現するときだけでなく，文章を読むときにも主語と述語の適切な係り受けについて意識できるようにする。 ・主語と述語が適切な係り受けの関係となっていることが，伝えたいことを相手に正確に伝える上で重要であることに気付くようにさせる。
言葉遣い キ　丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに，敬体で書かれた文章に慣れること。	・話すときの言葉遣いは，相手との親疎や人数の多少，改まった場面かどうかなどに応じて使い分けるようにする。 ・場面や状況によって丁寧な言葉を用いるときと普通の言葉を用いるときとがあることに気付き，それぞれを使い分けようとする気持ちをもたせるようにする。

	・まず，教科書の敬体の文章に読み慣れるようにし，漸次自分でも使い慣れるようにする。
音読，朗読 ク　語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	・明瞭な発音で文章を読むこと，ひとまとまりの語や文として読むこと，言葉の響きやリズムなどに注意して読むようにする。
（2）話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 情報と情報との関係 ア　共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	・共通する関係を理解するとは，事柄同士の中から同じ点を見いだしたり，そのことによって共通であることを認識したりすることである。 ・相違する関係を理解するとは，事柄同士の様子や特徴などについて違う点を見いだしたり，そのことによって相違していることを認識したりすることである。 ・事柄の順序の関係を理解するとは，複数の事柄などが一定の観点に基づいて順序付けられていることを認識することである。 ・事柄同士の共通点や相違点を見付けることや，事柄の順序を考えることが，理解したり表現したりする上で大切であることを理解させる。
（3） 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 伝統的な言語文化 ア　昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして，我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。	・読み聞かせを聞くことで，伝統的な言語文化に触れることの楽しさを実感できるようにする。話の面白さに加え，独特の語り口調や言い回しなどにも気付き，親しみを感じていくことを重視する。 ・地域で育んできた言語文化に触れることも大切である。
イ　長く親しまれている言葉遊びを通して，言葉の豊かさに気付くこと。【新設】	・言語感覚を養う基盤として，長く親しまれている言葉遊びを通して，語彙を豊かにし，言葉を用いること自体を楽しむことが示されている。 ・言葉のリズムを楽しんだり，言葉を用いて発想を広げたり，言葉を通して人と触れ合ったりするなど，言葉のもつよさを十分に実感し，言葉の豊かさに気付かせるようにする。

書写	
ウ　書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア)姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。	・背筋を伸ばした状態で体を安定させ，筆記具を持ったときに筆先が見えるような正しい姿勢で書くようにする。 ・筆記具は，主に鉛筆やフェルトペンを使用し，人差し指と親指と中指の位置，手首の状態や鉛筆の軸の角度などを適切にして，持ち方を正しくする。 ・姿勢と筆記具の持ち方は深く関連するので，「背筋を伸ばす」といった指導のみが加えられることがないように，関連性を考えて指導する。
(イ)点画の書き方や文字の形に注意しながら，筆順に従って丁寧に書くこと。	・点画の始筆から送筆，さらに，終筆（とめ，はね，はらい）までを確実に書き，筆順に従って点画を積み重ねながら文字の形を形成し，読みやすい文字を丁寧に書こうとする態度を身に付けさせる。 ・点画の始筆と終筆の書き方を意識しながら確実に書くことが文字を丁寧に書くことと深く関わる。 ・文字の形が極端にゆがまないように，文字のおおよその形（概形）を把握した上で書くように，指導する。 ・学校教育では，「上から下へ」，「左から右へ」，「横から縦へ」といった原則で，筆順を指導する。
(ウ)点画相互の接し方や交わり方，長短や方向などに注意して，文字を正しく書くこと。	・接し方や交わり方，長短や方向など点画相互の関係性は，基準となる字形を見て理解することが求められる。 ・接し方や交わり方，長短や方向は，文字の正誤に関わることから，漢字に関する事項の指導と関連を図りながら指導する。
読書	
(エ)読書に親しみ，いろいろな本があることを知ること。	・読書を通して，様々な知識や情報を得たり，自分の考えを広げたりすることができる力の育成を目指し，日常的に読書に親しむようにさせる。 ・読書を通して，新しい知識を獲得したり物語の世界を疑似的に体験したりできる読書の楽しさや面白さを感じさせる。 ・物語，昔話，絵本，科学的な読み物，図鑑などの表紙や題名，知りたいことや読んでみたい内容から本を選んで読むことを通して，身の回りにはいろいろな本があることを知るようにする。

【思考力，判断力，表現力等】

A　話すこと・聞くこと

指導内容	内容の取扱い
(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けること	

ができるよう指導する。 話題の設定，情報の収集，内容の検討 ア　身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	・学校や家庭，地域における身近な出来事や自分が経験したことなど，身近なことや経験したことなどの話題を設定する。 ・具体的に思い出して集めた事柄の全部を話の中に取り入れるのではなく，伝え合うために必要な事柄を判断して選ぶようにする。 ※話したり話し合ったりするために必要な事柄を選ぶことに加え，聞くことに関わって必要な事柄を選ぶことも重要である。 ※必要な材料を集めるためには，児童の発達や学習の状況に応じて，体験したことを写真や具体物を見て思い出したり，対象物の特徴を考えたりするなどの手掛かりを与えることも有効である。
構成の検討，考えの形成 イ　相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えること。	・話す相手や人数を具体的に想定し，聞き手に伝わるかどうかを想像しながら話の構成を考えるようにする。 ・話の内容が相手によく伝わるように，順序をよく考える。 ※順序をよく考えることで，自分の伝えたいことを表現できたという実感を味わわせ，工夫して話そうとする態度へとつなぐことが大切である。
表現，共有 ウ　伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。	・自分が話す内容を確かめ,何を伝えたいのかを意識した上で,声の大きさや速さについて工夫する。 ・聞き手の人数や距離などを踏まえ，聞き手に届く音量や，音声が明確に聞こえる速さを工夫する。 ※声の大きさや速さなどを工夫するためには，実際に話す機会を設定することが重要である。
構造と内容の把握，精査・解釈，考えの形成，共有 エ　話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。	・話し手が知らせたい事柄の順序を意識しながら聞き，話の内容を把握することが大切である。 ・自分にとって大事なことや知りたいことを落とさずに聞くためには，自分の聞きたいことを明確にして話を聞くようにさせる。 ※自分が興味をもったところや感心したところなどを伝えることから始めて，徐々に自分の体験と結び付けるなどして感想が言えるようにしていく。

話合いの進め方の検討，考えの形成，共有 オ　互いの話に関心をもち，相手の発言を受けて話をつなぐこと。	・互いの話に関心をもって聞き，話の内容を理解した上で話題に沿って話したり，再び聞いたりし，質問する，復唱して確かめる，共感を示す，感想を言うなど，相手の発言を受けて話をつなぐようにさせる。 ※互いの話に関心をもって話し合うためには，話がつながることの楽しさやよさを実感できるようにすることが大切である。
＜言語活動例＞ **（2）（1）に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。** ア　紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。	・話す活動としては，紹介，説明，報告，挨拶，連絡などが考えられる。 ★話す活動は，国語科に限らず，各教科等の学習に取り入れられることが多いため，それらの学習との連携が求められる。 ・話し手の伝えたかったことを確認したり，聞き手が興味をもったことについて話し手の発言内容を繰り返したりして，声に出して確かめたりする。
イ　尋ねたり応答したりするなどして，少人数で話し合う活動。	・二人から数名程度のグループを作って話し合うなど，多様な形態の話合いが考えられる。少人数での話合いは，一人一人が発言する機会を多いという特徴がある。 ※大きな集団の中で話すことに抵抗を感じる児童もいるため，互いに認め合う雰囲気を大事にしながら，尋ねたり応答したりする機会を多くもつことが大切である。 ★話し合う活動は，他教科においても取り入れられることが多いため，それらの活動との連携が求められる。

B　書くこと

指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
（1）書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 題材の設定，情報の収集，内容の検討 ア　経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。	・書く題材を設定する上でふさわしい対象は，経験したことや想像したことなどである。 ・児童の経験や生活，あるいは興味や関心の違いを考慮して，設定することが重要である。 ・書くために必要な事柄を思い出したり想像したりして書き出すとともに，書き出した事柄を見て，書こうとする題材に必要

	な事柄かどうかを判断することを通して，伝えたいことを明確にすることができる。 ※各教科等の学習や児童の日常生活での経験などと関連させ，児童一人一人にとって書くことのよさを実感できるものとなるよう留意する。
構成の検討 イ　自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	・構成を考えることによって自分の考えを明確にしていく。 ・集めた事柄の順序に沿いながら内容のまとまりごとに配置していくことを理解して，簡単な構成を考えられるようにする。 ・伝えたいことを相手に分かってもらうために，順序を考えることは必要であると気付くようにする。 ・簡単な構成を考える際には，文章には「始め−中−終わり」などの構成があることを意識させるようにする。
考えの形成，記述 ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	・時間や事柄の順序を表す語を適切に用いたり，内容のまとまりが明確になっているかを確かめながら書いたりすることが重要である。
推敲 エ　文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。	・推敲は他の指導事項とも密接な関わりがあるため，設定した題材，事柄の順序，語と語や文と文との続き方などを意識しながら読み返すことが必要である。また，間違いに気付いて正すことでよりよく伝わる文章になることを実感させるようにする。 ・間違いを正すためには，一文一文を丁寧に読み返していくことが求められる。
共有 オ　文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。	・順序の分かりやすさ，語と語や文と文との続き方などを観点として感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができるようにする。
＜言語活動例＞ **（2）　（1）に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。**	
ア　身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。	・報告とは，見たことや聞いたことなどの事実や出来事を伝えることである。 ・記録とは，事実や事柄，経験したことや見聞きしたことなどについて，メモを取ったり，文章として正確に書き残したり

	することである。
イ　日記や手紙を書くなど，思ったことや伝えたいことを書く活動。	・日記には，毎日書く場合のほか，様々な場合がある。絵日記などの形式を用いて書くことも考えられる。 ・手紙は，相手を明確に意識できるため，児童自らが推敲する必要性を実感して書くことができる。短い文や伝言などで表すことも考えられる。
ウ　簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。	・簡単な物語をつくるとは，想像したことなどから，登場人物を決め，簡単なお話を書くことである。絵や写真から場面や登場人物の会話，行動を想像し，言葉を書き添えたり，お話をつくったりする。

C　読むこと

指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
（1）読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
構造と内容の把握（説明的な文章）	
ア　時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えること。	・説明的な文章を読む際，どのような順序によって説明されているかを考えながら文章の構造を大づかみに捉え，それを手掛かりに内容を正確に理解することが求められる。 ※題名や見出し，写真なども手掛かりにしながら，文章全体の内容の把握と各段落に書かれている内容の把握とを進めていくことが大切である。
構造と内容の把握（文学的な文章）	
イ　場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。	・本や作品の題名，場面の様子を描いた挿絵なども手掛かりにしながら，誰が，どうして，どうなったかなどを把握することを繰り返して，物語全体の内容を正確に理解できるようにする。 ・本の表紙や題名からどんな話が展開されるのかを予想するなどして，内容の大体を捉えることにつなげていくことも大切である。 ※内容の大体を捉える際に音読したり読み聞かせを聞いたりすることも有効である。
精査・解釈（説明的な文章）	
ウ　文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	・書き手が述べている事柄を正確に捉えるために，「ア構造と内容の把握」で捉えたことを基に，時間や事柄の順序に関わって文章の中で重要になる語や文，読み手として必要な情報を適切に見付ける上で重要になる語や文を，文章の中から見付けるようにする。

精査・解釈（文学的な文章）	
エ　場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。	・「イ構造と内容の把握」で捉えたことを基に，登場人物の行動を具体的に想像する上で，物語の中のどの場面のどのような様子と結び付けて読むかを明らかにし，その叙述を基に，主人公などの登場人物について，何をしたのか，なぜしたのかなどを具体的に思い描きながら，その世界を豊かに想像するようにする。 ◎中学校第１学年の「内容を解釈すること」へと発展していく指導事項であり，叙述と結び付けて想像することが大切である。
考えの形成	
オ　文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。	・文章の内容を，自分が既にもっている知識や実際の経験と結び付けて解釈し，想像を広げたり理解を深めたりするようにする。 ・文章の内容に対して児童一人一人が思いをもつようにする。 ※文章との関連を考えながら，実際の経験を十分想起できるよう工夫する。
共有	
カ　文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	・文章の構造と内容を把握し，精査・解釈することを通して，「おもしろいな」と感じたり「なるほど」と気付いたりした一人一人の感想などを互いに共有し合うことが求められる。 ※児童の発達や学習の状況に応じて，一人一人が文章のどの叙述に対して，どのような感想をもったのかを共有しやすくするための配慮や，互いの思いや考えを受容する雰囲気をつくる工夫が大切である。
＜言語活動例＞ **（2）（1）に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。**	
ア　事物の仕組みを説明した文章などを読み，分かったことや考えたことを述べる活動。	・物事の働きや様子，科学的なことを説明した文章などを読み，理解した内容を友達に話したり，感想を文章に書いたりする。
イ　読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。	・物語のあらすじや登場人物の行動などを文章にまとめたり，感想を述べたり，役割を決めて音読したり，紙芝居を行ったりする。
ウ　学校図書館などを利用し，図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み，分かったことなどを説明する活	・図鑑や科学的なことについて書いた本を読んで，何を知ったのか，知ったことに対してどう思ったのかなどについて，話

動。	したり書いたりする。 ・学校図書館や地域の図書館などの利用に当たり，施設の利用方法や本の配架場所などを知ることが必要である。 ※本などの種類や配置，探し方について指導するなど，児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮する。

【第３学年及び第４学年】

１　目　標

（1）日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。（知識及び技能）

（2）筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるようにする。（思考力，判断力，表現力等）

（3）言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。（学びに向かう力，人間性等）

２　内　容

【知識及び技能】

指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
（1）言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
言葉の働き	
ア　言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	◎思考や感情を表出したり他者に伝えたりする言葉の働きに気付くためには，第１学年及び第２学年での「事物の内容を表す働き」や「経験したことを伝える働き」への気付きが基盤となる。
話し言葉と書き言葉	
イ　相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。（平成20年告示版「話すこと・聞くこと」の指導事項）	・話す内容に応じて，声の上げ下げに注意したり，特定の語や表現の一部を他よりも強調したりして，話の内容が相手に伝わるようにすることが大切である。 ・話し手にとっての間とは，発音・発声のための息継ぎであると同時に，自らが伝えたい内容を聞き手に理解してもらうために意図的に取る，構文や語句の上での間でもある。 ・聞き手にとっての間は，話し手の意図を理解したり，思いや考えの大事なところを感じ取ったりするなど，自分の理解を深める時間となる。
ウ　漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。	・性質や役割の異なる漢字や仮名を交ぜて書く「漢字仮名交じり文」という日本語の表記の仕方やその利点を理解するよう指導する。 ・個々の具体的な語の送り仮名の付け方だけでなく，送り仮名の原則的な付け方についても理解を促し，活用についての意

	識をもたせるようにする。 ・段落の始め，会話部分などの必要な箇所について行を改めて書くことが習慣となるようにすることが大切である。 ・読点は，意味を明確に伝えるために，文頭の接続詞などの後，主語の後，従属節の後，並列する語の後などに適切に打ち，さらに，文を読みやすく，分かりやすくするために，文脈に合わせて適切に打つことができるようにする。 ・ローマ字について，第１表（いわゆる訓令式）による表記の指導に当たっては，日本語の音が子音と母音の組み合わせで成り立っていることを理解することや，第２表（いわゆるヘボン式と日本式）による表記の指導に当たっては，外国の人たちとコミュニケーションをとる際に用いられることが多い表記の仕方を理解することが重要である。
漢字 エ　第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。	・漢字による熟語などの語句の使用が増えてくる時期であり，漢字辞典を使って漢字の読みや意味などを自分で調べる活動を積極的に取り入れ，習慣として定着するようにすることが大切である。 ・文や文章を書く際には，学習した漢字を使う習慣が身に付くようにすることが重要である。
語彙 オ　様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。	・事柄や人物などの様子や特徴を表す語句，人物などの行動や気持ち，性格を表す語句などを話や文章の中で使うことを通して，自分の語彙として身に付けていくことが重要である。 ・性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することを通して，語句の量を増し，使い方の範囲を広げ，語彙を豊かにすることが大切である。
文や文章 カ　主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。	・主語と述語が照応することについての理解を深めるとともに，修飾語がどこに係るのかという修飾と被修飾との関係にも気を付けて，文の構成を理解することが大切である。 ・問題を提示したり，具体例を示したり，理由を述べたり，結論を述べたりするなどの役割をもつ段落相互の関係を理解することで，内容を把握したり必要な情報を的確に見付けたりすることができる。 ・段落や段落相互の関係を明確にして表現することで，自分の思いや考えをより適切に表すことができる。

言葉遣い キ　丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。	・文章を記述する際には，相手や目的に応じて敬体と常体を意識的に使い分けることや，「です」，「ます」，「である」，「だ」などの文末表現に注意して書くことが求められる。
音読，朗読 ク　文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	・文章全体として何が書かれているのかを大づかみに捉えたり，登場人物の行動や気持ちの変化などを大筋で捉えたりしながら，音読することを示している。なお，黙読を活用し，文章の内容の理解を深めることも重要である。
（2）話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 情報と情報との関係 ア　考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	・理解したり表現したりする上で，考えがどのような理由や事例によって支えられているのかを吟味することが重要である。 ・話や文章の全体を大づかみに捉えることが，その中心を把握することに役立ち，また，中心を把握することが，全体をより明確に捉えることにもつながる。
情報の整理 イ　比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	・話や文章を理解したり表現したりするためには，観点を明確にして比較したり分類したりすることで情報を整理することが重要である。 ・必要な情報は何かということを念頭に置きながら，落としてはいけない語句を適切に捉え，それらを書き留めることが重要である。 ・文章を引用する場合には，本や文章の一節や文，語句などをそのまま抜き出すことに併せて，必ず，引用する部分をかぎ（「　」）でくくることを指導する。 ・文章の表現や情報だけに限らず，図表やグラフ，絵や写真なども含むことに留意する必要がある。 ・書物や典拠などのタイトル，著作者，発行年など，読み手が引用元に立ち返ってその内容を確認できるよう出典を示すとともに，引用部分が適切な量になるようにする必要がある。 ★国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解するとともに，必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような環境をつくっておく。

	★事典の利用については，目的に応じていろいろな種類の事典を選んだり，目次や索引を利用して情報を得たりすることが重要である。
（3）我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
伝統的な言語文化	
ア　易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。	・短歌の五・七・五・七・七の三十一音，俳句の五・七・五の十七音のリズムから国語の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりして，文語の調子に親しむ態度を育成するようにすることが重要である。
イ　長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。	・ことわざは，生活経験などにおいてありがちなことを述べたり，教訓を述べたりするものである。 ・慣用句は，「水に流す」，「羽を伸ばす」などのように，二つ以上の語が結び付いて元の意味とは違った特定の意味を表すものである。 ・先人の知恵や教訓，機知に触れることができることわざや慣用句，故事成語などの言葉の意味を知り，日常生活で用いるようにすることが大切である。
言葉の由来や変化	
ウ　漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。	・漢字のへんやつくりなどから，漢字を調べたり，漢字の字義や読み方を推測したりすることも有効である。
書写	
エ　書写に関する次の事項を理解し使うこと。	
（ア）文字の組立て方を理解し，形を整えて書くこと。	・部首や部分相互の組立て方が複雑な漢字が多くなるため，部首と他の部分の組立て方，すなわち左と右，上と下，内と外などの関係において一つの文字が組み立てられるという仕組みを理解することを重視する。 ・一つの文字の構成要素となる部分相互が等間隔であること，左右対称であること，同一方向であることなどを考え，形を整えて書くようにする。
（イ）漢字や仮名の大きさ，配列に注意して書くこと。	・読みやすい文や文章を書くには，文字の集まりという面から整えることが重要であるため，書き出しの位置を決めること，行の中心に文字の中心をそろえるように書くことなどが求められる。
（ウ）毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め，筆圧などに注意して書くこと。	・毛筆による学習を通して点画や点画の書き方への理解を一層深めて書けるようにする。 ・点画の書き方と筆圧とを関連付けることを重視する。

読書 オ　幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。	・読書によって，疑問に思っていたことが解決したり，新しい世界に触れて自分の興味が広がったりする楽しさを味わうことが大切である。 ★読書によって知識や情報を得るための基盤として，学校図書館などの施設の利用方法や，必要な本などの選び方を身に付けることも大切である。

【思考力，判断力，表現力等】

A　話すこと・聞くこと

指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
（1）　話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
話題の設定，情報の収集，内容の検討 ア　目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	・学校や家庭，地域のことなど，児童が日常生活の中で興味や関心をもっていることから話題を決めるようにする。 ・情報の収集については，必要に応じて本や文章を読んだり，人に聞いたりしながら調べられるようにする。 ・集めた材料を，共通点や相違点に着目しながら比べたり，共通する性質に基づいて分けたりする際には，集めたことが話したり聞いたり話し合ったりする目的に合っているかどうかを意識しながら確かめ，より適切なものを見付けていくことが求められる。
構成の検討，考えの形成 イ　相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。	・具体的な相手や目的を一層強く意識して，話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げ，筋道を立てた構成にできるようにする。 ・自分の伝えたいことの中心が聞き手に分かりやすくなるよう話の構成を考えるようにする。
表現，共有 ウ　話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。	・話の中心を明確に捉え，相手との親疎やその人数，目的や場の状況などを意識し，声の出し方や言葉遣い，視線などに気を付けて話すことができるようにする。 ・自分の感じたことを強く伝えるために，抑揚を意識して話したり，多人数に伝えるときは声を張って話したりするなど，話の中心や話す場面を意識して話し方を工夫することが重要である。発表の様子を録画するなど，ICT 機器を活用することも

	効果的である。
構造と内容の把握，精査・解釈，考えの形成，共有 エ　必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつこと。	・必要な内容を記録するためには，重要な語句は何か判断しながら聞いたり，聞いた後に話の内容を振り返ったりすることが大切である。 ・話し手が伝えたいことの中心を捉えるためには，話の内容や話し方に関心をもち，事柄の順序など，話の組立て方を意識しながら，話の要点を聞くことが重要である。 ・自分が聞きたいことの中心を明確にして聞くためには，どのような目的で聞くのか，自分が聞いたことは何かなどをよく確かめて聞くことが重要である。 ・自分の考えをもつためには，話の内容を予想して聞いたり，聞いた内容と自分が知っていることとを比べたりすることなどが有効である。
話合いの進め方の検討，考えの形成，共有 オ　目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や 相違点に着目して，考えをまとめること。	・司会は，準備した進行表に沿って進行することそのものを学び，徐々に，参加者に発言を促したり，発言の共通点や相違点を確認したり，話し合った内容をまとめたりできるようにする。 ・司会者，提案者，参加者などは，それぞれの役割を理解し，話題に沿って発言しているか，その発言は話合いの流れを踏まえているかなどの観点に基づいて適時判断しながら話合いを進めるようにする。 ・考えが最終的に一つにまとまらない場合にも，どのような意見が出されたか，どのような点で考えが異なっているか，今後どのように話合いを進めていくとよいかなどを確認することが求められる。
＜言語活動例＞ **（2）（1）に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。** ア　説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。	★説明や報告など調べたことを話すとは，各教科等で行う観察や実験，調査などの経過や結論などをまとめて，聞き手に分かりやすく伝えたり発表したりすることである。 ・説明や報告など調べたことを聞いたりするとは，必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話の内容を捉えることである。
イ　質問するなどして情報を集めたり，それらを発表した	・情報を集めるために質問するとは，事前に自分が知りたいこ

りする活動。 ウ　互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。	とを考え，尋ねること。 ・多人数での話合いは，少人数での話合いに比べ，話し手と聞き手との間に一定の距離があるため，改まった言葉遣いをするなどの配慮が必要である。 ・話合いをする際には，児童一人一人が，司会などの様々な役割を経験できるようにすることが重要である。 ★話し合う言語活動は，他教科においても取り入れられることが多いため，それらの活動との連携が求められる。

B　書くこと

指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
（1）書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
題材の設定，情報の収集，内容の検討	
ア　相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。	・不特定多数の人に対して文章を書くのか，特定の人に対して文章を書くのか，何のために書くのか，読み手はどのようなことを知りたいかなど，文章を書く相手や目的を念頭に置くようにする。 ・集めた材料を，共通点や相違点に着目しながら比べたり，共通する性質に基づいて分けたりして整理することを通して，伝えたいことを明確にするようにする。
構成の検討	
イ　書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。	・書く内容を明確にした上で，段落相互の関係に注意し，文章の構成を考えることが重要である。 ・「冒頭部―展開部―終結部」などの文章の展開や文章の種類に応じて，それぞれの部分に何を書くのか，それらがどのようにつながるのかを強く意識して，自分の考えが明確になるように工夫することも重要である。
考えの形成，記述	
ウ　自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。	・考えを支える理由を記述する際には，「なぜなら～」，「その理由は～」，「～ためである」など，理由を示すことを明確にする表現を用いることができるようにする。 ・考えを支える事例を記述する際には，「例えば～」，「事例を挙げると～」，「～などがそれに当たる」などの表現を用いることができるようにする。
推敲	
エ　間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっ	・間違いを正す際には，主語と述語，修飾語と被修飾語の関係

ているかを確かめたりして，文や文章を整えること。	の明確さ，長音，拗音，促音，撥音，助詞などの表記の仕方のほかに，敬体と常体，断定や推量，疑問などの文末表現の使い方などに注意することが求められる。 ・書く相手や目的に照らして，構成や書き表し方が適切なものになっているかを確かめることが重要である。
共有 オ　書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。	・互いの書いた文章を読み合ったり音読し合ったりして，その内容や表現について，感想や意見を述べ合う際，書き手が書こうとしたことが明確に表現されているところを見付けることなどが重要である。 ・自分の文章のよいところを見付ける際には，記述した内容以外にも，相手について配慮したことや，記述の仕方などで工夫したこと，なぜそのような考えに至ったのかについてのきっかけなどを共有することも大切である。
＜言語活動例＞ **（2）に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。** ア　調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。	・調べたことをまとめて報告する文章を書くとは，報告する文章の特徴に基づいて書くことである。 ・事実やそれを基に考えたことを書くとは，自分の考えと，それを支える理由や事例としての事実との関係を明確にして書くことである。
イ 行事の案内やお礼の文章を書くなど，伝えたいことを手紙に書く活動。	・実用的な文章としての手紙を書く言語活動。 ・行事を案内する文章では，行事名，日時，場所，内容などのほか，参加してほしいといったお願いなど，必要な情報を漏れなく書く必要があることを指導する。 ・お礼の手紙では，表書きの住所や宛て名を正しく書くことや，後付けにおける署名や宛て名の位置関係といった基本的な形式などを押さえることが必要である。 ★各教科等の学習や学校の教育活動全体との関連を図り，実際に書いて伝えたり，反応を受け取ったりすることができるよう工夫することが有効である。
ウ　詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。	・詩をつくる際には，凝縮した表現であること，普通の文章とは違った改行形式や連による構成になっていることなどの基本的な特徴を踏まえて，感じたことや想像したことを書くよう指導する。 ・児童が物語をつくる際には，主人公やその他の登場人物がそれぞれの役割をもっていたり，冒頭部に状況や登場人物が設定され，事件とその解決が繰り返され発端から結末へと至る

	展開によって構成されていたりするなどの作家の創作による物語の工夫を参考にして指導する。

C　読むこと

指導内容	内容の取扱い
（1）読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
構造と内容の把握	
ア　段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。	・考えとその事例，結論とその理由といった段落相互の関係に着目しながら，書き手の考えがどのような理由によって説明されているのか，どのような事例によって具体化されているのかなどを，叙述を基に正確に捉えられるようにする。
イ　登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えること。	・登場人物の行動の背景にある，そのときの気持ちやその行動に至るまでの気持ちを，行動や会話，地の文などの叙述を基に捉えていくことが求められる。 ・物語全体を見通して，登場人物の境遇や性格なども重要な要素とし，複数の叙述を基に行動や気持ちなどを捉えることが重要である。 ・行動や気持ちを捉えることは，文章を精査・解釈することや自分の考えを形成することなどにつながる。
精査・解釈	
ウ　目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。	・文章の内容を端的に説明するといった要約する目的を意識して，内容の中心となる語や文を選んで，分量などを考えて要約することが重要である。
エ　登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に 想像すること。	・登場人物の気持ちは，場面の移り変わりの中で揺れ動いて書かれていることが多いため，複数の場面の叙述を結び付けながら，気持ちの変化を見いだして想像していく必要がある。 ・場面の移り変わりと結び付けて登場人物の性格を具体的に想像するためには，それぞれの登場人物の境遇や状況を把握し，物語全体に描かれた行動や会話に関わる複数の叙述を結び付けて読むことが重要である。 ・情景について具体的に想像する際には，場面の移り変わりとともに変化していく登場人物の気持ちと併せて考えていくようにする。
考えの形成	
オ　文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをも	・文章の内容や構造を捉え，精査・解釈しながら考えたり理解

つこと。	したりしたことを基にし，自分の体験や既習の内容と結び付け自分の考えを形成することようにする。 ・感想や考えをもつことは，自分が文章をどのように捉え，理解したのかを改めて確かめることにもつながる。
共有 カ　文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	・同じ文章を読んでも文章のどこに着目するか，どのような思考や感情，経験と結び付けて読むかによって，一人一人に違いが出てくる。このことに気付くとともに，互いの感じたことや考えたことを理解し，他者の感じ方などのよさに気付くことが大切である。
＜言語活動例＞ **（2）（1）に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。** ア　記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。	・記録や報告の文章のほか，対象について観察したことや調べたことを説明した文章，事物を解説した文章などを読み，分かったことや考えたことを，本文の一部を引用しながら，相手に分かるように説明したり意見を述べたりするようにする。
イ　詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。	・詩や物語などの文学的な文章を読んで，物語のあらすじや登場人物の行動や気持ちなどを説明したり，それらを基に考えたことや具体的に想像したことなどを文章にまとめたり発表したりすることである。
ウ　学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動。	・事典や図鑑などを読み，何が分かったのか，なぜ疑問に思ったのか，どこを更に調べたいのかなどについてまとめ，話したり書いたりすることである。 ・学校図書館や地域の図書館などを利用し，こうした言語活動を行うことは，各教科の学習において調べる活動を行う際の基盤になるものである。

【第５学年及び第６学年】

１　目　標

（1）日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。（知識及び技能）

（2）筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げることができるようにする。（思考力，判断力，表現力等）

（3）言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。（学びに向かう力，人間性等）

2 内 容

【知識及び技能】

指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
言葉の働き	
ア 言葉には，相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。【新設】	・言葉が果たす他者との良好な関係をつくる働きや特徴に気付くために，新設された指導事項である。
話し言葉と書き言葉	
イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。	・発せられた途端に消えていく話し言葉，読み手が繰り返し文や文章を確認することができる書き言葉，それぞれの特質に配慮した使い分けを身に付けるための基礎を養うことが大切である。
ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して 正しく書くこと。	・漢字と仮名を適切に使い分ける際，漢字の表意文字としての特徴と，仮名の表音文字としての特徴に気付いて使い分けることが大切になる。
漢字	
エ 第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。	・漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期であるため，文や文章を書く際には，同音異義語に注意するなど，漢字のもつ意味を考えて使う習慣を身に付くようにすることが重要である。
語彙	
オ 思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。	・思考に関わる語句（「しかし」「要するに」「考える」「だろう」「～は～より…」「～は～に比べて…」「～が～すると…」「～になった原因を考えてみると…」など）を，話や文章の中で使うことができるようにすることが重要である。 ・話や文章の中で，結び付きの強い語句同士が相互に関連し合い，文章の種類や内容を特徴付けている場合があることに気付くことも重要である。 ・多くの文章を繰り返し読んで優れた表現に触れたり，自分の表現に生かしたりして，語感や言葉の使い方に関する感覚を養うことが重要である。
文や文章	
カ 文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。	・文と文との関係を捉え，接続する語句を適切に選択することが重要である。 ・語句の係り方や語順が適切であることはもちろんのこと，書き出しや文末の言い回し，説明や描写のための語句の選択な

	ど様々な要因が関わっていることを理解し，適切に文と文とをつなげることができるようにすることが重要である。 ★語順の指導に当たっては，外国語科における指導との関連を図り，相互に指導の効果を高めることが重要である。
言葉遣い キ　日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。	・相手と自分との関係を意識しながら，尊敬語や謙譲語などの敬語について理解するように指導する。 ※敬語の役割や必要性を自覚してくる時期であるので，児童の日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れることが重要である。
表現の技法 ク　比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。	・これまでに触れてきた比喩や反復など修辞法に関する表現の工夫への気付きをまとめて整理することが求められる。
音読，朗読 ケ　文章を音読したり朗読したりすること。	・文章の構成や内容を理解して音声化することに加え，自分の思いや考えが聞き手に伝わるように音読や朗読することが求められる。 ◎これまでに身に付けてきた，声の大きさや抑揚，速さや間の取り方といった音読の技能を生かすことが重要である。 ・音読が，文章の内容や表現をよく理解し伝えることに重点があるのに対して，朗読は，児童一人一人が思ったり考えたりしたことを，表現性を高めて伝えることに重点がある。
（2）話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
情報と情報の関係 ア　原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。	・様々な情報の中から原因と結果の関係を見いだし，結び付けて捉えることができるようにする。
情報の整理 イ　情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。	・図示などにより語句と語句との関係を表すことを通して，考えをより明確なものにしたり，思考をまとめたりすることができることを理解することが重要である。
（3）我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
伝統的な言語文化 ア　親しみやすい古文や漢文，近代以降の文語調の文章を	・古文や漢文，近代以降の文語調の文章を声に出して読むこと

音読するなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。	で，心地よい響きやリズムを味わうとともに，読んで楽しいものであることを実感させるようにする。
イ　古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して，昔の人のものの見方や感じ方を知ること。	・児童向けに現代語で易しく書き換えられたものを用いて理解を深めることも考えられる。 ・作品に直接的に表れている作者の考え方などを知り，現代人のものの見方や感じ方と比べたりして，古典への興味・関心を深めるようにする。 ★能，狂言，人形浄瑠璃，歌舞伎，落語などを鑑賞したり，年中行事や地域に伝わる祭事などを調べたりすることも考えられる。
言葉の由来や変化	
ウ　語句の由来などに関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き，共通語と方言との違いを理解すること。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。	・語源を調べたり，和語，漢語，外来語などの区別について関心をもったりできるようにする。 ※時間の経過によって変化した古典などの言葉の特質に気付き，自分たちの言葉への関心を深めるとともに，言語文化としての古典に親しみ，受け継いでいく態度を養う契機とすることが重要である。ただし，現代の言葉に置き換えなくてもそのまま理解できる部分があることにも自然に気付かせるように配慮する。 ・それぞれの世代に特有の言葉遣いがあることに気付き，世代間の親近感やつながりを強めるという役割を意識させた上で，例えば，若者の言葉が使える場合と使うべきではない場合とがあることなどを理解できるようにする。 ・共通語と方言とを比較，対照させながら違いを理解し，それぞれの特質とよさを知り，共通語を用いることが必要な場合を判断しながら話すことができるようにする。 ・仮名や漢字の形成や継承について基本的な知識をもつことや表音文字としての平仮名や片仮名，表意文字としての漢字の特質を理解すること，文章が漢字仮名交じりで表記されていることや，漢字には原則として音と訓の読み方があることなどをまとまった知識として整理するようにする。
書写	
エ　書写に関する次の事項を理解し使うこと。	
（ア）用紙全体との関係に注意して，文字の大きさや配列などを決めるとともに，書く速さを意識して書くこと。	・用紙全体との関係から判断される文字の大きさや文字の位置，字間，行間などの効果的な在り方に重点を置く。
（イ）毛筆を使用して，穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。	・点画の中での穂先の動きだけでなく，点画から点画へ，さらには，文字から文字へと移動していく過程に重点を置く。
（ウ）目的に応じて使用する筆記具を選び，その特徴を生	・鉛筆，フェルトペン，毛筆，ボールペン，筆ペンなどの筆記

かして書くこと。 読書 （オ）日常的に読書に親しみ，読書が，自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。	具に適した用材の選択にも配慮する必要がある。 ◎読書の楽しさや有効性を実感しながら，日常生活の中で主体的，継続的に読書を行い，本などの中の言葉の中から，自分を支える言葉を見付けたり，今までになかった発見したりすることなどによって，読書の意義をより強く実感することができるようにする。

【思考力，判断力，表現力等】

A　話すこと・聞くこと

指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
（1）話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 話題の設定，情報の収集，内容の検討 ア　目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討すること。	・自分の目的や意図に応じ，聞き手の求めていることに応じて集めた材料をどのように整理すればよいかを考えるようにする。 ・話す際の材料の整理だけでなく，聞くこと，話し合うことにおいても，聞いたり話し合ったりすることを具体的に考え，関係する材料を整理するようにしておく。
構成の検討，考えの形成 イ　話の内容が明確になるように，事実と感想，意見とを区別するなど，話の構成を考えること。	・話の内容が明確になるように構成を考え，事実と感想，意見などを区別したり関係付けたりして，話の全体の構成について考えることに重点を置くようにする。 ・接続語や文末表現などにも注意しながら，事実，意見，感想などの関係を明らかにすることが求められる。また，話の構成を考える際には，話の種類や特徴を意識することも重要である。
表現，共有 ウ 資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。	・資料を活用したり，視線や指示の仕方について意識したりすることを通して，表現を工夫することに重点を置く。 ・資料を用いる目的としては，説明を補足したり，伝えたいことを強調したりすることなどが挙げられる。 ・聞き手の興味・関心や情報量などを予想し，補足説明が必要な箇所や言葉だけでは伝わりにくい内容について，どのような資料を用意すればよいかを考えることも重要である。 ・実際に発表する場面では，聞き手のうなずきや表情にも注意することが重要である。

構造と内容の把握，精査・解釈，考えの形成，共有 エ　話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめること。	・話し手の目的や自分が聞こうとする意図を考慮しながら聞くことに重点を置く。 ・話の目的は何か，自分に伝えたいことは何か，共に考えたいことは何かなどを踏まえて，話の内容を十分に聞き取るようにする。 ・どのよう情報を求め，内容をどのように生かそうとしているのか，どのような情報を相手から引き出そうとしているのかなどを明確にして聞くようにする。
話し合いの進め方の検討，考えの形成，共有 オ　互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすること。	・立場が対立的な関係にある場合においても，互いに言い負かすことを話合いの目的とするのではなく，異なる立場からの考えを聞き，意見の基となる理由を尋ね合うようにする。 ・相手や目的，状況などを踏まえながら，どのように話し合うのかといった話合いの方法に関する意識を明確にするようにする。 ・意見を一つにまとめるために話し合うのか，互いの考えを広げるために話し合うのかといった話合いの目的や方向性を検討することも含む。 ・異なる意見を自分の考えに生かせるように「～という意見もあったが」，「～という考えもあるけれど」などの表現を用いられるようにすることが効果的である。
＜言語活動例＞ **（2）（1）に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。** ア　意見や提案など自分の考えを話したり，それらを聞いたりする活動。	・提案とは，聞き手に何らかの行動を促すために自分の考えを示し，意見を求めることである。 ・意見や提案などを聞くとは，必要なことを記録したり，質問したりしながら聞き，話の内容を捉えることである。
イ　インタビューなどをして必要な情報を集めたり，それらを発表したりする活動。	・インタビューするとは，目的をもって特定の相手に質問し，必要な情報を聞き出すことである。
ウ　それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。	・それぞれの立場から話し合うとは，賛成または反対などのそれぞれの立場を明らかにした上で考えを述べ合い，互いの考えを基にして，考えを広げたりまとめたりすることである。

B　書くこと

指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
（1）書くことに関する次の事項を身に付けることができるよ	

う指導する。 題材の設定，情報の収集，内容の検討 ア　目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分 類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。	・目的や意図に応じて書くとは，相手や目的に加え，場面や状況を考慮することなども含んだものである。 ・目的や意図が明確になっていて，それに基づいて題材を考えることもあれば，以前から疑問や問題意識をもっており，そこから題材を選んだ上で，目的や意図を設定していくことも考えられる。
構成の検討 イ　筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。	・筋道の通った文章にするためには，「考えと理由や事例」，「原因と結果」，「疑問と解決」などのつながりや配列を意識して文章全体の筋道を整えていくことが大切である。 ・「序論－本論－結論」，「頭括型」，「尾括型」，「双括型」といった文章全体の構成を考える際には，それぞれの段落の内容としてどのようなことを書けばよいかを考えたり，自分の考えを一貫して述べたりすることなどに注意したりすることが大切である。 ・書き出しに読み手の関心を喚起する事例や全体の概略を配置したり，終結部に全体のまとめを書いたりして，読み手が考えを理解しやすいように書き方を工夫することも考えられる。
考えの形成・記述 ウ　目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ　引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	・事実を客観的に書くこととともに，その事実と感想や意見との関係と十分捉えて書くことが重要である。また，それらを明確に区別するためには，文末表現に注意することも重要である。 ・引用する目的を明確にし，原文を正確に引用することや，引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にすることなどに注意することが必要である。 ※自分の考えが伝わるように，図表やグラフを自作する場合には，国語科の学習であることに鑑み，作成する活動に過度に偏らないよう留意する必要がある。 ※引用した文章や図表等の出典については必ず明記するとともに，引用部分が適切な量になるようにする。著作権を尊重し，保護することに留意することを指導する。 ★引用部分をかぎ（「　」）でくくることや，「図1は，～」「表1は，～」といった表現を用いて本文との関連を示すことなども必要である。

推敲 オ　文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えること。	・文章全体を見たときに，内容や表現に一貫性があるか，目的や意図に照らして適切な構成や記述になっているか，事実と感想，意見とが区別して書かれているか，引用の仕方，図表やグラフなどの用い方は適切かといったことなどが推敲の観点となる。
共有 カ　文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。	・互いの文章のよいところを見付けて伝え合うことを通して，自分の表現に生かすことができるようにすることが大切である。
＜言語活動例＞ **（2）（1）に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。** ア　事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。	・事象を説明する文章を書くとは，対象となる事象について，表面に表れている事実を説明するのみならず，その事実が生起した背景や原因，経過などを整理して書き表すことである。 ・意見を述べる文章を書くとは，理由や事例を明確にしながら，筋道を立てて自分の考えを述べることである。
イ　短歌や俳句をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。	・伝統的な定型詩の特徴を生かした創作を行うことによって，七音五音を中心とする言葉の調子やリズムに親しみ，凝縮した表現によって創作する活動。
ウ　事実や経験を基に，感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。	・身近に起こったこと，見たことや聞いたこと，経験したことなどを描写しながら，感想や自分にとっての意味などをまとめて書く活動。

C　読むこと

指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
（1）読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 構造と内容の把握 ア　事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。	・要旨を把握するためには，文章の各部分だけを取り上げるのではなく，全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えることが重要である。 ・要旨を把握する際には，叙述を基に，書き手が，どのような事実を理由や事例として挙げているのか，どのような感想や意見などをもっているのかなどに着目して，事実と感想，意見などとの関係を押さえるようにする。

構造と内容の把握 イ　登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えること。	・物事の様子や場面，行動や心情などを，読み手が想像できるように描かれた描写に着目しながら読み進めていくことが重要である。 ・登場人物の心情は，登場人物相互の関係に基づいた行動や会話，情景などを通して暗示的に表示されている場合もあり，表現の仕方に注意し，想像豊かにしながら読むことが大切になる。
精査・解釈 ウ　目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりすること。	・必要な情報は，目的に応じて変わるため，読む目的を明確にして，文章の中から必要な情報を取捨選択したり，整理したり，再構成したりすることが重要である。 ・どのように論を進めているのか，どのような理由や事例を用いることで説得力を高めようとしているのか，考えをもつようにする。
精査・解釈 エ　人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。	・登場人物の行動や会話，様子などを表している複数の叙述を結び付け，それらを基に性格や考え方などを総合して判断することが必要である。 ・「何が書かれているか」という内容面だけでなく「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことが，物語などの全体像を具体的にイメージすることにつながる。 ・感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述，暗示性の高い表現，メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目しながら読み，表現の効果を考えることが重要である。
考えの形成 オ 文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。	・文章の内容や構成を捉え，精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことを基に，既有の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成することである。
共有 カ　文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。	・意見や感想を共有することを通して自分の考えを広げることに重点を置いている。 ・自分の考えを広げるためには，互いの意見や感想の違いを明らかにしたり，互いの意見や感想のよさを認め合ったりすることが大切である。

＜言語活動例＞ **（2）（1）に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。** ア　説明や解説などの文章を比較するなどして読み，分かったことや考えたことを，話し合ったり文章にまとめたりする活動。	・説明や解説の文章のほか，意見，提案，報道などの文章を比較しながら読むことにより，共通点や相違点が明確になり，それぞれの文章をよく理解することにつながる。 ・日常生活において考えをまとめる際に，複数の情報を比較や分類したり，関係付けたりして検討することが必要である。
イ　詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを 伝え合ったりする活動。	・読み取った人物の生き方などから，これからの自分のことについて考え，文章にまとめたり発表したりする。
ウ　学校図書館などを利用し，複数の本や新聞などを活用して，調べたり考えたりしたことを 報告する活動。	・同じテーマについての異なる書き手による本や文章，異なる新聞社による新聞記事などのほかに，雑誌，インターネットから得た情報などの複数の本や新聞を活用することも考えられる。 ・複数の本や新聞などに書かれていることを比較，分類，関係付けるなどして分かったことと，それらを基に考えたことをまとめて，文章に書いたり発表したりして報告する。

学年別配当漢字表（五十音順索引）

	1年（80字）	2年（160字）	3年（200字）	4年（202字）	5年（193字）	6年（191字）
あ			悪安暗	愛案	圧	
い	一	引	医委意育員院飲	以衣位茨印	囲移因	胃異遺域
う	右雨	羽雲	運			宇
え	円	園遠	泳駅	英栄媛塩	永営衛易益液演	映延沿
お	王音		央横屋温	岡億	応往桜	恩
か	下火花貝学	何科夏家歌画回会海絵外角楽活間丸岩顔	化荷界開階寒感漢館岸	加果貨課香芽賀改械害街各覚潟完官管関観願	可仮価河過快解格確額刊幹慣眼	我灰拡革閣割株干巻看簡
き	気九休玉金	汽記帰弓牛魚京強教近兄	起期客究急級宮球去橋業曲局銀	岐希季旗器機議求泣給挙漁共協鏡競極	紀基寄規喜技義逆久旧救居許境均禁	危机揮貴疑吸供胸郷勤筋
く	空		区苦具君	熊訓軍郡群	句	
け	月犬見	計形言元原	係軽血決研県	径景芸欠結建健験	型経潔件険検限現減	系敬警劇激穴券絹権憲源厳
こ	五口校	戸古午後語工公広交光考行高黄合谷国黒今	庫湖向幸港号根	固功好香候康	故個護効厚耕航鉱構興講告混	己呼誤后孝皇紅降鋼刻穀骨困
さ	左三山	才細作算	祭皿	佐差菜最埼材崎昨札刷察参産散残	査再災妻採際在財罪殺雑酸賛	砂座済裁策冊蚕
し	子四糸字耳七車手十出女小上森人	止市矢姉思紙寺自時室社弱首秋週春書少場色食心新親	仕死使始指歯詩次事持式実写者主守取酒受州拾終習集住重宿所暑助昭消商章勝乗植申身神真深進	氏司試児治滋辞鹿失借種周祝順初松笑唱焼照城縄臣信井	士支史志枝師資飼示似識質舎謝授修述術準序招証象賞条状常情織職	至私姿視詞誌磁射捨尺若樹収宗就衆従縦縮熟純処署諸除承将傷障蒸針仁
す	水	図数				垂推寸
せ	正生青夕石赤千川先	西声星晴切雪船線前	世整昔全	成省清静席積折節説浅戦選然	制性政勢精製税責積接設絶	盛聖誠舌宣専泉洗染銭善
そ	早草足村	組走	相送想息速族	争倉巣束側続卒孫	祖素総造像増則測属率損	奏窓創装層操蔵臓存尊
た	大男	多太体台	他打対待代第題炭短談	帯隊達単	貸態団断	退宅担探誕段暖
ち	竹中虫町	地池知茶昼長鳥朝直	着注柱丁帳調	置仲沖兆	築貯帳	値宙忠著庁頂腸潮賃
つ		通	追			痛
て	天田	弟店点電	定庭笛鉄転	低底的典伝	停堤程適	敵展
と	土	刀冬当東答頭同道読	都度投豆島湯登等動童	徒努灯働特徳栃	統堂銅導得毒独	討党糖届
な		内南		奈梨		難
に	二日入	肉			任	乳認
ね	年			熱念	燃	
の			農		能	納脳
は	白八	馬売買麦半番	波配倍箱畑発反坂板	敗梅博阪飯	破犯判版	派拝背肺俳班晩
ひ	百		皮悲美鼻筆氷表秒病品	飛必票標	比肥非費備評貧	否批秘俵
ふ	文	父風分聞	負部服福物	不夫付府阜富副	布婦武復複仏粉	腹奮
へ		米	平返勉	兵別辺変便	編弁	並陛閉片
ほ	木本	歩母方北	放	包法望牧	保墓報豊防貿暴	補暮宝訪亡忘棒
ま		毎妹万		末満		枚幕
み			味	未民	脈	密
む				無	務夢	
め	名	明鳴	命面		迷綿	盟
も	目	毛門	問			模
や		夜野	役薬	約		訳
ゆ		友	由油有遊	勇	輸	郵優
よ		用曜	予羊洋葉陽様	要養浴	余容	預幼欲翌
ら		来	落			乱卵覧
り	立力林	里理	流旅両緑	利陸良料量輪	略留領	裏律臨
る				類		
れ			礼列練	令冷例連	歴	
ろ	六	話	路	老労録		朗論
わ			和			

第３　指導計画の作成と内容の取扱い

１　指導計画作成上の配慮事項

	１　指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。
【主体的・対話的で深い学びの実現】	（１）　単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
【弾力的な指導】	（２）　第２の各学年の内容の指導については，必要に応じて当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり，その後の学年で程度を高めて取り上げたりするなどして，弾力的に指導すること。
【〔知識及び技能〕】	（３）　第２の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については，〔思考力，判断力，表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし，必要に応じて，特定の事項だけを取り上げて指導したり，それらをまとめて指導したりするなど，指導の効果を高めるよう工夫すること。なお，その際，第１章総則の第２の３のウの（イ）に掲げる指導を行う場合には，当該指導のねらいを明確にするとともに，単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
【「話すこと・聞くこと」】	（４）　第２の各学年の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」に関する指導については，意図的，計画的に指導する機会が得られるように，第１学年及び第２学年では年間 35 単位時間程度，第３学年及び第４学年では年間 30 単位時間程度，第５学年及び第６学年では年間 25 単位時間程度を配当すること。その際，音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。
【「書くこと」】	（５）　第２の各学年の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「B 書くこと」に関する指導については，第１学年及び第２学年では年間 100 単位時間程度，第３学年及び第４学年では年間 85 単位時間程度，第５学年及び第６学年では年間 55 単位時間程度を配当すること。その際，実際に文章を書く活動をなるべく多くすること。
【「読書」及び「読むこと」】	（６）　第２の第１学年及び第２学年の内容の〔知識及び技能〕の(３)のエ，第３学年及び第４学年，第５学年及び第６学年の内容の〔知識及び技能〕の(３)のオ及び各学年の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「C 読むこと」に関する指導については，読書意欲を高め，日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに，他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
【低学年の指導】	（７）　低学年においては，第１章総則の第２の４の(１)を踏まえ，他教科等との関連を積極的に図り，指導の効果を高めるようにするとともに，幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に，小学校入学当初においては，生活科を中心とした合科的・関連的な指導や，弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
【他教科等との関連】	（８）　言語能力の向上を図る観点から，外国語活動及び外国語科など他教科等との関連を積極的に図り，指導の効果を高めるようにすること。
【障害のある児童への配慮】	（９）　障害のある児童などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うこと。
【道徳科などとの関連】	(10)　第１章総則の第１の２の(２)に示す道徳教育の目標に基づき，道徳科などとの関連を考慮しながら，第３章特別の教科道徳の第２に示す内容について，国語科の特質に応じて適切な指導をすること。

２　内容の取扱いについての配慮事項

	２　第２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。
【〔知識及び技能〕に示す事項の取扱い】	（１）　〔知識及び技能〕に示す事項については，次のとおり取り扱うこと。 ア　日常の言語活動を振り返ることなどを通して，児童が，実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識できるよう指導を工夫すること。

【情報機器の活用に関する事項】 【学校図書館などの活用に関する事項】	イ　理解したり表現したりするために必要な文字や語句については，辞書や事典を利用して調 べる活動を取り入れるなど，調べる習慣が身に付くようにすること。 ウ　第３学年におけるローマ字の指導に当たっては，第５章総合的な学習の時間の第３の２の(３)に示す，コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得し，児童が情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮することとの関連が図られるようにすること。 エ　漢字の指導については，第２の内容に定めるほか，次のとおり取り扱うこと。 （ア）学年ことに配当されている漢字は，児童の学習負担に配慮しつつ，必要に応じて，当該学年以前の学年又は当該学年以降の学年において指導することもできること。 （イ）当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字については，振り仮名を付けるなど，児童の学習負担に配慮しつつ提示することができること。 （ウ）他教科等の学習において必要となる漢字については，当該教科等と関連付けて指導するなど，その確実な定着が図られるよう指導を工夫すること。 （エ）漢字の指導においては，学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。 オ　各学年の)のア及びイに関する指導については，各学年で行い，古典に親しめるよう配慮　すること。 カ　書写の指導については，第２の内容に定めるほか，次のとおり取り扱うこと。 （ア）文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに，書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。 （イ）硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。 （ウ）毛筆を使用する書写の指導は第３学年以上の各学年で行い，各学年年間 30 単位時間程度を配当するとともに，毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。 （エ）第１学年及び第２学年の)のウの（イ）の指導については，適切に運筆する能力の向上につながるよう，指導を工夫すること。 （２）　第２の内容の指導に当たっては，児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして，指導の効果を高めるよう工夫すること。 （３）　第２の内容の指導に当たっては，学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際，本などの種類や配憧，探し方について指導するなど，児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお，児童が読む図書については，　人間形成のため偏りがないよう配慮して選定すること。

3　教材についての配慮事項

	3　教材については，次の事項に留意するものとする。 （1）　教材は，第２の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし，児童の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また，第２の各学年の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」，「B 書くこと」及び「C 読むこと」のそれぞれの（2）に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。 （2）　教材は，次のような観点に配慮して取り上げること。 ア　国語に対する関心を高め，国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。 イ 伝え合う力，思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。 ウ　公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。 エ　科学的，論理的に物事を捉え考察し，視野を広げるのに役立つこと。 オ　生活を明るくし，強く正しく生きる意志を育てるのに役立つこと。 カ　生命を尊重し，他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。 キ　自然を愛し，美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。 ク　我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。 ケ　日本人としての自覚をもって国を愛し，国家，社会の発展を願う態度を育てるのに役立つこと。 コ　世界の風土や文化などを理解し，国際協調の精神を養うのに役立つこと。 （3）　第２の各学年の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「C読むこと」の教材については，各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱うこと。また，説明的な文章については，適宜，図表や写真などを含むものを取り上げること。

第２節　社　　会

第１　目　　標

（小学校）

社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，グローバル化する国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

(1) 地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに，様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。

(3) 社会的事象について，よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚，我が国の国土と歴史に対する愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

※「社会的な見方・考え方」とは，社会的事象を，位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係に着目して捉え，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。

（小学校　生活科）

具体的な活動や体験を通して，身近な生活に関わる見方・考え方を生かし，自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 活動や体験の過程において，自分自身，身近な人々，社会及び自然の特徴やよさ，それらの関わり等に気付くとともに，生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

(2) 身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉え，自分自身や自分の生活について考え，表現することができるようにする。

(3) 身近な人々，社会及び自然に自ら働きかけ，意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

（中学校）

社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

(1) 我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 社会的事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	小学校生活科		小学校　社会科				中学校　社会科		
標準授業時数	１年	２年	３年	４年	５年	６年	１年	２年	３年
	102	105	70	90	100	105	105	105	140

第２　各領域・各学年の目標及び内容

社会的事象の見方・考え方を働かせ，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次のとおり資質・能力を育成することを目指す。			
	理解に関する目標	能力に関する目標	態度に関する目標
第３学年	身近な地域や市区町村の地理的環境，地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子，地域の様子の移り変わりについて，人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに，調査活動，地図帳や各種の具体的資料を通して，必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の特色や相互の関連，意味を考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。	社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚を養う。
第４学年	自分たちの都道府県の地理的環境の特色，地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動，地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて，人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに，調査活動，地図帳や各種の具体的資料を通して，必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の特色や相互の関連，意味を考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。	社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚を養う。
第５学年	我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民生活との関連を踏まえて理解するとともに，地図帳や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。	社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，我が国の国土に対する愛情，我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。
第６学年	我が国の政治の考え方と仕組みや働き，国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産，我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに，地図帳や地球儀，統計や年表などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。	社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情，我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

※参考　中学校の分野別目標

中学校	【地理的分野の目標】 (1) 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め，広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ，地理的な見方や考え方の基礎を培い，我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う 。 (2) 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ，それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し，地域的特色や地域の課題を捉えさせる 。

	(3) 大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し，それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること，また，それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる 。 (4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め，様々な資料を適切に選択，活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。 【歴史的分野の目標】 (1) 歴史的事象に対する関心を高め，我が国の歴史の大きな流れを，世界の歴史を背景に，各時代の特色を踏まえて理解させ，それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに，我が国の歴史に対する愛情を深め，国民としての自覚を育てる。 (2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を，その時代や地域との関連において理解させ，尊重する態度を育てる。 (3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ，我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに，他民族の文化，生活などに関心をもたせ，国際協調の精神を養う。 (4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め，様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。 【公民的分野の目標】 (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ，民主主義に関する理解を深めるとともに，国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う 。 (2) 民主政治の意義，国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて，個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め，現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに，社会の諸問題に着目させ，自ら考えようとする態度を育てる 。 (3) 国際的な相互依存関係の深まりの中で，世界平和の実現と人類の福祉の増大のために，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる 。 (4) 現代の社会的事象に対する関心を高め，様々な資料を適切に収集，選択して多面的・多角的に考察し，事実を正確にとらえ，公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

「学習指導要領の内容」と「神戸市教育課程基準」の内容についての対応

【第３学年】■学習指導要領の内容　●神戸市教育課程基準の内容［同一］			
地域や市	生産や販売	安全な生活	市の移り変わり
(1) ア(ｱ)(ｲ) イ (ｱ)	(2) ア(ｱ)(ｲ)(ｳ) イ(ｱ)(ｲ)	(3) ア(ｱ)(ｲ) イ (ｱ)	(4) ア(ｱ)(ｲ) イ (ｱ)

【第４学年】■学習指導要領の内容　●神戸市教育課程基準の内容［同一］				
県の様子	健康な生活	自然災害	伝統文化・先人	県の様子
(1) ア(ｱ)(ｲ) イ (ｱ)	(2) ア(ｱ)(ｲ)(ｳ) イ(ｱ)(ｲ)	(3) ア(ｱ)(ｲ) イ (ｱ)	(4) ア(ｱ)(ｲ)(ｳ) イ(ｱ)(ｲ)	(5) ア(ｱ)(ｲ) イ (ｱ)

【第５学年】　■学習指導要領の内容　●神戸市教育課程基準の内容［同一］				
国土の様子	食料生産	工業生産	情報社会	国土の自然環境
(1) ア(ｱ)(ｲ) (ｳ) イ(ｱ)(ｲ)	(2) ア(ｱ)(ｲ)(ｳ) イ(ｱ)(ｲ)	(3) ア(ｱ)(ｲ)(ｳ)(ｴ) イ(ｱ)(ｲ)(ｳ)	(4) ア(ｱ)(ｲ)(ｳ) イ(ｱ)(ｲ)	(5) ア(ｱ)(ｲ)(ｳ) イ(ｱ)(ｲ)

【第６学年】	■学習指導要領の内容	
政治の働き	日本の歴史	世界と日本の役割
(1) ア(ア)(イ)(ウ) イ(ア)(イ)	(2) ア(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)(カ)(キ)(ク)(ケ)(コ)(サ)(シ) イ(ア)	(3) ア(ア)(イ)(ウ) イ(ア)(イ)
●神戸市教育課程基準の内容［歴史と政治を入れ替え］		
日本の歴史	政治の働き	世界と日本の役割
(2) ア(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)(カ)(キ)(ク)(ケ)(コ)(サ)(シ) イ(ア)	(1) ア(ア)(イ)(ウ) イ(ア)(イ)	(3) ア(ア)(イ)(ウ) イ(ア)(イ)

【第３学年】

１　目　標

社会的事象の見方・考え方を働かせ，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(1)　身近な地域や市区町村の地理的環境，地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子，地域の様子の移り変わりについて，人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに，調査活動，地図帳や各種の具体的資料を通して，必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2)　社会的事象の特色や相互の関連，意味を考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。

(3)　社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚を養う。

▲：他校種とのつながり，◎：他学年とのつながり，★：他教科とのつながり
※：特に配慮を要する事項，◆：参考事項（神戸の特色等）

２　内　容

(1)　身近な地域や市区町村（以下第２章第２節において「市」という。）の様子について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）　身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること。

（イ）　観察・調査したり地図などの資料で調べたりして，白地図などにまとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）　都道府県内における市の位置，市の地形や土地利用，交通の広がり，市役所など主な公共施設の場所と働き，古くから残る建造物の分布などに着目して，身近な地域や市の様子を捉え，場所による違いを考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
身近な地域や自分たちの市の様子　アの(ア)及び(イ)とイの(ア)を関連付けて指導	
身近な地域の様子 ［調べる］ ・自分たちの住む地域は，どんなまちか。 ≪自分たちの住む地域の地図作り≫ ①「パノラマスケッチ」 ・高い場所からの展望や観察（四方位の確認） ②「かんたんな絵地図」	・以下の技能などを身につけるようにする。 《観察・調査して必要な情報を集める技能》 《地図などの資料から位置や地形，広がりや分布などを読み取る技能》 《地図記号を使って，調べたことを白地図などにまとめる技能》

・主な鉄道や道路，川などの入った簡単な白地図

③「くわしい絵地図」

・はっきりしないところを中心に校区探検

④「新しい地図」

・だれが見ても分かりやすい地図作り

・主な地図記号や着色による「新しい地図」

・身近な地域とは，児童が直接観察できる範囲である。

(「学校の周りの地域」から，「神戸市」へ)

・「学校の周りの地域」の学習では，系統的な地図指導により，一人一人が地図を作る。

※授業時間数の配分などを工夫して，「神戸市」に重点を置いた効果的な指導を行うよう配慮する。

（校区探検や地図作りに時間をかけすぎない）

※校区探検では，インタビューよりも観察を重視する。

（インタビュー中心だと，観察が弱くなる。）

≪方位≫

・四方位を確実に身につける。

・八方位は，第４学年修了までに身に付けるようにする。

≪主な地図記号≫

建物・施設：学校，警察署，交番，消防署，工場，神社，寺院，県庁，市役所，図書館，博物館，老人ホーム，病院　など

土地利用：田，畑，果樹園，森林など

交　　通：鉄道，駅，道路，橋，港，空港　など

・校区探検や地図作りについては，目的や着目する視点を明確にして行い，市全体を調べる際にその視点を生かせるよう工夫する。

・地図作りを通して，地域に対する新たな気付きや疑問をもとに話し合う。(自分と友達の作った地図の表し方の違いを見つけ，その理由を探るなど。)

※方位や主な地図記号について扱うようにする。

市の地形

［調べる］

・土地の低いところや高いところ

・広々と開けた土地や山々に囲まれた土地

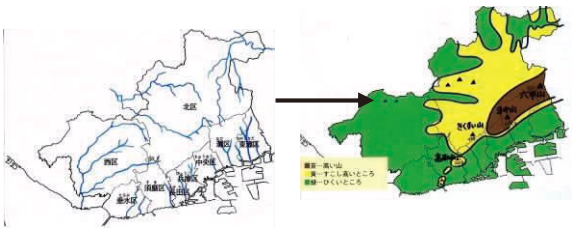
・川の流れているところや海に面したところ

…などの地形の様子。

・神戸市，兵庫県の地図及び地図帳を活用する。

・市の鳥瞰図や航空写真なども活用できる。

・川の流れの向きから，土地の高さに目を向けていく。



［考える］

・どのように広がっているか。

(例)「西に平らな所が広がる。」

「北区には，山がたくさんある。」

「六甲山や摩耶山の辺りが高い。」

土地利用

［調べる］

・田や畑，森林の広がり

・住宅や商店，工場の分布

など，土地利用の広がりや分布。

・土地の高さと土地の利用のされ方を結び付けて考える。

(例)市を「～な所」という表現で，いくつかに分ける。

・川の流れが急で，人がたくさん住んでいる所

・山がたくさんある所（六甲山周辺）

・土地が平らで，田畑や新しい住宅地がある所

［考える］

・どのように広がっているか。

(例)「田畑は平らで水が多いところに広がっている。」

「住宅や商店，工場は海に近い所に集まっている。」

交通の広がり

［調べる］

◆取り上げることができる交通機関の例

鉄道：JR神戸線，新幹線，阪急，阪神，山陽，

・主な道路や鉄道の名称や主な経路など。

［考える］

・どのように広がっているか。

(例)「鉄道は東西にたくさん通っている。」

「工場や店，会社が多い場所を通っている。」

「道路は，神戸市のあちこちに通っている。」

市役所など主な公共施設の場所と働き

［調べる］

・人々が利用する主な公共施設の場所。

・施設としての働き。

＜公共施設＞市役所，学校，公園，公民館，コミュニティセンター，図書館，児童館，体育館，美術館，博物館，資料館，文化会館，消防署，警察署，交番，裁判所，検察庁，港など

［考える］

・どのように利用されているか。

(例)「家族で楽しむ場所として利用されている。」

「困った時に相談できる場所として利用されている。」

古くから残る建造物の分布

［調べる］

・身近な地域や市に古くから残る神社，寺院，伝統的な家屋などの建造物。

・門前町，城下町，宿場町などの伝統的なまち並みの位置や広がり， いわれなど。

［考える］

・どのように利用されているか。

(例)「初詣やお宮参りなどの年中行事を行う。」

「夏祭りなどを行い，地域のコミュニケーションの場として利用されている。」

都道府県内における市の位置

［調べる］

・兵庫県全体から見た神戸市の位置や位置関係。

・隣接する市などの位置や位置関係。

［考える］

・市はどこに位置しているか。

(例)「兵庫県の南の方。」「明石市と芦屋市の間。」

身近な地域や神戸市の様子を大まかに理解する。

神戸電鉄，神戸高速鉄道，北神急行，

市営地下鉄，ポートライナー，六甲ライナーなど

道路：国道2号線・43号線，阪神高速道路，第二神明など

その他：新神戸トンネル，明石海峡大橋，神戸空港など

・市の「どんな所を通っているか」で地形や土地利用との関連に目を向ける。

◆「のびのびパスポート」「ココロンカード」で調べることも考えられる。

(例) 六甲山牧場，王子動物園，市立博物館，しあわせの村，須磨海浜水族園，神出自然教育園など

※取り上げる施設については深入りせず，名称や働きを調べるにとどめる。（生活科の学習を踏まえる）

※神戸市の場合は，比較的数多くあるので，選択しながら白地図に表すことが重要。

・「学ぶ」「遊ぶ」「憩う」「相談する」「見て楽しむ」「体を鍛える」など，子供らしい分類を尊重する。

・多くの公共施設は市役所によって運営されていることや災害時における避難場所は市役所において指定されていることに触れる。

・古くから伝わる建造物を取り上げる。

◆取り上げることができる建造物の例

神社：生田神社，長田神社，湊川神社など

寺院：須磨寺，太山寺，摩耶山天上寺など

伝統的な家屋：箱木家住宅(千年家)，農村歌舞伎舞台など



生田神社



太山寺（国宝）



箱木家住宅

・取り上げた建造物を神戸市の白地図に書き表す。

・神戸市の位置に，色を塗るなどして，明確に捉えられるようにする。

・身近な地域の学習で学んだ四方位や，周囲の市町との位置関係をもとに，子供らしい言い表し方を導くようにする。



(2)　地域に見られる生産や販売の仕事について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）　生産の仕事は，地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解すること。

（イ）　販売の仕事は，消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう，工夫して行われていることを理解すること。

（ウ）　見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，白地図などにまとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）　仕事の種類や産地の分布，仕事の工程などに着目して，生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え，地域の人々の生活との関連を考え，表現すること。

（イ）　消費者の願い，販売の仕方，他地域や外国との関わりなどに着目して，販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え，それらの仕事に見られる工夫を考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
地域に見られる生産の仕事　　アの(ア)及び(ウ)とイの(ア)を関連付けて指導	
仕事の種類 ［調べる］ ・市内に見られる農作物や工業製品などをつくる仕事の種類。 ［考える］ ・市内にはどのような生産の仕事があるか。	〔選択〕 ・＜生産＞と＜販売＞の両方を学習する。 ＜生産＞･･･農家や工場などの中から一つ選択する。 農家や工場のほかに，林業や水産業も考えられる。 ＜販売＞･･･商店の仕事を取り上げる。 ◎５年生の産業学習の内容と重複しないこと。
産地の分布 ［調べる］ ・市内における田や畑，工場などがある場所の分布。 ［考える］ ・生産の仕事はどこに集まっているか。 (例)「西区や北区に田や畑がたくさんある」 「海沿いに工場が集まっている」	・以下の技能などを身につけるようにする。 《見学・調査して必要な情報を集める技能》 《地図などの資料から分布や地域間のつながりなどを読み取る技能》 《方位や位置などを確かめながら，調べたことを白地図などにまとめる技能》 ・農家や工場などの分布について，見学や白地図にまとめる活動などが考えられる。 ※立地条件などへの深入りは避ける。
仕事の工程 ［調べる］ ・農家や工場などの仕事に見られる《原材料の仕入》《施設・設備》《働く人の仕事の手順》《生産物の販売の様子》など。 ［考える］ ・どのように生産されているか。	・農家を取り上げる場合は，地形などの自然環境との関係について触れるようにする。 キャリア ・それぞれの仕事の特色に応じて，他地域や外国などとかかわりをもちながら，様々な工夫をしていることを具体的に考える。
生産の仕事は，地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解する。	

地域に見られる生産の仕事　　アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)を関連付けて指導

消費者の願い

［調べる］

・家族などがよく買い物をする店。

・買い物する際の工夫。

［考える］

・消費者はどのようなことを願って，買い物をしているか。

(例)「たくさん品物がある所で便利に買い物をしたい。」

「安売りをしたり，季節に合わせた商品を売ったりしてほしい。」

・買い物に関する家での聞き取り調査(買い物調べ)などの結果を表やグラフにまとめる活動も考えられる。

※買い物調べは，個人のプライバシーに十分配慮する。（買い物調べでは，選ぶ店や買う品物の傾向をつかむことを目的とし，細かい品目は書かないようにする）

・販売者側の工夫と消費者側の工夫とを関連付けて扱う。

(例) 販売者の工夫は，品質や価格などを考えて店を選び購入する消費者の工夫にも結びついていること。

販売の仕方

［調べる］

・商品の品質管理。

・売り場での並べ方や値段の付け方。

・宣伝の仕方。

［考える］

・商店の人は消費者の願いに応え売り上げを高めるためにどのような工夫をしているか。

(例)「欲しい物を見つけやすいような売場の工夫。」

「お客さんが買いやすいように品物の量や種類を工夫している。」

「季節に合わせた売場の設置など，お客さんが集まる工夫。」

・小売店，スーパーマーケット，コンビニエンスストア，デパートなどの中から選択して取り上げる。

・見学や調査，作業的な活動などを取り入れる。

(例) 市内の商店，そのバックヤードなどの見学や体験，仕事に携わっている人からの聞き取り

・見学先では，働く人の「表情・視線・姿勢・指先・言葉」などをじっくり観察・調査するなかで，すぐに見つけられる工夫とは別に，すぐには気付きにくい奥深い工夫にも目を向けていく。

※商店などの「販売」の工夫なので，店の立地条件や客の動線確保(連絡通路やアーケード増設など)など難解な内容に深入りする必要はない。

他地域や外国との関わり

［調べる］

・外国を含めた商品の産地や仕入れ先の名称と位置。

・買い物に来る客の居住地の範囲。

［考える］

・商品や客はどこから来ているか。

(例)「神戸市内でつくられているものだけでなく，日本や世界の色々なところから運びこまれる品物もある。」

「同じ品物でも色々な産地から届けられている。」

・人か物の動きのどちらかを取り上げる。

(例) 人･･･神戸市外から働く人や買い物客が来ること。

物･･･他都市からの入荷。

・地図帳などを使って，都道府県や外国の名称と位置を確かめる活動を行い，自分たちの消費生活を支えている販売の仕事は国内の他地域や外国と結び付いていることに気付くように指導する。

・我が国や外国には国旗があることを理解し，それを尊重する態度を養うよう配慮する。その際，取り上げた外国の国旗を地図帳などで確認することなどを通して指導するように配慮する必要がある。

販売の仕事は，消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう，工夫して行われていることを理解すること。

(3)　地域の安全を守る働きについて，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）　消防署や警察署などの関係機関は，地域の安全を守るために，相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや，関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。

（イ）　見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，まとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）　施設・設備などの配置，緊急時への備えや対応などに着目して，関係機関や地域の人々の諸活動を捉え，相互の関連や従事する人々の働きを考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
地域の安全を守る働き　　アの(ア)及び(イ)とイの(ア)を関連付けて指導	
＜火災の防止について＞ 施設や設備などの配置 ［調べる］ ・消防署の位置や分布。 ・消火栓や火災報知器，消防水利，消防団倉庫などの施設・設備の位置や分布。 ［考える］ ・どこにどのような施設や設備があるか。 (例)「消防署は各区に１つは必ずある。」 「どの教室にも火災報知器がある。」	＜火災＞と＜事故＞の両方を学習する。 ※「緊急時に対処する体制」は火災に重点を置き，「防止」については，事故に重点を置くなど，取り上げ方に軽重を付け，効果的に指導する。 ・以下の技能などを身につけるようにする。 《見学・調査して必要な情報を集める技能》 《施設・設備の位置，関係機関相互の協力関係などを読み取る技能》 《関係機関相互の協力関係などを読み取る技能》 《調べたことを白地図や図表などにまとめる技能》
緊急時の備えや対応 ［調べる］ ・消防署で働いている人の勤務体制や待機の仕方。 ・訓練，施設・設備の点検，パトロールの様子。 ・関係機関のそれぞれの役割。 ・管制室を中心とするネットワークによる関係機関の相互の連携。 ・防火設備の設置や点検や消防訓練の義務など，火災の防止に関する法やきまり。 ［考える］ ・どのように連携・協力して火災の発生に備えたり対応したりしているか。 (例)「町には多くの防火設備が備えられている。」 「少しでも早く火を消すために管制室へとつながるようになっている。」	・非日常ではなく身近な問題として考えるようにする。 (例)「学校」や「わが家」は安全なのか。 ・調査活動を取り入れ，実感を伴う学習を目指す。 (例) 校内の消火設備調べ，校区の消火栓マップづくり，消防署や管制室の見学，緊急避難場所調べなど。 ・消防本部にある『管制室』からすべての指令がいくわけを考えることで，関係の諸機関が連携しながら迅速に対応している様子を取り上げることもできる。 ・防火設備の設置や点検，消防訓練の義務など，地域の人々の安全な生活の維持と向上を図るための法やきまりを扱うようにする。 防災 ※地域の消防団とともに，防災福祉コミュニティ（防コミ）にも触れるが，防コミについては，第 4 学年「自然災害」で取り上げるため，深入りはしない。

＜事故の防止について＞ 施設や設備などの配置 ［調べる］ ・警察署の位置や分布。 ・ガードレールや交通標識，信号，カーブミラー，「子ども 110 番の家」などの施設・設備の位置や分布。 ［考える］ ・どこにどのような施設・設備があるか。 (例)「道路標識はそれぞれとても大切な意味がある。」 「通学路に 110 番の家がある」 緊急時の備えや対応 ［調べる］ ・警察署で働いている人の勤務体制や待機の仕方。 ・訓練，施設・設備の点検，パトロールの様子。 ・関係機関のそれぞれの役割。 ・通信指令室を中心とするネットワークによる関係機関の相互の連携。 ・登下校などにおける交通事故の防止に関する法やきまり。 [考える] ・どのように連携・協力して事故の発生に備えたり対応したりしているか。 (例)「取り締まりを強化して事故を防いでいる。」 「事故が起こった時，すぐに対応できるように 110 番が通信指令室へとつながる。」 消防署や警察署などの関係機関は，地域の安全を守るために，相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや，関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解する。	・交通事故などの事故防止や防犯を取り上げる。 ※「兵庫県警本部」，「県の警察本部」，「県警」などの呼び方もあり，児童の混乱を防ぐようにする。 ・交通安全教室や保護者の交通当番，地域みまもり隊の諸活動，子ども 110 番の店・家・車なども地域の実態に応じて取り上げる。 ・火事を引き起こさない生活の仕方や事故を起こしたり事件に巻き込まれたりしない行動の仕方について討論したり，標語やポスターなどを作成したりすることなどが考えられる。 ◆市役所や区役所，関係機関からの広報誌だけでなく，防災福祉コミュニティ・NPO・PTA・学校などが発行する情報誌にも関係機関の連携を示す内容があるので参考とする。 ・登下校などにおける交通事故の防止，地域の人々の安全な生活の維持と向上を図るための法やきまりを扱うようにする。 ※火災や事故の防止については，関係機関の連携とともに，地域の人々の協力が必要なことを理解し，自分にできないことを多くの人がしてくださっていることに感謝することが大切である。そのうえで自分に何ができるか，何をしてはいけないかを考え，態度形成につなげていくことが必要である。

（4） 市の様子の移り変わりについて，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

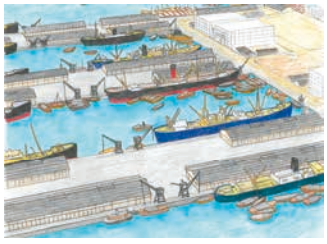
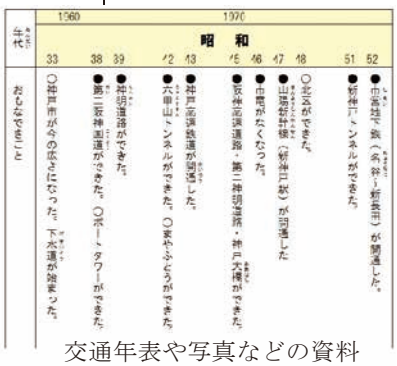
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア） 市や人々の生活の様子は，時間の経過に伴い，移り変わってきたことを理解すること。

（イ） 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして，年表などにまとめること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア） 交通や公共施設，土地利用や人口，生活の道具などの時期による違いに着目して，市や人々の生活の様子を捉え，それらの変化を考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
市の様子の移り変わり　　アの(ア)及び(イ)とイの(ア)を関連付けて指導	
生活の道具の時期による違い ［調べる］ ・電化製品が普及する前と普及した後，および現在の生活の中で使用している道具の使い方や生活の様子。 ［考える］ ・生活の道具はどのように変化してきたか。 （例）「炊事や洗濯など家事に使う道具が改良され，短い時間でできるようになった。」 「明かりや暖をとる道具が改良され，生活が便利になってきた。」	・人々の生活の様子の変化を手がかりに，町や港の移り変わりについて目を向けていく。 ・炊事や洗濯などの家事に使用する道具や，明かりや暖をとる道具など生活の中で使われた道具を取り上げる。 ※初めての歴史単元である。イラストや写真などを効果的に使い，興味をもって学習に臨めるようにする。 ※等尺年表を用いて，時間の感覚や時代の長さなどをつかみやすくする。 ・元号での言い表し方を生かして，学習内容を年代順に整理しやすくするとともに，イメージ豊かに学習を進められるようにする。 ◆1868 年の開港により，生活様式にも変化が見られたことを扱うことも考えられる。 ◆神戸港の発展と交通網の整備，まちの発展を関連付けて考える。
 明治の頃の様子　  大正の頃の様子	 昭和前期の頃の様子　  平成の頃の様子
《時代ごとに，以下のような視点で学習をしていく》 交通の時期による違い ［調べる］ ・市内の鉄道や主要な道路などが整備される前や整備された後の市の様子，及び現在の市の様子。 ［考える］ ・鉄道や道路はどのように整備されてきたか。	◆市電，神戸高速鉄道，市営地下鉄，ポートライナー，阪神高速道路，明石海峡大橋，神戸空港など様々な交通手段や交通網が整えられていったことを取り扱う。
 突堤の倉庫と大きな船	 交通年表や写真などの資料  

公共施設の時期による違い

［調べる］

・自分たちの学校や中央図書館，公民館などの公共施設が建設された頃と現在の市の様子。

［考える］

・どのような公共施設が建てられてきたか。

・公共施設については，学校，図書館，公民館，資料館などが考えられる。

・内容の（1）で取り上げた公共施設との関連を図る。

・公共施設の建設や運営には市役所が関わってきたことや，その建設や運営には租税が重要な役割を果たしていることに触れる。

◎租税については，６年生で詳しく学習する。

土地利用の時期による違い

［調べる］

・大きな団地などの住宅開発や工業団地の建設など，大きく変わった市の土地利用の様子。

［考える］

・土地の使われ方はどのように変わってきたか。

（例）「昔は山林や農地が多かったが現在はその多くが住宅地などに変わっている。」

「市町村の合併により市が広がっている。」

◆人工島「ポートアイランド」と「六甲アイランド」の建設と「ニュータウン」の誕生

・市全体を見渡して違いを捉えられるようにする。

◆神戸大空襲による被害（人々の暮らしの様子，まちの被害，人口の減少）。

防災

◎阪神・淡路大震災は，４年生「自然災害」で扱うので，ここでは港の被害と復興について学習する。

◆「しあわせはこぼう」も参照する。

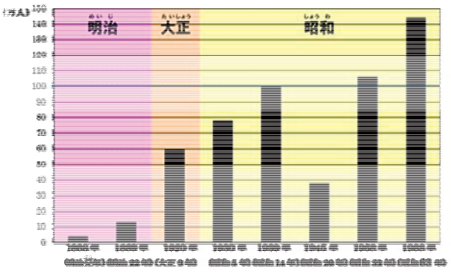
人口の時期による違い

［調べる］

・現在に至るまでに増加したり減少したりして変化してきた市の人口。

［考える］

・人口は，どのように変わってきたか。



・人口を取り上げる際には，表や棒グラフを活用するなど，増減の傾向を大まかに捉えるようにする。

・市町村の合併による市の広がりなどに触れる。



市や人々の生活の様子は，時間の経過に伴い，移り変わってきたことを理解する。

・市役所などが作成している資料などを基に，これからの市の発展に関心をもち，市の将来像や，市民としてどのように行動していけばよいかなどを考えることができるよう指導する。

↓

◆神戸市：総合基本計画（マスタープラン）「ともにつくろう未来の神戸～第５次神戸市基本計画漫画版～」参照

【第４学年】

１　目　標

社会的事象の見方・考え方を働かせ，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(1)　自分たちの都道府県の地理的環境の特色，地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動，地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて，人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに，調査活動，地図帳や各種の具体的資料を通して，必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2)　社会的事象の特色や相互の関連，意味を考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。

(3)　社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，　よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚を養う。

２　内　容

(1)　都道府県（以下第２章第２節において「県」という。）の様子について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）　自分たちの県の地理的環境の概要を理解すること。また，47 都道府県の名称と位置を理解すること。

（イ）　地図帳や各種の資料で調べ，白地図などにまとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）　我が国における自分たちの県の位置，県全体の地形や主な産業の分布，交通網や主な都市の位置などに着目して，県の様子を捉え，地理的環境の特色を考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
都道府県の様子　　アの(ア)，(イ)及びイの(ア)を関連付けて指導	
我が国における兵庫県の位置 ［調べる］ ・日本全体から見た兵庫県の位置。 ・隣接する県との位置関係。 ［考える］ ・兵庫県は日本のどこに位置しているか。 （例）「兵庫県は，大阪府や京都府，鳥取県，岡山県と隣り合っている。」 「兵庫県は，日本のほぼ真ん中にある。」 「兵庫県は，本州の中では西よりにある。」 「兵庫県は，近畿地方にある。」 「兵庫県には，日本標準子午線が通る。」など	・以下の技能などを身に付けることが大切である。 《地図帳などを用いて，位置や地形，広がりや分布などの情報を読み取る技能》 《名称と位置を確かめながら，調べたことを白地図などにまとめる技能》 ・我が国が47都道府県によって構成されていることが分かり，日本地図（白地図）上で指摘できるようにする。 ◎47都道府県の名称と位置については各学年においても学習内容等と関連付けながらその都度，地図帳などを使って確認するなどして，小学校修了までには確実に身に付けるようにする。 ・県庁所在地は可能なら取り上げていく。ただし，兵庫県の県庁所在地が神戸市であることは必ずおさえる。 ※都道府県名を覚える手立てとして「地方名」を取り上げてもよいが，解釈が多様であることに留意する。 （例）近畿地方は２府４県か２府５県かという議論

兵庫県全体の地形

［調べる］

・県全体の主な山地や平地，半島，川，湖や沼，海などの位置や広がり。

［考える］

・兵庫県はどのような地形が見られるか。

（例）「海ぞいは平地で，高い山は県の真ん中にある。」
「南北を海で挟まれていて，ほとんどが山。」など

・立体模型や航空写真の活用や，等高線の入った白地図に着色作業をするなど，地形をイメージしやすくする手立てを工夫する。

・山地は，高い所から順に着色していくと，地形の特色をとらえやすい。

兵庫県全体の主な産業の分布

［調べる］

・兵庫県内の主要な産業。

・兵庫県内の特色ある産業の分布。

［考える］

・主な産業はどこに分布しているか。

（例）「瀬戸内海側の海沿いには，工場がたくさんある。」
「淡路島では果物や野菜がたくさん作られている。」
「海沿いでは，いろいろな魚などがとれている」
など。

土地利用



主な産物



・産業の概要としては，例えば全国的に見て生産量の多い産業やその地域独自の特色ある産業が考えられる。

◆県内の盛んな産業

・手延べそうめん（たつの市），鞄（豊岡市），釣り針（西脇市），線香（淡路市），そろばん（小野市），金物（三木市），塩（赤穂市）他

交通網

［調べる］

・主な駅や港，空港の位置。

・県内を通る主な道路や鉄道などの交通網の広がり。

［考える］

・交通網はどのように広がっているのか。

・交通網や主な都市を白地図に書き表す活動を通し，県全体の特色をとらえるようにする。

◆主な道路：国道２号線，阪神高速道路，中国自動車道，山陽自動車道，舞鶴若狭自動車道など

主な鉄道：ＪＲ神戸線，新幹線，阪急，阪神，神戸電鉄，市営地下鉄，北神急行など

その他　：新神戸トンネル，明石海峡大橋，神戸空港

主な都市の位置など

［調べる］

・県庁のある市や人口が集中している市。

・交通の要衝となっている市，産業が盛んな市。

［考える］

・主な都市はどこに位置しているのか。

◆主な都市：県庁のある市，人口が集中している市，交通の要衝となっている市
（神戸市，姫路市，西宮市，尼崎市，明石市，加古川市，宝塚市，伊丹市など）

・兵庫県の様子について，その子らしい着眼点を生かし，自分なりの言い表し方でまとめられるようにしたい。

自分たちの県の地理的環境の概要を理解するとともに，47 都道府県の名称と位置を理解する。

(2)　人々の健康や生活環境を支える事業について，学習の問題を追及・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）　飲料水，電気，ガスを供給する事業は，安全で安定的に供給できるよう進められていることや，地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。

（イ）　廃棄物を処理する事業は，衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう進められていることや，生活環境の維持と向上に役立っていることを理解すること。

（ウ）　見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，まとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）　供給の仕組みや経路，県内外の人々の協力などに着目して，飲料水，電気，ガスの供給のための事業の様子を捉え，それらの事業が果たす役割を考え，表現すること。

（イ）　処理の仕組みや再利用，県内外の人々の協力などに着目して，廃棄物の処理のための事業の様子を捉え，その事業が果たす役割を考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
飲料水，電気，ガスを供給する事業　　アの(ア)及び(ウ)とイの(ア)を関連付けて指導	
供給の仕組みや経路（飲料水の場合） （電気・ガス･･･省略） ［調べる］ ・水源林の確保 ・ダムや貯水池 ・浄水場での高度な技術を活用した浄水処理 ・給水の仕組み　など ［考える］ ・水はどのような仕組みで作られているか。 ・水はどのような経路を通って送られてくるか。 （例）「神戸市には大きな川や湖がなく，遠い琵琶湖や淀川から水を買って浄水場へ送っている。」 「神戸市は土地の高低差が大きく，ポンプ場や配水池を使って土地の高い所へ水を送っている。」 「きれいな水は浄水場でつくられている。」 「水は浄水場で 24 時間調節されている。」	〔選択〕 ・「飲料水，電気，ガス」の中から一つを選択して取り上げる。 ・以下の技能などを身につけることが大切である。 《見学・調査して必要な情報を集める技能》 《関係機関相互の協力関係などを読み取る技能》 《調べたことを図表などにまとめる技能》 ・見学や実際の調査などを行い，実感をもって学習できるようにする。 ◆見学先の例　校区付近の配水池，ポンプ場，浄水場，貯水池，ダム，水の科学博物館　など ・学校の蛇口調べや登下校で目にする「水を使う仕事」調べなどを行い，生活だけでなく産業など，様々な場面で大量に使用されていることをおさえる。
県内外の人々の協力 ［調べる］ ・飲料水の供給に関係する施設や事業所などの建設に関わる県内外の人々の連携や協力。 ・節水などに関わる県内の人々の連携や協力。	・子供たちは水道を無料だと錯覚していることもあるので，学校分の水道料金を紹介することも考えられる。 ・地図(主な取水地探しなど)や統計グラフ(水道使用量の移り変わりなど)を確実に読み取るため，資料の基本的な見方の指導をする。

［考える］

・水はどのような関係機関や人々の協力の基に成り立っているか。

（例）「安全に水が届くまでには，たくさんの人の努力がある。」

「18年もかけて大容量送水管を造り，水の確保をしている。」

「神戸市だけでなく，その他の地域の人たちと協力している．」

「きれいな水を守るために，水源や川をきれいにしたい。」

飲料水，電気，ガスを供給する事業は，安全で安定的に供給できるよう進められていることや，地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解する。

◆神戸市ならではの水道事業の様々な工夫や努力

(例)神戸市には大きな川や湖がなく，遠い琵琶湖や淀川から水を買っている。

土地の高低差が大きく配水池やポンプ場が多い。

◆阪神・淡路大震災でライフラインが止まったことなどを取り上げ，水の確保の大切さや災害や事故への備えがされていることにも目を向ける。

・昔は川の水や井戸水をそのまま飲んでいたことにふれ，上水の仕組みが計画的に改善されてきたことにより，公衆衛生が向上してきたこと気付くようにする。

・飲料水の供給のために見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付けて，それらの事業が果たす役割，節水など自分たちにできることなどを考え，文章で記述したり，白地図や図表などにまとめたことを基に話し合ったりする。

廃棄物の処理　　アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)を関連付けて指導

処理の仕組み　（ごみの場合）

［調べる］

・ごみを処理したり処分したりする仕組み。

・資源の分別収集。

［考える］

・ごみをどのように集め処理しているのか。

（例）「ごみはパッカー車で集めて，クリーンセンターや環境センターへ運ばれる。」

「ごみを集める曜日や方法が決まっている。」

再利用

［調べる］

・廃棄物が資源として再利用されていること。

（例）　資源の分別収集や再利用，再生された製品の有効利用，焼却時の熱を利用した施設など。

［考える］

・再利用にはどのような方法があるか。

(例)「缶･びん･ペットボトルは新しい製品になっている。」

「燃やして残った灰はうめ立て処分場へ運ばれたり，セメント原料にリサイクルしたりしている。」

〔選択〕

・「廃棄物の処理」については，ごみ，下水から一つを選択して取り上げる。

・家や地域の人々から出される廃棄物の種類や量などを取り上げる。(個人のプライバシーに十分配慮する)

◆　見学先の例

・クリーンセンター，資源リサイクルセンター，環境センター，リサイクル工房　など

・昔はごみをそのまま埋めたり燃やしたりしていたことにふれ，その後，ごみの処理の仕組みが計画的に改善されてきたことにより，公衆衛生が向上し，環境に与える負荷が軽減してきたこと気付くようにする。

◆ふれあいごみスクール(環境局)との関連を図り,廃棄物の行方や働く人について関心を高める。

◆「くらしとごみ」「ワケトンBOOK」(環境局)

環境

・ごみの中に，資源として再利用できるものが数多くあることをおさえる。

（資源ごみの回収や，再生製品の利用の重要性）

県内外の人々の努力 ［調べる］ ・ごみの処理に関係する施設や事業所，ごみ処理場などの建設に関わる県内外の人々，ごみ資源のリサイクルなどに関わる人々などの連携や協力。 ［考える］ ・ごみは，どのような関係機関や人々の協力の基に成り立っているか。 （例）「たくさんの人によってごみを減らす取組がおこなわれている。」 「自分たちができることは何だろう。」 廃棄物を処理する事業は，衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう進められていることや，生活環境の維持と向上に役立っていることを理解する。	・「３つのＲ」を取り上げ，子供も市民の一人としてどのように考え，行動するのかを考える。 （持続可能な社会づくりへの参画） ・廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付けて，廃棄物を処理する事業の役割を考え，文章で記述したり，白地図や図表などにまとめたことを基に話し合ったりする。 ・社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱うとともに，ごみの減量や水を汚さない工夫など，自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮する。 ※法やきまりについてはなぜできたのかを考えた上で，それらを守ることが健康で良好な生活環境の維持・向上にとって必要であることに気付くようにする。 （特に，1単位時間に独立して行うのではなく，通常の学習の中で自然な流れで触れる）

(3)　自然災害から人々を守る活動について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)　地域の関係機関や人々は，自然災害に対し，様々な協力をして対処してきたことや，今後想定される災害に対し，様々な備えをしていることを理解すること。

(イ)　聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして，まとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア)　過去に発生した地域の自然災害，関係機関の協力などに着目して，災害から人々を守る活動を捉え，その働きを考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
自然災害から人々のを守る活動　　アの(ア)及び(イ)とイの(ア)を関連付けて指導	
過去に発生した地域の自然災害 ［調べる］ ・県内で発生した自然災害の種類や場所，時期。	防災 ［選択］ ・過去に県内で発生した「地震災害，津波災害，風水害，火山災害，雪害など」の中から選択して取り上げる。 ・風水害…豪雨，洪水，崖崩れ，土石流などの土砂災害，突風や竜巻などによる災害。 ・以下の技能などを身につけることが大切である。 《聞き取り調査で必要な情報を集める技能》 《地図や年表などの資料から情報を読み取る技能》

［考える］

・県内で過去にどのような自然災害が発生しどのような被害をもたらしたか。

（例）「大雨による土砂災害によって人々の住む家が流された。」

「地震によって火災や建物崩壊が起き，多くの方が犠牲になった。」

関係機関の協力

［調べる］

・県庁や市役所はもとより警察署や消防署，消防団や地域の自主防災組織など様々な関係機関や団体，人々が協力して，被害を減らすよう努力してきたこと。

・これからの災害にそなえて県庁や市役所などが防災対策を考え，地域の人々とともに取組を進めていること。

［考える］

・被害を減らすために関係機関や人々はどのように協力しているか。

（例）「川の様子を毎日監視することで，小さな変化も見逃さない態勢がとられている。」

「地域の防災福祉コミュニティが中心となって地域の防災訓練などが積極的に行われている。」

地域の関係機関や人々は，自然災害に対し，様々な協力をして対処してきたことや，今後想定される災害に対し，様々な備えをしていることを理解する。

《時間の経過に沿って年表などに整理したり関係機関相互の協力関係を図表などにまとめたりする技能》

【風水害を取り上げる場合】

・国や県の働きや近隣の市の協力により，《崖崩れによる災害の防止や砂防ダムの建設》《河川の改修》《水防倉庫の設置》《避難場所の確保》など，未然に防ぐ努力をしていること。

・《避難訓練の実施》《地域の消防団による危険箇所の見回りや点検》など，地域の住民が風水害防止に協力していること。

【地震災害を取り上げる場合】

・国と県と市の協力による《防災情報の提供》《津波や土砂崩れなどへの対策》《緊急避難場所の指定や備蓄倉庫の設置》《地震の発生を想定した緊急時の連絡体制などの整備及び救助計画》。

・《避難訓練》など地域の人々の協力と参加。

※実際に被災した地域や被災が想定される地域を取り上げる際には，そこの居住者を念頭に置き，十分な配慮をする。また，心のケアを必要とする児童がいないか把握しておく。

★防災副読本「しあわせはこぼう」との関連

※県庁や市役所の働きなどを中心に取り上げ，防災情報の発信，避難体制の確保などの働き，自衛隊などの国の機関との関わりを取り上げる。

・神戸市危機管理センター基本計画や，最新情報として各関係機関（神戸市危機管理室や神戸市消防局，兵庫県警など）のホームページを活用する。

◆見学先の例

・県庁，市役所，人と防災未来センターなど

◆大震災を経験した神戸だからこそ，自助や共助の精神に基づく，地域の諸活動に目を向けていく。

※震災時の関係機関の連携は非常に複雑なので，整理して説明し，その教訓を生かして防災福祉コミュニティが重視されていることをおさえる。

※地域の人々との協力なくしては「安全で安心な暮らし」は実現しないことをおさえる。

※日ごろから気象庁などからの情報や防災情報，地域の地理的環境などに関心をもち，災害が起きたときに安全を守るための行動の仕方を考えたり，自分たちにできる備えを選択・判断したりすることが大切。

(4)　県内の伝統や文化，先人の働きについて，学習の問題を追及・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）　県内の文化財や年中行事は,地域の人々が受け継いできたことや,それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること。

（イ）　地域の発展に尽くした先人は，様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解すること。

（ウ）　見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，年表などにまとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）　歴史的背景や現在に至る経過，保存や継承のための取組などに着目して，県内の文化財や年中行事の様子を捉え，人々の願いや努力を考え，表現すること。

（イ）　当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して，地域の発展に尽くした先人の具体的な事例を捉え，先人の働きを考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
県内の伝統や文化に関する内容　　アの(ア)及び(ウ)とイの(ア)を関連付けて指導	
歴史的背景 ［調べる］ ・文化財がつくられたり始められたりした時期や保存されてきた理由。 ・年中行事のおこりや成り立ち。 ［考える］ ・いつ頃，どのような理由で始まったか。	・以下の技能などを身につけることが大切である。 《博物館や資料館などを見学して必要な情報を集める技能》 《地図や写真などの資料を結び付けながら情報を読み取る技能》 《調べたことを時間の経過に沿って年表などに整理する技能》
現在に至る経過 ・文化財や年中行事が生み出されてから現在に至るまでの経過。 ［考える］ ・どのような経過で現在に至っているか。	・県内を代表するような歴史を伝える建造物や遺跡，民俗芸能などの文化財，地域の人々が楽しみにしている祭りなどの年中行事などから取り上げる。 ・地域社会の発展を願ってきた人々の生き方に触れるためにも，文化財や年中行事を保存したり継承したりしている人々から直接話を聞く活動が考えられる。 ・参加体験を紹介し合う活動は，自分も伝統や文化を受け継いでいく一人であるという意識を高め，地域社会の一員としての自覚の育成につながる。
保存や継承のための取組 ［調べる］ ・文化財や年中行事を大切に保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力。 ［考える］ ・人々は保存や継承のためにどのような取組をしているか。	・文化財や年中行事には，まちの発展や人々のまとまりなどへの願いがこめられていることをつかむ。
県内の文化財や年中行事は，地域の人々が受け継いできたことや，それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解する。	・伝統や文化を創造する観点から，地域社会の発展への願いを基に新しく生まれた祭りなどに触れることも考えられる。

県内の伝統や文化に関する内容　アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)を関連付けて指導	
当時の世の中の課題 ［調べる］ ・先人が活躍した当時の世の中の様子。 ・先人の働きが必要とされた背景。 ［考える］ ・当時の人々の生活や世の中には，どのような課題があったか。	［選択］ ・開発，教育，医療，文化，産業などの地域の発展に尽くした先人の中から，選択して取り上げる。 ・人物の業績を中心に学習する。 ※先人の働きと地域の人々の生活の向上とを関連付けて考えることができる事例を選択する。
人々の願い ［調べる］ ・当時の人々の生活の向上や地域の発展への願い。 ・先人の苦心や努力。 ［考える］ ・人々はどのような願いをもっていたのか。 ・先人の働きは地域の発展や人々の生活の向上にどう結び付いたのか。	・先人の働きと地域の発展や人々の生活の向上を関連付けて，先人が当時の地域や人々の生活の向上に貢献したことを文章で記述したり，年表などにまとめたことを基に話し合ったりする。 ・先人が用いた道具や技術に見られる工夫，実際の取組の様子，当時の社会の与えた影響などを調べる活動などが考えられる。
地域の発展に尽くした先人は，様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解する。	・発展的な学習として，その他様々な「神戸にゆかりのある人物」を研究する活動もできる。

(5)　県内の特色ある地域の様子について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）　県内の特色ある地域では，人々が協力し，特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。

（イ）　地図帳や各種の資料で調べ，白地図などにまとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）　特色ある地域の位置や自然環境，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などに着目して，地域の様子を捉え，それらの特色を考え，　表現すること。

指導内容	内容の取扱い
県内の伝統や文化に関する内容　アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)を関連付けて指導	
特色ある地域の位置 ［調べる］ ・特色ある地域の兵庫県内における位置。 ・周囲の地域との位置関係。	［選択］ ・「伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域，国際交流に取り組んでいる地域，及び地域の資源を保護・活用している地域」の中から三つ程度

［考える］
・どこにどのような特色ある地域があるか。

特色ある地域の自然環境
［調べる］
・特色ある地域の地形や気候。

［考える］
・その地域はどのような自然環境のところか。
「淡路島は，温暖な気候で栄養豊富な土がある。」
「豊岡市は，豊かな自然が広がり，山に囲まれている。」

人々の活動や産業の歴史的背景
［調べる］
・特色ある地域の人々の活動。
・特色ある人々の産業の起こりや成り立ち。
［考える］
・その活動や産業はどのような経緯で始まったか。
（例）「丹波焼は800年間伝統が受け継がれてきた。」
「再びコウノトリを増やすために豊岡市の人々がたくさんの取組みをした。」

人々の協力関係
［調べる］
・県や市，地域住民，産業に携わる人など，様々な立場の人々の協力関係。
［考える］
・人々はどのように協力しているか。
（例）「篠山市では組合がたくさんの取組みをしている。」
「淡路島では，店種をこえて淡路島牛丼の計画に参加している。」

県内の特色ある地域では，人々が協力し，特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。

・以下の技能などを身につけることが大切である。
《地図帳を用いたりコンピュータなどを使ったりして必要な情報を集める技能》
《地図や写真などの資料を見比べながら，地域ごとの情報を読み取る技能》
《調べたことを白地図などにまとめる技能》

※特色ある地域を選定する際には，神戸市とは異なる自然環境，伝統や文化，産業などをもつ地域を選び，比較してそれらの地域の特色を学習する。
→伝統的な技術を生かした地場産業…丹波
→地域の資源を保護・活用…豊岡，淡路
→国際交流に取り組んでいる地域…姫路（神戸）

◆兵庫県の地場産業
丹波焼（篠山市），鞄(豊岡市)，釣り針(西脇市)，線香(淡路市)，そろばん(小野市)，金物(三木市)，塩(赤穂市)， 手延べそうめん(たつの市)，兵庫仏壇（加古川市）他

・伝統的な文化を保護・活用している地域を取り上げる際には，内容（４）の文化財や行事を保護・継承している人々の努力を取り上げる「県内の伝統や文化」の学習との違いに配慮する

・我が国や外国には国旗があり，どの国も国旗を大切にしていることから我が国の国旗を尊重するとともに，外国の国旗を尊重することが大切であることなど。

・取り上げた外国の名称と位置，国旗は地図帳や地球儀で確認する。

※兵庫県の特色のある地域の学習については，広範囲にわたるので，見学は難しいと思われる。そこで，取り上げた地域の市役所などに電話やファックス，手紙などで問い合わせたり，インターネットから情報を集めたりする。

【第５学年】

１　目　標

社会的事象の見方・考え方を働かせ，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(1)　我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民生活との関連を踏まえて理解するとともに，地図帳や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2)　社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。

(3)　社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，我が国の国土に対する愛情，我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

２　内　容

(1)　我が国の国土の様子と国民生活について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)　世界における我が国の国土の位置，国土の構成，領土の範囲などを大まかに理解すること。

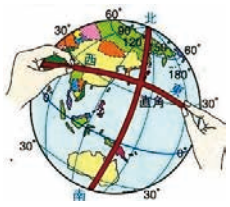
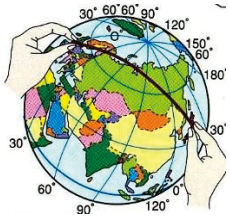
(イ)　我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに，人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。

(ウ)　地図帳や地球儀，各種の資料で調べ，まとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア)　世界の大陸と主な海洋，主な国の位置，海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して，我が国の国土の様子を捉え，その特色を考え，表現すること。

(イ)　地形や気候などに着目して，国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え，国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
我が国の国土の概要　アの(ア)及び(ウ)とイの(ア)を関連付けて指導	
世界の大陸と主な海洋 ［調べる］ ・六大陸の名称と位置や広がり。 （ユーラシア大陸，北アメリカ大陸，南アメリカ大陸， アフリカ大陸，オーストラリア大陸，南極大陸） ・三海洋の名称と位置や広がり（太平洋，大西洋，インド洋）	・地球儀の特徴や使い方については，具体的な活動を通して丁寧に指導する。 〔地球儀の指導〕 ≪方位の調べ方≫　紙テープを垂直に張り，東西南北にあてる ≪距離の調べ方≫　赤道の長さのタコ糸に目盛りをつける  

［考える］

・我が国は世界のどこに位置しているか。

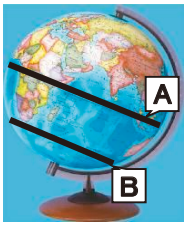
（例）「日本は，北半球にある。」

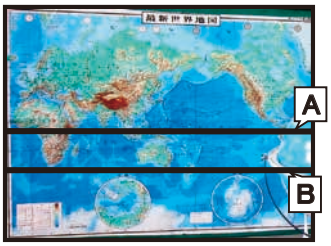
「ユーラシア大陸の東にある。」

「太平洋の西にある島国である。」など

・地球儀は，3人に1つの割合で準備をする。また，学習後も教室に一つは常備し，日常的に触れられるようにすることが望ましい。

・地球儀と地図を見比べることで，正しい世界の姿をつかむことができる。





主な国の位置

［調べる］

・各大陸における主な国の位置。



←弱粘性のシールを貼り，印にしておくと調べやすい。

近隣諸国を含めてユーラシア大陸やその周りに位置する国々の中から10 か国程度，北アメリカ大陸，南アメリカ大陸，アフリカ大陸，オーストラリア大陸やその周りに位置する国々の中からそれぞれ２か国程度選択することが考えられる。

［考える］

・我が国は世界のどこに位置しているか。

・主な国々と日本の位置関係はどう言い表せるか。

（例）「日本とアメリカは太平洋をはさんで向かい合っている。」

「大韓民国，中華人民共和国と隣り合っている。」

「日本の真東にはブラジルがある。」など

・学習する主な国については，指導者が選択する。

・取り上げた国の正式な名称と位置が分かるようにする。

・各国の国旗を取り上げ，国旗を尊重する態度を養う。

・日本と主な国の位置関係を確認し，産業に関する学習などにおいて活用できるようにする。

海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成

［調べる］

・北海道，本州，四国，九州，沖縄島，北方領土などの主な島（名称や位置）。

・日本列島の周りの海（太平洋，日本海，オホーツク海，東シナ海）。

・6800を超える大小多数の島々から成る我が国の国土の構成。

・弧状に連なっている国土の様子。

・領土の北端，南端，東端，西端。

［考える］

・国土はどのような島々から成り立っているか。

（例）「南北に連なる大小の島々で構成されている。」

「北方領土は，択捉島，国後島，色丹島，歯舞群島。」

「6800 を超える大小多数の島々で成り立っている。」

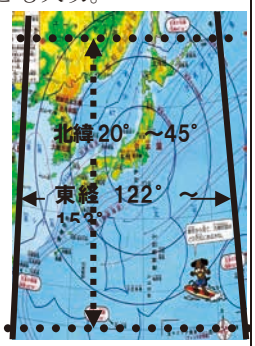
・我が国の領土はどの範囲か。

（例）「東経 122～153° 北緯 20～45° に位置している。」

「南北の距離を測ると，3000 ㎞もある。」

・世界の大陸や海洋の広がりの中で我が国の位置や範囲を捉えられるようにすることも大切。

・地図や地球儀を用いて，視覚的に緯度や経度について理解を深め，緯度や経度での我が国の範囲の言い表し方にも，慣れるようにしたい。



※領土の範囲について指導以下のことに触れる。

・竹島や北方領土，尖閣諸島は我が国の固有の領土。

・竹島…現在大韓民国によって不法に占拠。

・北方領土…現在ロシア連邦によって不法に占拠。

・尖閣諸島…我が国が現に有効に支配する固有の領土であり，領土問題は存在しない。

・固有の領土とは，一度も他の国の領土になったことが

世界における我が国の国土の位置，国土の構成，領土の範囲などを大まかに理解する	ない領土である。また，領土とは，我が国の法律が及ぶ地理的な範囲である。 ・これら我が国の立場は，歴史的にも国際法上も正当であることを踏まえる。
我が国の国土の自然環境　アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)を関連付けて指導	
地形や気候など ［調べる］ ・主な山地や山脈，平野，川や湖，主な島や半島などの地形の概要。 ・地域や時期によって気温や降水量が変わるなど気候の違いや変化。 ［考える］ ・国土全体の地形や気候はどのような特色があるか。 地形：山がちで森林におおわれ，大きな平野が少ない。 気候：四季の変化が見られる。 国土の南と北，太平洋側と日本海側では気候が異なる。	・衛星写真や立体模型図，気象地図，統計資料などを十分に活用する。 ※気候の違う各地の写真などの資料から，気温や降水量のグラフなど，統計資料の活用へとつなぐその際には，「表題・縦軸・横軸・単位・ひと目盛り」などを確かめ，次に「全体をみわたす」「部分をみつめる」などの指導を段階的に行うことが特に重要である（確・見・考）。 ・自然条件とは，地形条件と気候条件を合わせたもの。 ・地形条件の地域と，気候条件の地域の中からそれぞれ一つ取り上げ，具体的に学習する。 （例）「地形条件」から見て特色ある地域。 ・山地または低地の地域。 （例）「気候条件」から見て特色ある地域。 ・温暖多雨または寒冷多雪な地域。
自然条件から見て特色ある地域 ［調べる］ ・地形や気候に合わせた生活や産業の様子。 ［考える］ ・地形条件や気候条件をどのように生かしているか。 「我が国には地形や気候などの自然条件から見て特色ある地域がある。」 「人々は自然条件を生かして野菜や果物，花卉の栽培，酪農，観光などの産業を営んでいる。」	※事例地の選択については，神戸市と比較しながら学習を進められる事例がよい。 ・現地の地方自治体のホームページや現地を知る人への聞き取りによる調査，各種ガイドブックや現地に問い合わせて収集した資料なども効果的に活用する。
我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに，人々は自然環境に適応して生活していることを理解する。	

(2)　我が国の農業や水産業における食料生産について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）　我が国の食料生産は，自然条件を生かして営まれていることや，国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。

（イ）　食料生産に関わる人々は，生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして，良質な食料を消費地に届けるなど，食料生産を支えていることを理解すること。

（ウ）　地図帳や地球儀，各種の資料で調べ，まとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア） 生産物の種類や分布，生産量の変化，輸入など外国との関わりなどに着目して，食料生産の概要を捉え，食料生産が国民生活に果たす役割を考え，表現すること。

（イ） 生産の工程，人々の協力関係，技術の向上，輸送，価格や費用などに着目して，食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え，その働きを考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
我が国の食料生産の概要　アの(ア)及び(ウ)とイの(ア)を関連付けて指導	
生産物の種類や分布 [調べる] ・我が国における主な農産物や畜産物，水産物の種類や生産量，主な生産地の分布。 [考える] ・どこでどのようなものが生産されているか。	・商店の広告のちらしや食品の袋や帯，給食室に来る野菜の段ボールなどを手掛かりにして，主な食料の生産地を調査することができる。 ・土地利用図と主な農産物の分布図，分布図と気候，主な漁港と海流など，複数の資料を関連付けて考えようにする。
生産量の変化 [調べる] ・主な農産物の生産量や主な水産物の漁獲量の過去から現在に至る変化。 [考える] ・生産量はどのように変化しているか。	・新しい取組や国産品を大切にする消費者の考えなど最新の動向にも注目しておく。地図を読み取る力を，授業の中で自然に培っていくことが大切である。 ・都道府県名や国名が出てくるたびに，その位置を地図帳で確認する習慣をつけるようにする。 ★円グラフ，割合（%）は未習の可能性があるため，丁寧に扱うようにする。
輸入など外国との関わり [調べる] ・我が国の食料の輸出入品目や相手国，食料自給率など。 [考える] ・外国とどのような関わりがあるか。	・主な食料の自給率や主な輸入先などを取り上げる。 ・自給率の低い食料の品目や輸入先などを地図や地球儀，統計資料を活用して調べる。学校給食の献立をもとに調べたり，和食でさえ多くの食材が外国産であることをとらえたりしながら，問題意識を高める。
我が国の食料生産は，自然条件を生かして営まれていることや，国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解する。	・ここでの学習と関連付けて，我が国の貿易の役割について扱うことも考えられる。
食料生産にかかわる人々の工夫や努力　アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)を関連付けて指導	
生産の工程 [調べる] ・生産から出荷までの仕事の工程。 (稲作の場合) ・産地に合わせた品種改良に取り組んでいること。 （野菜や果物の場合） ・温室等の設備により出荷時期を工夫していること。 ・高品質，付加価値のあるものを海外に輸出していること。	〔選択〕 ・稲作は必ず取り上げる。 ・野菜，果物，畜産物，水産物などの中から一つ取り上げる。（第３学年の事例と重複しないようにする） ◎　第３学年の学習とのねらいの違いに留意する。 第３学年…地域の農産物を生産する仕事を通して地域社会に対する理解を深める。 第５学年…我が国の農業や水産業について理解を深める。

（畜産物の場合）
・与える飼料により品質を高めていること。
（水産物の場合）
・魚群探知や養殖などに最新の技術を使っていること。
・持続可能な漁業を目指して水産資源を保護していること。
［考える］
・食料はどのように生産されているか。
（例）地形や気候などの自然環境や社会的な条件を生かして生産を高める工夫や努力をしている。

人々の協力関係

［調べる］
・共同経営や協働作業，農業試験場や農業協同組合，水産試験場や漁業協同組合などの働き。
［考える］
・　人々はどのように協力して生産しているか。

技術の向上

［調べる］
・機械化による効率化や省力化，収穫量の増加，品種改良や情報の活用など。
［考える］
・食料生産の技術はどのように向上してきたか。

輸送

［調べる］
・トラックや鉄道などによる陸上輸送。
・貨物船やカーフェリーなどによる海上輸送。
・飛行機による航空輸送。
［考える］
・食料はどのように運ばれるか。
（例）鮮度を保ちながら国内外の消費地へ届けている。

価格や費用

［調べる］
・生産や輸送，販売の過程で掛かる費用や販売される際の価格。
［考える］
・食料の価格はどのように決まるのか。

食料生産に関わる人々は，生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして，良質な食料を消費地に届けるなど，食料生産を支えていることを理解する。

・農業や水産業の盛んな地域の具体的事例の中から，典型となる地域を取り上げて学習する。
（例）庄内平野の米作り，長崎の沖合漁業など。

・生産の過程の仕組みについては，従事する人々の工夫や努力を理解する上で必要な範囲とする。

・生産性や品質を高める工夫を消費者や生産者の立場に立って多角的に考え，これからの農業や水産業における食料生産の発展に向けて自分の考えをまとめることができるよう指導することが大切である。

環境

・消費者の立場からは，安全性の確保や環境への負荷の軽減などの意識が高まっていることにも触れる。

・食料生産と運ぶ仕事を関連付け，生産地と消費地を結ぶ運輸の働きを具体的にとらえられるようにする。
・主な高速道路網や鉄道網，主な海路や航路などを調べることが大切である。
（例）生産の過程で様々な費用がかかること。
消費地まで運ぶためには費用がかかること。
（原料の輸入や製品の輸出などの輸送費用など）
それらの費用が価格に影響を与えていること。
野菜や魚など生鮮食料品の価格は，主として市場で決められ，時期や場所によって変わること。
市場の情報を基に出荷する場所，量，種類，時期を判断していること。

・農産物の生産については，低価格という観点だけでなく手間をかけて高品質なものや付加価値のあるものを生産し海外に輸出していることを取り上げることも考えられる。

※費用の詳細な内訳（人件費や輸送費の割合）や，価格変動の仕組みなど難解な内容を教えるのではない。

・生産・加工・販売を関連付けた，いわゆる「６次産業化」の動きなど新しい取組を取り上げることが考えられる。

(3)　我が国の工業生産について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）　我が国では様々な工業生産が行われていることや，国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。

（イ）　工業生産に関わる人々は，消費者の需要や社会の変化に対応し，優れた製品を生産する様々な工夫や努力をして，工業生産を支えていることを理解すること。

（ウ）　貿易や運輸は，原材料の確保や製品の販売などにおいて，工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解すること。

（エ）　地図帳や地球儀，各種の資料で調べ，まとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）　工業の種類，工業の盛んな地域の分布，工業製品の改良などに着目して，工業生産の概要を捉え，工業生産が国民生活に果たす役割を考え，表現すること。

（イ）　製造の工程，工場相互の協力関係，優れた技術などに着目して，工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え，その働きを考え，表現すること。

（ウ）　交通網の広がり，外国との関わりなどに着目して，貿易や運輸の様子を捉え，それらの役割を考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
我が国の工業生産の概要　アの(ア)及び(エ)とイの(ア)を関連付けて指導	
工業の種類 ［調べる］ ・工業の種類や種類別生産額。 ・工場の規模別の数や割合。 ［考える］ ・日本はどのような工業が盛んか。	・統計資料や分布図，地図帳などを十分に活用する。 ・地図帳の都道府県別の統計の表を活用し，工業の盛んな都道府県を白地図に書き込む活動もできる。 ・「もしも，工業製品がなかったら…」と考え，工業製品が生活や産業においていかに重要な働きをしているかを考えることもできる。
工業の盛んな地域の分布 ［調べる］ ・我が国における工業地帯や主な工業地域の分布。 ［考える］ ・工業の盛んな地域はどのように広がっているか。	・暮らしの中でどのような工業製品が使われているのかを調査し，工業の種類別に分類・整理する。
工業製品の改良 ［調べる］ ・身の回りの工業製品の改良の経過。 ［考える］ ・工業製品はどのように改良されてきたか。	・工業製品によって，金属工業，機械工業，化学工業，食料品工業などに分類される。
我が国では様々な工業生産が行われていることや，国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解する。	※社会情勢や産業界についての最新情報を入手して教材研究を進める。産業の種別や生産額などの差異によって児童が偏見をもたないように留意する。

工業生産に関わる人々の工夫や努力　アの(イ)及び(エ)とイの(イ)を関連付けて指導

製造の工程

［調べる］

・工業における原材料の確保。

・生産から出荷までの仕事の工程。

［考える］

・工業製品はどのようにしてつくられているか。

〔選択〕

・金属工業，機械工業，化学工業，食料品工業などの中から一つを取り上げる。

・工業生産の盛んな地域の事例を取り上げて学習する。

※中学年で取り上げた種類の工業以外を取り上げるよう配慮する。

※第５学年では，我が国の工業生産について理解を深める。（第３学年及び第４学年では地域の生産活動を通して地域社会に対する理解を深めること）

工場相互の協力関係

［調べる］

・関連工場の計画的，効率的な部品生産の工夫や努力。

・大規模な工場と関連工場との結び付き。

［考える］

・工場はどのように関連しあっているか。

キャリア

◆地域の中小工場（製鉄所や部品工場など）の見学。

・見学を取り入れたり視聴覚教材を活用したりして具体的に調べられるようにする。

・製品の研究開発の様子を取り上げることもできる。

・原材料の確保や製品の販売や消費への輸送については貿易や運輸の働きとの関連を図る。

※生産の過程や工程の細部については，深入りしない。

優れた技術

［調べる］　地図帳や地球儀，各種の資料でまとめる。

・産業用ロボットなどを活用したオートメーションなど大規模工場の生産システム。

・消費者の需要や社会の要請に応える生産の仕方。

・中小工場での技術を生かした生産の様子。

・新しい分野に挑戦する研究開発。

［考える］

・どのような技術を生かして生産しているか。

キャリア　環境　福祉

・消費者や生産者の立場，人々の安全，環境，価格，利便性，バリアフリーなどに対する願いが工業生産により実現されることや優れた技術やその向上が我が国の工業をより発展させることなど，我が国の工業の発展について自分の考えをまとめる。

（例）高齢化社会に対応した工業製品の開発に努力している。

環境の負荷を少なくするために工業製品の開発に努力している。

工業生産に関わる人々は，消費者の需要や社会の変化に対応し，優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして，工業生産を支えていることを理解する。

貿易や運輸に関する内容　アの(ウ)及び(エ)とイの(ウ)を関連付けて指導

交通網の広がり

［調べる］

・原材料の確保や製品の出荷のための高速道路や鉄道。

・航路などの交通網。

・陸運や海運などの輸送手段と，輸送の際の工夫や努力。

・世界地図や地球儀などを用いて，輸出入先の国や地域の位置を確認する。

・生産を高める工夫や原材料の確保，製品の輸送などと関連付けて価格や費用，交通網について取り扱う。

［考える］ ・原材料や工業製品はどのような輸送手段で運ばれるか 。 外国との関わり ［調べる］ ・輸出入を通した我が国と諸外国との関わり。 ［考える］ ・我が国の工業は外国とどのような関わりがあるか。 貿易や運輸は，原材料の確保や製品の販売などにおいて，工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解する。	→価格や費用 (例)製造の過程で様々な費用がかかること，原材料の確保や製品の輸送の費用がかかること，それらの費用が価格に影響を与えていることなど。 →交通網 (例)原材料や製品のおよその輸送経路や輸送手段など。 ・各種の交通網の資料を活用する。 (例)主な高速道路網や鉄道網，主な航路や航空路など。 ◆神戸港コンテナバース ・貿易や運輸のほかにも工業生産を支えるものとして，情報の働きについて取り上げることも考えられる。

（4） 我が国の産業と情報との関わりについて，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア） 放送，新聞などの産業は，国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。

（イ） 大量の情報や情報通信技術の活用は，様々な産業を発展させ，国民生活を向上させていることを理解すること。

（ウ） 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各資料で調べたりして，まとめること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア） 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して，放送，新聞などの産業の様子を捉え，それらの産業が国民生活に果たす役割を考え，表現すること。

（イ） 情報の種類，情報の活用の仕方などに着目して，産業における情報活用の現状を捉え，情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
放送や新聞などの産業 アの(ア)及び(ウ)とイの(ア)を関連付けて指導	
情報を集め発信するまでの工夫や努力 ［調べる］ ・広く国民に伝えている放送局や新聞社などに従事する人々の工夫や努力。 ［考える］ ・情報をどのように集めているか。 ・情報をどのように選択・加工・整理して国民に伝えているか。 放送，新聞などの産業は，国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解する。	〔選択〕 ・「放送，新聞など産業」の中から一つを選択して取り上げる。 ・情報の受け手として，確かな情報を収集・選択し，様々な観点から比較して適切に判断することの大切さに気付くようにする。 ※不確かな情報や誤った情報が広がることによって，風評被害などが生じ，関係者の人権等が著しく侵害されることがあることにも触れるようにする。 キャリア ◆放送局，新聞社への見学や出前授業

情報や情報通信技術を活用する産業　アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)を関連付けて指導

情報の種類

［調べる］

・産業が活用している情報の種類。

（販売情報，気象情報，交通情報など）

（例）販売情報…商品名，価格，数量，時間，購入者の情報など。

気象情報…天気・気温・湿度の予想や現状，警報・注意報の経過，防災上の注意など。

交通情報…渋滞情報，事故情報，交通規制の場所や時間，所要時間の予測など。

［考える］

・その産業ではどのような情報を集めているか。

情報の活用の仕方

［調べる］

・産業が情報を集める際の対象。

・情報活用の目的や方法。

・情報を活用する場面。

［考える］

・その産業では情報をどのように活用しているか。

大量の情報や情報通信技術の活用は，様々な産業を発展させ，国民生活を向上させていることを理解する。

〔選択〕

・「販売，運輸，観光，医療，福祉など」情報を活用して発展している産業の中から選択して取り上げる。

（例）

販売業…販売情報を収集・分析して商品の入荷量や販売量を予想したり，インターネット上で商品の管理を行ったりしている。

運輸業…交通や位置，気象などの情報を活用したり，倉庫を運営する産業と連携して迅速かつ効率的な輸送に努めたりしている。

観光業…魅力ある地域の観光資源について情報を発信して地域の活性化に努めている。

医療・福祉…様々な機関と連携したり離れた地域間で情報を共有したりすることによりサービスの向上に努めている。

・事例の選択に当たっては，国民生活の利便性を大きく向上させているなど，国民の身近な生活を支えている事例を取り上げることが考えられる。

※情報通信機器の操作方法や情報通信の仕組みに深入りすることがないようにする。また，児童の発達段階を考慮して指導する。

※高度に情報化した社会においては，自他の個人情報の保護や適切な扱いが必要であることなどに触れる。

※情報活用の在り方を多角的に考えて，情報化社会のよさや課題について自分の考えをまとめることができるよう指導することが大切。

(5)　我が国の国土の自然環境と国民生活の関連について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）　自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや，自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。

（イ）　森林は，その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解すること。

（ウ）　関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに，公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解すること。

（エ）　地図帳や各種の資料で調べ，まとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）　災害の種類や発生の位置や時期，防災対策などに着目して，国土の自然災害の状況を捉え，自然条件との関連を考え，表現すること。

（イ）　森林資源の分布や働きなどに着目して，国土の環境を捉え，森林資源が果たす役割を考え，表現すること。

（ウ）　公害の発生時期や経過，人々の協力や努力などに着目して，公害防止の取組を捉え，その働きを考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
国土の自然災害　アの(ア)及び(エ)とイの(ア)を関連付けて指導	
災害の種類 ［調べる］ ・我が国で発生した主な自然災害の種類や状況。 （地震災害，津波災害，風水害，火山災害，雪害など） ［考える］ ・我が国においてどのような自然災害が発生したか。	防災 〔選択〕 ・地震災害，津波災害，風水害，火山災害，雪害などの自然災害を国土の自然条件と関連付けて取り上げることが考えられる。 ・風水害とは，豪雨，洪水，高潮，崖崩れ，土石流などの土砂災害，突風や竜巻などによる災害を指している。 ◎第４学年では，県内などで発生した自然災害と自然災害への対処や備えを通して地域社会について理解する。第５学年では，国土において発生する様々な自然災害と国土の自然条件との関連を通して国土の地理的環境を理解する。 （例）地震災害…阪神・淡路大震災（1995年） 津波災害…東日本大震災（2011年） 風水害…平成26年8月豪雨（2014年，広島） 平成30年7月豪雨（2018年，西日本） 火山災害…雲仙普賢岳噴火（1990年）　など ★気象条件など，理科における学習内容との関連を図った指導を工夫する。
発生時期や位置 ［調べる］ ・我が国で発生した主な自然災害の位置や発生した時期。 ［考える］ ・自然災害が，いつどこで発生したか。	
防災対策 ［調べる］ ・国や県などが進めてきた砂防ダムや堤防などの整備。 ・ハザードマップの作成などの防災・減災に向けた対策や事業。 ［考える］ ・自然災害による被害をどのように減らす対策をとっているか。	◆国や県，市などの広域的な事業の例 市内数百に及ぶ砂防ダムや臨海地域での防潮堤 レーダーサイトや河川に設置されたカメラ，サイレン ◆兵庫県CGハザードマップ，神戸市洪水ハザードマップ 六甲砂防ダムの建設・補強工事等
自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや，自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解する。	※災害時の映像を効果的な活用や，環境保全に真剣に取り組む人に焦点を当てた学習，インターネットで各種防災情報を分担収集する活動などを通して，児童一人一人の防災意識を高めていくようにする。

森林資源の働き　アの(イ)及び(エ)とイの(イ)を関連付けて指導

森林資源の分布

［調べる］

・森林の種類や広がり，国土に占める割合など。

［考える］

・　国土における森林の面積の割合はどれぐらいか。

森林資源の働き

［調べる］

・森林資源がもつ多様な機能。

・森林の育成や保護に関わる人々の工夫や努力。

［考える］

・森林にはどのような働きがあるか。

森林は，その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解する。

環境

・森林資源を守ることは環境保全につながり，そのためには国民一人一人の協力が必要なことに気付くようにする。

◆六甲山の森林保護(六甲山系グリーンベルト整備事業)

※森林の働きによる自然災害の防止には限界があることについても触れるようにする。

・「開発は仕方ない」「森林は大切」と観念的な理解で安易に結論付けてしまわないように，林業に従事する人々の努力や森林資源の多様の有益性をもとに具体的に考えるようにすることも必要である。

公害の防止と生活環境　アの(ウ)及び(エ)とイの(ウ)を関連付けて指導

公害の発生時期や経過

［調べる］

・産業の発展や生活様式の変化，都市化の進展などにより主な公害が発生した時期。

（例）四大公害病…水俣病，ｲﾀｲｲﾀｲ病，新潟水俣病，
四日市ぜんそく

阪神間でも社会問題になった公害
…大気汚染，水質汚濁，騒音や振動，
地盤沈下，悪臭など

その他にも社会問題化した内容
…ＰＣＢ，ダイオキシン，アスベストなど

・公害により国民の健康や生活環境が脅かされてきたこと（経過）。

（例）　急速な工業化による環境破壊
全国各地での公害の発生と被害者の様子
被害住民とその支援者による裁判など

・関係の諸機関をはじめ多くの人々の努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたこと（経過）。

（例）　公害対策基本法や環境庁の設置
公害の教訓を生かした様々な取組　など

環境

〔選択〕

・「大気汚染，水質の汚濁など」の中から具体的事例を一つ選択して取り上げる。

(環境基本法では，公害として，大気の汚染，水質の汚濁，騒音，振動，地盤の沈下及び悪臭が挙げられている)

・工業の発達の過程で生じた「公害」なので，学習する時期を工業単元の後にすることも可能である。

・公害の問題を国土の環境保全の観点から扱うとともに，自分自身や自分の生活とのかかわりでとらえる。

・日本の戦後史を学習していないので，日本が焼け野原から急速に経済復興し，高度経済成長を迎えて，経済大国となった経過を大まかに説明する。

・国民の健康や生活環境の維持・改善に配慮した行動が求められるなど国民一人一人の協力の必要性に気付くようにする。

［考える］ ・どのような公害がいつごろ発生したか。 ・どのように広がり，その後どのように改善したか。 人々の協力や努力 ［調べる］ ・関係諸機関や人々の協力や努力によって環境改善に成果を上げてきたこと。 （例）　法律や条例の整備，環境庁から環境省へ 企業のISO取得（ISO14001取得）　など ［考える］ ・人々はどのように協力してきたか。 関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られたきたことを理解するとともに，公害　から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解する。	※公害病を取り上げる場合には，水俣や四日市のように地名が病名になったことから，児童が今も当時と似た状況だと誤解することがないようにし，長年の努力によって環境都市として再生していることをおさえる。そのうえで，公害防止と生活環境の改善の重要性に目を向ける。 ※産業型公害だけでなく，生活様式の変化や都市化の進展などによって，都市・生活型の公害がもたらされていることにも気付くようにする。 ◆43号線裁判があったように，神戸市内でも騒音や振動，大気汚染などによる住民被害が社会問題化し，その後，改善に向けた様々な努力が行われたことを紹介することもできる。高速道路や幹線道路での防音壁や速度規制，緑化地帯の設置，大気汚染地域での学校空調施設の優先設置などの対策についても取り上げることができる。

【第６学年】

１　目　標

社会的事象の見方・考え方を働かせ，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(1)　我が国の政治の考え方と仕組みや働き，国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産，我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに，地図帳や地球儀，統計や年表などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2)　社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。

(3)　社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりより社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情，我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

２　内　容

(2)　我が国の歴史上の主な事象について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。その際，我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに，大まかな歴史を理解するとともに，関連する先人の業績，優れた文化遺産を理解すること。

(ア)～(サ)　後述

(シ)遺跡や文化財，地図や年表などの資料で調べ，まとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア)世の中の様子，人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して，我が国の歴史上の主な事象を捉え，我が国の歴史の展開を考えるとともに，歴史を学ぶ意味を考え，表現すること。

ア（ア）　猟・採集や農耕の生活，古墳，大和朝廷（大和政権）による統一の 様子を手掛かりに，むらからくにへと変化したことを理解すること。その際，神話・伝承を手掛かりに，国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。

指導内容	内容の取扱い
狩猟・採集や農耕の生活 ［調べる］ ・貝塚や集落跡などの遺跡，土器などの遺物など。 ・狩猟採集の生活や農耕が始まったころの様子。 ［考える］ ・人々はどのような生活をしていたか。 (例)狩猟・採集や農耕の生活をしていたころの人々の生活や社会の様子。 →日本列島では長い期間，豊かな自然の中で狩猟や採集の生活が営まれていたこと。 卑弥呼が治めたと言われる邪馬台国の様子から想像できる当時の社会。 →農耕が始まると，人々は耕地の近くに定住してむらを作るようになったこと。 古墳 ［調べる］ ・身近な地域や国土に残されている古墳や出土品。 ・古墳の出現と広がり。 ［考える］ ・世の中の様子はどのように変わったか。 (例)各地に有力な豪族が現れた。 大阪・奈良を中心とする近畿地方に有力な豪族が多く現れた。 大和朝廷（大和政権）による統一の様子 ［調べる］ ・当時の様子や人物の働き。 ・大和朝廷（大和政権）の支配の広がり。	※我が国が遠い祖先からの長い歴史をもち，先人の努力によって固有の伝統や文化が発展してきたことを考える第一歩となるよう，歴史に対する興味・関心を高める。 ・身近な地域に遺跡がある学校は，フィールドワークを取り入れたり，地域にある博物館や資料館を利用したりすることもできる。しかし，即座に資料学習から入り，学習を進めてから見学することもできる。 ※等尺年表を扱うことで，縄文時代の長さを確かめる。弥生・古墳時代も，研究がすすむにつれて時代が遡るなど流動的なので，時代区分を限定的に示すことがないようにする。 ・米作りが始まる前の暮らしを取り上げ，稲作の伝来により大きく世の中が変化していったことをとらえる。 ［人物］　卑弥呼 ・渡来人の存在や役割についても触れる。 ・国の形成に関する当時の人々の考え方などに関心をもてるような神話・伝承を取り上げる。 （例）高天原神話，天孫降臨，出雲国譲り，神武天皇の東征の物語，日本武尊の物語など ・可能であれば，身近な地域に残されている古墳等を観察・見学してもよい。 ◆見学先の例 神戸市立博物館，埋蔵文化財センター，大歳山遺跡 明石文化博物館，大中遺跡，兵庫県立考古博物館 五色塚古墳，処女塚古墳，王塚古墳など。 ・大和朝廷については，その成立や展開の時期を広く捉える観点から，大和政権とも呼ばれていることに触れる。

［考える］ ・大和朝廷（大和政権）はどのように力を伸ばし国を治めたか。 （例）有力豪族を中心とした大和朝廷によって大和地方を中心とした地域の統一が進められた。 世の中の様子がむらからくにへと変化したことを理解する。	※歴史に対する興味・関心を高めるため，博物館や資料館などの見学を効果的に取り入れることも大切である。その際には，学習の目的に応じ，適切に情報を集めるよう指導したい。

（イ）　大陸文化の摂取，大化の改新，大仏造営の様子を手掛かりに，天皇を 中心とした政治が確立されたことを理解すること。

指導内容	内容の取扱い
大陸文化の摂取 ［調べる］ ・遣隋使の航路。　・正倉院の宝物が渡来した経路。 ・大陸文化を取り入れた政治の様子。 ［考える］ ・聖徳太子はどのような国づくりを進めたか。 （例）法隆寺の建立や，遣隋使の派遣による大陸文化の極的摂取など。	・大陸文化を積極的に取り入れることで仏教を大切にし，天皇中心の世の中を目指したことをとらえる。 ・肖像画やエピソードなども活用する。 ・遣隋使の航路や正倉院の宝物が渡来した経路を調べる際は，世界地図などの資料を活用する。 ［人物］　聖徳太子，小野妹子
大化の改新 ［調べる］ ・大化の改新の様子。 ［考える］ ・大化の改新を経てどのような政治が整えられたか。 （例）天皇中心の新しい政治の様子を考える。	・聖徳太子の政治と大化の改新を比べ，聖徳太子が豪族に対する心得を説いて政治を行ったのに対して，大化の改新は全国の土地と人民を制度として支配する仕組みであったことを大まかにとらえる。 ［人物］　中大兄皇子，中臣鎌足
大仏造営 ［調べる］ ・大仏造営にこめられた聖武天皇の願いや造営の様子。 ［考える］ ・国づくりには聖武天皇のどのような願いが込められていたか。 （例）大仏の大きさから天皇の力を考えたり，大仏造営を命じた詔から聖武天皇の願いを考えたりする。 →国家的な大事業として東大寺の大仏が造られ，天皇を中心とする政治が広く全国に及んだ。 →鑑真が来日し，仏教の発展に大きな働きをした。 天皇を中心とした政治が確立されたことを理解する。	・大仏の大きさから天皇の力を考えたり，大仏造営の命じた詔から聖武天皇の願いを考えたりする。 ・大仏造営を重点的に取り上げ，天皇を中心にしてつくられた新しい国家の政治が全国に及んだことや仏教の発展に大きな働きをしたことを考えていく。 ［人物］　聖武天皇，行基，鑑真 ◆見学先の例 平城宮跡（資料館），朱雀門，東大寺，法隆寺，興福寺，奈良公園，春日大社など。

（ウ）　貴族の生活や文化を手掛かりに，日本風の文化が生まれたことを理解すること。

指導内容	内容の取扱い
貴族の生活や文化 ［調べる］ ・貴族の暮らしの様子。 ・紫式部や清少納言の活躍。 ・貴族の服装や建物，日常の生活や行事などの様子。 ・紫式部や清少納言の作品。 ［考える］ ・貴族はどのような生活をしていたか。 （例）十二単や貴族の服装などから貴族の生活の様子を想像する。 寝殿造の屋敷での貴族の生活の様子を調べる。 当時の貴族が行っていた，現在にまで受け継がれている年中行事を調べる。 ・貴族はどのような作品を残したか。 （例）紫式部や清少納言が，我が国独自のかな文字を使い優れた文学作品を作りだした。 （例）大和絵などがつくられた。 京都に都が置かれた頃，日本風の文化が生まれたことを理解する。	・十二単や貴族の服装などから貴族の生活の様子を想像したり文化の特色（国風文化）について考えたりする。 ★国語の短歌の学習と関連付けたり，真名・仮名（平仮名・片仮名）の由来を紹介したりすることもできる。 ・日本風の文化とはどのようなものか，これまでの文化との違いに着目して整理したり，今にも続く文化的な内容を調べたりすることもできる。 ・絵画などの資料から生活や文化に関する情報を適切に読み取るようにする。 ・このころの文化の特色を考え，文章で記述したり説明したりすることが考えられる。 ◆ 源氏物語須磨の巻。 ◆ 学校図書やインターネットを活用し，神戸に関係する和歌調べもできる。 ［人物］　藤原道長，紫式部，清少納言

（エ）　源平の戦い，鎌倉幕府の始まり，元との戦いを手掛かりに，武士による政治が始まったことを理解すること。

指導内容	内容の取扱い
源平の戦い ［調べる］ ・源平の戦いが行われた場所。 ・源平の戦いにおける源義経の活躍の様子やエピソード。 ［考える］ ・源氏と平氏との戦いはどのようなものだったか。 （例）力を付けてきた源氏と平氏が戦い，源義経の働きもあって源氏が勝利し，大きな力をもつようになった。	・藤原道長，平清盛，源頼朝の３人を比較することで，貴族から武士の時代への移り変わりを考えることもできる。 ・戦いの場所を，地図帳活用しながらおさえていくと，源平の戦いが，全国に及んだことがよく分かる。 ◆神戸市にある源平ゆかりの場所・逸話調べ。 （例）雪見御所跡，一の谷の戦い，須磨寺，清盛塚など ［人物］　平清盛，源頼朝，源義経
鎌倉幕府の始まり ［調べる］ ・鎌倉幕府の政治の仕組み。 ・守護や地頭の配置。 ［考える］ ・源頼朝の業績。	・武士の館の様子から「いざ鎌倉」の精神で日々戦いに備えて武芸に励む武士の姿に着目し，将軍と御家人の関係をとらえる。

(例)朝廷から認められ全国に守護や地頭を置いた源頼朝が鎌倉に幕府を開き,武士による政治の仕組みをつくり上げた。 元との戦い [調べる] ・元との戦いの様子。 [考える] ・幕府は元の攻撃をどのように退けたのか。 (例)幕府が全国的に力をもっており,北条時宗が九州の御家人を中心に全国の武士を動員した。 鎌倉に幕府が置かれた頃,武士による政治が始まったことを理解する。	・鎌倉の様子,京都と鎌倉の位置,守護・地頭の配置,人物年表やエピソードなどを調べ,都を離れて幕府を開いた源頼朝の業績に着目する。 ・絵巻物などの資料を基に,日本が当時世界最大の帝国だった元を退けることができた理由を様々な観点から考えるとともに,土地を仲立ちとした「御恩と奉公」の結びつきの強さに気付くようにする。 (例)命がけで戦い,幕府に褒美を求める竹崎季長 ・地図で,世界における元の広がりなどをおさえ,当時の様子を捉えられるようにすることも大切である。 [人物] 北条時宗

(オ) 京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに,今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解すること

指導内容	内容の取扱い
京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画 [調べる] ・金閣や銀閣などの建造物。 ・水墨画などの絵画。   [考える] ・この頃の文化にはどのような特色があるか。 ・今に受け継がれているものにはどのようなものがあるか。 (建造物)銀閣の東求堂の書院造といわれる部屋のつくりは,現在の和風建築に生かされている。 (絵画)雪舟により生みだされた水墨画の作品には国宝に指定され現在も保存されているものがある。水墨画は現在も人々に親しまれている。 今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解する。	・書院造の影響を受けている伝統的な家屋(床の間や違い棚,明かり障子,雨戸,水墨画の掛け軸,床の間を基にした上座・下座など)を観察し,この頃の文化に関心をもつようにする。 ・この頃生まれた能,茶の湯,生け花,盆踊りなども,今なお親しまれていることを関連的に取り上げることも考えられる。 ・自治が進んだ時代であり庶民が楽しむ文化だけでなくたくましい人間の生き方を追究する教材も多数ある。 ・京都への社会見学,水墨画や茶の湯体験,生け花体験,御伽草子調べ,能や狂言などの鑑賞 など多様な学習活動も考えられる。 ◆見学先の例 鹿苑寺(金閣),慈照寺(銀閣),妙心寺など [人物] 足利義満,足利義政,雪舟

(カ) キリスト教の伝来,織田・豊臣の天下統一を手掛かりに,戦国の世が統一されたことを理解すること

指導内容	内容の取扱い
キリスト教の伝来 [調べる] ・キリスト教伝来の様子。 ・ザビエルが日本にキリスト教を伝えたことなど。	◆神戸市立博物館所蔵のザビエル像,南蛮美術品の観察

［考える］ ・当時の世の中がどのような様子だったか。 （例）人々はキリスト教をどう受け止めたか。	・キリスト教が，伝来後に保護されたり，禁止されたりするので，仏教どこが違うのか確かめておくことが大切である。
織田・豊臣の天下統一 ［調べる］ ・織田信長が勢力を伸ばした様子。 ・豊臣秀吉が検地や刀狩りなどの政策を進め天下を統一した様子。 ［考える］ ・織田信長や豊臣秀吉らはどのように力を伸ばしたか。 （例） 鉄砲を多用するなどして織田信長が短い期間に領地を拡大した。 ・どのような政策を進めたか。 （例） 豊臣秀吉が検地や刀狩などの政策を行ったこと。 戦国の世が統一されたことを理解する。	・織田信長と豊臣秀吉の働きを比べたり結びつけたりしながら読み取っていく。 ・天下統一は，全国の大名を従えるだけではなく，武士と農民･町人など身分を明確にして，武士が支配する社会の仕組みを整えたということおさえる。 ・下克上の戦国の世が統一された様子について理解できるようにする。 ・人物に焦点を当てて，年表や地図，逸話などをもとに人物像を探る学習も考えられる。 ※キリスト教の伝来などを扱う際に，地図などを用いて，我が国の歴史上の事象をより広い視野から捉えることができるよう配慮することが大切である。 ［人物］ ザビエル，織田信長，豊臣秀吉

（キ）江戸幕府の始まり，参勤交代や鎖国などの幕府の政策，身分制を手掛かりに，武士による政治が安定したことを理解すること。

指導内容	内容の取扱い
江戸幕府の始まり ［調べる］ ・関が原の戦いの様子。 ［考える］ ・徳川家康の業績(江戸幕府はどのように始まったか) (例)徳川家康は関ヶ原の戦いに勝利を収め，その後，江戸幕府を開いた。	・関ケ原の戦いが「天下分け目の戦い」と言われていることを取り上げ，後の大名支配での配置(親藩・譜代･外様)にもつながるようにする。 ・徳川家康や家光の肖像画や人物年表,エピソードなどからそれらの人物の業績を考える学習が考えられる。 ［人物］ 徳川家康
参勤交代や鎖国などの幕府の政策 ［調べる］ ・大名配置や参勤交代の経路。 ・キリスト教の禁止や海外との貿易の統制。 ・出島などを通して交易があった国の名称。 (例)徳川家康や徳川家光の人物年表。 大名行列や出島，踏み絵などの資料の活用。 ［考える］ ・江戸幕府の政策の意図や社会の様子。 (大名の経済力を低下させ，互いに団結しにくいようにするなど大名の力を抑制し，幕府の力を強める仕組み)	・参勤交代にかかる費用やその内訳，日数，実際の道のりなど複数の資料を結び合わせ，政策の意図について考えていくようにする。 ・家康とは異なり，自らを「生まれながらの将軍」と名乗る家光の言葉や数々の政策から，幕藩体制の基礎を築いたことをとらえられるようにする。 ・鎖国に至る年表や関連する政策を比較し，キリスト教禁止の政策の意図について迫っていく。 ・島原・天草の一揆(島原の乱)を取り上げ，キリスト教禁止や農民への政策の意図を考えることもできる。 ［人物］ 徳川家光

身分制 ［調べる］ ・武士を中心とした身分制。 ［考える］ ・幕府はどのように世の中を治めたか。 武士による政治が安定したことを理解する。	・江戸時代のアイヌ民族や琉球王国を取り上げることができる。その際，幕府との関係や，独自の文化を形成していたことも触れることができる。 ・国内的には大名支配や身分制度の確立，対外的には鎖国によって幕藩体制が強まったことをおさえる。

（ク）歌舞伎や浮世絵，国学や蘭学を手掛かりに，町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解すること。

指導内容	内容の取扱い
歌舞伎や浮世絵 ［調べる］ ・歌舞伎や浮世絵の作品。 ・歌舞伎や浮世絵を楽しむ人々の姿。 ［考える］ ・歌舞伎や浮世絵はどのような人々に親しまれていたか。 ・室町文化との特色の違いは何か。	※「歌舞伎」も「浮世絵」も両方取り扱う。 ・歌舞伎や浮世絵が，今も世界的に高く評価されていることを踏まえて取り上げ，それらを楽しむ人々に着目する。 ・実際に歌舞伎や浮世絵の作品をいくつか鑑賞して当時の人々がどんな気持ちでそれらを楽しんでいたのか想像したりすることもできる。 ［人物］ 近松門左衛門，歌川(安藤)広重
国学や蘭学 ［調べる］ ・『解体新書』や日本地図などの学問の成果など。 ［考える］ ・国学や蘭学はどのような学問だったのか。 ・どのように作り上げたのか。 (例)本居宣長…我が国の古典を研究し国学の発展に重要な役割を果たした。 杉田玄白…オランダ語の医学書を翻訳して『解体新書』を著した。 伊能忠敬…全国を測量し精密な地図を作った。 町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解する。	※「国学」も「蘭学」も両方取り扱う。 ・人物の業績から，その努力の様子や果たした役割を調べることが考えられる。 ・古事記の研究が「なぜ新しい学問なのか」というような素朴な疑問を出発点に，国学を確立した本居宣長の人生を調べることもできる。 ・杉田玄白や伊能忠敬の地道な努力とともに，蘭学の先進性についてもとらえる。 ・寺子屋の教育が広がり，のちの明治時代の新しい社会を発展させる大きな力となったことにも触れる。 ［人物］ 本居宣長，杉田玄白，伊能忠敬

（ケ）我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解すること。

指導内容	内容の取扱い
黒船の来航 ［調べる］ ・ペリーが率いる米国艦隊の来航。 ・当時の欧米諸国はアジア進出を進めたこと。 (例)日米和親条約，日米修好通商条約	・黒船の来航により，開国したことをおさえるが，その際に黒船と和船の比較やあわてふためく当時の人々，幕府の対応などを調べるようにする。 ・当時の世界の動きが大まかに分かる地図などの資料を用いるようにすることが考えられる。

［考える］ ・どのような背景から黒船が来航したか。 ・黒船の来航を当時の人々はどのように受け止めたか。 （例） 幕府や当時の人々へどんな影響をもたらしたか。 →開国，江戸幕府の政権返上，勝海舟と西郷隆盛の話し合いによる江戸城の明け渡しなど。	※日米和親条約や日米修好通商条約の内容を調べ，通称条約による貿易が始まるが，治外法権や関税自主権がないなど不平等な条約であることをおさえる。 ◆幕末にゆかりの神戸にある史跡 海軍操練所，和田岬砲台，旧外国人居留地，三宮神社 ［人物］ ペリー
廃藩置県や四民平等などの改革 ［調べる］ ・廃藩置県や四民平等などの諸改革。 （例） 西郷隆盛，大久保利通，木戸孝允らの働きと諸改革。 明治天皇による五箇条の御誓文。 ［考える］ ・ 新政府をつくるために誰がどのように活躍したか。	・幕末に台頭した地方の下級武士が新時代を開くことになるが，人物のエピソードや資料などをもとに明治政府の諸改革について調べる学習が考えられる。 ※富国強兵をスローガンとした近代化を進めたことをおさえる。 ［人物］ 勝海舟，西郷隆盛，大久保利通，木戸孝允，明治天皇
文明開化 ［調べる］ ・黒船の来航後に近代化が進み欧米の文化が取り入れられたこと。 （例） 福沢諭吉らが欧米から取り入れた新しい文化や考え方。（新聞，雑誌，郵便，電信，電話・電話，鉄道，学校制度他） ［考える］ ・開国によって人々の生活はどのように変わったか。	・黒船来航は幕末の大きな出来事として，文明開化は明治維新による社会の変化の出来事の一つとして扱う。 ◆開港以来，外国人居留地の建設，鉄道開設だけでなく，衣食住（洋服や牛肉などの洋食文化など）の変化を具体的に学ぶ良い機会である。（市立博物館が最適） ・この時代と江戸時代の町の様子を残された錦絵などで比較し，いかに変化したかを考えることもできる。 ・『学問のすすめ』を手掛かりとして福沢諭吉が欧米から新しい文化や考え方を取り入れたことを調べる学習も考えられる。 ［人物］ 福沢諭吉
我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解する。	

（コ）我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解すること。

指導内容	内容の取扱い
大日本帝国憲法の発布 ［調べる］ ・自由民権運動の進展。 (例)国会開設に備え政党をつくった板垣退助や大隈重信 ・大日本帝国憲法の発布や帝国議会の開設。 （例）憲法制定に重要な役割を果たした伊藤博文	・「どのように国力を充実させたか」「どのような人物が活躍したか」という問題意識をもって学習し，厳しい国際環境の中で，我が国が国力の充実と，国際的地位の向上を目指していたことを捉えられるようにする。

［考える］ ・明治政府の意図や世の中の変化。 ・明治政府が発足後20年ほどで憲法を制定し，立憲政治を確立したこと。	・伊藤博文が大日本帝国憲法の起草を進めるに当たってどのような取り組み方をしたのかを調べることが考えられる。 ※５年生で学習した主な外国の位置をおさえ直す。 ［人物］　板垣退助，大熊重信，伊藤博文
日清・日露戦争 ［調べる］ ・日清・日露の戦争の様子と結末。 （例）　日清戦争の講和条約の締結に努力した陸奥宗光。 日露戦争において活躍した東郷平八郎。 講和条約の締結で大きな働きをした小村寿太郎。 ［考える］ ・日清・日露戦争のもたらした影響。 （例）講和条約による国の安全の確保。 ・朝鮮半島や中国の人々への損害。	※これらの戦争では，戦場となった朝鮮半島及び中国において大きな損害を与えたことに触れる。 ・当時の世界の動きが大まかに分かる地図などの資料を用いるようにすることが考えられる。 ・戦争に至ったきっかけ，かかった費用や兵力，主な戦場などを表にまとめ，比較することでそれぞれの戦争のもたらした影響に目を向けることができる。 ・厳しい国際環境の中，これらの戦争で講和条約を締結することにより，国の安全が確保することができたことをおさえる。 ［人物］　陸奥宗光，小村寿太郎，東郷平八郎
条約改正 ［調べる］ ・不平等な条約の改正の経過。 ・外務大臣であった陸奥宗光や小村寿太郎の働き。 ［考える］ ・交渉を重ね，条約改正に成功したこと。	・日清・日露戦争や条約改正にかかわる主な出来事を年表に表し，陸奥宗光や小村寿太郎の努力をとらえる学習が考えられる。
科学の発展 ［調べる］ ・科学の分野で優れた業績を上げた人物。 （例）黄熱病の研究を行った野口英世など。 ［考える］ ・科学の面でも我が国の国際的地位が向上し，世界的に優れた学者が活躍したこと。	・当時は，野口英世以外にも取り上げられる人物が多数いる。 （例）北里柴三郎，津田梅子，志賀潔　など ［人物］　野口英世
我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解する。	※この時代は，歴史的事象や人物が複雑に絡み合っていることから，児童が興味・関心を失いやすい。そこで，資料吟味（内容や形態など）や，時間数の軽重など，取扱い方を工夫したい。

（サ）　戦後我が国は民主的な国家として出発し，国民生活が向上し，国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること。

指導内容	内容の取扱い
日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦 ［調べる］ ・日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦の広がり。 （例）我が国と中国との戦いが全面化したこと。 ・戦争の長期化や戦線の拡大に伴う国民生活への影響。 （例）我が国が戦時体制に移行したこと。 ・各地への空襲，沖縄戦，広島・長崎への原子爆弾の投下などにより国民が受けた大きな被害など。 （例）　我が国がアジア･太平洋地域において連合国と戦って敗れたこと。 ［考える］ ・中国との戦いが与えた影響。 （例）　我が国が戦時体制に移行したこと。 ・戦争が国民生活に与えた影響。 （例）　国民が大きな被害を受けたこと。	※我が国が,アジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたことに触れる。 ★総合的な学習や国語の戦争に関する教材との関連を意識して計画する。 ・単なる「事実の羅列」ではなく，一つ一つの出来事に「生身の人間」がそこに生きていたことを想像することを大切にする。 ・戦争に関する視聴覚教材を活用する場合は，十分に児童の発達段階を考慮する。また，加害と被害の内容が交錯しているのでバランスを考えて計画する。 ◆当時の国民生活の様子を知る人への聞き取り調査。 身近な地域に残る戦跡調べなど。
日本国憲法の制定 ［調べる］ ・日本国憲法の制定。 （例）　戦後，民主的で平和主義的な憲法が制定されたこと。 ［考える］ ・戦後，我が国が目指した国家の姿。 （例）　我が国が民主的な国家として出発したこと。	・敗戦直後の日本は，深刻な食料不足などで混乱していたが，連合国軍総司令部が民主化を進める指令を次々と出し，日本政府が改革を進めたことをおさえる。 ・日本国憲法が 1946(昭和 21)年 11 月３日公布，1947(昭和 22)年５月３日施行であることから後に文化の日，憲法記念の日となったことに触れる。 ・日本国憲法制定の意義について理解を深めるよう指導するようにする。 ※日本国憲法の詳細は，政治単元において指導する。
オリンピック・パラリンピックの開催 ［調べる］ ・オリンピック・パラリンピックの開催など。 (例)　オリンピック東京大会（1964） ［考える］ ・戦後の国民生活や我が国の国際社会における役割。 (例)我が国の国際社会への復帰。 ・工業の発展と電化製品の普及による国民生活の向上。 ・スポーツの祭典としてアジアで初めて開催された東京オリンピック大会。 ・その後，我が国で開催されたオリンピック・パラリンピックの大会。 戦後我が国は民主的な国家として出発し，国民生活が向上し，国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解する。	・占領政策からの独立として，サンフランシスコ講和会議と日米安全保障条約を取り上げ，背景として米ソの冷戦や朝鮮戦争にも触れる。その後の経済発展により高速道路や新幹線の建設，テレビ放送や家電製品，自動車の普及とつながったことも取り上げる。 ・東京オリンピックだけでなく，冬季五輪札幌大会や(1972)，冬季五輪長野大会（1998)，日韓ワールドカップ　(2002)などに触れることもできる。 ・オリンピック以外に，万国博覧会，公害問題，沖縄復帰，日中国交回復，北方領土の問題などを取り上げることができる。近現代の社会問題は，政治単元への関心付けにすることもできる。 ※日本人拉致問題，領土問題など，国内外に残されている課題にも触れ，これからの国際社会における我が国のあり方について目を向けるようにする。

(1)　我が国の政治の働きについて，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）日本国憲法は国家の理想，天皇の地位，国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや，現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに，立法，行政，司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解すること。

（イ）国や地方公共団体の政治は，国民主権の考え方の下，国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること。

（ウ）見学・調査したり各種の資料で調べたりして，まとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）日本国憲法の基本的な考え方に着目して，我が国の民主政治を捉え，日本国憲法が国民生活に果たす役割や，国会，内閣，裁判所と国民との関わりを考え，表現すること。

（イ）政策の内容や計画から実施までの過程，法令や予算との関わりなどに着目して，国や地方公共団体の政治の取組を捉え，国民生活における政治の働きを考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
日本国憲法や政治の仕組み　アの(ア)及び(ウ)とイの(ア)を関連付けて指導	
日本国憲法の基本的な考え方 ［調べる］ ・日本国憲法に定められた基本的人権の尊重，国民主権，平和主義の原則，天皇の地位，国民の権利と義務などの基本的な考え方。 ［考える］ ・日本国憲法の基本的な考え方はどのようなものか。 →日本国憲法と国民生活を関連付けて，日本国憲法の特色や役割を考える。 ［調べる］ ・我が国の政治には国会に立法，内閣に行政，裁判所に司法という三権があること。 ［考える］ ・国会・内閣・裁判所はそれぞれどのような役割を果たしているか。 ・日本国憲法は国家の理想，天皇の地位，国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることを理解する。 ・現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解する。 ・立法，行政，司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解する。	・日本国憲法の三原則「国民の基本的人権は侵すことのできない永久の権利として保障されていること」「主権は国民にあること」「平和を希求しそしてその実現や維持のために尽くすことが国民の義務であることや我が国が国際紛争を解決する手段としての戦争を永久に放棄すること」をおさえる。 ※平和主義については，自衛隊が我が国の平和と安全を守っていることに触れるようにする。 ・天皇が日本国や日本国民統合の象徴であることを理解し，天皇についての理解と敬愛の念を深めるようにする。 ・「国民としての権利及び義務」については，参政権，納税の義務などを取り上げる。 ・権利の行使については，公共の福祉のために諸権利を行使する責任を伴うこと，他の人々の権利の行使に十分留意する必要があることについても理解できるようにする。 ※国民の権利は侵すことのできない永久の権利として国民に保障されたものであり，それを保持するためには国民の不断の努力を必要とするものであること ・国民の祝日を扱い，その意義を考える。 ・国会の内閣と裁判所のそれぞれの役割と関係について学習することで，国民主権の政治について考える。 ・選挙によって国民の代表者を選ぶことから，選挙や議会政治が国民主権の根幹をなすこともおさえる。 ・細かな用語や仕組み，数字などを覚えさせることを優先する学習に陥らないよう留意する。

国や地方公共団体の政治の取組　アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)を関連付けて指導	
政策の内容や計画から実施までの過程 ［調べる］ ・国民の願い。 ・国や地方公共団体の政策の内容。 ・その計画から実施までの期間や過程。 ［考える］ ・どのような内容の政策か。 ・どのような過程を経て実施されたか。	［選択］ 社会保障，自然災害からの復旧や復興，地域の開発や活性化などの取組　から選択して取り上げる。 福祉（社会保障の場合） ・市役所，県庁が地域の実態や住民の意見を取り入れながら政策を決定し，国と協力して計画的に実行していることなど。 ◆(例)介護(在宅，通所)，青少年育成事業，母親相談　など 防災（自然災害からの復旧や復興の場合） ・市役所，県庁が自衛隊の派遣を要請するなど国と協力しながら救援活動を行ったり，災害復旧のために物流拠点を配置したり，さらに長期的な視野に立って地域の再興に向けて様々な施策を実行したりしていることなど。 ◆(例)阪神・淡路大震災の救援活動や災害復旧の事例 神戸港や高速道路，鉄道の復旧工事，避難所の支援など
法令や予算との関わり ［調べる］ ・国や地方公共団体の政治の取組を実施するための基になる法令や予算。 ［考える］ ・どのような法令に基づいているか。 ・予算はどのように決められているか。	環境（地域開発や活性化の取組の場合） ・地域経済の活性化や地域における雇用機会の創出を，市役所，県庁が主体的に進めていることや，国はそのような地域の自立的な取組を制度や財政などの面から方支援していることなど。 ◆(例)ニュータウンの開発，神戸市市営地下鉄，都賀川など ◆その他の事例　地域福祉センターや,こべっこランドの建設
国や地方公共団体の政治の取組を捉える。	・政治は，自分にあまり関係がないと考える児童が多いと思われるので,身近な具体的事例を取り上げることが大切である。 ・住民の願いをおさえ，それが行政の働きによって実現していく様子を学習していく。

(3)　グローバル化する世界と日本の役割について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)　我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は，多様であることを理解するとともに，スポーツや文化などを通して他国と交流し，異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解すること。

(イ)　我が国は，平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり，諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解すること。

（ウ） 地図帳や地球儀，各種の資料で調べ，まとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア） 外国の人々の生活の様子などに着目して，日本の文化や習慣との違いを捉え，国際交流の果たす役割を考え，表現すること。

（イ） 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して，国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え，国際社会において我が国が果たしている役割を考え，表現すること。

指導内容	内容の取扱い
我が国とつながりが深い国の人々の生活　アの(ア)及び(ウ)とイの(ア)を関連付けて指導	
外国の人々の生活の様子 ［調べる］ ・貿易や経済協力などの面，歴史や文化，スポーツの交流などの面で我が国とつながりが深い国の人々の生活の様子（衣食住，国民的な行事，学校生活や子供たちの遊び，挨拶の仕方やマナー等の習慣，気候や地形の特色に合わせたくらしの様子）。	〔選択〕 ・我が国とつながりが深い国から数か国を取り上げる。 ※教師が三か国程度取り上げた中から，児童が一か国を選択して調べる。特定の地域に偏らないこと。
［考える］ ・その国の人々の生活や文化にはどのような特色があるか。 ・その国の人々の生活にはどのような習慣が見られるか。 （例） 外国の文化や習慣を背景とした人々の生活の様子には違いがある。 （例） その違いがその国の文化や習慣を特徴付けている。	・学校図書館の利用や留学生などを招いて話を聞くなど様々な外国の文化を具体的に理解し，互いにその国の文化や伝統を尊重しようとする態度を養う。 ★総合的な学習や外国語科との関連を図ることも可能。 ・異なる文化や習慣について関心を深め，外国の人々の物事の捉え方や考え方の理解，尊重につなげていくことが外国の人々と共に生きる上で大切であることに気付くことができるようにする。
・国際交流はどのような役割を果たしているか。 （例） オリンピック・パラリンピックをはじめとした国際的なスポーツ交流，様々な文化を通した国際交流が行われている。 （例） 異なる文化を相互に理解する。	・レポートなどにまとめたり，根拠や理由を明確にして議論したりすることが考えられる。 ・国旗と国歌の意義を理解できるようにし，尊重する態度を育てる。 ★音楽科や入学式や卒業式などにおける国旗や国歌の指導との関連付け。
我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は多様であることを理解する。 スポーツや文化などを通して他国と交流し，異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解する。	

国際連合の働きや我が国の国際協力　　アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)を関連付けて指導

地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力

［調べる］

・紛争，環境破壊，飢餓，貧困，自然災害，人権など国境を越えた課題，その解決のための国際連合の働きや我が国の国際協力の様子。

［考える］

・世界ではどのような課題が発生しているか。
・国際連合や我が国は課題を解決するためにどのような連携や協力を行っているか。
・我が国が果たしている役割。

我が国は，平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり，諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解する。

・国際紛争を避ける努力や国と国との安全保障の大切さにも触れる。
・国際協力の例
青年海外協力隊，国際緊急援助隊，ＡＭＤＡ（アジア医師連絡協議会），緑の地球ネットワーク　など

◆ＪＩＣＡ兵庫，ＷＨＯ神戸センター

・網羅的，抽象的な扱いとならないよう，ユニセフやユネスコの身近な活動を具体的に調べる。

(例)ユニセフ親善大使の話を聞く，ユニセフ募金のポスターなどを活用して，募金の使われ方を調べるなど。

キャリア

・地域の留学生や外国で生まれ育った人，青年海外協力隊の元隊員などからの聞き取りすることもできる。

観点別の内容の配列表

	防災・安全	環境・健康	労働・産業	人権・福祉
第3学年	安心で安全な暮らし 学校や家の消防用設備 消防署の仕事 警察署の仕事 １１９番のしくみ １１０番のしくみ 関係諸機関の連携 ・地域の人々の協力 神戸市のうつりかわり 湊川の付けかえ 戦争のころのくらしと町 阪神・淡路大震災	身近な地域と神戸市 神戸市の様子 地域で働く人々 安心な野菜作り ・こうべ旬菜	地域で働く人々 生産や販売の多様な仕事 スーパーの人気の秘密 くらしを支えるお店 神戸の工場 かまぼこ工場 野菜作り 安心で安全な暮らし 消防士の１日，警察官の努力 神戸市のうつりかわり 荷役の仕事	身近な地域と神戸市 市民が利用する公共施設 地域で働く人々 お店の工夫 ・高齢者などへの配慮 神戸市のうつりかわり 未来の神戸市
第4学年	健康で豊かな暮らし 大切な水の確保 ・いつでもじゃぐち 自然災害 阪神・淡路大震災 阪神大水害 生かそう震災体験 ・防災福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ	健康で豊かな暮らし 毎日出るごみ ごみの行方（資源ごみ含む） ごみ処理の移り変わり 資源化の取組（３Ｒなど） 水の使われ方 送られてくる水 安心して飲める水 自分にもできること わたしたちの兵庫県 コウノトリも住める町豊岡	健康で豊かな暮らし 水道局　環境局 わたしたちの兵庫県 淡路島牛丼への挑戦	健康でゆたかな暮らし 水道の歴史 布引貯水池 兵庫県の伝統文化と先人 賀川豊彦の働き
第5学年	情報化社会 情報ネットワーク （防災） 国土と環境 自然災害の多い日本 災害防止の対策や事業	食料生産 環境にやさしい米作り 工業生産 環境に配慮した工業生産 国土と環境 公害が及ぼす影響 公害防止への努力 森林資源のはたらき 森林資源の育成・保護	国土の自然などの様子 特色ある地域の人々の暮らし 食料生産 従事する人々の工夫や努力 工業生産 工業製品と私たちの暮らし 従事する人々の工夫や努力 運輸の働き 情報化社会 マスメディアの働き 国土と環境 森林で働く人々の仕事	工業生産 働く人を守るきまり 情報化社会 情報ネットワーク（教育，医療，福祉など） 国土と環境 人々の暮らしと公害
第6学年	政治の働き 災害復旧 ・阪神・淡路大震災 ・ボランティア ・海外支援	新しい日本へのあゆみ 経済の発展と公害 公害反対運動 世界の中の日本 地球環境問題への取り組み ・国連環境計画 ・地球温暖化防止会議 ・日本の役割	狩猟・採集の生活と稲作伝来 狩猟・採集（貝塚，土器など） 稲作の伝来（水田跡や農具） 鎌倉・室町時代 収穫を増やす工夫 江戸幕府の政治 農民や商人の工夫や努力 明治維新と新政府の政治 産業の発達（富国強兵） 新しい日本へのあゆみ 高度経済成長と変わる暮らし	奈良の大仏づくり 農民の協力と願い 鎌倉・室町時代 農民の暮らし 村の人々の団結・自治 ３人の武将と天下統一 検地・刀狩と身分制度 朝鮮出兵 江戸幕府の政治 大名支配と民衆支配 禁教と鎖国 明治維新と新政府の政治 明治・大正の社会運動 朝鮮半島の人々 アジア・太平洋戦争 各地への空襲 沖縄戦　　原爆の投下 政治の働き 社会保障 日本国憲法の権利と義務 国民の司法参加

観点別の内容の配列表

	伝統・文化・歴史	国際・平和	地域・国土	政治･法律･経済（流通）･情報
第3学年及び	身近な地域と神戸市 古くから残る建造物 神戸市のうつりかわり 昔の暮らしの様子 湊川の付け替え 交通網の発展 突堤と防波堤 コンテナと埠頭　など	地域で働く人々 品物はどこから 神戸市のうつりかわり 戦争のころの話 神戸港 ・日本初コンテナ船入港 ・世界一のコンテナ港	身近な地域と神戸市 簡単な絵地図作り 絵地図作りの校区探検 新しい地図作り 川すじからみた神戸市 神戸市の様々な場所 交通から見た神戸市 ・八方位　・等高線 ・縮尺　・地図記号 くらしの移り変わり 地域の昔の様子	地域で働く人々 よく行く店調べ リレーされる野菜 ・野菜はどこへ ・こうべ旬菜 安心で安全な暮らし 安心して暮らせる町 ・登下校や交通に関する 法やきまり　など
第4学年	兵庫県の伝統文化と先人 受け継いできたもの ・文化財・年中行事 神戸のゆかりの人物 兵庫県の先人 わたしたちの兵庫県 焼き物作りの篠山市	わたしたちの兵庫県 国際交流の盛んな町	わたしたちの兵庫県 県の地理的位置 ４７都道府県の名称と位置 県の土地の様子と使われ方 交通の様子と都市の位置	健康で豊かな暮らし ごみ出しのルール ・分別収集 ・指定袋 ・大型ごみの申し込み制
第5学年	国土の自然などの様子 伝統的な家屋 ・(例)沖縄の伝統的な家 伝統的な産業	国土の自然などの様子 世界の主な大陸と海洋 世界の主な国々 ・名称・位置・国旗 領土についての課題 ・北方領土など 食料生産 輸入される食料（自給率） 食料の輸入問題 工業生産 原材料の輸入と製品の輸出	国土の自然などの様子 主な国々と日本の位置関係 我が国の位置と領土 国土の地形や気候 食料生産 農産物の生産量や主な産地 土地利用の特色 漁獲量や主な漁港・漁場 工業生産　工業地域の分布 国土と環境 森林の分布と面積	食料生産 出荷と情報　　費用や価格 生産地と消費地を結ぶ交通網 工業生産 情報の働き 生産過程や輸送の費用と価格 輸送経路や輸送手段と交通網 情報化社会 様々な情報手段 暮らしの中の情報活用 情報ネットワーク
第6学年	狩猟･採集の生活と稲作伝来 豊かな自然の中で長い間 営まれてきた生活 国の統一　　仏教の伝来 奈良の大仏作り 鑑真の活躍 大陸文化とのつながり ・正倉院　・シルクロード 貴族の生活 日本風文化 ・寝殿造，かな文字など 室町の文化 金閣と銀閣　　水墨画 その他(能，狂言，生け花， 茶の湯など) 江戸の文化 歌舞伎と浮世絵 国学と蘭学 明治維新と新政府の政治 文明開化 国際社会で活躍した人々 ・(例)野口英世　津田梅子 政治の働き 祝日	国の統一　渡来人の活躍 聖徳太子の政治 遣隋使（遣唐使）の開始 鎌倉・室町時代　　元寇 ３人の武将と天下統一 キリスト教伝来と南蛮貿易 鉄砲伝来　　朝鮮出兵 江戸幕府の政治 出島での交流　朝鮮通信使 琉球　　アイヌ 明治維新と新政府の政治 黒船の来航　不平等条約 条約改正と日清・日露戦争 韓国併合 アジア・太平洋戦争 満州事変と日中戦争 アジア・太平洋に広がる戦場 新しい日本へのあゆみ 日本の独立（講和会議） オリンピック 世界の中の日本 つながりの深い国々 国際連合の働き　日本の役割 国際交流(文化，スポーツなど) 国際協力(教育，医学，農業など)	源平の戦い 日本各地で行われた戦い （一の谷の戦いなど） 江戸の文化 伊能忠敬の日本地図 明治維新と新政府の政治 アジア・太平洋戦争 戦争と領土の拡大 新しい日本へのあゆみ 沖縄返還 政治の働き 地域の開発	国の統一 王や豪族の登場と古墳 大和朝廷 天皇中心の国づくり 聖徳太子の政治 大化の改新 源平の戦い　武士の争い 鎌倉・室町時代 鎌倉幕府　　ご恩と奉公 江戸幕府の政治 大名支配と民衆支配 禁教と鎖国 明治維新と新政府の政治 幕府を倒す運動 廃藩置県・四民平等など 富国強兵政策 憲法制定と国会開設 日清・日露戦争と韓国併合 アジア・太平洋戦争 戦時体制への移行 新しい日本へのあゆみ 民主化と日本国憲法の制定 政治の働き 租税の役割　選挙と政治 三権相互の関連　日本国憲法

第３　指導計画の作成と内容の取扱い

１ 指導計画作成上の配慮事項

(1) 児童の主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を進めること

授業改善の視点

・単元など内容や時間のまとまりの中で，《主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てる》《学習したことを振り返る》《対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする》場面をどこに設定するか，《児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか》，といった視点で授業改善を進めることが求められる。

・児童や学校の実態に応じ，多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくことが重要

→単元のまとまりを見通した学習を行うに当たり基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には，それを身に付けるために，児童の主体性を引き出すなどの工夫を重ね，確実な習得を図ることが必要である。

・「深い学び」の視点に関して，各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。

→「見方・考え方」を，習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせ，より質の高い深い学びにつなげる。

「主体的な学びの実現」　以下の点に留意する。

①学習対象に対する関心を高め問題意識をもつようにする。

②予想したり学習計画を立てたりして，追究・解決方法を検討する。

③学習したことを振り返り，学習成果を吟味したり新たな問いを見いだしたりする。

④学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりする。

「対話的な学びの実現」　学習過程を通じた様々な場面で以下のような学習活動が求められる。

①児童相互の話合いや討論などの活動の一層の充実。

②実社会で働く人々から話を聞いたりする活動についての一層の充実。

③対話的な学びを実現することにより，個々の児童が多様な視点を身に付け，社会的事象の特色や意味などを多角的に考えることができるようにする。

「主体的・対話的な学びを深い学びにつなげるよう指導計画を工夫，改善する」

具体的な事実に関する知識を習得することにとどまらず，社会的事象の特色や意味など社会の中で使うことのできる応用性や汎用性のある概念などに関する知識を獲得するよう，**問題解決的な学習**を展開することが大切である。

①児童の実態や教材の特性を考慮した学習過程の工夫。

②社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断することなどの活動を重視。

「社会的事象の見方・考え方」

小学校社会科では，総合性を重視する観点から，以下の点に留意する。

①歴史に関わる事象であっても，時間的な経緯のほか，空間的な広がりに着目する。

②地理的環境に関わる事象であっても，時間の経過に着目する。

③現代社会の仕組みに関わる事象であっても地理的位置や始まった時期や変化などに着目する。

※　教師の教材研究に基づく学習問題の設定や発問の構成，地図や年表，統計など各種の資料の選定や効果的な活用，学んだ事象相互の関係を整理する活動などを工夫することが大切である。

(2) 指導計画の作成に当たり，授業時数の適切な配分により効果的な年間指導計画を作成するよう配慮すること

「地域の実態を生かし，各学校が４年間の社会科の学びを見通した特色ある『自校プラン』を作成すること」

①教師自身が地域理解を深める。

・歴史的・文化的な特色，地形的・産業的な特色，施設や地域諸団体の活動等の現状について，校内の地域理解研修や市役所や区役所などの資料収集と整理，地域住民との交流等によって理解を深める。

②地域からの協力の可能性を把握する。

・様々な地域素材を教材化できるかどうかを検討する前段階として，児童の発達段階や学習指導要領の目標及び内容を踏まえた位置付けを考え，可能性がある場合には教材化に向けてさらに詳細な研究ができるかどうか，実際に教材化されたときにどの程度地域からどのような協力が得られるのかを明確にする。

③地域素材を教材化する。

・学習指導要領の内容を踏まえ，単元を構想し，諸条件を加味して具体的な単元計画を練る。
そして，地域の施設や人材を積極的に活用した学習活動をどの場面で取り入れるかを検討し，工夫する。

※５年と６年は，我が国全体の学習なので，地域教材を取り上げて単なる地域学習にとどまることがないようにする。

「効果的な事例の選択，体験的な学習の効果的な配置と他教科等との関連を強めて単元配列を学校として考えること」

①第３学年から第６学年の内容に関わって取り上げる事例の配列について留意する。

・取り上げる事例に重複や偏りが生じないよう配慮すること。

・内容に軽重を付けることにより，効果的な指導計画を作成すること。

②作業的，体験的な学習，表現活動の位置付けを検討する。

・他の単元とのバランスを考えるとともに，多様な学習体験を積んでいけるように配慮する。

③他教科等との関連を工夫する。

・児童の興味・関心を高め，学習内容の理解が一層深まるように他教科や総合的な学習の時間，道徳，学校行事を含めた特別活動などとの関連付けを考える

※神戸の特色ある防災教育や環境教育，キャリア教育との関連にも配慮する。

※神戸市が開発した独自教材の「ことばひろがる　よみときブック」や「しあわせはこぼう（防災教育副読本），「あゆみ」などの内容を吟味し，適切な時期に関連した内容を効果的に活用する。

(3) 地図や地球儀，統計などの各種の資料を適切に活用し，我が国の都道府県の名称と位置，世界の主な大陸と海洋の名称と位置を身に付けることができるように工夫して指導すること。

「我が国の47 都道府県の名称と位置」

①第４学年の内容の(1) のイ(ア)において，我が国が47 の都道府県によって構成されていることが分かり，都道府県の名称と位置を地図帳で確かめ，日本地図（白地図）上で指摘できるようにする。

②各学年で，繰り返し学習する。

・第３学年…地域の人々の生産や販売についての学習

・第４学年…自分たちの県の様子，飲料水，電気，ガスの供給や廃棄物の処理についての学習

・第５学年…我が国の位置と領土の範囲，地形や気候の概要，農業や水産業，工業の盛んな地域，貿易や運輸，などについての学習

・第６学年…歴史学習での，様々な都道府県の名称，世界の国の名称

「世界の大陸と主な海洋の名称と位置」

①第５学年の内容の(1) のイのアにおいて，世界の大陸や主な海洋の位置や広がり，それらと我が国の国土との位置関係などを理解できるようにする。

②各学年で，繰り返し学習する。

・第５学年…農業や水産業，工業の盛んな地域，貿易や運輸，我が国の位置と領土の範囲，地形や気候の概要などについての学習

・第６学年…歴史学習での，世界の大陸や海洋の名称と位置

※　その都度，都道府県や世界の国の位置，大陸や主な海洋との関係を地図帳や地球儀で確認したり，学習した事柄を日本地図（白地図）や世界地図（白地図）に整理したりする。

※　都道府県を表す地図を常掲したり，地球儀を常備したりして，活用を促すなど，教室環境を工夫する。

※　小学校卒業までに，我が国の 47 都道府県や世界の主な大陸と海洋の名称と位置を確実に身に付け，活用

できるようにする。

(4) 通常の学級，通級による指導，特別支援学級，特別支援学校において，児童の十分な学びを確保し，一人一人の児童の障害の状態や発達の段階に応じた指導や支援を一層充実させていく

「学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意する」

・見えにくさ，聞こえにくさ，道具の操作の困難さ，移動上の制約，健康面や安全面での制約，発音のしにくさ，心理的な不安定，人間関係形成の困難さ，読み書きや計算等の困難さ，注意の集中を持続することが苦手であることなど，個々の児童の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫する。

「社会科の目標などを踏まえ，学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないよう留意する」

・例えば，社会科における配慮として，次のようなものが考えられる。

→地図等の資料から必要な情報を見付け出したり，読み取ったりすることが困難な場合には，読み取りやすくするために，地図等の情報を拡大したり，見る範囲を限定したりして，掲載されている情報を精選し，視点を明確にするなどの配慮をする。

→社会的事象に興味・関心がもてない場合には，その社会的事象の意味を理解しやすくするため，社会の営みと身近な生活がつながっていることを実感できるよう，特別活動などとの関連付けなどを通して，具体的な体験や作業などを取り入れ，学習の順序を分かりやすく説明し，安心して学習できるよう配慮する。

→学習問題に気付くことが難しい場合には，社会的事象を読み取りやすくするために，写真などの資料や発問を工夫する。

→予想を立てることが困難な場合には，見通しがもてるようヒントになる事実をカード等に整理して示し，学習順序を考えられるようにする。

→情報収集や考察，まとめの場面において，考える際の視点が定まらない場合には，見本を示したワークシートを作成する。

・こうした点を踏まえ，個別の指導計画を作成し，必要な配慮を記載し，翌年度の担任等に引き継いだりすることが必要である。

(5)道徳教育の目標に基づき，道徳科などとの関連を考慮し，社会科の特質に応じて適切な指導をすること

国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎の育成

①地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解する。

②多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，我が国の国土と歴史に対する愛情を涵養する。

・伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛することなどにつながるものである。

・国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者としての自覚をもち，自他の人格を尊重し，社会的義務や責任を重んじ，公正に判断しようとする態度や能力などの公民としての資質・能力の基礎を養うことは，主として集団や社会との関わりに関する内容などと密接に関係するものである。

道徳教育の要としての特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）の指導との関連を考慮する

①社会科で扱った内容や教材の中で適切なものを，道徳科に活用することが効果的な場合もある。

②道徳科で取り上げたことに関係のある内容や教材を社会科で扱う場合には，道徳科における指導の成果を生かすように工夫する。

・そのためにも，社会科の年間指導計画の作成などに際して，道徳教育の全体計画との関連，指導の内容及び時期等に配慮し，両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切である。

2 各学年にわたる内容の取扱いと指導上の配慮事項

(1) 地域の実態を生かし，児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにすること

・地域にある素材を教材化すること，地域に学習活動の場を設けること，地域の人材を積極的に活用することな

どに配慮した指導計画を作成し，児童が興味・関心をもって楽しく学習に取り組めるようにすることである。

・第３学年及び第４学年については，各学校が創意工夫を生かし，地域に密着した特色ある指導計画を作成し，児童が地域社会への理解を一層深め，地域社会に対する誇りと愛情を育てるように配慮する。

・第５学年及び第６学年においては，我が国の国土や産業，政治，歴史などについての理解を深めることが目標であり，地域教材を取り上げた学習にとどまることのないよう指導計画を工夫する必要がある。

観察や見学，聞き取りなどの調査活動を含む具体的な体験を伴う学習やそれに基づく表現活動の一層の充実

・観察や見学，聞き取りなどの調査活動を含む具体的な体験を伴う学習やそれに基づく表現活動を指導計画に適切に位置付けて効果的に指導する。

・社会科としてのねらいを明確にした上で事前・事後や現地における指導の充実を図り，児童が実物や本物を直接見たり触れたりすることを通して社会的事象を適切に把握し，具体的，実感的に捉えることができるようにする。

・観察や見学，聞き取りなどによって分かったことや考えたことなどを適切に表現する活動を指導計画に効果的に位置付け，調べたことを基にして思考・判断したことを表現する力を育てるようにする。

社会的事象の特色や意味，社会に見られる課題などについて，多角的に考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり，立場や根拠を明確にして議論したりするなど言語活動に関わる学習を一層重視

・考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりするなど言語活動を一層重視する。

・学年の段階に応じ，生産者と消費者，情報の送り手と受け手など複数の立場から多角的に考えるようにする。

・主権者として求められる資質・能力を育成する観点から，社会に見られる課題を把握し，その解決に向けて，自分たちの行動や生活の仕方や，これからの社会の発展などよりよい社会の在り方などについて考える。

・その際，考えたり選択・判断したりしたことを根拠や理由を明確にして論理的に説明したり，他者の主張を踏まえて議論したりするなど，言語活動の一層の充実を図るようにする。

(2) 学校図書館や公立図書館，コンピュータ，地図帳，地球儀などの学習環境や教材・教具を活用するように配慮する。

① 学校図書館などの施設やコンピュータなどの整備を進めていく。

・特に学校図書館がもつ読書センターとしての機能に加え，児童の学習活動を支援する学習・情報センターとしての機能をもつようにしていく。

② 児童が情報通信機器を使える環境を整備していく。

・児童一人一人が図書館やコンピュータなどを利用する必要性を感じることができるような教材や学習過程を工夫・改善する。

・児童一人一人が図書館やコンピュータなどを活用し，学習問題などについて調べて考え，表現し発信できるようにするため，いつどこの場面で，どのように図書館やコンピュータなどを活用するのか，児童の活動場面を想定しておく。

③ 第３学年から給与される地図帳の効果的に活用

・日常の指導の中で，折に触れて，地図の見方や地図帳の索引の引き方，統計資料の活用の仕方などを指導し，地図帳を自由自在に活用できる知識や技能を身に付けるようにする。

・地図帳を日常的に活用し，地図帳への親しみをもち，問題解決のための教材として効果的に活用する技能や意欲を育てる。

・社会科の学習だけでなく，他の教科等の学習や家庭などにおいても活用することが大切であることを指導するようにする。

※地図帳は，第３学年から第６学年までの各学年で使用されるものであるが，特に第３学年の使い始めにおいては，地図帳の内容構成を理解できるようにする。

(3) 地域にある教育的な施設の活用を図るとともに，身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査などの活動を取り入れる。

① 地域にあるこれらの施設を積極的に活用する。

・児童の知的好奇心を高め，学習への動機付けや学習の深化を図ることができる。

・諸感覚を通して実物や本物に触れる感動を味わうことができる。

・学校での積極的な活用を通して，これらの施設を自ら進んで利用できるようになる。(生涯に渡って活用する態度や能力の基礎となる)

② 学習のねらいを考慮して，指導計画に位置付ける。

・歴史に関する学習で様々な遺跡や文化財，歴史博物館などを直接訪ねて観察・見学したり調査したりする活動を組み入れることにより，一層具体的に学習できるようになり，学習のねらいを効果的に実現するとともに，歴史に対する興味・関心を高めることができる。

③ 事前に施設，遺跡や文化財などの実情を把握するとともに，関係の機関や施設などとの連携を綿密にとる

・施設の学芸員や指導員などから話を聞いたり協力して教材研究を行ったりして，指導計画を作成する手掛かりを得ることも一つの工夫である。

・特別活動の遠足・集団宿泊的行事や総合的な学習の時間における伝統や文化に関する学習活動などとの関連を指導計画に示すことも考えられる。

・地域の専門家や関係者，関係諸機関等と円滑な連携・協働を図る。

※博物館や資料館，地域や国土に残されている遺跡や文化財などの役割や活用の仕方について正しく理解させ，それらに関わっている人々の働きやそれらが大切に保存，管理されていることの意味についても気付くようにすることが大切である。

(4) 各学年の指導において，社会的事象について多面的に考えたり，事実を客観的に捉え，公正に判断したりすることのできる児童の育成を目指す。

① 「多様な見解のある事柄，未確定な事柄」については，取り上げる教材が一方的であったり一面的であったりすることのないよう留意して指導する。

② 「有益適切な教材」である資料などに基づいて多角的に考えることを重視して，そのよりどころとなる資料に関しては，その資料の出典や用途，作成の経緯等を含め，十分に吟味した上で使用する。

・教育基本法，学校教育法，学習指導要領等の趣旨に従っていること

・その使用される学年の児童生徒の心身の発達の段階に即していること

・多様な見方や考え方のできる事柄，未確定な事柄を取り上げる場合には，特定の事柄を強調し過ぎたり，一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど，特定の見方や考え方に偏った取扱いとならないこと

※社会的事象を公正に判断するとは，決して独りよがりの判断ではなく，社会的事象の意味について，複数の立場や意見を踏まえて多角的に考え，総合的に理解した上で判断することである。

※これらのことに配慮して，「よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚，我が国の国土や歴史に対する愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う」ことをねらう小学校社会科の目標が実現できるようにすることが大切である。

第3節　算　　数

第1　目　　標

（小学校）

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

⑴ 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに，日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。

⑵ 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力，基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。

⑶ 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き，学習を振り返ってよりよく　問題解決しようとする態度，算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

※「数学的な見方・考え方」とは，事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，根拠を基に筋道を立てて考え，統合的・発展的に考えること。

（中学校）

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

⑴ 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

⑵ 数学を活用して事象を論理的に考察する力，数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

⑶ 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

標準授業時数	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
	136	175	175	175	175	175	140	105	140

第2　各領域の目標及び内容

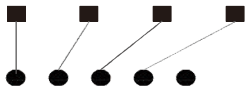
▲：他校種とのつながり，◎：他学年とのつながり，★：他教科とのつながり
※：特に配慮を要する事項，◆：参考事項（神戸の特色等）

【A　数と計算】

第1学年

【目標】

・数の概念及び計算の意味を理解し，加法及び減法の計算の技能を身に付けるようにする。
・ものの数に着目し，数の数え方や計算の仕方を考える力を養う。
・数量に親しみ，算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

指導内容	内容の取扱い
⑴　数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）ものとものとを対応させることによって，ものの個数を比べること （イ）個数や順番を正しく数えたり表したりすること 	・1対1の対応をさせ，個数の大小や相等を判断できるようにする。 ・数えるものに，数を順に対応させていき，順番を知る。最後の順番を表す数は，個数を表す数と一致する。

	(ウ) 数の大小や順序を考えることによって，数の系列を作ったり，数直線の上に表したりすること	・数直線を用いて数の大小や順序，系列などを表現する。 ◎目盛りの単位が５や 10 などで示された数直線や，途中から目盛りが始まる数直線も，次第に理解できるようにする。
	(エ) 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど，ほかの数と関係付けてみること	・一つの数を合成や分解により構成的にみるようにする。 ・10 のまとまりの個数と端数という数え方を基にする。
	(オ) ２位数の表し方について理解すること	・「一の位」，「十の位」の意味と用語を指導する。
	(カ) 簡単な場合について，３位数の表し方を知ること	・120 程度までの，３位数の表し方を指導する。
	(キ) 数を，十を単位としてみること	※具体物で 100 のまとまり，10 のまとまり，端数を表す。
	(ク) 具体物をまとめて数えたり等分したりして整理し，表すこと	・幾つかにまとめて数えよさに気付かせる。 ○○　○○　○○　○○　　○○○○　○○○○ ２＋２＋２＋２　　４＋４
	イ　思考力，判断力，表現力等	
	(ア) 数のまとまりに着目し，数の大きさの比べ方や数え方を考え，それらを日常生活に生かすこと	・数のまとまりに着目することのよさに気付かせる。 ・どの位の数字に着目すればよいなど，比べ方を考えるようにする。
	⑵ 加法及び減法に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
第	ア　知識及び技能	
	(ア) 加法及び減法の意味について理解し，それらが用いられる場合について知ること	・加法や減法が用いられる場合は，次の通りである。 （え）や（お）は，児童の実態に合わせて適宜取り扱う。 ①加法を用いて求められる場合 (あ) ある数量に追加，増加するときの大きさ（増加） (い) 二つの数量を合わせた大きさ（合併） (う) ある番号や順番の何番か後の番号や順番（順序数） (え) 二つの数量の差と小さい方の数量が分かっているときの大きい方の数量（求大） (お) 異種のものの数量を，同種のものに置き換えたときの二つの数量を合わせた大きさ（異種のものの数量）
1		②減法が用いられる場合 (あ) ある数量から，減少したときの残りの大きさ（求残） (い) 二つの数量の差（求差） (う) 幾つか前の順番，二つの順番の違い（順序数） (え) 二つの数量の差と大きい方の数量が分かっているときの小さい方の数量（求小） (お) 異種のものの数量を，同種のものに置き換えたときの二つの数量の差（異種のものの数量）
学	(イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすること	※具体的な場面を式に表したり，式を読み取って図や具体物を用いて表したりする。
	(ウ) １位数と１位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること	・和が 10 以下の加法及び減法と，和が 10 を超える加法及び減法に分けて考える。
年	(エ) 簡単な場合について，２位数などについても加法	・簡単な場合とは，次のようなものである。

<table>
<tr><td>第
1
学
年</td><td>及び減法ができることを知ること

イ　思考力，判断力，表現力等
（ア）数量の関係に着目し，計算の意味や計算の仕方を考えたり，日常生活に生かしたりすること

〔用語・記号〕
一の位　十の位　＋　－　＝</td><td>①十を単位とした数の加法，減法（20＋30，70－30 など）
②繰り上がりや繰り下がりのない２位数と１位数との加法，減法（15－２，38－８など）

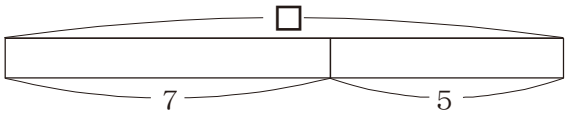
※具体的な場面に基づいて，数量の関係に着目し，計算の意味を考えるようにする。</td></tr>
<tr><td>第
2
学
年</td><td colspan="2">【目標】
・数の概念の理解を深め，計算の意味と性質を理解し，加法，減法及び乗法の計算の技能を身に付けるようにする。
・数や数量の関係に着目し，数の表し方や計算の仕方などを考察する力を養う。
・数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとする態度を養う。</td></tr>
<tr><td></td><td>指　導　内　容</td><td>内　容　の　取　扱　い</td></tr>
<tr><td></td><td>⑴ 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けるよう指導する。
ア　知識及び技能
（ア）同じ大きさの集まりにまとめて数えたり，分類して数えたりすること
（イ）４位数までについて，十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解すること
（ウ）数を十や百を単位としてみるなど，数の相対的な大きさについて理解すること
（エ）一つの数をほかの数の積としてみるなど，ほかの数と関係付けてみること
（オ）簡単な事柄を分類整理し，数を用いて表すこと
（カ）$\frac{1}{2}$，$\frac{1}{4}$ など簡単な分数について知ること

イ　思考力，判断力，表現力等
（ア）数のまとまりに着目し，大きな数の大きさの比べ方や数え方を考え，日常生活に生かすこと。

⑵ 加法及び減法に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　知識及び技能
（ア）２位数の加法及び減法の計算が１位数などの基本的な計算を基にできることを理解し，それらの計算が確実にでき，それらの筆算の仕方を理解すること</td><td>・まとめて数えたり，色，形などで分類して数えたり，10のまとまりをさらに10のまとまりにして数えたりする。
・「＞」，「＜」を用いて簡潔に表現できることを指導する。
・9999の次の数として１万について取り扱う。
◎6000を「10が600個集まった数」とみたり，「100が60個集まった数」とみたり，具体物で理解できるようにする。
※ものの集まりを幾つかずつまとめて数える活動を通して，数の乗法的な構成についての理解を図るようにする。
・電話番号，部屋番号などと関連させ，よさを理解できるようにする。
・折り紙やロープなど具体物で分数をつくらせる。

・手際のよい比べ方や数え方を考えるようにする。
・ひまわりの種など，具体的な場面で使うようにする。

◎第１学年で指導した加法と減法を基に考えるようにする。
２８
＋５７
１５ ・・・ ８ ＋ ７
＋７０ ・・・ 20 ＋ 50
８５ → ２８ ＋５７ ８５</td></tr>
</table>

第2学年	（イ）簡単な場合について，３位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること （ウ）加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ，それを計算の仕方や計算の確かめに生かすこと （エ）加法と減法との相互関係について理解すること  イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）数量の関係に着目し，計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともにその性質を活用して，計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること (3) 乗法の意味について理解し，それを用いることができるようにする。 ア　知識及び技能 （ア）乗法の意味について理解し，それが用いられる場合について知ること （イ）乗法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすること （ウ）乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること （エ）乗法九九について知り，１位数と１位数との乗法の計算が確実にできること （オ）簡単な場合について，２位数と１位数との乗法の計算の仕方を考えること イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）数量の関係に着目し，計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに，その性質を活用して，計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること （イ）数量の関係に着目し，計算を日常生活に生かすこと 〔用語・記号〕 ＞　＜　×	・簡単な場合とは次のようなものである。 ①百を単位とした数の加法と減法（800＋700など） ②３位数と２位数などの加法と減法（628＋７など） ◎加法で成り立つ交換法則や結合法則を指導する。 ・必要な場合には，（ ）や□などを用いることができる。 ・次のような場面を取り上げて指導する。 ①数量の関係表現は減法の形だが，加法を用いる 例）はじめにリンゴが幾つかあって，その中から５個食べたら７個残った。はじめに幾つあったか。 ②数量の関係表現は加法の形だが，減法を用いる 例）はじめにリンゴが幾つかあって，５個もらったら12個になった。はじめに幾つあったか ③減法の未知の減数を求めるのに減法を用いる場合 例）はじめにリンゴが12個あって，幾つか食べたので残りは７個になった。幾つ食べたか。 ・既習の数の見方や計算の仕方を活用することで，未習の計算の仕方を考えることが大切である。 ・計算の確かめは，計算の結果及び手順の両面で行う。 ・計算に関して成り立つ性質は，活用できることを重視する。 ※一つ分の大きさの幾つ分に当たるかを求める場合に用いる。 ◎一つ分の何倍かに当たるかを求めるという意味も指導する。 ・○やテープなどの図を用いた表現，具体物を用いた表現などと関連付けて，式の意味の理解を深める。 ・乗数が１増えれば積が被乗数分だけ増える性質や，乗法の交換法則を児童が自ら調べるように指導する。 ※体験的な活動や身近な生活体験などと結び付けるなどして指導の方法を工夫する。 ・簡単な場合についての２位数と１位数との乗法として，12程度までの２位数と１位数との乗法を指導する。 ・乗法九九を構成したり観察したりさせて，乗法九九のきまりを見付けさせ，児童が発見する楽しさを味わわせる。 ・靴箱の数や，教室の絵画作品の数などを取り上げ，長方形に配列されたものの数は乗法で求められるという，乗法や九九のよさを味わわせる。

第3学年

【目標】

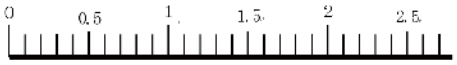
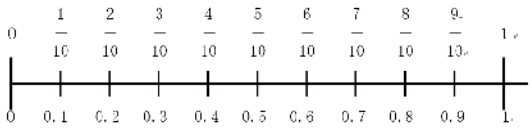
・数の表し方，整数の計算の意味と性質，小数及び分数の意味と表し方を理解し，整数などの計算の技能を身に付けるようにする。

・数とその表現や数量の関係に着目し，数の数え方や計算の仕方などを考察する力を養う。

・数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとする態度を養う。

指導内容	内容の取扱い
⑴ 整数の表し方に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けるよう指導する。	
ア 知識及び技能	
（ア）万の単位について知ること	◎１万を超える数は，十進位取り記数法の原理や万の単位の目盛の付いた数直線を用いて理解を図る。 ・不等号の用語を指導する。 ・第４学年につながるよう，１億についても取り扱う。
（イ）10倍，100倍，1000倍，$\frac{1}{10}$の大きさの数及びそれらの表し方について知ること	◎10 倍，100 倍…にしても数字の並び方は同じで，対応する数字の単位の大きさはそれぞれ10 倍，100 倍…した関係であることに気付かせる。
（ウ）数の相対的な大きさについての理解を深めること	・十，百，千，万を単位として数の相対的な大きさを捉えるようにする。 例）500 や700 は百を単位として５や７とみられる，など
イ 思考力，判断力，表現力等	★社会科の学習における統計資料などで生かしていく。
（ア）数のまとまりに着目し，大きな数の大きさの比べ方や表し方を考え，日常生活に生かすこと	・10000kg（10ｔ）の重さは，1000kgの象が10頭分だ，などとして捉えることも学習を生かすことになる。
⑵ 加法及び減法に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
ア 知識及び技能	
（ア）３位数や４位数の加法及び減法の計算が，２位数などの基本的な計算を基にできることを理解し，また，それらの筆算の仕方について理解すること	・第２学年の２位数及び簡単な３位数の加法及び減法の計算を基にして，考えることを指導する。 ・位を揃えて筆算により計算できるように指導する。
（イ）加法及び減法の計算が確実にでき，それらを適切に用いること	◎暗算で結果の見当を付けたり，児童自ら見積もりができるようにすることが大切である。
イ 思考力，判断力，表現力等	
（ア）数量の関係に着目し，計算の仕方を考え，計算に関して成り立つ性質を見いだすとともに，その性質を活用して，計算の工夫や計算の確かめをすること	・既習の数の見方や計算の仕方を活用することで，未習の計算の仕方を見付け出していくことができる。 ・計算の工夫や計算の確かめに，計算に関して成り立つ性質を活用していくことが大切である。
⑶ 乗法に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
ア 知識及び技能	
（ア）２位数や３位数に１位数や２位数をかける乗法の計算が，乗法九九などの計算を基にできることを理	・数のまとまりに着目して計算するようにする。 例）23×４は，20×４と３×４という計算を基にできる

	解し，その筆算の仕方を理解すること	
	（イ）乗法の計算が確実にでき，それを適切に用いること	・計算の結果の見積りについても触れる。
	（ウ）乗法に関して成り立つ性質を理解すること	・乗数又は被乗数が０の場合の計算も取り扱う。
	イ　思考力，判断力，表現力等	◎乗法の交換法則，結合法則，分配法則を指導する。
	（ア）数量の関係に着目し，計算の仕方を考え，計算に関して成り立つ性質を見いだすとともに，計算の工夫や確かめをすること	・児童が自らその計算の仕方を考えるよう指導する。 例）18×４の計算を考える場合 18＋18＋18＋18＝72，18 を９＋９とみて９×４と９×４を合わせて36＋36＝72と考えることもできる。 18を10＋８とみて，10×４と８×４に分けて，40＋32＝72と考えることもできる。
	⑷ 除法に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	ア　知識及び技能	
	（ア）除法の意味について理解し，それが用いられる場合について知ること。また，余りについて知ること	※包含除と等分除の特徴を踏まえて取り扱う。 12個のあめを１人３個ずつ何人に分けられるか（包含除） 12個のあめを３人に同じ数ずつ分けた一人の個数（等分除） ・割り切れない場合は余りを出すことを指導する。
第	（イ）除法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすること	※言葉や○やテープなどの図，具体物を用いた操作と関連付けて，式の意味の理解を深める。
3	（ウ）除法と乗法や減法との関係について理解すること	・除法は，ある数量から一定の数量を取り去るときの最大の回数（累減）や乗法の逆算とも考えられる。乗法と関連させ，被乗数，　乗数のいずれを求める場合か明確にする。
学	（エ）除数と商が共に１位数である除法の計算が確実にできること	
年	（オ）簡単な場合について，除数が１位数で商が２位数の除法の計算の仕方を知ること	・被除数が何十で被除数の十の位の数が除数で割り切れる計算（80÷４など）や，十の位と一の位がそれぞれ除数で割りきれる除法（69÷３など）を扱う。
	イ　思考力，判断力，表現力等	・具体物や図で考えたり，伝え合ったりする活動を通して，除法は乗法の逆算だと気付かせ，計算を考えるようにする。
	（ア）数量の関係に着目し，計算の意味や計算の仕方を考え，計算に関して成り立つ性質を見いだすとともに，その性質を活用して，計算の工夫や確かめをすること	・除法の計算の確かめは，余りのある除法や小数の除法でも活用されるので，この学習で確かめる態度を育む。
	（イ）数量の関係に着目し，計算を日常生活に生かすこと	※あるものを何人か等分するなど，日常的な場面で除法を活用して問題を能率的に解決できることに気付かせる。
	⑸ 小数とその表し方に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	ア　知識及び技能	
	（ア）端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知り，また，小数の表し方及び $\frac{1}{10}$ の位について知ること	◎小数を数直線の上に表して，整数と同じ数直線の中に位置付けることは，小数の理解を深める上で大切である。

	（イ）$\frac{1}{10}$ の位までの小数の加法及び減法の意味を理解し，それらの計算ができることを知ること  イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）数のまとまりに着目し，小数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに，小数を日常生活に生かすこと	・小数の仕組みの理解の上に立たせ，整数と同じ原理，手順でできることを理解できるようにする。 ①数直線に対応させて考える。 ②相対的な大きさを用い，小数の計算を整数の計算に直す。 ③小数点を揃え，各位の単位を揃えて計算する。 ・「1.5Lのペットボトル」などの小数を見付け，それが１Ｌ５dLを表すことや，　小数を用いるよさを考えるようにする。
	(6) 分数とその表し方に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを分数で表すことを知り，分数の表し方を知ること	・「分母」，「分子」の用語について扱う。 ◎分数の意味は，その観点の置き方で様々な捉え方ができる。$\frac{2}{3}$ を例にすると，次のようである。 ①具体物を３等分したものの二つ分の大きさ ②$\frac{2}{3}$Ｌ，$\frac{2}{3}$ mのように，測定したときの量の大きさ ③１を３等分したもの(単位分数) の二つ分の大きさ ④AはBの $\frac{2}{3}$ のように，Ｂを１としたときのAの大きさ ⑤整数の除法「２÷３」の結果（商)。 ④と⑤は第５学年で取り扱う。
第３学年	 	※小数の0.1と分数の$\frac{1}{10}$ などを数直線で関連付けて取り扱う。
	（イ）分数が単位分数の幾つ分かで表すことができることを知ること	・$\frac{1}{3}$，$\frac{1}{4}$，$\frac{1}{5}$ など，都合のよい大きさを選べるよさがある。
	（ウ）簡単な場合について，分数の加法及び減法の意味を理解し，それらの計算ができることを知ること イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）数のまとまりに着目し，分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかを考えるとともに，分数を日常生活に生かすこと	・真分数どうしの加法及び減法を指導し，和が１までの加法と，その逆の減法を取り扱う。 ・大小比較や計算をする際に図に表すときは，１の大きさを決めることで可能となることに気付かせる。
	(7) 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア　知識及び技能 （ア）数量の関係を表す式を理解するとともに，数量を□などで表し，その関係を式に表したり，□などに数を当てはめて調べたりすること イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）数量の関係に着目し，数量の関係を図や式で簡潔	◎□などの記号は，未知の数量を表す場合と変量を表す場合とに分けられる。第３学年では，未知の数量を表す記号として用いる場合を中心に指導する。 ・図に表された数量の関係を読み取って式に表したり，　式に

第3学年	に表したり，式と図を関連付けて式を読んだりすること ⑻ そろばんを用いた数の表し方と計算に関わる数学的活動により，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 知識及び技能 （ア）そろばんによる数の表し方について知ること （イ）簡単な加法及び減法の計算の仕方を知り，計算すること イ 思考力，判断力，表現力等 （ア）そろばんの仕組みに着目し，大きな数や小数の計算の仕方を考えること 〔用語・記号〕 等号　不等号　数直線　÷　小数点　$\frac{1}{10}$ の位　分母　分子	表された数量の関係を読み取ってそれを図に表したりする数学的活動を通して，式と図を関連付ける。 ・十進位取り記数法により，整数や小数をそろばんで表す。 ・珠の操作による１位数や２位数の加法及び減法の計算の仕方について理解できるようにする。 ・そろばんは，同じ記号で異なる数を表すという位取り記数法に沿った仕組みである。そろばんの仕組みと数の仕組みを対比させながら，計算の仕方を考えるようにする。

【目標】

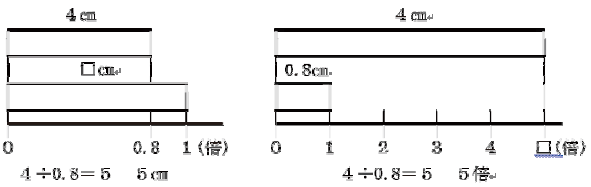
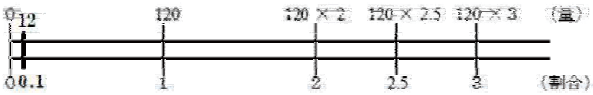
・小数及び分数の意味，四則の関係を理解し，整数，小数及び分数の計算の技能を身に付けるようにする。
・数とその表現や数量の関係に着目し，目的に合った表現方法で計算の仕方などを考察する力を養う。
・よいものを求めて粘り強く考える態度，数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用する態度を養う。

第4学年	指導内容	内容の取扱い
	⑴ 整数の表し方に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 知識及び技能 （ア）億，兆の単位を知り，十進位取り記数法の理解を深めること イ 思考力，判断力，表現力等 （ア）数のまとまりに着目し，大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えるとともに，それらを日常生活に生かすこと ⑵ 概数に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 知識及び技能 （ア）概数が用いられる場合について知ること	◎十進位取り記数法のよさを理解できるようにする。 ①単位の個数が10で新しい単位に置き換える。（十進法） ②単位を位の位置の違いで示す。（位取り） ・３桁ごとに区切って表された数も読めるよう指導する。 ◎一，十，百，千という繰り返しに気付き，さらに大きな数についても同じように考えられるようにする。 ・億や兆になると，数の大きさを捉えにくくなるので，日常生活での具体的な場面を取り上げるよう配慮する。 ・目的を明確にして用い方を理解できるようにする。 ・数直線のような図を用いて，概数にしても，数の大きさが

		大きく変わらないことを実感的に理解できるようにする。
	（イ）四捨五入について知ること	・以上，以下，未満の用語とその意味について指導する。
	（ウ）目的に応じて四則計算の結果の見積りをすること	・和，差，　積，商を概数で見積もることを指導する。 ・和，差，　積，商という用語を使えるようにする。
	イ　思考力，判断力，表現力等	
	（ア）日常の事象における場面に着目し，目的に合った数の処理の仕方を考え，それを日常生活に生かすこと	・目的に応じて「どの位までの概数にするのか。」など，自らが判断し，振り返る場面が大切である。
	⑶ 整数の除法に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	ア　知識及び技能	
	（ア）除数が１位数や２位数で被除数が２位数や３位数の場合の計算が，基本的な計算を基にしてできることを理解し，また，その筆算の仕方について理解すること	・簡単な暗算として，48÷２のような２位数と１位数の乗法の逆の除法などを指導する。
		◎「基準量」，「比較量」から「倍」を求める場合など，必要な場面で活用できるようにする。
第	（イ）除法の計算が確実にでき，それを適切に用いること	・余りは除数より小さいことに注意させ，被除数，除数，商，余りの関係を，計算の確かめで用いらせる。
4	（ウ）除法について，次の関係を理解すること （被除数）＝（除数）×（商）＋（余り）	・除数及び被除数に同じ数をかけても，同じ数で割っても商は変わらないという性質などを取り扱う。
学	（エ）除法に関して成り立つ性質について理解すること	
	イ　思考力，判断力，表現力等	
年	（ア）数量の関係に着目し，計算の仕方を考え，計算に関して成り立つ性質を見いだすとともに，その性質を活用して，計算の工夫や確かめをすること	・6000÷30の計算を600÷３，300÷25を1200÷100と考えるような計算の工夫は，後の学年でも活用できる。被除数，除数，商，余りの関係から，除法の計算の確かめができる。
	⑷ 小数とその計算に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	ア　知識及び技能	
	（ア）ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知ること	◎何倍かを表すのに小数を用いることを指導し，「基準量１の幾つ分に当たるか」という「倍」の意味を理解できるようにする。
	（イ）小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知り，数の相対的な大きさについての理解を深めること	・小数の仕組みの理解の上に立って行うようにし，整数と同じ原理，手順でできることを理解できるように指導する。
	（ウ）小数の加法及び減法の計算ができること ３．７ ＋２．４８ ６．１８	・小数点を基に，位を揃えてかき，空位を０と考えれば，位ごとに計算ができることを指導する。 ・0.1×３ならば0.1＋0.1＋0.1の意味，のように計算の意味を理解する。除法の意味は，乗法の逆で，　割合を求める場合と基準にする大きさを求める場合で説明できる。
	（エ）乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算ができること	・整数を整数で割って商が小数になる場合も含める。

	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し，計算の仕方を考えるとともに，それを日常生活に生かすこと	・乗法における積の小数点の位置や除法における商の小数点の位置など，整数の場合と比べて考えられるようにする。
	⑸ 分数とその加法及び減法に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）簡単な場合について，大きさの等しい分数があることを知ること	・$\frac{1}{2}$ と $\frac{2}{4}$ のように，大きさが等しく表し方の違う分数を見付けるという程度の簡単な場合を取り扱う。
	（イ）同分母の分数の加法及び減法の計算ができること	・和が１を超える同分母の分数の加法及び減法を扱う。
	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）数を構成する単位に着目し，大きさの等しい分数を探したり，計算の仕方を考えたりするとともに，それを日常生活に生かすこと	・真分数，仮分数，帯分数の意味と用語について指導する。 ・単位分数の個数に着目させ，同分母の数の大きさを比べたり，加法及び減法の計算ができたりすることを考えるようにする。
第 4 学 年	⑹ 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）四則の混合した式や（　）用いた式について理解し，正しく計算すること	・一つの数量を（ ）で表したり，乗法，除法で表された式が一つの数量を表したりすることを理解できるようにする。
	（イ）公式についての考え方を理解し，公式を用いること	・公式は，どんな数値でも成り立つ一般的な関係であることを理解できるようにする。 ・（長方形の面積）＝（縦）×（横）（又は（横）×（縦））といった面積の公式を取り上げる。
	（ウ）数量を□，△などで表し，その関係を式に表したり，□，△ などに数を当てはめて調べたりすること	◎変量を表す記号として□，△などを用いるようにする。
	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）問題場面の数量の関係に着目し，数量の関係を簡潔に，また一般的に表現したり，式の意味を読み取ったりすること	・幾つもの数量の組を作って，共通するきまりや関係を見付け出し，一般化させて言葉を用いて表し，公式を作り上げる過程を大切にする。
	⑺ 計算に関して成り立つ性質に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）四則に関して成り立つ性質についての理解を深めること	◎交換法則，結合法則，分配法則を取り上げる。
	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）数量の関係に着目し，計算に関して成り立つ性質を用いて計算の仕方を考えること	・「たし算では，たされる数とたす数を入れ替えて計算しても答えは等しいから」というように言葉で理由を述べるなど，筋道を立てて考えられるようにする。

第4学年	⑻ そろばんを用いた数の表し方と計算に関わる数学的活動により，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）加法及び減法の計算をすること イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）そろばんの仕組みに着目し，大きな数や小数の計算の仕方を考えること 〔用語・記号〕 和　差　積　商　以上　以下　未満　真分数　仮分数　帯分数	・整数では，２位数などの加法及び減法や億や兆の単位を含む簡単な計算，小数では，「0.02＋0.85」などの簡単な加法及び減法の計算の仕方を理解できるようする。 ・そろばんの仕組みと数の仕組みを対比させながら，計算の仕方を考えることを大切にしたい。
第5学年	**【目標】** ・整数の性質，分数の意味，小数と分数の計算の意味，面積の公式を理解し，小数や分数の計算の技能を身に付けるようにする。 ・数とその表現や計算の意味に着目し，目的に合った表現方法で数の性質や計算の仕方などを考察する力を養う。 ・よいものを求めて粘り強く考える態度，数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用する態度を養う。	
	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
	⑴ 整数の性質及び整数の構成に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）整数は，観点を決めると偶数と奇数に類別されることを知ること （イ）約数，倍数について知ること イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）乗法及び除法に着目し，観点を決めて整数を類別する仕方を考えたり，数の構成について考察したりするとともに，日常生活に生かすこと	・２で割ったときに余りが０になる整数を偶数，余りが１になる整数を奇数という。 ・一の位の数字に着目すればよい，という理解にとどめない ・最大公約数や最小公約数を形式的に求めることに偏ることなく，具体的な場面に即して取り扱う。 ・学級の児童を二つのグループに分けるとき，出席番号を２で割って，割りきれるかどうかという観点を決めるなど，数を使って選別する方法を考えていくこともできる。
	⑵ 整数及び小数の表し方に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）ある数の 10 倍，100 倍，1000 倍，$\frac{1}{10}$，$\frac{1}{100}$ などの大きさの数を，小数点の位置を移してつくること イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）数の表し方の仕組みに着目し，数の相対的な大きさを考察し，計算などに有効に生かすこと	・数の大きさの関係を調べる際には，形式的な操作のみでなく，数の大きさや構成の感覚を豊かにするよう配慮する。 ・24.85÷100 のような計算の場合，筆算ではなく，小数点を左へ二つ移動して，0.2485 と考えられるようにする。

第5学年	⑶ 小数の乗法及び除法に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること （イ）小数の乗法及び除法の計算ができること。また，余りの大きさについて理解すること （被除数）＝（除数）×（商）＋（余り） （ウ）小数の乗法及び除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）乗法及び除法の意味に着目し，乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法及び除法の意味を捉え直すとともに，それらの計算の仕方を考えたり，それらを日常生活に生かしたりすること ⑷ 分数に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）整数及び小数を分数の形に直したり，分数を小数で表したりすること （イ）整数の除法の結果は，分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解すること （ウ）一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は，元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること （エ）分数の相等及び大小について知り，大小を比べること イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）数を構成する単位に着目し，数の相等及び大小関係について考察すること	 ・基準にする大きさ（B）×割合（p）を求める操作で，pが小数でもこの式が使えるという考えを用いている。 ・除法の意味としては，乗法の逆として，割合を求める場合と，基準にする大きさを求める場合とがある。 ◎乗法は，乗数を10倍すると積も10倍になるなどの性質を生かして，考えられるようにする。 ◎除法は，除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないという性質を生かして，考えられるようにする。 ※除法で余りのある場合は，余りの大きさを考えさせ，余りは除数より小さいことや，商，除数，余りの大きさの関係を捉えることなどについて指導する。 ・整数の乗法及び除法に関して成り立つ関係や法則が，小数の場合でも成り立つことを確かめるようにする。 ※乗法とは割合に当たる大きさを求める計算であると考えることで，乗数が整数の場合の意味も含み，乗数が整数でも小数でも同じ意味で捉えることができる。  ・整数と分数，小数と分数は，表記は違っても数としては同じものを表していることを実感できるようにする。 ・分数で表すと，割り切れないようなときでも除法の結果を一つの数で表すことができる。 ※数直線や図などを活用することが大切である。 ・同じ大きさを表す分数の指導を通して，数についての感覚を豊かにするように配慮することが大切である。 ・通分の指導では，形式的に操作するだけでなく，その意味をよく理解し，大きさの等しい分数に着目できるようにすることが大切である。 ・共通の分母をつくり出す際に，除法に関して成り立つ性質と関連付けながら，一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は，元の分数と同じ大きさを表していることについて考えることができるようにする。

第5学年	（イ）分数の表現に着目し，除法の結果の表し方を振り返り，分数の意味をまとめること	・はしたの大きさ，量の大きさ，割合など，これまでの分数の意味について振り返り，商を表す意味もあるなど，分数の意味を拡張して考えることができるようにする。
	⑸ 分数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）異分母の分数の加法及び減法の計算ができること	※通分により単位分数の個数で考えることが大切である。
	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）分数の意味や表現に着目し，計算の仕方を考えること	・分母の異なる分数の大きさを比べる場合を振り返り，通分を用いた計算の仕方を考え出すことができるようにする。
	⑹ 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）数量の関係を表す式についての理解を深めること	・□＝２＋△，□＝２×△など，二つの数量の対応や変化の関係の仕方について，表などを用いて調べる。
	イ　思考力，判断力，表現力等を身に付けること。 （ア）二つの数量の対応や変わり方に着目し，簡単な式で表されている関係について考察すること	・対応の関係や変化の関係を，□や△などの記号などを用いて，一般的な式に表すことも十分に行えるように配慮する。 ・二つの数量の変わり方を，表や式を用いて考察し，式の意味を深めるとともに関数の考えを伸ばすようにする。
	〔用語・記号〕 最大公約数　最小公倍数　通分　約分	

第6学年	**【目標】** ・分数の計算の意味，文字を用いた式を理解し，分数の計算の技能を身に付けるようにする。 ・数とその表現や計算の意味に着目し，発展的に問題を見いだし，目的に応じて多様な表現方法で数の表し方や計算の仕方などを考察する力を養う。 ・よいものを求めて粘り強く考える態度，数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用する態度を養う。	
	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
	⑴ 分数の乗法及び除法に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）乗数や除数が整数や分数である場合も含めて，分数の乗法及び除法の意味について理解すること	・基準にする大きさ（B）×割合（p）＝割合に当たる大きさ（A）と表すと，除法は割合を求める場合（A÷B＝p）と基準にする大きさを求める場合（A÷p＝B）の二つが考えられるが，いずれも乗法の逆であると捉えられる。
	（イ）分数の乗法及び除法の計算ができること	・除法の計算は逆数を用いることによって乗法の形に置き換えることができることを指導する。また，整数や小数の乗法や除法を分数の場合の計算にまとめることも指導する。

		・真分数や仮分数の計算を中心に扱い，帯分数を含む計算については児童の実態によって扱う。
	（ウ）分数の乗法及び除法についても，整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること	◎交換法則，結合法則，分配法則が成り立つことを理解できるようにする。
	イ　思考力，判断力，表現力等	
	（ア）数の意味と表現，計算について成り立つ性質に着目し，計算の仕方を多面的に捉え考えること	・適宜，面積図などの図を用いて考えることも大切である。
第	⑵ 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
6	ア　知識及び技能	
	（ア）数量を表す言葉や□，△などの代わりに，a，x などの文字を用いて式に表したり，文字に数を当てはめて調べたりすること	・数を当てはめて調べる活動などを通して，整数値だけでなく，小数や分数の値も整数と同じように当てはめることができることを理解する。
学		・定数としての文字ｋは，中学校で扱う。
年	イ　思考力，判断力，表現力等	
	（ア）問題場面の数量の関係に着目し，数量の関係を簡潔かつ一般的に表現したり，式の意味を読み取ったりすること	▲文字を用いて式に表し，数量の関係を簡潔にしかも一般的に表現できるようになることが大切である。
	〔用語・記号〕 最大公約数　最小公倍数　通分　約分	

中学校

第1学年

⑴ 正の数と負の数について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識及び技能

（ア）正の数と負の数の必要性と意味を理解すること

（イ）正の数と負の数の四則計算をすること

（ウ）具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすること

イ 思考力，判断力，表現力等

（ア）算数で学習した数の四則計算と関連付けて，正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現すること

（イ）正の数と負の数を具体的な場面で活用すること

⑵ 文字を用いた式について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識及び技能

（ア）文字を用いることの必要性と意味を理解すること

（イ）文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知ること

（ウ）簡単な一次式の加法と減法の計算をすること

（エ）数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し，式を用いて表したり読み取ったりすること

イ 思考力，判断力，表現力等

（ア）具体的な場面と関連付けて，一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現すること

⑶ 一元一次方程式について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識及び技能

（ア）方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解すること

（イ）簡単な一元一次方程式を解くこと

イ 思考力，判断力，表現力等

（ア）等式の性質を基にして，一元一次方程式を解く方法を考慮し表現すること

（イ）一元一次方程式を具体的な場面で活用すること

〔用語・記号〕 自然数 素数 符号 絶対値 項 係数 移項 ≦ ≧

第2学年

⑴ 文字を用いた式について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識及び技能

（ア）簡単な加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすること

（イ）具体的な事象の中の数量の関係を文字を用いた式で表したり，式の意味を読み取ったりすること

（ウ）文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解すること

（エ）目的に応じて，簡単な式を変形すること

イ 思考力，判断力，表現力等

（ア）具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付けて，整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現すること

（イ）文字を用いた式を具体的な場面で活用すること

⑵ 連立二元一次方程式について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　知識及び技能

（ア）二元一次方程式とその解の意味を理解すること

（イ）連立二元一次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解すること

（ウ）簡単な連立二元一次方程式を解くこと

イ　思考力，判断力，表現力等

（ア）一元一次方程式と関連付けて，連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現すること

（イ）連立二元一次方程式を具体的な場面で活用すること

〔用語・記号〕　同類項

第３学年

⑴ 正の数の平方根について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　知識及び技能

（ア）数の平方根の必要性と意味を理解すること

（イ）数の平方根を含む簡単な式の計算をすること

（ウ）具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること

イ　思考力，判断力，表現力等

（ア）既に学習した計算の方法と関連付けて，数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現すること

（イ）数の平方根を具体的な場面で活用すること

⑵ 簡単な多項式について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　知識及び技能

（ア）単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすること

（イ）簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすること

$(a+b)^2=a^2+2ab+b^2$

$(a-b)^2=a^2-2ab+b^2$

$(a+b)(a-b)=a^2-b^2$

$(x+a)(x-b)=x^2+(a+b)x+ab$

イ　思考力，判断力，表現力等

（ア）既に学習した計算の方法と関連付けて，式の展開や因数分解をする方法を考察し表現すること

（イ）文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明すること

⑶ 二次方程式について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　知識及び技能

（ア）二次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解すること

（イ）因数分解したり平方の形に変形したりして二次方程式を解くこと

（ウ）解の公式を知り，それを用いて二次方程式を解くこと

イ　思考力，判断力，表現力等

（ア）因数分解や平方根の考えを基にして，二次方程式を解く方法を考察し表現すること

（イ）二次方程式を具体的な場面で活用すること

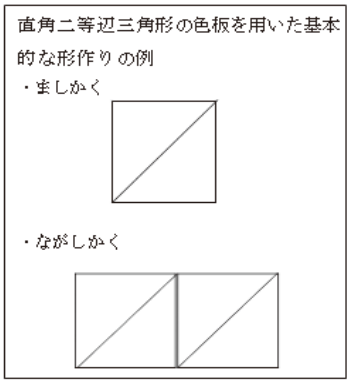
〔用語・記号〕　根号　有理数　無理数　因数　$\sqrt{\ }$

【B 図 形】

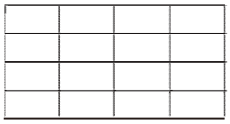
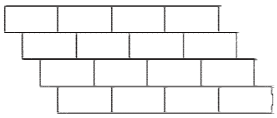
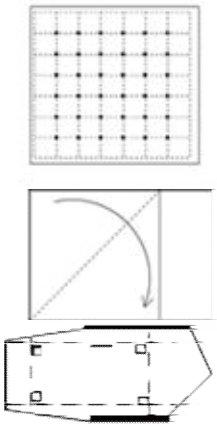
【目標】

・ものの形に着目して特徴を捉えたり，具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力を養う。

・身の回りにある様々なものの形に着目してその特徴に関心をもつとともに，空き箱や色板，折り紙などの具体物を使って形を組み合わせたり分解したり，動かして形を変形させてみたりなどの操作を通して形の構成について考える。

	指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
第1学年	⑴ 身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	ア 知識及び技能	
	（ア）ものの形を認め，形の特徴を知ること	・色や大きさ，材質などを捨象し，ものの形のみに着目してものを捉えることを指導する。 ・身の回りにある立体については，立体を構成している面の形に着目して，「さんかく」，「しかく」，「まる」などの形を見付けることができることである。 ・「さんかく」や「しかく」は「まる」と比べて角がある，「さんかく」の角は三つある，「さんかく」と「しかく」を比べると角の個数が異なるといった形状の特徴を捉えることができる。 ・箱の形は平らなところがあるが，ボールの形は平らなところがないといった立体の形状を捉える。 ・筒の形は置き方によって，転がりやすくなったり，重ねて積み上げることができたりする形であること，また，ボールの形は転がりやすい形であること，箱の形は，重ねて積み上げることができる形であることなどの機能的な性質についても指導する。
	（イ） 具体物を用いて形を作ったり分解したりすること  	・身の回りの物や色板などを使って身の回りにある具体物の形を作ったり，作った形から逆に具体物を想像したりする。 ・身の回りにある立体や色板等を用いて作った形から，「さんかく」や「しかく」等を見付けられるようにする。 ◎色板での形作りでは「しかく」は「さんかく」二枚で構成できること，「ましかく」が二つで「ながしかく」が構成できることなどに児童が気付けるよう配慮する。 ◎形を構成したり分解したりする活動では，ずらす，まわす，裏返すなどと図形を移動したり，ぴったり同じ形や大きさは違うが似ている形を作ったりすることなどの活動を豊富にさせることが大切である。
	（ウ）前後，左右，上下など方向や位置についての言葉を用いて，ものの位置を表すこと	・方向や位置に関する言葉には，前後，左右，上下などの方向を表すものと，一番前や何番目，真ん中などの位置を表すものが

第1学年	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）ものの形に着目し，身の回りにあるものの特徴を捉えたり，具体的な操作を通して形の構成について考えたりすること	あり，これらを用いる際には一定のものを基準として表現する必要があることを児童が理解することが大切である。 ・実際に児童が一列に並ぶ体験や具体物を並べる活動を取り入れることで，方向や位置を実感的に捉えられるようにする。 ・ものの形に着目し身の回りにあるものの特徴を捉えるとは，ものの形や立体が身の回りでどのようなところに見られるか，それらの用いられ方にどのような特徴があるかということに気付いたり，敷き詰められた模様の中にいろいろな形を認めたりすることである。 ・具体的な操作を通して形の構成について考えるとは，形を作ったり分解したりすることを通して，形の構成の仕方について考えることである。 ・その形のもつ性質や特徴を用いて目的を達成したり問題を解決したりすることができるという図形を学ぶことのよさに気が付けるようにし，この学年以降も児童が図形に親しみを深めていけるよう指導することが大切である。
第2学年	**【目標】** ・平面図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり，身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力を養う。 ・身の回りの事象を図形として捉え，図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり図形の性質から考察したりすることを重視する。 ・空き箱や色板，折り紙などの具体物を使って形を組み合わせたり分解したり，動かして形を変形させてみたりするなどの操作を大切にするが，図形を構成する要素に関心をもったりその性質を考えたりすることを重視する。	
	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
	⑴ 図形に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）三角形，四角形について知ること	・３本の直線で囲まれている形を三角形といい，４本の直線で囲まれている形を四角形ということを約束する。 ・三角形，四角形の頂点にも着目できるようにする。その際には，三角形や四角形の約束や特徴を実感的に理解していく活動を取り入れることが大切である。
	（イ）正方形，長方形，直角三角形について知ること	◎正方形，長方形，直角三角形の意味やその特徴を形式的に指導するのではなく，辺の長さや直角といった図形を構成する要素に着目して児童がこれらの図形について理解を深めていくことが大切である。

第2学年	  長方形の敷き詰め	・身の回りから，角の形が直角であるものを見付けたり，紙を折って直角を作ったりするなどの活動を行い，直角の意味を理解できるようにする。 ・これらの図形を敷き詰める活動を通して，平面の広がりや，一定の決まりに従って図形を並べることによって出来上がる模様の美しさについて感じることができるようにすることが大切である。
	（ウ）正方形や長方形の面で構成される箱の形をしたものについて理解し，それらを構成したり分解したりすること	・図形を全体的に捉える見方に加え，平面図形と同様に頂点，辺，面といった図形を構成する要素の存在にも気付くことができるようにする。 ※頂点，辺，面の個数についても調べることができるようにする。そのためには，箱の形をしたものを観察したり，構成したり，分解したりする活動を丁寧に取り扱う。 ・紙の箱を集めて，切り開いてみたり，切り開いた形から箱を組み立てたりして，立体図形は平面図形によって構成されていることを気付くようにする。
	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）　図形を構成する要素に着目し，構成の仕方を考えるとともに，身の回りのものの形を図形として捉えること 	・辺の長さや直角の有無といった約束に基づいて図形を弁別できるようにする。 ・左の図のような格子状に並んだ点を結んで，正方形，　長方形，直角三角形をかく活動を通して，図形を構成する要素の特徴を捉えさせること。 ・左のような長方形の紙を折って正方形を作るなどの活動を通して，図形を構成する要素に着目し，４辺の長さが等しくなることや角が直角となる理由を説明する力を育てていくようにすること。 ・左のような紙の四か所を直角に折っていって，長方形を作る活動を通して，図形を構成する要素に着目させること。 ・これらの学習を通して，日常にある図形や事象を捉える際にも，全体を見て概要を捉えた後に図形を構成する各要素に着目し思考や判断を進める態度を育成する。
	〔用語・記号〕 直線　直角　頂点　辺　面	

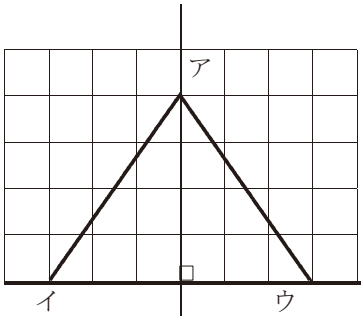
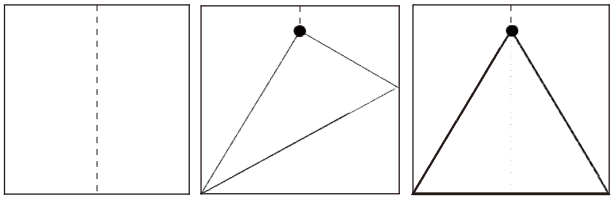
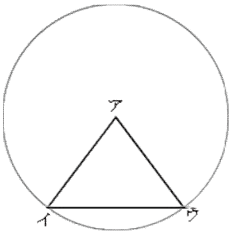
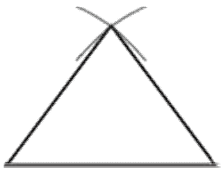
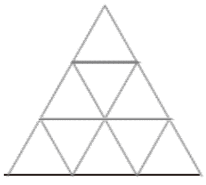
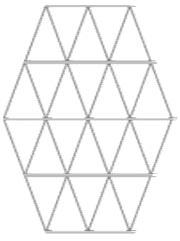
第3学年

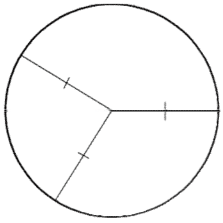
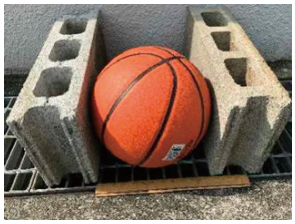
【目標】

・平面図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり， 身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力を養う。

・身の回りの事象を図形として捉え，図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり図形の性質から考察したりすることを重視する。

・具体物を操作しながら形を構成したり分解したりして，図形を構成する要素に着目しながらその性質を見いだしたり，それを日常事象の考察に生かしたりすることを重視する。

指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
(1) 図形に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
ア 知識及び技能	
（ア）二等辺三角形，正三角形などについて知り，作図などを通してそれらの関係に次第に着目する	・二等辺三角形や正三角形の意味や性質は，定規やコンパスによる作図，ひご等による構成，紙を折るなどの活動を豊かに行うことを通して，帰納的に理解できるようにする。 ・実際，例えば次の図のように，折り紙から正三角形を構成することができる。 〔折り紙から正三角形を構成〕 ①〔折れ目を付ける〕 ②〔右下の頂点を折れ目の上に重ねて，そこに印を付ける〕 ③〔折り紙の頂点と印の線を結ぶ〕
	
 	・二等辺三角形や正三角形の構成を繰り返すなかで，二等辺三角形の底辺と他の二辺を同じ長さにすると正三角形になることなどに気付かせ，二等辺三角形と正三角形の関係に着目できるよう指導することが大切である。
 	・合同な二等辺三角形や正三角形を敷き詰める活動を通して，これらの図形で平面が敷き詰められることを理解し，敷き詰めてできた模様を観察することによって，その中にほかの図形を認めること，平面図形の広がりや図形の美しさを確認したりすることなど，図形についての見方や感覚を豊かにしていくようにする。
（イ）基本的な図形と関連して角について知ること	・一つの頂点から出る２本の辺が作る形を角ということを指導する。 ・二等辺三角形や正三角形について，長さの等しい辺を重ねるように折ることによって，二つの角の大きさがぴったり重なり，それらが等しいことを確かめることなどを指導する。

第3学年	（ウ）円について，中心，半径，直径を知ること。また，円に関連して，球についても直径などを知ること  	・観察，分類，構成，作図などの活動を通して円について，また，観察を通して球について理解できるようにする。 ・円については，左の図のように，円周上のどの点も中心から等距離にあることが分かるようにする。 ・半径は中心から円周まで引いた直線と約束する。直径については，中心を通り，円周から円周まで引いた直線と約束する。 ・コンパスは単に円をかくだけでなく，等しい長さを測り取ったり移したりすることができる道具で，長さを比べたりする場面などでも活用できる。 ・球については，球を平面で切ると切り口はどこも円になること，球をちょうど半分に切った場合の切り口が最大になることなどを模型の操作や観察を通して理解させる。 ・ボールなどの球の直径の大きさは，ボールを直方体などの立体ではさむなどの活動によって調べることができる。
	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）図形を構成する要素に着目し，構成の仕方を考えるとともに，図形の性質を見いだし，身の回りのものの形を図形として捉えること	◎辺の長さの相等や角の大きさの相等にも着目し図形を捉えられるようにする。 ・図形を構成する要素に着目し正三角形や二等辺三角形，円や球などを見いだすことを通して，図形のもつ性質が日常生活でどのように役立てられているかを考察する。 ・図形の構成や問題の解決に当たる際には，それらを定める約束や性質を明確にし，それを用いて処理しようとする態度を養う。

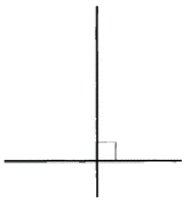
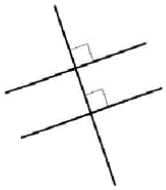
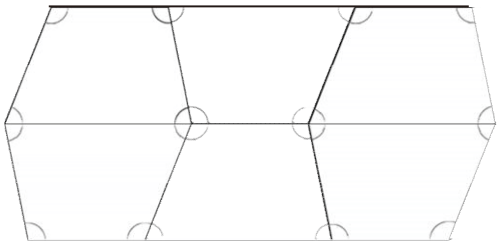
【目標】

・図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し，図形の性質や図形の計量について考察する力を養う。

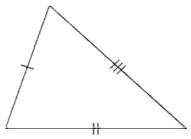
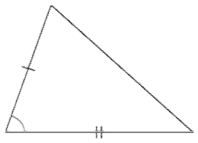
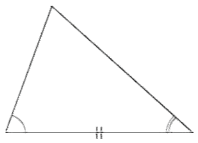
・平面図形及び立体図形を平行・垂直などの図形を構成する要素に着目しながら，図形の性質や位置の表現方法を見いだしたり，それを基に既習の基本図形を捉えなおしたり日常の事象の考察に生かしたりすることを重視する。

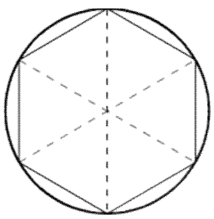
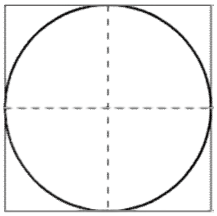
・図形の計量の視点から量の単位や図形を構成する要素に着目し，図形の面積の求め方や既習の単位との関係，角の大きさの表現の仕方について考察できるようにする。

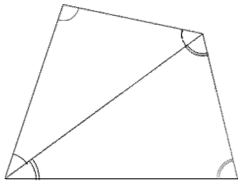
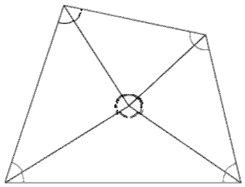
第4学年	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
	(1) 平面図形に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）直線の平行や垂直の関係について理解すること	・２本の直線の平行については，「二つの直線がどこまでいっても交わらないとき，この二つの直線は平行である」と約束する。 ・はじめに垂直の関係について約束し，その上で，平行の関係について約束する。次の２点が理解できるようにする。 ① 二つの直線が直角に交わっているとき，この二つの直線は垂

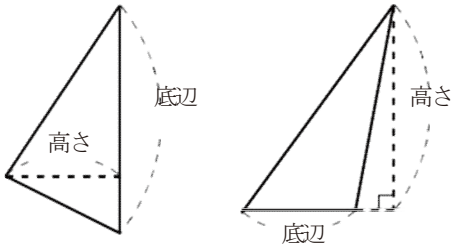
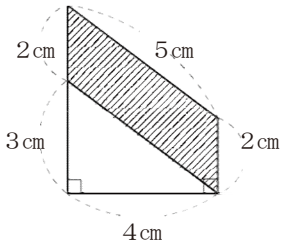
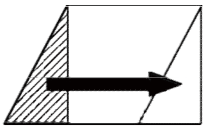
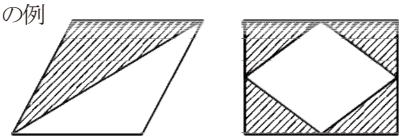
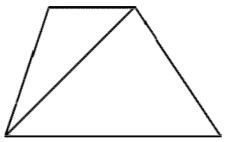
第4学年	  （イ）平行四辺形，ひし形，台形について知ること  イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し，構成の仕方を考察し図形の性質を見いだすとともに，その性質を基に既習の図形を捉え直すこと	直であるという。 ② 一つの直線に垂直な二つの直線があるとき，この二つの直線は平行であるという。 ・日常生活の中には，平行な二直線や，垂直な二直線が数多く見いだせることを知る。 ・直線の位置関係や辺の長さに着目することで，平行四辺形，ひし形，台形について知る。 ・向かい合った二組の辺が平行な四角形を平行四辺形といい，四つの辺の長さが等しい四角形をひし形といい，向かい合った一組の辺が平行な四角形を台形という。 ・図形の置き方をいろいろと変えても，その図形の名称が判断できるようにする。 ・各々の四角形の性質について理解できるようにする。 ・対角線の意味と用語について指導する。四角形の対角線とは，向かい合う頂点を結んでできる直線である。 ・対角線に関わる図形の性質として，平行四辺形には，２本の対角線が互いに二等分されるという性質があること，ひし形には，２本の対角線が互いに垂直に交わることや，互いに二等分されていることにも着目できるようにする。 ・ひし形については，平行四辺形の性質を全て備えている四角形であることにも着目できるようにする。 ・平行四辺形，ひし形，台形によって平面を敷き詰めることができることを確かめ，敷き詰めた図形の中にほかの図形を認めたり，平行線の性質に気付いたりするなど，図形についての見方や感覚を豊かにすることを指導する。 ・敷き詰めた形に色を塗ったり，それに様々なデザインを工夫したりすることにより，図形の美しさに触れていく。 ・図形を構成する要素として辺を取り上げ，それを直線として捉えることにより，二直線の位置関係が問題となる。 ・二直線の関係には，特殊な場合として，垂直に交わる場合と，交わることのない平行の場合があることが引き出される。 ・平行といった直線の位置関係に焦点化したとき，平行が何組あるかに着目することで，図形を分類することが可能になる。 ・図形を構成する要素である辺の長さや角の大きさに着目することで，さらなる図形の性質が見いだされる。 ・角の大きさや，対角線の長さや位置関係を考えることで，さらなる性質が引き出される。

<table>
<tr>
<td>第
4
学
年</td>
<td>〔記号・用語〕
平行　垂直　対角線　平面</td>
<td>・見いだされた性質を基にすると，図形を作図することが可能になると共に，身の回りから，平行四辺形，ひし形，台形の形をした具体物を見付けることができる。
・平行が何組あるかという視点から既習の四角形について振り返り，統合的にみることが肝要である。
・辺の長さも加味して考察すると，正方形は，二組の平行な辺の長さが全て等しいことから，ひし形と同じ性質をもっている図形として捉え直すことができる。
・対角線の長さや位置関係に着目することで，正方形，長方形を捉え直すこともできる。</td>
</tr>
<tr>
<td>第
5
学
年</td>
<td colspan="2">【目標】
・図形の性質や図形の計量について考察する力を養う。
・平面図形を合同の視点から，図形を構成する要素や図形間の関係に着目しながら，図形の構成の仕方やその性質を見いだし論理的に説明したり，それを基に既習の基本図形を捉え直したり日常の事象の考察に生かしたりすることを重視する。
・図形の計量の視点から量の単位や図形を構成する要素に着目し，図形の面積や体積の求め方や既習の単位との関係について考察できるようにする。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>指　導　内　容</td>
<td>内　容　の　取　扱　い</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(1) 平面図形に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　知識及び技能
(ア) 図形の形や大きさが決まる要素について理解するとともに，図形の合同について理解すること
 
①　三つの辺の長さが決まる
 
②　二つの辺の長さとその間の角の大きさが決まる
 
③　一つの辺の長さとその両端の角の大きさが決まる</td>
<td>・三角形など簡単な平面図形について，図形が「決まる」という意味を理解し，合同な図形を能率的にかくことができるようにする。
・二つの図形がぴったりと重なるとき，つまり，形も大きさも同じであるとき，この二つの図形は合同であるという。
・合同な図形を見付けたり，かいたり，つくったりする活動を通して，図形の形や大きさが一つに決まる要素について理解できるようにする。
・二つの図形が合同かどうか確かめる場合には，全ての辺や角を調べなくてもよいことに，次第に着目させるようにする。
・三角形の合同条件を覚えさせたり，形式的な推論をさせたりするなど深入りすることのないよう配慮する。
◎二つの合同な図形が，ずらしたり，回したり，裏返したりして置かれた場合でも，その位置に関係なく，必要な辺と辺，角と角の対応がつけられるようにする。
・合同の意味を理解し，合同の観点からこれまで学習してきた図形を見直すことも大切である。</td>
</tr>
</table>

		・合同な三角形，四角形によって平面を敷き詰めることができることを確かめ，敷き詰めた図形の中にほかの図形を認めたり，平行線の性質に気付いたりするなど，図形についての見方や感覚を豊かにすることを指導する。
	（イ）三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること	・多角形とは，三つ以上の直線で囲まれた図形である。例えば，６本の直線で囲まれた図形を，六角形という。 ・三角形の性質は，三角形の三つの角の大きさを加えると180度になるという性質を用いて説明することができる。 ・三角形や四角形など多角形の性質について理解できるようにする。
第５学年	（ウ）円と関連させて正多角形の基本的な性質を知ること	◎辺の長さが全て等しく，角の大きさが全て等しい多角形を，正多角形という。正三角形や正方形は，正多角形である。 ・正多角形には，円の内側にぴったり入る（円に内接する），円の外側にぴったり接する（円に外接する）などの性質がある。 ・正多角形について円と組み合わせて作図をすることで，正多角形についての性質を，円の性質と関連付けて理解できるようにする。 ・児童の負担に配慮し，コンピュータを活用して正多角形の作図をするプログラミングの体験することができる。
	（エ）円周率の意味について理解し，それを用いること   円周率は3.14 を用いるものとする。	・円について直径の長さと円周の長さとの間に何か関係がありそうだと気付かせ，円周の長さは直径の長さの何倍になるかとの見通しを立てさせる。 ・実際に幾つかの円について，直径の長さと円周の長さを測定するなどして帰納的に考えることにより，どんな大きさの円についても，円周の直径に対する割合が一定であることを理解できるようにする。 ※円周率を指導することにより，直径の長さから円周の長さを，また，逆に円周の長さから直径の長さを計算によって求めることができるなど，直径，円周，円周率の関係について理解できるようにする。
	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し，構成の仕方を考察したり，図形の性質を見いだし，その性質を筋道を立てて考え説明したりすること	・辺の長さや角の大きさの数量的な関係について考察し，図形の性質を見いだしていく。 ・「ぴったり重ねる」といった具体的な操作ができない場合でも，ぴったり重なることが説明できないかを考える。 ・二つの三角形の合同においては，三角形を構成する要素である三つの辺の長さ，三つの角の大きさに着目し，対応する辺の長

第5学年	 ① 180×2  ② 180×4－360 ⑵ 立体図形に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）基本的な角柱や円柱について知ること イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）図形を構成する要素に着目し，図形の性質を見いだすとともに，その性質を基に既習の図形を捉え直すこと 〔用語・記号〕 底面　側面	さ，角の大きさが等しいかどうかを探ることになる。 ・四角形の四つの角の和を基に説明する方法の代表的なものとして，次の二つの方法がある。 ①は四角形を１本の対角線で二つの三角形に分けて考える方法で，三角形の三つの角の大きさの和が180度であることを基にして，180度の２倍から360度を導き出す方法である。 ②は四角形の内部に点Ｅをとり，点Ｅと各頂点とを結んだ直線で四つの三角形に分けて考える方法で，三角形の三つの角の大きさの和が180度であることを基にして，180度の４倍から点Ｅの周りの角の大きさである360度を引いて360度を導き出す方法である。 ・筋道を立てて考えることに興味をもたせるようにするとともに，筋道を立てて考えることのよさについても気付かせていくようにする。 ▲底面が三角形である角柱を三角柱，四角形である角柱を四角柱と呼ぶ。また，円柱は，底面が円の形をした立体であることを指導する。 ・図形を観察するなどの活動を通して，角柱や円柱の構成要素である頂点や辺や面の個数や面の形を捉えたり，辺と辺，辺と面，面と面の平行，垂直の関係を捉えたりすることができるように指導する。 ・見取図や展開図をかくことを通して，辺と辺，辺と面，面と面のつながりや位置関係を調べることができるようにする。 ▲展開図をかいて立体を構成する活動を通して，角柱や円柱についての理解を深め，空間についての感覚を豊かにする。 ▲角柱の底面は，三角形，四角形，五角形等があり，側面は，全て長方形や正方形である。角柱について図形を構成する要素に着目することで，図形を分類し名前をつけることができる。 ◎角柱について，頂点の数，辺の数，面の数等をそれぞれ調べ，角柱について，頂点の数などの関係についてまとめることができるようにする。

第5学年	⑶ 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）三角形，平行四辺形，ひし形，台形の面積の計算による求め方について理解すること   イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）図形を構成する要素などに着目して，基本図形の面積の求め方を見いだすとともに，その表現を振り返り，簡潔かつ的確な表現に高め，公式として導くこと ①　の例  ②　の例  ③　の例 	◎三角形や平行四辺形，ひし形及び台形の面積について，図形の見方を働かせて，第４学年までに学習してきた長方形や正方形の面積の求め方に帰着し，計算によって求めることができることを理解することが大切である。 ※計算による求め方を通して公式にして，三角形や平行四辺形，ひし形及び台形の面積は公式で求められることを理解し，それらを公式を使って求められるようにする。 ・等積変形といった図形の操作活動に伴って，底辺をどこにとるかで高さが決まることを理解させることが大切である。 ・実際に底辺の取り方を変えて面積を求め，それぞれの結果を比べる活動を取り入れることから，底辺をどこにとっても面積は同じであることを実感を伴って理解できるようにする。 ・左のような平行四辺形の求積のためにどの部分の長さを測る必要があるかを考えることで，公式の理解を深め，活用できるようにすることも大切である。 ※基本図形の面積の求め方を，図形を構成する要素などに着目して，既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり，説明したりすることが大切である。 ・本学年において思考力，判断力，表現力等を発揮させる基となる図形の見方・考え方としては，例えば次のようなものが考えられる。 ①　図形の一部を移動して，計算による求積が可能な図形に等積変形する考え ②　既習の計算による求積が可能な図形の半分の面積であるとみる考え ③　既習の計算による求積が可能な図形に分割する考え ・基本図形の面積の求め方を考える中で，上記のような図形の見方・考え方を働かせることによって，児童が自ら工夫して面積を求めることができるようにすることが大切である。 ・ある基本図形の面積の求め方を見いだしたら，もとの図形のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのか，振り返って考えさせることが大切である。

第5学年	(4) 立体図形の体積に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	ア　知識及び技能	
	（ア）体積の単位（立方センチメートル（㎤），立方メートル（㎥））について知ること	・面積を単位となる大きさを基に求めたことからの類推により，体積の単位としては空間を隙間なく埋め尽くす立体図形が適当であることについて理解できるようにする。 ◎一辺の長さが１㎝や１ｍのように長さの単位の大きさであるものが 都合がよいことなどについて理解できるようにする。 ・身の回りにある立方体や直方体の体積を実際に求める活動や，実際に１㎥の大きさの立方体を観察する活動などにより，体積の大きさについての感覚を育てるよう配慮する必要がある。 ・一辺が10㎝の立方体の体積が１Ｌに当たることにも触れるようにする。
	（イ）立方体及び直方体の体積の計算による求め方について理解すること	・立方体や直方体は，一辺が１㎝ や１ｍなどの単位体積の立方体を積み重ねてつくることができる。したがって，長方形の面積を求めた場合からの類推によって，縦，横，高さを測ることによって，計算で体積を求めることができることを理解し，公式をつくることができるようにする。 ・身の回りにある立方体や直方体の体積を実際に求める体験的な活動により，体積についての量感を培うことができるよう配慮する必要がある。 ◎具体物を用いたり図を用いたりして，縦と横の長さを固定した直方体について，高さが２倍，３倍，４倍，…になるときの体積の変化を考えさせるなどして，体積の公式の意味について，「Ｃ変化と関係」の比例の学習との関連で理解を深めさせることも大切である。
	イ　思考力，判断力，表現力等	
	（ア）体積の単位や図形を構成する要素に着目し，図形の体積の求め方を考えるとともに，体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること	・立方体や直方体の体積を求める際，単位体積となる立方体を積み重ねないで体積を求めることについて考えることが大切である。 ◎単位体積となる立方体が規則正しく並んでいるので，乗法を用いると，手際よく個数を求めることができるよさに気付き，計算を用いて体積を求めたり，（直方体の体積）＝（縦）×（横）×（高さ）という公式を見いだしたりすることができるようにする。 ・これまでに学習してきた長さ，面積などの単位間の関係と，体積の単位間の関係を比較し，総合的に考察することで，単位間の関係について理解を深めるとともに，既習の知識と結びつけて考えようとする態度を養うことが大切である。

長さの単位	１㎝	（10㎝）	１ｍ
面積の単位	１㎠	（100㎠）	１㎡
体積の単位	１㎤	（1000㎤）	１㎥
かさの単位	１mL	１Ｌ	１kL

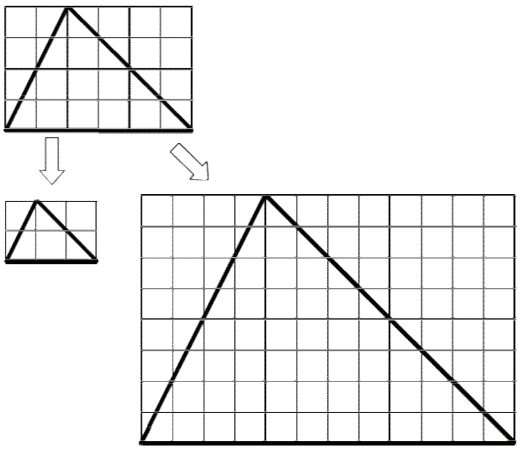
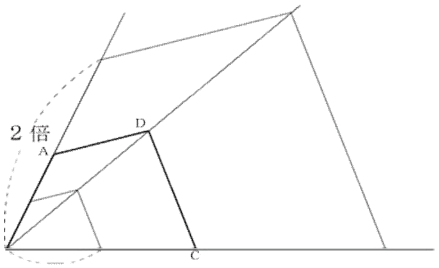
第6学年

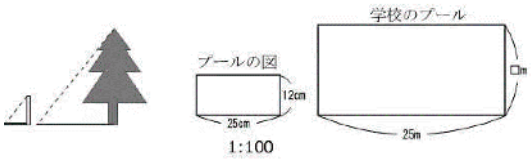
【目標】

・図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し図形の性質や図形の計量について考察する力を養う。

・平面図形を対称の視点から，図形を構成する要素や図形間の関係に着目しながら，図形の構成の仕方やその性質を見いだし説明したり，それを基に既習の基本図形を捉えなおしたり日常の事象の考察に生かしたりすることを重視する。

・図形の計量の視点から量の単位や図形を構成する要素に着目し，図形や概形の面積や体積の求め方について論理的に考察できるようにする。

指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
⑴ 平面図形に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
ア　知識及び技能	
（ア）縮図や拡大図について理解すること 	・縮図や拡大図の意味や特徴について，作図することを通して理解できるようにする。 ・実際に，縮図や拡大図をかくに当たっては，次の図のように方眼の縦，横の両方の向きに同じ割合で縮小，拡大したものを用いる場合や，一つの頂点に集まる辺や対角線の長さの比を一定にしてかく場合がある。 
（イ）対称な図形について理解すること	・対称性については，一つの図形について，線対称，点対称の二つの観点から考察できることを理解する。 ・線対称，点対称の意味について，観察や構成，作図などの活動を通して理解できるようにし，線対称な図形，点対称な図形，線対称でかつ点対称でもある図形を弁別するなどの活動を通して，図形の見方を深めることが大切である。
イ　思考力，判断力，表現力等	
（ア）図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し，構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに，その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に生かしたりすること	・大きさは異なるが，形が同じに見える図形について考察する。このような形が同じ二つの図形において，構成する要素の関係はどうなっているかを調べることになる。 ◎辺の長さや角の大きさの相等関係について考察し，図形の性質を見いだしていくことになる。 ・対称性については，既習の三角形，四角形，さらには，正多角形について，線対称な図形，点対称な図形，線対称でかつ点対

<table>
<tr>
<td></td>
<td>


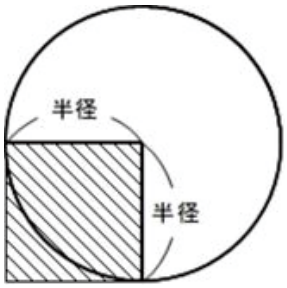
〔用語・記号〕
線対称　点対称　対象の軸　対象の中心

⑵ 身の回りにある形の概形やおよその面積などに関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　知識及び技能
（ア）身の回りにある形について，その概形を捉え，およその面積などを求めること

イ　思考力，判断力，表現力等
（ア）図形を構成する要素や性質に着目し，筋道を立てて面積などの求め方を考え，それを日常生活に生かすこと

⑶ 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　知識及び技能
（ア）円の面積の計算による求め方について理解すること


</td>
<td>
称でもある図形を弁別し，既習の図形を対称性といった観点から捉え直すことが大切である。
・縮図・拡大図においては，日常生活にも活用されており，どのようなところで，どのように活用できるかを探ることが推奨される。
・縮図，拡大図では，対応する角の大きさが全て等しく，対応する辺の長さの比がどこでも一定であることを活用することで，日常生活の問題解決に生かしていけるようにする。

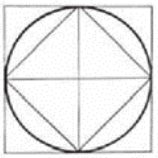
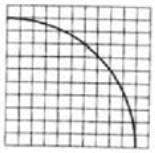
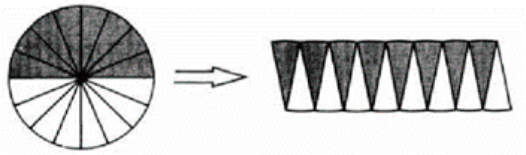
◎平面図形であれば，これまでに求積してきた三角形や四角形のように測定しやすい形に捉えたり，それらの図形に分割した形として捉えたりすることで，およその面積を測定することが可能になる。
・立体図形であれば，直方体や立方体と捉えたり，それらの立体図形に分割した形として捉えたりといった工夫をすることで，およその体積を測定することが可能になる。

・複雑な形であったり，必ずしも直線で構成されていなかったりする身の回りにある図形の面積や体積を測定する際には，これまでに学習してきた基本的な図形と対応させ，測定する見通しをもち，筋道を立てて考察することが大切である。

・円の面積は，（半径）×（半径）×（円周率）で求めることができることを理解し，円の面積を求めることができるようにする。
◎単に公式を使いこなすだけでなく，第５学年までに学習してきた基本図形の面積の求め方に帰着することで，円の面積は計算によって求めることができることを理解できるようにすることが大切である。
・円の面積を求める際には，円周率は3.14を用いて処理することについて指導する。
</td>
</tr>
</table>

第６学年

算数

第6学年	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）図形を構成する要素などに着目し，基本図形の面積の求め方を見いだすとともに，その表現を振り返り，簡潔かつ的確な表現に高め，公式として導くこと    (4) 立体図形の体積に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）基本的な角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解すること イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）図形を構成する要素に着目し，基本図形の体積の求め方を見いだすとともに，その表現を振り返り，簡潔かつ的確な表現に高め，公式とし	・円の面積の求め方を考える際には，面積の大きさの見通しをもつことが大切である。 ・円の面積の求め方を，図形を構成する要素などに着目して，既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり，説明したりする。 ・円の面積の求め方を考察する中で，左のような図形の見方・考え方を発揮することによって，児童が自ら工夫して面積を求めることができるようにすることが大切である。 ・半径10㎝の円の面積については，円を中心から等分して並べ替え，平行四辺形に近い形を作り，円の面積を求める方法が考えられる。この場合，等分を細かくしていけば，平行四辺形に近い形の底辺は円周の長さの半分に，高さは元の円の半径に近づくことから，円の面積は次のような式で表せる。 （円の面積）＝（平行四辺形の面積） ＝（底辺）×（高さ） ＝（円周の長さの半分）×（半径） 10×2×3.14÷2　　10 10×2×3.14÷2×10＝314　　314㎠ ・円の面積の求め方を見いだしたら，式を読んで，もとの円のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのか，振り返って考えることが大切である。 ・この式にある二つの10はもともと円の半径を意味していたことを振り返り，次の公式に導いていく。 （円の面積）＝（半径）×（半径）×（円周率） ◎角柱，円柱の体積については，第５学年で指導した立方体，直方体の場合の体積の求め方を基にして，これらの立体の体積も計算によって求めることができることを理解することが大切である。 ▲角柱や円柱の体積は，（底面積）×（高さ）で求めることができることを理解できるようにする。 ・角柱，円柱の体積の求め方を，図形を構成する要素などに着目して，既習の立方体，直方体の体積の求め方を基に考えたり，図形の面積の学習と関連付けたりしながら説明したりする。

<table>
<tr><td>第6学年</td><td>て導くこと</td><td>▲捉え直した直方体の体積を求める公式から類推して，角柱や円柱の体積を求める公式を導くことができる。
（直方体の体積）＝（縦）×（横）×（高さ）
＝（底面積）×（高さ）
（角柱や円柱の体積）＝（底面積）×（高さ）
その際，言葉の式でまとめるだけでなく，その式から，どんな角柱や円柱も，底面積と高さの積で体積を表すことができることを捉え直すことが大切である。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">中学校</td><td colspan="2">第1学年
⑴ 平面図形について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 知識及び技能
（ア）角の二等分線，線分の垂直二等分線，垂線などの基本的な作図の方法を理解すること
（イ）平行移動，対称移動及び回転移動について理解すること
イ 思考力，判断力，表現力等
（ア）図形の性質に着目し，基本的な作図の方法を考察し表現すること
（イ）図形の移動に着目し，二つの図形の関係について考察し表現すること
⑵ 空間図形について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 知識及び技能
（ア）空間における直線や平面の位置関係を知ること
（イ）扇形の弧の長さと面積，基本的な柱体や錐体，球の表面積と体積を求めること
イ 思考力，判断力，表現力等
（ア） 空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えたり，空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見出したりすること
（イ）立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現すること
〔用語・記号〕 弧 弦 回転体 ねじれの位置 π // ⊥ ∠ △</td></tr>
<tr><td colspan="2">第2学年
⑴ 基本的な平面図形の性質について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 知識及び技能
（ア）平行線や角の性質を理解すること
（イ）多角形の角についての性質が見いだせることを知ること
イ 思考力，判断力，表現力等
（ア）基本的な平面図形の性質を見いだし，平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明すること
⑵ 図形の合同について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 知識及び技能
（ア）平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解すること
（イ）証明の必要性と意味及びその方法について理解すること</td></tr>
</table>

中学校	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり，証明を読んで新たな性質を見出したりすること （イ）三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用すること 〔用語・記号〕　対頂角　内角　外角　定義　証明　逆　反例　≡
	第３学年 ⑴ 図形の相似について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解すること （イ）基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係について理解すること イ　思考力，判断力，表現力等 （ア） 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること （イ） 平行線と線分の比についての性質を見いだし，それらを確かめること （ウ） 相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること ⑵ 円周角と中心角の関係について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）円周角と中心角の関係の意味を理解し，それが証明できることを知ること イ　思考力，判断力，表現力等 （ア） 円周角と中心角の関係を見いだすこと （イ） 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること ⑶ 三平方の定理について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）三平方の定理の意味を理解し，それが証明できることを知ること イ　思考力，判断力，表現力等 （ア） 三平方の定理を見いだすこと （イ） 三平方の定理を具体的な場面で活用すること 〔用語・記号〕∽

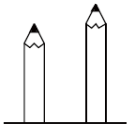
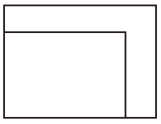
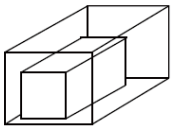
【C　測定】

【目標】

・身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え，量の大きさを比べる方法を考える力を養う。

・長さ，広さ，かさなどの量から身の回りの事象の特徴を捉え，具体的な操作を通して量の大きさの比べ方を見い出す。

・時刻と日常生活を結び付けるなど，時刻の読み方を日常生活の中で生かす。

	指導内容	内容の取扱い
第1学年	(1) 身の回りのものの大きさに関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるようにする。 ア　知識及び技能 （ア）長さ，広さ，かさなどの量を，具体的な操作によって直接比べたり，他のものを用いて比べたりすること  （例）えんぴつの長さを比べる。  （例）広さを比べる。  （例）箱のかさを比べる。	・直接あるいは間接的に大きさを比べたりする活動を通して，その量についての理解を深めていく。 ・ものを移動して，直接重ね合わせることで比べることを直接比較といい，媒介物を用いて間接的に比較することを間接比較という。第１学年ではこれらの活動を十分に行うことが大切である。 ・長さの比較には，これらを動かして並べて置いたり重ねたりして比較する。この場合は，一方の端をきちんとそろえ，反対側の端で，その大小を判定する。 ・広さの比較については，重ねて比べられる場合は重ねることによって一方が他方に完全に含まれるならば，比べることができる。 ・かさは，大きな箱の中に小さな箱を直接入れるなどして，二つの箱のかさを比べる。 ・量の大きさを比較する際，ものを移動して，直接重ね合わせることが難しい場合，媒介物を通して比較する。
	（イ）身の回りにあるものの大きさを単位として，その幾つ分かで大きさを比べること	・適当な媒介物がなかったり，多くの物の量を比べたりする場合は，測るものより小さい任意のものの大きさを単位とし，それが幾つ分あるかを調べることで比べることができる。 ◎長さの任意単位による測定については，例えば鉛筆の長さ幾つ分かに置き換えるなど，具体的な操作を通して調べる。 ◎広さについては，例えばそれぞれの上に同じ大きさの色板を並べ，色板が幾つあるかを数えることで比べる。 ◎かさについては，二つの容器いっぱいに入れた水を，同じコップや茶わんで何杯分あるかを数えるなどして，比べる。 ・様々な場面で，比較や測定を行うことを通して，長さが長いとは，広さが広いとは，かさが大きいとはといった，それぞれの量の意味やその測定の仕方についての理解をより確かなものとしたり，量の大きさについての感覚を豊かにしたりする。

第1学年	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）身の回りのものの特徴に着目し，量の大きさの比べ方を見い出すこと	・長さ，広さ，大きさなど，どの量に着目しているのかを明確にし，直接比較なのか，数値化して比べるのかを考え，効率よく量の大きさを比べることが大切である。 ・長さでの比較や測定の仕方と同じように，広さやかさについても，直接比較，間接比較，任意単位による測定という比べ方ができることについて気付くことができるようにする。 ・長さにおいては「大きい・小さい」ではなく，「長い・短い」という表現を用い，使われる長さ（距離）や場所によっては，「遠い・近い」「高い・低い」などの言葉でも多様に表現されることにも触れる。
第2学年	**【目標】** ・身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え，量の単位を用いて的確に表現する力を養う。 ・実験，実測を通して目的に応じた普遍単位を用いることで量を的確に表現したり，比べたりする。 ・時間の単位に着目して，時刻や時間を日常生活の中で生かせるようにする。	
	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
	(1) 量の単位と測定に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるようにする。 ア　知識及び技能 （ア）長さの単位（ミリメートル（mm），センチメートル（cm），メートル（m））及びかさの単位（ミリリットル（mL），デシリットル（dL），リットル（L））について知り，測定の意味を理解すること	・その量の大きさを普遍単位を用いて数値化した表現のよさや，普遍単位を用いることの必要性に気付くことができるようにする。 ・長さの単位について，ミリメートル（mm），センチメートル（cm），メートル（m）を指導する。 ◎端下の処理に関連して，ミリ（m），センチ（c）などの接頭語の付いた単位の必要性にも着目させる。 ・かさの単位については，ミリリットル（mL），デシリットル（dL），リットル（L）を指導する。 ・１デシリットル（dL）は，１リットル（L）を10等分した一つ分を単位としてつくられた単位であることを指導する。 ◎１ミリリットル（mL）は，１デシリットル（dL）の単位では測り取れない大きさを測るとき，その量を表すことに用いる単位であること，１リットル（L）は1000ミリリットル（mL）であることを知らせる程度とする。
	（イ）長さ及びかさについて，およその見当をつけ単位を適切に選択して測定すること イ　思考力，判断力，表現等 （ア）身の回りのものの特徴に着目し，目的に応じ	・長さやかさについて，およその見当をつけて測定し，適切な単位で量を表すことができるようにする。 ・測定する対象に応じた単位を選択する場面を問題の解決過程に位

第2学年	た単位で量の大きさを的確に表現したり，比べたりすること ⑵ 時刻と時間に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるようにする。 ア　知識及び技能 （ア）日，時，分について知り，それらの関係を理解すること イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）時間の単位に着目し，時刻や時間を日常生活に生かすこと	置付けることにより，目的に応じた量の大きさを的確に表現することができるようにする。 ・日常生活の中では，時刻と時間の区別が明確ではない場合もあるが，指導に当たっては，時刻と時間を区別して指導する。 ・１日が24時間，１時間が60分という関係を理解させ，それらを用いることができるようにする。 ・「午前」「午後」「正午」の時間帯を捉え，午前や午後はそれぞれ12時間ずつあることを指導する。 ・時間の単位に着目し，短針や長針の動きを基に経過した時間を捉えて，日常生活に生かす。
第3学年	**【目標】** ・身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え，量の単位を用いて的確に表現する力を養う。 ・長さ，重さの量から身の回りの事象の特徴に着目し，実験・実測などを通して目的に応じた普遍単位を用いることで量を的確に表現したり単位を統合的に捉えたりする。	
	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
	⑴ 量の単位と測定に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるようにする。 ア　知識及び技能 （ア）長さの単位（キロメートル（㎞））及び重さの単位（グラム（g），キログラム（kg））について知り，測定の意味を理解すること （イ）長さや重さについて，適切な単位で表したり，およその見当を付け計器を適切に選んで測定したりすること	 ・長さの単位としてキロメートル（㎞）を知り，既習の長さである100mや10mとの関係をもとにその長さを理解する。 ・通学路を思い起こさせ，学校から１㎞の道のりに当たるところを調べさせたり，運動場のトラックを実際に５周歩かせてみたりするなどして，実感的に捉えられるようにする。 ・量を測定するとき，その量がどの程度児童の大きさであるか，およその見当を付け，測定に用いる単位や計器を適切に選択できるようにする。 ・はかりの取り扱いに関してはどれだけの重さまで量れるかという秤量や，どのくらいまでの詳しさで量れるかという感量に気を付ける態度を養う。

	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）身の回りのものの特徴に着目し，単位の関係を統合的に考察すること	◎第３学年までに学習した長さ，体積，重さの単位についてまとめた表などから，それぞれに共通する関係などを調べる。 (例)　１km＝1000m　　１kg＝1000g １m＝1000mm　　１L＝1000mL など １t＝1000kg このような学習を進めていく際，単位の前に接頭語ｋ（キロ）が付くと 1000 倍になることに気付いたり，それぞれが倍の関係にあることを図や文章でまとめたりして考察し，理解を深める。
第 ３ 学 年	⑵ 時刻と時間に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア　知識及び技能 （ア）秒について知ること	・10 秒や 60 秒というまとまった時間の中で「１秒」が幾つ分あるのかを意識し，時間について理解できるようにする。 ・ストップウォッチに親しませながら，「秒」を運動などの活動と結び付けることを通して，その量の感覚を捉えるようにする。
	（イ）日常生活に必要な時刻や時間を求めること	・実際に時計の模型の針を動かし，針が進んだ目盛りの数を数えたり，数直線上に表された時刻や時間を読んだりすることを指導する。 ・計算によって求める場合には，日常生活の中で必要となる場面で指導し，複雑な単位の換算は避けるようにする。
	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）時間の単位に着目し，時刻や時間の求め方について考察し，日常生活に生かすこと	・模型の時計の針の動きを観察したり，数直線上の目盛りやその間について考察させたりする。

【D　変化と関係】

【目標】

・変化や対応の特徴を見いだして，二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力を養う。

・図や表，式などを用いて変化や対応関係やある二つの数量と別の二つの数量の関係との比べ方を考察するとともに，その結果を日常生活に生かせるようにする。

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第4学年	⑴ 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるように指導する。	
	ア　知識及び技能	
	（ア）変化の様子を表や式，折れ線グラフを用いて表したり，変化の特徴を読み取ったりすること	◎具体的な問題場面において，表から，変化の様子を□，△などを用いた式に表したり，表された式から，数量の関係の特徴を読み取ったりすることができるようにする。
	イ　思考力，判断力，表現力等	
	（ア）伴って変わる二つの数量を見いだして，それらの関係に着目し，表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること	◎一方の数量を決めれば他の数量が決まるかどうか，あるいは，一方の数量は他の数量に伴って一定の決まりに伴って変化するか，というような見方で二つの数量の関係を見ていく。 ・児童が自らいくつかの数値について計算をするなどして，データを集める活動を充実させる。 ・対応する値の組を順序よく表などに整理したり，式を用いて表したりして，変化や対応の特徴としての規則性があるかどうか，ある場合には，どんな規則性があるかを明らかにしていく。 ※見いだされた変化や対応における規則性を適用する際には，知りたい数量との関係を捉え，どの数値を使うのかを判断するなど，筋道を立てて考えることが必要である。
	⑵ 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるように指導する。	
	ア　知識及び理解	
	（ア）簡単な場合について，ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを知る	◎簡単な場合とは，二つの数量の関係が，基準とする数量を１とみたときにもう一方の数量が，２倍，３倍，４倍などの整数で表される場合について，二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べることを知る程度を指す。
	イ　思考力，判断力，表現力等	
	（ア）日常の事象における数量の関係に着目し，図や式などを用いて，ある二つの数量の関係との数量の関係との比べ方を考察すること	◎基準量を１とみたときに，比較量が２倍，３倍，４倍などの整数で捉えられる場合について扱い，数量の関係に着目する力を伸ばす。 ・比べる際に必要な基準量，比較量，に着目しやすくするために，

第4学年		問題としている場面を絵や図で表すことが大切である。また，乗法，除法の意味，分数の意味，測定の意味について理解する際に，割合の見方の基礎を学習してきているので，これらと関連付けて指導する。 ※言葉，テープ図や数直線などの図，式などを用いて基準量と比較量を表し，また，表された表現の中から，基準量と比較量を読み取って，割合を求めていくことが必要である。 ・数量の関係を差で比べることに親しんでいることが考えられるため，割合を用いた比べ方の特徴に気付かせることも大切である。
第5学年	**【目標】** ・伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し変化や対応の特徴を見いだして，二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力を養う。 ・日常の事象における伴って変わる二つの数量及びそれらの関係に着目し，図や表，式などを用いて，簡単な比例における変化や対応の考察や割合や単位量当たりの大きさにおける目的の応じた大小の比較及び表現をするとともに，それらを日常生活で生かせるようにする。	
	指導内容	内容の取扱い
	(1) 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるように指導する。	
	ア　知識及び技能 (ア) 簡単な場合について，比例の関係があることを知ること	◎簡単な場合とは，表を用いて，一方が2倍，3倍，4倍，…になれば，それに伴って他方も2倍，3倍，4倍，…になる二つの数量の関係について知る程度を指す。 ・比例の関係は，これまでに指導した乗法の場面と深くかかわっていることに気付かせることも大切である。 ・1からの2倍，3倍，4倍，…を調べるだけでなく，2からも同様な関係になっていることも理解できるようにする。また，2倍や3倍であるということは×2や×3をすることと考えれば，逆にみると÷2や÷3になっていることに触れる。
	イ　思考力，判断力，表現力等 (ア) 伴って変わる二つの数量を見いだして，それらの関係に着目し，表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること	・一方の数量を決めれば他方の数量が決まるかどうか，あるいは，一方の数量は他方の数量に伴って一定の決まりに従って変化するか，といった見方でみて，二つの数量の関係に着目する。考察の対象となる事柄の範囲を明確にすることも大切にしていく。 ・一方が2倍になれば，それに対応して他方も2倍になっていることを見いだしたのであれば，一方が3倍になったときはどうか，一方が4倍になったときはどうかなど，その規則性が，他の数値の間においても成り立つのかを確かめることが大切である。また，その規則性を式で考察していけるようにする。

第5学年	⑵ 異種の二つの量の割合として捉えられる数量に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるように指導する。	
	ア　知識及び技能	
	（ア）速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し，それを求めること	・見いだされた変化や対応における規則性を生かして，問題を解決する。さらに，関数のきまりを基に，数値を変えるなどして問題場面の条件を変更することで，変化や対応の特徴を発展的に考察することも大切である。 ・三つ以上のものを比べたり，いつでも比べられるようにしたりするためには，単位量当たりの大きさを用いて比べることを理解し，単位量当たりの大きさを用いて比べることができるようにすることが大切である。
	イ　思考力，判断力，表現力等	
	（ア）異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し，目的に応じて大きさを比べたり，表現したりする方法を考察し，それらを日常生活に生かすこと	・一つの量だけでは比較できない事象をどのように比べることができるかを考えたり，数値化することができるかを考えたりすることが大切である。さらに，例えば速さであれば，移動した長さや時間など，目的に応じた処理の仕方を工夫することが大切である。 ・混み具合のように，一つの量だけでは比べることができない量があることを，具体的な場面を用意して理解させる。 ・どのように比べることができるかを考える際には，一方の量をそろえて比較する。これは二つの量の間に比例化関係や平均の考えを前提にしている。これらのことを理解させていくことが大切である。
	⑶ 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるようにする	
	ア　知識及び技能	
	（ア）ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること	※基準量を１として，比較量を割合として小数で表すことで，資料の全部と部分，あるいは，部分と部分の関係どうしを比べる場合があることを理解し，そのような比べ方ができるようにする。 ※割合は，「Bを基にしたAの割合」，「Bの□倍がA」など，様々な表現で示されるため，割合を示す表現の中から，基準量や比較量を明確にすることも必要である。
	（イ）百分率を用いた表し方を理解し，割合などを求めること	・割合をなるべく整数で表すために，基準とする量の大きさを 100 として，それに対する割合で表す方法が，百分率（パーセント）であることを指導する。

		・日常の生活の中から百分率が用いられる事象を探すなどの活動を通して，算数が生活の様々な場で用いられていることに気付くことができるよう配慮する。 ・ここで取り扱う歩合の意味については，百分率の場合と関連付け，基準とする大きさを 10 とみて，それに対する割合を「割」で表していることなどに触れるようにする。 ・また，歩合も，百分率と同様，日常生活の中で用いられている割合の便利な表現であることに気付くことができるよう配慮する。
第5学年	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）日常の事象における数量の関係に着目し，図や式などを用いて，ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し，それを日常生活に生かすこと	・二つの数量関係に着目し，問題の条件や割合の求め方を基に，何を基準とし，何を比較量とするかなどを筋道を立てて考える。 ・二つの数量関係どうしを比べるときに，基準とする数量やその大きさをどのように決めるかは，何を目的としているかによって異なってくる。割合を小数で表すか，整数で表すか，また，基準量を100にするか10にするか，目的に照らして判断することが大切である。 ・日常生活の二つの数量の関係を考察する問題場面では，得られた割合の大小から判断したり，割合を使って計算をした結果から問題を解決したりする。その際，得られた結果を日常の事象に戻してその意味を考え，必要に応じて考察の方法や表現方法を見直すことが大切である。 ・用いた方法や結果を振り返り，二つの数量の関係どうしを比べる場合に，どのような比べ方が適切であるかを考えることも大切である。 ※二つの数量の関係どうしを比べるには，数量の関係を，図や式などを用いて表したり，図や式から数量の関係を読み取ったりしていく。 ・割合については全国学力・学習調査（『平成24年度全国学力・学習状況調査報告書』266ページ）などで課題が示されており，指導にあたっては，言葉と図や式を関連付けるような活動を取り入れ，それを言葉で説明することが大切である。

第6学年

【目標】

・変化や対応の特徴を見いだして，二つの数量の関係を表やグラフを用いて考察する力を養う。

・日常の事象における伴って変わる二つの数量及びそれえらの関係に着目し，図，表，グラフ，式などを用いて比例や反比例における変化及び対応や比における数量の関係の比べ方を考察するとともに，その結果を日常生活で生かせるようにする。

指導内容	内容の取扱い
⑴ 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるようにする。	
ア　知識及び技能	
（ア）比例の関係の意味や性質を理解すること 〔比例の意味〕 ①二つの数量A，Bがあり，一方の量が2倍，3倍，4倍，…と変化するのに伴って，他方の数量も2倍，3倍，4倍，…と変化し，一方が $\frac{1}{2}$，$\frac{1}{3}$，$\frac{1}{4}$，…と変化するのに伴って，他方も $\frac{1}{2}$，$\frac{1}{3}$，$\frac{1}{4}$，…と変化するということ ②①の見方を一般的にして，二つの数量の一方がm倍になれば，それと対応する他方の数量はm倍になるということ ③二つの数量の対応している値の商に着目すると，それがどこも一定になっているということ	・日常の事象における二つの伴って変わる数量の関係を表などに表し，変化の特徴を調べることを通して，①のような特徴をもった数量の関係として比例をとらえられるようにする。 ・①の見方から②の見方ができるようになることは必ずしも容易ではない。表に色々な数値を入れて調べてみるなどの活動を通して，②の見方に気付いていけるような指導を工夫する必要がある。 ・対応している値の商に着目する③の見方は，関数の考えからみて，二つの数量が比例の関係にあるかどうかを調べる上でも有効であるので，こうした対応の見方をよく理解できるよう指導をしておく。 ・伴って変わる様々な二つの数量の関係をグラフに表すなどの活動を通して，比例する二つの数量について，そのグラフが直線になることを，具体的な数量に即して理解できるよう指導する。
（イ）比例の関係を用いた問題解決の方法について知ること 〔比例の関係を用いた問題解決の過程〕 ①比例の関係かどうかわからないが，おおむね比例の関係にあるとみてよさそうな数量を，幾つかの数値について調べることで見いだすことになる。 ②目的に応じて表や式，グラフを用いて関係を表現し，変化や対応の特徴を見いだす。 ③一方の数量がｍ倍ならば，他方の数量もｍ倍になるなど，比例の変化や対応の特徴を確認した後，それらの考えを用いて，問題の解決を行う。	・左記のような問題解決の方法を身に付けるには，比例の関係が有効に用いられる場面を用意する。比例の関係を用いると手際よく問題を解決することができるなどのよさを味わわせるよう配慮し，日常の問題の解決に進んで比例の関係を活用しようとする態度を育てるようにする。

第6学年	（ウ）反比例の関係について知ること 〔反比例の意味〕 ①二つの数量A，Bがあり，一方の量が2倍，3倍，4倍，…と変化するのに伴って，他方の数量は$\frac{1}{2}$，$\frac{1}{3}$，$\frac{1}{4}$，…と変化し，一方が$\frac{1}{2}$，$\frac{1}{3}$，$\frac{1}{4}$，…と変化するのに伴って，他方は，2倍，3倍，4倍，…と変化するということ ②①の見方を一般的にして，二つの数量の一方がm倍になれば，それと対応する他方の数量は$\frac{1}{m}$倍になるということ ③二つの数量の対応している値の積に着目すると，それがどこも一定になっているということ	・指導に当たっては，比例と反比例を比較することが大切であり，反比例のグラフについては，児童が反比例の関係を満足する幾つかの点をとったり，教師がグラフに示したりすることで，変化の様子を調べられるようにして，比例と反比例の違いに気付けるようにする。
	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）伴って変わる二つの数量を見いだして，それらの関係に着目し，目的に応じて表や式，グラフを用いてそれらの関係を表現して，変化や対応の特徴を見いだすとともに，それらを日常生活に生かすこと	・調べたい数量に関係するほかの数量が，比例の関係にあるとみてよいかどうかを確認することが大切である。また，比例の関係にあるとみることのできる数量として，幾つかの候補がある場合，どの数量に着目するかを，目的や状況を考えながら判断し，選択することも大切である。 ・目的に応じて，表，式，グラフなどから適切な表現を選択して，変化や対応の特徴を考察していく。 ・見いだした特徴を用いて，知りたい数量についての結果を導き，その結果を活用して，問題を解決するようにする。目的に応じて適切な表現を判断することは，それぞれの数学的表現の特徴やよさに気付くことにもつながる。 ・比例の関係を用いた問題解決の活動を通して，日常生活や算数の学習などの場面で，能率のよい処理の仕方を求めて，積極的に比例の関係を生かしていこうとする態度を養う。
	⑵ 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるようにする。 ア　知識及び技能 （ア）比の意味や表し方を理解し，数量の関係を比で表したり，等しい比をつくったりすること	・これまで学習してきた，倍に関する指導，分数の指導，比例関係に関する指導などの基礎の上に，a：bという比の表し方を指導する。これに関連して，$\frac{a}{b}$をa：bの比の値ということや，比の値を用いると相等（等しい比）を確かめることができることを理解できるようにする。

第6学年		・指導にあたっては，具体的な場面によって，比の相等とそれらの意味について理解させる。 ・比は，比例，反比例や縮図・拡大図などと深く関連するものであるので，その指導の順序や取り扱いには，相互に理解を深めることができるように配慮する必要がある。
	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）日常の事象における数量の関係に着目し，図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し，それを日常生活に生かすこと	※比べるために必要となる二つの数量の関係を，比例の関係を前提に，割合で見てよいかを判断する。そして，どちらか一方を基準にすることなく，簡単な整数の組としての二つの数量の関係に着目する。 ・整数の組で捉えたほうが，数量の関係が見やすかったり，処理がしやすかったりすることも多いことに気付かせる。 ・例えば，２：３というのは，４：６，６：９，…などを同じ関係としてみていることを表しているという考えによって，数量の関係を比べたり，知りたい数量の大きさを求めたりしていく。 ・数量の関係を考察する上では，目的に応じて，図や式を関連付けて，数量の関係を考え，得られた結果を日常の事象に戻して，その意味を考える。そして，必要に応じて考察の方法や表現方法を見直すことが大切である。 ・比は，日常生活の色々な場面で用いられる。比によって数量の関係を表現している事象を探す活動を通して，比による数量の関係への着目の仕方に親しむことも大切である。

中学校

第1学年

⑴ 比例，反比例について数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　知識及び技能

（ア）　関数関係の意味を理解すること

（イ）　比例，反比例の意味を理解すること

（ウ）　座標の意味を理解すること

（エ）　比例，反比例を表，式，グラフなどにあらわすこと

イ　思考力，判断力，表現力等

（ア）　比例，反比例を用いて具体的な事象をとらえ説明すること

〔用語・記号〕　関数　変数　変域

第2学年

⑴ 一次関数について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア　知識及び技能

（ア）一次関数について理解すること

（イ）事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知ること

（ウ）二元一次関数を関数を表す式とみること

イ　思考力，判断力，表現力等

（ア）一次関数として捉えられる二つの数量について，変化や対応の特徴を見いだし，表，式，グラフを相互に関連付けて考察し表現すること

（イ）一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること

〔用語・記号〕変化の割合　傾き

第3学年

⑴ $y=ax^2$について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　知識及び技能

（ア）$y=ax^2$について理解すること

（イ）事象の中には関数　$y=ax^2$として捉えられるものがあることを知ること

（ウ）いろいろな事象の中に，関数関係があることを理解すること

イ　思考力，判断力，表現力等

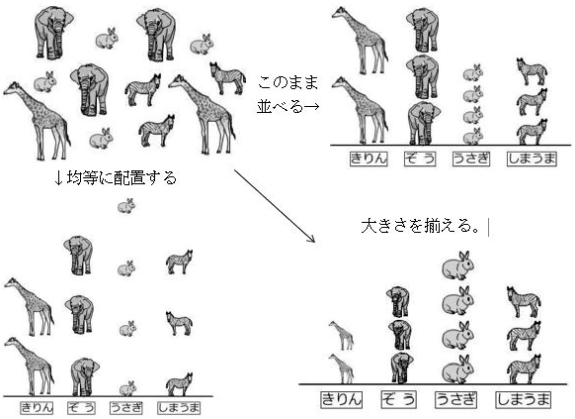
（ア）$y=ax^2$として捉えられる二つの数量について，変化や対応の特徴を見いだし，表，式，グラフを相互に関連付けて考察し表現すること

（イ）$y=ax^2$を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること

【E　データの活用】

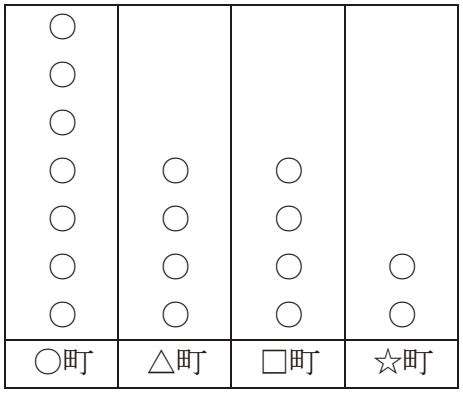
<table>
<tr><td rowspan="4">第
1
学
年</td><td colspan="2">【目標】
・データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力を養う。
・身の回りにあるデータに関心をもって，事象の特徴を，データの個数に着目し，大小や順番から捉えることができるようにする。</td></tr>
<tr><td>指　導　内　容</td><td>内　容　の　取　扱　い</td></tr>
<tr><td>(1) 数量の整理に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　知識及び技能
（ア）ものの個数について，簡単な絵や図などに表したり，それらを読み取ったりすること

イ　思考力，判断力，表現力等
（ア）データの個数に着目し，身の回りの事象の特徴を捉えること</td><td>・ものの個数を数えたり比べたりするとき，対象を絵などに置き換える際には，それらの大きさを揃えることや，並べる際に，均等に配置することが必要であることを理解できるようにする。
 

・データの個数に着目し，身の回りの事象の特徴を捉えるとは，身の回りの事象に関する数の大小関係を，絵などを用いて整理して表現し，どの項目がどの程度多いのかといったことを捉えることである。</td></tr>
<tr><td>第
2
学
年</td><td colspan="2">【目標】
・身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え，　簡潔に表現したり考察したりする力を養う。
・身の回りの事象をデータを整理する観点に着目し，その事象の特徴を簡単な表やグラフに表して考察することができるようにする。</td></tr>
<tr><td>指　導　内　容</td><td>内　容　の　取　扱　い</td></tr>
<tr><td>(1) データの分析に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　知識及び技能
（ア）身の回りにある数量を分類整理し，簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすること</td><td>・身の回りにある数量について，分類整理して簡単な表（観点が一つの表）やグラフに表し，その表やグラフから，個数が</td></tr>
</table>

第2学年	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）データを整理する観点に着目し，身の回りの事象について表やグラフを用いて考察すること 校くのしせつしらべ（こ）  〇町 △町 □町 ☆町 7 4 4 2 校くのしせつしらべ  〇町 △町 □町 ☆町	最も多いなどの特徴を読み取ったりすることができるようにする。 ※データを分析する際に注目する観点を定め，その観点に沿って分類整理し，簡単な表やグラフに表してデータの特徴を読み取り，事象について考察できるようにする。 ・着目する観点によって，分類整理の仕方が異なる。何を知りたいかによって，着目する観点を考えられるようにする。 ・カードを並び替えて整理することもできるが，表やグラフを用いることで簡潔に，視覚的に分かりやすくなることに気付き，考察できるようにする。

【目標】

・身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え，簡潔に表現したり適切に判断したりする力を養う。

・身の回りの事象のデータを整理する観点に着目し，その事象の特徴を簡単な表や棒グラフに表すとともにそれを基に適切な判断ができるようにする。

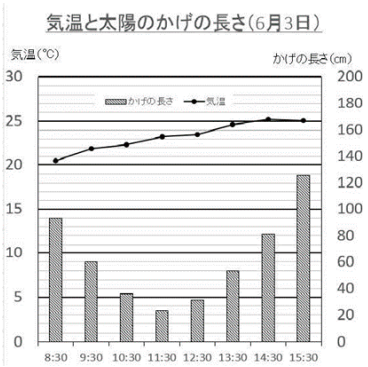
第3学年	指導内容	内容の取扱い
	(1) データの分析に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）日時の観点や場所の観点などからデータを分類整理し，表に表したり読んだりすること	・日時，曜日，時間や場所などの観点から分類の項目を選び，資料を目的にあった手際のよい方法で，分かりやすく整理することを通して，表の意味を理解し，表を用いて表したり，表を読んだりすることができるようにする。 ◎簡単な二次元の表を取り扱い，組み合わせて作成した表を読むこともできるようにする。 ※目的を明らかにし，集める資料の条件を考えたり，目的にあった分類の観点を選んだりできるようにする。 ・資料に落ちや重なりがないように項目を決めたり，資料を分類したりすることができるようにする。

第3学年		・機械的に処理したり表を考察したりするだけではなく，児童自身が課題を明確に捉え，それに沿って資料を積極的に集め，観点を決めて分類整理していこうとする態度や能力を伸ばすよう配慮する。 ・表については，分類の仕方や，表し方に様々な種類があるので，それぞれの特色について理解したり，目的に応じて用いるたりすることができるようにする。
	（イ）棒グラフの特徴やその用い方を理解すること	・棒グラフについて，数量の大小や差などを読むことに加えて，最大値や最小値を捉えたり，項目間の関係，集団のもつ全体的な特徴などを読み取ったりすることができるようにする。 ※表と関連付けながら，児童が見いだしたことを表現することを通して，データの中の数量の大きさの違いを一目で捉えることができるという棒グラフの特徴についても気付くことができるようにする。 ・目盛りの付け方，読み方については，最小目盛りが１，10，100に当たるものを中心とし，目的によっては最小目盛りが２，５又は20，50などに当たるものについても，読んだりかいたりできるようにする。 ・その際，同じグラフを異なる目盛りの付け方で表した複数のグラフを比較したり，何種類かのグラフ用紙の中から適切な用紙を選択したりする活動を通して，グラフ用紙の大きさなどに応じて目盛りの付け方を工夫し，目的にあった目盛りを用いることができるようにする。
	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）データを整理する観点に着目し，身の回りの事象について表やグラフを用いて考察して，見いだしたことを表現すること 遊び調べのデータについて，学級ごとに好きな遊びに違いはあるのかを分析するという観点で，分類整理した表 1組の好きな遊び（人） 種類 / 人数 ハンカチ落とし 7 いす取りゲーム 6 かくれんぼ 5 おにごっこ 3 かんけり 2 合計 23 2組の好きな遊び（人） 種類 / 人数 ハンカチ落とし 5 いす取りゲーム 6 かくれんぼ 3 おにごっこ 4 かんけり 3 合計 21 クラスごとの好きな遊び（人） 種類 / 1組 / 2組 / 合計 ハンカチ落とし 7 5 12 いす取りゲーム 6 6 12 かくれんぼ 5 3 8 おにごっこ 3 4 7 かんけり 2 3 5 合計 23 21 44	・データをどのように分類整理すればよいかについて，解決したい問題に応じて観点を定めるようにする。 ★自分たちの生活する身の回りの様々な事象における，解決したい問題に応じて定めた観点によって，データを表に分類整理したり，グラフにまとめたりすることで特徴や傾向を捉え考察する。 ※表やグラフから特徴や傾向を捉えたり，　考察したりしたことを，表のどの部分から，あるいはグラフのどの部分からそのように考えたりしたのかを，ほかの人にも分かるように伝えるようにする。

第4学年

【目標】

・目的に応じてデータを収集し，表やグラフに的確に表現し，それらを用いて問題解決したり，解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力を養う。

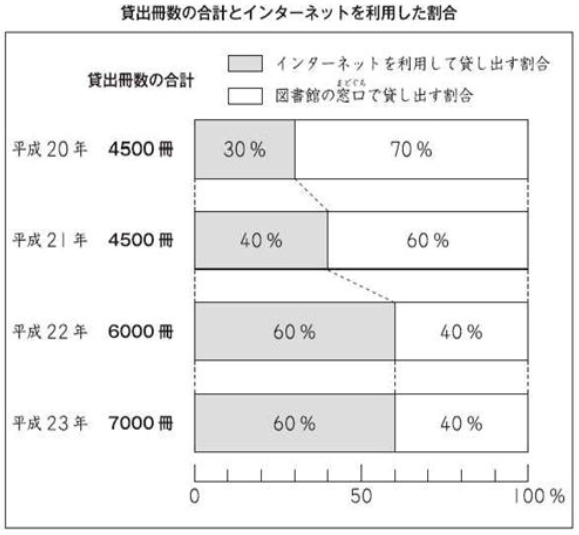
指導内容	内容の取扱い
⑴ データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
ア　知識及び技能	
（ア）データを二つの観点から分類整理する方法を知ること	・日時，曜日，時間や場所などの観点から項目を二つ選び，分類整理して表を用いて表したり，そうした表を読んだりすることができるようにする。 ・データを集めて分類整理するに当たって，目的に応じ，ある観点から起こり得る場合を分類し，項目を決めることが必要である。 ・二つの観点から，物事を分類整理したり，論理的に起こり得る場合を調べたり，落ちや重なりがないように考えたりすることもできるようにする。
（イ）折れ線グラフの特徴とその用い方を理解すること 	・資料を調べるときに，落ちや重なりがないようにするために，データの読み飛ばしのないように順序よく数えること，あらかじめ起こり得る場合を整理すること，重複して数えることがないように数えたデータに色や印を付けることなど，数え間違いをなくす方法を具体的に指導する必要がある。 ・折れ線グラフについて，紙面の大きさや目的に応じて，適切な一目盛りの大きさやグラフ全体の大きさを決めることができるようにする。 ・同じグラフであっても，折れ線グラフの縦軸の幅を変えることなどによって，見え方が異なることに気付かせるようにする。 ※複数系列のグラフや組み合わせたグラフについても扱い，特徴を読み取れるようにする。
イ　思考力，判断力，表現力等	
（ア）目的に応じてデータを集めて分類整理し，データの特徴や傾向に着目し，問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し，その結論について考察すること	★解決すべき問題や調べてみたいことがらに関して適したデータを収集し分類整理する。 ・児童にとって身近な興味や気付きなどから，判断や考察したい事象を問題場面として設定できるようにする。 ★各々の観点で集めたデータを，どのように整理して表せば問題に対する結論を出しやすいかを考えるようにする。 ・集めたデータを分類整理し，表やグラフなどに表して導いた結論が，問題の解決にかなうものであるのかどうか，また結論は誤りではないか，ということを考察する。

第5学年

【目標】

・目的に応じてデータを収集し，表やグラフに的確に表現し，それらを用いて問題解決したり，解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力を養う。

・事象を概括的に捉え，平均を使って考察することやそれを学習や生活に生かせるようにする。

指導内容	内容の取扱い
(1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
ア 知識及び技能	
(ア) 円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解すること	・円グラフは，データを分類整理した際の各項目の割合に対応させて，円をおうぎ形に区切って表したグラフのことであり，$\frac{1}{2}$ や$\frac{1}{4}$ といった割合を捉えやすいという特徴がある。 ・円グラフについては，10 等分又は 100 等分の目盛りの入った用紙を用いる。 ・帯グラフは帯状の長方形を割合に対応させて幾つかの長方形に区切って表したものである。 ・複数の帯グラフを用いる際には，各帯グラフの合計が異なっている場合があり， そのような場合には割合が小さくなっていても実際のデータとしては大きいなど，見た目では比較ができない場合があるため注意が必要である。
下の図は平成 22 年と 23 年について，インターネットを利用して貸し出す割合は同じ 60%であるが，合計冊数が異なっているため，それぞれの年のインターネットを利用して貸し出した本の冊数は異なっている。	
	
(イ) データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること	・統計的な問題解決とは，問題(Problem)－計画(Plan)－データ(Data)－分析(Analysis)－結論(Conclusion)という五つの段階を経て問題解決することである。 ・自分たちが学習した分析手法の中でどれを用いて分析するかを計画の段階で視野に入れたり，分析手法に合わせたデータの集め方などを考えたりする。 ・得られた結論の意味や妥当性，問題解決の各段階が適切であったかについて，振り返って考え直す態度を養うことにも留意する。

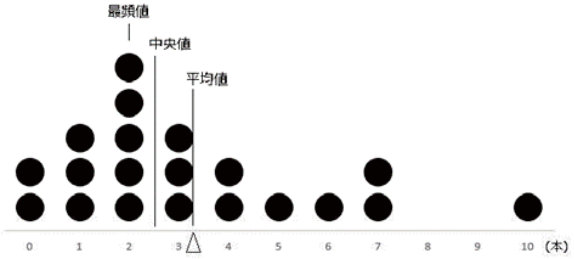
第5学年	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）目的に応じてデータを集めて分類整理し，データの特徴や傾向に着目し，問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し，その結論について多面的に捉え考察すること。	・児童にとって身近な興味や気付きなどから，判断や考察したい事象を問題場面として設定できるようにする。 ・データの種類や項目の数を考え，目的に応じて，簡単な表や二次元の表，棒グラフ，折れ線グラフ，円グラフ，帯グラフといった表現から適切なものを選択して表してみることで，特徴や傾向をつかみ，判断していくようにする。 ・自分たちが出した結論やデータについて，別の観点から見直してみることで，異なる結論が導きだせないかどうかを考察できるようにする。 ・割合でみていたものを量でみなおしてみたり，観点を変えて整理し直してみたりする。
	⑵ 測定した結果を平均する方法に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　知識及び技能 （ア）平均の意味について理解すること	・測定した結果を平均する方法ついては，多いところから少ないところへ移動しならすという方法や，全てを足し合わせたのち等分するという方法が考えられるが，それらの方法と平均の意味を関連させて理解できるようにする。 ・測定には必ず誤差が伴うことに気付かせ，それを考慮に入れた測定値の平均についても指導する。 ・一つのものの測定値として幾つかの数量があったとき，それらを同じ大きさの数量にならすことでより妥当な数値が得られる場合がある。そこで測定値を平均する考えを用いることを指導する。 ★測定値を平均することは，日常生活だけでなく理科などでも活用して用いられるようにする。
	イ　思考力，判断力，表現力等 （ア）概括的に捉えることに着目し，測定した結果を平均する方法について考察し，それを学習や日常生活に生かすこと	★測定した結果を平均する方法について考察し，平均の考えを理科の学習をはじめ，日常生活に生かすことができるようにする。

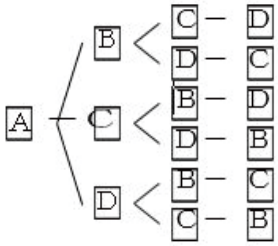
第6学年

【目標】

・身の回りの事象から設定した問題について，目的に応じてデータを収集し，データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行い，それらを用いて問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察したりする力を養う。

・事象の特徴に着目し，順序よく整理する観点を決めて，落ちや重なりなく調べる方法を考察することができるようにする。

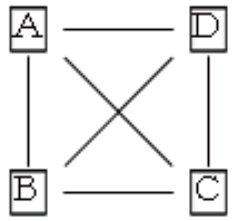
指導内容	内容の取扱い
(1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
ア　知識及び技能	
（ア）代表値の意味や求め方を理解すること	※量的データの特徴を読み取る場合，データ全体を表す指標として平均値，中央値，最頻値などの代表値を用いる場合がある。 ・平均値として一つの数値で表すことで，データの特徴を簡潔に表すことができ，複数のデータを比較することも容易になる。しかしその反面，分布の形などの情報は失われているので代表値の用い方には留意する。 ・分布が非対称であったり多峰性であったりする場合や，極端にかけ離れた値があったりすると，平均値はデータが集中している付近からずれてしまうことがあり，そのような場合には代表値としてふさわしくない。 このようなとき，中央値や最頻値を代表値として用いる。 ・代表値を用いる場合は，資料の特徴や代表値を用いる目的を明らかにし，どのような代表値を用いるべきか判断する。 ・データをドットプロットに表したり，ドットプロットからデータの特徴や傾向を読み取ったり，最頻値や中央値を見付けたりできるようにする。
ドットプロットとは数直線上の該当する箇所にデータを配置し，同じ値のデータがある際には積み上げて表したものである。ドットプロットを用いることでデータの散らばりの様子が視覚的に捉えやすくなる。下の図は，学級内で地域の空き缶拾いの缶の数を調べてまとめたドットプロットであるが，最も高く積み上がった２本が最頻値ということになる。	
空き缶拾いの缶の数  	
（イ）度数分布を表す表やグラフの特徴及びそれらの用い方を理解すること	・度数分布表は，分布の様子を数量的に捉えやすくするために，数量を幾つかの区間（階級という）に分けて，各区間に，それに入る度数を対応させた表である。 ・柱状グラフを用いることで，資料の分布の様子を捉えることができる。変量を幾つかの階級に分け，ある階級に属する度数を明らかにすることで，全体の形，左右の広がりの範囲，山の頂上の位置，対称性など，直観的に捉えやすくなる。 ・ドットプロットでも分布の様子を捉えることができるが，扱うデータが小数点など刻みが細かくなっていたり，最小値と最大値の差が著しく開いている場合などには各点がほとんど積み上がることなく，まばらに広がってしまうことがあ

第6学年		る。そのような場合には柱状グラフを用いると考察しやすくなる。
	（ウ）目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど，統計的な問題解決の方法を知ること	・統計的な問題解決とは，問題(Problem)－計画(Plan)－データ(Data)－分析(Analysis)－結論(Conclusion)という五つの段階を経て問題解決することである。 ・身の回りの事象について，統計的な問題解決の方法で考察していくことでその方法への理解を深めるとともに，目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなどについて理解し，このことができるようにしていく。
	イ　思考力，判断力，表現力等を （ア）目的に応じてデータを集めて分類整理し，データの特徴や傾向に着目し，代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに，その妥当性について批判的に考察すること	・統計的に解決する問題を設定し，その解決のために適したデータを収集し分類整理する。 ・目的を明確にするために，身の回りにある不確定な事象で確かめてみたいことについて，そのことを統計的に解決していく問題として設定できるようにする。 ・代表値を求めたり，度数分布を表す表や柱状グラフからデータ全体の分布の様子を捉えたりすることで，それら特徴が表す意味を考察する。 ・自分たちが出した結論や問題解決の過程が妥当なものであるかどうかを別の観点や立場から検討してみることや，第三者によって提示された統計的な結論が信頼できるだけの根拠を伴ったものであるかどうかを検討する。
	〔用語・記号〕 ドットプロット　平均値　中央値　最頻値　階級	
	⑵ 起こり得る場合に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	ア　知識及び技能 （ア）起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの用い方を知ること	・思いつくままに列挙していたのでは落ちや重なりが生じるような順序や組み合わせなどの事象について，規則に従って正しく並べたり，整理して見やすくしたりして，誤りなく全ての場合を明らかにできるようにする。
	４人が一列に並ぶ場合を考えるとき A－B－C－D A－B－D－C A－C－B－D A－C－D－B A－D－B－C A－D－C－B 	・起こり得る場合を順序よく整理するため，左のような図や表を適切に用いることができるようにする。

第6学年

四つのチームの対戦の組み合わせを考えるとき

A－B
A－C
A－D
B－C
B－D
C－D



	A	B	C	D
A				
B				
C				
D				

イ　思考力，判断力，表現力等

（ア）事象の特徴に着目し，順序よく整理する観点を決めて，落ちや重なりなく調べる方法を考察すること

・起こり得る場合を考える際に，落ちや重なりなく調べるには，観点を決めて考えていくようにする。
・順序よく調べていこうとしても，場合が多かったり複雑だったりすると，落ちや重なりが発生する可能性が増すことになるので，図や表などに整理して表すようにする。
・落ちや重なりがないように考えていくことは，思考や表現の方法を工夫することや，筋道を立てて考えていくことにつながるものである。多様な考えに触れ，それぞれのよさに気付くようにしていく。

中学校

第1学年

⑴ データの分布について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識及び技能

（ア）ヒストグラムや相対度数などの必要性と意味を理解すること

（イ）コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理すること

イ 思考力，判断力，表現力等

（ア）目的に応じてデータを収集して分析し，そのデータの分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断すること

⑵ 不確定な事象の起こりやすさについて，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識及び技能

（ア）多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解すること

イ 思考力，判断力，表現力等

（ア）多数の観察や多数回の試行の結果を基にして，不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現すること

〔用語・記号〕 範囲 累積度数

第2学年

⑴ データの分布について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識及び技能

（ア）四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味を理解すること

（イ）コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すこと

イ 思考力，判断力，表現力等

（ア）四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り，批判的に考察し判断すること

⑵ 不確定な事象の起こりやすさについて，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識及び技能

（ア）多数回の試行によって得られる確率と関連付けて，場合の数を基にして得られる確率の必要性と意味を理解すること

（イ）簡単な場合について確率を求めること

イ 思考力，判断力，表現力等

（ア）同様に確からしいことに着目し，場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現すること

（イ）確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現すること

第3学年

⑴ 標本調査について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識及び技能

（ア）標本調査の必要性と意味を理解すること

（イ）コンピュータなの情報手段を用いるなどして無作為に標本を取り出し，整理すること

イ 思考力，判断力，表現力等

（ア）標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現すること

（イ）簡単な場合について標本調査を行い，母集団の傾向を推定し判断すること

〔用語・記号〕 全数調査

第４節　　理　　科

第１　目　　標

（小学校）

自然に親しみ，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　自然の事物・現象についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。（知識及び技能）

(2)　観察，実験などを行い，問題解決の力を養う。（思考力，判断力，表現力等）

(3)　自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。（学びに向かう力，人間性等）

※「理科の見方」とは，

「エネルギー」を柱とする領域　　主として量的・関係的な視点で捉えること。

「粒子」を柱とする領域　　主として質的・実体的な視点で捉えること。

「生命」を柱とする領域　　主として多様性と共通性の視点で捉えること。

「地球」を柱とする領域　　主として時間的・空間的な視点で捉えること。

※「理科の考え方」とは，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。

（小学校　生活科）

具体的な活動や体験を通して，身近な生活に関わる見方・考え方を生かし，自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　活動や体験の過程において，自分自身，身近な人々，社会及び自然の 特徴やよさ，それらの関わり等に気付くとともに，生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。（知識及び技能の基礎）

(2)　身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉え，自分自身や自分 の生活について考え，表現することができるようにする。（思考力，判断力，表現力等の基礎）

(3)　身近な人々，社会及び自然に自ら働きかけ，意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。（学びに向かう力，人間性等）

（中学校）

自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。（知識及び技能）

(2)　観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。（思考力，判断力，表現力等）

(3)　自然の事物・現象に進んで関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。（学びに向かう力，人間性等）

	小学校生活科		小学校　理科				中学校　理科		
標準 授業時数	１年	２年	３年	４年	５年	６年	１年	２年	３年
	102	105	90	105	105	105	105	140	140

第２　各領域の目標及び内容

【A　粒子…見方「主として質的・実体的な視点」】

▲：他校種とのつながり，◎：他学年とのつながり，★：他教科とのつながり
※：特に配慮を要する事項，◆：参考事項（神戸の特色等）

第1・2学年　生活科

【生活科・目標】

（2）身近な人々，社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して，それらを工夫したり楽しんだりすることができ，活動のよさや大切さに気付き，自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。

【生活科・内容】

（6）身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活 動を通して，遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ，その面白さや自然の不思議さに気付くとともに，みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

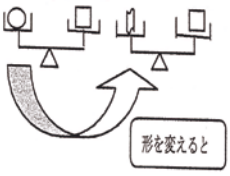
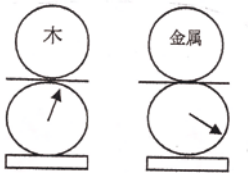
第３学年　粒子

【目標】

① 物の性質についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。（知識及び技能…知・技）

② 物の性質について追究する中で，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力を養う。（思考力，判断力，表現力等…思・判・表）

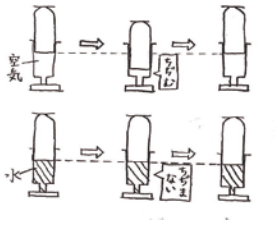
③ 物の性質について追究する中で，主体的に問題解決しようとする態度を養う。（学びに向かう力，人間性等…主体性）

指導内容（自然の事物・現象）	内　容　の　取　扱　い　（[見方]，[考え方]）
（1）物と重さ 物の性質について，形や体積に着目して，重さを比較しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する	◎⇒第５学年「A（1）物の溶け方」（…粒子の保存性に関わるもの） ▲中学校第１分野「（2）ア（イ）水溶液」，「（2）ア（ウ）状態変化」 ★算数科…てんびん，自動上皿はかり等の機器の使用や重さの単位
ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。	**[考え方] 物と重さについて，形や体積とその重さを「比較」することで，問題解決を図っていく。**
（ア）物は，形が変わっても重さは変わらないこと。 （例） 	**[見方] 物の形と重さについて，質的，量的な視点で捉える。** ・差異点や共通点を基に，形を変えたときの重さの変化についての問題を見いだし，表現するとともに，物は，形が変わっても重さは変わらないことを捉えるようにする。 →物の形に着目して，数種類の身の回りにある形を変えられるものを，広げたり，いくつかに分けて丸めたり形を変え，手ごたえなどの体感を基に，てんびんを用いたり，自動上皿はかりを用いて重さを数値化したりして，重さを比較しながら調べる。 ※粘土やアルミニウム箔など，形を変えることが容易な物が考えられる。
（イ）物は，体積が同じでも重さは違うことがあること。 （例） 	**[見方] 物の体積と重さについて，質的・量的な視点で捉える。** ・差異点や共通点を基に，体積を同じにした時の重さの違いについての問題を見いだし，表現するとともに，物は，体積が同じでも重さは違うことがあることを捉えようとする。 →物の体積に着目して，複数の種類の身の回りにあるものを，体積を同じにして，手ごたえなどの体感を基に，てんびんを用いたり，自動上皿はかりを用いて重さを数値化したりして，重さの違いを比較しながら調べる。 →数値化したものは，表やグラフに整理することでそれぞれ比較して考え，問題解決することができるようにする。 ※児童の身の回りにある砂糖や食塩などといった粉状の物など，同体積にして重さの違いを比べることが容易な物や，同形・同体積の木や金属などが考えられる。
イ　物の形や体積と重さとの関係について追究する中で，差異点や共通点を基に，物の性質についての問題を見いだし，表現すること。	

<table>
<tr><td>第
4
学
年</td><td colspan="2">【目標】
① 物の性質についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。（知・技）
② 物の性質について追究する中で，既習の内容や生活経験を基に，根拠のある予想や仮説を発想する力を養う。（思・判・表）
③ 物の性質について追究する中で，主体的に問題解決しようとする態度を養う。（主体性）</td></tr>
<tr><td></td><td>指導内容（自然の事物・現象）</td><td>内 容 の 取 扱 い （[見方]，[考え方]）</td></tr>
<tr><td></td><td>（1）空気と水の性質
空気と水の性質について，体積や圧し返す力の変化に着目して，それらと圧す力とを関係付けて調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。</td><td>◎⇒第６学年「A（1）燃焼の仕組み」（…粒子の存在に関わるもの）
▲中学校第１分野「（2）ア（ア）物質のすがた」

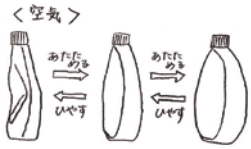
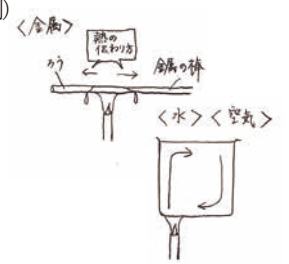
[考え方] 空気と水について，体積や圧し返す力の変化と圧す力の変化を関係付けながら捉え，空気と水それぞれの場合を比較することで，問題解決を図っていく。</td></tr>
<tr><td>第
4
学
年

粒
子</td><td>（ア） 閉じ込めた空気を圧すと，体積は小さくなるが，圧し返す力は大きくなること。

（イ） 閉じ込めた空気は圧し縮められるが，水は圧し縮められないこと。
（例）
 

イ 空気と水の性質について追及する中で既習の内容や生活経験を基に,空気と水の体積や圧し返す力の変化と圧す力との関係について,根拠のある予想や仮説を発想し，表現すること。</td><td>[見方] 体積と圧し返す力，圧す力について，量的な視点で捉える。
・既習の内容や生活経験を基に，根拠のある予想や仮説を発想し，表現するとともに，閉じ込めた空気を圧すと，体積は小さくなるが，圧し返す力は大きくなることを捉えるようにする。
[見方] 体積と圧し返す力，圧す力について，水と空気の場合を比較しながら質的な視点で捉える。
・既習の内容等を基に，根拠のある予想や仮説を発想し，表現するとともに，閉じ込めた空気は圧し縮められるが，水は圧しても体積は変わらないことから，水は圧し縮められないことを捉えるようにする。
→閉じ込めた空気や水に力を加えたときの体積や圧し返す力の変化に着目して，空気と水の場合を比較しながら調べる。
※扱う容器は，圧し縮めることが容易にできる物や，体積の変化が容易にとらえられる物
※容器に閉じ込めた空気を圧し縮める際には，安全に配慮する。
◆ウォータサイエンスゾーン・・・水の科学博物館
◆ものづくり・・・空気でっぽう，水でっぽう，ペットボトルロケットなど。</td></tr>
<tr><td></td><td>（2）金属，水，空気と温度
金属，水及び空気の性質について，体積や状態の変化，熱の伝わり方に着目して，それらと温度の変化とを関係付けて調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</td><td>▲中学校第１分野「（2）ア（ウ）状態変化」（…粒子のもつエネルギーに関わるもの）
★算数科 …実験の結果を，グラフで表現

[考え方] 金属，水及び空気に性質について，体積や状態の変化,熱の伝わり方と,温度の変化を関係付けながら捉え，問題解決を図っていく。</td></tr>
</table>

	ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。 （ア）金属，水及び空気は，温めたり冷やしたりすると，それらの体積が変わるが，その程度には違いがあること。 （例）  	**[見方]　体積と温度について，量的な視点で捉える。** ・既習の内容等を基に，根拠のある予想や仮説を発想し，表現するとともに，金属，水及び空気は，温めたり冷やしたりすると，それらの体積は変わるが，その程度には違いがあること，これらの中では空気の温度による体積の変化が最も大きいことを捉えるようにする。 →金属，水及び空気を温めたり，冷やしたりしたときの体積の変化に着目して，それらと温度の変化とを関係付けて，金属，水及び空気の温度変化に伴う体積の変化を調べる。
第 4 学 年 粒 子	（イ）　金属は熱せられた部分から順に温まるが，水や空気は熱せられた部分が移動して全体が温まること。 （例）  	**[見方]　熱の伝わり方と温度について，質的・量的な視点で捉える。** ・既習の内容等を基に，根拠のある予想や仮説を発想し，表現するとともに，金属は熱せられた部分から順に温まっていくこと，水や空気は熱を加えられた部分が上方に移動して全体が温まっていくことを捉えるようにする。また，物によってその温まり方には違いがあることを捉えるようにする。 →金属，水及び空気を熱したときの熱の伝わり方に着目して，それらと温度の変化とを関係付けて，金属，水及び空気の温まり方を調べる。
	（ウ）水は，温度によって水蒸気や氷に変わること。また，水が氷になると体積が増えること。 （例）  	**[見方]　水の状態変化や体積変化と温度について，質的・量的な視点で捉える。** ・既習の内容等を基に，根拠のある予想や仮説を発想し，表現するとともに，水は，温度によって水蒸気や氷に変わることを捉えるようにする。 ・水が氷になると体積が増えることを捉えるようにする。 ・水は温度によって液体，気体又は固体に状態が変化するということを捉えるようにする。 →水の状態に着目して，温度の変化と関係付けて，水の状態の変化を調べる。 ※実験の結果を図やグラフにして表現することで，視覚から質的・量的に捉えやすくする。 ※生活との関連として，鉄道のレールの膨張・道路橋の伸縮装置,冷暖房時の空気循環の効果などを取り上げる。 ※火を使用した実験をしたり，熱した湯の様子を観察したりする際，安全に配慮する。 ◆物質とエネルギーの科学・・・青少年科学館　第一展示室 ◆ものづくり・・・ソーラーバルーンや体積変化を利用した温度計など。
	イ　金属，水及び空気の性質について追究する中で，既習の内容や生活 経験を基に，金属，水及び空気の温度を変化させたときの体積や状態の変化，熱の伝わり方について，根拠のある予想や仮説を発想し，表現すること。	

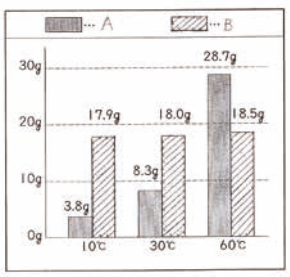
第5学年

【目標】

① 物の性質についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(知・技)

② 物の性質について追究する中で，主に予想や仮説を基に，解決方法を発想する力を養う。(思・判・表)

③ 物の性質について追究する中で，主体的に問題解決しようとする態度を養う。(主体性)

指導内容（自然の事物・現象）	内 容 の 取 扱 い （[見方]，[考え方]）
（1）物の溶け方 物の溶け方について，溶ける量や様子に着目して，水の温度や量などの条件を制御しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	◎第3学年「A （1）物と重さ」⇒ 本内容⇒ 第6学年「A （2）水溶液の性質」 ▲中学校第1分野「(2) ア（イ）水溶液」（ … 粒子の保存性に関わるもの ）
ア 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。	**★算数科 … グラフの作成，読み取り** **[考え方] 物の溶け方について， 水の量や温度，溶かす物の量という条件を制御することで，問題解決を図っていく。**
(ア) 物が水に溶けても，水と物とを合わせた重さは変わらないこと	**[見方] 水に溶けたときの物の重さについて，実体的な視点で捉える。** ・予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するとともに，物が水に溶けてもなくならず，水と物とを合わせた重さは変わらないことを捉えるようにする。 →物が水に溶ける量や全体の量に着目して，溶かす前の物の重さに水の重さを加えた全体の重さと，溶かした後の水溶液の重さの変化を比較しながら調べる。
(イ) 物が水に溶ける量には，限度があること	**[見方] 水の状態変化や体積変化と温度について，質的・量的な視点で捉える。** ・予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するとともに，物が一定量の水に溶ける量には限度があることを捉えるようにする。 →物が水に溶ける量に着目して，水の温度や量といった条件を制御しながら，水に物を溶かしたときの，物の溶ける量を調べる。
(ウ) 物が水に溶ける量は水の温度や量，溶ける物によって違うこと。また，この性質を利用して，溶けている物を取り出すことができること。 (例)  	**[見方] 水の温度や量による物が溶ける量の変化について，物による溶け方の違いを質的な視点で捉える。** ・予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するとともに，一定量の水を加熱したときの物の溶ける様子から，水溶液の温度が上昇すると，溶ける量も増えることや，高い温度で物を溶かした水溶液を冷やすと，溶けた物が出てくることを捉えるようにする。 ・水の量が増えると溶ける量も増えることや，水溶液の水を蒸発させると，溶けた物が出てくることなどを捉えるようにする。 ・実験を複数の物を使って行い，物が水に溶ける量やその変化は，溶かす物によって違うことを捉えるようにする。 ※扱う対象としては，水の温度や溶かす物の違いによって，溶ける量の違いが顕著に観察できるように，水の温度によって溶ける量の変化が大きい物と変化が小さい物を用いることが考えられる。また，加熱によって分解しにくく，安全性の高い物を扱うようにする。（塩，ミョウバン） ※実験を行う際には，メスシリンダーや電子てんびん，ろ過器具，加熱器具，温度計などの器具の適切な操作について，安全に配慮するように指導する。
イ 物の溶け方について追究する中で，物の溶け方の規則性についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現すること。	

第6学年 粒子

【目標】

① 燃焼の仕組みや働きについての理解を図り，観察・実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。(知・技)

② 燃焼の仕組みや働きについて追究する中で，主にそれらの仕組みや性質，規則性及び働きについて，より妥当な考えを作り出す力を養う。(思・判・表)

③ 燃焼の仕組みや働きについて追究する中で，主体的に問題解決しようとする態度を養う。(主体性)

指導内容（自然の事物・現象）	内容の取扱い（[見方]，[考え方]）
（1）燃焼の仕組み 燃焼の仕組みについて，空気の変化に着目して，物の燃え方を多面的に調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。 (ｱ) 植物体が燃えるときには，空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができること。 (例)  イ 燃焼の仕組みについて追究する中で，物が燃えたときの空気の変化について，より妥当な考えをつくりだし，表現すること。	◎第4学年「A（1）空気と水の性質」⇒本内容 (…粒子の存在，粒子の結合に関わるもの) ▲中学校第1分野「(2) ア (ア) 物質のすがた」 **[考え方] 燃焼の仕組みについて，燃焼前後の植物体や炎の変化の様子，酸素や二酸化炭素等の変化の割合を「多面的に考える」ことで，問題解決を図っていく。** **[見方] 閉じ込めた空気がどのように変化したかを質的な視点で捉えるようにする。** **[見方] 換気による燃焼の持続を質的・実体的な視点で捉える。** ・燃焼の仕組みについて，より妥当な考えをつくりだし，表現するとともに，植物体が燃えるときには，空気中に含まれる酸素の一部が使われて，二酸化炭素ができることを捉えるようにする。 →燃焼前後の集気びん内の気体を調べる活動を通して，酸素には物を燃やす働きがあることや，燃えた後の植物体の様子も変化していることを捉える。 →自分の結果だけでなくクラスの結果を表やグラフに整理することで，そこから考察し，より妥当な考えをつくりだし，問題解決できるようにする。 →実験結果や資料を基に，空気には主に，窒素，酸素，二酸化炭素が含まれていることを捉えるようにする。 ・植物体を空気中で燃やすと，空気の入れ替わるところでは燃えるが，入れ替わらないところでは燃えなくなってしまうことを，実験を通して捉える。 →燃焼を続けるには集気びんに隙間が必要であることを基に，どこに隙間を作ればよいか，酸素の供給，二酸化炭素の排出，空気の流れなどの要素を含めて考える。 ※燃焼実験の際には，安全に配慮する。 ※二酸化炭素の有無を調べることができる石灰水や，酸素や二酸化炭素の割合を調べることのできる気体検知管や気体センサーといった測定器具を用いることが考えられる。 ※気体検知管や，石灰水の扱い方について，十分安全指導するとともに，後始末の仕方や，保護眼鏡の着用などに配慮する。 環境
（2）水溶液の性質 水溶液について，溶けている物に着目して，それらによる水溶液の性質や働きの違いを多面的に調べる活動を通して，次の事項を身に付け	◎第5学年「A（1）物の溶け方」(…粒子の結合，粒子の保存性に関わるもの) ▲中学校第1分野「(2) ア (イ) 水溶液」，「(4) ア (イ) 化学変化」 **[考え方] 水溶液の性質について，溶けている物に着目して，水溶液の性質や働きの違いを「多面的に考える」ことで，問題解決を図っていく。**

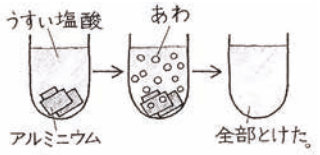
<table>
<tr>
<td>第
6
学
年
粒
子</td>
<td>ることができるよう指導する。
ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。
（ア）　水溶液には，酸性，アルカリ性及び中性のものがあること。

<table>
<tr><th></th><th>青リトマス紙</th><th>赤リトマス紙</th></tr>
<tr><td>酸性</td><td>赤</td><td>変化無</td></tr>
<tr><td>アルカリ性</td><td>変化無</td><td>青</td></tr>
<tr><td>中性</td><td>変化無</td><td>変化無</td></tr>
</table>

（イ）水溶液には，気体が溶けているものがあること。

(例)
 

（ウ）　水溶液には，金属を変化させるものがあること。

(例)
 

</td>
<td>［見方］同じように見える水溶液も液性で分けられるという質的な視点で捉える。
・水溶液に溶けているものに着目して，水溶液の違いを多面的に調べる。
・水溶液には，酸性，アルカリ性，中性のものがあることを捉えるようにする。
→水溶液には，色やにおいなどの異なるものがあることや，同じように無色透明な水溶液でも，溶けているものを取り出すと違ったものが出てくることがあることなどから，水溶液の性質の違いに気付く。
→リトマス試験紙などを用いて，調べることにより，酸性，アルカリ性，中性の三つの性質にまとめることができるようにする。
※ここで扱う水溶液としては，例えば炭酸水，石灰水，食塩水，薄い塩酸，薄い水酸化ナトリウム水溶液などが考えられる。
［見方］水と二酸化炭素が共に存在するのではなく炭酸水に変化したという質的な視点で捉える。
・水溶液には気体が溶けているものがあることを捉えるようにする。
→水溶液を振り動かしたり温めたりすると，気体を発生する物がある。
→水溶液を加熱すると，固体が溶けている場合と違って，何も残らないものがあることから，溶けていた気体が空気中に出て行ったことと考えられる。
→発生した気体を調べると，その気体特有の性質を示す物がある。
→発生した気体は再び水に溶ける。
※薄い水酸化ナトリウム水溶液に関しては加熱してはならない。濃度が高くなることや，出てきたものに触れるなど事故の危険性が高まるため。
［見方］塩酸の中に入れた金属は，液を蒸発させて取り出しても元の金属とは違っているという質的な視点で捉える。
・水溶液の性質や働きについて，より妥当な考えをつくりだし，表現するとともに，水溶液には，金属を入れると金属が溶けて気体を発生させたり，金属の表面の様子を変化させたりするものがあることを捉える。
・金属が溶けた水溶液から溶けているものを取り出して調べると，元の金属とは違う新しい物ができていることがあることを実験をすることで捉えられるようにする。
→塩酸に溶けた鉄やアルミニウムを取り出し，それらは元の金属と同じ物ではなく，別のものに変化していることを確かめる。
→鉄やアルミニウムなどの金属は，塩酸によって別のものに変化したことを導き出す。
※日常生活との関連として，身の回りで使用されている酸性やアルカリ性の水溶液を調べるといった活動が考えられる。
※実験に使用する薬品については，その危険性や扱い方について十分指導するとともに，保護眼鏡を使用するなど，安全に配慮するように指導する。また使用した廃液などについても，環境に配慮し適切に処理する必要があることを指導する。　環境</td>
</tr>
<tr>
<td>中学校</td>
<td colspan="2">【第１分野　粒子　内容】
（1）身の回りの物質　　（2）化学変化と原子・分子（3）化学変化とイオン　　（4）科学技術と人間</td>
</tr>
</table>

【A　エネルギー　…　見方「主として量的・関係的な視点」】

第1・2学年　生活科	**【生活科・目標】** （2）身近な人々，社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して，それらを工夫したり楽しんだりすることができ，活動のよさや大切さに気付き，自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。 **【生活科・内容】** （6）身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活 動を通して，遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ，その面白さや自然の不思議さに気付くとともに，みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

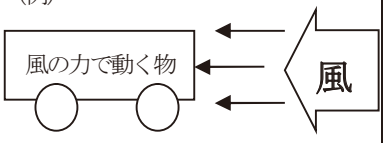
【目標】

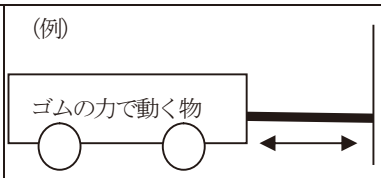
① 風とゴムの力の働き，光と音の性質，磁石の性質及び電気の回路についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。（知・技）

② 風とゴムの力の働き，光と音の性質，磁石の性質及び電気の回路について追究する中で，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力を養う。（思・判・表）

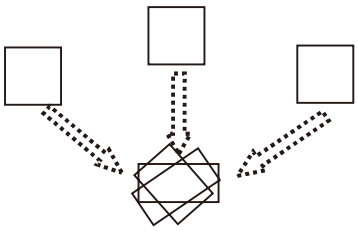
③ 風とゴムの力の働き，光と音の性質，磁石の性質及び電気の回路について追究する中で，主体的に問題解決しようとする態度を養う。（主体性）

第3学年　エネルギー

指導内容（自然の事物・現象）	内　容　の　取　扱　い　（[見方]，[考え方]）
（1）風とゴムの力の働き 風とゴムの力の働きについて，力と物の動く様子に着目して，それらを比較しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるように指導する。	◎生活科（手ごたえなどの体感を基にした活動）⇒本内容⇒第５学年「A（2）振り子の運動」（ …エネルギーの捉え方に関わるもの） ▲中学校第１分野　第１学年「（1）ア（イ）㋐　力の働き」 ★生活科「自然や物を使った遊び」 **［考え方］力と物の動く様子を「比較」することで，問題解決を図っていく。**
ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。 （ア）　風の力は，物を動かすことができること。また，風の力の大きさを変えると，物が動く様子も変わること。	**［見方］風の力と物の動く様子について，量的な視点で捉える。** ・風の力の大きさと物の動く様子との関係を調べる。 →物に風を当てたときの風の大きさと物の動く様子に着目して，それらを比較する。 →差異点や共通点を基に，風の力の働きについての問題を見いだし，表現する。 →風の強さを変えることができる送風器などを用いておこした風が考えられる。 →風の強さと物の動きとの関係を表に整理する。 →風の力の働きについて考えたり，説明したりする活動の充実を図る。 →風の力で動く物の動きや動く距離を変えるなど，活動の目的によって風の力を調整する。
（例）  	
（イ）　ゴムの力は，物を動かすことができること。また，ゴムの力の大きさを変えると，物が動く様子も変わること。	**［見方］ゴムの力と物の動く様子について，量的な視点で捉える。** ・ゴムの元に戻ろうとする力の大きさと物の動く様子との関係を調べる。 →ゴムを引っぱったり，ねじったりしたときの元に戻ろうとする力の大きさと物の動く様子に着目して，それらを比較する。

<table>
<tr>
<td>第３学年エネルギー</td>
<td>（例）
 

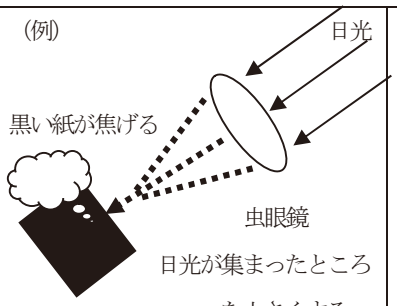
イ　風とゴムの力で物が動く様子について追究する中で，差異点や共通点を基に，風とゴムの力の働きについての問題を見いだし，表現すること。

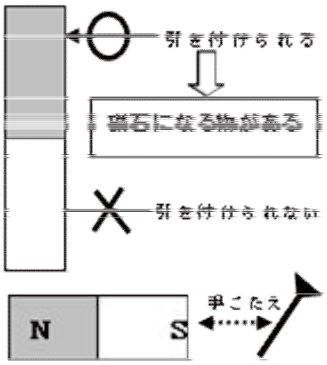
（2）光と音の性質
光と音の性質について，光を当てたときの明るさや暖かさ，音を出したときの震え方に着目して，光の強さや音の大きさを変えたときの違いを比較しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。
（ア）日光は直進し，集めたり反射させたりできること。
（例）
 

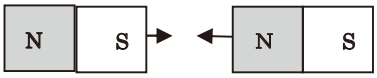
（イ）物に日光を当てると，物の明るさや暖かさが変わること。</td>
<td>→差異点や共通点を基に，ゴムの力の働きについての問題を見いだし，表現する。
→長さや太さが同じゴムを使い，ゴムを複数束ねたり，引っぱる長さを変えたりして，その力の大きさを変える。
→ゴムの伸びと物の動きとの関係を表に整理する。
→ゴムの力の働きについて考えたり，説明したりする活動の充実を図る。
→ゴムの力で動く物の動きや動く距離を変えるなど，活動の目的によってゴムの力を調整する。
◆神出自然教育園，こうべ環境未来館などの風の力で動くプロペラ（風力発電機）
◆市章山（タリウス型発電機）などの風の力で動く回転翼（風力発電施設）
◆風力発電については，低炭素社会の構築を目指すという面から環境教育と関連付けて学習することも考えられる。
◆JR 神戸駅北出口前などの風の力で動くモニュメント
◆ものづくり・・・風やゴムの力で動く自動車や風車，それを使ったカーリングゲームなど　環境

▲中学校第１分野「（1）ア（ア）　光と音」（ …エネルギーの捉え方に関わるもの）
★生活科の「自然や物を使った遊び」

［考え方］光の強さや音の大きさを変えたときの違いを「比較」することで，問題解決を図っていく。
※放射温度計，平面鏡，アルミニウム板，打楽器，鉄棒，糸電話などの利用。
※生活科との関連を考慮し，諸感覚を働かせながら明るさや温かさ，音の大小，物の震え方などを捉えるようにする。
※平面鏡や虫眼鏡の扱いには，破損して，指などを切る危険や「直接太陽を見ない」「反射した日光を人の顔に当てない」「虫眼鏡で集めた日光を衣服や生物に当てない」などの指導を行う。
［見方］鏡に反射した日光について，日光は直進することと反射させられることとを質的な視点で捉える。
・光の進み方を調べる。
→光は日光を扱う。
→平面鏡に日光を当てたときの，平面鏡の向きと光の様子に着目して，それらを比較する。
・日光は直進すること，反射させることができること，反射した日光を重ねることができることを捉えるようにする。
→差異点や共通点を基に，光の性質についての問題を見いだし，表現する。
・日光が直進することについては，身の回りで見られる日光の様子などから捉える。
［見方］鏡に反射した日光や虫眼鏡を使って集めた日光について，反射した日光を重ねることができること，日光を集めることと明るさや温度との質的な視点で捉える。</td>
</tr>
</table>

第3学年エネルギー	(例)  (ウ) 物から音が出たり伝わったりするとき，物は震えていること。また，音の大きさが変わるとき物の震え方が変わること。 イ 光を当てたときの明るさや暖かさの様子，音を出したときの震え方の様子について追究する中で，差異点や共通点を基に，光と音の性質についての問題を見いだし，表現すること。 (3) 磁石の性質 磁石の性質について，磁石を身の回りの物に近付けたときの様子に着目して，それらを比較しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。 (ア) 磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があること。また，磁石に近付けると磁石になる物があること。	・光の強さを変えたときの現象の違いを比較しながら，物の明るさや暖かさの違いを調べる。 →何枚かの平面鏡を使い，光を当てたときの物の明るさや暖かさに着目する。 ・物に日光を当てると，物の明るさや暖かさが変わることを捉えるようにする。 →差異点や共通点を基に，光の性質についての問題を見いだし，表現する。 ・虫眼鏡では，日光が集まったところを小さくすると明るさや暖かさが増し，黒い紙などが焦げることがあることも捉えるようにする。 **[見方] 物の震え方について，音の大きさや物の震えの大きさとの質的な視点で捉える。** **また，物の震えについて，音が伝わる働きとの関係的な視点で捉える。** ・音の大きさを変えたときの現象の違いを比較しながら，音の大きさと物の震え方との関係を調べる。 →身の回りにあるものを使って音を出したときの物の震え方に着目する。 ・物から音が出たり伝わったりするときは物が震えていることや，音が大きいときは震え方が大きく，音が小さいときは震え方が小さいといった，音の大きさが震え方に関係していることを捉えるようにする。 →差異点や共通点を基に，音の性質についての問題を見いだし，表現する。 ◆スピーカーなどから音が出るとき，それが震えていることを取り上げる。 ◆光の性質を利用した「光のオモチャ箱」の展示 → 青少年科学館 ◆太陽熱利用施設 → 舞子ビラ 水上・東灘・垂水各消防署など ◎⇒第5学年「A（3）電流がつくる磁力」 （ …エネルギーの捉え方，エネルギーの変換と保存に関わるもの） ▲中学校第1分野 第2学年「(3) ア電流」「(3) イ電流と磁界」 ★生活科の「自然や物を使った遊び」 **[考え方] 磁石を身の回りの物に近付けたときの様子を「比較」することで，問題解決を図っていく。** ※日常生活との関連として，身の回りには，磁石の性質を利用した物が多数あることを取り上げる。 ※磁石を使用する際には，磁気カードなど磁気の影響を受けやすい物に近付けないなど，適切な取り扱いについて指導する。 **[見方] 磁石を近づけた物について，引き付けられる物と引き付けられない物とその力との量的・質的な視点で捉える。磁石に引き付けられる物について，磁石になる物があるという関係的・質的な視点で捉える。** ・磁石に引き付けられる物や引き付けられない物を調べる。 →磁石を身の回りの物に近付けたときの，物の様子や特徴に着目して，それらを比較する。

<table>
<tr>
<td>第３学年エネルギー</td>
<td>（例）
 

（イ）　磁石の異極は引き合い，同極は退け合うこと。
（例）
 

N極とＳ極（異極）は引き合う
 

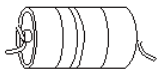
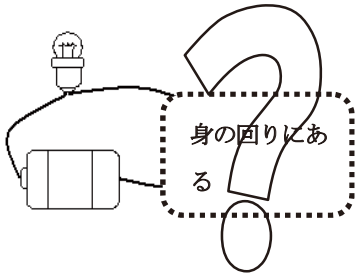
N極とN極，Ｓ極とＳ極（同極）は退け合う。
イ　磁石を身の回りの物に近付けたときの様子について追究する中で，差異点や共通点を基に，磁石の性質についての問題を見いだし，表現すること。
（4）電気の通り道
電気の回路について，乾電池と豆電球などのつなぎ方と乾電池につないだ物の様子に着目して，電気を通すときと通さないときのつなぎ方を比較しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</td>
<td>・磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があることを捉えるようにする。
・磁石に引き付けられる物には，磁石に近付けると磁石になる物があることを捉えるようにする。
→差異点や共通点を基に，磁石の性質についての問題を見いだし，表現する。
・磁石と物との間を開けても引き付ける力が働いていることを捉えるようにする。
→磁石に物が引き付けられる力を手ごたえなどで感じとる。
→磁石を方位磁針に近付けて，その動き方を調べる。
・磁石が物を引き付ける力は，磁石と物の距離によって変わることにも触れる。

［見方］二つの磁石を近付けることについて，異極と同極との関係的な視点で捉える。

・磁石の極を調べる。
→２つの磁石を近付け，磁石が相互に引き合ったり，退け合ったりする様子に着目して，それらを比較する。
・磁石の異極（Ｎ極とＳ極）は引き合い，同極（Ｎ極とＮ極，Ｓ極とＳ極）は退け合うことを捉えるようにする。
→差異点や共通点を基に，磁石の性質についての問題を見いだし，表現する。
・磁石には形や大きさが違っていてもいつも南北の向きに止まるという性質があることを捉えるようにする。
→磁石を自由に動くようにしたときの磁石が動いたり，止まったりする様子を観察する。
・北の方向を指している端を「Ｎ極」，南の方向を指している端を「Ｓ極」と名付けていることに触れるようにする。

◆磁力線や磁石の展示物　→　青少年科学館
◆ものづくり・・・極の働きや性質を使って動く自動車や船など。

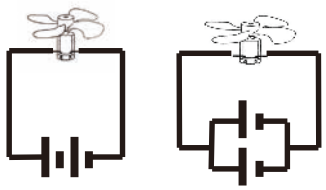
◎⇒第４学年「Ａ（３）電気の働き」（　…エネルギーの変換と保存に関わるもの）
▲中学校第１分野「（３）電流とその利用」「（３）（ア）電流」
［考え方］電気の回路について，つなぎ方やつないだ物と豆電球などの様子を「比較」することで，問題解決を図っていく。
※扱う対象は，児童の身の回りにある物で，鉄やアルミニウム，ガラス，木などが考えられる。
※豆電球などを使わないで，乾電池の二つの極を直接導線でつなぐこと（ショート回路）のないように安全に配慮する。</td>
</tr>
</table>

第3学年 エネルギー	ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。 （ア）電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があること。 《電気を通すつなぎ方》 （例）   （イ）電気を通す物と通さない物があること。 （例）  豆電球が点灯する　⇒電気を通す物 豆電球が点灯しない⇒電気を通さない物 イ　乾電池と豆電球などのつなぎ方と乾電池につないだ物の様子について追究する中で，差異点や共通点を基に，電気の回路についての問題を見いだし，表現すること。	※実験の結果を基に考察する場面では，豆電球などが動作したり，動作しなかったりする現象を「回路」という言葉を使用して考察し，適切に説明できるようにする。 **［見方］つなぎ方と豆電球などの様子について，つなぎ方と点灯との関係的な視点で捉える。** ・豆電球などが動作するつなぎ方と動作しないつなぎ方を調べる。 →１個の乾電池と１個の豆電球などを導線でつないだときの，つなぎ方と豆電球などの様子に着目して，それらを比較する。 ・回路ができると電気が通り，豆電球などが動作することを捉えるようにする。 →電気の回路についての問題を見いだし，表現する。 ・導線を乾電池の二つの極以外につないだり，導線と乾電池がつながっていなかったり，回路の一部が切れていたりすると豆電球などは動作しないことも捉えるようにする。 **［見方］つないだ物と豆電球などの様子について，関係的な視点で捉える。** ・電気を通すものや通さない物を調べる。 →回路の一部に，身の回りにあるいろいろな物を入れたときの豆電球などの様子に着目して，それらを比較する。 ・物には電気を通す物と通さない物があることを捉えるようにする。 →電気の回路についての問題を見いだし，表現する。 ◆ものづくり・・・回路を切ったりつないだりできるスイッチ。電気を通すものであるかどうかを調べるテスターなど。
第4学年	**【目標】** ①　電流の働きについての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。（知・技） ②　電流の働きについて追究する中で，主に既習の内容や生活経験を基に，根拠のある予想や仮説を発想する力を養う。（思・判・表） ③　電流の働きについて追究する中で，主体的に問題解決しようとする態度を養う。（主体性）	

エネルギー	指導内容（自然の事物・現象）	内　容　の　取　扱　い　（［見方］，［考え方］）
	（1）電流の働き 電流の働きについて，電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子に着目して，それらを関係付けて調べる	◎第３学年「A（5）電気の通り道」⇒本内容⇒第５学年「A（3）電流がつくる磁力」 （　…エネルギーの変換と保存に関わるもの） ▲中学校第１分野　第２学年「（3）（ア）電流」

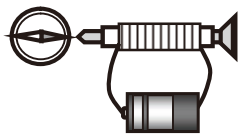
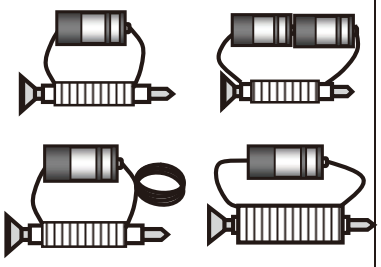
<table>
<tr>
<td>第４学年エネルギー</td>
<td>活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

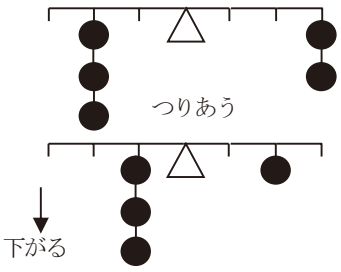
ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。
（ア）乾電池の数やつなぎ方を変えると，電流の大きさや向きが変わり，豆電球の明るさやモーターの回り方が変わること。

（例）
 
直列つなぎ　　並列つなぎ

イ　電流の働きについて追究する中で，既習の内容や生活経験を基に，電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子との関係について，根拠のある予想や仮説を発想し，表現すること。</td>
<td>［考え方］予想を発想する際，つなぎ方をつないだ物の様子の要因として関係付けたり，電流の大きさと電流の働きについて，生活経験を基に関係付けたりすることで，問題解決を図っていく。
※乾電池をつなぐ際には，ひとつの回路で違う種類の電池（マンガン電池やアルカリ電池など）が混在しないよう，安全に配慮する。
※直列つなぎと並列つなぎを扱う。
［見方］乾電池のつなぐ向きとモーターなどの様子について，つなぎ方とつないだ物の様子とを関係的な視点で捉える。また，２個の乾電池のつなぎ方とつないだ物の様子とを量的・関係的な視点で捉える。
・乾電池の数を１個から２個に増やしたり，つなぎ方を変えたりしたときの豆電球やモーター動作の様子に着目して，これらの変化と電流の大きさや向きと関係付けて電流の働きを調べる。
→電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子との関係について，既習の内容や生活経験を基に，根拠のある予想や仮説を発想し，表現する。
→簡易検流計などを用いて，電流の大きさや向きを関係付けて調べる。
→乾電池につなぐ物として豆電球，モーター，発光ダイオードなどを用いる。
→電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子について考えたことを，図を用いて表現する。
→「電流」，「直列つなぎ」，「並列つなぎ」という言葉を使用して説明する。
→電流の働きについて考えたり，説明したりする活動の充実を図る。
→発光ダイオードが電流の向きによって点灯したり，点灯しなかったりすることを扱う。
→実験の結果を整理する際に，乾電池，豆電球，モーター，スイッチについて，電気用図記号（回路図記号）を扱う。
◆暮らしのエネルギー「電気Q&A」の展示　→　青少年科学館
◆ものづくり・・・乾電池を用いた自動車，メリーゴーランドなど</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td rowspan="3">第５学年</td>
<td colspan="2">【目標】
①　振り子の運動，電流がつくる磁力についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。（知・技）
②　振り子の運動，電流がつくる磁力について追究する中で，主に予想や仮説を基に，解決の方法を発想する力を養う。（思・判・表）
③　振り子の運動，電流がつくる磁力について追究する中で，主体的に問題解決しようとする態度を養う。（主体性）</td>
</tr>
<tr>
<td>指導内容（自然の事物・現象）</td>
<td>内　容　の　取　扱　い　（[見方]，[考え方]）</td>
</tr>
<tr>
<td>（１）振り子の運動
振り子の運動の規則性について，振り子が１往復する時間に着目して，おもりの重さや振り子の長さなどの条件を制御しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよ</td>
<td>◎第３学年「A (2) 風とゴムの力の働き」⇒本内容⇒第６学年「A (3) てこの規則性」
（　…エネルギーの捉え方に関わるもの）
▲中学校第１分野「（５）運動とエネルギー」
★算数科　平均の学習</td>
</tr>
</table>

第5学年エネルギー	う指導する。 ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。 (ア)　振り子が１往復する時間は，おもりの重さなどによっては変わらないが，振り子の長さによって変わること。 イ　振り子の運動の規則性について追究する中で，振り子が１往復する時間に関係する条件についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現すること。 （2）電流の働き 電流がつくる磁力について，電流の大きさや向き，コイルの巻数などに着目して，それらの条件を制御しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。 (ア) 電流の流れているコイルは，鉄心を磁化する働きがあり，電流の向きが変わると，電磁石の極も変わること。  (イ)電磁石の強さは，電流の大きさや導線の巻数によって変わること。 	**[考え方]　振り子の運動の規則性について，振り子が１往復する時間を，おもりの重さや振り子の長さなどの「条件を制御」しながら調べることで，問題解決を図っていく。** **[見方]　振り子の規則性について，関係的な視点で捉える。** ・振り子の運動の変化に関係する条件として，おもりの重さ，振り子の長さ，振れ幅などの条件を制御しながら測定し，振り子が１往復する時間は，振り子の長さによって変わることを捉えるようにする。 →振れ幅が極端に大きくならないようにする。 →振り子の長さとは，糸などをつるした位置からおもりの重心までとする。 ◆「ふりこのもよう」の展示　→　青少年科学館　第６展示室 ◆ものづくり・・・簡易メトロノームなど。 ◎第４学年「A (3) 電流の働き」⇒本内容⇒第６学年「A (4) 電気の利用」 （　…エネルギーの変換と保存」に関わるもの） ▲中学校第１分野「（3）電流とその利用」 **[考え方]　電流が作る磁力について，電流の大きさや向き，コイルの巻き数という「条件を制御」することで，問題解決を図っていく。** **[見方]　電流と磁力，鉄心について，関係的な視点で捉える。** **電流の向きと電磁石の極について，関係的な視点で捉える。** ・電流には磁力を発生させ，鉄心を磁化させる働きがあり，電流の向きが変わると，電磁石の向きが変わることを捉えるようにする。 →乾電池のほかに充電式電池の利用が考えられる。 →一つの回路で，違う種類の電池が混在しないように十分注意する。 **[見方]　電磁石の強さと電流の大きさ，導線の巻数について，量的な視点で捉える。** ・電流の大きさや導線長さ，コイルの巻数などの条件を制御しながら調べ，電磁石の強さは，電流の大きさや導線の巻数によって変わることを捉えるようにする。

<table>
<tr><td>第5学年　エネルギー</td><td>イ 電流がつくる磁力について追究する中で，電流がつくる磁力の強さに関係する条件についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現すること。</td><td>◆ものづくり・・・モーター，クレーン</td></tr>
<tr><td>第6学年　エネルギー</td><td colspan="2">【目標】
① てこの規則性及び電気の性質や働き についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。（知・技）
② てこの規則性及び電気の性質や働きについて追究する中で，主にそれらの仕組みや性質，規則性及び働きについて，より妥当な考えをつくりだす力を養う。（思・判・表）
③ てこの規則性及び電気の性質や働きについて追究する中で，主体的に問題解決しようとする態度を養う。（主体性）</td></tr>
<tr><td></td><td>指導内容（自然の事物・現象）</td><td>内 容 の 取 扱 い （[見方]，[考え方]）</td></tr>
<tr><td></td><td>（1）てこの規則性
てこの規則性について，力を加える位置や力の大きさに着目して，てこの働きを多面的に調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。
(ア) 力を加える位置や力の大きさを変えると，てこを傾ける働きが変わり，てこがつり合うときにはそれらの間に規則性があること。
 

(イ) 身の回りには，てこの規則性を利用した道具があること。
イ てこの規則性について追究する中で，力を加える位置や力の大きさ とてこの働きとの関係について，より妥当な考えをつくりだし，表現すること。</td><td>◎第５学年「A（2）振り子の運動」（ …エネルギーの捉え方に関わるもの）
▲「中学校第１分野「（1）ア（ｲ）力の働き」
★算数科　反比例の学習

[考え方]　てこの規則性について，加える力の位置や大きさとてこの働きとの関係を「多面的に考える」ことで，問題解決を図っていく。
 
[見方]　てこを傾ける働きについて，力を加える位置加える力の大きさとの量的な視点で捉える。
・てこのつり合いの条件を制御しながら調べ，力を加える位置や力の大きさを変えると，てこを傾ける働きが変わり，てこがつり合うときにはそれらの間に規則性があることを捉えるようにする。
・１カ所で支えて水平になった棒の支点から左右に等距離の位置に物をつり下げ，両側の物の重さが等しいとき，棒が水平になってつり合うことも捉えられるようにする。
→てこ実験器の活用
→支点からの距離とおもりの重さとの関係を表などに整理する。

[見方]　てこの規則性について，身の回りの道具との関係的な視点で捉える。
・てこの規則性が日常生活の様々な場面で活用されていることを捉えるようにする。
→釘抜き，空き缶つぶし，トング，ピンセット，はさみ等
◆「てことカメ」の展示・・・青少年科学館　第一展示室
◆ものづくり・・・力の大きさを制御することを目的としたてこ，ものの重さを測定することを目的としたてんびんばかり</td></tr>
</table>

第6学年 エネルギー	（2）電気の利用 発電や蓄電，電気の変換について，電気の量や働きに着目して，それらを多面的に調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。 (ア)　電気は，つくりだしたり蓄えたりすることができること。 (イ)　電気は，光，音，熱，運動などに変換することができること。 (ウ)　身の回りには，電気の性質や働きを利用した道具があること。 イ　電気の性質や働きについて追究する中で，電気の量と働きとの関係，発電や蓄電，電気の変換について，より妥当な考えをつくりだし，表現すること。	◎第５学年「A（3）電流がつくる磁力」 （　…エネルギーの変換と保存，エネルギー資源の有効利用に関わるもの ▲中学校第１分野「（3）ア (ｱ) 電流」，「（7）科学技術と人間」 **[考え方]　発電や蓄電，電気の変換について，電気の量や働きに着目して，それらを多面的に調べる活動を通して，問題解決を図っていく。** **[見方]　発電機やコンデンサーとモーターなどの様子について，量的・関係的な視点で捉える。** ・手回し発電機や光電池などを使って発電したり，蓄電器に電気を蓄えたりできることを多面的に調べ，電気はつくりだしたり蓄えたりすることができることを捉えるようにする。 →コンデンサーの利用 →豆電球や発光ダイオードの点灯，モーターの回転によって理解を深める。 **【見方]　ＬＥＤや電熱線などと電気の働きの様子について，関係的な視点で捉える。** ・電気は光，音，熱，運動などに変換できることを捉えるようにする。 →電子オルゴールにつないで音を出したり，電熱線につないで発熱させたりする。 **【見方]　身の回りの電気を利用した道具とその働きについて，量的・関係的な視点で捉える。** ・身の回りにある，電気を利用している道具の働きに着目して，発電したり，蓄電したり，変換させたりしながら利用していることを捉えるようにする。 ・身の回りには，電気の働きを目的に合わせて制御したり，電気を効率よく利用したりしているものがあることを捉えるようにする。 →発光ダイオードと豆電球の点灯時間を比較する。 →身の回りには，温度センサーなどを使って，エネルギーを効率よく利用している道具があることに気付き，実際に目的に合わせてセンサーを使い，モーターの動きや発光ダイオードの点灯を制御するなどといったプログラミングを体験する ◆「光エネルギーを電気エネルギーに」の展示 「熱エネルギーを電気エネルギーに」の展示・・・青少年科学館　第一展示室 ◆ものづくり・・・風力や太陽光といった自然エネルギーでつくりだした電気を蓄電器に蓄えて効率的に利用することを目的とした照明 環境　プログラミング
中学校	【第１分野　エネルギー　内容】 （1）身近な物理現象　　（2）身の回りの物質 （3）電流とその利用　　（5）運動とエネルギー （7）科学技術と人間	

【B　生命・・・見方「主として共通性と多様性の視点」　】

<table>
<tr><td>第1・2学年
生活科</td><td colspan="2">【生活科・目標】
（1）学校，家庭及び地域の生活に関わることを通して，自分と身近な人々，社会及び自然との関わりについて考えることができ，それらのよさやすばらしさ，自分との関わりに気付き，地域に愛着をもち自然を大切にしたり，集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。
【生活科・内容】
（5）身近な自然を観察したり，季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して，それらの違いや特徴を見付けることができ，自然の様子や四季の変化，季節によって生活の様子が変わることに気付くとともに，それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。
（7）動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して，それらの育つ場所，変化や成長の様子に 関心をもって働きかけることができ，それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに，生き物への親しみをもち，大切にしようとする。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">第3学年
生命</td><td colspan="2">【目標】
① 身の回りの生物の様子についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるよう。（知・技）
② 身の回りの生物の様子について追究する中で，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力を養う。（思・判・表）
③ 身の回りの生物の様子について追究する中で，生物を愛護する態度や主体的に 問題解決しようとする態度を養う。（主体性）</td></tr>
<tr><td>指導内容（自然の事物・現象）</td><td>内 容 の 取 扱 い（[見方]，[考え方]）</td></tr>
<tr><td>（1）身の回りの生物
身の回りの生物について，探したり育てたりする中で，それらの様子や周辺の環境，成長の過程や体のつくりに着目して，それらを比較しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。
（ア）　生物は，色，形，大きさなど，姿に違いがあること。また，周辺の環境と関わって生きていること。</td><td>◎⇒第４学年「B（1）人の体のつくりと運動」，第４学年「B（2）季節と生物」，⇒第６学年「B（2）植物の養分と水の通り道」，第６学年「B（3）生物と環境」
（…生物の構造と機能，生命の連続性，生物と環境の関わりに関わるもの）
▲中学校第２分野「（1）いろいろな生物とその共通点」「（3）生物の体のつくりと働き」
★生活科…「動植物の飼育・栽培」，「季節の変化と生物」

[考え方]　身の回りの生物について，その特徴や周辺の環境，成長の過程や体のつくりを「比較」することで，問題解決を図っていく。

[見方] 複数の生物を着目した点に即して多様性と共通性の視点で捉える。
・差異点や共通点を基に，生物の姿について問題を見いだし，表現するとともに，生物にはそれぞれ固有の形態があることを捉えるようにする。
→児童の身の回りに見られる様々な生物の色，形，大きさなどに着目して，それらを比較しながら身の回りの生物の特徴を調べる。その際，観察の後に振り返りを行ったり，着目した点に即して，仲間わけなどの活動を取り入れたりするなど，児童の生物への興味・関心が高まるよう工夫するようにする。
→児童が身の回りの様々な種類の植物や動物を見たり触れたりするなど直接観察することを通して，諸感覚で確認できる特徴を見いだし，捉えるようにする。
・生物と環境との関わりについて，問題を見いだし，表現するとともに，生物が周辺の環境と関わって生きていることを捉えるようにする。
→多様な環境の下で生きている様々な生物について，生物が生息している場所に着目して，それらを比較しながら，生物が生息している様子を調べる。
→自然体験活動の充実を図り，児童の野外での発見や気づきを大切にする。</td></tr>
</table>

第3学年生命	（イ） 昆虫の育ち方には一定の順序があること。また，成虫の体は頭，胸及び腹からできていること。 （ウ） 植物の育ち方には一定の順序があること。また，その体は根，茎及び葉からできていること。 イ 身の回りの生物の様子について追究する中で，差異点や共通点を基に，身の回りの生物と環境との関わり，昆虫や植物の成長のきまりや体のつくりについて問題を見いだし，表現すること。	**[見方] 複数の昆虫の育ち方や体のつくりを，多様性と共通性の視点で捉える。** ・差異点や共通点を基に，昆虫の成長についての問題を見いだし，表現するとともに，昆虫の育ち方には，「卵→幼虫→蛹→成虫」や「卵→幼虫→成虫」というような一定の順序があることを捉えるようにする。 →昆虫の成長の過程に着目して，複数の種類の昆虫の成長の過程を比較しながら，成長による体の変化を調べる。 →幼虫の時期には食べ物を食べ，脱皮をして体が大きくなることや，蛹の時期には食べ物を食べないことを捉えるようにする。 →昆虫の育ち方については，「卵→幼虫→蛹→成虫」や「卵→幼虫→成虫」などの変態の仕方の違う昆虫を用意し，それらを比較することによって，その過程が異なるものがあることにも触れるようにする。 ・差異点や共通点を基に，昆虫の体のつくりについての問題を見いだし，表現するとともに，昆虫の成虫の体は頭，胸，腹の三つの部分からできていること，頭には目や触覚，口があること，胸には3対6本のあしがあり，はねのついているものがあること，腹はいくつかの節からできていることなどの体のつくりの特徴を捉えるようにする。 →昆虫の体のつくりに着目して，複数の昆虫の体のつくりを比較しながら調べる。 **[見方] 複数の植物の育ち方や体のつくりを，多様性と共通性の視点で捉える。** ・差異点や共通点を基に，植物の育ち方についての問題を見いだし，表現するとともに，植物の育ち方には，種子から発芽し子葉が出て，葉がしげり，花が咲き，果実になって種子ができた後に個体は枯死するという，一定の順序があることを捉えるようにする。 →植物の成長過程に着目して，複数の種類の植物の成長の過程を比較しながら，成長による体の変化を調べる。 ・差異点や共通点を基に，植物の体のつくりについての問題を見いだし，表現するとともに，植物の体は根，茎及び葉からできていて，根は地中にあること，茎は葉や花をつけることなどの体のつくりの特徴を捉えるようにする。 →植物の体のつくりに着目して，複数の種類の体のつくりを比較しながら調べる。 ※生物の観察においては，継続的に観察を行うとともに，虫眼鏡などを必要に応じて使用し，細かい部分を拡大したりして，生物の特徴を図や絵で記録できるようにする。 ※野外での学習に際しては，毒をもつ生物に注意するとともに，事故に遭わないようにするなど，安全に配慮するよう指導する。 ※自然環境の中で，生物の採取は必要最小限にとどめるなど，生態系の維持に配慮するようにし，環境保全の態度を育てるようにする。 ※扱う対象としては，学校で栽培している植物に加え，校庭などの身近な場所に生育する野草，例えばキク科の植物などが考えられる。また，昆虫との関わりがよく分かるような植物として，アブラナ科，ミカン科の植物などが考えられる。環境との関わりがよく分かるような動物としては，身近な昆虫やダンゴムシなどの節足動物が考えられる。 ◆神戸で見られる昆虫として， →「卵―幼虫―蛹―成虫」の育ち方をするものとして，モンシロチョウ，アゲハチョウ，ツマグロヒョウモン，テントウムシ，クワガタムシ，カブトムシなど。 →「卵―幼虫―成虫」の育ち方をするものとして，カマキリ，バッタ，トンボ，セミ，

<table>
<tr><td>第
3
学
年
生
命</td><td></td><td>カメムシ，ミズカマキリ，アメンボなどが考えられる。
◆栽培が簡単で，身近に見られるもので，夏生一年生の双子葉植物を扱うようにする。
インパチェンス，オジギソウ，オシロイバナ，ホウセンカ，マリーゴールド，ワタ，トマト，ピーマン，ナスなど
◆アブラナ科・ミカン科の植物･･･モンシロチョウ，アゲハチョウ，ガ，ハチなど
イネ科の草むら･･･バッタ，カマキリなど
校庭の樹木･･･クマゼミ，アブラゼミ，ミノムシ，アオマツムシなど
雑木林･･･カブトムシ，クワガタムシ，カナブン，スズメバチ，チョウなど
◆区の花　東灘区･･･ウメ，灘区･･･マリーゴールド，中央区･･･ペチュニア，兵庫区･･･パンジー，北区･･･スズランとキク，長田区･･･サルビア，須磨区･･･コスモス，垂水区･･･ゼラニウム，西区･･･ナデシコ
◆現地学習　→　神出自然教育園，森林植物園
◆デジタル化神戸の自然シリーズ http://www.kobe-c.ed.jp/shizen/index.html
◆神戸市 HP 植物教室　http://www.kobe-c.ed.jp/shimin/shiraiwa/index.html</td></tr>
<tr><td rowspan="3">第
4
学
年

生
命</td><td colspan="2">【目標】
①　人の体のつくりと運動，動物の活動や植物の成長と環境との関わりについての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。（知・技）
②　人の体のつくりと運動，動物の活動や植物の成長と環境との関わりについて追究する中で，主に既習の内容や生活経験を基に，根拠のある予想や仮説を発想する力を養う。（思・判・表）
③　人の体のつくりと運動，動物の活動や植物の成長と環境との関わりについて追究する中で，生物を愛護する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。（主体性）</td></tr>
<tr><td>指導内容（自然の事物・現象）</td><td>内　容　の　取　扱　い（[見方]，[考え方]）</td></tr>
<tr><td>（1）人の体のつくりと運動
人や他の動物について，骨や筋肉のつくりと働きに着目して，それらを関係付けて調べる活動を通して，次の事項を身に着けることができるよう指導する。
ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身につけること。
（ア）人の体には骨と筋肉があること。

（イ）　人が体を動かすことができるのは，骨，筋肉の働きによること。</td><td>◎第３学年「B（1）身の回りの生き物」⇒本内容⇒第６学年「B（1）人の体のつくりと働き」（…生物の構造と機能に関わるもの）
▲中学校第２分野「（3）ア（ウ）動物の体のつくりと働き」
[考え方]　人の体のつくりと働きについて，骨と筋肉のつくりや働きを「関係付け」て考えることで，問題解決を図っていく。

[見方]　動いたときの自分と友達の体の様子を，共通性と多様性の視点で捉える。
[見方]　人と他の動物の骨や筋肉のつくりを，共通性と多様性の視点で捉える。
・体を支えたり体を動かしたりするときに使われる骨と筋肉があること，硬い部分としての骨と柔らかい部分としての筋肉があることを捉えるようにする。
→自分の体に直接触れて，骨の位置や筋肉の存在を調べる。
[見方]　持ち上げた時の自分と友達の腕の筋肉の様子を，共通性と多様性の視点で捉える。
[見方]　腕という「部分」の視点から体からという「全体」の視点で捉える。
・人や他の動物が体を動かすことができるのは，骨と筋肉の働きによること，体の各部には，手や足のように曲がるところと曲がらないところがあり，曲が</td></tr>
</table>

第 4 学 年 生 命	イ　人や他の動物について追究する中で，既習の内容や生活経験基に，人や他の動物骨や筋肉のつくりと働きについて，根拠のある予想や仮説を発想し，表現すること。 （2）季節と生物 身近な動物や植物について，探したり育てたりする中で，動物の活動や植物の成長と季節の変化に着目して，それらを関係付けて調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に着けること。 （ア）　植物の活動は，暖かい季節，寒い季節などによって違いがあること。 （イ）　植物の成長は，暖かい季節，寒い季節などによって違いがあること。 イ　身近な動物や植物について追究する中で，既習の内容や生活経験を基に，季節ごとの動物の活動や植物の成長の変化について，根拠のある予想や仮説を発想し，表現すること。	るところを関節ということを捉えるようにする。 →自分の体を動かしたり他の動物が運動しているところを観察したりして，体の動きと骨や筋肉との関係を調べる。 ※ここで扱う対象としては，自分の体を中心に扱うようにし，他の動物としては，骨や筋肉の動きが調べられる身近で安全な哺乳類，例えば，学校飼育動物の観察などが考えられる。 ◆「生命の科学」の展示　→　青少年科学館 ◆標本展示室　→　須磨海浜水族園，王子動物園 ◎第３学年「Ｂ（１）身の回りの生き物」⇒本内容⇒第５学年「Ｂ（１）植物の発芽，成長，結実」「Ｂ（２）動物の誕生」，第６学年「Ｂ（３）生物と環境」 （…生命の連続性，生物と環境の関わりに関わるもの） **[考え方]　動物の活動と植物の成長の様子と季節の変化とを「関係付け」て考えることで，問題解決を図っていく。** **[見方]　春夏秋冬のそれぞれの動物や植物の様子を共通性と多様性の視点で捉える。** **[見方]１年を振り返り，それぞれの動物や植物の様子を共通性と多様性の視点で捉える。** ・動物の活動は，暖かい季節，寒い季節などによって違いがあることを捉えるようにする。 →身近で危険のない動物を２種類以上観察するようにする。 ・植物の成長は，暖かい季節，寒い季節などによって違いがあること，季節によって成長の仕方に違いがあることや，冬になると種子をつくって枯れたり，形態を変えて越冬したりすることなどを捉えるようにする。 →身近で，季節による成長の変化が明確な植物を２種類以上観察するようにする。 →植物の成長について，同地点で同一の対象を定期的に観察するようにする。 ※野外での学習に際しては，毒をもつ生物に注意するとともに，事故に遭わないようにするなど，安全に配慮するよう指導する。 ◆地域性を生かし，地域の特徴的な動植物を取り上げることを通して，身近な自然に愛着をもつようにすることが考えられる。 →神戸で見られる動物として，カエル，バッタ，コオロギ，カタツムリ，トンボ，モンシロチョウ，アゲハチョウ，ツバメ，ダンゴムシなどがある。 →神戸で栽培しやすく観察しやすい植物として，ヘチマ，ヒョウタン，ツルレイシなどの夏前後に成長の変化が顕著に現れる夏生一年草や，サクラ，イチョウ，カエデ，ウメなど変化がとらえやすい樹木が考えられる。 ◆現地学習　→　森林植物園，神出自然教育園

<table>
<tr><td>第
5
学
年
生

命</td><td colspan="2">【目標】
① 生命の連続性，流れる水の働き，気象現象の規則性についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。（知・技）
② 生命の連続性，流れる水の働き，気象現象の規則性について追究する中で，主に予想や仮説を基に，解決の方法を発想する力を養う。（思・判・表）
③ 生命の連続性，流れる水の働き，気象現象の規則性について追究する中で，生命を尊重する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。（主体性）</td></tr>
<tr><td></td><td>指導内容（自然の事物・現象）</td><td>内 容 の 取 扱 い（[見方]，[考え方]）</td></tr>
<tr><td></td><td>(1) 植物の発芽，成長，結実
植物の育ち方について，発芽，成長及び結実の様子に着目して，それらに関わる条件を制御しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のことを理解するとともに，観察・実験などに関する技能を身に付けること。
(ア) 植物は，種子の中の養分を基にして発芽すること。</td><td>◎⇒第４学年「Ｂ（２）季節と生物」（…生命の連続性に関わるもの）
▲中学校第２分野「（１）ア（ｲ）生物の体の共通点と相違点」，「（５）ア（ｱ）生物の成長と殖え方」

[考え方] 植物の育ち方について，発芽，成長及び結実に関わる「条件制御」をしながら問題解決を図っていく。

[見方] 多くの植物は，種子の中の養分を基にして発芽することを共通性の視点で，種子によって含まれる養分が異なることを多様性の視点で捉える。
・発芽と種子の養分との関係についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するとともに，植物は，種子の中の養分を基にして発芽することを捉えるようにする。
→適当な温度下で種子に水を与えると，種子は水を吸い，根や芽を出し，発芽することから，発芽と種子の中の養分との関係に着目して，発芽前後の種子の養分の存在を比較しながら調べる。
→変える条件と変えない条件を区別する。
→予想や仮説と照らし合わせながら，観察，実験の条件や結果を表に整理する活動などを取り入れる。</td></tr>
<tr><td></td><td>(イ) 植物の発芽には，水，空気及び温度が関係していること。</td><td>[見方] 検証計画の立案や考察では，調べる条件と結果を，原因と結果の視点で捉える。また，多くの植物の発芽には，水，空気，温度が関係していることを，共通性の視点で捉える。
・発芽の条件についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するとともに，発芽には水，空気及び適当な温度が関係していることを捉えるようにする。
→身近な植物の種子の発芽の様子に着目して，例えば，水や空気の条件を一定にして，温度の条件を変えるなど，水，空気及び温度といった条件を制御しながら，種子が発芽するために必要な環境条件を調べる。
→水は養分の含まれていないものを使用する。</td></tr>
<tr><td></td><td>(ウ) 植物の成長には，日光や肥料などが関係していること。</td><td>[見方] 多くの植物の成長には，日光や肥料などが関係していることを共通性の視点で捉える。
・植物の成長の条件についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するとともに，植物の成長には，日光や肥料などが関係していることを捉えるようにする。</td></tr>
</table>

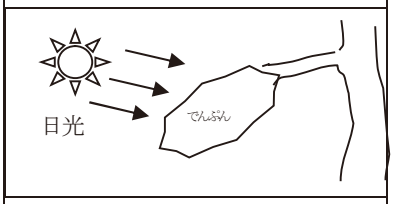
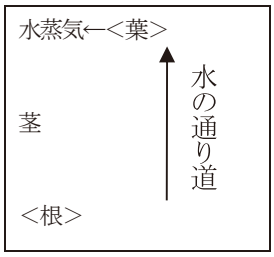
第5学年生命		→身近な植物の成長の様子に着目して，日光や肥料などの環境条件が適した場合とそうでない場合を設定するなど，条件を制御しながら植物が成長するのに必要な環境条件を調べる。 →日光の条件を変える。 … 水，肥料，苗の育ちの条件を統一する。 肥料の条件を変える。 … 日光，水，苗の育ちの条件を統一する。
	(エ) 花にはおしべやめしべなどがあり，花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり，実の中に種子ができること。	**[見方] 花にはめしべとおしべがあることを共通性の視点で，花には単性花と両性花があることを多様性の視点で捉える。植物は，受粉することで結実することを共通性の視点で，花粉の運ばれ方には様々な方法があることを多様性の視点で捉える。** ・花のつくりや結実の条件についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するとともに，花にはおしべやめしべなどがあり，花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり，実の中に種子ができることを捉えるようにする。 →身近な植物の花のつくりや結実の様子に着目して，おしべやめしべなどの花のつくりを調べたり，顕微鏡を使って花粉を観察したり，条件を制御しながら実のでき方を調べたりする。 →ここで扱った植物が，自然の中では，風や昆虫などによって花粉が運ばれて受粉し結実することにも触れるようにする。
	イ 植物の育ち方について追究する中で，植物の発芽，成長及び結実とそれらに関わる条件についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現すること。	※発芽の条件と成長の条件について混同しやすいので，発芽と成長の意味を観察，実験を通して捉えるとともに，条件については，変える条件と変えない条件を区別し，その操作と関連付けてその意味を捉えるようにする。 ※発芽や成長の条件について調べる際には，観察，実験の方法や結果を表に整理するなど，植物の育ち方について考えたり，説明したりする活動の充実を図るようにする。 ※生命尊重の立場から，成長との関係が確認できたところで実験を終了し，花壇などに植え替えるなどして，実験に利用した植物を枯らさないように配慮する。 ◆顕微鏡の操作については，繰り返し活用，アシストカード使用などして習得をはかる。 ◆発芽：インゲンマメ，トウモロコシ，ダイズなど。 ◆花のつくり：アブラナ，ダイコン，ナズナ，キャベツ，ハボタンなど。 ◆受粉：カボチャ，キュウリ，ヒョウタン，トウモロコシなど。
	(2) 動物の誕生 動物の発生や成長について，魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりする中で，卵や胎児の様子に着目して，時間の経過と関係付けて調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のことを理解するとともに，観察・実験などに関する技能を身に付けること。	◎⇒第４学年「B（2）季節と生物」(…生命の連続性に関わるもの) ▲中学校第２分野「(5) ア (ｱ) 生物の成長と殖え方」 **[考え方] 動物の発生や成長について，卵や胎児の様子の変化を時間の経過と「関係付け」て調べることで，問題解決を図っていく。**
	(ア) 魚には雌雄があり，生まれた卵は日がたつにつれて中の様子が変化してかえること。	**[見方] 魚（動物）には雌雄があることを共通性の視点で捉える。魚の卵の成長について，卵の中で少しずつ体ができてくることを共通性の視点で，魚の種類によって卵の様子やかえるまでの日数が異なることを多様性の視点で捉える。**

<table>
<tr><td>第
5
学
年
生
命</td><td>（イ）人は，母体内で成長して生まれること。

イ　動物の発生や成長について追究する中で，動物の発生や成長の様子と経過についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現すること。</td><td>・卵の中が変化する様子やふ化する様子についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するとともに，魚には雌雄があり，生まれた卵は日がたつにつれて中の様子が変化してかえることを捉えるようにする。
→魚を育て観察する中で，魚が産んだ卵の中の様子に着目して，それらと時間の経過とを関係付けて，卵の中の変化を継続して観察して調べる。
・雌雄では体の形状が異なることや，卵の中には育つための養分が含まれていることも捉えるようにする。
→内部の変化の様子を捉えやすい魚の卵が適しており，これらを双眼実体顕微鏡などを用いて観察していくようにする。
[見方]　母体内での子供の成長について，魚の卵の成長と関係付けながら，養分を使って成長することや，親から子へと生命をつないでいくことを共通性の視点で，母体内で成長することを多様性の視点で捉える。
・人の母体内での成長についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するとともに，人は，受精した卵が母体内で少しずつ成長して体ができていくことや，母体内でへその緒を通して養分をもらって成長することを捉えるようにする。
→胎児の母体内での成長に着目して，それらと時間の経過とを関係付けて，胎児の成長の様子を調べる。
→母体内の成長を直接観察することが困難なので，映像や模型,その他の資料を活用して調べるようにする。
→魚の卵の成長と関係付けながら捉えるようにする。
◆学校ビオトープや一坪田んぼなどを利用してメダカを育て，学習に役立てることが考えられる。
◆生物多様性の観点から神戸市内で採集したメダカを育て，購入したヒメダカなどが混入しないように，環境教育と関連付けて指導する。
◆顕微鏡の操作については，繰り返し活用，アシストカード使用などして習得を図る。</td></tr>
<tr><td>第
6
学
年
生
命</td><td colspan="2">【目標】
①　生物の体のつくりと働き，生物と環境との関わりについての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。（知・技）
②　生物の体のつくりと働き，生物と環境との関わりについて追究する中で，主にそれらの働きや関わり，変化及び関係について，より妥当な考えをつくりだす力を養う。（思・判・表）
③　生物の体のつくりと働き，生物と環境との関わりについて追究する中で，生命を尊重する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。（主体性）</td></tr>
<tr><td></td><td>指導内容（自然の事物・現象）</td><td>内　容　の　取　扱　い（[見方]，[考え方]）</td></tr>
<tr><td></td><td>（1）人の体のつくりと働き
人や他の動物について，体のつくりと呼吸，消化，排出及び循環の働きに着目して，生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して，次の事項を身に着けることができるよう指導する。
ア　次のことを理解するとともに，観</td><td>◎第４学年「Ｂ（１）人の体のつくりと運動」（…生物の構造と機能に関わるもの）
▲中学校第２分野「（３）ア（ウ）動物の体のつくりと働き」

[考え方]　人や他の動物の体のつくりと働きについて，体のつくりと呼吸，消化，排出及び循環の働きを「多面的に調べる」ことで，問題解決を図っていく。</td></tr>
</table>

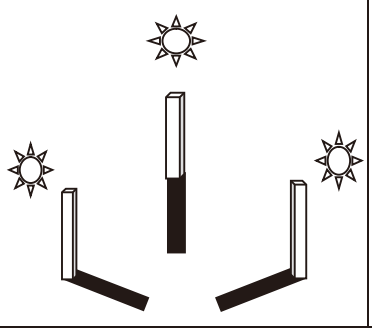
第6学年生命	察，実験などに関する技能を身につけること。 (ア)　体内に酸素が取り入れられ，体外に二酸化炭素などが出されていること。	**[見方]　人や他の動物は体内に酸素を取り入れ，体外に二酸化炭素を出していることを共通性の視点で捉える。** ・人や他の動物は体内に酸素を取り入れ，体外に二酸化炭素などを出していることを捉えるようにする。 →他の動物としては，身近で安全な哺乳類や魚類が考えられる。 →指示薬，気体検知管，気体センサーなどによる酸素，二酸化炭素測定が考えられる。
	(イ)　食べ物は，口，胃，腸などを通る間に消化，吸収され，吸収されなかった物は排出されること。	**[見方]　どの動物も消化管はひと続きの管になっており，そこを食べ物が通る間に消化されることを共通性の視点で捉える。** ・食べた物は，口から，食道，胃，小腸，大腸へと移動する間に消化されていくことや，口では咀しゃくが行われ，消化された養分は腸から吸収されて血液中に入り，吸収されなかった物はふんとして肛門から排出されることを捉えるようにする。 →ヨウ素液によるヨウ素でんぷん反応などが考えられる。 →魚の解剖や標本などの活用が考えられ，その際，事前にその意義を十分説明するよう留意する。
	(ウ)　血液は，心臓の働きで体内を巡り，養分，酸素及び二酸化炭素などを運んでいること。	**[見方]　心臓の働きで血液が体内のすみずみまで巡り，酸素や二酸化炭素，養分などを運んでいることを共通性の視点で捉える。** ・血液が，心臓の働きで体内を巡り，養分や酸素などを体のすみずみまで運んでいることや二酸化炭素を体のすみずみから運び出していること，肺から心臓に戻る血液には，酸素が多く含まれ，全身から心臓に戻る血液には，二酸化炭素が多く含まれることを捉えるようにする。 →人や他の動物は心臓の拍動数と脈拍数が関係することから，心臓の動きと血液の流れが関係していることに触れるようにする。
	(エ)　体内には，生命活動を維持するための様々な臓器があること。	**[見方]　人や他の動物の体内には様々な臓器があり，関わり合って生命を維持していることを共通性の視点で捉えるようにする。** ・呼吸には肺が関係し，消化・吸収には主に胃，小腸，大腸，肝臓が関係し，排出には腎臓が関係し，血液の循環には心臓が関係していること，それらが相互に働き合って生命が維持されていること，これらの臓器の名称とともに，体内における位置を捉えるようにする。
	イ　人や他の動物の体のつくりと働きについて追究する中で，体のつくりと呼吸，消化，排出及び循環の働きについて，より妥当な考えをつくりだし，表現すること。	※映像や模型，図書，コンピュータなどを活用して調べたり，調べたことを図や表などに整理して伝えあったりするなど，人や他の動物の体のつくりや働きについて考えたり，説明したりする学習活動の充実を図るようにする。 ◆「生命の科学」の展示　→　青少年科学館 ◆標本展示室　→　須磨海浜水族園，王子動物園
	(2) 植物の養分と水の通り道 植物について，その体のつくり，体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きに着目して，生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して，次の事項を身に着けることができる	◎第3学年「B（1）身の回りの生物」(…生物の構造と機能に関わるもの。) ▲中学校第2分野「(3) ア (イ) 植物の体のつくりと働き」 **[考え方]　植物について，その体のつくり，体内の水などの行方及び葉で養分を作る働きを「多面的に調べる」ことで，問題解決を図っていく。**

第6学年生命	よう指導する。 ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に着けること。 （ア）　植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること。  （イ）　根，茎及び葉には，水の通り道があり，根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されること。  イ　植物の体のつくりと働きについて追究する中で，体のつくり，体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて，より妥当な考えをつくりだし，表現すること。 （3）生物と環境 生物と環境について，動物や植物の生活を観察したり資料を活用したりする中で，生物と環境との関わりに着目して，それらを多面的に調べる活動を通して，次の事項を身につけることができるよう指導する。 ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に着	**[見方]　複数の植物による結果を基に考察し，葉で養分を作る働きを共通性と多様性の視点で捉える。** ・葉の中のでんぷんの存在から，植物が日光に当たると自らでんぷんをつくりだしていることを捉えるようにする。 →日光が当たっている葉を使い，アルミニウム箔などを被せて遮光した葉と遮光しない葉を用いて，希釈したヨウ素液などを使用して，葉の中のでんぷんの存在を比較しながら調べるなどの方法が考えられる。 →ヨウ素でんぷん反応を使って確かめ方法として，たたき染め法・アルコール脱色法などが考えられる。またすり鉢，ミキサー等を使って，でんぷんをとる方法もある。 **[見方]　茎や葉などを切って調べた水の通り道と，植物全体の水の通り道を，部分と全体の視点で捉える。** **[見方]　複数の植物による実験結果を基に考察し，葉からの蒸散を共通性の視点で捉える。** ・植物の根，茎及び葉には水の通り道があり，すみずみまで水が行きわたっていることや，根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により水蒸気として排出されていることを捉えるようにする。 →植物に着色した水を吸わせ，葉や茎などを切ってその体の内部のつくりを観察したり，何枚かの葉に透明な袋で覆いをして袋に付く水の量を観察したりすることなどが考えられる。 →蒸散により排出される水の量を調べる際には，気温が高い晴れの日を選ぶようにする。 ※扱いやすい植物として，ジャガイモ・ホウセンカ・シロツメクサ・タンポポ・クズ・カラスノエンドウ・オオイヌノフグリ・ツユクサ・トマト・インゲンマメ・セロリなどの入手が比較的簡単で，葉ででんぷんがつくられる植物を扱うことが考えられる。 ◆現地学習　→　神出自然教育園，森林植物園など。 環境 ◎第４学年「B（2）季節と生物」（…生物と環境の関わりに関わるもの） ▲中学校第２分野「(7) ア（ア）生物と環境」 **[考え方]　生物と環境について，生物と水，空気及び食べ物との関わりを「多面的に調べる」ことで，問題解決を図っていく。**

第6学年生命	けること。 (ア) 生物は，水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていること。	**[見方] 動物も植物も空気を必要とし，空気を通して周囲の環境と関わりながら生きていることを，共通性の視点で捉える。** **[見方] 動物も植物も，体内に水を取り入れて生きていることを，共通性の視点で捉えるようにする。** →地球上の水は，海や川などから蒸発し，水蒸気や雲となり，雨となるなど循環していることに触れるようにする。 →水の循環や酸素，二酸化炭素の出入りを図で表現するなど，生物と環境との関わりについて考えたり，説明したりする活動の充実を図るようにする。 ・生物は，酸素を吸って二酸化炭素をはき出しているが，植物は光が当たると二酸化炭素を取り入れて酸素を出すなど，生物が空気を通して周囲の環境と関わって生きていることを捉えるようにする。 →植物が酸素を出しているかを調べるために，気体検知管や気体センサーなどを活用して，酸素や二酸化炭素の検出を行うことが考えられる。
	(イ) 生物の間には，食う食われるという関係があるということ。	**[見方] 動物には食う食われるという関係があることを共通性の視点で，動物によって食べ物が異なることを多様性の視点で捉える。** ・植物を食べている動物がいることや，その動物も他の動物に食べられることがあること，生物には食う食われるという関係があるということを捉えるようにする。 →植物を食べる身近な動物として昆虫や草食動物を，動物を食べる動物として肉食動物などを扱うようにし，食べ物を通した関わりについて考察するようにする。 →植物は自らでんぷんをつくりだしているが，人や他の動物は植物あるいは動物を食べていることから，食べ物を通して生物が関わり合って生きていることを整理し，相互の関係付けを図で理解できるようにする。 →池や川などの水を採取し，顕微鏡などを使って，水中の小さな生物を観察することにより，魚が，水中にいる小さな生物を食べて生きていることに触れるようにする。 →水中の小さな生物を観察する際には，顕微鏡などの観察器具を適切に操作できるように指導する。
	(ウ) 人は，環境と関わり，工夫して生活していること。	**[見方] 人の暮らしの中にある行為が，やがて環境に影響を及ぼすことや，環境の変化が人の暮らしに影響を及ぼすことを，原因と結果の視点で捉えるようにする。** **[見方] 持続可能な環境をつくるための様々な工夫とその効果について，原因と結果の視点で捉えるようにする。** **[見方] 自分の行動と環境に及ぼす効果について，原因と結果の視点で捉えるようにする。**
	イ 生物と環境について追究する中で，生物と環境との関わりについて，より妥当な考えをつくりだし，表現すること。	・人は，環境と関わり，工夫して生活していることを捉えるようにする。 →人の生活が環境に及ぼす影響を少なくする工夫や，環境から人の生活へ及ぼす影響を少なくする工夫，よりよい関係をつくりだす工夫など，人と環境との関わり方の工夫について考えるようにする。 →科学技術を活用して水や空気など周囲の環境に与える影響を少なくする工夫や，情報を活用して環境の変化を事前に予測し受ける影響を少なくする工夫，また，人が自然に働きかけることでより良い関係をつくりだす工夫について扱うことが考えられる。

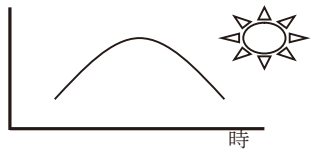
		→これまでの理科の学習を踏まえて，自分が環境とよりよく関わっていくためにはどのようにすればよいか，日常生活に当てはめて考察するなど，持続可能な社会の構築という観点で扱うようにする。 ◆現地学習　→　こうべ環境未来館，水の科学博物館，青少年科学館，神出自然教育園，森林植物園，王子動物園，須磨海浜水族園など 環境
中学校	【第２分野　生命　内容】 （1）いろいろな生物とその共通点　（3）生物の体のつくりと働き（5）生命の連続性　（7）自然と人間	

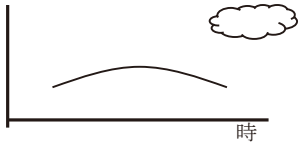
【B　地球…見方「主として時間的・空間的な視点」】

第1・2学年　生活科	**【生活科・目標】** （1）学校，家庭及び地域の生活に関わることを通して，自分と身近な人々，社会及び自然との関わりについて考えることができ，それらのよさやすばらしさ，自分との関わりに気付き，地域に愛着をもち自然を大切にしたり，集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。 **【生活科・内容】** （5）身近な自然を観察したり，季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して，それら の違いや特徴を見付けることができ，自然の様子や四季の変化，季節によって生活の様子が変わることに気付くとともに，それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。	
第3学年　地球	**【目標】** ①　太陽と地面の様子についての理解を図り，観察，　実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。（知・技） ②　太陽と地面の様子について追究する中で，主に差 異点や共通点を基に，問題を見いだす力を養う。（思・判・表） ③　太陽と地面の様子について追究する中で，生物を 愛護する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。（主体性）	
	指導内容（自然の事物・現象）	内　容　の　取　扱　い（**[見方]**，**[考え方]**）
	（1）太陽と地面の様子 太陽と地面の様子との関係について，日なたと日陰の様子に着目して，それらを比較しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に 付けること。 （ア）日陰は太陽の光を遮るとでき，日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること。 	◎⇒第４学年「B（4）天気の様子」⇒第５学年「B（5）月と星」 （…地球の大気と水の循環，地球と天体の運動に関わるもの） ▲中学校第２分野「（4）気象とその変化」 ★社会科　方位磁石 **［考え方］太陽の位置と地面の様子について，日なたと日陰の様子を「比較」することで，問題解決を図っていく。** ※方位については，日常生活や社会科との関連を図り，日常生活において使えるようにする。 ※太陽の観察においては，JIS 規格の遮光板を用いるようにし，安全に配慮する。 **［見方］　建物によってできる日陰や，物によってできる影の位置について，太陽の位置との時間的・空間的な視点で捉える。** ・太陽が影の反対側にあることを基に，日陰は太陽の光を遮るとできることや日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わることを捉える。 ・太陽の位置については，影をつくっている物を目印にして継続的に調べ，日陰の位置や地面にできる影の位置の変化と太陽の位置の変化との関係を捉える。 ・太陽の位置を午前から午後にわたって数回調べ，太陽の位置が東の方から南の空を通って西の方に変化することを捉える。 →影ふみ鬼ごっこ，影つなぎなどをすることで，影と太陽の関係を体験的に捉えるようにする。

第3学年 地球	（イ）地面は太陽によって暖められ，日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあること。 イ　日なたと日陰の様子について追究する中で，差異点や共通点を基に，太陽と地面の様子との関係についての問題を見いだし，表現すること。	→太陽の位置を方位で記録する。 →固定した物の影の位置を，時間をおいて地面に描く。 →方位磁針を用いて方位を調べ，東，西，南，北で空間をとらえる。 **［見方］太陽が当たっている地面と当たっていない地面の温かさや湿り気について，太陽の光との原因と結果の視点で捉える。** ・地面は太陽によって暖められ，日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあることを捉える →手や足で地面に触れるなど体感を通して感じ取るようにする。 ・太陽の光がよく当たる場所で，朝と昼の地面の温度を測って比較し，太陽の光が地面を暖めていることを捉える。 →放射温度計などを用いて地面の温度を測定し，数値化して比較する。
第4学年 地球	**【目標】** ① 雨水の行方と地面の様子，気象現象，月や星についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。（知・技） ② 雨水の行方と地面の様子，気象現象，月や星について追究する中で，主に既習の内容や生活経験を基に，根拠のある予想や仮説を発想する力を養う。（思・判・表） ③ 雨水の行方と地面の様子，気象現象，月や星について追究する中で，生物を愛護する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。（主体性）	
	指導内容（自然の事物・現象）	内　容　の　取　扱　い（**［見方］**，**［考え方］**）
	（1）雨水の行方と地面の様子 雨水の行方と地面の様子について，流れ方やしみ込み方に着目して，それらと地面の傾きや土の粒の大きさとを関係付けて調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。 （ア）水は，高い場所から低い場所へと流れて集まること。 （イ）水のしみ込み方は，土の粒の大きさによって違いがあること。 イ　雨水の行方と地面の様子について追究する中で，既習の内容や生活経	◎第５学年「B（3）流れる水の働きと土地の変化」，第６学年「B（4）土地のつくりと変化」（…地球の内部と地表面の変動，地球の大気と水の循環に関わるもの） ▲中学校第２分野「（2）大地の成り立ちと変化」 **［考え方］雨水の行方と地面の様子について，水の流れ方と地面の傾き，しみこみ方と土の粒の大きさをそれぞれ「関係付ける」ことで問題解決を図り，それらの関係性について見出していく。** ※ここでの学習が排水の仕組みに生かされていることや，雨水が川へと流れ込むことに触れることで，自然災害との関連を図る。 ※校庭での観察については，急な天候の変化や雷等に留意し，事故防止に配慮するように指導する。 **［見方］　雨水の流れ方について，地面の傾きとの時間的・空間的な視点で捉える。** ・水は高い場所から低い場所へと流れて集まることを捉えるようにする。 ・地面の傾きの違いについて，雨水の流れる方向と地面の傾きとの関係を捉えるようにする。 →雨水が地面を流れていく様子から，雨水の流れ方に着目して，雨水の流れる方向と地面の傾きとを関係付けて，降った雨の流れの行方を調べる **［見方］水のしみこみ方について，土の粒の大きさとの質的な視点で捉える。** ・水のしみ込み方は土の粒の大きさによって違いがあることを捉えるようにする。 →水たまりができている地面とできていない地面を観察する。 →水のしみ込み方の違いについて，虫眼鏡で土の粒の大きさを観察したり，粒の大きさの違う土を用いて，水がしみ込むまでの時間を比べたりする。防災

<table>
<tr>
<td>第
4
学
年
地
球</td>
<td>験を基に，雨水の流れ方やしみ込み方と地面の傾きや土の粒の大きさとの関係について，根拠のある予想や仮説を発想し，表現すること

（2）天気の様子
天気や自然界の水の様子について，気温や水の行方に着目して，それらと天気の様子や水の状態変化とを関係付けて調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に 付けること
（ア）天気によって１日の気温の変化の仕方に違いがあること。
℃
晴
 

℃
曇り
 

（イ）水は，水面や地面などから蒸発し，水蒸気になって空気中に含まれていくこと。また，空気中の水蒸気は，結露して再び水になって現れることがあること。

イ　天気や自然界の水の様子について追究する中で，既習の内容や生活 経験を基に，天気の様子や水の状態変化と気温や水の行方との関係について，根拠のある予想や仮説を発想し，表現すること。</td>
<td>◎第３学年「B（2）太陽と地面の様子」⇒第４学年「A（2）金属，水，空気と温度」⇒本内容⇒第５学年「B（4）天気の変化」（…地球の大気と水の循環に関わるもの）
▲中学校第２分野「（4）気象とその変化」
★算数科　折れ線グラフ
［考え方］雲の量や動きを調べる条件を整えながら継続観察し，それらの記録を整理しながら比較し，天気と関係付けていくような問題解決を図っていく。
※気温の適切な測り方について，温度計などを用いて場所を決めて定点で観測する方法が身に付くようにする。

［見方］体感で気付いた１日の気温の変化を温度計などで継続観察して量的・関係的な視点で捉える。

・天気によって１日の気温の変化の仕方に違いがあることを捉える。
→天気と気温の変化に着目して，それらを関係付けて，１日の気温の変化を調べる。
→１日の気温の変化の様子を調べる際には，グラフを用いて表したり，変化の特徴を読み取ったりすることについて，算数科の学習との関連を図るようにする。

［見方］水の自然蒸発や結露などの行方を水の体積変化から質的・量的・時間的な視点で捉える。
［見方］空気中に含まれる水蒸気について，質的・空間的な視点で捉える。
・水は，水面や地面などから蒸発し，水蒸気になって空気中に含まれていくことや，空気中の水蒸気は，結露して再び水になって現れることがあることを捉える。
→湿った地面が乾くなどの水の行方に着目して，それらと気温とを関係付けて，自然界の水の様子を調べる。
・自然界では水面や地面などから水が蒸発していることを捉える。
→水を入れた容器に覆いをしておくと，やがて内側に水滴が付いて曇ってくるといった現象を観察する。
・空気中には蒸発した水が水蒸気として存在していることや，冷やすと結露して再び水になって現れることがあることを捉える
→冷えた物を常温の空気中に置くとその表面に水滴が付く現象を観察する。
→窓ガラスの内側の曇りなど，身の回りで見られる結露の現象を取り上げる。
◎自然界での水の状態変化を捉えるために，の学習との関連を図るようにする。
◆神戸の気象観測，気象情報の発信　→　神戸地方気象台
◆水の性質を展示した施設　→　水の科学博物館　環境</td>
</tr>
</table>

理科

第 4 学 年 地 球	（3）月と星 月や星の特徴について，位置の変化や時間の経過に着目して，それらを関係付けて調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に 付けること。 （ア）月は日によって形が変わって見え，１日のうちでも時刻によって位置が変わること。 （イ）空には，明るさや色の違う星があること （ウ）星の集まりは，１日のうちでも時刻によって，並び方は変わらないが，位置が変わること イ　月や星の特徴について追究する中で，既習の内容や生活経験を基に，月や星の位置の変化と時間の経過との関係について，根拠のある予想や仮説を発想し，表現すること。	◎第３学年「B（3）太陽と地面の様子」⇒（本内容）⇒第６学年「B（5）月と太陽」（…地球と天体の運動に関わるもの） ▲中学校第２分野「（6）地球と宇宙」 **［考え方］月や星の形の特徴について，既習の内容や生活体験を基に，位置の変化や時間の経過と関係付けながら根拠のある予想や仮説を発想していくような問題解決を図っていく。** **［見方］月の動きを継続観察し，月の位置を時間的・空間的な視点で捉える。** ・月は三日月や満月など日によって形が変わって見え，１日のうちでも時刻によって位置が変わることを捉える。 →任意の時刻における月の位置を，木や建物など地上の物を目印にして調べたり，方位で表したりする活動を行い，月の見え方について調べる。 **［見方］星の明るさや色の違いを時間的・空間的な視点で捉える。** ・空には，明るさの違う星があること，星には青白い色や赤い色など色の違いがあることを捉える。 →星の明るさや色に着目して，それらを比較しながら，星の明るさや色の違いを調べる。 **【見方】星の位置の変化や並び方を継続観察し，時間的・空間的な視点で捉える。** ・明るく輝く星をいくつか結んで何かの形に表すと星の集まりをつくることができ，これらの星の集まりは，時間の経過に伴って並び方は変わらないが位置が変化していることを捉える。 →星の位置の変化と時間の経過に着目して，それらを関係付けて，木や建物など地上の物を目印にして，星の位置の変化を調べる。 ※実際に月や星を観察する機会を多くもつようにし，夜空に輝く無数の星に対する豊かな心情と天体に対する興味・関心をもつようにする。 ※学校では観察ができない時間帯の月や星の位置の変化については，映像や模型，プラネタリウムなどを活用する。 ※方位磁針を用いて方位の確認をしたり，観察の時間間隔を一定にしたりして，決めた場所で月や星の位置の変化を観察する方法が身に付くようにする。 ※夜間の観察の際には，安全を第一に考え，事故防止に配慮するように指導する。 ◆プラネタリウムの利用や天体に関する展示物　→　青少年科学館 ◆パソコン用天文ソフトの活用　→　KIIF に入っている Stellarium など ◆宿泊を伴う学習の機会での夜間観察　→　自然学校，４年生のキャンプ ◆科学館職員など天体を専門分野とする特別講師の活用

<table>
<tr><td>第
5
学
年
地
球</td><td colspan="2">【目標】
① 流れる水の働き，気象現象の規則性についての理解を図り，観察，実験などの関する基本的な技能を身に付けるようにする。（知・技）
② 流れる水の働き，気象現象の規則性について追及する中で，主に予想や仮説を基に，解決の方法を発想する力を養う。（思・判・表）
③ 流れる水の働き，気象現象の規則性について追及する中で，生命を尊重する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。（主体性）</td></tr>
<tr><td></td><td>指導内容（自然の事物・現象）</td><td>内 容 の 取 扱 い（[見方]，[考え方]）</td></tr>
<tr><td></td><td>（1） 流れる水の働きと土地の変化
流れる水の働きと土地の変化について，水の速さや量に着目して，それらの条件を制御しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるように指導する。
ア 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。
（ア） 流れる水には，土地を侵食したり，石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。
・流れる水の働き…侵食，運搬，堆積</td><td>◎第４学年「B（3）雨水の行方と地面の様子」⇒本単元⇒第６学年「B(4)土地のつくりと変化」（…地球の内部と地表面の変動・地球の大気と水の循環に関わるもの）
★社会科 神戸の水害の歴史，市内の川
[考え方] 流れる水の働きと土地の変化について，それらの要因を抽出し，「条件を制御」して問題解決を図っていくことで，その規則性や関係性を見出していく。
[見方] 川を流れる水の速さや量について，それらと川原の石の大きさや形との時間的，空間的な視点でとらえる。
・ 流れる水には，土地を侵食したり，石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあることを捉えるようする。
→予想や仮説を基に，解決の方法を発想し表現する。
・ 観察，実験の結果と実際の川の様子を関連付けてとらえられるようにする。
→雨水が地面を流れる様子や雨上がりの地面の様子を観察する。
→人工の流れで水の流れを作ったモデル実験により確かめる。
→川岸，川原，川の流れの様子を実際に観察したり，視聴覚教材を活用して確かめたりする。</td></tr>
<tr><td>第
5
学
年
地
球</td><td>（イ） 川の上流と下流によって，川原の石の大きさや形に違いがあること。
・上流…大きな角張った石
・下流…小さな丸みのある石</td><td>[見方] 川の流れる水や速さや量について，それらと土地の変化との時間的・空間的な視点で捉える。
・川の上流と下流によって，川原の石の大きさや形に違いがあることを捉えるようにする。
→石の大きさや形と流れる水の働きとの関係について予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現する。
・上流の侵食の働きと下流の堆積の働きから，流れる水の働きの違いによる川の様子を全体としてとらえられるようにする。
→上流に見られる石と下流に見られる石を見比べる。</td></tr>
<tr><td></td><td>（ウ） 雨の降り方によって，流れる水の速さや量は変わり，増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。</td><td>[見方] 雨が短期的に多量に降ったり，長時間降り続いたりした時の川を流れる水の速さや量について，それらと土地の変化との時間的・空間的な視点で捉える。
・ 雨の降り方によって，水の速さや量がまし，地面を大きく侵食したり，石や土</td></tr>
</table>

		を多量に運搬したり堆積させたりして，土地の様子が大きく変化する場合があることを捉えるようにする。
	・水の速さや量が増す ・地面を大きく侵食したり，石や土を大量に運搬したり堆積させたりする。	→雨が短時間に降ったり，長時間降り続いたりしたときの川の流れる水の速さや量に着目して，水の速さや量といった条件を制御しながら，増水による土地の変化の様子を調べる。 →雨が短時間に多量に降ったり，長時間降り続いたりしたときの雨水の流れや川の流れの様子を観察する。 →人工の流れをつくり流れる水の速さや量を変え，地面の変化の様子を調べる。 →長雨や集中豪雨により増水した川の様子をとらえるために，コンピュータや映像，図書などの資料を活用する。 ※川の現地学習に当たっては，気象情報に注意するとともに事故防止に配慮する。 ※河川の石，視聴覚教材の活用を図る。
	イ　流れる水の働きについて追及する中で，流れる水の働きと土地の変化との関係についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現すること。	※生活との関連として，長雨や集中豪雨がもたらす川の増水による自然災害などを取り上げる。 ◆水の力を利用した展示　→　水の科学館 ◆砂防ダムや河川工事など建設局・土木事務所等との連携も考えられる。 ◆神戸市の定点観測カメラ（河川モニタリングカメラシステム）の活用。 ◆しあわせはこぼう「高学年・水害」　防災
第5学年地球	（2）　天気の変化 天気の変化の仕方について，雲の様子を観測したり，映像などの気象情報を活用したりする中で，雲の量や動きに着目して，それらと天気の変化とを関係付けて調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。 (ア)　雲の量や動きは，天気の変化と関係があること。 ・乱層雲などが多く見られると，天気は雨になる。	◎第４学年「B（4）天気の様子」 ▲中学校第２分野「（4）気象とその変化」 **［考え方］雲の量や動きを調べる条件を整えながら継続観察し，それらの記録を分類・整理しながら比較し，天気と関係付けていくような問題解決を図っていく。** ※身近な自然現象としての雲を観察することにより，気象現象に興味・関心をもち，天気を予想することができるようにする。 ※雲を野外で観察する際には，気象情報に注意するとともに，太陽を直接見ないように指導し，事故防止に配慮するように指導する。 ※百葉箱，記録温度計の使用が考えられる。 **［見方］空の様子を部分で観察し，雲と天気の関係を時間的・空間的に捉える。** ・天気の変化の仕方についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するとともに，天気の変化は，雲の量や動きと関係があることを捉えるようにする。 ・実際に観察した結果から，雲の形や量，動きの多様さに触れ，雲には様々なものがあることを捉えるようにする。 →雲の量や動きに着目して，それらと天気の変化とを関連付けて，１日の雲の量や動きを調べる。 ・雨に関係する雲として，例えば，乱層雲などを扱う。 **［見方］天気の変化を日本全体で観察し雲と天気の関係を時間的・空間的な視点で捉える。また，地域の天気について部分と全体で情報を集め，雲と天気の関係を時間的・空間的な視点で捉える。**
	(イ)　天気の変化は，映像などの気象情報を用いて予想できること。	

<table>
<tr>
<td></td>
<td>・天気はおよそ西から東へ変化していく。
・台風の進路については，天気の変化の規則性が当てはまらず，台風がもたらす降雨は短時間に多量になる。

イ　天気の変化の仕方について追及する中で，天気の変化の仕方と雲の量や動きとの関係についての予想や仮説を基に，解決の方法を発送し，表現すること。</td>
<td>［見方］台風のときの雲と天気の関係を時間的・空間的な視点で捉える。
・ 天気の変化の仕方についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するとともに，天気はおよそ西から東へ変化していくという規則性があり，映像などの気象情報を用いて予想ができるようにする。
→数日間の雲の量や動きの着目して，それらと気象衛星などから得た雲の量や動きの情報とを関係付けて，天気の変化を調べる。
→テレビや新聞，インターネットを活用し，数日間の天気の様子を調べる。
→他校（自分の学校より東や西にある学校）の天気の変化について，時刻を追って記録し，自分の学校と比較する。
・遠足や自然学校前指導等にからめると効果的である。
・ 台風の進路については，この規則性が当てはまらないことや，台風がもたらす降雨は短時間に多量になることにも触れる。
※生活との関連として，長雨や集中豪雨，台風などの気象情報から，自然災害を取り上げる。
◆しあわせはこぼう「水害」　◆地域の人材（気象予報士など）の活用。
◆統計データの活用や観測施設の見学‥神戸地方気象台。
◆大学の研究室や漁業組合との連携。　防災</td>
</tr>
<tr>
<td>第
6
学
年
地
球</td>
<td colspan="2">【目標】
① 土地のつくりと変化，月の形の見え方と太陽との位置関係についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。　(知・技)
② 土地のつくりと変化，月の形の見え阿多と太陽との位置関係について追及する中で，主にそれらの働きや関わり，変化及び関係について，より妥当な考えを作りだす力を養う。　(思・判・表)
③ 土地のつくりと変化，月の形の見え方と太陽との位置関係について追及する中で，生命を尊重する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。　(主体性)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>指導内容（自然の事物・現象）</td>
<td>内 容 の 取 扱 い（[見方]，[考え方]）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>（1）　土地のつくりと変化
土地のつくりと変化について，土地やその中に含まれるものに着目して，土地のつくりやでき方を多面的に調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。
(ア)　土地は，礫，砂，泥，火山灰などからできており，層を作って広がっているものがあること。また，層には化石が含まれているものがあること。</td>
<td>◎第４学年「Ｂ(３)雨水の行方と地面の様子」⇒第５学年「Ｂ(３)流れる水の働きと土地の変化」
▲中学校第２分野「(２)大地の成り立ちと変化」

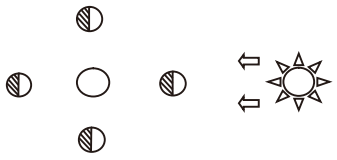
［考え方］土地のつくりやでき方について，土地やその中に含まれているものを多面的に考えることで，規則性や関係性，因果関係を見出して問題解決を図っていく。

［見方］崖や切り通しなどで土地やその中に含まれているものについて，土地のつくりとの時間的，空間的な視点で捉える。
・ 土地は，礫，砂，泥，火山灰などからできており，幾重にも層状に重なり地層をつくって広がっているものがあることを捉えるようにする。
→崖や切り通しなどで地層やその中に含まれるものに着目して土地のつくりを多面的に調べる。
→映像，図書などの資料を活用する。</td>
</tr>
</table>

第6学年地球	・幾重にも層状になった地層は，広がりをもって分布している。 （イ） 地層は，流れる水の働きや，火山の噴火によってできること。 ・流れる水のはたらき →丸みを帯びた礫や砂や貝などの化石 ・火山のはたらき →火山灰や多くの穴をもつ石	・ 地層には化石が含まれているものがあることや，礫，砂，泥については，粒の大きさに違いがあることを捉えるようにする。 →複数の地点の地層のつくりを層の構成物の粒の大きさや形，色を相互に関係付けて調べ，地層の重なりや広がりを捉える。 →土地の構成物を調べる際には，地質ボーリングの資料を利用する。 **［見方］土地やその中に含まれるものについて，土地のでき方との時間的・空間的な視点で捉える。** ・地層ができた要因について，より妥当な考えを作りだし，表現するとともに，地層は流れる水の働きや火山の噴火によってできることを捉えるようにする。 →土地やその中に含まれるものに着目して，粒の大きさや形や色などの特徴から，土地のでき方を多面的に調べる。 ・地層の中に含まれる丸みを帯びた礫や砂などから，流れる水の働きによって作られた地層であることを捉えるようにする。
	（ウ） 土地は，火山の噴火や地震によって変化すること。 ・火山の噴火→溶岩や火山灰 ・地震→地割れや断層，崖崩れ イ 土地のつくりと変化について追及する中で，土地のつくりやでき方について，より妥当な考えを作りだし，表現すること。	→流れる水の働きでできた岩石として礫岩，砂岩，泥岩を扱う。 →堆積実験用水槽 等を使ったモデル実験をする。 **［見方］土地の様子について，土地のつくりやでき方との時間的・空間的な視点で捉える。** ・ 火山の噴火によって作られた地層もあることを捉えるようにする。 →火山灰や多く穴を持つ石が地層の中に含まれていることを確認する。 ・ 土地のつくりやでき方について，より妥当な考えをつくりだし，表現するとともに，土地は，火山の噴火や地震によって変化することを捉えるようにする。 →土地の様子に着目して，火山の活動や地震による土地の変化を多面的に調べる。 ・ 過去に起こった火山の活動や大きな地震によって土地が変化したことを推論するとともに，将来にも起こる可能性を考え，土地が変化することをとらえられるようにする。 →自然災害と関係付けながら火山の活動や地震によって土地が変化した様子を観察する。 →コンピュータや映像，図書などの資料を基に調べる。 ※遠足などあらゆる機会を生かして実際に地層を観察する機会をもつとともに，映像，模型，標本などの資料を活用したり，博物館などを利用したりする。 ※岩石サンプル採取時は，保護眼鏡を使用するなど安全や事故防止に配慮する。 ※岩石標本，地質ボーリング資料，堆積実験用水槽，化石標本，火山灰，視聴覚教材などを使用することが考えられる。 ◆しあわせはこぼう「地震災害」，阪神淡路大震災の記録。 ◆地震による土地の変化に関する展示 → 人と防災未来センター。 ◆市内の断層図，地理・地形との関連付け（有馬温泉，御影石など）。防災

<table>
<tr>
<td>第
6
学
年

地
球</td>
<td>（5）月と太陽
月の形の見え方について，月と太陽の位置に着目して，それらの位置関係を多面的に調べる活動を通して，次の事項を身につけることができるよう指導する。
ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 月の輝いている側に太陽があること。また，月の形の見え方は，太陽と月の位置関係によって変わること。
 

イ　月の形の見え方について探求する中で，月の位置や形と太陽の市野と関係について，より妥当な考えを作りだし，表現すること。

・月は太陽の光を反射している
・月の表面には，クレーターなどが見える。</td>
<td>◎第４学年「Ｂ（４）天気の様子」
▲中学校第２分野「（４）気象とその変化」
［考え方］月の見え方について，月と太陽の位置関係を数日間観察して，多面的に追及し得られた観察記録を分類・整理して妥当な考え方を作りだし，問題解決を図る。
※移動教室など宿泊を伴う学習の機会を生かすとともに，プラネタリウムなどの活用や二球儀，天体望遠鏡，視聴覚教材の活用を図る。
※夜間に屋外で観察する際には，安全を第一に考え，事故防止に配慮する。
※太陽の表面の観察に当たっては，直接太陽を観察しないように安全に配慮する。
［見方］月の形が変わった時の月と太陽の位置を時間的・空間的な視点で捉える。
・月は，日によって形が変わって見え，月の輝いている側に太陽があることや，月の形の見え方は太陽と月との位置関係によって変わることを捉えるようにする。
→月に見立てたボールや発泡スチロール球に光を当てるモデル実験を行い，モデル図などの図によって表現する。
→月の形の見え方と太陽の位置関係を実際に観察したり，モデルや図で表したりして多面的に調べる。
・月を観察する際には，クレーターなど，表面の様子にも目を向けて，月に対する興味・関心を高めるようにする。
→月の表面の様子を双眼鏡や望遠鏡で観察したり，映像，模型，資料を活用したりする。
→望遠鏡にＪＩＳ規格のフィルターをつけて太陽を観測したり，投影した太陽の像を観察したりする。
→校内で月の観望会をするなど，できるだけ実物を見る機会を設定する。
◆プラネタリウム見学や天体望遠鏡の借用　→　青少年科学館
◆科学館職員など天体を専門分野とする特別講師の活用</td>
</tr>
<tr>
<td>中学校</td>
<td colspan="2">【第２分野　地球内容】
（2）大地の成り立ちと変化　（4）気象とその変化　（6）地球と宇宙　（7）自然と人間</td>
</tr>
</table>

第３　指導計画の作成と内容の取扱い

１　理科の指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮する。

（1）主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，理科の学習過程の特質を踏まえ，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどの，問題を科学的に解決しようとする学習活動の充実を図ること。

（2）問題解決の力の育成

各学年で育成を目指す思考力，判断力，表現力等については，該当学年において育成することを目指す力のうち，主なものを示したものであり，実際の指導に当たっては，他の学年で掲げている力の育成についても十分に配慮すること。

小学校理科では，第３学年では，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力が，第４学年では，主に既習の内容や生活経験を基に，根拠のある予想や仮説を発想する力が，第５学年では，主に予想や仮説を基に，解決の方法を発想する力が，第６学年

では，主により妥当な考えをつくりだす力が問題解決の力として示されている。

（3）障害のある児童への指導

障害のある児童などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うこと。

（4）道徳科などとの関連

第１章総則の第１の２の（２）に示す道徳教育の目標に基づき，道徳科などとの関連を考慮しながら，第３章特別の教科道徳の第２に示す内容について，理科の特質に応じて適切な指導をすること。

２　理科の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

（1）言語活動の充実

問題を見いだし，予想や仮説，観察，実験などの方法について考えたり説明したりする学習活動，観察，実験の結果を整理し考察する学習活動，科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする学習活動などを重視することによって，言語活動が充実するようにすること。

（2）コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用

観察，実験などの指導に当たっては，指導内容に応じてコンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用できるようにすること。また，第１章総則の第３の１の (3) のイに掲げるプログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には，児童の負担に配慮しつつ，例えば第２の各学年の内容の〔第６学年〕の「A物質・エネルギー」の (4) における電気の性質や働きを利用した道具があることを捉える学習など，与えた条件に応じて動作していることを考察し，更に条件を変えることにより，動作が変化することについて考える場面で取り扱うものとする。

（3）体験的な学習活動の充実

生物，天気，川，土地などの指導に当たっては，野外に出掛け地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を多く取り入れるとともに，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養うようにすること。

（4）自然災害との関連

天気，川，土地などの指導に当たっては，災害に関する基礎的な理解が図られるようにすること。

（5）主体的な問題解決の活動の充実，日常生活や他教科等との関連など

個々の児童が主体的に問題解決の活動を進めるとともに，日常生活や他教科等との関連を図った学習活動，目的を設定し，計測して制御するという考え方に基づいた学習活動が充実するようにすること。

（6）博物館や科学学習センターなどとの連携

博物館や科学学習センターなどと連携，協力を図りながら，それらを積極的に活用すること。

３．事故防止，薬品などの管理

観察，実験などの指導に当たっては，事故防止に十分留意すること。また，環境整備に十分配慮するとともに，使用薬品についても適切な措置をとるよう配慮すること。

（1）予備実験

観察・実験の指導に当たっては，予備実験を行い，安全上の配慮事項を具体的に確認した上で，事故が起きないように児童に指導することが重要である。

（2）安全管理

加熱，燃焼，気体の発生などの実験，ガラス器具や刃物などの操作，薬品の管理，取扱い，処理などには十分に注意を払うことが求められる。野外での観察，採集，観測などでは事前に現地調査を行い，危険箇所の有無などを十分に確認して，適切な事前指導を行い，事故防止に努めることが必要である。実験は立って行うことや，状況に応じて保護眼鏡を着用するなど，安全への配慮を十分に行うこ

とが必要である。また実験後の後片付けでの事故が多いため，どのような手順で，どのような方法で片付けるのかを児童に指導した上で行うことが大切である。（実際に起きている事故例；気体検知管使用後の廃棄時に先端のガラスでけが，石灰水やミョウバン等の誤飲，ガラス器具の加熱による破裂，実験時に覗き込んだことによる目の損傷等）

（3）観察・実験の充実

理科室は，児童が活動しやすいように整理整頓しておくとともに，実験器具等の配置を児童に周知しておくことも大切である。さらには，理科室や教材，器具等の物的環境の整備や人的支援など，長期的な展望の下，計画的に環境を整備していくことが大切である。

（4）使用薬品等の管理

地震や火災などに備えて，法令に従い，厳正に管理する必要がある。特に，塩酸や水酸化ナトリウムなど，毒物及び劇物取締法により，劇物に指定されている薬品は，法に従って適切に取り扱うことが必要である。

（5）事故防止における手立て等

・理科の観察・実験では安全第一を考える。・事前実験や事前準備を怠らない。
・薬品や器具の特性の理解と扱い方をつかんでおく。
・保護眼鏡の着用，立って実験，薬品等を覗き込まない，机上整理等，児童への事前指導をしっかり行う。
・火や薬品を使う師範実験時には，安全を配慮し必要以上に児童を近づけない。
・事故が起きたときには，必ず管理職と相談して対処する。
・目の事故，やけどや誤飲などに対して，迅速に対処するとともに保護者等にしっかり説明する。

○思考力，判断力，表現力等及び学びに向かう力，人間性等に関する学習指導要領の主な記載

<table>
<tr><td>資質・能力</td><td>学年</td><td>エネルギー</td><td>粒子</td><td>生命</td><td>地球</td></tr>
<tr><td>資質・能力</td><td>学年</td><td>エネルギー</td><td>粒子</td><td>生命</td><td>地球</td></tr>
<tr><td rowspan="4">思考力
判断力
表現力等思考力，
判断力，
表現力等</td><td>第３学年
第３学年</td><td colspan="4">（比較しながら調べる活動を通して）自然の事物・現象について追究する中で，差異点や共通点を基に，問題を見出し，表現すること。</td></tr>
<tr><td>第４学年
第４学年</td><td colspan="4">（関係付けて調べる活動を通して）自然の事物・現象について追究する中で，既習の内容や生活経験を基に，根拠のある予想や仮説を発想し，表現すること。</td></tr>
<tr><td>第５学年
第５学年</td><td colspan="4">（条件を制御しながら調べる活動を通して）自然の事物・現象について追究する中で，予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現すること。</td></tr>
<tr><td>第６学年
第６学年</td><td colspan="4">（多面的に調べる活動を通して）自然の事物・現象について追究する中で，より妥当な考えをつくりだし，表現すること。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学びに向かう力，人間性等
学びに向かう力，人間性等</td><td rowspan="2">全学年全学年</td><td colspan="4">主体的に問題解決しようとする態度を養う。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">生物を愛護する(生命を尊重する)態度を養う。</td></tr>
</table>

※各学年で育成を目指す思考力，判断力，表現力等については，該当学年において育成することを目指す力のうち，主なものを示したものであり，他の学年で掲げている力の育成についても十分に配慮すること。

第5節　生　活　科

第１　目　標

具体的な活動や体験を通して，身近な生活に関わる見方・考え方を生かし，自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 活動や体験の過程において，自分自身，身近な人々，社会及び自然の特徴やよさ，それらの関わり等に気付くとともに，生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

(2) 身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉え，自分自身や自分の生活について考え，表現することができるようにする。

(3) 身近な人々，社会及び自然に自ら働きかけ，意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

※「身近な生活に関わる見方・考え方」とは，身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉え，よりよい生活に向けて，思いや願いを実現しようとすること。

標準	１年	２年
授業時数	102	105

第２　各学年の目標及び内容

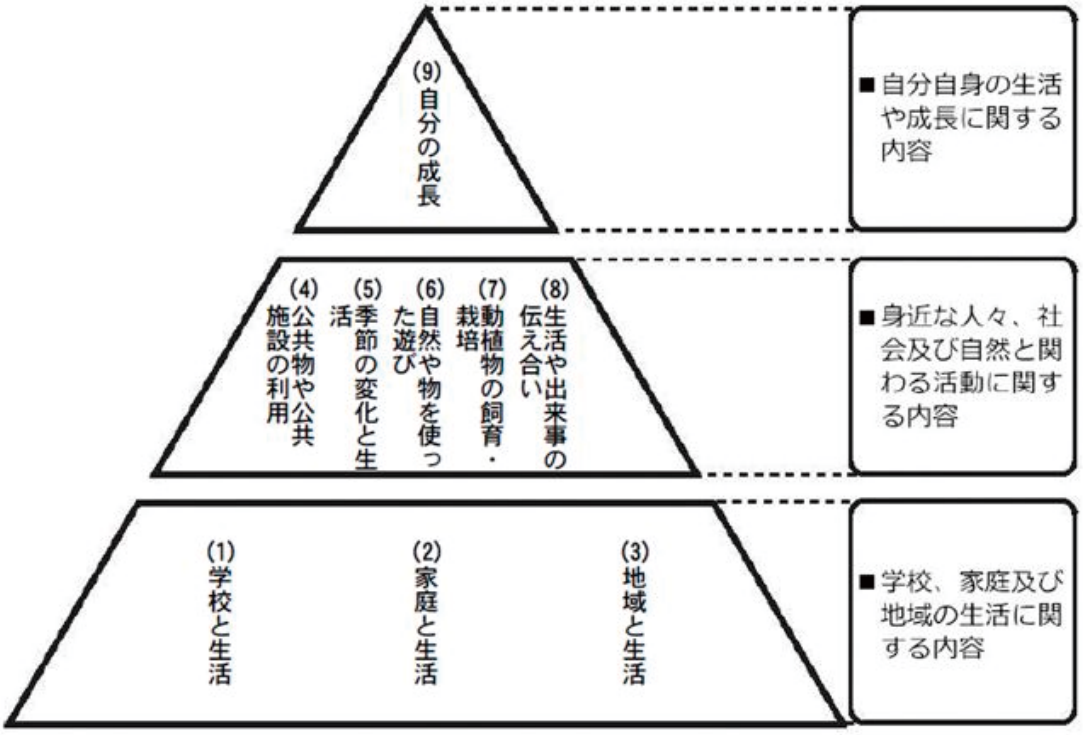
【第１学年及び第２学年】

１　目　標

(1) 学校，家庭及び地域の生活に関わることを通して，自分と身近な人々，社会及び自然との関わりについて考えることができ，それらのよさやすばらしさ，自分との関わりに気付き，地域に愛着をもち自然を大切にしたり，集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。

(2) 身近な人々，社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して，それらを工夫したり楽しんだりすることができ，活動のよさや大切さに気付き，自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。

(3) 自分自身を見つめることを通して，自分の生活や成長，身近な人々の支えについて考えることができ，自分のよさや可能性に気付き，意欲と自信をもって生活するようにする。



2 内 容

★：他教科・他内容とのつながり　◎：他学年とのつながり
▲：他校種とのつながり　◆：地域を生かした活動　※：特に配慮を要する事項

［学校，家庭及び地域の生活に関する内容］

⑴ 学校と生活

指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
学校生活に関わる活動，学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達，通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ，学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり，楽しく安心して遊びや生活をしたり，安全な登下校をしたりしようとする。	
学校生活に関わる活動 ・教室　・校長室　・職員室　・保健室　・図書室 ・体育館　・給食室　・管理員室　・事務室　・音楽室 ・図工室　・理科室　・家庭科室　・学習園　・遊具 ・手洗い場　・飼育小屋　・プール　・コンピュータルーム　など 〈活動例〉学校探検	※学校の施設や通学路にあるものを見つけたり，そこにいる人と触れ合ったりするなどして，施設の位置や特徴，役割，人の存在や働きなどに気付き，学校に自分の居場所を見つけ，安心して学校生活を送ることができるようにする。 ※歩いたり，調べたり，観察したりなどして，いろいろなことに気付き，楽しんで遊びや登下校ができるようにする。
学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達 ・校長　・教頭　・先生　・管理員　・養護教諭 ・栄養教諭(員)　・調理士　・事務職員　・学校図書館司書 ・スクールカウンセラー　・学級の友達　・学年の友達 ・上級生　・一緒に通学する友達　など 〈活動例〉学校探検，あくしゅだいさくせん，他学年の授業参観	※安全については，自然災害，交通災害，人的災害の３つの災害に対する安全確保に配慮する。 ※学校の施設はみんなのものであること，学校にはみんなで気持ちよく生活するためのきまりやマナーがあることなどに気付いたり，学校生活のリズムを身に付けたりする。 ※学校での自分の生活を豊かに広げていくという視点に立って，児童が常に学校での自分の生活をよりよくしていこうとする意識をもち続けられるよう工夫する必要がある。
通学路の様子やその安全を守っている人々 ・動植物をはじめとした自然 ・出会う人々や暮らし ・危険な箇所（横断歩道や工事現場，川の近く） ・安全を守る施設や人々 （こども 110 番の家，地域ボランティア，見守り隊）　など 〈活動例〉通学路調べ	防災 ▲幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を図る観点から，入学当初においては，生活科を中心とした合科的・関連的な指導や，弾力的な時間割の設定を行うなどのスタートカリキュラムとして単元を構成する。 ▲幼稚園や認定こども園・保育所などとの連携や全校的な協力体制を取れるようにすることが大切である。 ★特別活動，国語との合科的・関連的な指導を図りながら進めていく。 ★道徳「どきどきわくわくいちねんせい」「じぶんでまもるあんぜんなまい日」「みんなでつかうばしょなのに」 ★３年及び４年社会　「地域や市」「安全な生活」

⑵ 家庭と生活

指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
家庭生活に関わる活動を通して，家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ，家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり，自分の役割を積極的に果たしたり，規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。	
家庭生活に関わる活動 ・家庭における自分の生活や役割を見つめる 「かぞくのすてきをみつけよう」「にこにこたんけんたい」 ・家庭での楽しみや家族のためにできることを考える 「えがおいっぱい」「かぞくえがお大さくせん」 ・自分でできることを実際に行う 「えがおカード」	※本学習を進めるには，児童の家庭背景に配慮する必要がある。そのため，個々の家庭の状況を十分把握した上で，一人一人の児童の実態を踏まえた適切な学習活動を行うようにする。家庭での実践が難しい場合には，実践の場を学校に求めるなどの工夫も考えられる。
家庭における家族のことや自分でできることについて考える ・家族一人一人の存在や仕事，役割，家庭における団らんなどが，自分自身や自分の生活とどのように関わっているかを考える 「えがおさくせんかいぎ」「アイディアこうかんかい」	※本学習は，家庭を実践の場とすることが多くなるため，家庭の理解と協力を得ることが不可欠である。学習の初めには，ねらいや活動の進め方について家庭に知らせ，協力を依頼する必要がある。児童が考えた活動を行う際も，児童の思いを家庭に十分に伝えていく必要がある。また，家庭での実践がうまく進んでいない場合には，連絡帳で児童の意欲や頑張りを伝え，保護者に個別に協力を依頼する。
家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる ・家庭生活においてそれぞれのよさや果たしている仕事，役割があること，それらと自分との関わりに気付く 「家族をモニタリング」「家族にインタビュー」 ・家庭での生活は互いを思い，助け合い，協力し合うことで成立していることが分かる 「かぞくからのてがみ」 ・自分も家庭も構成している大切な一人であることが分かること 「かぞくへのてがみ」	※家庭で話を聞いたり，家庭の仕事を自分との関わりの中で見つめ直したりすることで，家庭での生活は互いを思い，助け合い，協力し合うことで成立していることや自分もその中の一人であることが分かるように進めていく。また，児童が主体的に家庭生活に関わることができるよう，自分のことは自分で行ったり，家庭での関わり方について自己決定したりすることも大切である。
自分の役割を積極的に果たしたり，規則正しく健康に気をつけて生活したりしようとする ・自分の生活を見つめ直すことを通して，自分の役割を自覚し進んで取り組んだり，生活のリズムや健康に気を付けた暮らしを継続していこうとする 「できるかな」「わたしのチャレンジカード」	★家庭生活は児童の生活の中心を担うものであることから，他の内容との関連を図った活動を取り入れるよう工夫することが考えられる。例えば，自分で育てた野菜を家庭で調理して食べる，学校で飼育している動物を家庭で紹介する，家庭で出た廃材を使っておもちゃを作る，などが考えられる。 ★道徳「大すきな　かぞく」「ぼくのおとうさん」 ★国語「きいてしらせよう」「てがみをかこう」

⑶ 地域と生活

指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
地域に関わる活動を通して，地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ，自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり，それらに親しみや愛着をもち，適切に接したり安全に生活したりしようとする。	
地域に関わる活動 ・身近な生活圏である地域に出て，そこで生活したり働いたりしている人々と接し，様々な場所を調べたり利用したりするなどして，地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考える。そして，それらが自分たちの生活を支えていることや楽しくしていることがわかり，地域に親しみや愛着をもち，人々と適切に接し，安全に生活できる。 地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々 ・田，畑やそこで働く人 ・商店やそこで働く人 ・友達の家やその家族 ・公園や図書館などの公共施設やそこを利用したり働いたりしている人 ・幼稚園や認定こども園・保育所の園児，先生 ・近隣の人 ・見守り隊，子供 会の人（婦人会，老人会，自治会など） ・目印にしている場所や物 ・遊べる川や林 ・自分や家の人がよく利用する道 自分たちの生活は，様々な人や生活と関わっていることが分かる ・繰り返し町たんけんに出かけ，触れ合うことで「自分たちの町には素敵な人がいっぱいいるんだな。」と，気付くとともに，自分たちの生活は，様々な人や場所と関わり自分たちの生活を支えていることや生活を楽しくしていることが分かる。 親しみや愛着をもち，適切に接したり安全に生活したりする ・子供１１０番の店や家，防災コミュニティー，青少協との交流。 ・地域の人々や場所のよさに気付くとともに，それらを大切にしようとする気持ちや地域に積極的に関わろうとする気持ちを一層強くもつ。 ・地域の人々に心を寄せ「自分もがんばりたい。」と，夢や希望をもち，意欲をもって生活するようになる。 ＜活動例＞ ・公園探検 ・まち探検	▲幼稚園や認定こども園・保育所の公園遊びやお散歩から繋がっている。 ※関わる活動を繰り返し，活動を通して地域がより身近なものになるよう子供の願いを大切にしながら，単元計画を立てる。 防災 ◆自分の家や学校の周りに視点を合わせる。 ◆探検場所をワークシートにまとめ，校区図に貼って整理できるようにする。 ◎３年社会（１）身近な地域や市町村の様子（２）地域に見られる生産や販売の仕事 ★道徳　　交通安全・あいさつ ※地域の方への事前連絡，安全確保のための保護者への依頼を行う。また，事後のお礼の手紙等の指導も大切にする。 ※防災の観点，福祉の観点で大切な物があれば，子供が気付くよう支援する。 ◆源平ゆかりの碑，神戸空襲の跡，阪神淡路大震災の跡などや語れる方がいらっしゃれば，子供に合った内容でお願いする。 ★２年国語「つたえたいことを　はっぴょうしよう」 ◆地域の人々の協力が欠かせない。以前からのつながりを大切にしながら，地域が常に変化していることを踏まえて，新たな協力者を探ることも大切である。その際は，学習のねらいを丁寧に説明し，児童が主体的に活動できるよう，共通理解を図ることが必要である。活動の意義について地域の人々に伝えることは，学校の児童が「地域の子供」であることを再認識することとなり，社会に開かれた教育課程にもつながる。 防災

★：他教科・他内容とのつながり　◎：他学年とのつながり
▲：他校種とのつながり　◆：地域を生かした活動　※：特に配慮を要する事項

［身近な人々，社会及び自然と関わる活動に関する内容］

⑷　公共物や公共施設の利用

指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
公共物や公共施設の利用する活動を通して，それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ，身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに，それらを大切にし，安全に気を付けて正しく利用しようとする。	
公共物や公共施設を利用する活動 ・利用体験から，たくさんの人が利用していることに気付き，そのよさを感じたり働きをとらえたりする。 ・利用することによって自分たちの生活が豊かになっていることやその社会的な役割に気付く。 公園　ベンチ　遊具　水飲み場　トイレ　ごみ箱 注意書き表示　そうじ道具入れ 児童館，集会所，地域福祉センター，公民館，図書館，移動図書館，博物館，美術館，駅，電車，バスの停留所，営業所，バス，防災倉庫，避難場所，道路，道路標識，横断旗，地域の掲示板や掲示物，河川敷や広場，交番，こども１１０番の家・店	★内容⑴学校と生活や内容⑶地域と生活などと組み合わせて単元を構成することも考えられる。その際は，指導の効果が高まるように配慮することが必要である。 １年学校たんけん １年通学路を安全に歩こう ２年町たんけん ※町を探検する中でバスや電車などの乗り物を利用する場合には，公共の交通機関はたくさんの人が利用していることや，みんなで気持ちよく利用するためのルールやマナーがあることなどに気付き，安全に気を付けて正しく利用できるようにすることが大切である。
支えている人々がいることなどが分かる ・支える仕事はどんなものかあるのか，見学したりインタビューしたりしてとらえ，働く人の工夫や，気持ちを見つける。	◆電車，バスに実際に乗る活動 ※切符の買い方や，料金の払い方，安全，マナーの指導に加えて，活動中の立ち番や班についていく人員の確保には，保護者にも協力を依頼するなど十分な見守りができるよう配慮する。
安全に気を付けて正しく利用しようとする ・利用した時の体験や，見学やインタビューなどから，ルールやマナーを確かめる。 ・安全な利用について確かめる。 ・調べたり，見たり したことを，絵や模型であらわす，劇化する「○○はかせ」発表会　など ・家庭での利用経験についても共有できるよう，朝の会や掲示板など，授業以外でも情報発信の場を工夫する。	※社会生活の基本となるルールやマナーを身に付けられるようにするには，単にそれだけを取り上げて指導するのではなく，他教科等や他単元と関連させるなど，学習の必要感のある機会と場をつくり，児童の思いや願いを実現する過程において，必要に応じて適切に指導していくことが大切である。 ・国語の読書指導と図書館の利用 ・遠足など ◎３年社会　公共施設の学習

⑸ 季節の変化と生活

指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
身近な自然を観察したり，季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して，それらの違いや特徴を見付けることができ，自然の様子や四季の変化，季節によって生活の様子が変わることに気付くとともに，それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。	
身近な自然を観察する活動 校庭及び近くの公園にある自然 ・草花　・虫　・木の葉や実　など 野原や山（林） ・草花　・樹木　・木の葉や実　・野鳥　など 川や土手・池・海 ・水辺の生き物　・野鳥　・貝殻　・石や砂　など 田畑 ・虫　・野菜や果物・米などの作物　・水辺の生き物　など 〈活動例〉 ・四季を通じて校庭や公園などの自然観察をし，観察カードに絵を描いたり，気付きを記録したりする。目・耳・手ざわりなど，いろいろな感覚を通して四季を感じられるようにする。 ・観察をして気付いたことを発表し合う。 ・自然を使った工作や遊びなどの活動につなげていく。 季節や地域の行事に関わる活動 季節にちなんだ行事や祭 ・花見　・端午の節句　・七夕　・夏祭り ・盆（精霊流し）　・地蔵盆　・月見　・秋祭り ・七五三　・大晦日　・元旦　正月　初詣 ・書初め　・十日えびす　・左義長（とんど焼き） ・厄除祭　・節分（豆まき）　・ひなまつり 地域の結びつき・楽しみのための行事 ・神戸まつり　・盆踊り（納涼大会） ・子供会のキャンプ　・地域運動会 ・秋祭り（獅子舞・子供みこしなど）　・クリスマス会 ・地域防災訓練　・地域の清掃活動 ・地域の餅つき大会やたこ揚げ大会 〈活動例〉 ・自分たちが拾った木の実などを使って遊びを考え，秋祭りをするなど，季節の祭りを計画して，他校種・他学年を招待する。	※ここで取り上げる身近な自然とは，児童が繰り返し関わることのできる自然であるとともに，四季の変化を実感するのにふさわしい自然である。 ※どの場所でも触れ合えることのできる共通の自然として，水・氷・雨・雪・風・光なども対象となる。 ※ビオトープや学校のプールなどを利用することができる。 ※生き物や草木などの観察を通して，季節の変化に気付くようにする。自分なりの思いや願いをもって，進んで自然と関わることができるように工夫する。 ★自然を観察し，自然の豊かな恵みに気付く活動は，内容 ⑹ 自然や物を使った遊びの活動とともに進めていくことで，より主体的に活動する児童の姿につながっていく。 ※一人一人の気付きを大切にし，それをふり返ったりみんなで交流したりする活動が大切である。 ◆四季の変化や季節によって，生活の様子が変わることや，自分たちの生活が地域の行事と関わっていることに気付くようにする。 ◆季節や地域の行事は，休日や長期休暇中に行われることが多いため，家庭と連携して指導することも考えられる。 ※この内容は，他の内容との関連を図り，年間を通して継続的に扱うことも考えられる。 ★内容⑶地域と生活， ★内容⑺動植物の飼育・栽培， ★内容⑻生活や出来事の伝え合いとも適宜関連させて，創意工夫のある指導計画を作成することが大切である。 ◎３年理科「身の回りの生物」 ◎３年社会「市の様子の移り変わり」 ◎４年理科「季節と生物」 ◎４年理科「天気の様子」 ▲◎季節の祭りや行事に他校種，他学年を招待する活動を取り入れることで意欲が高まり，継続的な交流につながる。

⑹ 自然や物を使った遊び

指導内容	内容の取扱い
身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して，遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ，その面白さや自然の不思議さに気付くとともに，みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。	
身近な自然を利用したり，使ったりして遊ぶ ・草花，樹木➡ネイチャーゲーム，染め物，押し花，アクセサリー ・木の実，葉➡人形，置物，おもちゃ（けん玉，車，つり，迷路，的あて，トントンずもう等），お面や帽子，服 ・石，砂，土➡砂遊び，泥団，石けり，ストーンアート ・光，影　➡影ふみ，影遊び ・水，氷　➡シャボン玉，色水，水遊び，氷作り，氷割り，霜柱 ・雨，雪，風➡雨の日の探検，雪だるま，雪うさぎ，凧 身近にある物を使って遊ぶ ・紙・ひも　➡ひもで登るおもちゃ，紙飛行機，紙コプター ・ポリ袋　➡びっくり箱，ロケット，パラシュート，つり ・空き缶，空き箱➡つり，ボウリング，空気砲，迷路，パチンコ ・空き容器，トレイ➡トコトコ亀さん，車，とんとんずもう ・ストロー，割り箸➡大車輪人形，吹き矢，割り箸でっぽう ・ペットボトル➡マラカス，玉落とし，船，的あて ・牛乳パック，紙コップ➡ぴょんぴょんガエル，けん玉，飛行機 遊びや遊びに使う物を工夫してつくる ・風，空気，輪ゴム，磁石の力を利用した動くおもちゃを作り，改善を繰り返す中，その特性に気付く ・より速く，より大きくなるよう試行錯誤を繰り返し工夫する。 ・ルールやきまりに着目し，遊び自体を工夫する。 身近な自然や身近にある物の面白さや不思議さに気付く ・ワークシートをかいたり，発表したりする（無自覚だった気付きが自覚） ・意見交換やほめほめカード，アドバイスカードなどの交換をする。（1つ1つの気付きが関連付けられる） ・振り返りカードをかいたり，まとめの話し合いをしたりする。（自分自身の成長や変容に気付く） みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする ・○○ランド，○○フェスティバルなどを開く活動を設定して友達のよさや自分との違いを考えたり，相手の意見を尊重したりする心を育む。	※自分から，自然の物に関わろうとする姿や，より楽しく遊ぼうと知恵を出し合う姿，そして，自分の思いや願いを実現し，満足感を得たり，自分らしさを表出したり友達との関係をつくり出したりする姿が見られるよう単元を組み立てる。 ※身近な自然を利用したり，身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ活動を通して，遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ，その面白さや自然の不思議さに気付くとともに，みんなと楽しみながら遊びを創り出すことができるようにすることを目指している。 環境 ★内容（5）季節の変化と生活との関連を図る ★図工，音楽との合科的・関連的な指導を十分に図る。 ★2年国語との合科的・関連的な指導 ◎3年理科物質とエネルギー（2）風やゴムのはたらき（3）光の性質（4）磁石の性質など ◎4年社会（2）人々の健康や生活環境を支える事業 ◎幼稚園や認定こども園・保育所での製作やあそびを踏まえた上で指導する。 ※試行錯誤を繰り返しながら，遊び自体を工夫したり，遊びに使う物を工夫してつくったりして考えを巡らせることができるよう計画を立てる。 ※「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」などの学習活動を大切にしたい。 ※本を揃え，調べやすくする。（図書館に連絡すれば数十冊関連図書を集めてもらえる） ※児童が遊びに使うものを工夫してつくることを通して，それらを実感できるよう単元を構成したり，学習環境を整えたりすることが大事である。 ※友達との関わり合いを通して約束やルールが大切なことや，それを守って遊ぶと楽しいことに気付くよう仕組む。また，振返り学習をすることで，友達のよさや自分との違いを考えたり，相手の意見を尊重したりする態度も身につくようにする。 ◎▲同学年で見合うのもよいが，異学年や幼稚園・認定こども園・保育所との交流も考えられる。

⑺ 動植物の飼育・栽培

指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して，それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ，それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに，生き物への親しみをもち，大切にしようとする。	
動物を飼ったり植物を育てたりする活動 〈飼育・栽培する動植物の例〉 小動物 ウサギ　モルモット　ハムスター　ニワトリ　インコ　など 昆虫その他の虫 カマキリ　バッタ　コオロギ　トンボ　モンシロチョウ アゲハチョウ　カブトムシ　クワガタムシ　ナナホシテントウ ダンゴムシ　カタツムリ　セミ　アリ　など 水生の生き物 カエル　オタマジャクシ　カメ　メダカ　フナ　タナゴ サワガニ　ヤドカリ　タニシ　など 春まきの草花 アサガオ　ヒマワリ　ホウセンカ　オシロイバナ マリーゴールド　など 秋まき　秋に球根を植える草花 チューリップ　ヒヤシンス　スイセン　クロッカス　アネモネ ムスカリ　など 野菜 ミニトマト　ナス　ピーマン　キュウリ　ダイズ トウモロコシ　サツマイモ　ダイコン　ラディッシュ　など 〈活動例〉 ・「みつけたよカード」に継続的に気付いたことを記録し，成長していく喜びを知る。「花がさいたよ」「実ができたよ」 ・いろいろな苗を育てて苗やさんを開き，地域の人を招待する。 ・野菜パーティーやポップコーンパーティー，おいもパーティーを開き，収穫の喜びをみんなで祝ったり，調理して食べたりする。 ・校庭で見つけたアリやダンゴムシなどを教室で飼育する。 ・教室で飼っている生き物や，家で飼っている生き物を持ち寄っていきものランドを開く。 動植物とのかかわりから生まれる気付き ・成長や変化についての気付き ・生命の大切さについての気付き ・自分のかかわり方についての気付き　など	◆どのような動物を飼育し，植物を栽培するかについては，各学校が地域や児童の実態に応じて適切なものを取り上げることが大切である。 ※毎日の学校生活の様々な場面に飼育・栽培活動を位置付けるようにするとよい。休み時間に動植物の世話をするなど，生活科を中心に一日の学校生活を設計することによって，生活科の活動を日々の学校生活に取り入れることも考えられる。 ※動植物の成長のすばらしさ，また死んだり枯れたりすることのつらさや悲しさを真摯に受けとめ，その生命とかかわり，守っていた自分自身の存在に気付く機会となるようにする。 ※動物の飼育に当たっては，管理や繁殖，施設や環境などについて配慮する必要がある。その際，専門的な知識をもった地域の専門家や獣医師などの多くの支援者と連携して，よりよい体験を与える環境を整える必要がある。また，地域の自然環境や生態系の破壊につながらないようにすると共に，外来生物等の取扱いには十分配慮しなければならない。 ※動植物に対する児童のアレルギーや感染症などについて，十分な対応を考えておく必要がある。 ★内容（5）「季節の変化と生活」との関連を図る。 ★内容（6）「自然や物を使った遊び」との関連を図る。 ▲幼稚園や認定こども園・保育所との交流（いきものランドなど） ◎◆いきものランドやおいもパーティーに６年生や地域の人を招待し，感謝の気持ちを伝えるなどの活動も考えられる。 ※２年間の見通しをもちながら，飼育と栽培両方をバランスよく確実に行っていくようにする。 ◎１年国語「よく見て書こう」 ◎２年国語「ていねいに観察して記録しよう」 ◎３年理科「身の回りの生物」 ◎４年理科「季節と生物」

⑻ 生活や交流の伝え合い

指導内容	内容の取扱い
自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して，相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ，身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに，進んで触れ合い交流しようとする。	
自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動 友達（学級・学年）　先生　　家族　他学年の児童　地域の方々 幼稚園や認定こども園・保育所等の園児や先生 ●　学習活動の全てに「伝え合う活動」が必要⇒対話的な学び ・「いちねんせいになったよ」…楽しかったことを話す ・「がっこうとともだち」…見つけた学校のヒミツの報告会をする ・「ひとつぶのたねから」…植物の成長の様子を物語にする ・「さあみんなでかけよう」…公園で見つけたものを粘土で作る ・「だいすきなつ」…夏の遊びで楽しかったことを絵日記にする ・「生きものとなかよし」…ウサギの様子を紙芝居にする ・「ひろがれえがお」…家族に感謝の手紙を書く ・「たのしもうあき」…秋のお店の看板を作る ・「たのしさ見つけたよふゆ」…おばあちゃんに年賀状をかく ・「もうすぐ２年生」…年長児に小学校のことを教える ・「わくわくするね２年生」…１年生に学校を案内する ・「おいしい野さいをそだてよう」…育て方を地域の人にたずねる ・「レッツゴー町たんけん」…町の人にインタビューする ・「つくろうあそびうくふうしよう」…おもちゃの説明書を書く ・「みんな生きている」…昆虫博物館を作る計画を話し合う ・「もっと行きたいな町たんけん」…たんけんのお願いを電話で行う ・「つたえ合おう町のすてき」…町の人の活動を劇で発表する ・「これまでのわたしこれからのわたし」…自分アルバムを交流する 相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりする 話す　聞く　ポスター　作文　新聞　写真　劇　カルタ 紙しばい　クイズ　ペープサート　コント　巻き物　手紙　絵 身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かる ・くり返し関わる ・疑問や願いをもって関わる 進んでふれあい交流しようとする ・歌・音読・劇など学んだことを披露する ・「あきまつり」「発表会」などに招待する	※人との関わりが希薄化している現在，よりよいコミュニケーションを通して情報の交換をし，互いの交流を豊かにすることが求められている。特に生活科においては，児童が，身近な幼児や高齢者，障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことを大切にしている。 ▲１年生時に「たのしもうあき」や「もうすぐ２年生」で地域の年長児と交流し，２年生時に「わくわくするね２年生」で入学してきた１年生と交流するなど，学年を超えて交流活動を継続することもできる。 ◆２年生の「町たんけん」の学習では，地域の方々と触れ合う機会を多くもつことができる。町の様子を見て回るだけでなく，地域行事への参加や，学校行事への招待など地域に関わる様々な学習活動に発展させることもできる。 ★１年国語「どうぞよろしく」「おおきくなった」「たからものをおしえよう」「すきなことなあに」「なつやすみのことをはなそう」「よく見てかこう」「てがみをかこう」「おもい出してかこう」 ２年国語「今週のニュース」「ていねいにかんさつして，きろくしよう」「こんなもの，見つけたよ」「大すきなもの教えたい」「せつめいのしかたに気をつけて読もう」「みんなできめよう」「できごとや気もちがつたわるように書こう」 ◎生活科の「伝え合う活動」で培った資質・能力は，他学年で行われる学習活動全ての基礎となる。対象とやり取りする中で，感じたり，考えたり，気付いたりする「対話的な学び」が生活科の中でも豊かに展開されることが求められている。 ※伝える活動を行うときは，相手のことを思い浮かべたり，相手の立場を気にかけたりするとともに，伝えたいことが相手に伝わるかどうかを判断して内容や伝える方法を決める。 ★この内容は，ほかの全ての内容との関連を図り，単元を構成していくことが考えられる。その際には，伝えたいという強い思いや願いを児童が心に抱くよう，活動や体験を充実させることが重要になる。

★：他教科・他内容とのつながり　◎：他学年とのつながり
▲：他校種とのつながり　◆：地域を生かした活動　※：特に配慮を要する事項

［自分自身の生活や成長に関する内容］

⑼　自分の成長

指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
自分自身の生活や成長を振り返り，自分のことや支えてくれた人々について考えることができ，自分が大きくなったこと，自分でできるようになったこと，役割が増えたことなどが分かるとともに，これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち，これからの成長への願いをもって，意欲的に生活しようとする。	
自分自身の生活や成長を振り返る活動 自分の良さや可能性に気付く。 発表会，本作り，自分カルタ作り，手紙 などの活動へつなげる。 ・入学当時の自分を振り返る活動 ４月に書いた名前と，３月に書いた名前を比べる。 できるようになったことを考える。 ・年長児に伝えたいこと・教えてあげたいことを考える活動 自分が不安だったこと，乗り越えたことを考える。 ・自分の成長を追う活動 インタビュー，手紙，赤ちゃん人形，なまえの秘密，成長記録，身長分の紙テープ，写真　小さい頃のおもちゃ・服　かいた絵 ◆「いのちの感動体験」の活用 赤ちゃん先生との交流 大きくなったこと，できるようになったこと，役割が増えたこと ・生活（遊び，給食，係，ルール，お手伝いなど）や学習から ・身体的成長（身長・体重など，小さくなった服） ・内面的成長（思いやり，我慢，がんばる気持ち，家での仕事など） これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつ ・お礼の会，できるようになったこと発表会，ありがとうカード ６年生へ　おうちの方へ　地域の方へ　２年生へ これからの成長への願いをもって，意欲的に生活しようとする ・これからの願い，思いえがく自分の姿について考える。 未来の自分への手紙　決意表明 ・幼稚園や認定こども園・保育所の園児を招待する。 エプロン体験，学校ルールクイズ，ランドセル背負い体験 仲直りのやりかた劇　挨拶練習　そうじ体験　教室あそび体験 ・新１年生にしてあげたいこと １年生を迎える会，学校たんけん，アサガオの種のプレゼント	※どの時点から自分の成長を振り返り実感するかは，児童によって異なる。よく覚えていることから振り返る児童もいれば，現在の自分から振り返る児童もいよう。大切なのは，自分の成長を実感できることであって，一律に過去から順にたどることではない。こうした観点に立って，振り返りの時点については，特に，入学してから，誕生してから，というような示し方をしていない。 ◎発表会を見てもらうことで，お礼の気持ちを伝えたり，成長した姿を一緒に喜んでもらったりすることで支えてくれた人とつながることができる。 ★自分の成長への気付きは，この内容だけに限らず，生活科の全ての内容の中で捉えていくことができる。各内容との関連を意識し，年間を見通した計画的な学習活動を構想することが必要である。 ▲★入学前の園児を迎える活動は，新１年生が入学後も，１年生を迎える会や学校たんけんなどにつながっていく。 ★４年生で，２分の１成人式などをする場合は，関連や重なり，つながりを考慮する。 ※活動によっては，児童の誕生や生育に関わる事柄を扱ったり，家族へのインタビューを行ったりするような場合も考えられるため，プライバシーの保護に留意するとともに，それぞれの家庭の事情，特に生育歴や家族構成などに十分配慮することが必要である。 ※写真をもってくる，インタビューをする，手紙を書いてもらうなど，考えられる活動を早めに伝え，できないことがある場合には別のものに変えていくことを考える。 ※写真や，小さいころの服など持ってくることも考えられるが，本人にも親にとっても大事なものであるので，事前に大事に扱うことの指導が必要。

第３　指導計画の作成と内容の取扱い

１　指導計画作成上の配慮事項

１　指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。	
(1) 年間や，単元（題材）など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，児童が具体的な活動や体験を通して，身近な生活に関わる見方・考え方を生かし，自分と地域の人々，社会及び自然との関わりが具体的に把握できるような学習活動を行うこととし，校外での活動を積極的に取り入れること。	・生活科の教科目標で示された「自立し生活を豊かにしていくための資質・能力」は，一つ一つの単元や年間を通した授業の積み重ねによって総合的に育成されていく。したがって，「年間」という文言が付け加えられているのは，生活科の特質による固有なものである。 ・「資質・能力」の育成のためには，「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る」ことが鍵となる。単に思いや願いを実現する体験活動を充実させるだけではなく，表現活動を工夫し，体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視するなど，気付きの質を高めることを意識することが大切である。このことは，第 1 章総則第３の１の(1)にも示されているように，今回の改訂における重要な改善点である。
(2) 児童の発達の段階や特性を踏まえ，２学年間を見通して学習活動を設定すること。	・九つの内容を実現する学習活動が，教える側の一方的な都合で計画されるのではなく，児童の発達の段階や特性に適合しているかを吟味した上で単元を構成し，２学年間を見通して効果的に配置することを今まで以上に心掛ける必要がある。 ・九つの内容を踏まえた学習活動を，児童の発達の段階や特性と結び付けて単元として構成するだけでなく，カリキュラム・マネジメントの視点から，単元相互の関係を意識し配列することも重要な視点である。
(3) 第２の内容の(7)については，２学年間にわたって取り扱うものとし，動物や植物への関わり方が深まるよう継続的な飼育，栽培を行うようにすること。	・２学年間にわたって取り扱うとは，第１学年でも第２学年でも取り扱うということである。 ・例えば，第１学年では飼育，第２学年では栽培（又はその逆）を行う方法や，第１学年でも第２学年でも飼育と栽培の両方を行う方法があろう。また，例えば，小動物を育てながら一緒に野菜などを栽培して，その一部を小動物のえさにする方法もあろう。栽培では第１学年の春から秋にかけて行い，引き続いて第２学年の春にかけて行う方法も考えられる。 ・２学年間にわたっての継続的な飼育・栽培を行うことが特に強調されたのは，前回の改訂からである。これは，自然事象に接する機会が乏しくなっていることや生命の尊さを実感する体験が少なくなっているという児童の置かれた現状を踏まえたものである。
(4) 他教科等との関連を積極的に図り，指導の効果を高め，低学年における教育全体の充実を図り，中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに，幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	・生活科が，低学年における教育全体の充実を図る上で重視すべき方向を表しており，教科等間の横のつながりと，幼児期からの発達の段階に応じた縦のつながりとの結節点であることを意識することが重要である。 ・合科的な指導とは，各教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで，単元又は１コマの時間の中で，複数の教科の目標や内容を組み合わせて，学習

との関連を考慮すること。特に，小学校入学当初においては，幼児期における遊びを通した総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し，主体的に自己を発揮しながら，より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際，生活科を中心とした合科的・関連的な指導や，弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。	活動を展開するものである。また，関連的な指導とは，教科等別に指導するに当たって，各教科等の指導内容の関連を検討し，指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するものである。 ・生活科の学習成果を他教科等の学習に生かすことが大切である。生活科の内容には，他教科等へ発展する可能性をもっているものが多い。例えば，季節の変化と生活に関する学習活動では，身近な自然を観察したり全身で感じたりする。そうした活動を通して，自然の変化や四季それぞれの美しさを豊かに感じ取ることが，言葉，絵，動作，劇化などの多様な方法によって表現したくなる気持ちにつながる。それは，国語科，音楽科，図画工作科，体育科などにおける学習活動の動機付けとなったり，題材となったりする。 ・他教科等の学習成果を生活科の学習に生かすことが大切である。生活科の学習効果を上げるためには，児童が他教科等において身に付けた資質・能力を適切に生かして活動を展開する必要がある。これによって，児童は資質・能力を一層確かなものとして身に付けることになる。 ・教科の目標や内容の一部について，これを合科的に扱うことによって指導の効果を高めることが大切である。生活科においては，生活科の特質や低学年の児童の発達の特性などを考慮して，単元又は1コマの時間の中で，複数の教科の目標や内容を組み合わせて，児童が具体的かつ総合的に学習できるように工夫することが考えられる。 ・遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育課程と，各教科等の指　導内　容を系統的に学ぶ等の児童期の教育課程は，内容や進め方が大きく異なる。そこで，入学当初は，幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜながら，幼児期の豊かな学びと育ちを踏まえて，児童が主体的に自己を発揮できるようにする場面を意図的につくることが求められる。幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続する重要な役割を担っている。 ・スタートカリキュラムを編成する際には，例えば，「がっこうだいすき　なかよしいっぱい」といった大単元を設定することが考えられる。大単元には「学校探検に行こう」「学校のはてなやびっくりを見付けよう」「見付けたものや人をお知らせしよう」などの小単元を位置付けていく。 ・スタートカリキュラムで学ぶ児童の姿を，幼稚園・認定こども園・保育所の教職員に見てもらい，改善のための協議を行うことも，双方の取組を振り返るために効果的である。 ※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連（後述）
(5) 障害のある児童などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うこと。	・言葉での説明や指示だけでは，安全に気を付けることが難しい児童の場合には，その説明や指示の意味を理解し，なぜ危険なのかをイメージできるように，体験的な事前学習を行うなどの配慮をする。 ・みんなで使うもの等を大切に扱うことが難しい場合は，大切に扱うことの意義や他者の思いを理解できるように，学習場面に即して，児童の生活経験等も踏まえなが

	ら具体的に教えるように配慮する。 ・自分の経験を文章にしたり，考えをまとめたりすることが困難な場合は，児童がどのように考えればよいのか，具体的なイメージを想起しやすいように，考える項目や順序を示したプリントを準備したり，事前に自分の考えたことを言葉や動作で表現したりしてから文章を書くようにするなどの配慮をする。 ・学習の振り返りの場面において指　導　内　容の想起が難しい場合は，学習経過を思い出しやすいように，学習経過などの分かる文章や写真，イラスト等を活用するなどの配慮をする。
(6) 第１章総則の第１の２の(2)に示す道徳教育の目標に基づき，道徳科などとの関連を考慮しながら，第３章特別の教科道徳の第２に示す内容について，生活科の特質に応じて適切な指導をすること。	・自分自身，身近な人々，社会及び自然と直接関わる活動や体験を通して，自然に親しみ，生命を大切にするなど自然との関わりに関心をもつこと，自分のよさや可能性に気付くなど自分自身について考えさせること，生活上のきまり，言葉遣い，振る舞いなど生活上必要な習慣を身に付け，自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することなど，いずれも道徳教育と密接な関わりをもつものである。 ・道徳教育の要としての道徳科の指導との関連を考慮する必要がある。生活科で扱った内容や教材の中で適切なものを，道徳科に活用することが効果的な場合もある。また，道徳科で取り上げたことに関係のある内容や教材を生活科で扱う場合には，道徳科における指導の成果を生かすように工夫することも考えられる。そのためにも，生活科の年間指導計画の作成などに際して，道徳教育の全体計画との関連，指導の内容及び時期等に配慮し，両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切である。

２　内容の取扱いについての配慮事項

２　第２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。	
(1) 地域の人々，社会及び自然を生かすとともに，それらを一体的に扱うよう学習活動を工夫すること。	・社会が急速に変化し地域の様子が大きく変わる中，児童が地域の人々，社会及び自然と直接関わることが少なくなってきている。したがって，児童がそれらと直接関わる学習活動を今まで以上に重視することが求められる。 ・児童は地域に出て，人，社会，自然と出会い，それらをつながりのある一体的なものとして捉える。関心をもったことについて，見る，聞く，触れる，探すなどして直接働きかけながら，それらと自分との関わりを深め，知的好奇心や探究心などを育み，豊かな感性を養い，自立し生活を豊かにしていくために様々な体験を総合的に積み重ねていく。児童の側に立ち，児童の思いや願いに沿った必然性のある学習活動を展開することが重要になる。
(2) 身近な人々，社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに，それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて，言葉，絵，動作，劇化などの多様な方法によ	・生活科は，児童が身近な環境と直接関わる活動や体験を楽しむことを大切にしており，これらを十分に行う必要がある。そうした中で，熱中し没頭したこと，思わぬ発見をしたこと，成功したことなどの喜びを味わうとともに，直接体験を通して実感的に分かるようにすることを大切にしている。それが，その後の学習や生活への

り表現し，考えることができるようにすること。また，このように表現し，考えることを通して，気付きを確かなものとしたり，気付いたことを関連付けたりすることができるよう工夫すること。	意欲と工夫を生み出し，実生活で役立つことにつながる。 ・児童は，体験活動と表現活動を相互に繰り返しながら，学習活動の質を高めていく。気付きを自覚したり，関連付けたり，視点を変えて捉えたりすることが気付きの質を高めることであり，そのことこそが生活科における「深い学び」の姿の顕著な現れの一つと考えることができる。
(3) 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるようにするため，見付ける，比べる，たとえる，試す，見通す，工夫するなどの多様な学習活動を行うようにすること。	・気付きとは，対象に対する一人一人の認識であり，児童の主体的な活動によって生まれるものである。そこには知的な側面だけではなく，情意的な側面も含まれる。また，気付きは次の自発的な活動を誘発するものとなる。したがって，活動を繰り返したり対象との関わりを深めたりする活動や体験の充実こそが，気付きの質を高めていくことにつながる。 ・気付いたことを基に考えることができるとは，生まれた気付きが次に考えるきっかけとなり，その結果，一つ一つの気付きが関連付けられた気付きへと質的に高まることをいう。そのために，見付ける，比べる，たとえる，試す，見通す，工夫するなどの多様な学習活動を行うことが重要である。
(4) 学習活動を行うに当たっては，コンピュータなどの情報機器について，その特質を踏まえ，児童の発達の段階や特性及び生活科の特質などに応じて適切に活用するようにすること。	・アサガオを育てる中で，興味・関心をもったことを自分の言葉や絵などで表現する活動を行う。友達の気付きと比べたり，これまでの成長を振り返ったりする場面では，デジタルカメラやタブレット端末の画像を活用し，具体的に思い起こすことも効果的である。 ・町探検で見付けたことをデジタルカメラやタブレット端末で撮影し，教室で発表する活動を行う。画像を大きく写すだけで，それぞれの発表したいことや気付いたことなどが伝わりやすくなる。その結果，児童一人一人の発見が共有され，町のイメージを広げていくこと，新たな探検への意欲の高まりなども期待できる。
(5) 具体的な活動や体験を行うに当たっては，身近な幼児や高齢者，障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことができるようにすること。	・多様な人々とは，学校生活や家庭生活を支えてくれる人々，近所の人々や店の人などはもとより，身近な幼児，高齢者，障害のある児童生徒などであり， それらの中から学校や地域の実態に応じて適切に選択することになる。 ・特に，内容(8)生活や交流の伝え合いを他の内容と関連させることにより，学校の友達や家族をはじめとした身近な人々から地域の人々へと，触れ合いや交流の輪が広がっていく姿も期待される。
(6) 生活上必要な習慣や技能の指導については，人，社会，自然及び自分自身に関わる学習活動の展開に即して行うようにすること。	・生活上必要な習慣や技能の指導に当たって重要なことは，それだけを取り出して指導するのではないということである。人，社会，自然及び自分自身に関わる学習活動の展開に即して，それぞれの具体的な場面で，その必要に応じて適切に指導することが重要である。 ・指導の効果を高めるためには，挨拶をした心地よさ，後始末をした後の清々しさ，道具を上手に使ってものづくりができた満足感など，こうした体験から得られた感情を積み重ねていくことが大切である。

〈参考〉

幼稚園教育要領（平成29年3月告示）より

第1章　総則

第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

1　幼稚園においては，生きる力の基礎を育むため，この章の第1に示す幼稚園教育の基本を踏まえ，次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。

(1) 豊かな体験を通じて，感じたり，気付いたり，分かったり，できるようになったりする「知識及び技能の基礎」

(2) 気付いたことや，できるようになったことなどを使い，考えたり，試したり，工夫したり，表現したりする「思考力，判断力，表現力等の基礎」

(3) 心情，意欲，態度が育つ中で，よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力，人間性等」

2　1に示す資質・能力は，第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって育むものである。

3　次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は，第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり，教師が指導を行う際に考慮するものである。

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で，充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ，見通しをもって行動し，自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で，しなければならないことを自覚し，自分の力で行うために考えたり，工夫したりしながら，諦めずにやり遂げることで達成感を味わい，自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で，互いの思いや考えなどを共有し，共通の目的の実現に向けて，考えたり，工夫したり，協力したりし，充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で，してよいことや悪いことが分かり，自分の行動を振り返ったり，友達の気持ちに共感したりし，相手の立場に立って行動するようになる。また，きまりを守る必要性が分かり，自分の気持ちを調整し，友達と折り合いを付けながら，きまりをつくったり，守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに，地域の身近な人と触れ合う中で，人との様々な関わり方に気付き，相手の気持ちを考えて関わり，自分が役に立つ喜びを感じ，地域に親しみをもつようになる。また，幼稚園内外の様々な環境に関わる中で，遊びや生活に必要な情報を取り入れ，情報に基づき判断したり，情報を伝え合ったり，活用したりするなど，情報を役立てながら活動するようになるとともに，公共の施設を大切に利用するなどして，社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で，物の性質や仕組みなどを感じ取ったり，気付いたりし，考えたり，予想したり，工夫したりするなど，多様な関わりを楽しむようになる。また，友達の様々な考えに触れる中で，自分と異なる考えがあることに気付き，自ら判断したり，考え直したりするなど，新しい考えを生み出す喜びを味わいながら，自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して，自然の変化などを感じ取り，好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら，身近な事象への関心が高まるとともに，自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また，身近な動植物に心を動かされる中で，生命の不思議さや尊さに気付き，身近な動植物への接し方を考え，命あるものとしていたわり，大切にする気持ちをもって関わ

るようになる。

(8) 数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で，数量や図形，標識や文字などに親しむ体験を重ねたり，標識や文字の役割に気付いたりし，自らの必要感に基づきこれらを活用し，興味や関心，感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で，絵本や物語などに親しみながら，豊かな言葉や表現を身に付け，経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり，相手の話を注意して聞いたりし，言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で，様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き，感じたことや考えたことを自分で表現したり，友達同士で表現する過程を楽しんだりし，表現する喜びを味わい，意欲をもつようになる。

第３ 教育課程の役割と編成等

５ 小学校教育との接続に当たっての留意事項

(1) 幼稚園においては，幼稚園教育が，小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し，幼児期にふさわしい生活を通して，創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

(2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ，小学校教育が円滑に行われるよう，小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り，幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

第６ 幼稚園運営上の留意事項

３ 地域や幼稚園の実態等により，幼稚園間に加え，保育所，幼保連携型認定こども園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るものとする。特に，幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のため，幼稚園の幼児と小学校の児童との交流の機会を積極的に設けるようにするものとする。また，障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け，共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むよう努めるものとする。

第２章　ねらい及び内容

この章に示すねらいは，幼稚園教育において育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えたものであり，内容は，ねらいを達成するために指導する事項である。（中略）また，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が，ねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であることを踏まえ，指導を行う際に考慮するものとする。

健康

〔健康な心と体を育て，自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。〕

１ ねらい

(1) 明るく伸び伸びと行動し，充実感を味わう。

(2) 自分の体を十分に動かし，進んで運動しようとする。

(3) 健康，安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け，見通しをもって行動する。

２ 内容

(1) 先生や友達と触れ合い，安定感をもって行動する。

(2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。

(3) 進んで戸外で遊ぶ。

(4) 様々な活動に親しみ，楽しんで取り組む。

(5) 先生や友達と食べることを楽しみ，食べ物への興味や関心をもつ。

(6) 健康な生活のリズムを身に付ける。

(7) 身の回りを清潔にし，衣服の着脱，食事，排泄などの生活に必要な活動をせつ自分でする。

(8) 幼稚園における生活の仕方を知り，自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。

(9) 自分の健康に関心をもち，病気の予防などに必要な活動を進んで行う。

(10) 危険な場所，危険な遊び方，災害時などの行動の仕方が分かり，安全に気を付けて行動する。

人間関係

〔他の人々と親しみ，支え合って生活するために，自立心を育て，人と関わる力を養う。〕

1 ねらい

(1) 幼稚園生活を楽しみ，自分の力で行動することの充実感を味わう。

(2) 身近な人と親しみ，関わりを深め，工夫したり，協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい，愛情や信頼感をもつ。

(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

2 内容

(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。

(2) 自分で考え，自分で行動する。

(3) 自分でできることは自分でする。

(4) いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。

(5) 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。

(6) 自分の思ったことを相手に伝え，相手の思っていることに気付く。

(7) 友達のよさに気付き，一緒に活動する楽しさを味わう。

(8) 友達と楽しく活動する中で，共通の目的を見いだし，工夫したり，協力したりなどする。

(9) よいことや悪いことがあることに気付き，考えながら行動する。

(10) 友達との関わりを深め，思いやりをもつ。

(11) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き，守ろうとする。

(12) 共同の遊具や用具を大切にし，皆で使う。

(13) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

環境

〔周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり，それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。〕

1 ねらい

(1) 身近な環境に親しみ，自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。

(2) 身近な環境に自分から関わり，発見を楽しんだり，考えたりし，それを生活に取り入れようとする。

(3) 身近な事象を見たり，考えたり，扱ったりする中で，物の性質や数量，文字などに対する感覚を豊かにする。

2 内容

(1) 自然に触れて生活し，その大きさ，美しさ，不思議さなどに気付く。

(2) 生活の中で，様々な物に触れ，その性質や仕組みに興味や関心をもつ。

(3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。

(4) 自然などの身近な事象に関心をもち，取り入れて遊ぶ。

(5) 身近な動植物に親しみをもって接し，生命の尊さに気付き，いたわったり，大切にしたりする。

(6) 日常生活の中で，我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。

(7) 身近な物を大切にする。

(8) 身近な物や遊具に興味をもって関わり，自分なりに比べたり，関連付けたりしながら考えたり，試したりして工夫して遊ぶ。

(9) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。

(10) 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。

(11) 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。

(12) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。

言葉

〔経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し，相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て，言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。〕

1 ねらい

(1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。

(2) 人の言葉や話などをよく聞き，自分の経験したことや考えたことを話し，伝え合う喜びを味わう。

(3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに，絵本や物語などに親しみ，言葉に対する感覚を豊かにし，先生や友達と心を通わせる。

2 内容

(1) 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち，親しみをもって聞いたり，話したりする。

(2) したり，見たり，聞いたり，感じたり，考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。

(3) したいこと，してほしいことを言葉で表現したり，分からないことを尋ねたりする。

(4) 人の話を注意して聞き，相手に分かるように話す。

(5) 生活の中で必要な言葉が分かり，使う。

(6) 親しみをもって日常の挨拶をする。

(7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。

(8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。

(9) 絵本や物語などに親しみ，興味をもって聞き，想像をする楽しさを味わう。

(10) 日常生活の中で，文字などで伝える楽しさを味わう。

表現

〔感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して，豊かな感性や表現する力を養い，創造性を豊かにする。〕

1 ねらい

(1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。

(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。

(3) 生活の中でイメージを豊かにし，様々な表現を楽しむ。

2 内容

(1) 生活の中で様々な音，形，色，手触り，動きなどに気付いたり，感じたりするなどして楽しむ。

(2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ，イメージを豊かにする。

(3) 様々な出来事の中で，感動したことを伝え合う楽しさを味わう。

(4) 感じたこと，考えたことなどを音や動きなどで表現したり，自由にかいたり，つくったりなどする。

(5) いろいろな素材に親しみ，工夫して遊ぶ。

(6) 音楽に親しみ，歌を歌ったり，簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。

(7) かいたり，つくったりすることを楽しみ，遊びに使ったり，飾ったりなどする。

(8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり，演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

小学校スタートカリキュラムの基本型の例

神戸のアプローチカリキュラムとの関連【育ちと学びをつなぐ小学校スタート期】※環境構成等の教師の援助

健康な心と体
○小学校生活になじみ、安心して生活する。
自立心
○自分でしなければならないことと自覚して、持ち物の準備や片付けをする。

社会生活とのかかわり
○あいさつの言葉をきっかけに人とのかかわりを広げる。
○新しく出会った教師や友達に親しみをもってかかわり、信頼関係を築いていく。
自立心
○時間割に基づき、自分で見通しをもって行動する。

健康な心と体
協同性
思考力の芽生え
数量・図形・文字への関心・感覚
言葉による伝え合い
豊かな感性と表現

自立心
○給食の準備や片付けの仕方が分かり、好き嫌いをせず何でも食べようとする。

自立心
道徳性・規範意識の芽生え
○道の歩き方や交通ルールを守り安全に登下校する。

朝のじゅんび・自由遊び
８：００～８：３０
・絵カードの順番に準備、整理
・教室で自由遊び
・音楽の合図で片付け

朝の会
８：３０～８：５０
・朝のあいさつ
・みんなの名前（返事、健康観察）
・なかよしタイム（歌やゲーム）
・お話読んで
・今日の予定

今日の学習①
８：５０～９：２５
・「がっこうだいすき①」
　ランドセルどうしたらいいかな
　ロッカー　靴置き　傘立て
・よんでみよう「あさ」
　みんなでペアで
※生活科を中心とした合科的関連的な指導による学習

今日の学習②
９：２５～９：５０
・「がっこうだいすき②」
トイレの使い方、廊下の歩き方
※①に同じ

今日の学習③
９：５０～１０：３０
・みんなであそぼう
・みんなでうたおう
※①に同じ

たのしいきゅうしょく
１０：３０～１１：００
・手の洗い方
・当番の仕方
・待ち方

おいしくたべよう
１１：００～１２：００
・おいしく食べる
・片づけ方

帰りのじゅんび・下校
・ランドセルに荷物を入れる
・一日のふりかえり、あいさつ
・下校グループへ移動して集団下校

・朝の準備が自分でできるように絵カードを黒板に貼っておく。
・畳や遊び道具を準備し、友達と関わって遊べるようにする。
・幼保の登園の流れと同じようなゆったりとした時間設定にする。
・机をコの字型配列にしたり、歌やゲームを取り入れたりして、新しい友達や先生と楽しく関われるようにする。

教科・領域との関連
生活「がっこうだいすき」等
国語「あさ」等
体育「鬼遊び」等
道徳「あいさつ」等
音楽「うたでなかよしになろう」等
図工「どんどんかくのはたのしいな」等
書写「なぞってみようなまえ」等
算数「なかまづくりとかず」等

・１年生が読みやすい「こんだて表」を掲示しておく。
・準備の方法と約束を指導し、それらの掲示物を貼っておく。
・机をグループの形にして楽しく会食できるようにする。
・時間をゆったりと設定する。

・安全に下校できるように下校グループによる集団下校とし、当面は教師が付き添う。

第６節　音　　楽

第１　目　　標

（小学校）

表現及び鑑賞の活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに，表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2)　音楽表現を工夫することや，音楽を味わって聴くことができるようにする。

(3)　音楽活動の楽しさを体験することを通して，音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに，音楽に親しむ態度を養い，豊かな情操を培う。

※「音楽的な見方・考え方」とは，音楽に対する感性を働かせ，音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え，自己のイメージや感情，生活や文化などと関連付けること。

（中学校）

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに，創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2)　音楽表現を創意工夫することや，音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

(3)　音楽活動の楽しさを体験することを通して，音楽を愛好する心情を育むとともに，音楽に対する感性を豊かにし，音楽に親しんでいく態度を養い，　豊かな情操を培う。

	小　学　校						中　学　校		
標準	１年	２年	３年	４年	５年	６年	１年	２年	３年
授業時数	68	70	60	60	50	50	45	35	35

★：他教科とのつながり　　◎：他学年とのつながり

▲：他校種とのつながり　　◆：参考事項（神戸の特色等）

※：特に配慮を要する事項

第２　各学年の目標及び内容

【第１学年及び第２学年】

１　目　標

(1)　曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに，音楽表現を楽しむために必要な歌唱，器楽，音楽づくりの技能を身に付けるようにする。

(2)　音楽表現を考えて表現に対する思いをもつことや，曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。

(3)　楽しく音楽に関わり，協働して音楽活動をする楽しさを感じながら，身の回りの様々な音楽に親しむとともに，音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

２　内　容

【A　表現】

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第１・２学年	歌唱 (1) 歌唱の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	「歌うことがすき」 ・歌う喜びを味わう
	ア　歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように歌うかについて思いをもつこと。（思考力，判断力，表現力等）	・曲想を感じ取って表現を工夫しとは，その音楽に固有の雰囲気や表情，味わいを感じ取り，それを基に表現をつくりだすこと。 ・このように歌いたいという考えをもたせる。 ＜例＞ 「楽しくお話をしている感じが伝わるように歌いたい。」 ・思いを基に，実際に歌って確かめていく過程を多く取り入れるようにする。 ・曲想の感じ取りを深めたり，必要な技能を身に付けたりしながら，感じ取ったことを基にいろいろな表現の仕方を体験し，思いを膨らませるようにする。 ・児童が思いをもって活動に取り組むことによって，歌唱表現が高まったことを価値付ける。 ＜例＞ 「楽しくお話をしている感じが伝わるようになったのは，呼びかけとこたえを意識して話しかけるように優しい声で歌うようにしたからだね」
	イ　曲想と音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。（知識）	＜例＞ 「動物がお話をしているような感じがするのは，旋律に呼びかけとこたえのようなところがあるから」

		＜例＞ 「楽しい感じがするのは，歌詞の中にいろいろな動物の鳴き声が出てくるから」 ・児童が感じ取った曲想を基にしながら，リズムや旋律などの特徴や，歌詞の表す情景や気持ちに目を向けるようにする。
	ウ　思いに合った表現をするために必要な次の(ｱ)から(ｳ)までの技能を身に付けること。（技能）	児童が表したい思いを実現するために，技能を習得することの必要性を実感できるようにする。
	(ｱ) 範唱を聴いて歌ったり，階名で模唱したり暗唱したりする技能	・聴唱の技能，及び階名での模唱や暗唱の技能を育てる。 ・階名で模唱したり暗唱したりすることによって，正しい音程感覚を身に付けさせる。 ・範唱をよく聴き，音程，リズム，速度，強弱などに気を付けながら繰り返し模唱させる。 ・階名による模唱や暗唱，リズム唱やリズム打ちに親しみながら，音程感，フレーズ感，リズム感などを十分に育てる。
第 1 ・ 2 学 年	(ｲ)　自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能	・自分の歌声に注意しながら歌う習慣を身に付ける。 ・曲想を感じ取って歌い方を工夫する過程で，ていねいな歌い方，きれいな発声や発音の仕方などに気付くようにする。 ・声に出して，相手に伝わるようにていねいに歌詞を読む。 ・母音，子音，濁音，鼻濁音などに注意して歌う。
	(ｳ)　互いの歌声や伴奏を聴いて，声を合わせて歌う技能	・正しい音程やリズムなどに対する感覚を身に付けるようにする。 ・体の動きを伴った活動や互いに聴き合う活動など，様々な活動を工夫する。 ・友達の歌声や伴奏の響きを聴きながら，自分の歌声に気を付けて歌うことができるようにする。
	器楽 (2) 器楽の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	「楽器を演奏することが好き」 ・楽しさを十分に味わう
	ア　器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように演奏するかについて思いをもつこと。（思考力，判断力，表現力等）	・曲想を感じ取って表現を工夫しとは，その音楽に固有の雰囲気や表情，味わいを感じ取り，それを基に表現をつくりだすこと。 ・このように演奏したいという考えをもたせる。 ＜例＞ 「元気な感じがして楽しい」と感じ取った児童は，演奏する際に「跳びはねるような元気な感じが伝わるように演奏したい」という思いをもつ。

		・思いを基に，実際に演奏して確かめていく過程を多く取り入れるようにする。 ・曲想の感じ取りを深めたり，必要な技能を身に付けたりしながら，感じ取ったことを基にいろいろな表現の仕方を体験し，思いを膨らませるようにする。 ・児童が思いをもって活動に取り組むことによって，器楽表現が高まったことを価値付ける。 ＜例＞ 「跳びはねるような元気な感じになったのは，一つ一つの音を弾ませて演奏するようにしたからだね。」
	イ　次の(ｱ) 及び(ｲ) について気付くこと。（知識） (ｱ) 曲想と音楽の構造との関わり	＜例＞ 「はずんで楽しい感じがするのは，スキップのようなリズムが何度も出てくるから」
第 1 ・ 2 学 年		・曲の雰囲気を楽しんだり，模倣して演奏したりするなどの学習の中で，児童が感じ取った曲想を基にしながら，リズムや旋律などの特徴に目を向けるようにする。
	(ｲ) 楽器の音色と演奏の仕方との関わり	・それぞれの楽器がもつ固有の音色のよさや面白さに気付くとともに，演奏の仕方を工夫することによって，楽器の音色が変わることに，演奏を通して気付くようにする。 ＜例＞ 「鍵盤ハーモニカは，息を速く吹き込んだときとゆっくり吹き込んだときでは，音の感じが違う。ゆっくり吹き込むと優しい感じの音になる」
	ウ　思いに合った表現をするために必要な次の(ｱ) から(ｳ) までの技能を身に付けること。（技能）	児童が表したい思いを実現するために，技能を習得することの必要性を実感できるようにする。
	(ｱ) 範奏を聴いたり，リズム譜などを見たりして演奏する技能	・聴奏の技能を十分に育てる。 ・視奏の基礎となる力を養うために，リズム譜を見ながら，リズム唱をしたり体や楽器によるリズム打ちをしたりするなどして，リズムに対する感覚を十分に身に付ける。 ・範奏をよく聴き，音色，リズム，速度，強弱などに気を付けながら繰り返し演奏する。
	(ｲ) 音色に気を付けて，旋律楽器及び打楽器を演奏する技能	・簡単なリズムや親しみのある旋律を演奏する活動を通して，楽器の固有の音色を意識した打ち方や弾き方などを身に付ける。

	(ｳ) 互いの楽器の音や伴奏を聴いて，音を合わせて演奏する技能	・友達の演奏する音や伴奏を聴きながら，音を合わせて演奏しようとする意欲を育て，器楽表現の楽しさを味わうようにする。 ・音程やリズムに気を付けて，友達の音を聴きながら合わせて演奏したり，伴奏を聴きながら演奏したりして，音を合わせる楽しさを感じ取るようにする。 ・拍を意識して演奏することができるようにする。 ・自分や友達が担当している楽器の役割を意識し，音を合わせて演奏する楽しさを味わうようにする。
	音楽づくり (3) 音楽づくりの活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	音楽をつくる楽しさを味わう
第 1 ・ 2 学 年	ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら，次の(ｱ) 及び(ｲ) をできるようにすること。(思考力，判断力，表現力) (ｱ) 音遊びを通して，音楽づくりの発想を得ること。	(ｱ)主に音遊びの活動を通して育成する資質・能力 (ｲ)主に音を音楽にしていく活動を通して育成する資質・能力 ・音遊びとは，声や身の回りの様々な音に親しみ，その場で様々な音を選んだりつなげたりして表現すること。 ＜例＞ ・リズムを模倣したり，言葉を唱えたり，そのリズムを打ったりする遊び ・言葉の抑揚を短い旋律にして歌う遊び ・身の回りの音や自分の体を使って出せる音などから気に入った音を見付けて表現する遊び ・音楽づくりの発想を得るとは，声や身の回りの様々な音を，その場で選んだりつなげたりする中で生まれる，「これらの音をこうしたら面白くなる」という考えをもつこと。 ＜例＞ ・手拍子をするときに「手のひらと手のひら，手のひらと握りこぶしというように，手の打ち方を変えると面白くなる」 ・児童が思い付いた考えを，実際に音に出して確かめていくようにする。 ・児童の表現の面白さを価値付ける。 ＜例＞ ・「手の打ち方を変えることで，いろいろな音が生まれて面白い雰囲気になったね」

	(ｲ) どのように音を音楽にしていくかについて思いをもつこと。	・どのように音を音楽にしていくかについて思いをもつとは，試しながら音楽をつくる過程において，このような音楽をつくりたいという考えをもつこと。 ＜例＞ 「友達と仲良くお話をしているような音楽にしたい」 ・音を音楽にしていく過程で，思いを伝え合うことと，実際に音で試すこととを繰り返しながら，表現を工夫し，思いを膨らませるように促す。 ・思いをもって活動に取り組むことによって表現が高まったことを価値付ける。 ＜例＞ 「同じリズムでお話をしているようなところと，違うリズムでお話をしているようなところをつくったので，面白い音楽になったね」
第 1 ・ 2 学 年	イ　次の(ｱ) 及び(ｲ) について，それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くこと。(知識)	
	(ｱ) 声や身の回りの様々な音の特徴	・声には，歌声だけでなく，話し声やかけ声，ささやき声やため息のように息を使った音，擬声語や擬態語なども含まれている。 ・身の回りの様々な音とは，自然や生活の中で耳にする音，身近な楽器や身の回りの物で出せる音を意味している。 ・声や身の回りの様々な音には，音の高さ，長さ，音色などの特徴がある。 ・即興的に音を選んだりつなげたりする過程において，声や身の回りの様々な音の特徴を取り上げるようにし，どのような面白さがあるのかについて気付くようにする。 ＜例＞ 「タンブリンは，打ったり振ったりこすったりすると，音の高さ，長さ，音色が違って面白い」
	(ｲ) 音やフレーズのつなげ方の特徴	・音やフレーズのつなげ方とは，音を組み合わせてつくったリズム・パターンや短い旋律を反復させたり，呼びかけ合うようにしたり，それらを変化させたりすること。 ・音を音楽にしていく過程において，音楽の仕組みを生かした特徴的な音やフレーズのつなげ方を取り上げるようにし，どのような面白さがあるのかについても，全体で共有していく。 ＜例＞ 「同じリズム・パターンを繰り返していく中で，音色を変えていくと面白さが生まれる」

	ウ　発想を生かした表現や，思いに合った表現をするために必要な次の(ｱ)及び(ｲ) の技能を身に付けること。（技能）	
第 1 ・ 2 学 年	(ｱ) 設定した条件に基づいて，即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能	・条件を設定する際，イ（ｱ）に示す知識を含めることによって，ア，イ及びウの関連を図った学習にする。 ＜設定した条件の例＞ ・体のいろいろな部分を手で打って出せる音を使い，友達と違う音を選んで順番にリレーのようにつなぐ ・自分や友達が発する声や音の特徴を注意深く聴くようにする。
	(ｲ) 音楽の仕組みを用いて，簡単な音楽をつくる技能	・音楽の仕組みを用いる際，イ（ｲ）に示す知識を含めることによって，ア，イ及びウの関連を図った学習にする。 ＜音楽の仕組みを用いて，簡単な音楽をつくる例＞ ・呼びかけとこたえを使い，一つの声部に呼びかけ，他の声部がこたえるように音楽をつくっていく

【B　鑑賞】

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第1・2学年	鑑賞 (1) 鑑賞の活動を通して,次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	ア　鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら,曲や演奏の楽しさを見いだし，曲全体を味わって聴くこと。(思考力・判断力・表現力)	・曲や演奏の楽しさを見いだすとは，音楽的な理由に触れながら,曲の楽しさや,異なった演奏形態や演奏者などによる演奏の楽しさについて考えをもつこと。 ・曲全体を味わって聴くとは，曲や演奏の楽しさについて考えをもち，曲全体を聴き深めること。 ・「この曲は楽しい」などの曲の印象を起点として，アの事項とイの事項との関連を図った学習を通して,聴き深めていくようにする。 ＜例＞ 「この曲の楽しいところは,トランペットとバイオリンがリレーのように何回も出てくるところ」
	イ　曲想と音楽の構造との関わりについて気付くこと。(知識)	・児童が，曲の雰囲気や表情，味わいと音楽の構造との関わりを捉えることが，本事項で求めている気付きである。 ＜例＞ 「楽しく感じるのは,カッコカッコと同じリズムを繰り返して打っているのに,時々リズムが変わったり，途中からチリリリリーンという音が入ったりするから」 ・〔共通事項〕との関連を図り，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら,曲想と音楽の構造との関わりについて，児童自ら気付くように指導を工夫する。 ・児童が感じ取った曲想を基にしながら，曲想を生み出している音楽の構造に目を向けるようにする。

〔共通事項〕

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第1・2学年	〔共通事項〕 (1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	ア　音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。 （思考力・判断力・表現力）	・音楽を形づくっている要素とは，「ア　音楽を特徴付けている要素」及び「イ　音楽の仕組み」である。 ・聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えるとは，感じ取ったことの理由を，音楽を形づくっている要素の働きに求めたり，音楽を形づくっている要素の働きがどのようなよさや面白さ，美しさを生み出しているかについて考えたりすること。 ＜例＞ ・「だんだん近づいてきた後，遠ざかっていく感じがしたのは，だんだん音が強くなった後に，だんだん弱くなったから」と捉えるなど，強弱の変化とその働きが生み出すよさや面白さ，美しさとの関係を考える。
	イ　音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符，休符，記号や用語について，音楽における働きと関わらせて理解すること。	・単にその名称や意味を知るだけでなく，表現及び鑑賞の様々な学習活動の中で，音楽における働きと関わらせて，その意味や効果を理解させる。

3 内容の取扱い

(1) 歌唱教材は次に示すものを取り扱う。

ア　主となる歌唱教材については，各学年ともイの共通教材を含めて，斉唱及び輪唱で歌う曲

イ　共通教材

〔第１学年〕

「うみ」	（文部省唱歌）	林 柳波（はやし りゅうは）作詞	井上武士（いのうえたけし）作曲
「かたつむり」	（文部省唱歌）		
「日のまる」	（文部省唱歌）	高野辰之（たかのたつゆき）作詞	岡野貞一（おかのていいち）作曲
「ひらいたひたいた」	（わらべうた）		

〔第２学年〕

「かくれんぼ」	（文部省唱歌）	林 柳波（はやし りゅうは）作詞	下総皖一（しもふさかんいち）作曲
「春がきた」	（文部省唱歌）	高野辰之（たかのたつゆき）作詞	岡野貞一（おかのていいち）作曲
「虫のこえ」	（文部省唱歌）		
「夕やけこやけ」	中村雨紅（なかむらうこう）作詞	草川 信（くさかわ しん）作曲	

◆神戸市の特色として，児童や学校，地域の実態に応じ，以下の楽曲を取り扱う。

「しあわせはこべるように」	臼井 真 作詞・作曲	
「神戸市歌」	木村 靖弘 作詞	信時 潔 作曲
「ほら，つながった」	恒本 さつき 作詞	あまゆーず 作曲

(2) 主となる器楽教材については，既習の歌唱教材を含め，主旋律に簡単なリズム伴奏や低声部などを加えた曲を取り扱う。

(3) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。

ア 我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた，行進曲や踊りの音楽など体を動かすことの快さを感じ取りやすい音楽，日常の生活に関連して情景を思い浮かべやすい音楽など，いろいろな種類の曲

イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく，親しみやすい曲

ウ 楽器の音色や人の声の特徴を捉えやすく親しみやすい，いろいろな演奏形態による曲

【第３学年及び第４学年】

１　目　標

(1)　曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに，表したい音楽表現をするために必要な歌唱，器楽，音楽づくりの技能を身に付けるようにする。

(2)　音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや，曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。

(3)　進んで音楽に関わり，協働して音楽活動をする楽しさを感じながら，様々な音楽に親しむとともに，音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

２　内　容

【A　表現】

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第３・４学年	歌唱 (1)　歌唱の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	「歌うことが好き」 ・表現を工夫したり，歌ったりする楽しさを味わう
	ア　歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。（思考力，判断力，表現力等）	・曲の特徴を捉えた表現を工夫しとは，歌唱表現を工夫する手掛かりを曲の特徴に求めて表現をつくりだすこと。 ・表現を工夫する過程において，このように歌いたいという考えをもたせるようにする。 ＜例＞ 「２羽の鳥が呼びかけ合いながら遠ざかっていく感じが伝わるように，強く，やや弱く，やや強く，弱く歌おう」 ・思いや意図を言葉や音楽で伝え合うことと，実際に歌ってみることとを繰り返しながら，曲の特徴を捉えた表現を工夫する。 ・曲の特徴についての気付きを深めたり，必要な技能を身に付けたりしながら，スタッカートやスラーなどの表現方法や，強弱や速度などの違いによる表現方法などを様々に試すなどして，思いや意図を膨らませるようにする。 ・児童が思いや意図をもって活動に取り組むことによって，歌唱表現が高まったことを価値付ける。 ＜例＞ 「呼びかけ合いながら遠ざかっていく様子を，強弱の表現を工夫して見事に表しているね」
	イ　曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。（知識）	＜例＞ 「のびやかで明るい感じになっているのは，同じリズムが繰り返されたり，となり合った音が続いている旋律の中で，時々上下に音が跳んでいて動きがあったりするから。また，歌詞に紅

		葉で色づいた木や山の様子が描かれているから」 ・児童が感じ取った曲想を基にしながら，リズムや旋律などの特徴や，歌詞の内容に目を向けるようにする。 ・楽譜を見て，リズムや旋律，声部の重なり方，曲全体の構成などの特徴を確認したり，歌詞を音読して歌詞の内容を把握させたりする。このことが，作詞者や作曲者の思いや意図をくみ取ることにもつながる。
第 3 ・ 4 学 年	ウ　思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ｱ) から(ｳ) までの技能を身に付けること。（技能）	児童が表したい思いや意図を実現するために，技能を習得することの必要性を実感できるようにする。
	(ｱ)　範唱を聴いたり，ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能	・音楽を形づくっている要素を聴き取りながら聴唱する技能を伸ばす。 ・ハ長調の楽譜を見て階名唱をしたり，手や体で音の高低を表しながら歌ったりすることなどを通して，視唱に慣れ親しみ，音程感覚をより確かなものにしていく。 ・楽譜と音との関連を意識した指導を展開し，音楽を形づくっている要素及び音符，休符，符号，用語の指導も併せて行い，音楽の流れを感じながら読譜できるようにする。
	(ｲ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて，自然で無理のない歌い方で歌う技能	・自然で無理のない歌い方で歌うとは，児童一人一人の声の特徴を生かしつつも，力んで声帯を締め付けることなく，音楽的には曲想に合った自然な歌い方で歌うこと。 ・母音，子音，濁音，鼻濁音などの日本語のよさを生かした発音や語感に気を付け，呼吸を意識した歌い方を身に付ける。 ・歌い方を試す過程で自分の声の特徴に気付くことを大切にしながら，自然で無理のない歌い方で歌うことができるようにする。 ＜例＞ ・曲想にふさわしい歌声になるよう呼吸や声の響きに留意した歌い方を試す。 ・民謡を歌う際には，範唱の歌い方に近づけるように歌い方を試す。
	(ｳ)　互いの歌声や副次的な旋律，伴奏を聴いて，声を合わせて歌う技能	・互いの歌声を聴き合い，自分の歌声と友達の歌声を調和させるとともに，伴奏の響きや副次的な旋律の響きを聴きながら，適切な歌声で歌う。 ・曲の一部分が二部合唱になっている合唱曲，曲全体が簡単な二部合唱になっている合唱曲などを，適切に用いる。 ・互いの歌声が一つになったり，重なり合ってきれいに響き合った

		りすることに気付くようにする。
第3・4学年	器楽 (2) 器楽の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。（思考力，判断力，表現力等）	「いろいろな楽器を演奏することに挑戦したい」 ・表現を工夫したり，演奏したりする楽しさを味わう ・曲の特徴を捉えた表現を工夫しとは，器楽表現を工夫する手掛かりを曲の特徴に求めて表現をつくりだすこと。 ・表現を工夫する過程において，このように演奏したいという考えをもたせるようにする。 ＜例＞ 「前半の弾んだ感じと後半のゆったりした感じの違いを表したいから，前半はスタッカートで音を弾ませて演奏し，後半は一つ一つの音を滑らかにつなげて演奏しよう」 ・思いや意図を言葉や音楽で伝え合うことと，実際に演奏してみることとを繰り返しながら，曲の特徴を捉えた表現を工夫するように促す。 ・曲の特徴についての気付きを深めたり，必要な技能を身に付けたりしながら，スタッカートやスラーなどの表現方法や，強弱や速度などの違いによる表現方法などを様々に試すなどして，思いや意図を膨らませるようにする。 ・児童が思いや意図をもって活動に取り組むことによって，器楽表現が高まったことを価値付ける。 ＜例＞ 「スタッカートを意識して演奏することで，軽やかな感じになったね。」
	イ　次の(ｱ) 及び(ｲ) について気付くこと。（知識） (ｱ)　曲想と音楽の構造との関わり	＜例＞ 「ゆったりした感じから弾んだ感じに変わったのは，途中から♫（タッカ）のリズムが多くなったから」 ・児童が感じ取った曲想を基にしながら，リズムや旋律，各声部の楽器の重なり方，曲全体の構成などの特徴に目を向ける。 ・楽譜を見て，リズムや旋律，各声部の役割，曲全体の構成などの特徴を確認したり，例えば♫♩　♪♪♩の部分を♫♩　♫♩に変えて演奏して比較し，特徴的なリズムや旋律のよさや面白さを実感できるようにしたりする。

	(ｲ) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり	・それぞれの楽器がもつ固有の音色や響きのよさや面白さに気付くとともに，演奏の仕方を工夫することによって，楽器の音色や響きが変わることに，演奏を通して気付くようにする。 ＜例＞ 「長胴太鼓は，ばちを上げずに軽く打ったときと，ばちを高くはね上げるようにして打ったときとでは，音色や響きが違う」
	ウ　思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ｱ) から(ｳ) までの技能を身に付けること。（技能）	児童が表したい思いや意図を実現するために，技能を習得することの必要性を実感できるようにする。
	(ｱ)　範奏を聴いたり，ハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能	・音楽を形づくっている要素を聴き取りながら演奏する技能を伸ばしたり，低学年で身に付けたリズム譜を視奏する技能を生かしたりして，ハ長調の楽譜の視奏に慣れ親しみ，視奏の技能を育てる。
第		・主旋律や副次的な旋律を，音色，リズム，速度，強弱，音の重なりなどに注意しながら聴奏できるようにする。
3		・楽譜と音との関連を意識した指導を展開し，音楽を形づくっている要素及び音符，休符，記号や用語の指導も併せて行い，音楽の流れを感じながら読譜できるようにする。
・		
4		
学	(ｲ)　音色や響きに気を付けて，旋律楽器及び打楽器を演奏する技能	・和楽器や諸外国に伝わる打楽器を学習内容に応じて適切に取り扱い，我が国の音楽や郷土の音楽，諸外国の音楽に対する関心を高める。
年		・楽器のもつ固有の音色やその響きの特性を生かした楽器の演奏の仕方を身に付ける。 ＜例＞ ・リコーダーの指導では，トゥやティ，ルゥ，トォなど，音の高さなどに応じたタンギングの仕方を身に付ける。
		・継続的に演奏に取り組む。
	(ｳ)　互いの楽器の音や副次的な旋律，伴奏を聴いて，音を合わせて演奏する技能	・リズム，主旋律や副次的な旋律，和音が生み出す響きを聴き取って演奏できるようにする。
		・重奏や合奏による活動の楽しさを味わい，友達と音を合わせて演奏できるようにする。
		・児童が自らの表現のよさに気付くよう，互いの演奏を聴き合うようにする。
		・重奏や合奏では，自分が担当している声部の役割を意識し，音を合わせる喜びを味わうようにする。

第3・4学年	音楽づくり (3) 音楽づくりの活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら，次の(ｱ) 及び(ｲ) をできるようにすること。(思考力，判断力，表現力等) (ｱ) 即興的に表現することを通して，音楽づくりの発想を得ること。	音楽をつくる楽しさを味わう (ｱ)主に即興的に表現する活動を通して育成する資質・能力 (ｲ)主に音を音楽へと構成する活動を通して育成する資質・能力 ・即興的に表現するとは，その場でいろいろな音を選択したり組み合わせたりして表現すること。 ＜例＞ ・児童が各自で見付けた音を使ってみんなで模倣したり，各自が工夫した音を使って友達と交互に表現したりする活動 ・木，金属，皮など異なる材質の物を組み合わせて使うことで生まれるそれぞれの音の響きを生かして表現する活動 ・線や図形，絵などを楽譜に見立てて声や楽器などの音で表す活動 ・音楽づくりの発想を得るとは，いろいろな音の響きをその場で選択したり組み合わせたりする中で生まれる，「これらの音をこうしたら面白くなる」という考えをもつこと。 ＜例＞ 「自分の工夫した音と友達の工夫した音を交互に鳴らして，音で会話をすると面白くなる」 ・児童が思い付いた考えを，実際に音に出して確かめていくようにする。 ・児童の表現のよさや面白さを価値付ける。 ＜例＞ 「異なる音の響きで会話をすることで，音の響きの組合せが面白くなり，よい雰囲気になったね。」
	(ｲ) 音を音楽へと構成することを通して，どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。	・音を音楽へと構成するとは，反復，呼びかえとこたえ，変化，音楽の縦と横との関係などの「音楽の仕組み」を用いながら，音やフレーズを関連付けてまとまりのある音楽にしていくこと。 ・まとまりを意識した音楽とは，曲の構成を工夫している音楽のこと。 ・試行錯誤しながら音楽をつくる過程において，このような音楽を，このように構成してつくりたいという考えをもたせるようにする。

		＜例＞ 「友達との会話がはずんでいくような音楽にしたいので，リズムを徐々に変化させて表現したい」 ・音楽をつくっていく過程で，思いや意図を伝え合うことと，実際に音で試すこととを繰り返しながら，表現を工夫し，思いや意図を膨らませるように促す。 ・思いや意図をもって音楽づくりの活動に取り組むことによって，表現が高まったことを価値付ける。 ＜例＞ 「呼びかけとこたえのそれぞれのリズムを徐々に細かくしてつくったので，面白い音楽になったね」
	イ　次の(ｱ) 及び(ｲ) について，それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くこと。(知識)	
第3・4学年	(ｱ) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴	・いろいろな音の響きとは，声や身の回りの様々な音に加えて，音の素材や楽器そのものがもつ固有の音の響き，木，金属，皮など，それぞれの材質がもつ音の響きなどを指す。音の響きには，音の高さ，長さ，音色，重なりなどの特徴がある。 ・即興的に音を選択したり組み合わせたりする過程において，特徴的な音の響きやそれらの組合せを取り上げるようにし，どのようなよさや面白さがあるのかについて気付くようにする。 ＜例＞ 「ウッドブロックとトライアングルを組み合わせると，音の高さや長さが違って面白い」
	(ｲ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴	・音やフレーズのつなげ方とは，音を組み合わせてつくったリズム・パターンや短い旋律を反復させたり，呼びかけ合うようにしたり，それらを変化させたりすること。 ・重ね方とは，リズム・パターンや短い旋律を同時に重ねたり，時間をずらして重ねたりすること。 ・音を音楽へと構成していく過程において，音楽の仕組みを生かした特徴的な音やフレーズのつなげ方や重ね方を取り上げるようにし，どのようなよさや面白さがあるのかについても，全体で共有していく。 ＜例＞ 「短い旋律を，呼びかけ合うようにつないでいくと面白さが生まれる」

第 3 ・ 4 学 年	ウ　発想を生かした表現や，思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ｱ) 及び(ｲ) の技能を身に付けること。(技能) (ｱ) 設定した条件に基づいて，即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能	・条件を設定する際，イ (ｱ) に示す知識を含めることによって，ア，イ及びウの関連を図った学習にする。 ＜設定した条件の例＞ ・ソラシの三つの音を使い，一人一人が４拍で即興的に表現し，順番に旋律をつなぐ。 ・自分や友達が発する音の響きの特徴を注意深く聴くようにする。
	(ｲ) 音楽の仕組みを用いて，音楽をつくる技能	・音楽の仕組みを用いる際，イ (ｲ) に示す知識を含めることによって，ア，イ及びウの関連を図った学習にする。 ＜音楽の仕組みを用いて音楽をつくる例＞ ・反復と変化を使い，短いフレーズを反復させた後，変化させて，また最初の短いフレーズを反復させて音楽をつくっていく。

【B　鑑賞】

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第3・4学年	鑑賞 (1) 鑑賞の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	ア　鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら，曲や演奏のよさなどを見いだし，曲全体を味わって聴くこと。（思考力，判断力，表現力等）	・曲や演奏のよさなどを見いだすとは，音楽的な理由を伴って，曲がもつよさや，様々な演奏形態や演奏者などによる演奏のよさなどについて考えをもつこと。 ・曲全体を味わって聴くとは，曲や演奏のよさなどについて考えをもち，曲全体を聴き深めること。 ・「この曲は面白い」などの曲の印象を起点として，アの事項とイの事項との関連を図った学習を通して，聴き深めていくようにすること。 ＜例＞ 「この曲の一番面白いところは，真ん中で，たくさんの楽器が大きな音で激しい感じの旋律を演奏し，それが急に止まって最初に戻るところ」
	イ　曲想及びその変化と，音楽の構造との関わりについて気くこと。（知識）	・児童が，曲の雰囲気や表情，味わい及びその変化と，音楽の構造との関わり合いを捉えることが，本事項で求めている気付きである。 ＜例＞ 「堂々と行進する感じから，軽やかに踊っている感じに変わったのは，低い音の弦楽器の旋律と，高い音のフルートの旋律が交替で出てきたり，重なったりしているから」 ・〔共通事項〕との関連を図り，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら，曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて，児童が自ら気付くように指導を工夫する。 ・児童が感じ取った曲想及びその変化を基にしながら，曲想を生み出している音楽の構造に目を向けるようにする。

〔共通事項〕

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第3・4学年	〔共通事項〕 (1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して,次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	ア　音楽を形づくっている要素を聴き取り,それらの働きが生み出すよさや面白さ,美しさを感じ取りながら,聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。 （思考力，判断力，表現力等）	・音楽を形づくっている要素とは,「ア　音楽を特徴付けている要素」及び「イ　音楽の仕組み」である。 ・聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えるとは,感じ取ったことの理由を,音楽を形づくっている要素の働きに求めたり,音楽を形づくっている要素の働きがどのようなよさや面白さ,美しさを生み出しているのかについて考えたりすること。 ＜例＞ ・「速度」であれば,「これは速度が速い」,「これは速度が遅い」と意識したりするなど，速度の特徴を客観的に聴き取るだけでなく,「だんだん忙しい感じになってきたのに，急にのんびりとした感じに変わったのは,速度がだんだん速くなった後に，急に速度が遅くなったから」と捉えるなど，速度の変化とその働きが生み出すよさや面白さ,美しさとの関係を考える。
	イ　音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符，休符，記号や用語について,音楽における働きと関わらせて理解すること。（知識）	・単にその名称や意味を知るだけでなく,表現及び鑑賞の様々な学習活動の中で，音楽における働きと関わらせて，その意味や効果を理解させる。

3　内容の取扱い

(1) 歌唱教材は次に示すものを取り扱う。

ア　主となる歌唱教材については，各学年ともイの共通教材を含めて，斉唱及び簡単な合唱で歌う曲

イ　共通教材

〔第３学年〕

「うさぎ」	（日本古謡）		
「茶つみ」	（文部省唱歌）		
「春の小川」	（文部省唱歌）	高野辰之作詞	岡野貞一作曲
「ふじ山」	（文部省唱歌）	巌谷小波作詞	

〔第４学年〕

「さくらさくら」	（日本古謡）		
「とんび」	葛原しげる作詞	梁田　貞 作曲	
「まきばの朝」	（文部省唱歌）	船橋栄吉作曲	
「もみじ」	（文部省唱歌）	高野辰之作詞	岡野貞一作曲

◆神戸市の特色として，児童や学校，地域の実態に応じ，以下の楽曲を取り扱う。

「しあわせはこべるように」	臼井 真 作詞・作曲	
「神戸市歌」	木村 靖弘 作詞	信時 潔 作曲
「ほら，つながった」	恒本 さつき 作詞	あまゆーず 作曲

(2) 主となる器楽教材については，既習の歌唱教材を含め，簡単な重奏や合奏などの曲を取り扱う。

(3) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。

ア 和楽器の音楽を含めた我が国の音楽，郷土の音楽，諸外国に伝わる民謡など生活との関わりを捉えやすい音楽，劇の音楽，人々に長く親しまれている音楽など，いろいろな種類の曲

イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく，聴く楽しさを得やすい曲

ウ 楽器や人の声による演奏表現の違いを聴き取りやすい，独奏，重奏，独唱，重唱を含めたいろいろな演奏形態による曲

【第５学年及び第６学年】

１　目　標

(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに,表したい音楽表現をするために必要な歌唱,器楽,音楽づくりの技能を身に付けるようにする。

(2) 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや，曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的に音楽に関わり，協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら，様々な音楽に親しむとともに，音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

２　内　容

【A　表現】

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第５・６学年	歌唱 (1) 歌唱の活動を通して,次の事項を身に付けることができるよう指導する。	「歌うことが好き」「いろいろな曲に挑戦したい」 ・表現を工夫したり,歌ったりする喜びを味わう
	ア　歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら,曲の特徴にふさわしい表現を工夫し,どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。（思考力,判断力,表現力等）	・曲の特徴にふさわしい表現を工夫しとは,歌唱表現を工夫する根拠を曲の特徴に求めて表現をつくりだすこと。 ・表現を工夫する過程において,このように歌いたいという考えをもたせるようにする。 ＜例＞ 「盛り上がるところは響きのある歌声で歌いたい。そのためには,３段目の最後のフレーズをだんだん強くして４段目の曲の山につなげよう」 ・思いや意図を言葉や音楽で伝え合うことと，実際に歌ってみることとを繰り返しながら，曲の特徴にふさわしい表現を工夫する。 ・曲の特徴についての理解を深めたり，必要な技能を身に付けたりしながら，スタッカートやスラーなどの表現方法や,声の音色,強弱，速度などの違いによる表現方法などを様々に試すなどして,思いや意図を膨らませるようにする。 ・児童が思いや意図をもって活動に取り組むことによって,歌唱表現が豊かになったことを価値付ける。 ＜例＞ 「歌詞に込められた意味を考えながら音の強さを少しずつ強くしていくことで,気持ちの盛り上がりがよく伝わったね」
	イ　曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。（知識）	＜例＞ 「おだやかで懐かしい感じになっているのは,同じリズムが繰り返されて滑らかな音の動きになっているから。また,歌詞に

		ふるさとのことを思ったり懐かしんだりする気持ちが込められているから」 ・児童が感じ取った曲想を基にしながら，リズムや旋律，声部の重なり方などの特徴や，歌詞の内容に目を向けるようにする。 ・楽譜を見て，リズムや旋律，声部の重なり方，曲全体の構成などの特徴を確認したり，歌詞を音読して歌詞の内容を把握させたりする。このことが，作詞者や作曲者の思いや意図をくみ取ることにもつながる。
第 5 ・ 6 学 年	ウ　思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ｱ) から(ｳ) までの技能を身に付けること。（技能）	児童が表したい思いや意図を実現するために，技能を習得することの必要性を実感できるようにする。
	(ｱ)　範唱を聴いたり，ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能	・音楽を形づくっている要素や表現の仕方などについて，課題意識をもって聴くようにし，豊かな表現を目指した聴唱へと導く。 ・ハ長調の視唱に加え，イ短調の視唱にも慣れ親しむようにし，階名唱などを通して，視唱の技能を伸ばしていく。 ・楽譜と音との関連を意識した指導の一層の充実を図り，音楽を形づくっている要素及び音符，休符，記号や用語の指導も併せて行い，音楽の流れを感じながら読譜できるようにする。
	(ｲ)　呼吸及び発音の仕方に気を付けて，自然で無理のない，響きのある歌い方で歌う技能	・自然で無理のない，響きのある歌い方で歌うとは，児童一人一人の声の特徴を生かしつつも，力んで声帯を締め付けることなく，音楽的には曲想に合った自然な歌い方で，歌声を響かせて歌うこと。 ・母音，子音，濁音，鼻濁音などの日本語のよさを生かした発音や語感に気を付け，腹式呼吸などを意識した歌い方を身に付けるようにする。 ・自分の歌声の持ち味を生かすとともに，曲想に合った歌い方を主体的に探っていけるようにする。 ＜例＞ ・合唱の響きをより豊かにするために呼吸や声の響きに留意した歌い方を試す。 ・民謡を歌う際には，範唱の歌い方に近づけるように歌い方を試す。
	(ｳ)　各声部の歌声や全体の響き，伴奏を聴いて，声を合わせて歌う技能	・自分の歌声を全体の中で調和させて歌う。 ・歌声が重なって生み出される様々な響きを聴き取ったり，和音の美しい響きを味わったりする。 ・児童が表現のよさを判断できるように，互いの歌声をじっくりと

		聴くようにする。 ・重唱や合唱では，各声部の役割を理解し，自分が担当している声部だけでなく，他の声部との関わりを意識して歌う。
第 5 ・ 6 学 年	器楽 (2) 器楽の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲の特徴にふさわしい表現を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。(思考力，判断力，表現力等)	「いろいろな楽器や曲を演奏することに挑戦したい」 ・表現を工夫したり，演奏したりする喜びを味わう ・曲の特徴にふさわしい表現を工夫しとは，器楽表現を工夫する根拠を曲の特徴に求めて表現をつくりだすこと。 ・表現を工夫する過程において，このように演奏したいという考えをもたせるようにする。 ＜例＞ 「主旋律と副次的な旋律が呼びかけ合ったり重なったりする面白さを伝えるために，主旋律が引き立つ強さで，副次的な旋律を演奏しよう」 ・思いや意図を言葉や音楽で伝え合うことと，実際に演奏してみることとを繰り返しながら，曲の特徴にふさわしい表現を工夫する。 ・曲の特徴について理解を深めたり，必要な技能を身に付けたりしながら，それぞれの楽器の特性を生かした楽器の組合せを工夫したり，表現効果を高めるための表現方法を様々に試したりするなどして，思いや意図を膨らませるようにする。 ・児童が思いや意図をもって活動に取り組むことによって，器楽表現が豊かになったことを教師が価値付ける。 ＜例＞ 「主旋律と副次的な旋律との関わりを考えて楽器の組合せを工夫することで，二つの旋律が呼びかけ合っていたり，重なっていたりする面白さがよく表れるようになったね。」
	イ　次の(ｱ) 及び(ｲ) について理解すること。（知識） (ｱ) 曲想と音楽の構造との関わり	＜例＞ 「落ち着いた感じから明るい感じに変わったのは，低い音域で旋律が繰り返されている前半に比べて，後半は旋律の音域が高くなり，音の重なり方が少しずつ変化しているから」 ・児童が感じ取った曲想を基にしながら，リズムや旋律，各声部の楽器の重なり方，曲全体の構成などの特徴に目を向けるようにする。

		・楽譜を見て，リズムや旋律，各声部の役割，曲全体の構成などの特徴を確認したり，主旋律と副次的な旋律が重なるときと重ならないときとの響きの違いを演奏して比較したりするなど，効果的な手立てを工夫する。
	(ｲ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり	・発音原理や音域の違いなどによる音色や響きのよさや面白さを味わうとともに，演奏の仕方を工夫することによって楽器の音色や響きが変わることを，演奏を通して理解できるようにする。 ＜例＞ 「木琴や鉄琴は，打つ強さを変えたり，音盤の打つ場所を変えたり， マレットの材質や硬さを変えたりすると，音色や響きが変化する」
第5・6学年	ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ｱ) から(ｳ) までの技能を身に付けること。（技能）	児童が表したい思いや意図を実現するために，技能を習得することの必要性を実感できるようにする。
	(ｱ) 範奏を聴いたり，ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能	・音楽を形づくっている要素を注意深く聴きながら，課題意識をもって演奏の仕方を工夫し，豊かな表現を目指した聴奏へと導く。 ・ハ長調の視奏に加え，イ短調の視奏にも慣れ親しみ，視奏の技能を更に伸ばしていく。 ・音楽のよさや美しさを感じ取るという意識をもって聴奏したり，ハ長調及びイ短調の音階や調の違いを捉えて視奏したりできるようにする。 ・楽譜と音との関連を意識した指導の一層の充実を図り，音楽を形づくっている要素及び音符，休符，記号や用語の指導も併せて行い，音楽の流れを感じながら読譜できるようにする。
	(ｲ) 音色や響きに気を付けて，旋律楽器及び打楽器を演奏する技能	・我が国の音楽や郷土の音楽，諸外国の音楽に対する関心を一層高める。 ・様々な楽器のもつ固有の音色やその響きの特性を生かした楽器の演奏の仕方を身に付ける。 ＜例＞ ・木琴や鉄琴の演奏では，表したい思いや意図に合った音色になるようマレットで打つ強さに気を付ける。 ・リコーダーの演奏では，音域や表現方法にふさわしい息の吹き込み方やタンギングの仕方に気を付ける。
	(ｳ) 各声部の楽器の音や全体の響き，伴奏を聴いて，音を合わせて演奏す	・リズム，主旋律や副次的な旋律，和音が生み出す全体の響きを聴き取ったり，旋律の動きや各声部の役割などを理解したりして演

	る技能	奏できるようにする。 ・重奏や合奏による器楽の表現の楽しさを味わい，音を合わせて演奏できるようにする。 ・児童が表現のよさを判断できるように，互いの演奏をじっくりと聴くようにする。 ・重奏や合奏では，自分が担当している声部やそれぞれの楽器の役割を意識し，音を合わせる喜びを味わうようにする。
	音楽づくり (3) 音楽づくりの活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	音楽をつくる喜びを味わう
	ア　音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら，次の(ｱ)及び(ｲ)をできるようにすること。 （思考力，判断力，表現力等）	(ｱ)主に即興的に表現する活動を通して育成する資質・能力 (ｲ)主に音を音楽へと構成する活動を通して育成する資質・能力
第5・6学年	(ｱ) 即興的に表現することを通して，音楽づくりの様々な発想を得ること。	・即興的に表現するとは，その場でいろいろな音を選択したり組み合わせたりして表現すること。 ＜例＞ ・児童が各自で見付けた音を使ってみんなで模倣したり，各自が工夫した音を使って友達と交互に表現したり，ずらして重ねて表現したりする活動 ・木，金属，皮など異なる材質の物を組み合わせて使ったり，あるいは同じ材質の物を使ったりして生じるそれぞれの音の響きを生かして表現する活動 ・音楽づくりの様々な発想を得るとは，いろいろな音の響きをその場で選択したり組み合わせたりする中で生まれる，「これらの音をこうしたらもっと面白くなる」という様々な考えをもつこと。 ＜例＞ 「同じ材質の物から生じる音の響きだけでそろえて表現すると面白くなる」 ・児童の表現のよさや面白さを価値付ける。 ＜例＞ 「同じ材質の物から生じる音の響きでそろえて表現することで，音色に統一感が出て，よい雰囲気になったね。」
	(ｲ) 音を音楽へと構成することを通して，どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるか	・音を音楽へと構成するとは，反復，呼びかけとこたえ，変化，音楽の縦と横との関係などの「音楽の仕組み」を用いながら，音やフレーズを関連付けてまとまりのある音楽にしていくこと。

	について思いや意図をもつこと。	・全体のまとまりを意識した音楽とは，曲全体の構成を工夫している音楽のこと。 ・試行錯誤しながら音楽をつくる過程において，このような音楽を，このように全体を構成してつくりたいという考えをもたせるようにする。 ＜例＞ 「遠くから来た動物の群れが近づいた後，走り去っていくような音楽にしたいので，一つの楽器でゆっくり始めてからいくつかの楽器を徐々に重ね，中間の部分では，速度を速めて全員で音を出し，徐々に楽器を減らしながら弱くして， 最後は一つの楽器で終わりたい」 ・音楽をつくっていく過程で，思いや意図を伝え合うことと，実際に音で試すこととを繰り返しながら，表現を工夫し，思いや意図を膨らませるように促す。 ・児童が思いや意図をもって音楽づくりの活動に取り組むことによって，表現が高まったことを価値付ける。 ＜例＞ 「音の重ね方や強弱，速度を工夫して，中間の部分ははじめの部分や終わりの部分と異なるようにつくったので， 面白い音楽になったね。」
第 5 ・ 6 学 年	イ　次の(ｱ) 及び(ｲ) について，それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解すること。(知識)	
	(ｱ) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴	・いろいろな音の響きとは，音の素材や楽器そのものがもつ固有の音の響き，木，金属，皮などそれぞれの材質が持つ音の響き，音を出す道具によって変わる音の響きを指す。音の響きには，音の高さ，長さ，音色，重なりなどの特徴がある。 ・即興的に音を選択したり組み合わせたりする過程において，特徴的な音の響きやそれらの組合せを取り上げ，どのようなよさや面白さがあるのかについて理解できるようにする。 ＜例＞ 「トライアングルとツリーチャイムなど，同じ材質の打楽器を組み合わせると， 響きがとけ合ってよくなる」
	(ｲ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴	・音やフレーズのつなげ方とは，音を組み合わせてつくったリズム・パターンや短い旋律を反復させたり，呼びかけ合うようにしたり，それらを変化させたりすること。 ・重ね方とは，リズム・パターンや短い旋律を同時に重ねたり，時

第5・6学年		間をずらして重ねたりすること。 ・音を音楽へと構成していく過程において，音楽の仕組みを生かした特徴的な音やフレーズのつなげ方や重ね方を取り上げるようにし，どのようなよさや面白さがあるのかについても，全体で共有していく。 ＜例＞ 「あるリズム・パターンを，変化させながらつなぐだけでなく，一 人一人がずらしながら重ねると，やまびこのような感じがしてよさが生まれる」
	ウ　発想を生かした表現や，思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ｱ) 及び(ｲ) の技能を身に付けること。(技能)	
	(ｱ) 設定した条件に基づいて，即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能	・条件を設定する際，イ (ｱ) に示す知識を含めることによって，ア，イ及びウの関連を図った学習にすること。 ＜設定した条件の例＞ ・同じ材質の楽器を用い，一人が即興的に表現した８拍のリズム・パターンを繰り返して打つ間，友達が二人，三人と新しいリズム・パターンを重ねていく ・自分や友達が発する音の響きの特徴を注意深く聴くようにする。
	(ｲ) 音楽の仕組みを用いて，音楽をつくる技能	・音楽の仕組みを用いる際，イ (ｲ) に示す知識を含めることによって，ア，イ及びウの関連を図った学習にする。 ＜音楽の仕組みを用いて音楽をつくる例＞ ・反復と音楽の縦と横との関係を使い，複数の声部で，最初の部分は同じリズム・パターンを反復させ，中間の部分では，同じリズム・パターンを４拍ずらして重ねるようにし，最後の部分は，再び最初のリズム・パターンを反復させてつくっていく。

【B　鑑賞】

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第5・6学年	鑑賞 (1) 鑑賞の活動を通して,次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら,曲や演奏のよさなどを見いだし,曲全体を味わって聴くこと。(思考力,判断力,表現力等)	・曲や演奏のよさなどを見いだすとは，音楽的な根拠に基づいて，曲がもつよさや,様々な演奏形態や演奏者などによる演奏のよさなどについての考えをもつこと。 ・曲全体を味わって聴くとは，曲や演奏のよさなどについて考えをもち，曲全体を聴き深めること。 ・「この曲は生き生きとした感じがする」などの曲の印象を起点として，アの事項とイの事項との関連を図った学習を通して，聴き深めていくようにする。 ＜例＞ 「この曲は,はじめと終わりに打楽器の激しいリズムと金管楽器の力強い旋律が繰り返される生き生きとした音楽で,聴いていると,自分も前向きに取り組もうという気持ちになれるから好きだ」
	イ　曲想及びその変化と,音楽の構造との関わりについて理解すること。 (知識)	・児童が，曲の雰囲気や表情，味わい及びその変化と，音楽の構造との関わり合いを捉えることが，本事項で求めている理解である。 ＜例＞ 「ゆったりとしておだやかな感じから,動きのあるにぎやかな感じに変わったのは,尺八が旋律で箏が伴奏をしているような音楽が,真ん中では箏と尺八とが呼びかけてこたえているような音楽になっているから」 ・〔共通事項〕との関連を図り，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら，曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて，児童が自ら理解できるように指導を工夫する。 ・児童が感じ取った曲想及びその変化を基にし，曲想を生み出している音楽の構造に目を向けるようにする。

〔共通事項〕

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第5・6学年	〔共通事項〕 (1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して,次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	ア　音楽を形づくっている要素を聴き取り,それらの働きが生み出すよさや面白さ,美しさを感じ取りながら,聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。 （思考力,判断力,表現力等）	・音楽を形づくっている要素とは,「ア　音楽を特徴付けている要素」及び「イ　音楽の仕組み」である。 ・聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えるとは,感じ取ったことの理由を,音楽を形づくっている要素の働きに求めたり,音楽を形づくっている要素の働きがどのようなよさや面白さ,美しさを生み出しているのかについて考えたりすること。 <例> ・「強弱」と「速度」であれば,「なんだか追いかけられているような感じがしたのは,だんだん強くなるのと同時にだんだん速くなっているから」と捉えるなど,強弱や速度の変化と,それらの働きが生み出すよさや面白さ,美しさとの関わりについて考える。
	イ　音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符,休符,記号や用語について,音楽における働きと関わらせて理解すること。（知識）	・単にその名称や意味を知るだけでなく,表現及び鑑賞の様々な学習活動の中で,音楽における働きと関わらせて,その意味や効果を理解させる。

3　内容の取扱い

(1)　歌唱教材は次に示すものを取り扱う。

ア　主となる歌唱教材については，各学年ともイの共通教材の中の３曲を含めて，斉唱及び合唱で歌う曲

イ　共通教材

〔第５学年〕

「こいのぼり」　（文部省唱歌）

「子もり歌」　（日本古謡）

「スキーの歌」　（文部省唱歌）　林（はやし）　柳波（りゅうは）作詞　橋本国彦（はしもとくにひこ）作曲

「冬げしき」　（文部省唱歌）

〔第６学年〕

「越天楽今様（えてんらくいまよう）（歌詞は第２節まで)」（日本古謡）　慈鎮和尚（じちんおしょう）作歌

「おぼろ月夜」　（文部省唱歌）　高野辰之（たかのたつゆき）作詞　岡野貞一（おかのていいち）作曲

「ふるさと」　（文部省唱歌）　高野辰之（たかのたつゆき）作詞　岡野貞一（おかのていいち）作曲

「われは海の子（歌詞は第３節まで)」(文部省唱歌)

◆神戸市の特色として，児童や学校，地域の実態に応じ，以下の楽曲を取り扱う。

「しあわせはこべるように」　臼井 真 作詞・作曲

「神戸市歌」　木村 靖弘 作詞　信時 潔 作曲

「ほら,つながった」　恒本 さつき 作詞　あまゆーず 作曲

(2)　主となる器楽教材については，楽器の演奏効果を考慮し，簡単な重奏や合奏などの曲を取り扱う。

(3)　鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。

ア　和楽器の音楽を含めた我が国の音楽や諸外国の音楽など文化との関わりを捉えやすい音楽，人々に長く親しまれている音楽など，いろいろな種類の曲

イ　音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく，聴く喜びを深めやすい曲

ウ　楽器の音や人の声が重なり合う響きを味わうことができる，合奏，合唱を含めたいろいろな演奏形態による曲

指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，音楽的な見方・考え方を働かせ，他者と協働しながら，音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど，思考，判断し，表現する一連の過程を大切にした学習の充実を図ること。

(2) 第２の各学年の内容の「Ａ表現」の（1），(2) 及び (3) の指導については，ア，イ及びウの各事項を，「Ｂ鑑賞」の（1）の指導については，ア及びイの各事項を適切に関連させて指導すること。

(3) 第２の各学年の内容の〔共通事項〕は，表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力であり，「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導と併せて，十分な指導が行われるよう工夫すること。

(4) 第２の各学年の内容の「Ａ表現」の（1），(2) 及び (3) 並びに「Ｂ鑑賞」の（1）の指導については，適宜，〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図るようにすること。

(5) 国歌「君が代」は，いずれの学年においても歌えるよう指導すること。

(6) 低学年においては，第１章総則の第２の４の（1）を踏まえ，他教科等との関連を積極的に図り，指導の効果を高めるようにするとともに，幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に，小学校入学当初においては，生活科を中心とした合科的・関連的な指導や，弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

(7) 障害のある児童などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うこと。

(8) 第１章総則の第１の２の（2）に示す道徳教育の目標に基づき，道徳科などとの関連を考慮しながら，第３章特別の教科道徳の第２に示す内容について，音楽科の特質に応じて適切な指導をすること。

2 第２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

(1) 各学年の「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては，次のとおり取り扱うこと。

ア 音楽によって喚起されたイメージや感情，音楽表現に対する思いや意図，音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを伝え合い共感するなど，音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り，音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫すること。

イ 音楽との一体感を味わい，想像力を働かせて音楽と関わることができるよう，指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること。

ウ 児童が様々な感覚を働かせて音楽への理解を深めたり，主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため，コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫すること。

エ 児童が学校内及び公共施設などの学校外における音楽活動とのつながりを意識できるようにするなど，児童や学校，地域の実態に応じ，生活や社会の中の音や音楽と主体的に関わっていくことができるよう配慮すること。

◆各学校毎年開催の音楽会，ＫＯＢＥこども音楽祭への参加

◆入学式，卒業式，１年生を迎える会，６年生を送る会での音楽表現活動の活用

◆今月の歌の実践

◆音楽集会の実践

オ　表現したり鑑賞したりする多くの曲について，それらを創作した著作者がいることに気付き，学習した曲や自分たちのつくった曲を大切にする態度を養うようにするとともに，それらの著作者の創造性を尊重する意識をもてるようにすること。また，このことが，音楽文化の継承，発展，創造を支えていることについて理解する素地となるよう配慮すること。

(2)　和音の指導に当たっては，合唱や合奏などの活動を通して和音のもつ表情を感じ取ることができるようにすること。また，長調及び短調の曲においては，Ⅰ，Ⅳ，Ⅴ及びⅤ７などの和音を中心に指導すること。

(3)　我が国や郷土の音楽の指導に当たっては，そのよさなどを感じ取って表現したり鑑賞したりできるよう，音源や楽譜等の示し方，伴奏の仕方，曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方などの指導方法を工夫すること。

(4)　各学年の「A表現」の（1）の歌唱の指導に当たっては，次のとおり取り扱うこと。

ア　歌唱教材については，我が国や郷土の音楽に愛着がもてるよう，共通教材のほか，長い間親しまれてきた唱歌，それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを含めて取り上げるようにすること。

イ　相対的な音程感覚を育てるために，適宜，移動ド唱法を用いること。

ウ　変声以前から自分の声の特徴に関心をもたせるとともに，変声期の児童に対して適切に配慮すること。

(5)　各学年の「A表現」の（2）の楽器については，次のとおり取り扱うこと。

ア　各学年で取り上げる打楽器は，木琴，鉄琴，和楽器，諸外国に伝わる様々な楽器を含めて，演奏の効果，児童や学校の実態を考慮して選択すること。

イ　第１学年及び第２学年で取り上げる旋律楽器は，オルガン，鍵盤ハーモニカなどの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。

ウ　第３学年及び第４学年で取り上げる旋律楽器は，既習の楽器を含めて，リコーダーや鍵盤楽器，和楽器などの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。

エ　第５学年及び第６学年で取り上げる旋律楽器は，既習の楽器を含めて，電子楽器，和楽器，諸外国に伝わる楽器などの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。

オ　合奏で扱う楽器については，各声部の役割を生かした演奏ができるよう，楽器の特性を生かして選択すること。

(6)　各学年の「A表現」の（3）の音楽づくりの指導に当たっては，次のとおり取り扱うこと。

ア　音遊びや即興的な表現では，身近なものから多様な音を探したり，リズムや旋律を模倣したりして，音楽づくりのための発想を得ることができるよう指導すること。その際，適切な条件を設定するなど，児童が無理なく音を選択したり組み合わせたりすることができるよう指導を工夫すること。

イ　どのような音楽を，どのようにしてつくるかなどについて，児童の実態に応じて具体的な例を示しながら指導するなど，見通しをもって音楽づくりの活動ができるよう指導を工夫すること。

ウ　つくった音楽については，指導のねらいに即し，必要に応じて作品を記録させること。作品を記録する方法については，図や絵によるもの，五線譜など柔軟に指導すること。

エ　拍のないリズム，我が国の音楽に使われている音階や調性にとらわれない音階などを児童の実態に応じて取り上げるようにすること。

(7)　各学年の「B鑑賞」の指導に当たっては，言葉などで表す活動を取り入れ，曲想と音楽の構造との関わりについて気付いたり理解したり，曲や演奏の楽しさやよさなどを見いだしたりすることができるよう指導を工夫すること。

(8)　各学年の〔共通事項〕に示す「音楽を形づくっている要素」については，児童の発達の段階や指導のねらいに応じて，次のア及びイから適切に選択したり関連付けたりして指導すること。

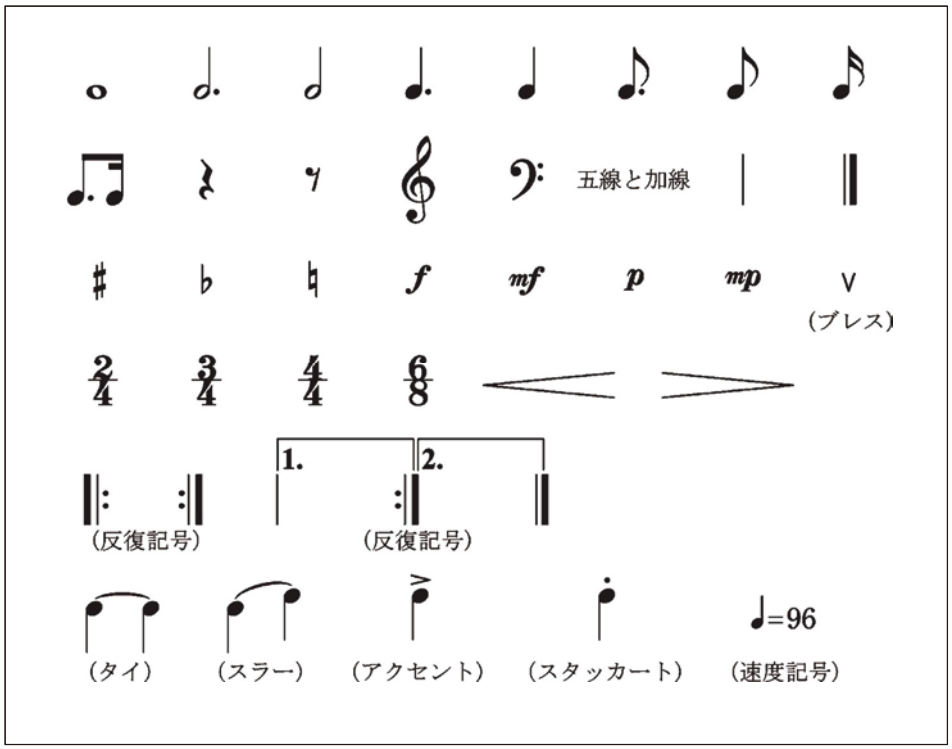
ア　音楽を特徴付けている要素

　　音色，リズム，速度，旋律，強弱，音の重なり，和音の響き，音階，調，拍，フレーズなど

イ 音楽の仕組み

　　反復，呼びかけとこたえ，変化，音楽の縦と横との関係など

(9)　各学年の〔共通事項〕の（1）のイに示す「音符，休符，記号や用語」については，児童の学習状況を考慮して，次に示すものを音楽における働きと関わらせて理解し，活用できるよう取り扱うこと。



第７節　図画工作

第１　目　　標

（小学校図画工作）

表現及び鑑賞の活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに，材料や用具を使い，表し方などを工夫して，創造的につくったり表したりすることができるようにする。

(2)　造形的なよさや美しさ，表したいこと，表し方などについて考え，創造的に発想や構想をしたり，作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3)　つくりだす喜びを味わうとともに，感性を育み，楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い，豊かな情操を培う。

※「造形的な見方・考え方」とは，感性や想像力を働かせ，対象や事象を，形や色などの造形的な視点で捉え，自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。

（中学校美術）

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに，表現方法を創意工夫し，創造的に表すことができるようにする。

(2)　造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3)　美術の創造活動の喜びを味わい，美術を愛好する心情を育み，感性を豊かにし，心豊かな生活を創造していく態度を養い，豊かな情操を培う。

	小　学　校						中　学　校		
標準授業時数	１年	２年	３年	４年	５年	６年	１年	２年	３年
	68	70	60	60	50	50	45	35	35

▲：他校種とのつながり，◎：他学年とのつながり，★：他教科とのつながり
※：特に配慮を要する事項，◆：参考事項（神戸らしさ等）

第２　各学年の目標及び内容

【第１学年及び２学年】

１　目　標

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに，手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い，表し方などを工夫して，創造的につくったり表したりすることができるようにする。

(2) 造形的な面白さや楽しさ，表したいこと，表し方などについて考え，楽しく発想や構想をしたり，身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。

(3) 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み，つくりだす喜びを味わうとともに，形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。

２　内　容

「Ａ表現」（１）ア　造形遊びをする**活動を通して**育成する「思考力，判断力，表現力等」

イ　絵や立体，工作に表す**活動を通して**育成する「思考力，判断力，表現力等」

（２）ア　造形遊びをする**活動を通して**育成する「技能」

イ　絵や立体，工作に表す**活動を通して**育成する「技能」

「Ｂ鑑賞」（１）ア　鑑賞の**活動を通して**育成する「思考力，判断力，表現力等」

〔共通事項〕（１）ア　「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「知識」

イ　「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「思考力，判断力，表現力等」

◆神戸っ子アートフェスティバルなどの児童作品展を鑑賞活動に活用

○低学年の特徴

・周りの人，物，環境などに体ごと関わり全身で感じるなど，対象と一体になって活動する傾向が見られる。

・具体的な活動を通して思考したり，既成の概念にとらわれずに発想したりする特徴が見られる。

・表現及び鑑賞の活動においても，つくりながら考えたり，結果にこだわらずに様々な方法を試したり，発想が次々と展開したりするなどの様子が見られる。

【Ａ表現】（１）ア　**造形遊びをする活動**

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第１・２学年	（１）**発想や構想**に関する事項 ア　造形遊びをする活動を通して，身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや，感覚や気持ちを生かしながら，どのように活動するかについて考えること。	**身近な自然物や人工の材料** ・この時期の児童が関心や意欲をもつ，扱いやすい身近な材料。 自　然　物＝土，粘土，砂，小石，木の葉，小枝，　木の実，貝殻，雪や氷，水など，学校や地域の実態に応じた材料 人工の材料＝新聞紙，段ボール，布，ビニル袋やシート，包装紙，紙袋，縄やひも，空き箱など ・クレヨン，パス，共用の絵の具などは，用具でもあるが形や色をもつ材料の一つとして考えることができる。 **造形的な活動を思い付く** ・児童が材料に働きかけて捉えた形や色，自分のイメージなどを基に造形的な活動を発想すること。 →小石の形や木の葉の色の面白さ，紙を破いたときの手応え，手の動きから生まれた形や色，材料と材料との組み合わせなどから思いつくこと **指導に当たって** ・児童が，材料と十分に関わることができるようにする。 →広くて安全な場所を活動場所にする →発想を広げることのできる時間を確保する ・材料の特徴によって活動の可能性が変わることを踏まえて選ぶ。 ・児童が進んで造形的な活動を始めるような提案をしたり，題材名を示したりする。 **感覚や気持ちを生かしながらどのように表すかについて考える** ・造形活動で生じる感覚や気持ちを大切にしながら活動を思い付いたり，つくり方を考えたりすること。 →手などで触りながら材料を捉える感覚，自分の体で大きさや長さをつかむ感覚，形や色などに対する児童の気持ちなどを大切にしながら活動する **指導に当たって** ・児童の活動は多様であることを踏まえ，一人一人の発想や構想を可能な限り受け止める。 ・児童の「感覚や気持ち」と「活動すること」を切り離さないように配慮し，造形的な試みを見守り，励ますようにする。 ・発想や構想，技能を連続させて，つくり，つくりかえ，つくることができるように，新しい試みをしようとすること自体を見守ったり励ましたりして，主体的に造形的な活動に向かうようにする。

【A表現】（1）イ　絵や立体，工作に表す活動

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第1・2学年	（1）**発想や構想**に関する事項 イ　絵や立体，工作に表す活動を通して，感じたこと，想像したことから，表したいことを見付けることや，好きな形や色を選んだり，いろいろな形や色を考えたりしながら，どのように表すかについて考えること。	**感じたこと，想像したこと** ・表したいことの基になる自分のイメージで，児童自身が思ったこと。 （例）→うれしかったこと，不思議に思ったこと，かきながら新たに思ったこと →生活を楽しくするものをつくったり，身の回りを飾ったりすること **表したいことを見付け** ・自分のイメージを基に，表したいことを発想すること。 （例）→破いた紙の形から想像して生き物に表す →簡単な仕組みを動かしながら，表したいおもちゃを思い付く ・低学年の児童の表したいことは，初めからはっきりしているものではないので，およその表したいことも含めて捉える。 **指導に当たって** ・児童の興味や関心を，題材や指導に生かす。 ・感じたこと，想像したことは，互いにつながりのあるものとして捉えて指導に生かし，表したいことの変化などには柔軟に対応する。 ・表したいことを見付けることは，児童自身が行うことだということを教師が常に意識して，低学年から指導を積み重ねていく。 ・児童の表したいことは，およそのものであることも踏まえ，表したいことがはっきりし始めてきたときを捉えて励ます。 **好きな形や色を選んだり，いろいろな形や色を考えたりしながら** ・自分の好きな形や色を選んだり，試すようにいろいろな形や色を考えたりしながら，表現への思いを一層膨らませること。 **どのように表すかについて考える** ・形や色などを楽しみ，周りの友人と関わり合いながら，自分の思いをはっきりさせたり，つくりつつある形や色から発想を広げたりすること。 **指導に当たって** ・どのように表すかについて考える時間を設定し，児童の様子をよく見て指導に生かす。 ・好きな色を選んだり，納得するまでつくり直したり，行きつ戻りつしながら表したり思い付いたりすることができる過程を重視する。

【Ａ表現】（２）ア　**造形遊びをする活動**

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第１・２学年	（２）**技能**に関する事項 ア　造形遊びをする活動を通して，身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに，並べたり，つないだり，積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ，活動を工夫してつくること。	**身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる** ・材料や用具を安全に使いながら，その扱いに慣れるようにすること。 用具＝　はさみ，のり，簡単な小刀類などの児童が扱いやすい切断や接合，接着ができる用具 ・クレヨン，パス，共用の絵の具などは，用具でもあるが，形や色をもつ材料の一つとして考えることができる。 **指導に当たって** ・児童が手や体全体の感覚などを働かせて，いろいろな材料に触れ，材料を扱う楽しさや面白さを味わい，「もっと使ってみたい」という関心や意欲をもつようにする。 ・安全に配慮し，はさみや簡単な小刀など危険が伴うものは，必ず教師が使い方を見せる。 ・用具の置き場所や活動場所などにも十分に配慮する。 **並べたり，つないだり，積んだりする** ・児童が材料を手にしたときに，手や体全体の感覚などを働かせて自然に始める行為や活動の例。 （例）→小石を並べる，木片を長くつなぐ，空き箱を積み重ねる →重ねる，かぶせる，丸める，破る，巻く，つるす，もぐりこむ，たらす ・「並べる，つなぐ，積む」は，児童の平面から立体への意識の芽生えや，造形遊びが構成的な活動であることを示している。 **手や体全体の感覚などを働かせ活動を工夫してくつくる** ・児童の造形活動の本来の姿である全ての感覚や技能を総合的に働かせ，感じたことを生かしながらつくること。 **指導に当たって** ・児童が手や体全体の感覚などを働かせることができるよう，活動場所について考慮する。 ・材料の並べ方や積み方を教師が指示して児童にさせるのではなく，児童が自ら工夫してつくるように指導を工夫する。 ・児童の多様な試みを受け止め，児童が試みること自体に価値を見いだし，更に活動を工夫するよう促していく。 ・活動の停滞が見られるときには，新しい試みをする視点に気付くようにしたり，質の違う材料を提案してみたりするなど指導を工夫する。 ・同じことを繰り返しながらも，興味や関心が継続しているのか，単に繰り返しているのかを見極め，指導する。

【A表現】（2）イ　絵や立体，工作に表す活動

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第1・2学年	（2）**技能**に関する事項 イ　絵や立体，工作に表す活動を通して，身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに，手や体全体の感覚などを働かせ，表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。	**身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる** ・材料や用具を安全に使いながら，絵や立体，工作に表すことを通して，その扱いに慣れること。 材料や用具＝　かく，つくる…画用紙や厚紙など 立体をつくる…粘土や箱など 描画材料…クレヨン，パスなど 切断，接合，接着をする …はさみ，のり，簡単な小刀類など **指導に当たって** ・材料や用具を楽しく使えるような題材を設定する。 例）→切る心地よさを感じながら楽しくはさみを使うような題材 ・危険が伴う用具については，必ず教師が使い方を見せる。 ・表し方を工夫して創造的に表すことを積み重ねることで技能が身に付くという視点をもち，指導の工夫をする。 ・材料や用具を繰り返し経験することで十分に慣れるようにする。 **手や体全体の感覚などを働かせ** ・児童の造形活動の本来の姿である全ての感覚や技能を総合的に働かせること。 （例）→粘土を丸めたり伸ばしたりする，指や手で絵をかく， 型を押し付けて写す，画用紙をちぎる **表したいことを基に表わし方を工夫して表す** ・感じたこと，想像したことから見付けたおよその表したいことを基に，材料を用いたり，用具を使ったりする中から感じたことを生かしながら表すこと。 **指導に当たって** ・発想や構想を含めた過程で技能を捉え，児童の思いを大切にした指導をする。 ・手や体全体の感覚などを十分に働かせ材料や用具と一体になって表現する実態を踏まえ，感じたことを生かしながら用具を使うことから表現が広がるような指導の工夫をする。 ・思い付いたことがすぐできるよう材料や用具をあらかじめ用意したり，試せるようにある程度の材料の量を用意したりする。 ・教師が表す形を決めすぎたり，手順が複雑で細かな指示がないと出来ない内容を設定したりすることは避け，児童が主体的に表し方ができるような設定をする。

【B鑑賞】（1）ア

	指導内容	内容の取扱い
第1・2学年	(1) 鑑賞に関する事項 ア　身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して，自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ，表したいこと，表し方などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げること。	**身の回りの作品など** ・自分たちのつくった作品やつくりつつある作品，身近な材料，身の回りの形や色などのこと。 ◆神戸っ子アートフェスティバルなどの児童作品展を活用 **造形的な面白さや楽しさ** ・児童が対象に関わることによって生じた感情や気持ちのことで，自分なりの感じ方を重視する。 **表したいこと** ・思い付いた活動や自分の夢や願い，経験などの児童が表したいと思うこと。 **自分の見方や感じ方を広げる** ・自分なりの見方や感じ方を基にしながら，新たに見たり触ったりした作品や材料などとの出会いの中で，見方や感じ方を広げること。 **指導に当たって** ・自分と対象を一体的に捉えている低学年らしさを指導に生かす。 ・児童の意欲や関心を重視し，素直な驚きや喜びを大切にし，それを広げたり確かめたりできるような指導の工夫をする。 （例）　→作品と同じポーズをとる，材料に触れるなど 見たり感じたりすることそのものを楽しむ活動 →指先で触る，てのひらで包み込むように触る， 抱きかかえるように触る，持ち上げるなど 材料や，触ってもよい作品などを鑑賞の対象にする ・言語活動を充実する。 →児童が自然に発する言葉は自分なりの意味をもっているので，一人一人の話を十分に聞く。 →友人などの話を自分の気付きのように捉えたり，自分の表現や作品の見方に取り入れたりする姿を指導に生かす。 ・児童がどのようなことに興味や関心をもっているのかを把握し，そのことを鑑賞の対象にしたり，鑑賞の対象と関連付けたりする。

【共通事項】（1）ア,イ

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第1・2学年	**「知識」**に関する事項 ア　自分の感覚や行為を通して，形や色などに気付くこと。	**自分の感覚や行為** ・材料や自分たちの作品などを捉えるときの，自分の視覚や触覚などの感覚，並べたり積んだりするなどの行為や活動のこと。 **形や色などに気付く** ・形，線，色，触った感じなどに気付くこと。 （例）→材料と自分の体の大きさを比べて形や大きさに気付く →絵の具で色水をつくることで様々な色に気付く →材料の感触を体全体で味わうことで触った感じに気付く **指導に当たって** ・児童が体験的に対象の形や色などに気付くようにする。 →多様な学習活動を設定し，児童が楽しみながら形や色などに興味や関心をもつようにする ・児童が関心をもっている形や色などを指導に反映する。 →それぞれの児童の思いに応えられるように，材料の種類や量に配慮する ・自分がこの形や色などをつくりだしたのだという実感や満足感をもつようにすることや，つくりつつある形や色などに対して，感じたり気付いたりしていることを尊重し，自信をもつよう励ます。
	「思考力，判断力，表現力等」に関する事項 イ 形や色などを基に，自分のイメージをもつこと。	**形や色などを基に** ・自分の感覚や行為を通して捉えた，形，線，色，触った感じなどを基にすること。 **自分のイメージをもつ** ・受動的に理解することではなく，自分の感覚や行為とともにイメージをもつこと。 **イメージ** ＝ 児童が心の中につくりだす像や全体的な感じ，心に思い浮かべる情景や姿など。低学年段階のイメージは自分の感情や行動などと一緒に得られるもの ・材料や場所などに対して自分のイメージをもったり，作品などに対して，自分のイメージをもったりすることを大切にした指導をする。 **指導に当たって** ・児童がもっているイメージを捉え，具体的に把握し指導に生かす。 (例)→児童が自然に発する言葉に着目する，児童がかいた絵などから読み取る ・イメージが次々と変化している場合があるので，その過程に着目する。 ・豊かなイメージにつながるような体験を設定する。

第１・２学年指導計画の作成

「Ａ表現」

○造形遊びをする活動

・発想や構想をすることと，技能を働かせることが密接につながっていることを踏まえ，児童が思い付いたことや方法を，すぐに試すことができる環境を用意する。

・造形活動に役立つ材料を数多く計画的に準備し，保管しておく。

・活動場所の範囲や安全に配慮する。

○絵や立体，工作に表す活動

・発想や構想をすることと，技能を働かせることが密接につながっていることを踏まえ，見付けたことや方法をすぐに試すことができる環境を用意する。

・様々な題材の工夫をする.

・低学年の児童の実態に配慮した指導をする。

・材料や用具の経験を把握しておく。

・自分の経験を生かすことができる機会を設定する。

・幼児期の教育において，遊びや生活の中で様々な材料や方法を経験しながら，自分なりに工夫して表現することを大切にしていることなどを踏まえ，指導の工夫を行う。

「Ｂ鑑賞」

・「A表現」「B鑑賞」の指導は相互の関連を図る。

・感じ取ったり考えたりする時間を十分確保し，児童が想像を膨らませたり，表したい思いを温めたりすることができるようにする。

・一人一人の児童が，鑑賞して得たことを造形活動や鑑賞活動にどのように生かしていくかを捉える。

・活動しながら自然に鑑賞できるように学習環境を整える。

（例）→材料や用具の置場の工夫

→席の工夫

→製作途中の作品を保管する場の工夫

〔共通事項〕

・「A表現」「B鑑賞」の指導を，〔共通事項〕の視点で見直し，指導内容や方法，指導上の配慮事項などを検討する。

（例）→材料の準備の段階から形や色などに着目するように，材料を児童が用意する

→大きく広がる形もつくることができるように床で活動する

→児童のつぶやきなどを捉えたり，簡単な文などを書かせたりして，児童が何を考えているかを確かめ，指導に役立てる

→児童同士が自分の気持ちや印象，体験などを交流できるような時間や場などを工夫する

・〔共通事項〕のアとイと関わりに気付くようにし，それぞれの事項が発揮されるような指導計画を作成する。

・〔共通事項〕だけを題材にしたり，どの時間でも個別に取り上げて教えたりするなどの硬直的な指導にならないよう，指導内容や方法を工夫して指導計画を具体化する。

・幼児期における造形に関する活動の経験に配慮した指導計画を作成する。

【第３学年及び４学年】

１　目　標

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かるとともに，手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い,表し方などを工夫して,創造的につくったり表したりすることができるようにする。

(2) 造形的なよさや面白さ，表したいこと，表し方などについて考え，豊かに発想や構想をしたり，身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。

(3) 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み，つくりだす喜びを味わうとともに，形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

２　内　容

「Ａ表現」	（１）ア		造形遊びをする**活動を通して**育成する「思考力，判断力，表現力等」
		イ	絵や立体，工作に表す**活動を通して**育成する「思考力，判断力，表現力等」
	（２）ア		造形遊びをする**活動を通して**育成する「技能」
		イ	絵や立体，工作に表す**活動を通して**育成する「技能」
「Ｂ鑑賞」	（１）ア		鑑賞の**活動を通して**育成する「思考力，判断力，表現力等」
〔共通事項〕	（１）ア		「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「知識」
		イ	「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「思考力，判断力，表現力等」

◆神戸っ子アートフェスティバルなどの児童作品展を鑑賞活動に活用

◆小磯記念美術館等の鑑賞プログラムや教材などを鑑賞活動に活用

○中学年の特徴

・ある程度対象との間に距離感をおいて考え，そこで気付いたことを活用して活動することが出来る傾向がある。

・表し方を工夫することに意欲を示したり，想像した事を実現することに熱中したりする。

・手などの働きも巧みさを増し，扱える材料や用具の範囲が広がり，多様な試みが見られるようになる。

・友人の発想やアイデアに関心をもったり，表し方を紹介し合ったりするなど，周りとの関わりも活発になる。

【A表現】（1）ア　造形遊びをする活動

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第3・4学年	（1）**発想や構想**に関する事項 ア　造形遊びをする活動を通して，身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや，新しい形や色などを思い付きながら，どのように活動するかについて考えること。	**身近な材料や場所など** ・児童の生活圏内にあり活用が容易な材料や場所などのこと。 材料 ＝ 前学年までの材料，木切れ，空き容器，何かの部品などの，切ったり，分解したり，組み合わせたりできるようなもの 場所 ＝ 机の下，廊下，樹木や遊具等がある場所，空き教室，体育館，傾斜地など，児童が造形的な活動を思い付く場所 ・材料の形や色，場所の感じ，これまでの造形的な活動の体験など。 **造形的な活動を思い付く** ・児童が材料や場所などに働きかけて捉えた形や色の感じ，自分のイメージなどを基に造形的な活動を発想すること。 （例）→小枝や葉などの自然材と選んだ場所の感じを基に，お気に入りの場所をつくる →段ボールを組みながらできる空間のよさにこだわり部屋のような空間を組み立てる **指導に当たって** ・児童が試みる中で発想が広がるような指導を工夫し，材料や場所などと十分に関わりながら造形的な活動を思い付くようにする。 ・児童が新たな見方や感じ方で場所を捉え，造形的な活動を思い付くという視点を大切にし，児童の実態と照らし合わせ，資質・能力がより発揮できそうな場所を教師がふだんから探しておく。 ・低学年から造形遊びをする活動を積み重ね，様々な材料に触れる経験をしておくことで，児童が材料の質や量と場所を考え合わせながら活動できるようにする。 **新しい形や色などを思い付きながら，どのように活動するかについて考えること** ・材料を加えたり組み合わせたりするなど試みる中で，もとの形や色などとは違った形や色などになるようなことを思い付きながら，自分のイメージを実現しようと考えること。 **指導に当たって** ・児童一人一人の気付きやイメージを基に，自然に発想や構想を交流するなど展開を工夫する。 ・手掛けたことによって生まれてくる新しい形や色の感じを捉え，更に活動を発展させるようにする。 （例）→新しい活動に向かうように教師が共感的な声掛けをする →児童が改めて活動している場所を見渡すようにする

【Ａ表現】（１）イ　絵や立体，工作に表す活動

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第３・４学年	（１）**発想や構想**に関する事項 イ　絵や立体，工作に表す活動を通して，感じたこと，想像したこと，見たことから，表したいことを見付けることや，表したいことや用途などを考え，形や色，材料などを生かしながら，どのように表すかについて考えること。	**感じたこと，想像したこと，見たこと** ・表したいことの基になる自分のイメージ。 感じたこと，想像したこと＝　自分自身が思ったこと 見たこと＝　見たり触れたりしたことから捉えたこと 例）→興味のある部分，自分なりに捉えた形や色，ものの重なり **表したいことを見付け** ・自分のイメージを基に，児童自身が表したいことを発想すること。 ・中学年の児童の表したいことも，初めからはっきりしているものではないので，およその表したいことも含めて捉える。 **指導に当たって** ・感じたこと，想像したこと，見たこと，表したいことは互いにつながりのあるものとして捉え指導に生かす。 ・見たことは，具体的なものの形や色などを単に再現することを強いるものではないことに留意する。 ・題材や題材名を工夫する。 ・表したいイメージを実現していく題材や，表しながら思いを膨らませる題材など，様々な学習過程を経験するようにする。 **形や色，材料などを生かし** ・発想を実現するために形や色を考えたり，材料を選んだりすること。 （例）→どの色とどの色が合うのかを考える →仕掛けや動く仕組みを工夫する →表したいことに合った材料を集め材料の生かし方を工夫する **どのように表すかについて考える** ・自分の思いに合う表し方や見通し，順序などを考えること。 （例）→心に思い描いたことを簡単な絵や図でかきとめる →直接材料を置いて表し方を決める **指導に当たって** ・試しなら表したり，次第に表したいことや用途などが明確になったりするような指導を工夫する。 （例）→友人と話す中で，どのように表すのかを児童自身が考える →教師の共感的な声掛けにより，イメージを明確にする →材料を児童自身が集め，どのように表すかについて思い描く →材料や用具を置く場所を設けて材料を比べながら選ぶ ・偶然の結果や，失敗と感じたことを別の視点から捉え直すことで新しい発想や構想が生まれることを大切にして指導を工夫する。

【Ａ表現】（２）ア　**造形遊びをする活動**

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第３・４学年	（２）**技能**に関する事項 ア　造形遊びをする活動を通して，材料や用具を適切に扱うとともに，前学年までの材料や用具についての経験を生かし，組み合わせたり，切ってつないだり，形を変えたりするなどして，手や体全体を十分に働かせ，活動を工夫してつくること。	**材料や用具を適切に扱う** ・用具の扱いに慣れるとともに，児童がつくりたいことに合わせて，材料や用具が適切かどうかを判断したり選んだりして，安全な使い方にも気を付けながら使うこと。 材料や用具＝　前学年までに経験した材料や用具，木切れ，板材，釘，水彩絵の具，小刀，使いやすいのこぎり，金づち，大きな段ボール，木の枝，ひもなど **指導に当たって** ・材料や用具を十分に経験することを通して楽しみながら適切に扱うようにするために，様々な方法を試してみるようにする。 ・用具の安全な使い方を指導するとともに，自分の思い付いたことを大切に活動し，用具の扱いが分かっていくようにする。 ・材料や用具を適切に扱うことは，活動を工夫して創造的につくる中で身に付くものであるという視点をもち，指導を工夫する。 **組み合わせたり，切ってつないだり，形を変えたりする** ・試すような気持ちで活動すること。 （例）→木材をのこぎりで切り，接着剤などでつないで形をつくったり更につくりかえたりする →釘を木切れに打ち込むことに熱中しながら，次第に自分なりの表し方を見付ける **活動を工夫してつくる** ・自分の気持ちや感覚，活動などを通して，活動やつくり方などを工夫してつくること。 **指導に当たって** ・児童の経験や実態を考慮し，手や体全体を十分に働かせながら技能が育成されるように，多様な材料や用具を用意したり，材料や用具の種類や数を絞ったりする。 ・「思考力，判断力，表現力」と「技能」を関連付けて指導する。 ・児童が手や体全体を十分に働かせ発揮している技能を捉え，これを一層伸ばすような指導と評価を工夫する。 ・活動の形が残っていない場合も技能は育成されているので，育成する資質・能力の視点で児童の活動の様子を捉える。 ・児童が自分で発揮した技能を振り返ったり，教師が写真や動画を撮っておき，それを振り返りに使ったりするなどの指導の工夫をする。

【Ａ表現】（２）イ　**絵や立体，工作に表す活動**

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第３・４学年	（２）**技能**に関する事項 イ　絵や立体，工作に表す活動を通して，材料や用具を適切に扱うとともに，前学年までの材料や用具についての経験を生かし，手や体全体を十分に働かせ，表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。	**材料や用具を適切に扱う** ・用具の扱い方に慣れるとともに，児童が表したいことに合わせて，材料や用具が適切かどうかを判断したり選んだりして，安全な使い方にも気を付けながら使うこと。 材料や用具＝　前学年までに経験した材料や用具，木切れ，板材，釘，水彩絵の具，小刀，使いやすいのこぎり，金づちなど **指導に当たって** ・様々な方法を試してみるようにして，材料や用具を十分に経験することを通して楽しみながら技能を身に付けるようにする。 ・表したいことに合わせて表し方を工夫して創造的に表す中で身に付くように指導を工夫する。 （例）→水彩絵の具の特徴を生かし，工夫して色をつくるようにする →色をつくることを楽しみながら，徐々に材料や用具を適切に扱うようにする ・安全に配慮し，活動に適切か，刃こぼれはないか，彫りやすい板材か，安全に使える環境かなど，児童の実態に配慮して指導する。 **表したいことに合わせて表し方を工夫して表す** ・およその表したいことに合わせて，材料や用具を選んだり表し方を工夫したりすること。 （例）　→水彩絵の具を使いながら水の加減や色の混ぜ方を工夫する →金づちを使いながら釘を並べるように打つ →小刀で削ったり，彫刻刀で彫ったりしながら新しい形をつくり出す **指導に当たって** ・児童が積極的に材料や用具，表し方などを試せるようにする。 （例）→何枚も紙を用意する，紙を上から貼ったり継ぎ足したりして，試したりやり直したりができるようにする ・造形遊びをする活動で得た経験を自ら生かすような設定をする。 （例）→これまでの活動を思い出すような場面を設定する →前学年の造形遊びで使った材料を，材料にしてみる ・材料や用具を使うことから表したいことが変化したり，広がったりすることにも配慮する。 ・自然に活動を交流できる設定をする。 ・児童が失敗だと思っている箇所を改善する方法を教師が知っておく。

【B鑑賞】（1）ア

	指導内容	内容の取扱い
第3・4学年	(1) 鑑賞に関する事項 ア　身近にある作品などを鑑賞する活動を通して，自分たちの作品や身近な美術作品，製作の過程などの造形的なよさや面白さ，表したいこと，いろいろな表し方などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げること。	**身近にある作品など** ・自分たちのつくった作品やつくりつつある作品，表現に関連した作品や日用品，伝統的な工芸品や玩具，地域の美術館の作品など，生活の中で児童が身近に感じられるもののこと。 **造形的なよさや面白さ** ・児童が対象に関わることによって生じた感情や気持ちのこと。 例）→対象や事象から捉えた他者と共有できるよさや，自分なりに面白いと思うこと **表したいこと** ・自分の夢や願い，経験や見たこと，伝えたいこと，動くものや飾るものなどの児童が表したいと思うこと。 **自分の見方や感じ方を広げる** ・自分なりの見方や感じ方を基にしながら，新たに見たり触ったりした作品や材料などとの出会いの中で，それらを広げること。 **指導に当たって** ・自ら働きかけながら見付けたよさや面白さを，児童自身が気付くようにするため，表したことと，自ら選んだりつくりだしたりした形や色などとの関連に気づくように指導する。 ・美術作品を取り上げる場合は，自分なりのよさや面白さを見付けるように学習を進める。 ・表現と鑑賞が自然につながっている姿や，形を変化させたり自分の思いに合った色をつくったりする姿を取り上げたり，振り返らせたりしながら学習を充実させる。 ・言語活動を充実する。 （例）→どのように感じたのか根拠や理由を形や色を基に話す，適切な人数で話し合う，気持ちを振り返って書くなどして，児童自身が気付きを自覚できるような指導の工夫をする →共通点だけでなく異なった捉え方や感じ方を大切にし，互いのよさや個性などを認め合うように活動を進めるなどの配慮をする

【共通事項】(1)ア，イ

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第 3 ・ 4 学 年	**「知識」**に関する事項 ア　自分の感覚や行為を通して，形や色などの感じが分かること。	**自分の感覚や行為** ・絵の具や板材などの材料や自分たちの作品などを捉えるときの，自分の視覚や触感などの感覚，混ぜたり切ったりするなどの行為や活動のこと。 **形や色などの感じが分かる** ・形の感じ，色の感じ，それらの組合わせによる感じ，色の明るさなどがわかること。 例）→形の柔らかさ，色の暖かさ，色の組み合わせによる優しい感じ，面と面の重なりから生まれる前後の感じ，色の明るさによる感じの違い，質感 **指導に当たって** ・教師が一方的に教えるのではなく，児童が体験的に対象の形や色などの感じが分かるようにする。 ・多様な学習活動を設定し，児童が形や色などの感じに興味や関心をもつようにする ・児童が捉えている形や色などの感じを明確にしながら学習活動を展開する。 ・児童が捉えた形や色などの感じを教師が捉え，児童が表現に生かしたり，発展させたりできるように促す。
	「思考力，判断力，表現力等」に関する事項 イ　形や色などの感じを基に，自分のイメージをもつこと。	**形や色などの感じを基に** ・自分の感覚や行為を通して捉えた，形の感じ，色の感じ，それらの組み合わせによる感じ，色の明るさなどを基にすること。 **自分のイメージをもつ** ・受動的に理解することではなく，自分の感覚や行為とともに，イメージをもつこと。 **イメージ** ＝ 児童が心の中につくりだす像や全体的な感じ，心に思い浮かべる情景や姿など。 ・中学年段階では，様々な手がかりを基にイメージをもつ。イメージと形や色の感じとの関係が低学年よりも具体的になる。 **指導に当たって** ・形や色の感じなどと自分のイメージとの関わりを考えるような手立てが大切。 →材料など量や活動時間を十分に確保する →児童が活動する中で自分のイメージに気付いて，活動の展開を図ることができるようにする ・児童が安心して授業に参加できるように配慮する。 ・豊かなイメージにつながるような体験を設定する。

第３・４学年指導計画の作成

「Ａ表現」

○造形遊びをする活動

・材料や場所が関わり合うことで資質・能力が関連し合いながら育まれていることに配慮する。

・材料の準備については，日頃から集めて保管しておく，自然の材料が揃う時期に材料と場所とを関わらせて活動するなどの工夫をする。

・活動場所を検討し，学習が充実するように配慮する。

・安全に十分配慮し，事前に点検しておく。

○絵や立体，工作に表す活動

・中学年の表し方が多様になる特徴を生かして，柔軟な取扱いを工夫する。

・材料を用いたり用具を使ったりする楽しさを味わうとともに，その経験を深め，発想や構想につながるように配慮する。

・想像することや用具を使うことに没頭するなど，活動そのものに夢中になることも大切にする。

・材料や用具の経験を把握しておく。

・自分の経験を生かすことができる機会を設定する。

「Ｂ表現」

・一人一人が見付けたよさや面白さ根拠に学習を進める。

・「A表現」「B鑑賞」の指導は相互の関連を図る。

（例）→絵の具のにじみの鑑賞からイメージを膨らませる

→彫刻刀の彫り跡を見て，彫り方を工夫する

→枝や木切れなどを鑑賞し，触れたり，香りをかいだりすることにより表したいことを思い付く

→製作途中の作品を見合う時間を設定する

・言語活動を充実する。

・造形遊びをする活動では，活動全体が見えるようにするなど，活動の過程で鑑賞することを意識できるような指導計画を立てる。

・鑑賞する対象の違いに応じて指導計画を作成する。

〔共通事項〕

・「Ａ表現」「Ｂ鑑賞」の指導を，〔共通事項〕の視点で見直し，指導内容や方法，指導上の配慮事項などを検討する。

（例）→材料の形を捉え，いろいろな形をつくる時間を確保することや，様々な材料を試しながら色の変化を味わう活動を取り入れることで，自分の感覚や行為を通して形や色などの感じが分かるようにする

→用具を使いながら表し方をつくりだしたり，手を働かせながら技術的な判断を繰り返したりしている姿に，共感し寄り添うように捉えて指導を工夫する。

→児童の感じたことが自然に言葉に表れたり，それを基に友人と交流できたりするような場や設定をする

・〔共通事項〕のアとイと関わりに気付くようにし，それぞれの事項が発揮されるような指導計画を作成する。

・〔共通事項〕だけを題材にしたり，どの時間でも個別に取り上げて教えたりするなどの硬直的な指導にならないよう，指導内容や方法を工夫して指導計画を具体化する。

【第５学年及び６学年】

１　目　標

(1)　対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに，材料や用具を活用し，表し方などを工夫して，創造的につくったり表したりすることができるようにする。

(2)　造形的なよさや美しさ，表したいこと，表し方などについて考え，創造的に発想や構想をしたり，親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3)　主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み，つくりだす喜びを味わうとともに，形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

２　内　容

「Ａ表現」（１）ア　　造形遊びをする**活動を通して**育成する「思考力，判断力，表現力等」
　　イ　　絵や立体，工作に表す**活動を通して**育成する「思考力，判断力，表現力等」
　（２）ア　　造形遊びをする**活動を通して**育成する「技能」
　　イ　　絵や立体，工作に表す**活動を通して**育成する「技能」
「Ｂ鑑賞」（１）ア　　鑑賞の**活動を通して**育成する「思考力，判断力，表現力等」
〔共通事項〕（１）ア　　「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「知識」
　　イ　　「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「思考力，判断力，表現力等」

◆自然学校に出かけたときなどに，その地域の特色を活かした造形遊びを設定することも考えられる
◆神戸っ子アートフェスティバルなどの児童作品展を鑑賞活動に活用
◆小磯記念美術館等の鑑賞プログラムや教材などを鑑賞活動に活用

○高学年の特徴
・情報を活用して考えたり，直接体験していないことに思い巡らせたりすることができるようになる傾向がある。
・様々な視点から自分の行動や考えを検討したり，友人の立場に立ってその心情に思いを巡らせたりする。
・自分なりに納得のいく活動ができたり，作品を完成させたりしたときなどに充実感を得る傾向が強くなる。
・自分の作品や発言を第三者的に振り返ったり，集団や社会などとの関係で捉えたりする。

【Ａ表現】（１）ア　**造形遊びをする活動**

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第 5 ・ 6 学 年	（１）**発想や構想**に関する事項 ア　造形遊びをする活動を通して，材料や場所，空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや，構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら，どのように活動するかについて考えること。	**材料や場所，空間などの特徴** ・具体的な特徴を捉えること。 空間　＝自分自身を取り囲む場所，三次元的な奥への広がりなど 特徴　＝　形，色，質感，材料の性質，光や風などの自然環境，人の動きなど，場所や空間の様子を含む **造形的な活動を思い付く** ・児童が材料や場所，空間などに働きかけて捉えた特徴，自分のイメージなどを基に造形的な活動を発想すること。 ・児童が自分が発想したことを視覚的な美しさから確かめたり，そこから新しい表現の可能性を見付けたりするなど，発想と構想が連続するようにつくること。 **指導に当たって** ・発想の手立てを工夫し，児童が，材料や場所，空間などの特徴を十分に関連させながら，造形的な活動を思い付くようにする。 (例)→自分なりに視点を決めて材料を集めたり場所を探したりする →見る人がどのように感じるかなどに思いを巡らせる →時間による場所や空間の変化にも意識を向けるようにする ・これまでの造形遊びの経験を生かし，発想や構想ができるようにする。 ・活動の前後を比較したり，活動を通して自分にとってどのような意味や価値がつくりだされたりしたのかを振り返るようにして，自分たちが造形的に手掛けることで，見慣れた場所や空間を新しい場所や空間に変えることの面白さを感じるようにする。 **構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら，どのように活動するかについて考える** ・形や色などの効果や場所の様子の変化や動きなどを考え材料の配置や場所の雰囲気などを検討したり，造形活動の過程で周りの様子との調和を考えたりする視点をもち，自分のイメージを実現しようと考えること。 **指導に当たって** ・時間や環境の変化も含めて考えるようにする。 ・手掛けたことによって生まれてくる材料と場所，空間などの関係を捉え，その実感を基に更に活動を発展させていくようにする。 ・児童自身が材料の経験を生かし，場所や空間の特徴との関わりの中で活動を思い描くような設定を考える。

【Ａ表現】（１）イ　**絵や立体，工作に表す活動**

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第５・６学年	（１）**発想や構想**に関する事項 イ　絵や立体，工作に表す活動を通して，感じたこと，想像したこと，見たこと，伝え合いたいことから，表したいことを見付けることや，形や色，材料の特徴，構成の美しさなどの感じ，用途などを考えながら，どのように主題を表すかについて考えること。	**感じたこと，想像したこと，見たこと，伝え合いたいこと** ・表したいことの基になる自分のイメージ。 感じたこと，想像した事＝　児童自身が思ったこと 見たこと＝　児童が見たり触れたりして捉えたこと 伝え合いたいこと＝　自分の思いを伝えるもの，身の回りを楽しくするもの **指導に当たって** ・感じたこと，想像したこと，見たこと，伝え合いたいことは，互いにつながりのあるものとして捉え，指導に生かす。 ・主題の発想については児童自身が行うことを大切にするとともに，児童が自分の考えや活動を問い続けていくような指導の工夫をする。 ・児童が表したいことを見付けることに自信をもつような様々な方法やきっかけを考え，設定する。 例）→材料に触れる，友人と交流する，言葉で考えを整理する，用具を使ってみる **形や色，材料の特徴，構成の美しさなどの感じ，用途などを考え** 形や色，材料の特徴＝　形がつくりだす動き，色の調子の多彩さ，材料の質感による効果，それらが組み合わさって生まれる変化など 構成の美しさなどの感じ＝　形や色が互いに響き合う配置，奥行きの感じ，色の組合せによる強さなど **どのように主題を表すかについて考える** ・自分の考えや活動を問い直しながら主題の表し方や計画を考えること。 （例）→奥行きを表すためにものを重ねる →大切なものを強調するために色を変える →試作して丈夫な組立て方や構造を確かめるなど **指導に当たって** ・児童が思い付いたことを進んで取り入れられるような柔軟な指導をし，児童一人一人がこれまでの経験を十分に生かすことができるようにする。 （例）→立体の表面で模様や色の組み合わせを考える →動きや仕掛けの面白さを絵に組み入れる ・児童の様子に目を向け，声に耳を澄ませ，深く考えこんでいるのか，行き詰っているのかを捉える。 ・偶然の結果や，失敗と感じたことを，別の視点から捉え直すことで新しい発想や構想が生まれることを大切にして指導を工夫する。

【A表現】（2）ア　造形遊びをする活動

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第5・6学年	（2）**技能**に関する事項 ア　造形遊びをする活動を通して，活動に応じて材料や用具を活用するとともに，前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり，方法などを組み合わせたりするなどして，活動を工夫してつくること。	**活動に応じて材料や用具を活用する** ・児童が自ら，材料や場所，空間などの特徴から思い付いた造形的な活動に応じて適切な材料や用具を選び，使い方を工夫してつくること。 材料や用具＝　前学年までに経験した材料や用具，針金，糸のこぎりなど **指導に当たって** ・材料の特徴を十分に感じ取ることができるようにし，活動に応じて必要になった新たな材料も生かし，それに合わせて用具を使うようにする。 ・児童が興味や関心をもつ地域の材料を取り上げ,その材料や用具が，どのように学習に用いられるに至ったのかを児童自身も理解し，愛着をもって扱うことができるようにする。 **前学年までの材料や用具についての経験や技能** ・手応えのある活動を好む高学年の特徴に応じて，これまでに経験してきた材料や用具に加えて，同じ材料であっても質や量を変えるようにする。 （例）→厚みのある板材，大きな布，透明なシート，様々な大きさの段ボール **方法などを組み合わせたりするなどして，活動を工夫してつくる** ・活動に応じて材料や用具を活用するとともに，活動を工夫してつくること。 **指導に当たって** ・児童が手ごたえや新鮮な喜びを感じられるような材料や場所，空間などとの出会いを設定し，前学年までの材料や用具についての経験や技能を生かそうとするようにし，児童のつくりたいという主体的な気持ちを大切にして，進んで材料の特徴を生かしたり，用具の扱いを工夫し自分らしい方法を身に付けたりするようにする。 （例）→グループで相談して材料や用具を集めたり，自分たちで場所や空間を検討したりするようにする →実際に試してみる時間や場の設定，思いに合わせて用具を選べるような場所の設置なども考える ・状況に応じて技能を発揮するようにするが，児童だけでは実現できないようなときには，教師が違う方法を提案することも必要。 ・自分たちの活動を振り返り，それを自覚し，他でも生かすようにする。

【A表現】（2）イ　絵や立体，工作に表す活動

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第5・6学年	（2）**技能**に関する事項 イ　絵や立体，工作に表す活動を通して，表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに，前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり，表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして，表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。	**表現方法に応じて材料や用具を活用する** ・児童が表現方法に合うように適切な材料や用具を選び，効果や可能性を確かめ，これを生かして使うこと。 材料や用具＝　針金，糸のこぎり （例）→糸のこぎりで曲線や直線のある板材をつくり，表したいことに生かす →材質感に着目して材料を集めたり，使う効果を予想して用具を選んだりする **指導に当たって** ・表現方法と材料や用具の特徴を児童自身が照らし合わせて用いるようにする。 （例）→表現方法に応じた紙を選ぶ →材料に合った接着剤を使う ・児童が関心を持つ地域の材料や用具を取り上げ，その材料や用具が，どのように学習に用いられるに至ったのかを児童自身も理解し，愛着をもって扱うことができるようにする。 ・材料や用具自体の良さについて理解し，活用するようにする。 **前学年までの材料や用具などについての経験や技能** ・高学年の実態に応じて，前学年までの材料の質や量を変える。 **表現に適した方法などを組み合わせ** ・児童が表したいことを表すために表現方法や材料，用具などを選んだり，これを組み合わせたりして表すこと。 （例）→版で表した画面にパスで色を加える →絵の具や墨，カラーペンなど多様な画材から選んで着色する →ストローや割りばし，針金や紙など様々な材料を使って表す **指導に当たって** ・表現の方法は様々にあり，表現に適した方法を選ぶことや，どのように組み合わせていけば表現上の効果が得られるかを試していくことなどの大切さを伝える。 ・児童自身が材料や用具を活用しながらその効果や可能性に気付くようにする。 ・これまでに経験した材料や用具をすぐ手にとれるような環境を整えたり，試しながら新しい方法を見付けられるようにしたりする。 ・友人の表現方法や材料の使い方が自然に取り入れられるような学習環境を設定する。

【B鑑賞】（1）ア

	指導内容	内容の取扱い
第5・6学年	(1) **鑑賞**に関する事項 ア　親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して，自分たちの作品，我が国や諸外国の親しみのある美術作品，生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ，表現の意図や特徴，表し方の変化などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を深めること。	**親しみのある美術作品など** ・自分たちの作品，我が国や諸外国の親しみのある美術作品，生活の中の造形など。 **生活の中の造形** （例）→食器，家具，衣服，用具，パッケージ，ポスター，伝統的な工芸品，建物など，生活の中にある様々な造形 →生活の中の造形がつくりだされる過程や生活の中に見られる様々な美術の働き **造形的なよさや美しさ** ・対象がもつ形や色などのよさや美しさのことで，多くの人が共有している美しさの感覚やそれにまつわるエピソードなどを含む。 **自分の見方や感じ方を深める** ・自分なりの見方や感じ方を基にしながら，新たに見たり触ったりした作品や材料などとの出会いの中でそれらを深めること。 **指導に当たって** ・鑑賞する対象や方法を幅広く捉え，児童が興味や関心の対象を広げる中で自分らしい見方や感じ方をすることに配慮する。 （例）→児童自ら鑑賞の対象を選ぶ →児童が興味や関心をもてる写真やアニメーションなどを活用する ・よさや美しさ，表現の意図などを自ら感じ取り味わうようにする。 （例）→自分たちの作品を展示する →工作の作品などを実際に使って確かめる ・対象と一体となって鑑賞する姿勢を大切にし，これを生かしながら高学年らしい具体的な気付きにつなげる。 ・言語活動を充実する。 →作品の背景や作者などについて一方的に情報を与えるのではなく，鑑賞活動の充実のための材料として活用する →友人の感じ方に共感するだけでなく，それを基に自分の考え方を確かにするように指導する →他者との交流を重視した活動をとり入れる

【共通事項】(1)ア，イ

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第5・6学年	**「知識」**に関する事項 ア　自分の感覚や行為を通して，形や色などの造形的な特徴を理解すること。	**自分の感覚や行為** ・見たことから連想される音や匂い,手や体全体の感覚,行為や活動のこと。社会や文化に影響を受けた感覚や造形的な見方も含む。 **形や色などの造形的な特徴を理解する** ・動き，奥行き，バランス，色の鮮やかさなどを理解すること。 **指導に当たって** ・体験的に対象の形や色などの造形的な特徴を理解できるように，多様な学習活動を設定する。 （例）→造形的な特徴を捉えやすいような場所で活動する →材料を比べられるようにする ・児童の造形的な視点を生かす行為をより具体的にする。 （例）→作品などを見て，様々な造形的な特徴を理解し，友人と話し合うことで，更に理解が深まるようにする ・児童の思いや気付きの関連に目を向けた指導をする。 （例）→造形遊びをする活動において，奥行きについて理解したことが，絵に表す活動において，奥行きに着目して表したいという思いにつながる
	「思考力，判断力，表現力等」に関する事項 イ　形や色などの造形的な特徴を基に，自分のイメージをもつこと。	**形や色などの造形的な特徴を基に** ・捉えた動き，奥行き，バランス，色の鮮やかさなどの造形的な特徴を基にすること。 **自分のイメージをもつ** ・受動的に理解することではなく，自分の感覚や行為とともに，イメージをもつこと **イメージ** ＝ 児童が心の中につくりだす像や全体的な感じ，心に思い浮かべる情景や姿など。高学年段階では，外観から立体の構造や空間を把握したり，心に描いた情景や像などから形や色をイメージしたりするなど，中学年よりも具体的な特徴に即してイメージをもつ。 **指導に当たって** ・心に浮かんだイメージを具体化するような手立てを大切にする。 （例）　→簡単な絵でかきとめたり，話したりする →造形的な特徴から説明したり，友人と話し合う際の根拠として用いたりする ・〔共通事項〕の視点で指導を具体化する。 （例）→児童がどのようなイメージを友人と共有しているのか，児童のつまずきの原因は何かなどを把握する視点として活用 ・豊かなイメージにつながるような体験を設定する

第５・６学年指導計画の作成

「Ａ表現」

○造形遊びをする活動

・社会的な事物や事象，先人の実践なども学習の材料として活用できるようになることを生かし，材料や用具の幅を広げる。

・次第に高学年らしいよさが出せる時間や場を確保する。

・児童が材料や場所，空間のどの部分に着目して活動をつくっていこうとしているのかを把握して，指導に生かす。

○絵や立体，工作に表す活動

・材料や用具を使うことから発想や構想を広げるなどの指導を工夫する。

・自分なりの見通しをもつことで表現の質を高めることができるようになるので，構想をより具体的にする手立てを，児童の実態に応じて柔軟に考える。

・手掛けながら考えることを大切にし，児童一人一人の個性に応じて構想できるようにする。

・材料や用具の経験を把握しておく。

・自分の経験を生かすことができる機会を設定する。

・個性の違いが目立つようになり表したいことの違いも顕著にあらわれてくる，この時期の児童の特徴を踏まえて指導計画を作成する。

「Ｂ表現」

・高学年らしい具体的な気付きを明確にする。

・「Ａ表現」「Ｂ鑑賞」の指導は相互の関連を図るようにする。

（例）→材料や表現方法などの視点をもって活動や作品を見ることで，新しい気付きを得るようにする

→鑑賞することで新たな活動を思い付く

・自分たちの作品や美術作品などの特質を踏まえ，鑑賞する対象の違いに応じて指導計画を作成する。

・作品や美術館などの活用だけを目的とするのではなく，鑑賞を通して児童の見方や感じ方，考え方などが深まるようにする。

・我が国の伝統や文化について取り扱う場合は，自分たちのよさを再発見するような視点で行い，これを大切にしたり，芸術や自然の美しさを味わったりしていこうとする態度の素地となるようにする。

〔共通事項〕

・「Ａ表現」「Ｂ鑑賞」の指導を，〔共通事項〕の視点で見直し，指導内容や方法，指導上の配慮事項などを検討する。

（例）→用具を工夫することで，造形的な特徴を理解し，表現に生かす

→イメージに合わせて表現する中で，造形的な特徴を理解する

→自己評価を〔共通事項〕の視点で見直し，具体的にする

→言葉で整理する活動を取り入れ，児童が捉えた形や色，心に思い浮かべたイメージなどを具体的にする

・〔共通事項〕のアとイと関わりに気付くようにし，それぞれの事項が発揮されるような指導計画を作成する。

・〔共通事項〕だけを題材にしたり，どの時間でも個別に取り上げて教えたりするなどの硬直的な指導にならないよう，指導内容や方法を工夫して指導計画を具体化する。

第３ 指導計画の作成と内容の取扱い

１　指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1)　題材など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，造形的な見方・考え方を働かせ，表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。

(2)　第２の各学年の内容の「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導については相互の関連を図るようにすること。ただし，「Ｂ鑑賞」の指導については，指導の効果を高めるため必要がある場合には，児童や学校の実態に応じて，独立して行うようにすること。

(3)　第２の各学年の内容の〔共通事項〕は，表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質能力であり，「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導と併せて，十分な指導が行われるよう工夫すること。

(4)　第２の各学年の内容の「Ａ表現」については，造形遊びをする活動では，(1) のア及び (2) のアを，絵や立体，工作に表す活動では，(1) のイ及び (2) のイを関連付けて指導すること。その際，(1) のイ及び (2) のイの指導に配当する授業時数については，工作に表すことの内容に配当する授業時数が，絵や立体に表すことの内容に配当する授業時数とおよそ等しくなるように計画すること。

(5)　第２の各学年の内容の「Ａ表現」の指導については，適宜共同してつくりだす活動を取り上げるようにすること。

(6)　第２の各学年の内容の「Ｂ鑑賞」においては，自分たちの作品や美術作品などの特質を踏まえて指導すること。

(7)　低学年においては，第１章総則の第２の４の(1) を踏まえ，他教科等との関連を積極的に図り，指導の効果を高めるようにするとともに，幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に，小学校入学当初においては，生活科を中心とした合科的・関連的な指導や，弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

(8)　障害のある児童などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うこと。

(9)　第１章総則の第１の２の (2) に示す道徳教育の目標に基づき，道徳科などとの関連を考慮しながら，第３章特別の教科道徳の第２に示す内容について，図画工作科の特質に応じて適切な指導をすること。

２　第２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

(1)　児童が個性を生かして活動することができるようにするため，学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにすること。

(2)　各学年の「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導を通して，児童が〔共通事項〕のアとイとの関わりに気付くようにすること。

(3)　〔共通事項〕のアの指導に当たっては，次の事項に配慮し，必要に応じて，その後の学年で繰り返し取り上げること。

ア　第１学年及び第２学年においては，いろいろな形や色，触った感じなどを捉えること。

イ　第３学年及び第４学年においては，形の感じ，色の感じ，それらの組合せによる感じ，色の明るさなどを捉えること。

ウ　第５学年及び第６学年においては，動き，奥行き，バランス，色の鮮やかさなどを捉えること。

(4)　各学年の「Ａ表現」の指導に当たっては，活動の全過程を通して児童が実現したい思いを大切にしながら活動できるようにし，自分のよさや可能性を見いだし，楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うように

すること。

(5)　各活動において，互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにすること。

(6)　材料や用具については，次のとおり取り扱うこととし，必要に応じて，当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり，その後の学年で繰り返し取り上げたりすること。

ア　第１学年及び第２学年においては，土，粘土，木，紙，クレヨン，パス，はさみ，のり，簡単な小刀類など身近で扱いやすいものを用いること。

イ　第３学年及び第４学年においては，木切れ，板材，釘，水彩絵の具，小刀，使いやすいのこぎり金づちなどを用いること。

ウ　第５学年及び第６学年においては，針金，糸のこぎりなどを用いること。

(7)　各学年の「Ａ表現」の（1）のイ及び（2）のイについては，児童や学校の実態に応じて，児童が工夫して楽しめる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにすること。

(8)　各学年の「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては，児童や学校の実態に応じて，地域の美術館などを利用したり，連携を図ったりすること。

(9)　各学年の「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては，思考力，判断力，表現力等を育成する観点から，〔共通事項〕に示す事項を視点として，感じたことや思ったこと，考えたこと などを，話したり聞いたり話し合ったりする，言葉で整理するなどの言語活動を充実すること。

(10)コンピュータ，カメラなどの情報機器を利用することについては，表現や鑑賞の活動で使う用具の一つとして扱うとともに，必要性を十分に検討して利用すること。

(11)創造することの価値に気付き，自分たちの作品や美術作品などに表れている創造性を大切にする態度を養うようにすること。また，こうした態度を養うことが，美術文化の継承，発展， 創造を支えていることについて理解する素地となるよう配慮すること。

３　造形活動で使用する材料や用具，活動場所については，安全な扱い方について指導する，事前に点検するなどして，事故防止に留意するものとする。

４　校内の適切な場所に作品を展示するなどし，平素の学校生活においてそれを鑑賞できるよう配慮するものとする。また，学校や地域の実態に応じて，校外に児童の作品を展示する機会を設けるなどするものとする。

第8節　家　　庭

第１　目　　標

(小学校)

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して，生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　家族や家庭，衣食住，消費や環境などについて，日常生活に必要な基礎的　な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)

(2)　日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し，様々な解決方法を考え，　実践を評価・改善し，考えたことを表現するなど，課題を解決する力を養う。(思考力，判断力，表現力等)

(3)　家庭生活を大切にする心情を育み，家族や地域の人々との関わりを考え，　家族の一員として，生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。(学びに向かう力，人間性等)

※「生活の営みに係る見方・考え方」とは，家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，　よりよい生活を営むために工夫すること。

(中学校　技術・家庭科　家庭分野)

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して，よりよい生活の実現に向けて，生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　家族・家庭の機能について理解を深め，家族・家庭，衣食住，消費や環境などについて，生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)

(2)　家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなど，これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。(思考力，判断力，表現力等)

(3)　自分と家族，家庭生活と地域との関わりを考え，家族や地域の人々と協働し，よりよい生活の実現に向けて，生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。(学びに向かう力，人間性等)

	小　学　校						中　学　校		
標準授業時数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
					60	55	35	35	17.5

第２　各内容の目標及び内容

★：他教科等とのつながり　　◎：他学年とのつながり　　▲：他校種とのつながり
◆：参考事項（神戸の特色等）　　※：特に配慮を要する事項，

【A　家族・家庭生活】

第5・6学年	【ねらい】 ・　課題をもって，家族や地域の人々と協力し，よりよい家庭生活に向けて考え，工夫する活動を通して，自分の成長を自覚し，衣食住などを中心とした生活の営みの大切さに気付く。 ・　家族・家庭生活に関する知識及び技能を身に付け，日常生活の課題を解決する力を養い，家庭生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成する。

	指導内容	内容の取扱い
第5・6学年	(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長を自覚し，家庭生活と家族の大切さや家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くこと。	※Aの内容については，家族構成や家庭生活の状況が異なることから，これまで以上に各家庭や 児童のプライバシーを尊重し，配慮する。 ★◎生活科・総合的な学習の時間との関連， 道徳B（8）感謝 ・第5学年の最初に履修させ，第4学年までの学習を踏まえ，2学年間の学習の見通しをもつためのガイダンスとして取り扱い，家庭科の目標に挙げた生活の営みに係る見方・考え方の視点から家庭生活を見直すことができるようにする。
	・ガイダンスの学習	◎AからCまでの各内容の学習と関連を図り，日常生活における様々な問題について，家族や地域の人々との協力，健康・快適・安全，持続可能な社会の構築等を視点として考え，解決に向けて工夫することが大切であることに気付かせる。 ・自分の成長は家族の理解や愛情に支えられていることに気付くことができるようにする。 ・2学年間で学習する内容に触れ，見通しをもたせるとともに，家庭科の目標に挙げた生活の営みに係る見方・考え方に触れるようにする。
	・自分の成長を自覚する	・自分の生活を振り返ることで，自分の成長は衣食住などの生活に支えられているとともに，その生活が家族に支えられてきたことに気付くことができるようにする。 ・家族の一員として自分が成長していることに気付き，学習を通してできるようになった自分に喜びを感じることから，学習に取り組む意欲を高めさせる。
	・家庭生活と家族の大切さ	・衣食住，消費や環境に係る生活を営む場である家庭生活は，自分の成長を支え，家族の健康，快適で安全な生活を支えるために重要であることに気付くことができるようにする。 ・家庭生活は家族によって成り立っており，自分も家族を構成している大切な一人であることが分かり，家族の大切さに気付くことができるようにする。
	・家庭生活が家族の協力によって営まれていること	・健康，快適で安全な家庭生活は，家庭の仕事を協力して行うなど，家族の協力によって営まれていることに気付くことができるようにする。 ・日常生活の中から見いだした様々な問題について，健康・快適・安全，持続可能な社会の構築等を視点として解決に向けて工夫をすることが大切であることにも気付くようにする。
	(2) 家庭生活と仕事 ア 家庭には，家庭生活を支える仕事があり，互いに協力し分担する必要があることや生活時間の有効な使い方について理解すること。	キャリア 家庭生活と仕事について，課題をもって，家庭の仕事と生活時間に関する基礎的･基本的な知識を身に付け，家族の一員として生活時間の使い方を考え，家庭の仕事の計画を工夫することができるようにする。
	・家庭を支える仕事	・着たり食べたり住まうことに関わる仕事家族に関する仕事等があり，家庭での生活は，それらの仕事の積み重ねによって，健康，快適で安全に営むことができることに気付くようにする。
	・互いに協力し分担する必要がある	・家族が互いの生活時間を工夫し，共に過ごしたり，仕事を分担したりするな

	こと	ど，協力し合って生活する必要があることについて理解できるようにする。 ・協力することによって家族との触れ合いが充実し，家族への思いが深まることにも気付くようにする。 ・家族の間で仕事の分担を工夫して実行することや，進んで家庭の仕事に関わっていくことが必要であることについて理解できるようにする。
	・生活時間の有効な使い方	・生活時間が生活の中で行われている様々な活動に使われている時間であり，個人が自由に使う時間，食事や団らんなど家族と共に過ごす時間，家庭の仕事など家族と協力する時間等があることを理解できるようにする。 ・生活時間の有効な使い方とは，時間に区切りを付けたり，計画的に使ったりするなど，時間を工夫して使うことであることを理解できるようにする。 ・家族の生活時間を考えながら，自分の生活時間の使い方を工夫することによって，家庭生活が円滑に営まれることに気付くことができるようにする。 ◎保健　３・４年生「健康な生活」との関連 ★道徳　５・６年　A　（３）節度，節制
	イ　家庭の仕事の計画を考え，工夫すること。 ・家庭の仕事	※内容の「B 衣食住の生活」と関連を図り，衣食住に関わる仕事を具体的に実践できるよう配慮すること。 ◎生活科との関連 ・児童の身近な生活の中から問題を見いだし，課題を設定するようにする。 ・課題を解決するための方法については，家庭の仕事の内容や手順を調べたり，家族に教えてもらったり，これまでの方法を振り返って発表し合ったりする活動などを通して，より効果的な家庭の仕事の仕方について検討できるようにする。 ・既習事項や自分の生活経験と関連付けて考え，適切な解決方法を選び，実践に向けて具体的に計画を考えることができるようにする。 ・実践の振り返りについては，計画どおりにできたこと，できなかったことなどを評価し，実践発表会などを通して，計画の改善点を提案したり，次の実践につなげたりすることができるようにする。
第５・６学年	(3)　家族や地域の人々とのかかわり ア(ｱ)　家族との触れ合いや団らんの大切さについて理解すること。 ・家族との触れ合いや団らんの大切さ	・日常生活の中で，家族に気持ちを伝えたり触れ合う場をもったりすることによって，家族相互のつながりが深まることが分かり，触れ合いや団らんの大切さについて理解できるようにする。 ・食事や家庭の仕事などを共にしたり，あいさつや会話を通してコミュニケーションを図ったりするなどの家族との触れ合いや，家族などと和やかな時を過ごす団らんは，毎日の生活の中で何気なく行っているが，家族とのつながりを深める重要な生活行為であることを理解できるようにする。 ・家族とのつながりを深めるためには，普段何気なく過ごしている触れ合いや団らんの時間を楽しくする工夫をすることが大切であることに気付くようにする。 ・自分の思いがうまく伝わらなかったり，自分の考えを分かってもらえなかったりした時，自分の思いの表し方を工夫したり，相手の立場を理解したりすることが必要であることにも気付くようにする。

		※手紙やメッセージカードを用いた指導の際は，家庭の状況に十分配慮する。 ★道徳　５・６年　C（15）家族愛，家庭生活の充実
	ア(イ) 家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり，地域の人々との協力が大切であることを理解すること。	・家庭生活が地域の人々と関わりをもちながら成り立っていることが分かり，幼児や高齢者など異なる世代の人々との関わりや地域の人々との協力が大切であることを理解できるようにする。 ・家庭生活が，家族の協力だけではなく，地域の人々との関わりで成り立っていることや関わりの大切さが分かるようにする。
	・家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていること	・地域では幼児や高齢者など，様々な人々が生活しており，自分の生活にも関わりがあること，地域の人々との日常の関わりが，つながりや交流を深める上で大切であることが分かり，共に生活している地域の人々への思いやりの気持ちをもてるようにする。
	・地域の人々との協力の大切さ	・快適で安全に生活するためには，地域の人々との関わりが必要であること，幼児や高齢者など，様々な人々と共に協力し助け合って生活することが大切であることについて理解できるようにする。 ・自分の生活が，多くの人々と関わって成り立っていることから，自分勝手では成り立たないことに気付くようにする。
第５・６学年	イ　家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え，工夫すること。	・家族との触れ合いや団らん，地域の人々との関わりについての課題を解決するために，アで身に付けた基礎的・基本的な知識を活用し，家族や地域の人々との協力などの視点から，よりよい関わりについて考え，工夫することができるようにする。
	・家族とのよりよい関わり	・家族との触れ合いや団らんについて問題を見いだし，課題を設定するようにする。 ・課題を解決するための方法については，家族の生活時間を見直し，触れ合いや団らんの時間や場を生み出し楽しくする方法などについて検討できるようにする。
	・地域の人々とのよりよい関わり	福祉　児童の身近な生活の中から，地域で共に生活している幼児や高齢者など，異なる世代の人々との関わりについて問題を見いだし，課題を設定するようにする。 ・課題を解決するための方法については，地域の人々との関係をよりよいものにするために，自分が協力できることなどについて検討できるようにする。 ・解決方法については，既習事項や自分の生活経験と関連付けて考え，適切な解決方法を選び，実践に向けて具体的に計画を立てることができるようにする。 ★総合的な学習の時間や特別活動など他教科等における交流活動等の学習と関連させて，幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々と関わることができるよう配慮する。 ★道徳　５・６年　B（7）親切，思いやり（8）感謝 ◆★◎　社会　「わたしたちの神戸」
	(4)　家族・家庭生活についての課題と実践	※２学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させる。 ・(2)又は(3)の学習を基礎とし，「B 衣食住の生活」，「C 消費生活・環境」で学

<table>
<tr><td>第5・6学年</td><td>ア 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し，よりよい生活を考え，計画を立てて実践できること。

・日常生活の中から問題を見いだして課題を設定する

・よりよい生活を考え，計画を立てて実践できること</td><td>習した内容との関連を図り，日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し，様々な解決方法を考え，計画を立てて実践した結果を評価・改善し，考えたことを表現するなどの学習を通して，課題を解決する力と生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。
・(2)「家庭生活と仕事」又は(3)「家族や地域の人々との関わり」の指導事項ア及びイで身に付けた知識や生活経験などを基に生活を見つめることを通して，問題を見いだし，児童の興味・関心等に応じて「B 衣食住の生活」や「C 消費生活・環境」で学習した内容と関連させて，課題を設定できるようにする。
・これまでの学習の中で疑問に思ったことや更に探究したいこと，自分にできることなどを考え，生活の課題として設定できるようにする。
・課題の解決に向けて，設定した課題に関わり，これまでの学習で身に付けた知識及び技能などを活用して，計画を立てて，家族や地域の人々と関わりながら実践できるようにする。
・どのような生活をしたいか，自分だけでなく家族や地域の人々にとってよりよい生活とはどのようなものなのかを考えさせる。
・実践後は，課題解決に向けた一連の活動を振り返って評価し，更によりよい生活にするための新たな課題を見付け，家庭や地域での次の実践につなげることができるようにする。</td></tr>
<tr><td>中学校
全学年</td><td colspan="2">(1)　自分の成長と家族・家庭生活
ア　自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり，家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに，家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くこと。
(2)　幼児の生活と家族
ア　次のような知識を身に付けること。
(ｱ)　幼児の発達と生活の特徴が分かり，子供が育つ環境としての家族の役割について理解すること。
(ｲ)　幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること。
イ　幼児とのよりよい関わり方について考え，工夫すること。
(3)　家族・家庭や地域との関わり
ア　次のような知識を身に付けること。
(ｱ)　家族の互いの立場や役割が分かり，協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解すること。
(ｲ)　家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり，高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解すること。
イ　家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり，協働する方法について考え，工夫すること。
(4)　家族･家庭生活についての課題と実践
ア　家族，幼児の生活又は地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し，その解決に向けてよりよい生活を考え，計画を立てて実践できること。</td></tr>
</table>

【B衣食住の生活】

第5・6学年	【ねらい】 ・課題をもって，健康・快適・安全で豊かな食生活，衣生活，住生活に向けて考え，工夫する活動を通して，食生活，衣生活，住生活に関する知識及び技能を身に付ける。 ・それらの課題を解決する力を養い，衣食住の生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成する。 ※日本の伝統的な生活についても扱い，生活文化に気付くことができるよう配慮すること。	
	指導内容	内容の取扱い
	食生活	・課題をもって，健康・安全で豊かな食生活に向けて考え，工夫する活動を通して，食事の役割，調理の基礎，栄養を考えた食事に関する知識及び技能を身に付け，食生活の課題を解決する力を養い，食生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成する。
	(1) 食事の役割 ア　食事の役割を知り，日常の食事の大切さと食事の仕方について理解すること。	・課題をもって，日常の食事の大切さについて理解し，食事の役割や食事の仕方に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，楽しく食べるために日常の食事の仕方を工夫することができるようにする。
	・食事の役割	・食事は，健康を保ち，体の成長や活動のもとになることや，一緒に食事をすることで，人と楽しく関わったり，和やかな気持ちになったりすることなどについて理解する。 ・規則正しい食事が生活のリズムをつくることや，朝食をとることによって学習や活動のための体の準備ができることなどについても触れる。
	・日常の食事の大切さと食事の仕方	・食事の役割を知ることで，日常の食事が大切であることについて理解できるようにする。 ・はしの持ち方や食器の扱い方，食べるときの姿勢などに気を付けることや，人と共に食べるときには，食べる速さに配慮し，食事にふさわしい会話を考えるなど楽しく食事するために必要なマナーについて理解できるようにする。
	イ　楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え，工夫すること。	・日常の食事の仕方についての課題を解決するために，アで身に付けた基礎的・基本的な知識を活用し，楽しく食べるために，健康などの視点から食事の仕方を考え，工夫することができるようにする。
	・食事の仕方	・児童の日常の生活の中から，人と共に楽しく食べるためのマナーや食卓の工夫について問題を見いだし，課題を設定するようにする。課題を解決するための方法については，調理実習の試食や学校給食を振り返って食事の仕方について話し合ったり，家族との食事や団らんの実践についての意見交換をしたりすることなどを通して，楽しく食べるための工夫について検討できるようにする。 ・既習事項や自分の生活経験と関連付けて考え，適切な解決方法を選び，実践に向けて具体的に計画を立てることができるようにする。
	(2) 調理の基礎	・ゆでたり，いためたりする調理や米飯及びみそ汁の調理について，課題をもって，調理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，おいしく食べるために調理計画を考え，調理の仕方を工夫することができるようにする。 ※◎2学年間にわたって取り扱い，平易なものから段階的に学習できるよう計画

		する。
	ア(ｱ) 調理に必要な材料の分量や手順が分かり，調理計画について理解すること。	・調理に必要な材料の分量や手順が分かり，手際よく調理を進めるための調理計画について理解できるようにする。
	・調理に必要な材料の分量や手順	・材料は，調理の目的に応じて食品の組合せや食べる人の好みを考えて選択し，必要な分量は，一人分の量から考えておよその量が分かるようにする。 ・食品をおいしく調理するためには材料や調味料を正しく計量して用いるようにする。そのため，材料に応じた方法で計量できるよう，計量スプーン，計量カップ，はかりなど計量器具の使い方を理解できるようにする。 ・手順については，複数の料理を作るときには，でき上がりの時間を考えて，何をどのような手順で調理するかを考えたり，身支度などの準備，食卓の用意，後片付けの時期なども考えたりする必要があることを理解できるようにする。
	・調理計画	・手際よく調理を進めるために，調理するものによって必要な材料や調理器具，調理の手順を考え，準備から後片付けまでを見通して時間配分をすることなどが必要であることを理解できるようにする。 ・作業の流れやグループでの協力の仕方などについて計画を立て，それに基づいて調理することにより，効率よく作業ができることを理解できるようにする
第5・6学年	ア(ｲ) 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及び加熱用調理器具の安全な取扱いについて理解し，適切に使用できること。	・調理に必要な用具や食器を取り上げ，安全で衛生的な取扱いについて理解して適切に使用できるようにするとともに，加熱用調理器具の安全な取扱いについて理解し，適切に使用できるようにする。
	・調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い	・包丁の安全な取扱いと食器やまな板，ふきんの衛生的な取扱いについて理解し，適切に使用できるようにする。
	・加熱用調理器具の安全な取扱い	防災 実習で使用する加熱用調理器具の特徴が分かり，火傷の防止などに留意して，安全な取扱いができるようにする。 防災 加熱の仕方と関連させた火力について理解し，火力の調節ができるようにする。 防災 非常時に備えて，簡易コンロなどの安全な取扱いができるようにする。 防災 非常時に備えて，非常食，備蓄食品などの特徴を知るとともに，熱源，水などの使用が制限された場合について考えさせることもできる。
	ア(ｳ) 材料に応じた洗い方，調理に適した切り方，味の付け方，盛り付け，配膳及び後片付けを理解し，適切にできること。	※調理に用いる食品には，生の魚や肉を扱わないなど，安全・衛生に留意する。 ※食物アレルギーに配慮する。 ・材料に応じた洗い方，調理や食べやすさに配慮した切り方，適度な味の付け方，おいしく見える盛り付け，適切な配膳及び後片付けを理解し，適切にできるようにする。
	・材料に応じた洗い方	・食品の種類や調理の目的に応じた洗い方について理解し，適切にできるようにする。 ・ほうれん草等の青菜は根や柄の付け根，葉のひだの部分に泥が付いている場合が多いことが分かり，水中で振り洗いをした後，流水で洗うことができるようにする。

		・生で食べるものは，衛生に留意して流水でよく洗うことができるようにする。
	・調理に適した切り方	・包丁を使って切ったり，皮をむいたりすることができるようにする。
		・形や大きさを整えることにより，熱の通りをよくしたり味をしみ込みやすくしたり食べやすくしたりするなど，目的に合わせた切り方について理解し，適切に切ることができるようにする。
		・初めのうちは，児童が扱いやすい野菜などを用いて，包丁の使い方に慣れさせるようにする。
	・味の付け方	・食塩，しょうゆなどの塩味による味付けを中心として扱い，同じような料理でも味の付け方によって，味わいが違い，おいしく食べられることを理解できるようにする
		・食塩は，わずかな量の違いで味の濃さが異なることから，味見をするなどして，味を整えることができるようにする
	・盛り付け	・どんな食器にどのように盛り付けるか，一人分ずつ盛り付けるか一皿にまとめて盛り付けるかなど，相手や目的に応じて工夫するとよいことを理解し，料理の分量や色どり，食べやすさを考えて，盛り付けることができるようにする
		・盛り付けによって，同じ料理でも食欲を喚起し，食事を楽しくするための雰囲気作りに役立つことに気付くようにする。
第5・6学年	・配膳	・米飯及びみそ汁，はしなどを配膳する際には，我が国の伝統的な配膳の仕方があることが分かり，適切に配膳できるようにする。
	・後片付け	・計画的に行うことの必要性が分かり，衛生的で環境に配慮した後片付けについて理解し，適切にできるようにする。
		・仕事の能率だけでなく，次に使用する場合を考えて扱ったり，保管したりすることの大切さについても気付くようにする。
		環境　調理をすることによって出たごみや残菜，油などを排水口に流さないようにしたり，適切に分別したりできるようにする。
		環境　水や洗剤を必要以上に使用しないように，汚れを余り布や古紙などで拭き取ってから洗うようにする。
		★「くらしとゴミ」
	ア(ｴ) 材料に適したゆで方，いため方を理解し，適切にできること。	・ゆでたり，いためたりする調理の仕方について理解し，材料や調理の目的に応じて適切に加熱操作ができるようにする。
	・材料に適したゆで方	・硬い食品を柔らかくするなど，食べやすくおいしくするために目的に応じたゆで方があることを理解し，適切にゆでることができるようにする。
		・水からゆでるものと沸騰してからゆでるものがあることや，ゆでることによってかさが減るものは，多くの量を食べることできるなどの調理の特性を理解できるようにする。
		※ゆでる材料として青菜やじゃがいもなどを扱う。
		※じゃがいもの芽や緑化した部分には，食中毒を起こす成分が含まれているので取り除く必要があることについても触れる。
	・材料に適したいため方	・フライパンなどで油を使い，かき混ぜながら加熱し，目的に応じたいため方があることを理解し，適切にいためることができるようにする。

		・調理の目的によっていためる時間や火力に違いがあることを理解できるようにする。 ・幾つかの材料を組み合わせて調理し，材料に応じて切り方を変えたり，火の通りにくいものから順に加熱したり，あらかじめゆでたものをいためたりすることなどについても触れる。 ・油でいためることにより風味が増すことにも気付くようにする。
	ア(オ) 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解し，適切にできること。	・米飯とみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることや，調理の仕方を理解し，適切に調理ができるようにする。 ★道徳　5・6年　C (17) 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 ★社会5年　「我が国の農業と水産業」との関連
	・伝統的な日常食である米飯及びみそ汁	・米は，我が国の主要な農産物であり，主食として日本人の食生活から切り離すことができない食品であることを理解できるようにする。 ・みそは，大豆の加工品であり，調味料として日本人には古くから親しまれている食品であり，それぞれの地方で特徴があるみそが生産されていることや，みそ汁は，日常の食生活では，米飯と組み合わせる場合が多いことを理解できるようにする。 ※▲和食の基本となるだしの役割について触れる。
第5・6学年	・米飯の調理の仕方	・米の洗い方，水加減，浸水時間，加熱の仕方，蒸らしなど，硬い米が柔らかい米飯になるまでの炊飯に関する一連の操作や変化について理解し，炊飯することができるようにする。
	・みそ汁の調理の仕方	・だしのとり方，中に入れる実の切り方や入れ方，みその香りを損なわない扱い方などを理解し，みそ汁を調理することができるようにする。 ・みそ汁の実については，栄養のバランスや季節などを考えて幾つかの材料を組み合わせて調理し，材料に応じて切り方を変えたり，火の通りにくい物から順に加熱したりするなどの工夫が必要であることを理解できるようにする。 ・和食の基本となるだしについては，煮干しや昆布，かつお節など様々な材料からだしをとることについて触れ，みそ汁にだしを使うことで風味が増すことを理解できるようにする。 ・だしをとって作ったみそ汁とだしをとらずに作ったみそ汁を比較し，だしの役割について話し合う活動などが考えられる。
	イ　おいしく食べるために調理計画を考え，調理の仕方を工夫すること。	・基礎的な調理についての課題を解決するために，アで身に付けた基礎的・基本的な知識及び技能を活用し，おいしく食べるために，健康・安全などの視点から，調理計画や調理の仕方を考え，工夫することができるようにする。
	・調理計画	・効率よく作業するために，調理の手順やグループでの協力の仕方，時間配分などについて問題を見いだし，課題を設定するようにする。 ・課題を解決するための方法については，グループで話し合う活動を通して，調理計画が目的に合ったものかどうかなどについて検討できるようにする。
	・調理の仕方	・おいしく食べるために，調理の手順や，材料の切り方，　加熱の仕方，味の付け方，盛り付けなどの調理の仕方について問題を見いだし，　課題を設定するようにする。

		・課題を解決するための方法については，食べる人のことを考えて，材料の切り方，加熱の仕方，味の付け方，盛り付けなどを検討したり，でき上がり時間を考えて手順を検討したりできるようにする。 ・調理計画及び調理の仕方のいずれの場合にも，既習事項や自分の生活経験と関連付けて考え，適切な解決方法を選び，実践に向けて具体的に計画を立てることができるようにする。 ・調理後の振り返りについては，計画どおりにできたこと，できなかったこと，あるいは実践の中で考え，工夫したことなどを評価し，意見交流などを通して，どのように改善したらよいかを考えることができるようにする。
	(3) 栄養を考えた食事	・栄養を考えた食事について，課題をもって，栄養素の種類と主な働き，食品の栄養的特徴及び１食分の献立作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，栄養のバランスを考えた１食分の献立を工夫することができるようにする。
第５・６学年	ア(ｱ) 体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解すること。 ・体に必要な栄養素の種類と主な働き	※▲五大栄養素と食品の体内での主な働きを中心に扱うこと。 ・体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解し，栄養を考えて食事をとることの大切さが分かるようにする。 ・人が生命を維持したり，活動したり，さらに成長するために必要な成分を栄養素ということ，食品に含まれる栄養素には，炭水化物，脂質，たんぱく質，無機質，ビタミンがあり，五大栄養素と呼ばれていること，それらは相互に関連をもちながら健康の保持や成長のために役立っていることなどを理解できるようにする。 ★理科の第５学年「植物の発芽」における植物の種子の中の養分に関する学習で扱うでんぷんとの関連を図り，でんぷんは炭水化物の一つであることに触れる。 ※名称や働きを覚えることだけに重点を置くのではなく，体に必要な栄養素を食事によってとっていることに気付き，栄養を考えて食事をとることの大切さが分かるように配慮する。
	ア(ｲ) 食品の栄養的な特徴が分かり，料理や食品を組み合わせてとる必要があることを理解すること。 ・食品の栄養的な特徴	・食品は含まれる栄養素の特徴により三つのグループに分けることができることや，料理や食品を組み合わせてとる必要があることが理解できるようにする。 ・食品に含まれる栄養素の特徴により，「主にエネルギーのもとになる」，「主に体をつくるもとになる」，「主に体の調子を整えるもとになる」の三つのグループに分けられることが分かり，日常の食事に使われる食品をグループに分類することができるようにする。
	・料理や食品を組み合わせてとる必要があること	・栄養素には多くの種類があり，健康の保持や成長のためにはそれらの全てを摂取しなければならないが，１種類の食品で全ての栄養素を必要量含んでいるものはないので，料理や食品を上手に組み合わせてとる必要があることを理解できるようにする。 ・「主にエネルギーのもとになる」，「主に体をつくるもとになる」，「主に体

		の調子を整えるもとになる」の三つのグループの食品を組み合わせたり，主食，主菜，副菜などの料理を組み合わせたりすることにより，栄養のバランスがよい食事になることを理解できるようにする。 ※食品には複数の栄養素が含まれていることから必ずしもいずれかのグループに厳密に分類しなくてもよい場合があることに配慮する。
	ア(ｳ) 献立を構成する要素が分かり，１食分の献立作成の方法について理解すること。	・献立を構成する要素として主食，主菜，副菜があることが分かり，１食分の献立作成の方法について理解できるようにする。
	・献立を構成する要素	・主食，主菜，副菜を扱い，これらの組合せで１食分の食事が構成されていることが分かるようにする。 ・主食には「主にエネルギーのもとになる」食品，主菜には「主に体をつくるもとになる」食品，副菜には「主に体の調子を整えるもとになる」食品が多く含まれているので，主食，主菜，副菜を組み合わせることで，三つのグループの食品がそろった１食分の献立となることを理解できるようにする。
	・１食分の献立作成の方法	・主食，主菜，副菜などの組合せを考え，それぞれの料理に含まれている食品を三つのグループに分けて栄養のバランスを確認し，必要に応じて料理や汁物の実などを工夫すればよいことを理解できるようにする。 ・献立作成については，主に栄養のバランスを中心に考えるが，色どりや味のバランスについても気付くようにする。好みや季節，費用などの観点が考えられるが，ここでは料理や食品の組合せに重点を置くこととする。 ※児童の家庭の食事を取り上げる際は，プライバシーに配慮する。 ※献立作成の際，コンピュータを使用して幅広く調べられるようにする。
第５・６学年	イ　１食分の献立について栄養のバランスを考え，工夫すること。	・栄養を考えた食事についての課題を解決するために，アで身に付けた基礎的・基本的な知識を活用し，健康などの視点から，栄養のバランスを考え，１食分の献立を工夫することができるようにする。
	・１食分の献立	・児童の日常の生活の中から，１食分の食事内容について問題を見いだし，課題を設定するようにする。 ・献立の改善方法については，料理カードやデジタル教材を参考にしたり，自分が考えた献立の工夫について発表したりするなどの活動を通して，栄養のバランスを考慮した１食分の献立について検討できるようにする。 ・既習事項や自分の生活経験と関連付けて考え，適切な改善方法を選び，具体的に考えることができるようにする。 ・献立作成の振り返りについては，献立作成で考えたことや工夫したことなどを評価し，発表し合う活動などを通して，どのように改善して生活に生かしたらよいかを考えることができるようにする。 ※自分が考えた献立を実際に調理するなどして，日常生活で実践できるように配慮する。 ◆栄養の指導及び管理をつかさどる教員と連携し，フードモデルを活用した「食の指導」と関連させる。

	衣生活	・課題をもって，健康・快適・安全で豊かな衣生活に向けて考え，工夫する活動を通して，衣服の着用と手入れ，生活を豊かにするための布を用いた製作に関する知識及び技能を身に付け，衣生活の課題を解決する力を養い，衣生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成する。
	(4) 衣服の着用と手入れ	・衣服の着用と手入れについて，課題をもって，衣服の主な働きや季節や状況に応じた日常着の快適な着方，手入れの仕方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，着用と手入れの仕方を工夫することができるようにする。
	ア(ｱ) 衣服の主な働きが分かり，季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解すること。	・衣服の主な働きとして，保健衛生上及び生活活動上の働きが分かり，それらと関わらせて季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解できるようにする。
	・衣服の主な働き	・保健衛生上の働きとして，暑さ・寒さを防いだり，皮膚を清潔に保ったり，ほこりや害虫，けがなどから身体を守ったりすることなどが分かるようにする。 ・生活活動上の働きとして，身体の動きを妨げず，運動や作業などの活動をしやすくすることなどが分かるようにする ・安全の確保や危険の回避のために，目立つ色の上着を着たり，帽子をかぶったりすることなどにも触れるようにする。 ▲「社会生活上の働き」は中学校で扱う
第5・6学年	・季節に応じた日常着の快適な着方	・暑い季節には汗を吸収しやすい衣服を選んだり，寒い季節には重ね着をしたりすることを理解できるようにする。 ・夏の涼しい着方と関連付けて日本の伝統的な衣服である浴衣に触れることも考えられる。 ★道徳　5・6年C（17）伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度
	・状況に応じた日常着の快適な着方	・生活場面などに応じて，例えば，野外で活動する際，体温を調節するために脱ぎ着ができる衣服を着たり，長いズボンを選んではいたりすることを理解できるようにする。
	ア(ｲ) 日常着の手入れが必要であることや，ボタンの付け方及び洗濯の仕方を理解し，適切にできること。	・衣服を大切に扱い，気持ちよく着るために，日常の手入れが必要であることが分かり，ボタン付けや洗濯の仕方を理解し，適切にできるようにする。
	・日常着の手入れ	・日常着などの衣服を快適に着るために，それらを大切に扱い，脱いだ衣服を点検し，手入れすることが必要であることを理解できるようにする。 ・ボタンが取れる前に付け直したり，衣服の汚れを落とすために洗濯したりすることが，日常の身だしなみのために必要であることに気付くようにする。 ・季節の変わり目には，次の季節にも気持ちよく着るために衣替えを行い，適切に管理することが必要であることにも触れるようにする。
	・ボタンの付け方	・衣服の打ち合わせをとめるために必要であること，また繰り返しとめたりはずしたりするために丈夫に付けることが必要であること及びそのための付け方を理解し，適切にできるようにする。
	・洗濯の仕方	・日常着の洗濯に必要な洗剤，用具及び洗い方などを理解し，洗濯ができるようにする。

		・洗濯には，洗濯物の状態や汚れの点検，洗う，すすぐ，絞る，干すなどの手順があることや，それぞれの作業が必要であることを理解し，適切にできるようにする。 ・手洗いを中心として学習する。電気洗濯機を用いる場合にも，状況によって事前に手洗いする意義に気付くことができるようにする。 ▲電気洗濯機については，脱水に使用したり手洗いと比較したりする程度に扱うようにする。（電気洗濯機を用いた選択の方法と特徴と適切な使用は中学校で扱う） ▲洗剤については，量を中心に扱い，洗剤の量を考えた水を無駄にしない洗濯の仕方についても触れるようにする。（働きなどは中学校で扱う） ・靴下や体育着などの手洗いを通して，水だけの場合や，道具を使った場合の汚れの落ち方，乾きやすい干し方などについて結果を発表し合う活動も考えられる。 ・たたんで収納することについては，運動会で使用したゼッケンを洗って収納するなどして，B (6)「快適な住まい方」のアの(イ)と関連付けて学習することもできる。
第5・6学年	イ　日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え，工夫すること。	・衣服の着用と手入れについての課題を解決するために，アで身に付けた基礎的・基本的な知識及び技能を活用し，健康・快適などの視点から，日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え，工夫することができるようにする。
	・日常着の快適な着方	・児童の身近な生活の中から，季節や状況についての問題を見いだし，課題を設定するようにする。 ・夏を涼しく，冬を暖かく過ごすための着方を取り上げて，児童が考えた実験を通して比較したり，野外活動を取り上げて，山登りなどの活動や気温の変化に応じた着方を検討したりして，快適な着方について考え，工夫する活動などが考えられる。
	・日常着の手入れの仕方	・児童の身近な生活の中から，日常着の手入れに関する問題を見いだし，課題を設定するようにする。 ・身近な衣服の手洗いを取り上げて，洗剤の量，水の温度，洗い方などによる違いを比較して，効果的な洗い方について考えたり，干し方を変えて衣服の形の変化を観察したりして，手洗いの仕方を見直して工夫する活動などが考えられる。
	(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作	・生活を豊かにするための布を用いた製作について，課題をもって，製作に必要な材料や手順，製作計画，手縫いやミシン縫い及び用具の安全な取扱いに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，製作計画を考え，製作を工夫することができるようにする ・身の回りの生活を快適にしたり，便利にしたり，楽しい雰囲気を作り出したりするなど，布の特徴を生かして自分や身近な人の生活を豊かにするものを製作する。 ※日常生活で使用する物を入れる袋などの製作を扱うこと。
	ア(ア) 製作に必要な材料や手順が	・製作に必要な材料や製作手順が分かるとともに，製作する物や使い方などに応

	分かり，製作計画について理解すること。 ・製作に必要な材料や手順	じた製作計画の必要性と計画の立て方を理解できるようにする。 ・材料の布は，しるしが付けやすい，裁ちやすい，ほつれにくい，縫いやすいなどの扱いやすさや，丈夫さなどの性質を考え，製作する物の目的や使い方に応じて適したものを選ぶ必要があることを理解できるようにする。 ・布の性質に適した糸や製作する物に応じて準備する材料についても触れるようにする。 ・布には，様々な色や柄があり，しなやかに物の形や動きに沿ったり，繰り返し洗ったりできる性質があることに気付くことができるようにする。 ・製作手順として，計画，製作の準備，製作，仕上げ，片付けといった作業の流れがあり，効率や安全のために作業の順番を決める必要があることを理解できるようにする。 ・製作の準備作業としては，裁った布にしるしを付けたり，まち針で布と布をとめたり，しるしを合わせたりすることなどがあり，仕上げの作業としては，縫った後に縫い目を整えたり，糸の始末をしたり，アイロンをかけたりすることなどがあることを理解できるようにする。
第5・6学年	・製作計画	・製作する物の目的に応じて，どのような機能があればよいのかを踏まえ，形や大きさを考えることが必要であることが分かるようにする。 ・布の形や大きさを決めることについて，でき上がりの寸法に縫いしろ分を加えたり，余裕をもって覆ったり出し入れしたりするためのゆとりの分量を考えたりする必要があることが分かり，その見積もり方を理解できるようにする。 ※不織布などを使って考えたり，必要な寸法を測ったり，または既にあるものを観察したりするなどの方法が考えられる。 ・製作手順の根拠について考え，製作の見通しをもつことができるよう配慮する。例えば，布製品の実物を観察して製作手順を考えたり，段階見本等を用いて確かめたりする活動などが考えられる。
	ア(イ) 手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し，適切にできること。 ・手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方	・手縫いやミシン縫いの仕方が分かり，それらを使った目的に応じた縫い方を理解するとともに，それらの作業に必要な用具の安全な取扱いについて理解し，適切にできるようにする。 ・手縫いをするためには，縫い針に糸を通したり，糸端に玉結びや玉どめをしたり，布を合わせて縫ったりする必要があることを理解できるようにする。 ・手縫いとして，なみ縫い，返し縫い，かがり縫いなどの縫い方を扱うようにする。 ・縫い方にはそれぞれ特徴があり，縫う部分や目的に応じて，適した手縫いを選ぶ必要があることを理解し，できるようにする。 ・なみ縫いについては，２～３針続けて縫う程度でもよいと考えられる。 ・手縫いに用いる糸の適切な長さや扱い方などについても理解できるようにする。 ・ミシン縫いについては，丈夫で速く縫えるという特徴や使い方が分かり，直線縫いを主としたミシン縫いができるようにする。

		・ミシンの使い方については，上糸，下糸の準備の仕方や縫い始めや縫い終わりや角の縫い方を考えた処理の仕方など，ミシン縫いをするために必要な基本的な操作を中心に学習する。
	・用具の安全な取扱い	・製作に当たって適切な用具を正しく使うことが作業を効率的に進める上で大切であることを理解できるとともに，針，まち針，糸切りはさみ，裁ちばさみ，計測用具，しるし付けの用具など，製作に必要な用具が分かり，安全に十分留意しながら使用することができるようにする。 ・針類，はさみ類，アイロン，ミシンなどの用具については，慎重な針の扱い，はさみの安全な使い方や渡し方，アイロンの置き方，ミシンの安全な出し入れや移動などにも触れるようにする。 ・この学習では，第３の３(1)，(2)にある実習の指導の配慮事項を十分参考にするようにする。 ◆地域との連携で，針やミシンの指導時に，保護者や外部人材の活用なども考えられる。
	イ　生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え，製作を工夫すること。	・生活を豊かにするための布を用いた製作についての課題を解決すために，アで身に付けた基礎的・基本的な知識及び技能を活用し，健康・快適・安全などの視点から，生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画や製作方法を考え，工夫することができるようにする。
第５・６学年	・布を用いた物の製作計画	・生活を豊かにするための製作を進めるために，製作手順などについて問題を見いだし，課題を設定するようにする。 ・課題を解決するための方法については，同じ課題の児童同士でグループを編成して話し合う活動を通して，製作計画が目的に合ったものか，製作手順が適切であるかなどについて検討できるようにする。
	・製作	・作品を仕上げるための製作手順や，手縫いやミシン縫いによる縫い方などについて問題を見いだし，課題を設定するようにする。 ・課題を解決するための方法については，例えば，縫う部分に応じた縫い方であるかについて，縫い方見本を観察したり，試し縫いをしたりして，身に付けた技能を生かした縫い方を検討し，計画に合わせて効率よく製作できるようにする。 ・布を用いた物の製作計画及び製作のいずれの場合にも，既習事項や自分の生活経験と関連付けて考え，適切な解決方法を選び，実践に向けて具体的に計画を立てることができるようにする。 ・製作後の振り返りについては，計画どおりにできたこと，できなかったこと，あるいは製作の中で考え，工夫したことなどを評価し，実践発表会などを通して，どのように改善したらよいかを考えることができるようにする。
	住生活	・課題をもって，健康，快適，安全で豊かな住生活に向けて考え，工夫する活動を通して，快適な住まい方に関する知識及び技能を身に付け，住生活の課題を解決する力を養い，住生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成する。

	(6) 快適な住まい方	・快適な住まい方について，課題をもって，住まいの主な働きや季節の変化に合わせた住まい方，住まいの整理・整頓や清掃の仕方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，快適な住まい方を工夫することができるようにする。 ※主として暑さ・寒さ，通風・換気，採光，及び音を取り上げること。暑さ・寒さについては，(4)のアの(ｱ)の日常着の快適な着方と関連を図ること。
	ア(ｱ) 住まいの主な働きが分かり，季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解すること。	・住まいの主な働きが分かり，季節の変化に合わせて自然を生かして生活することの大切さについて理解するとともに，暑さ・寒さへの対処の仕方やそれらと通風・換気との関わり，適切な採光及び音と生活との関わりについて理解できるようにする。
	・住まいの主な働き	・季節の変化に合わせた住まい方と関連させて取り上げることとし，人々が家の中で安心して快適に住まうことができるように，主として雨や風，暑さ・寒さなどの過酷な自然から人々を守る生活の器としての働きが分かるようにする。
	・季節の変化に合わせた生活の大切さ	環境　我が国が四季の変化に富むことから，冷暖房機器にたよる生活を見直し，季節の変化に合わせて日光や風など自然の力を効果的に活用する方法について考え，健康・快適の視点から，自然を生かした生活の大切さについて理解できるようにする。
第5・6学年		・昔と今の住まい方を比べる活動を取り入れるなどして，住まい方における日本の生活文化に気付くことができるようにする。
	・季節の変化に合わせた住まい方	・身の回りを快適に整えるために，季節の変化に合わせて室内の温度や湿度，空気の流れを調節したり，適度な明るさを取り入れたりすることが大切であることを理解できるようにする。
	・暑さ・寒さへの対処の仕方	・暑さ・寒さへの対処の仕方については，室内の温度や湿度，空気の流れを調節することにより室内の環境を快適に保つことができることを理解できるようにする。
	・空気の流れ	・空気の流れについては，夏季に涼しく過ごすための通風又は冬季に室内の汚れた空気を入れ換えるための換気の必要性が分かり，効果的な通風又は換気の仕方を理解できるようにする。 ・空気の流れによって湿度を調整し，結露やカビ・ダニ等の発生を防止できることにも気付くようにするとともに，湿度のほかに様々な物質を含めて室内の空気を入れ換えることの大切さにも触れるようにする。 ・健康のために冷房機器などを効果的に利用することや，暖房機器の安全な使い方についても触れるようにする。
	・自然を上手に利用する方法	環境　自然を上手に利用する方法について，夏季には通風と併せて太陽の熱をさえぎること，冬季には太陽の暖かさを取り込むことなどを理解できるようにする。その際，樹木や植物などを効果的に活用することなどにも触れるようにする。
	・採光	・採光については，勉強や読書をする場合を取り上げるなど，児童の身近な生活と目の健康とを関連させ，適度な明るさを確保する必要とその方法を理解できるようにする。

	・人工照明	・人工照明については，自然採光が不足する場合と関連させて照明の必要性に触れる程度とする。
	・音	・音については，学校周辺や家庭での様々な音を取り上げ，音には快適な音や騒音となる不快な生活音があることを理解できるようにする。 ・生活を豊かにする季節の音を大切にしてきた日本の生活文化に気付くことができるようにする。 ・騒音については，家族や地域の人々との関わりを考えて，生活音の発生に配慮する必要があることにも気付くようにする。 ★理科３年「光と音の性質」「太陽と地面の様子」４年「空気と温度」　保健３・４年「健康な生活」との関連
	ア(ｲ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し，適切にできること。	防災　気持ちよく生活するために，住まいの整理・整頓や清掃が必要であることが分かり，身の回りの整理・整頓や清掃の仕方を理解し，適切にできるようにする。
	・住まいの整理・整頓の仕方	・児童の身の回りの物，例えば，学習用具，本や雑誌，衣類等の整理・整頓を取り上げる。 ・物を使う人や場所，その使用目的や頻度，大きさや形などによって整理・整頓の仕方を工夫する必要があることが分かり，何がどこにあるか，必要な物がすぐに取り出せるか，　空間を有効に使えるかなどの視点から考え，整理・整頓の仕方を理解し，適切にできるようにする。 ★道徳　５・６年　Ａ（３）節度，節制 ★道徳　５・６年　Ａ（15）家族愛，家庭生活の充実 防災▲適切な整理・整頓や清掃は，家庭内の事故を防ぐための安全な住まい方を考える上でも大切であることに気付かせるなど，中学校での学習につながるよう配慮する。 防災◆すまいるネット（神戸市すまいの安心支援センター）の協力を受けることもできる。 防災◆耐震・防火対策などについても考えさせることもできる。 防災◆副読本「しあわせはこぼう」を活用することもできる。
第５・６学年	・住まいの清掃の仕方	・児童が日常よく使う場所を取り上げる。学校や家庭での体験を基に清掃について見直し，なぜ汚れるのか，　何のために清掃するのかを考えさせるとともに，床や窓などの汚れの種類，汚れ方に応じた清掃の仕方が分かり，状況に応じた清掃の仕方を理解し，適切にできるようにする。 ・汚れは時間が経つと落ちにくくなることや，住居用洗剤は取り扱い方によって危険を伴うものもあるため，表示をよく見て使用する必要があることなどにも気付くようにする。 ・和室の畳の清掃の仕方にも触れ，日本の生活文化に気付くことができるようにする。 ★道徳　５・６年　Ｃ（17）伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度
	イ　季節の変化に合わせた住まい方，整理・整頓や清掃の仕方を	環境　防災　快適な住まい方についての課題を解決するために，アで身に付けた基礎的・基本的な知識及び技能を活用し，健康・快適・安全などの視点から，

第5・6学年	考え，快適な住まい方を工夫すること。 ・季節の変化に合わせた住まい方 ・整理・整頓や清掃の仕方	季節の変化に合わせた住まい方及び整理・整頓や清掃の仕方を考え，工夫することができるようにする。 ・児童の身近な生活の中から，主に暑さ・寒さの調節，通風・換気，採光の仕方及び音に関する問題を見いだし，課題を設定するようにする。 ★理科　3年「太陽と地面の様子」，4年「空気と温度」との関連 ・課題を解決するための方法については，コンピュータなどの情報手段を活用して自然を生かした住まい方などについて調べたり，児童が自ら方法を考えて通風・換気や採光などについて実験したりする活動や，児童一人一人の生活経験についての意見交流などを通して，より効果的な暑さ・寒さの調節方法や効率的な通風・換気や採光の仕方について検討できるようにする。 ・児童の身近な生活の中から，主に住まいの整理・整頓及び清掃に関する問題を見いだし，課題を設定するようにする。課題を解決するための方法については，整理・整頓や清掃の仕方について地域の人から様々な方法を教えてもらったり，家庭で調べたことを発表し合ったりする活動などを通して，より効果的な整理・整頓の仕方や効率的な清掃の仕方について検討できるようにする。 ・季節の変化に合わせた住まい方及び整理・整頓や清掃の仕方のいずれの場合にも，解決方法については，既習事項や自分の生活経験と関連付けて考え，適切な解決方法を選び，実践に向けて具体的に計画を立てることができるようにする。 ・実践の振り返りについては，計画どおりにできたこと，できなかったこと，あるいは実践の中で考え，工夫したことなどを評価し，実践発表会などを通して，どのように改善したらよいかを考えることができるようにする。

中学校全学年	(1)　食事の役割と中学生の栄養の特徴 ア　次のような知識を身に付けること。 (ｱ)　生活の中で食事が果たす役割について理解すること。 (ｲ)　中学生に必要な栄養の特徴が分かり，健康によい食習慣について理解すること。 イ　健康によい食習慣について考え，工夫すること。 (2)　中学生に必要な栄養を満たす食事 ア　次のような知識を身に付けること。 (ｱ)　栄養素の種類と働きが分かり，食品の栄養的な特質について理解すること。 (ｲ)　中学生の１日に必要な食品の種類と概量が分かり，１日分の献立作成の方法について理解すること。 イ　中学生の１日分の献立について考え，工夫すること。 (3)　日常食の調理と地域の食文化 ア　次のような知識及び技能を身に付けること。 (ｱ)　日常生活と関連付け，用途に応じた食品の選択について理解し，適切にできること。 (ｲ)　食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解し，適切にできること。 (ｳ)　材料に適した加熱調理の仕方について理解し，基礎的な日常食の調理が適切にできること。 (ｴ)　地域の食文化について理解し，地域の食材を用いた和食の調理が適切にできること。

中学校全学年	イ　日常の１食分の調理について，食品の選択や調理の仕方，調理計画を考え，工夫すること。 (4)　衣服の選択と手入れ ア　次のような知識及び技能を身に付けること。 (ｱ)　衣服と社会生活との関わりが分かり，目的に応じた着用，個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。 (ｲ) 衣服の計画的な活用の必要性，衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し，適切にできること。 イ　衣服の選択，材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え，工夫すること。 (5)　生活を豊かにするための布を用いた製作 ア　製作する物に適した材料や縫い方について理解し，用具を安全に取り扱い，製作が適切にできること。 イ　資源や環境に配慮し，生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え，製作を工夫すること。 (6)　住居の機能と安全な住まい方 ア　次のような知識を身に付けること。 (ｱ)　家族の生活と住空間との関わりが分かり，住居の基本的な機能について理解すること。 (ｲ)　家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。 イ　家族の安全を考えた住空間の整え方について考え，工夫すること。 (7)　衣食住の生活についての課題と実践 ア　食生活，衣生活，住生活の中から問題を見いだして課題を設定し，その解決に向けてよりよい生活を考え，計画を立てて実践できること。

【C　消費生活・環境】

	【ねらい】 ・課題をもって，持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境を考え，工夫する活動を通して，消費生活・環境に関する知識及び技能を身に付ける。 ・それらの課題を解決する力を養い，身近な消費生活と環境をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成する	
	指　導　内　容	
第５・６学年	(1)　物や金銭の使い方と買物	▲物や金銭の使い方と買物について，課題をもって，物や金銭の大切さについて理解し，買物の仕組みや消費者の役割，物や金銭の計画的な使い方，身近な物の選び方，買い方，情報の収集・整理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，身近な物の選び方，買い方を工夫することができるようにする。 ★道徳　５・６年　A（3）節度，節制
	ア(ｱ) 買物の仕組みや消費者の役割が分かり，物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解すること。	・買物の仕組みや消費者の役割が分かり，生活を支える物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解できるようにする。
	・買物の仕組み	・主に現金による店頭での買物を扱い，日常行っている買物が売買契約であることを理解できるようにする。 ・売買契約の基礎としては，買う人（消費者）の申し出と売る人の承諾によって売買契約が成立すること，買う人はお金を払い，売る人は商品を渡す義務があること，商品を受け取った後は，買った人の一方的な理由で商品を返却するこ

		とができないことについて扱い，理解できるようにする。
	・消費者の役割	・買う前に本当に必要かどうかをよく考えることや，買った後に十分に活用して最後まで使い切ることを理解できるようにする。 ・自分や家族の消費生活が環境などに与える影響についても考え，例えば，買物袋を持参したり，不用な包装は断ったりするなどの工夫をすることが消費者としての大切な役割であることに気付くようにする。 ・買物で困ったことが起きた場合には，家族や先生などの大人に相談することや，保護者と共に消費生活センターなどの相談機関を利用することにも触れるようにする。
	・物や金銭の大切さ	・家庭で扱う金銭（家庭の収入）は家族が働くことによって得られた限りあるものであり，物や金銭が自分と家族の生活を支えていることから，それらを有効に使うことの重要性を理解できるようにする。 ・プリペイドカードなどは，金銭と同じ価値があるため，金銭同様に大切に扱う必要があることを理解できるようにする。
	・物や金銭の計画的な使い方	・限りある物や金銭を生かして使う必要性や方法が分かり，計画的な使い方を理解できるようにする。
第5・6学年		・物の計画的な使い方については，物が必要になった時には，新しい物を購入する以外に，家庭にある物を活用したり，知人から譲ってもらったりするなどの方法もあることに気付くようにする。 ・物を長く大切に使う方法についても理解できるようにする。 ・金銭の計画的な使い方については，こづかいなど児童に取扱いが任された金銭に着目して購入の時期や金額を考えたり，購入のための貯蓄をしたりして，無駄のない使い方をすることが必要であることを理解できるようにする。 ※買物の仕組みと消費者の役割については，児童に身近な物の購入について取り上げ，消費者であることの自覚をもたせ，適切な消費行動をとる必要があることに気付くことができるよう配慮する。 ※児童によって家庭生活の状況が異なることから，各家庭や児童のプライバシーを尊重し，十分配慮しながら取り扱うようにする。 ★社会　3年　「地域に見られる生産や販売の仕事」との関連
	ア(イ) 身近な物の選び方，買い方を理解し，購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできること。	・身近な物の選び方，買い方を理解し，目的に合った品質のよい物を選んで購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできるようにする。
	・身近な物の選び方	・児童が使う身近な物について取り上げ，値段や分量，品質などの選ぶ際の観点を理解できるようにする。 ・目的に合った品質のよい物を選ぶためには，食品等に付けられた日付などの簡単な表示やマークなどを確認する必要があることを理解できるようにする。 環境　持続可能な社会の構築の視点から，環境に配慮されているか，詰め替えやリサイクルができるかなど，資源の有効利用を考えて選ぶことも大切であることに気付くようにする。
	・身近な物の買い方	・現金による店頭での買物を中心とし，予算や購入の時期，場所，必要な物を必

		要な分だけ買うことや，まとめて買うことなどについて考える必要があることを理解できるようにする。 ・買う物をメモしておいたり，買物の記録をしたりするなどの大切さに気付くようにする。 ・通信販売については，地域や児童の実態に応じて触れるようにする。 ▲インターネットを介した通信販売などの無店舗販売は中学校で主に扱う。
	・購入するために必要な情報の収集・整理	・目的に合った品質のよい物を無駄なく購入するために，店の人から話を聞いたり，広告などを活用したりして情報を集め，値段や分量，品質など様々な視点から情報を整理することができるようにする。
	イ　購入に必要な情報を活用し，身近な物の選び方，買い方を考え，工夫すること。 ・身近な物の選び方，買い方	環境　身近な消費生活についての課題を解決するために，アで身に付けた基礎的・基本的な知識及び技能を活用し，持続可能な社会の構築などの視点から，物の選び方，買い方を考え，工夫することができるようにする。 ・児童が生活の中で使う身近な物について問題を見いだし，課題を設定するようにする。 ・課題を解決するための方法については，選び方では，食品等に付けられた日付などの簡単な表示やマークや，広告などの購入に必要な情報を調べたり，店の人から話を聞いたりするなど，情報を収集・整理して，値段や分量，品質など多様な観点から比較し検討できるようにする。 ・買い方では，計画的に購入するために家庭で工夫していることを調べ，発表し合う活動などを通して，購入の時期や場所などについて検討できるようにする。 ・いずれの場合にも，既習事項や自分の生活経験と関連付けて考え，適切な解決方法を選び，実践に向けて具体的に計画を立てることができるようにする。 ・実践の振り返りについては，本当に必要かどうか，購入後に適切に活用しているかどうか，環境に与える影響はどうかなどを評価し，意見交流などを通して，これからの買物に生かすために，どのように改善したらよいかを考えることができるようにする。
第5・6学年	(2) 環境に配慮した生活	環境　環境に配慮した生活について，課題をもって，自分の生活と身近な環境との関わりについて理解し，物の使い方などに関する基礎的・基本的な知識を身に付け，環境に配慮した生活の仕方を工夫することができるようにする。
	ア　自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解すること。	・自分の生活が身近な環境から影響を受けたり，影響を与えたりしていることが分かり，環境に配慮した物の使い方などについて理解できるようにする。
	・自分の生活と身近な環境との関わり	・自分の生活を見直すことを通して，多くの物を使っていることや，自分の生活が身近な環境から影響を受けたり，逆に影響を与えたりしていることを理解できるようにする。
	・環境に配慮した物の使い方	・環境にできるだけ負荷を掛けないように，物を長く大切に活用したり，無駄なく使い切ったり，使い終わった物を他の用途に再利用したりすることが必要であることを理解できるようにする。

第5・6学年	イ　環境に配慮した生活について物の使い方などを考え，工夫すること。 ・環境に配慮した生活	※内容の「B衣食住の生活」との関連を図り，実践的に学習できるようにすること。 ・環境に配慮した生活についての課題を解決するために，アで身に付けた基礎的・基本的な知識を活用し，持続可能な社会の構築などの視点から，自分の生活と身近な環境との関わり及び物の使い方などを考え，工夫することができるようにする。 ・自分の生活を見直すことを通して，物の使い方などについて問題を見いだし，課題を設定するようにする。 ・課題を解決するための方法については，自分の生活を見直し，物の使い方などの工夫について考えたことをグループで話し合うなどの活動を通して，環境に配慮した生活のための工夫について検討できるようにする。その際，既習事項や自分の生活経験と関連付けて考え，適切な解決方法を選び，実践に向けて具体的に計画を立てることができるようにする。 ・実践の振り返りについては，計画どおりにできたこと，できなかったこと，実践の中で考えたことなどを評価し，実践発表会などを通して，どのように改善したらよいかを考えることができるようにする。 ★道徳　5・6年　D (20) 自然愛護 ◆◎「くらしとごみ」（神戸市環境局）との関連 ◆◎社会　4年「ふれあいごみスクール」との関連
中学校全学年	(1) 金銭の管理と購入 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ｱ) 購入方法や支払い方法の特徴が分かり，計画的な金銭管理の必要性について理解すること。 (ｲ) 売買契約の仕組み，消費者被害の背景とその対応について理解し，物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。 イ 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え，工夫すること。 (2) 消費者の権利と責任 ア 消費者の基本的な権利と責任，自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。 イ 身近な消費生活について，自立した消費者としての責任ある消費行動を考え，工夫すること。 (3) 消費生活・環境についての課題と実践 ア 自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し，その解決に向けて環境に配慮した消費生活を考え，計画を立てて実践できること。	

第３　指導計画の作成と内容の取扱い

１　指導計画作成上の配慮事項

１　指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1)　題材など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，知識を生活体験等と関連付けてより深く理解するとともに，日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え，他者と意見交流し，実践を評価・改善して，新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図ること。

⑵　第２の内容の「A家族・家庭生活」から「C消費生活・環境」までの　各項目に配当する授業時数及び各項目の履修学年については，児童や学校，地域の実態等に応じて各学校において適切に定めること。その際，「A家族・家庭生活」の⑴のアについては，第４学年までの学習を踏まえ，２学年間の学習の見通しをもたせるために，第５学年の最初に履修させるとともに，「A家族・家庭生活」，「B衣食住の生活」，「C消費生活・環境」の学習と関連させるようにすること。

⑶　第２の内容の「A家族・家庭生活」の⑷については，実践的な活動を 家庭や地域などで行うことができるよう配慮し，２学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させること。その際，「A家族・家庭生活」の ⑵ 又 ⑶，「B衣食住の生活」，「C消費生活・環境」で学習した内容との関連を図り，課題を設定できるようにすること。

⑷ 第２の内容の「B衣食住の生活」の⑵及び⑸については，学習の効果を高めるため，２学年間にわたって取り扱い，平易なものから段階的に学習できるよう計画すること。

⑸ 題材の構成に当たっては，児童や学校，地域の実態を的確に捉えるとともに，内容相互の関連を図り，指導の効果を高めるようにすること。その際，他教科等との関連を明確にするとともに，中学校の学習を見据え，系統的に指導ができるようにすること。

⑹ 障害のある児童などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的・組織的に行うこと。

⑺ 第１章総則の第１の２の⑵に示す道徳教育の目標に基づき，道徳科などとの関連を考慮しながら，第３章特別の教科道徳の第２に示す内容について，家庭科の特質に応じて適切な指導をすること。

２　内容の取扱いと指導上の配慮事項

２　第２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

⑴ 指導に当たっては，衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や，自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり，説明したりするなどの学習活動の充実を図ること。

⑵ 指導に当たっては，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用して，実習等における情報の収集・整理や，実践結果の発表などを行うことができるように工夫すること。

⑶ 生活の自立の基礎を培う基礎的・基本的な知識及び技能を習得するために，調理や製作等の手順の根拠について考えたり，実践する喜びを味わったりするなどの実践的・体験的な活動を充実すること。

⑷ 学習内容の定着を図り，一人一人の個性を生かし伸ばすよう，児童の特性や生活体験などを把握し，技能の習得状況に応じた少人数指導や教材・教具の工夫など個に応じた指導の充実に努めること。

⑸ 家庭や地域との連携を図り，児童が身に付けた知識及び技能などを日常生活に活用できるよう配慮すること。

３　実習の指導

３　実習の指導に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

⑴ 防災　施設・設備の安全管理に配慮し，学習環境を整備するとともに，熱源や用具，機械などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底すること。

⑵ 防災　服装を整え，衛生に留意して用具の手入れや保管を適切に行うこと。

⑶ 調理に用いる食品については，生の魚や肉は扱わないなど，安全・衛生に留意すること。また，食物アレルギーについても配慮すること。

他校種との関連　家庭科　A 家族・家庭生活　　見方・考え方「協力・協働」

	小学校	中学校
学習内容の系統	ガイダンス	ガイダンス
自分の成長と家族・家庭生活	(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長の自覚，家庭生活と家族の大切さ，家族との協力 (2) 家庭生活と仕事 ア 家庭の仕事と生活時間 イ 家庭の仕事の計画と工夫 衣食住の生活と関連させる (4)家族・家庭生活についての課題と実践 日常生活についての課題・計画・実践・評価	(1)自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長と家庭生活との関わり，家族・家庭の基本的な機能，家族や地域の人々との協力・協働 (2)幼児の生活と家族 ア(ｱ)幼児の発達と生活の特徴，家族の役割 (ｲ)幼児の遊びの意義，幼児との関わり方 イ 幼児との関わり方の工夫 家庭や家族の重要性を理解する (4)家族・家庭生活についての課題と実践 家族関係又は幼児の生活の課題・計画・実践・評価
人とのかかわり	(3) 家族や地域の人々とのかかわり ア(ｱ) 家族との触れ合いや団らん (ｲ) 地域の人々とのかかわり イ 家族や地域の人々とのかかわりの工夫 幼児又は低学年の児童/高齢者＝異なる世代の人々とのかかわり 主に協力 (4)家族・家庭生活についての課題と実践 2年間で1つ又は2つ行う	(3)家族・家庭や地域との関わり ア(ｱ)家族の協力と家族関係 (ｲ)家庭生活と地域との関わり，高齢者との関わり方 イ 家庭関係をよりよくする方法及び地域の人々と協働する方法の工夫 高齢者の身体の特徴(視力・聴力・筋力の低下)介護の基礎に関する体験的な活動 主に協働 幼児の身体の発育・運動機能 言語・情緒・社会性・認知、個人差 遊び道具の重要性・遊びの種類・発達段階 安全な遊び道具・遊びの環境 発達の概要とそれを支える生活の重要性
身に付けさせたい力	・家庭生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度 ・家庭の仕事について計画を考え，工夫できる ・地域の人々との関係をよりよいものにするために，自分が協力できることなどについて検討できる	・家庭・地域等の生活から課題を発見し，解決する力 ・生活の自立に必要な家族・家庭についての基礎的な理解と，それらにかかる技能 ・幼児や高齢者とのかかわり方の基礎的な理解と技能 ・地域の人々とかかわり，協働しようとする態度
実験・実習体験活動	・家族の仕事観察　・仕事の内容・手順調べ ・家族インタビュー　・お茶の入れ方 ・幼児又は低学年の児童，高齢者など異なる世代の人々との交流	・実習や観察，ロールプレイングなどの学習活動を中心とする ・成長過程をふり返る活動　・高齢者の介助の基礎に関する体験活動 ・幼児との触れ合い体験活動（必修活動）
定着のための工夫	ガイダンス　4学年までの家庭科につながる内容の復習 見方・考え方に触れ，2年間の学習に見通しをもたせる	ガイダンス　小学校で学んだ内容を振り返る 見方・考え方に触れ、中学校での学習に見通しをもたせる
他教科等との関連	保健３・４年「健康な生活」社会「わたしたちの神戸」 道徳５・６年A(3)，B(8)．C(15) A～Cすべての内容と関連させる	
言語活動の充実	・手紙やメッセージカードなど，心豊かな生活を送るための工夫を考えさせる 課題と実践：計画をグループで話し合ったり、実践発表会を設ける	・ロールプレイングなどの活動を通して考えさせる

他校種との関連　家庭科　B 衣食住の生活　〇食生活　　見方・考え方「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」

	小学校	中学校
学習内容の系統	(1)食事の役割 ア食事の役割と食事の大切さ，日寿の食事の仕方 イ楽しく食べるための食事の仕方の工夫 (2)調理の基礎 ア(ｱ)材料の分量，手順，調理計画 (ｲ)用具，食器，加熱用調理器具の安全・衛生的な取扱い (ｳ)洗い方・切り方・味付け・盛り付け・配膳・後片付け (ｴ)ゆで方・いため方　調味：食塩・しょうゆなどの塩味 (ｵ)米飯・みそ汁の調理　だしの役割 イおいしく食べるための調理計画及び調理の工夫 (3)栄養を考えた食事 ア (ｱ) 体に必要な栄養素の種類と働き 五大栄養素の基礎的事項を扱う (ｲ)食品の栄養的な特徴と組合せ　3つの食品グループ (ｳ)献立を構成する要素　主食・主菜・副菜 イ １食分の献立の工夫	(1)食事の役割と中学生の栄養の特徴　食事摂取基準 ア(ｱ)食事が果たす役割 (ｲ)中学生の栄養の特徴，健康によい食習慣　五大栄養素・食物繊維・水の働き イ 健康によい食習慣の工夫 (2)中学生に必要な栄養を満たす食事 ア(ｱ)栄養素の種類と働き，食品の栄養的特徴 (ｲ)中学生の1日に必要な食品の種類と概量，献立作成の方法　食品群の分類と食品の概量 イ 中学生の1日分の献立の工夫 (3)日常食の調理と地域の食文化，地域の食材を用いた和食の調理 ア(ｱ)用途に応じた食品の選択 食品添加物、残留農薬、放射性物質についての安全を守る仕組み (ｲ)食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理 (ｳ)材料に適した加熱調理の仕方，基礎的な日常食の調理 調味：食塩・みそ・しょうゆ・砂糖・食酢・油脂等 調理：煮る・焼く・蒸す (ｴ)地域の食文化，地域の食材を用いた和食の調理 だしを用いた煮物又は汁物 イ 日常の1食分のための食品の選択と調理計画及び調理の工夫 (7)衣食住の生活についての課題と実践 食生活についての課題・計画・実践・評価
身に付けさせたい力	・1食分の献立を考えることができる ・１食分の食事が整えられる （米飯＋みそしる＋ゆでるおかず/いためるおかず） 食事と調理に関する基礎的・基本的知識及び技能 実験・実習を通してなぜそうするのか科学的に理解する→材料が代わっても応用できる知識・技能の習得 ・日常生活に活用する能力＝家庭で継続的に実践できる力	・1日分の献立を考えることができる ・日常食の調理ができる 日常生活における実践力
実験・実習体験活動	・調理実験，調理実習　ガラス鍋（各班1つ） ・食材：米・野菜・いも類・卵（生の肉・魚は扱わない） ゆでる＝青菜・ジャガイモは題材指定	・調理実験，調理実習（生肉又は生魚を扱う）　電気炊飯器（各班1つ） ・食材：魚・肉・野菜を中心に扱う（生肉や生魚を扱う）
定着のための工夫	基礎的なものから応用的なものへ 簡単なものから難しいものへ 要素的なものから複合的なものへ 学習のねらいを高める 知識と技能の定着	学習内容と調理実習との関連を図る 実践的態度につなげる
他教科等との関連	社会５年「我が国の農業と水産業」 食育（給食・他教科）　道徳５・６年C(17)	理科「生物の体のつくりと働き」保健体育「健康な生活と疾病の予防」 道徳A(2)，C(16)
言語活動の充実	体験したことを言葉や図表で表現したり，調理に関する言葉を実感を伴って理解したりする学習活動が充実するよう配慮する	

他校種との関連　家庭科　家族・家庭及び福祉

高等学校（必履修2科目より、1科目選択履修）

家庭基礎（2単位）	家庭総合（4単位）
A　人の一生と家庭・家庭及び福祉 「家庭基礎」の導入として扱う (1)生涯の生活設計 ・生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫 (2)青年期の自立と家族・家庭 ・家族・家庭に関する法規に触れる	A　人の一生と家庭・家庭及び福祉 「家庭総合」の導入として扱う (1)生涯の生活設計 ・生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫 (2)青年期の自立と家族・家庭及び社会
(3)子供の生活と保育 ・子育て支援についての理解 ・乳幼児と関わるための基礎的な技能　育てる視点 (4)高齢者の生活と福祉 ・高齢者の尊厳と介護についての理解(認知症含む) ・高齢者の生活支援に関する基礎的な技能についての内容の充実 (5)共生社会と福祉 ・自助，共助及び公助の重要性についての理解	(3)子供との関わりと保育・福祉 ・子供の遊びと文化についての理解 ・子育て支援についての理解と工夫 ・子供の発達に応じた適切な関わり方の工夫　育てる視点 (4)高齢者との関わりと福祉 ・高齢者の尊厳と介護についての理解（認知症含む） ・高齢者の心身の状況に応じた生活支援に関する技術についての内容の充実 (5)共生社会と福祉 ・自助・共助及び公助の重要性についての理解

D　ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

家族・家庭，生涯の生活設計についての理解、乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等についての理解と技能

家族・家庭や社会における生活の中から問題を見いだし、課題を設定するする力

男女が協力して主体的に家庭をや地域の生活を創造しようとする態度

様々な年代の人々とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画しようとする態度

乳幼児との触れ合いや交流活動　　子育て経験者へのインタビュー

高齢者の生活支援に関する体験活動　　福祉施設訪問　　高齢者との触れ合い活動

ガイダンス　　小・中学校で学んだ内容を振り返る ⟶ 高等学校での学習に見通しをもたせる

D　ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動等との関連を図る

選択科目との関連を図る

子供や高齢者など様々な人々と触れ合い，他者と関わる力を高める活動を充実する

実習や観察、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして表現する

他校種との関連　家庭科　衣食住　○食生活

高等学校（必履修２科目より，１科目選択履修）

家庭基礎（２単位）	家庭総合（４単位）
B　衣食住の生活の自立と設計 ・自立した生活を営むために必要な基礎的・基本的な内容 ・和食、和服及び和室など、日本の伝統的な生活文化の継承・創造についての理解 (1)食生活と健康 ア(ｱ)ライフステージに応じた栄養の特徴，食品の栄養的特質，健康や環境に配慮した食生活の理解 自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能 (ｲ)おいしさの構成要素や食品の調理上の性質，食品衛生の理解 目的に応じた調理に必要な技能 イ　食の安全や食品の調理状の性質，食文化の継承を考慮した献立作成，調理計画，健康や環境に配慮した食生活の考察，自己や家族の食事の工夫	B　衣食住の生活の科学と文化 ・生涯を見通したライフステージごとの生活を科学的に理解させる ・日本と世界の食文化についての理解 ・和食、和服、和室など日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関する内容の充実 実験・実習を中心とした学習を中心とする (1)食生活の科学と文化 ア(ｱ)食生活を取り巻く課題，食の安全と衛生，日本と世界の食文化，食と人との理解 (ｲ)栄養の特徴，食品の栄養的特質，健康や環境に配慮した食生活自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能 (ｳ)おいしさの構成要素や食品の調理上の性質，食品衛生についての科学的理解 目的に応じた調理に必要な技能 イ　健康及び環境に配慮した自己と家族の食事，日本の食文化の継承・創造についての考察・工夫

D　ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

生涯を通して健康や環境に配慮した安全な食生活を営むことができる

食生活に関わる基礎的・基本的な知識と技能　　乳幼児期から高齢期に至るまでの生涯を見通した各ライフステージの食生活

日本の食文化の継承・創造性の重要性に気付く　　日本の食文化の継承・創造

調理実習・・・高校生の食生活の自立につながる日常食・行事食・郷土料理など。 様式や調理法、食品が重ならないようにする。

調理実験・・・調理や加工によりおいしさが変化することを理解できるようにする　　家庭総合＝科学的に理解できるようにする

D　ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動との連携を図る

課題学習（家庭で調理）

選択科目（との連携を図る

実習や観察・実験、調査の結果等について，考察したことを科学的根拠や理由を明確にして論理的に表現する

他校種との関連　家庭科　B 衣食住の生活 ○衣生活 ○住生活　　見方・考え方「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」

	小学校	中学校
学習内容の系統	(4)衣服の着用と手入れ ア(ｱ)衣服の主な働き，日常着の快適な着方 (ｲ)日常着の手入れ，ボタン付け及び選択の仕方 イ　日常着の快適な着方や手入れの工夫 保健衛生上・生活活動上の働き 日常着の手入れの必要性 ボタン付けができる ボタンの付け方が分かり、自分で付けることができる 洗濯ができる 洗濯の必要性や日常着の洗濯に必要な洗剤、用具、洗い方が分かり洗濯（手洗い）ができる (5)生活を豊かにするための布を用いた製作 ゆとり・縫いしろ ア(ｱ)製作に必要な材料や手順，製作計画 (ｲ)手縫いやミシン縫いによる縫い方，用具の安全な取扱い イ　生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画及び製作の工夫 製作に必要な用具の安全な取扱い 目的に応じた縫い方を考えて製作（手縫い・ミシン縫い） (6)快適な住まい方 ア(ｱ)住まいの主な働き，季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方 (ｲ)住まいの整理・整頓や清掃の仕方 イ　季節の変化に合わせた住まい方，整理・整頓や清掃の仕方の工夫 暑さ・寒さ、通風・換気・採光及び音をすべて扱う 整理・整頓、清掃の仕方がわかり、工夫できる	(4)衣服の選択と手入れ ア(ｱ)衣服と社会生活の関わり，目的に応じた着用や個性を生かす着用，衣服の選択 社会生活上の働き 日本の伝統的な衣服である和服について触れる (ｲ)衣服の計画的な活用，衣服の材料や状態に応じた日常着の手入 ・綿・毛・ポリエステル、手入れに関わる基本的な性質の理解 ・まつり縫いによる裾上げ、ミシンによるほころび直しスナップ付け、目的と布地に適した補修の方法 ・洗濯機による洗濯 イ　日常着の選択や手入れの工夫 購入から廃棄まで見通して資源や環境に配慮して (5)生活を豊かにするための布を用いた製作 ア　製作する物に適した材料や縫い方，用具の安全な取扱い イ　生活を豊かにするための資源や環境に配慮した布を用いた物の製作計画及び製作の工夫 衣服等の再利用の方法に触れる (6)住居の機能と安全な住まい方 ア(ｱ)家族の生活と住空間との関わり，住居の基本的な機能 (ｲ)家族の安全を考えた住空間の整え方 安全に重点を置いた室内環境の整え方（家庭内事故や自然災害への対策） （7）衣食住の生活についての課題と実践 衣生活又は住生活についての課題・計画・実践・評価
身に付けさせたい力	ボタン付けができる 玉留め・玉結び 手縫い＝並縫い（２～３針続けて縫う）・返し縫い・かがり縫い ミシンの基本操作・直線縫い 洗濯ができる（手洗い） 袋の製作（ゆとり・縫いしろ）	洗濯ができる（電気洗濯機の利用） 見通しをもった計画，目的に応じた縫い方，製作方法の工夫・実践 ミシン：使用前後の点検・手入れ，簡単な調整方法
実験・実習体験活動	動作による体の動きの観察 布を用いた袋の製作 ミシンの台数確保と整備	
定着のための工夫	基礎的なものから応用的なものへ 簡単なものから難しいものへ 要素的なものから複合的なもの 学習のねらいを高める 知識と技能の定着	住空間の鳥瞰図利用
他教科等との関連	理科　３年「光と音の性質」「太陽と地面の様子」４年「空気と温度」　C（2） 保健　３・４学年「健康な生活」道徳５・６年A（3）(14) C (17)	「幸せ運ぼう」 「すまいるネット」
言語活動の充実	・製作品を実際に使い，自分や家族の感想を発表し合い，相互評価し，よりよい活用や改善の方法を探る活動を工夫する。	課題と実践：計画をグループで発表し合ったり，実践発表会を設ける

他校種との関連　家庭科　C 消費生活・環境　　見方・考え方「持続可能な社会の構築」

	小学校	中学校
学習内容の系統	(1)物や金銭の使い方と買い物 ア(ｱ)買物の仕組みや消費者の役割，物や金銭の大切さ，計画的な使い方 家族の生活を支えているものや金銭の大切さへの関心を高める 売買契約の基礎 プリペイドカード：金銭と同様の配慮が必要であること (ｲ)身近な物の選び方，買い方，情報の収集・整理 イ　身近な物の選び方，買い方の工夫 ・児童にとって身近な物を取り上げる ・購入の時期や場所などを具体的に考える ・現金による店頭での買物を中真に扱う ＊通信販売は地域や児童の実態に応じて触れてもよい (2)環境に配慮した生活 ア　身近な環境との関わり，物の使い方 イ　環境に配慮した物の使い方の工夫	(1)金銭の管理と購入 ア(ｱ)購入方法や支払い方法の特徴，計画的な金銭管理 クレジットの三者間契約 (ｲ)売買契約の仕組み，消費者被害， 契約の成立条件・契約当事者の権利と義務・法的責任 物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理 イ　情報を活用した物資・サービスの購入の工夫 サービス、無店舗販売を扱う (2)消費者の権利と責任 ア　消費者の基本的な権利と責任，消費生活が環境や社会に及ぼす影響 イ　自立した消費者としての消費行動の工夫 （3）消費生活・環境についての課題と実践 環境に配慮した消費生活についての課題・計画・実践・評価
身に付けさせたい力	主体的に生活を工夫できる消費者としての素地	自立した消費者としての責任ある消費行動を工夫することができる 消費者市民の担い手として、環境に配慮したライフスタイルの基礎の確立
実験・実習体験活動	・調理実習や製作材料で買い物実習	・ロールプレイングの活用 ・調査や実験など，実践的・体験的な活動
定着のための工夫	・生活を見直す活動 ・衣食住で使う身近な物に着目する	・中学生の身近な消費行動と関わりのある具体的事例を扱う ・生徒自身の消費行動に関する問題を見いだし，消費生活の課題を設定する。
他教科等との関連	社会３年「地域に見られる生産や販売の仕事」 「くらしとごみ」「ふれあいごみスクール」 道徳５・６年A（3）	・ＡＢの学習と関連を図り，実践的に学習する ・社会　公民的分野「現代社会を捉える枠組み」「市場の働きと経済」 ・技術「個人情報の保護の必要性」
言語活動の充実	・過去の買い物体験で役立ったことを発表しあう ・物の選び方について，理由を挙げて意見を交換しあう	・中学生にとっての身近な事例について話し合う ・責任ある消費行動について実践できることを話し合う

他校種との関連　家庭科　衣食住　〇衣生活　〇住生活

高等学校（必履修2科目より，1科目選択履修）

家庭基礎（2単位）	家庭総合（4単位）
B　衣食住の生活の自立と設計 ・自立した生活を営むために必要な基礎的・基本的な内容	B　衣食住の生活の科学と文化 ・生涯を見通したライフステージごとの生活を科学的に理解させる 実験・実習を中心とした学習を中心とする
(2) 衣生活と健康 ア(ア) ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装についての理解 健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理 (イ) 被服材料，被服構成，被服衛生についての理解 被服の計画・管理に必要な技能 イ　被服の機能性や快適性に費えの考察 安全で健康に配慮した被服の管理 目的に応じた着装の工夫	(2) 衣生活の科学と文化 ア(ア) 衣生活を取り巻く課題，日本と世界の衣文化（被服と人との関わり） (イ) 健康と安全，環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理 (ウ) 被服材料，被服構成，被服製作，被服衛生及び被服管理についての科学的理解 イ　目的や個性に応じた健康で快適・機能的な着装 日本の衣文化の継承・創造についての考察と工夫
(3) 住生活と住環境 ・防災などの安全や環境に配慮した住生活の工夫 ア　ライフステージに応じた住生活の特徴，防災などの安全や環境に配慮した住居の機能についての理解 適切な住居の計画・管理日必要な技能 イ　住居の機能や快適性，住居と地域社会との関わりについての考察 防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境の工夫	(3) 住生活の科学と文化 ・防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくりの考察・工夫 ア(ア) 住生活を取り巻く課題，日本と世界の住文化（住まいと人の関わり） (イ) 住生活の特徴，防災などの安全や環境に配慮した住居の機能 住生活の計画・管理に必要な技能 (ウ) 家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画についての理解 快適で安全な住空間を計画するために必要な情報の収集・整理 イ　持続可能な住居の計画についての理解 防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくり 日本の住文化の継承・創造についての考察と工夫

D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

乳幼児期から高齢期に至るまでの生涯を見通した各ライフステージの衣生活・住生活

生活課題について他の生活事象と関連付け、生涯を見通し多角的に捉え、解決策を構想する力

・生活を楽しみ味わい、豊かさを創造しようとする態度　・日本の生活文化を継承・創造しようとする態度

ミシンの台数確保と整備

D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動との連携を図る

外部講師の活用

選択科目との関連を図る

実習や観察・実験、調査の結果等について、考察したことを科学的根拠や理由を明確にして論理的に表現する

他校種との関連　家庭科　消費生活・環境

高等学校（必履修2科目より，1科目選択履修）

家庭基礎（2単位）	家庭総合（4単位）
C　持続可能な消費生活・環境	C　持続可能な消費生活
2022年～成年年齢18歳　→　消費生活に関わる内容について一層の指導の充実を図る	
(1) 生涯の生活設計 ・家計管理についての理解 ・リスクを想定し，不測の事態に備えた対応についての理解	(1) 生涯における経済の計画 ・不測の事態に備えたリスク管理に関する内容の充実
(2) 消費行動と意思決定 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性についての理解 ・消費者保護の仕組みについての理解	(2) 消費行動と意思決定 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約お重要性についての理解 ・消費者保護の仕組みについて理解 ・消費生活に関する演習を取り入れる　ロールプレイ　ケーススタディ等
(3) 持続可能なラフスタイルと環境	(3) 持続可能なライフスタイルと環境

D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイル確立についての理解と技能

・ 契約の重要性や消費者保護の仕組みを理解し消費者の権利と責任を自覚した行動が取れる　・ 不測の事態に備えたリスク管理ができる

実験・調査：食品ロス　クールビズ・ウォームビズ　、省エネルギー住宅　　実習：エコクッキング、エコグッズの製作と活用

D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動との連携を図る

「社会への扉（消費者庁）」を活用する

選択科目との連携を図る　「公共」との関連を図る　神戸市消費生活センターとの連携を図る

演習，実験や調査の結果等について、考察したことを科学的根拠や理由を明確にして論理的に表現する

第９節　体　育

第１　目　　標

（小学校）

体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を見付け，その解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

（中学校）

体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

標準授業時数	小学校						中学校		
	１年	２年	３年	４年	５年	６年	１年	２年	３年
	102	105	105	105	90	90	105	105	105

※「体育の見方・考え方」とは，運動やスポーツを、その価値や特性に着目して，楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え，自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。

※「保健の見方・考え方」とは，個人及び社会生活における課題や情報を，健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え，疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上，健康を支える環境づくりと関連付けること。

第２　各学年の目標

第１・２学年	・　各種の運動遊びの楽しさに触れ，その行い方を知るとともに，基本的な動きを身に付けるようにする。 ・　各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに，考えたことを他者に伝える力を養う。 ・　各種の運動遊びに進んで取り組み，きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり，健康・安全に留意したりし，意欲的に運動をする態度を養う。
第３・４学年	・　各種の運動の楽しさや喜びに触れ，その行い方及び健康で安全な生活や体の発育・発達について理解するとともに，基本的な動きや技能を身に付けるようにする。 ・　自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付け，その課題のための方法や活動を工夫するとともに，考えたことを他者に伝える力を養う。 ・　各種の運動に進んで取り組み，きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり，友達の考えを認めたり，場や用具の安全に留意したり，最後まで努力して運動をする態度を養う。また，健康の大切さに気付き，自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。
第５・６学年	・　各種の運動の楽しさや喜びを味わい，その行い方及び心の健康やけがの防止，病気の予防について理解するとともに，各種の運動の特性に応じた基本的な技能及び健康で安全な生活を営むための技能を身に付けるようにする。 ・　自己やグループの運動の課題や身近な健康に関わる課題を見付け，その解決のための方法や活動を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ・　各種の運動に積極的に取り組み，約束を守り助け合って運動をしたり，仲間の考えや取組を認めたり，場や用具の安全に留意したりし，自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また，健康・安全の大切さに気付き，自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組む態度を養う。
中学校	・　各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに，基本的な技能を身に付けるようにする。 ・　運動や健康についての自他の課題を発見し，合理的な解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝える力を養う。 ・　生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，明るく豊かな生活を営む態度を養う。

第３　各領域の内容

▲：他校種とのつながり，　★：他教科とのつながり
※：特に配慮を要する事項，◆：参考事項（神戸の特色等）

Ａ　体つくり運動系（体つくりの運動遊び・体つくり運動）　凡例：◎…運動遊びが苦手な児童への配慮の例

	指導内容	内容の取扱い
第１・２学年　体つくり運動	（１）知識及び運動 次の運動遊びの楽しさに触れ，その行い方を知るとともに，体を動かす心地よさを味わったり，基本的な動きを身に付けたりすること。 ア　体ほぐしの運動遊び ・手軽な運動遊びを行い，心と体の変化に気付いたり，みんなでかかわり合ったりすること。 ○伸び伸びとした動作で新聞紙やテープ，ボール，なわ，体操棒，フープといった操作しやすい用具などを用いた運動遊びを行うこと ○リズムに乗って，心が弾むような動作で運動遊びを行うこと ○動作や人数などの条件を変えて，歩いたり走ったりする運動遊びを行うこと ○伝承遊びや集団による運動遊びを行うこと ◎心や体の変化に気付くことが苦手…表情を表す絵や感情を表すカードを示し，自己の心や体の変化のイメージができるようにする。 ◎友達と楽しく運動をすることが苦手…友達とハイタッチや拍手で喜びを共有するなど，共に運動遊びをする楽しい雰囲気を実感することができるようにする。	・以下の運動は，それぞれの学年で指導するものとする。 ・「心と体の変化に気付く」とは，体を動かすと気持ちがよいことや，力いっぱい動くと汗が出たり心臓の鼓動が激しくなったりすることなどに気付くことである。 ・「みんなでかかわり合う」とは，人それぞれに違いがあることを知り，だれとでも仲良く協力したり助け合ったりして運動遊びを行い，友達と一緒に体を動かすと楽しさが増すことや，つながりを体験することである。
	イ　多様な動きをつくる運動遊び ・体のバランスをとる動き，体を移動する動き，用具を操作する動き，力試しの動きをすること。 （ア）体のバランスをとる運動遊び ○回るなどの動きで構成される運動遊び ○寝転ぶ，起きるなどの動きで構成される運動遊び ○座る，立つなどの動きで構成される運動遊び ○体のバランスを保つ動きで構成される運動遊び ◎回るなどの動きでバランスをとることが苦手…できそうなところに目印を置いて回ったり，軸になる足の位置に輪を置いたりするなど，回りやすくする場を設定する。 ◎足の裏を合わせて座った姿勢のまま転がって起きることが苦手	・姿勢や方向，人数を変えて，回る，寝転ぶ，起きる，座る，立つなどの動きやバランスを保つ動きで構成される運動遊びを通じて，体のバランスをとる動きを身に付けることができるようにする。 ・姿勢，速さ，リズム，方向などを変えて，這う，歩く，走る，跳ぶ，はねるなどの動きで構成される運動遊びや一定の速さでのかけ足などの運動遊びを通して，様々な行い方で体を移動す

	…補助を受けながら，体の重心をゆっくりと移動する動きを身に付けるようにする。 ◎二人組になって同時に座る，立つなどの動きが苦手…補助を受けながら単独での動きを試みる。 ◎体のバランスを保つ動きが苦手…個別に行い方を説明したり，友達の行い方を見ながら真似をしたりする。	る動きを身に付けることができるようにする。 ・用具をつかむ，持つ，降ろす，回す，転がす，くぐる，運ぶ，投げる，捕る，跳ぶ，用具に乗るなどの動きで構成される運動遊びを通して，用具を操作する動きを身に付けることができるようにする。
第1・2学年 体つくり運動	（イ）体を移動する運動遊び ○這う，歩く，走るなどの動きで構成される運動遊び ○跳ぶ，はねるなどの動きで構成される運動遊び ○一定の速さでのかけ足 ◎様々な行い方で這ったり，歩いたり，走ったりすることが苦手…友達の行い方の真似をしたり，友達の後について行ったりするなど，体の動かし方が分かるようにする。 ◎跳ぶ，はねるなどの動きが苦手…跳ぶ方向が分かるよう矢印を置いたり，はねた際に手でタッチできるよう目印をぶら下げたりするなど，場や用具を準備する。 ◎一定の速さでのかけ足が苦手…継続できる速さを助言したり，音楽に合わせるようにしたり，友達とかけ声を合わせながら走ったりする。 （ウ）用具を操作する運動遊び ○用具をつかむ，持つ，降ろす，回す，転がすなどの動きで構成される運動遊び ○用具をくぐるなどの動きで構成される運動遊び ○用具を運ぶなどの動きで構成される運動遊び ○用具を投げる，捕るなどの動きで構成される運動遊び ○用具を跳ぶなどの動きで構成される運動遊び ○用具に乗るなどの動きで構成される運動遊び ◎回す，転がすなど用具を操作することが苦手…ボールやフープなど用具の大きさ，柔らかさ，重さを変えて操作しやすくする。 ◎用具を投げる，捕るなどの動きが苦手…新聞紙を丸めた球や新聞紙で作った棒，スポンジのボールなど，恐怖心を感じにくい用具を用いたり，紙鉄砲を用いた遊びを取り入れたりする。 ◎なわを跳んだり，くぐったりすることが苦手…跳び越す位置や動き方を示したり，かけ声によってタイミングを合わせることができるようにしたりする。	・人を押す，引く，運ぶ，支えるなどしたり，力比べをしたりするなどの動きで構成される運動遊びを通して，力を出しきったり，力を入れたり緩めたりする力試しの動きを身に付けることができるようにする。

	（エ）力試しの運動遊び ○人を押す，引く動きや力比べをする動きで構成される運動遊び ○人を運ぶ，支えるなどの動きで構成される運動遊び ◎すもう遊びや力比べが苦手…力を入れたり緩めたりする行い方について助言したり，力を加減するタイミングをつかめるように声をかけたりする。 ◎友達を引きずったり，おんぶをしたりする動きが苦手…補助を受けながら行ったり，動く距離を短くしたりする。 ◎体を支える動きが苦手…肘を曲げずに手の平で地面や床を押したり目線を地面や床と平行にしたりすることができるよう助言する。	
第1・2学年 体つくり運動	（2）思考力，判断力，表現力等 体をほぐしたり多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに，考えたことを友達に伝えること	・楽しくできる体ほぐしの運動遊びや多様な動きをつくる運動遊びを選ぶこと。 ・友達のよい動きを見付けたり，工夫したりした楽しい遊び方を友達に伝えること。 ・それぞれの学年で指導するものとする。
	（3）学びに向かう力，人間性等 運動遊びに進んで取り組み，きまりを守りだれとでも仲良く運動をしたり，場の安全に気を付けたりすること。 ◎体を動かすことを好まない…教室から友達と手をつないで体育館や運動場に移動するなど，授業前から友達と関わりながら自然に運動遊びに加わっていくことができるようにする。 ◎友達と関わり合うことに意欲的になれない…ペアやグループで調子を合わせて動くことによって，気持ちも弾んでくることが実感できる運動遊びを準備したり，意欲が感じられる児童のつぶやきや動きを取り上げて共感したりする。	・体ほぐしの運動遊びや多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組むこと。 ・運動遊びをする際に，順番やきまりを守り，だれとでも仲良くすること。 ・運動遊びで使用する用具の準備や片付けを，友達と一緒にすること。 ※危険物が無いか，友達とぶつからない十分な間隔があるかなどの場の安全に気を付けること。 ・それぞれの学年で指導するものとする。
第3・4学年 体つく	（1）知識及び運動 次の運動の楽しさや喜びに触れ，その行い方を知るとともに，体を動かす心地よさを味わったり，基本的な動きを身に付けたりすること。 ア　体ほぐしの運動 ・手軽な運動を行い，心と体の変化に気付いたり，みんなでかかわり合ったりすること。 ○伸び伸びとした動作でボール，なわ，体操棒，フープといった用具などを用いた運動を行うこと	・以下の運動は，それぞれの学年で指導するものとする。 ※「心と体の変化に気付く」とは，体を動かすと心も弾み，体の動きが軽快になることや，体の力を抜くと気持ちがよいこと，汗をかいた後は気分もすっきりするなど，運動により心や体が

り運動	○リズムに乗って，心が弾むような動作で運動を行うこと ○動作や人数などの条件を変えて，歩いたり走ったりする運動を行うこと ○伝承遊びや集団による運動を行うこと ◎伸び伸びとした動作で運動をすることが苦手…低学年の体ほぐしの運動遊びで行った運動を繰り返し，なじみの深い簡単な運動を行ってみる。 ◎心や体の変化に気付くことが苦手…気持ちや体の変化を表す言葉を示したり，問いかけたりし，自己の心や体の変化に合った言葉のイメージができるようにする。 ◎友達と関わり合いながら運動をすることが苦手…ペアやグループの組み方を考慮し，安心して活動に取り組めるようにする。	変化することに気付くことである。 ・「みんなでかかわり合う」とは，運動を通して自他の心と体に違いがあることを知り，だれとでも仲良く協力したり助け合ったりして様々な運動をすると楽しさが増すことや，友達とともに体を動かすと心のつながりを感じ，体を動かすことへの不安が解消されることなどを体験することである。
	指導内容	内容の取扱い
第3・4学年 体つくり運動	イ　多様な動きをつくる運動 ・体のバランスをとる動き，体を移動する動き，用具を操作する動き，力試しの動きをしたりするとともに，それらを組み合わせること。 (ア) 体のバランスをとる運動 ○回るなどの動きで構成される運動 ○寝転ぶ，起きるなどの動きで構成される運動 ○座る，立つなどの動きで構成される運動 ○渡るなどの動きで構成される運動 ○体のバランスを保つ動きで構成される運動 ◎片足を軸にして回りながら移動する動きが苦手…片足で回ることを連続して行ったり，ケンケンパで半回転をしたりする。 ◎渡るなどの動きが苦手…平面に描いた細い通路や，新聞紙や段ボールなどで作った用具を用いて，広さや高さを易しくした場づくりをする。 ◎バランスを保つ動きが苦手…一定の距離をケンケンで進んだり，バランスをとりながら単独で立ったりするなど易しい動きを示す (イ) 体を移動する運動 ○這う，歩く，走るなどの動きで構成される運動 ○跳ぶ，はねるなどの動きで構成される運動 ○登る，下りるなどの動きで構成される運動 ○一定の速さでのかけ足 ◎這う，歩く，走るなどの動きが苦手…広い場所で前や後ろに移動したり，物や用具の間をゆっくりと移動したりするなど易しい条	・姿勢や方向，人数を変えて，回る，寝転ぶ，起きる，座る，立つ，渡るなどの動きやバランスを保つ動きで構成される運動を通して，体のバランスをとる動きを身に付けることができるようにする。 ・姿勢，速さ，リズム，方向などを変えて，這う，歩く，走る，跳ぶ，はねる，登る，下りるなどの動きで構成される運動や，一定の速さでのかけ足などの運動を通して，体を移動する動きを身に付けることができるようにする。 ・用具をつかむ，持つ，降ろす，回す，転がす，くぐる，運ぶ，投げる，捕る，跳ぶ，用具に乗る，跳び越すなどの動きで構成される運動を通して，巧みに用具を操作する動きを身に付けることができるようにする。

	件で行うことができるようにする。 ◎いろいろな跳び方やはねる動きが苦手…できる動きやできそうなことを繰り返し行いながら，できる動きを徐々に増やせるようにする。 ◎登る，下りるなどの動きが苦手…肋木や登り棒等に目印を付け，段階的に挑戦していくことができるようにしたり，肋木や登り棒の足元にマットを敷くなどにより，下りやすい場づくりをしたりする。 ◎一定の速さで続けて走ることが苦手…リズムよくしっかりと息を吐きながら，続けることができる速さで行うことを個別に助言する。	・人や物を押す，引く，運ぶ，支える，ぶら下がるなどの動きや，力比べをするなどの動きで構成される運動の行い方を知り，力を出し切ったり力の入れ方を加減したりする動きができるようにする。 ・バランスをとりながら移動する，用具を操作しながら移動するなど二つ以上の動きを同時に行ったり，連続して行ったりする運動を通して，基本的な動きの組み合わせた動きを身に付けることができるようにする。
第3・4学年 体つくり運動	（ウ）用具を操作する運動 ○用具をつかむ，持つ，降ろす，回すなどの動きで構成される運動 ○用具を転がす，くぐる，運ぶなどの動きで構成される運動 ○用具を投げる，捕る，振るなどの動きで構成される運動 ○用具を跳ぶなどの動きで構成される運動 ○用具に乗るなどの動きで構成される運動 ◎用具をつかむ，転がす，投げるなどが苦手…用具の大きさや重さ，長さ，柔らかさなどを変えて動きを易しくする。 ◎用具を捕ることが苦手…転がったり，弾んだりしたボールを捕るなど，易しい行い方にする。 ◎用具を跳ぶ動きが苦手…踵を上げて跳ぶことや手首の使い方がつかめるよう，用具を持たずにその場で跳んだり，弾みやすい場所で行ったりする。 ◎用具に乗るなどの動きが苦手…二人組や三人組で体を支えて補助をし合ったり，器具等につかまりながら進んだりする。 （エ）力試しの運動 ○人を押す，引く動きや力比べをするなどの動きで構成される運動 ○人を運ぶ，支えるなどの動きで構成される運動 ○物にぶら下がるなどの動きで構成される運動 ◎人を押す，引く動きが苦手…膝を曲げて腰を低くした構えで，安定した姿勢で行えるようにする。 ◎人を運ぶ，支える動きが苦手…補助を受けながらゆっくりと動いたり，手のひらでしっかりと地面や床を押し付けたりして行うこ	・それぞれの学年で指導するものとする。

	とができるようにする。 （オ）基本的な動きを組み合わせる運動 ○バランスをとりながら移動するなどの動きで構成される運動 ○用具を操作しながら移動するなどの動きで構成される運動 ○用具を操作しながらバランスをとるなどの動きで構成される運動 ◎物を持ったりかついだりして，バランスをとりながら移動することが苦手…物を持たずに移動，または小さい物を持って移動するなどの簡単な動きから始めるようにする。 ◎回旋する長なわを跳びながらボールを操作することが苦手…止めた長なわを跳び越しながら操作したり，ボールを持ったまま回旋する長なわを跳んだりするなど，基本的な動きの習熟を図りながら組み合わせた動きに高めていけるようにする。 ◎ボールを投げ上げ，移動して捕ることが苦手…友達に投げ上げてもらったボールを移動して捕るなど，行い方を変える。 ◎ペアになり，各々が立てたり回したりしたフープや棒をすばやく相手と場所を入れ替わって捕らえることが苦手…ペアとの距離を調整したり，易しいフープや棒を用いる。	
第3・4学年 体つくり運動	（2）思考力，判断力，表現力等 自己の課題を見付け，その解決のための活動を工夫するとともに，考えたことを友達に伝えること。	・体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動についての自己の課題を見付け，その課題を解決するために様々な運動の行い方を選んだり，友達と一緒に工夫したりすること。 ★楽しく運動をしながら心と体の変化に気付いたことや，友達とかかわり合ったり，多様な動きを身に付けたりするための運動の行い方について，考えたことや見付けたことを友達に伝えること。 ・それぞれの学年で指導するものとする。
	（3）学びに向かう力，人間性等 運動に進んで取り組み，きまりを守り誰とでも仲良く運動をしたり，友達の考えを認めたり，場や用具の安全に気を付けたりすること。 ◎運動の行い方が分からないために意欲的に取り組めない…友達の様子を見ながら，その真似をして体を動かし徐々に運動に加わることができるようにする。	・体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動に進んで取り組むこと。 ・運動を行う際にきまりを守り，だれとでも仲良く励まし合うこと。 ・使用する用具の準備や片付けを，友達と一緒にすること。 ・友達の考えを認めたり，互いの気持ちを尊重し

	◎友達と関わり合うことが苦手で運動に取り組めない… 意欲的に取り組む児童とペアやグループを組み，友達の動きに刺激を受けて一緒に様々な運動に挑戦できるようにする。 ◎運動への興味や関心がもてず意欲的に取り組めない…体を動かしたり，みんなで運動をしたりすることのよさを個別に語ったり，易しい運動の行い方や場の設定，BGMなど環境の工夫をし，少しでも取り組もうとする行動を称賛したり，励ましたりする。	合ったりしようとすること。 ※活動の場の危険物を取り除いたり，用具や活動する場の安全を確かめたりすること。 ・それぞれの学年で指導するものとする。
第5・6学年 体つくり運動	（1）運動 次の運動の楽しさや喜びを味わい，その行い方を理解するとともに，体を動かす心地よさを味わったり，体の動きを高めたりすること。 ア　体ほぐしの運動 ・手軽な運動を行い，心と体との関係に気付いたり，仲間とかかわり合ったりすること。 〇伸び伸びとした動作で全身を動かしたり，ボール，なわ，体操棒，フープなどの用具などを用いた運動を行うこと 〇リズムに乗って，心が弾むような動作での運動を行うこと 〇ペアになって背中合わせに座り，互いの心や体の状態に気付き合いながら体を前後左右に揺らすなどの運動を行うこと 〇動作や人数などの条件を変えて，歩いたり走ったりする運動を行うこと 〇グループや学級の仲間と力を合わせて挑戦する運動を行うこと 〇伝承遊びや集団による運動を行うこと ◎心や体の変化に気付くことが苦手…二人組で気持ちや体の変化を話し合う場面をつくったり，運動を通して感じたことを確かめるような言葉がけをしたりする。 ◎仲間と関わり合いながら運動をすることが苦手…協力や助け合いが必要になる運動を仕組み，仲間と共に運動をすることのよさが実感できるよう言葉がけをする。 イ　体の動きを高める運動 ・ねらいに応じて，体の柔らかさ，巧みな動き，力強い動き，動きを持続する能力を高めるための運動をすること。 （ア）体の柔らかさを高めるための運動 〇徒手での運動 〇用具などを用いた運動	・以下の運動は，それぞれの学年で指導するものとする。 ※「心と体の関係に気付く」とは，運動すると心が軽くなったり，体の力を抜くとリラックスできたり，体の動かし方によって気持ちも異なることなど，心と体が関係し合っていることに気付くことである。 ・「仲間とかかわり合う」とは，運動を通して自他の心と体に違いがあることを理解し，仲間のよさを認め合うとともに，仲間の心と体の状態に配慮しながら豊かにかかわり合う楽しさや大切さを体験することである。 ・「体の柔らかさを高めるための運動」とは，体の各部位の可動範囲を広げる体の動きを高めることをねらいとして行う運動である。

	◎体の各部位を伸ばしたり曲げたり，その姿勢を維持したりすることが苦手…息を吐きながら脱力をし，ゆっくりと体を伸展できるような言葉がけをする。 ◎一定の空間をくぐり抜けたり，前屈して用具を操作したりすることが苦手…空間を広げたり，十分な前屈ができなくても操作しやすい用具を用いたりする。	
第5・6学年 体つくり運動	（イ）巧みな動きを高めるための運動 ○人や物の動き，場の状況に対応した運動 ○用具などを用いた運動 ◎人や物の動きに対応して動くことが苦手…動きをリードする児童が動作に合わせた言葉がけをしたり，ゆっくりとした動作をしたりする。 ◎用具を操作する運動が苦手…器具・用具や行い方を変えながら繰り返し行い，易しい動きから徐々に動きが高まっていくようにする。 ◎用具を操作することが得意…苦手な児童に補助をしやすいよう，ペアやグループの編成の仕方を工夫する。 （ウ）力強い動きを高めるための運動 ○人や物の重さなどを用いた運動 ◎人を持ち上げる，運ぶなどの動きが苦手…負担の少ない役割を果たすことから始め，徐々に力強い動きに挑戦できるようにする。 ◎押し，寄りを用いてすもうをすることが苦手…膝を曲げて腰を低くして構えることや，足裏全体を使って進むことなどの基本的な動きを意識したり，体格が同じ程度の相手と繰り返して行い，安心して活動ができるようにしたりする。 ◎全身に力を込めて登り棒につかまったり，肋木や雲梯にぶら下がったりすることが苦手…わずかずつでもできたことを取り上げて称賛したり，足が届く程度の高さで繰り返し行うようにしたりする。 （エ）動きを持続する能力を高めるための運動 ○時間やコースを決めて行う全身運動 ◎短なわや長なわを用いて跳び続けることが苦手…自分が得意な跳び方で行い，自分に合ったペースで一定時間連続したり，中断しながらでも延べ回数を増やしたりする。 ◎一定の時間続けて走ることが苦手…自己のペースで無理のない速さで走り，段階的に課題を設定するよう助言したり，息をしっか	・「巧みな動きを高めるための運動」とは，人や物の動き，または場所の広さや形状などの環境の変化に対応して，タイミングやバランスよく動いたり，リズミカルに動いたり，力の入れ方を加減したりする体の動きを高めることをねらいとして行う運動である。 ・「力強い動きを高めるための運動」とは，自己の体重を利用したり，人や物などの抵抗に対してそれを動かしたりすることによって，力強い動きを高めることをねらいとして行う運動である。 ・「動きを持続する能力を高めるための運動」とは，一つの運動または複数の運動を組み合わせて一定の時間続けて行ったり，一定の回数を反復して行ったりすることによって，動きを持続する能力を高めることをねらいとして行う運動である。 ・それぞれの学年で指導するものとする。

第5・6学年　体つくり運動	り吐くことや，腕をリズムよく振ることができやすくなるよう個別に言葉がけをしたりする。 ◎一定の動きを繰り返しながら続けて行うことが苦手…リズムに合わせて動くことができるようＢＧＭを利用したり，ペアやグループで一緒に動いたりすることができるようにする。	
	（2）思考力，判断力，表現力等 自己の体の状態や体力に応じて，運動の行い方を工夫するとともに，自己の仲間の考えたことを他者に伝えること。	防災 ・体ほぐしの運動や体の動きを高める運動について，自己の心と体の状態や体力に応じて運動の課題や行い方を選ぶこと。 ★体をほぐしたり，体の動きを高めたりするために自己やグループで考えた運動の行い方を他者に伝えること。 ・それぞれの学年で指導するものとする。
	（3）学びに向かう力，人間性等 運動に積極的に取り組み，約束を守り助け合って運動をしたり，仲間の考えや取組を認めたり，場や用具の安全に気を配ったりすること。 ◎仲間との身体接触を嫌がる…バトンやひもなどの用具を用いて触れ合う運動を工夫する。 ◎仲間と共に活動することに意欲的に取り組めない…仲間と一緒に運動をすると楽しさが増すことを体験できるようにしたり，気持ちも弾んで心の状態が軽やかになることを感じることができるよう言葉がけをしたりする。 ◎自己の課題を見付けることに意欲的に取り組めない…仲間の行い方を見て真似をしながら運動を行ったり，仲間に気付きを言ってもらったりし，徐々に自己の課題を見付けていくことができるようにする。 ◎課題の解決の仕方がわからないために運動に意欲的に取り組めない…自己の課題を仲間に伝え，仲間からの助言を受けたり，同じような課題をもっている仲間の行い方の真似をしたりすることができるよう，ペアやグループの編成の仕方を工夫する。 ◎達成感をもてないために運動に意欲的に取り組めない…運動の記録をとるようにしたり，わずかな変化を見付けて称賛したりしながら，自己の体の動きが高まっていることに気付くことができるようにする。	・体ほぐしの運動や，体の動きを高める運動に積極的に取り組むこと。 ・運動を行う際の約束を守り，仲間と助け合うこと。 ・運動を行う場の設定や用具の片付けなどで，分担された役割を果たすこと。 ・運動の行い方について仲間の気付きや考え，取組のよさを認めること。 ※運動の場の危険物を取り除くとともに，用具の使い方や周囲の安全に気を配ること。 ・それぞれの学年で指導するものとする。

B　器械運動系（器械・器具を使っての運動遊び）凡例：◎…運動遊びが苦手な児童への配慮の例

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第1・2学年　器械運動	（1）　知識及び技能 次の運動遊びの楽しさに触れ，その行い方を知るとともに，その動きを楽しく行い，その動きを身に付けられるようにする。 ア　固定施設を使った運動遊び ・登り下りや懸垂移行，渡り歩きや跳び下りをすること。 ○ジャングルジム（登り下り，渡り歩き，逆さ姿勢） ○雲梯（懸垂移行，渡り歩き） ○登り棒（登り下り，逆さ姿勢） ○肋木（登り下り，懸垂移行，腕立て移動） ○平均台（渡り歩き，跳び下り） ◎ジャングルジムを使った運動遊びで，登ることが苦手…低い場所に音の鳴る教具を付けることで登ることへの興味を喚起したり，低い場所を横に移動したりして，高さに慣れるようにする。 ◎雲梯を使った運動遊びで，体を揺らして移動することが苦手…体を支えて移動できるように補助をしたり，少し斜めを向いた姿勢で片手ずつ動かして移動できるように助言したりして，懸垂の姿勢と体の揺れを使って移動できる動きが身に付くようにする。 ◎登り棒を使った運動遊びで，足が滑って登ることが苦手…ハチマキなどを巻いて節をつくり，足が滑らないようにする。 ◎肋木を使った運動遊びで，ぶら下がって移動することが苦手…足を上げてポーズをとったり，足を振ってみたりするなど，ぶら下がってできる運動遊びをしたり，手で支えて移動することが苦手な児童には，高さごとに色分けした場で，同じ色の高さを横に歩いたり，色の違う高さに登ったり移動したりできるようにして，取り組みやすい場にする。 ◎平均台を使った運動遊びで，バランスを保つことが苦手…床のライン上で姿勢よく体重移動ができるように歩いたり，高さのあるところでは手をつないだりする。 イ　マットを使った運動遊び ・いろいろな方向への転がり，手で支えての体の保持や回転をすること。	・固定施設を使った運動遊びの行い方を知る。 ▲ジャングルジムや雲梯，登り棒，肋木，平均台などで，いろいろな登り下りやぶら下がり，懸垂移行，渡り歩き，跳び下りをしたり，逆さの姿勢をとったりして遊ぶ。 ・マットを使った運動遊びの行い方を知る。 ・マットに背中や腹をつけていろいろな方向へ転がったり，手や背中で支えて逆立ちをしたり，体を

	指導内容	内容の取扱い
第1・2学年 器械運動	○ゆりかご，前転がり，後ろ転がり，だるま転がり，丸太転がり ○背支持倒立(首倒立)，うさぎ跳び，かえるの足打ち，壁登り逆立ち，支持での川跳び，腕立て川跳びこし，ブリッジ ◎前や後ろへ転がることが苦手…体を丸めて揺れるゆりかごに取り組んだり，傾斜のある場で勢いよく転がるように取り組んだりして， 転がるための体の動かし方が身に付くように練習の仕方や場を設定する。 ◎手で体を支えて移動することが苦手…手や足を移動する場所や目線の先にマークを置くなどして，支持で移動できる体の動かし方が身に付くように教具や場を設定する。	そらせたりして遊ぶ。
	ウ　鉄棒を使った運動遊び ・支持しての揺れや上がり下り，ぶら下がりや易しい回転をすること。 ○ほとん干しやこうもり，さる，ぶたの丸焼き ○ツバメ　○跳び上がり，跳び下り　○易しい回転 ◎体を揺らすことが苦手…腕や頭を動かして反動をつけたり，補助を受けて体を軽く揺らしたりして，揺れるための体の動かし方が身に付くようにする。 ◎鉄棒上で支えたりバランスをとることが苦手…伸ばす部位を助言したり支持しているときの目線の先を示したりして，バランスをとる動きが身に付くようにする。 ◎跳び上がることが苦手…台などを設置して，支持や跳び上がりなどを行いやすい場を設定する。 ◎回転することが苦手…腹を掛けて揺れたり，補助や補助具などを使って回転したりして，体を丸めて勢いよく回転する体の動かし方が身に付くようにする。	・鉄棒を使った運動遊びの行い方を知る。 ・鉄棒を使って，手や腹，膝で支持したり，ぶら下がったり，揺れたり，跳び上がったり，跳び下りたり，易しい回転をして遊ぶ。
	エ　跳び箱を使った運動遊び ・跳び乗りや跳び下り，手を着いてのまたぎ乗りや跳び下りをすること。 ○踏み越し跳び　○支持でのまたぎ乗り・またぎ下り，支持での跳び乗り・跳び下り ○馬跳び，タイヤ跳び ◎踏み越し跳びや手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下り，手を着いての跳び乗りや跳び下りが苦手…高さを	・跳び箱を使った運動遊びの行い方を知る。 ・跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りをしたり，馬跳びやタイヤ跳びをしたりするなどして遊ぶ。

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第1・2学年　器械運動	低くしたり，跳び箱の手前に台を置いて跳び乗りやすくしたりして，手で支えたり，跳んだりする動きが身に付くように場を設定する。 ◎馬跳びやタイヤ跳びが苦手…床でうさぎ跳びやかえるの足打ち，かえるの逆立ちなどを行い，手で支えたり跳んだりする動きが身に付くようにする。	
	（2）　思考力，判断力，表現力等 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに，考えたことを友達に伝えることができるようにする。	・楽しくできる場や遊び方を選ぶ。 ★友達のよい動きを見付けたり，考えたりしたことを擬音語や擬態語で表現したり，学習カードに書いたりして友達に伝える。
	（3）学びに向かう力，人間性等 運動遊びに進んで取り組み，順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり，場や器械・器具の安全に気を付けたりできるようにする。 ◎怖くて運動遊びに取り組めない…器械・器具の高さを変えたり，痛くないように配慮した場を設定したりして，条件を変えた場を複数設定して選択できるようにする。 ◎自信がもてない…成功回数が多くなる簡単な運動遊びを取り入れたり，できたことを称賛したりして，肯定的な働きかけができるようにする。 ◎恥ずかしがる…二人組で手をつないで跳び下りたり，集団で転がったりできる運動遊びを取り入れたりし，友達と一緒に運動遊びをする楽しさに触れることができるようにする。	・順番やきまりを守り，誰とでも仲よくする。 ・準備や片付けを，友達と一緒にする。 ※場の安全に気を付ける。
	（1）　知識及び技能 次の運動遊びの楽しさや喜びに触れ，その行い方を知るとともに，その技を身に付けられるようにする。 ア　マット運動 ・回転系や巧技系の基本的な技をすること ○前転（開脚前転）　○易しい場での開脚前転 ○後転　○開脚後転 ○補助倒立ブリッジ（倒立ブリッジ） ○側方倒立回転（ロンダート）	・マット運動の行い方を知る。 ・自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技をする。 ・それらの発展技に取り組んだり，技を繰り返したりする。

	指導内容	内容の取扱い
第3・4学年 器械運動	○首はね起き（頭はね起き）　○壁倒立（補助倒立） ○頭倒立 ◎前転が苦手…ゆりかごなどの体を揺らす運動遊びや，かえるの逆立ちなどの体を支える運動遊びに取り組んだり，傾斜を利用して回転に勢いをつけて転がりやすくしたりする。 ◎易しい場での開脚前転が苦手…脚が曲がらないように太ももに力を入れたり，両脚を勢いよく振り下ろしてマットに接地したりして，脚の伸ばし方や回転の勢いをつける動きが身に付くようにする。 ◎後転が苦手…ゆりかごなどの体を揺らす運動遊びや，かえるの逆立ちなどの体を支える運動遊びに取り組んだり，傾斜を利用して回転に勢いをつけて転がりやすくしたりして，腰を上げたり，体を支えたり，回転の勢いをつけたりする動きが身に付くようにする。 ◎開脚後転が苦手…脚を伸ばしたゆりかごで体を揺らしたり，かえるの逆立ちなどの体を支えたりする運動遊びに取り組んだり，傾斜を利用して回転に勢いをつけて転がりやすくしたりして脚を伸ばしたり，腰を上げたり，体を支えたり，回転の勢いをつけたりする動きが身に付くようにする。 ◎補助倒立ブリッジが苦手…壁登り逆立ちや背支持倒立（首倒立）などの逆さまで体を支える運動遊びに取り組んだり，ブリッジなどの体を反らす運動遊びに取り組んだりして，体を支えたり，逆さまで体を反らしたりする動きが身に付くようにする。 ◎側方倒立回転が苦手…壁登り逆立ちや支持での川跳びなどの体を支えたり，逆さまになる運動遊びに取り組んだり，脚を勢いよく振り上げるためにゴムなどを活用したり，補助を受けたりして，腰を伸ばした姿勢で回転できる動きが身に付くようにする。 ◎首はね起きが苦手…壁登り逆立ちや背支持倒立（首倒立）などの逆さまで体を支える運動遊びや，ブリッジなどの体を反らす運動遊びに取り組んだり，腰を上げた仰向けの姿勢からはねてブリッジをしたり，段差を利用して起き上がりやすくしたりして，逆さまで体を支えて体を反らしたり，手でマットを押したり，反動を利用して起き上がる動きが身に付くようにする。 ◎壁倒立が苦手…肋木や壁を活用した運動遊びに取り組	・基本的な技とは，類似する技のグループの中で，最も初歩的で易しい技でありながら，グループの技に共通する技術的な課題をもっていて，当該学年で身に付けておきたい技のことである。

	指導内容	内容の取扱い
第3・4学年 器械運動	んだり，脚を勢いよく振り上げるためにゴムなどを活用したりして，体を逆さまにして支えたり，脚を勢いよく振り上げたりする動きが身に付くようにする。 ◎頭倒立が苦手…かえるの逆立ちや背支持倒立（首倒立）などの逆さまで体を支える運動遊びに取り組んだり，肋木，壁を活用した運動遊びに取り組んだりし，体を逆さまにして支える動きが身に付くようにする。 イ　鉄棒運動 ・支持系の基本的な技をすること。　※（　）内は発展技 ○前回り下り（前方支持回転） ○かかえこみ前回り（前方支持回転） ○転向前下り（片足踏み越し下り） ○膝掛け振り上がり（膝掛け上がり） ○前方片膝回転（前方もも掛け回転） ○補助逆上がり（逆上がり） ○かかえ込み後ろ回り（後方支持回転） ○後方片膝掛け回転（後方もも掛け回転） ○両膝掛け倒立下り（両膝掛け振下り） ◎前回り下りが苦手…ふとん干しなどの鉄棒に腹を掛けて揺れる運動遊びに取り組んだり，補助を受けて回転しやすくしたりして，勢いのつけ方や体を丸めて鉄棒から離さない動きが身に付くようにする。 ◎かかえ込み前回りが苦手…ふとん干しの姿勢から脚を抱えて揺れたり，支持の姿勢からふとん干しを繰り返したりするなどの鉄棒に腹を掛けて揺れる運動遊びに取り組んだり，補助や補助具で回転しやすくしたりして，勢いのつけ方や体を丸めて鉄棒から離さない動きが身に付くようにする。 ◎転向前下りが苦手…ツバメの姿勢から鉄棒上に片脚を掛けて座ったり，台などを設置して足を台上につけて行ったりして，バランスをとる動きが身に付くようにする。 ◎膝掛け振り上がりが苦手…片膝を掛けて大きく振れるように，補助を受けて回転したり，鉄棒に補助具をつけて回転しやすいようにしたりして，振りの勢いを利用して起き上がる動きが身に付くようにする。 ◎前方片膝掛け回転が苦手…鉄棒上に片脚を掛けて座ったり，鉄棒に片膝を掛けて揺れたりして，バランスをとって回転を開始する姿勢をつくったり，体を揺らし	・鉄棒運動の行い方を知る。 ・自己の能力に適した，支持系の基本的な技をする ・それらの発展技に取り組んだり，技を繰り返したり組み合わせたりする。

	指導内容	内容の取扱い
第3・4学年 器械運動	てから振りの動きを利用して回転したりする動きが身に付くようにする。 ◎補助逆上がりが苦手…ダンゴムシや足抜き回り，ふとん干しから支持の姿勢を繰り返すなどの運動遊びに取り組み，体を鉄棒に引きつけたり，回転したり，腹支持から起き上がる動きが身に付くようにする。 ◎かかえ込み後ろ回りが苦手…ふとん干しの姿勢で揺れたり， ふとん干しの姿勢から脚を抱えて揺れたりするなどの鉄棒に腹を掛けて揺れる運動遊びに取り組んだり，補助や補助具で回転しやすくしたりして， 勢いのつけ方や体を丸めて鉄棒から離さない動きが身に付くようにする。 ◎後方片膝掛け回転が苦手…ツバメの姿勢から鉄棒上に片脚を掛けて座って反対側の足を振ったり，鉄棒に片膝を掛けて揺れたりして， バランスをとって回転を開始する姿勢をつくったり，体を揺らしてから振りの動きを利用して回転したりする動きが身に付くようにする。 ◎両膝掛け倒立下りが苦手…こうもりで揺れたり，足抜き回りなどで鉄棒に脚を掛けて逆さまでぶら下がったり，揺れたり，懸垂の姿勢から前後に回転したりする運動遊びに取り組み，逆さまで体を動かしたり， 鉄棒に足を掛けたりする動きが身に付くようにする。	
	ウ　跳び箱運動 ・切り返し系や回転系の基本的な技をすること。 ○開脚跳び（かかえ込み跳び） ○台上前転（伸膝台上前転） ○首はね跳び（頭はね跳び） ◎開脚跳びが苦手…マットを数枚重ねた上に跳び箱１段を置いて，手を着きやすくしたり，跳び越しやすくしたりして，踏切り–着手– 着地までの動きが身に付くようにする。 ◎台上前転が苦手…マットを数枚重ねた場で前転したり，マット上にテープなどで跳び箱と同じ幅にラインを引いて，速さのある前転をしたり，真っ直ぐ回転する前転をしたりして，腰を上げて回転する動きが身に付くようにする。 ◎首はね跳びが苦手…マットを数枚重ねた場や低く設置	・跳び箱運動の行い方を知る。 ・自己の能力に適した切り返し系や回転系の基本的な技をする。 ・それらの発展技に取り組む。

	指導内容	内容の取扱い
第3・4学年 器械運動	した跳び箱，ステージなどを利用して体を反らせてブリッジをしたり，場でつくった段差と補助を利用して首はね起きを行ったりしながら，体を反らしてはねたり，手で押したりする動きが身に付くようにする。	
	（2） 思考力，判断力，表現力等 自己の能力に適した課題を見付け，技ができるようになるための活動を工夫するとともに，考えたことを友達に伝えること。	・学習カードや掲示物を用いて，自己の能力に適した課題を見付けるようにする。 ・技のできばえを視覚的に振り返って，自己の能力に適した課題を見付けるようにする。 ・自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選ぶ。 ★見つけたポイントを友達に伝える。 ・目印を置くなどして，友達の技のできばえを伝える。
	（3） 学びに向かう力，人間性等 運動に進んで取り組み，きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり，友達の考えを認めたり，場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。 ◎技への恐怖心がある…落ちても痛くないようにマットを敷いたり，回転しやすいように鉄棒に補助具を付けたりして，場を工夫する。 ◎技への不安感がある…必要な体の動かし方や運動感覚が身に付くように，低学年で学習した運動遊びに取り組む場を設定する。 ◎技に繰り返し取り組もうとしない…着地位置に目印を置いて自己評価をできるようにしたり，ゲーム化した運動遊びにグループで取り組めるようにしたりする。 ◎友達とうまく関わって学習することができない…手や足の位置に目印を置いたり，回数を数えたりする役割ができるようにする。	・器械・器具の正しい使い方や試技をする前の待ち方，技を観察するときなどのきまりを守る。 ・誰とでも仲よく励まし合う態度を大切にする。 ・器械・器具の準備や片付けを友達と一緒にする。 ・互いの動きを見合ったり，補助し合ったりする。 ・友達の考えを認める態度を大切にする。 ※場の安全を確かめる。
	（1） 知識及び技能 次の運動遊びの楽しさや喜びを味わい，その行い方を理解するとともに，その技を身に付けられるようにする。	

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第5・6学年　器械運動	ア　マット運動 ・回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり，その発展技を行ったり，それらを繰り返したり組み合わせたりすること。　　※（　）内は発展技 ○開脚前転（易しい場での伸膝前転） ○補助倒立前転（倒立前転，跳び前転） ○伸膝後転（後転倒立） ○倒立ブリッジ（前方倒立回転，前方倒立回転跳び） ○ロンダート　○頭はね起き ○補助倒立（倒立） ◎開脚前転が苦手…前転の起き上がる速さをつけたり，傾斜を利用したりして，勢いをつけて回転する動きが身に付くようにする。 ◎補助倒立前転が苦手…壁倒立をしたり，跳び箱や台などの上に足を置き，逆さの姿勢からの前転を行ったり，壁登り逆立ちから補助を受けながら前転したりして，倒立の姿勢からの前転を行う動きが身に付くようにする。 ◎伸膝後転が苦手…足を伸ばしたゆりかごで体を揺らしたり，傾斜を利用して回転に勢いをつけて転がりやすくしたりして，腰を上げたり，足を伸ばして回転の勢いを付けたりする動きが身に付くようにする。 ◎倒立ブリッジが苦手…壁登り逆立ちや壁倒立，ブリッジなどの逆さまで体を支える運動遊びや，体を反らす運動遊びに取り組んだりして，倒立したり，体を反らす動きが身に付くようにする。 ◎ロンダートが苦手…手や足を着く場所が分かるように目印を置くなどして練習したり，側方倒立回転で足を勢いよく振り上げたりして，腰を伸ばした姿勢で体をひねる動きが身に付くようにする。 ◎頭はね起きが苦手…頭倒立や壁倒立などをしたり，首はね起きや頭倒立からブリッジなどに取り組んだり，また段差を利用して起き上がりやすくしたりして，逆さまで体を支え，体を反らし反動を利用して起き上がる動きが身に付くようにする。 ◎補助倒立が苦手…壁登り逆立ちや壁倒立などをして，体を逆さまにして支えたり，足を振り上げたりする動きが身に付くようにする。	・マット運動の行い方を理解する。 ・回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり，その発展技に取り組んだりする。 ・選んだ技を繰り返したり，組み合わせたりする。

	指導内容	内容の取扱い
第5・6学年 器械運動	イ　鉄棒運動 ・支持系の基本的な技を安定して行ったり，その発展技を行ったり，それらを繰り返したり組み合わせたりすること。　※（ ）内は発展技 ○前方支持回転（前方伸膝支持回転） ○片足踏み越し下り（横跳びこし下り） ○膝掛け上がり（もも掛け上がり） ○前方もも掛け回転 ○逆上がり ○後方支持回転（後方伸膝支持後転） ○後方もも掛け回転　○両膝掛け振動下り ○技の組み合わせ ◎前方支持回転が苦手…ツバメの姿勢からふとん干しを繰り返したり，補助や補助具で回転しやすくしたりして，勢いのつけ方や体を丸めて鉄棒から離さない動きが身に付くようにする。 ◎片足踏み越し下りが苦手…ツバメの姿勢から鉄棒上に片足を掛けて座ったり，ツバメの姿勢で鉄棒上を横に移動したり，片手ずつ順手から逆手，逆手から順手に握りかえるなどの運動に取り組んだりして，バランスをとって鉄棒上で体を操作するための動きが身に付くようにする。 ◎膝掛け上がりが苦手…両手でぶら下がって体を前後に揺らしたり，片膝を掛けて大きく揺らしたり，足抜き回りなどの運動遊びに取り組んだり，補助を受けて回転したり，鉄棒に補助具をつけて回転しやすいようにしたりして，片膝を掛け振りの勢いを利用して上がる動きが身に付くようにする。 ◎前方もも掛け回転が苦手…ツバメの姿勢から鉄棒上に片足を掛けて座ったり，鉄棒に片膝を掛けて揺れたりするなど，バランスをとって回転を開始する姿勢をつくったり，体を揺らしてから振りの動きを利用して回転したりする動きが身に付くようにする。 ◎逆上がりが苦手…体を鉄棒に引きつける運動に取り組んだり，補助や補助具を利用して足を振り上げながら後方回転をしたりして，体を上昇させながら鉄棒に引きつけ回転する動きが身に付くようにする。	・鉄棒運動では，その行い方を理解するとともに，自己の能力に適した支持系の基本的な技を安定して行ったり，その発展技に取り組んだりすること。また，選んだ技を自己やグループで繰り返したり，組み合わせたりすること。

	指導内容	内容の取扱い
第5・6学年 器械運動	◎後方支持回転が苦手…ツバメの姿勢で足を前後に振って体を曲げたり，補助や補助具で回転しやすくしたりして，勢いのつけ方や体を丸めて回転する動きが身に付くようにする。 ◎後方もも掛け回転が苦手…ツバメの姿勢から鉄棒上に片足を掛けて座ったり，片足を鉄棒から離したりしながら反対側の足を振ったり，また鉄棒に片膝を掛けて揺れたりするなど，バランスをとって回転を開始する姿勢をつくったり，体を揺らしてから振りの動きを利用して回転したりする動きが身に付くようにする。 ◎両膝掛け振動下りが苦手…両膝を掛けて体を揺らしたり，前を見て両膝を外したりする動きが身に付くように，こうもりで腕や頭を使って体を前後に揺らして前を見たり，二人の補助者と手をつないで体を前後に軽く揺らしながら前を見たりする運動に取り組めるようにする。	
	ウ　跳び箱運動 ・切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり，その発展技を行ったりすること。※（ ）内は発展技 〇かかえ込み跳び（屈伸跳び） 〇伸膝台上前転 〇頭はね跳び（前方屈腕倒立回転跳び） ◎かかえ込み跳びが苦手…マットを数枚重ねた場を設置して，手を着きやすくしたり，跳び越しやすくしたり，体育館のステージに向かって跳び乗ったりして，跳び越しやすい場で踏切り－着手－着地までの動きが身に付くようにする。 ◎伸膝台上前転が苦手…マットを数枚重ねた場や低く設置した跳び箱で腰を上げたり，速さのある前転をしたりして，膝を伸ばして回転する動きが身に付くようにする。 ◎頭はね跳びが苦手…マットを数枚重ねた場や低く設置した跳び箱，ステージを利用して体を反らせてブリッジをしたり，場でつくった段差と補助を利用して頭はね起きを行ったりしながら，体を反らしてはねたり，手で押したりする動きが身に付くようにする。	・跳び箱運動では，その行い方を理解するとともに，自己の能力に適した切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり，その発展技に取り組んだりすること。

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第5・6学年　器械運動	（2）　思考力，判断力，表現力等 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。	◆ＩＣＴ機器を活用して，自己やグループの課題を見付ける。 ・複数の場の中から，自己の課題に適した練習の場を選ぶ。 ・グループの中で互いに役割を決めて観察し合う。 ・技や演技のコツやわかったことを，文字や図で書いたり，映像を活用して発表したりするなどして，仲間やグループに伝える。
	（3）　学びに向かう力，人間性等 運動に積極的に取り組み，約束を守り助け合って運動をしたり，仲間の考えや取組を認めたり，場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。 ◎痛みへの不安感や技への恐怖心をもつ…ぶつかったり落ちたりしても痛くないように，器械・器具の横や下などにマットを敷いたり，補助者を付けたりする場を設定する。 ◎技に対する苦手意識が強い…必要な体の動かし方や運動感覚が身に付くように，取り組む技と類似した動き方をする運動遊びに取り組む時間や場を設定する。 ◎仲間とうまく関わって学習を進めることが難しい…技を観察するポイントや位置を示し，気付いたことなどを仲間に伝える時間や場を設定する。 ◎既に基本的な技を安定して行えるようになった…発展技に挑戦したりできる技を組み合わせたりして，新たな課題に取り組むことができる時間や場を設定する。	・互いに役割を決めて観察し合うなど，学習の仕方をや約束を守る。 ・準備や片付けなどで，分担するようにする。 ・仲間の考えや取組を認める態度を大切にする。 ※服装や髪形，場の危険物への配慮や，器械・器具の安全に気を配る。

C　陸上運動系（走・跳の運動遊び，走・跳の運動，陸上運動）　凡例：◎…運動遊びが苦手な児童への配慮の例

	指導内容	内容の取扱い
第1・2学年　走・跳の運動遊び	（1）知識及び技能 次の運動遊びの楽しさに触れ，その行い方を知るとともに，その動きを身に付ける。 ア　走の運動遊び ・いろいろな方向に走ったり，低い障害物を走り越えたりすること。 ○３０～４０m程度のかけっこ ・いろいろな形状の線上等を真っ直ぐに走ったり，蛇行して走ったりする。 ○折り返しリレー遊び，低い障害物を用いてのリレー遊び ・相手の手の平にタッチをしたり，バトンの受渡しをしたりして走る。 ・いろいろな間隔に並べられた低い障害物を走り越える。 ◎かけっこで，リズムよく走ることが苦手…一定のリズム，速いリズムなど，いろいろなリズムで走ったり，レーン上に目印を置いて，分かりやすいレーンを設定したりする。 ◎リレー遊びで，バトンを上手に渡したり受けたりすることが苦手…手で相手の背中にタッチしたり，迎えタッチするなど，タッチの仕方を変えたり，受渡しがしやすくなるように形状の異なるバトン（リング状のバトン等）を用いる。 ◎低い障害物を走り越える運動遊びで，最後まで走り越えることが苦手…障害物を置く間隔や高さを変える。 イ　跳の運動遊び ・前方や上方に跳んだり，連続して跳んだりすること。 ○幅跳び遊び ・助走を付けて片足でしっかり地面を蹴って前方に跳ぶ。 ○ケンパー跳び遊び ・片足や両足で，いろいろな間隔に並べられた輪等を連続して前方に跳ぶ。 ○ゴム跳び遊び ◎幅跳び遊びで，上手に跳ぶことができない…足を置く位置の目印として輪を置き，リズミカルに跳ぶことのできる場を設定する。 ◎ケンパー跳び遊びで，上手に跳ぶことができない…「グー」と「パー」が分かりやすい目印をレーン上に設定し，足を置く順番やリズムが分かるようにする。	▲走の運動遊びでは，その行い方を知るとともに，距離や方向などを決めて走ったり，手でのタッチやバトンの受渡しをする折り返しリレー遊びをしたり，段ボールや輪などの低い障害物を用いてのリレー遊びをしたりする。 ・跳の運動遊びでは，その行い方を知るとともに，助走を付けて片足で踏み切り，前方や上方に跳んだり，片足や両足で連続して跳んだりする。

	◎ゴム跳び遊びで，高く跳ぶことやしっかりジャンプをすることが苦手…高さを変えたり，跳ぶ時のリズムを決めたりする。	
	（2）思考力，判断力，表現力等 走ったり，跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに，考えたことを友達に伝える。 〇運動遊びの場を選ぶ遊び方の例 ・走の運動遊びでは，直線や曲線，ジグザグなどいろいろな運動遊びの場の中から，自己に適した運動遊びの場を選ぶ。 ・跳の運動遊びでは，前方や上方に跳ぶ高さや距離，間隔など，いろいろな運動遊びの場の中から，自己に適した運動遊びの場を選ぶ。 〇学び合ったことを友達に伝える例 ・活動後に，感想や動きのポイント，友達のよい動きを書いたり，発表したりする。	ア　走の運動遊びや跳の運動遊びの行い方を知り，楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選ぶ。 イ　走ったり跳んだりする動き方を知り，友達のよい動きを見付ける。
	（3）学びに向かう力，人間性等 運動遊びに進んで取り組み，順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり，勝敗を受け入れたり，場の安全に気を付けたりする。 ◎かけっこでの競走など，競走（争）を好まない…いろいろな走り方や跳び方で勝敗を競わずに楽しめる場を設定したり，行い方を工夫したりする。 ◎最後までうまく走ったり跳んだりできないなど，達成感を味わうことが難しい…易しい場や課題を複数準備する。 ◎友達同士でうまく関わり合うことができない…見合いや教え合いなど，互いに関わり合いながら学習をするようにしたり，友達同士で学習の成果を認め合ったりする機会を設定する。 ◎対人関係をうまく保つことができない…児童の伸びや友達との関わり方を教師が積極的に称賛する。	ア　走の運動遊びや跳の運動遊びに進んで取り組む。 イ　かけっこやリレー遊びを行う際に，順番やきまりを守り，誰とでも仲良くする。 ウ　かけっこやリレー遊びなどの勝敗を受け入れる。 エ　運動遊びで使用する用具の準備や片付けを，友達と一緒にする。 オ　走る場所に危険物が無いか，跳ぶ運動遊びをするとき，友達とぶつからない十分な間隔があるかなどの場の安全に気を付ける。
第3・4学年	（1）知識及び技能 次の運動の楽しさや喜びに触れ，その行い方を知るとともに，その動きを身に付ける。 ア　かけっこ・リレー 〇３０～５０m程度のかけっこ ・いろいろな走り出しの姿勢から，素早く走り始める。 ・真っ直ぐ前を見て，腕を前後に大きく振って走る。	・距離を決めて調子よく最後まで走ったり，走りながらバトンパスの受渡しをする周回リレーをしたりする。

走・跳の運動	○周回リレー（一人が走る距離３０～５０m程度） ・走りながら，タイミングよくバトンの受渡しをする。 ・コーナーの内側に体を軽く傾けて走る。 ◎かけっこで，スタートが苦手…立った姿勢からだけでなくいろいろな姿勢から素早く走ったり，スタート位置を変えて競走したりする。 ◎周回リレーで，タイミングよくバトンを受渡すことが苦手…追いかけ走やコーナー走で受渡しをする。	
	イ　小型ハードル走 ○いろいろなリズムでの小型ハードル走 ・インターバルの距離や小型ハードルの高さに応じたいろいろなリズムで小型ハードルを走り越える。 ○３０～４０m程度の小型ハードル走 ・一定の間隔に並べられた小型ハードルを一定のリズムで走り越える。 ◎一定のリズムで小型ハードルを走り越えることが苦手…インターバルの異なる複数のレーンを設定し選べるようにしたり，いろいろな材質のハードル（ゴムを張った小型ハードルや段ボールを用いたハードル等）を使用したりする。	・小型ハードルを自己に合ったリズムで走り越える。
	ウ　幅跳び ○短い助走からの幅跳び ・５～７歩程度の助走から踏切り足を決めて前方に強く踏み切り，遠くへ跳ぶ。 ・膝を柔らかく曲げて，両足で着地する。 ◎踏切り足が定まらず，強く前方へ跳ぶことが苦手…３～５歩など，短い助走による幅跳びをしたり，「トン・トン・ト・ト・トン」など，一定のリズムの助走からの幅跳びを行ったりする場を設定する。	・短い助走から強く踏み切って遠くへ跳ぶ。
	エ　高跳び ○短い助走からの高跳び ・３～５歩程度の短い助走から踏切り足を決めて上方に強く踏み切り，高く跳ぶ。 ・膝を柔らかく曲げて，足から着地する。 ◎踏切り足が定まらず，強く上方へ跳ぶことが苦手…３歩など短い助走からの高跳びをしたり，「トン・トン・ト・ト・トン」など，一定のリズムの助走からの高跳	・短い助走から強く踏み切って高く跳ぶ。

第3・4学年 走・跳の運動	びを行ったりする場を設定する。	
	（2） 思考力，判断力，表現力等 自己の能力に適した課題を見付け，動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに，考えたことを友達に伝える。 ○ICT機器を活用して自己の課題を見付ける例 ・自己の走・跳の運動の様子をタブレットやデジタルカメラなどのＩＣＴ機器を活用して確認し，動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付ける。 ○自己に応じた課題の解決のための練習の場を選ぶ例 ・踏切り位置に輪を置くなど，動きのポイントについて見合ったり教え合ったりしやすくなるような練習の場を選ぶ子。 ○自己の能力に適した規則を選ぶ例 ・個人の記録を得点化してチーム対抗戦をしたりチームの目標得点を設定して競争したりするなどの規則を選ぶ。 ○学び合ったことを友達に伝える例 ・活動後に，運動のポイントや友達の動きのよさなどを学習カードなどに記入したり，振り返りの時間に発表したり，感想文を書いたりする。	ア 自己の課題を見付け，その課題の解決のための活動を選ぶ。 イ 友達との競走（争）の仕方を考え，競走（争）の規則や記録への挑戦の仕方を選ぶ。 ウ ★友達のよい動きや変化を見付けたり，考えたりしたことを友達に伝える。
	（3）学びに向かう力，人間性等 運動に進んで取り組み，きまりを守り誰とでも仲よく運動したり，勝敗を受け入れたり，友達の考えを認めたり，場や用具の安全に気をつけたりする。 ◎かけっこ・リレーでの競走など，競走（争）に対して意欲的に取り組めない…いろいろな走り方・跳び方で活動する場を設定したり，勝敗のルールを工夫したりする。 ◎高跳びのスタンドやバーが当たることへの恐怖心がある…友達が持つゴムひもを跳ぶようにする。 ◎課題が易しすぎたり難しすぎたりして，うまく走ったり跳んだりできずに達成感を味わうことができない…一つの場だけでなく，速さ，距離を変えるなど，易しい課題や複数の課題を設定する。 ◎リレーのバトンの受渡しの練習の場面などで，友達同士でうまく関わり合うことができない…互いに見合い，教え合いをする学習の仕組みや，振り返りの場面などで，友達同士で学習の成果を認め合うようにする。	ア かけっこ・リレーや小型ハードル走，幅跳びや高跳びに進んで取り組む。 イ かけっこやリレーなどのきまりを守り，誰とでも仲よく励まし合う。 ウ 走・跳の運動で使用する用具の準備や片付けを友達と一緒にする。 エ かけっこやリレーなどの勝敗を受け入れる。 オ 小型ハードル走で互いの動きを見合ったり，高跳びで動きのよさや課題を伝え合ったりするなどの際に，友達の考えを認める。 カ 小型ハードル走をする場所や幅跳びをする砂場などの危険物を取り除くとともに，用具の安全を確かめる。

	指導内容	内容の取扱い
第5・6学年 陸上運動	（1）知識及び技能 次の運動の楽しさや喜びを味わい，その行い方を理解するとともに，その技能を身に付ける。 ア　短距離走・リレー ・一定の距離を全力で走ったり，滑らかなバトンの受渡しをしたりすること ○４０～６０m程度の短距離走 ・スタンディングスタートから，素早く走り始める。 ・体を軽く前傾させて全力で走る。 ○いろいろな距離でのリレー （一人が走る距離４０～６０m程度） ・テークオーバーゾーン内で，減速の少ないバトンの受渡しをする。 ◎短距離走で，素早いスタートが苦手…構えた際に前に置いた足に重心をかけ，低い姿勢で構えるといったポイントを示す。 ◎リレーで，減速せずにバトンの受渡しをすることが苦手…「ハイ」の声をしっかりかけたり，バトンを受ける手の位置や高さを確かめたり，仲間同士でスタートマークの位置を確かめたりする。 イ　ハードル走 ・ハードルをリズミカルに走り越えること ○４０～５０m程度のハードル走 ・第１ハードルを決めた足で踏み切って走り越える。 ・スタートから最後まで，体のバランスをとりながら真っ直ぐ走る。 ・インターバルを３歩または５歩で走る。 ◎走り越える時に体のバランスを取ることが苦手…１歩ハードル走や短いインターバルでの３歩ハードル走で，体を大きく素早く動かしながら走り越える場を設定する。 ・一定の歩数でハードルを走り越えることが苦手…３歩または５歩で走り越えることができるインターバル走のリズムを意識できるレーン（レーン上に輪を置く等）を設けたりする。	・短距離・リレーでは，その行い方を理解するとともに，走る距離やバトンパスなどのルールを定めて競走したり，自己（チーム）の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指したりしながら，一定の距離を全力で走ることができるようにする ・ハードル走では，その行い方を理解するとともに，インターバルの距離やハードルの台数などのルールを定めて競走したり，自己の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指したりしながら，ハードルをリズミカルに走り越えることができるようにする。

第5・6学年 陸上運動	ウ　走り幅跳び ・リズミカルな助走から踏み切って跳ぶこと。 ○リズミカルな助走からの走り幅跳び ・７～９歩程度のリズミカルな助走をする。 ・幅３０～４０㎝程度の踏切りゾーンで力強く踏み切る ・かがみ跳びから両足で着地する。 ◎リズミカルな助走から踏み切ることが苦手…５～７歩程度の助走からの走り幅跳びや跳び箱などの台から踏み切る場なので，力強く踏み切って体が浮くことを経験できるようにしたり，「トン・トン・ト・ト・トン」など，一定のリズムを声に出しながら踏み切る場を設定したりする。	・走り幅跳びでは，その行い方を理解するとともに，試技の回数や踏み切りゾーンの設置などのルールを定めて競争したり，自己の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指したりしながら，リズミカルな助走から踏み切って跳ぶことができる。
	エ　走り高跳び ・リズミカルな助走から踏み切って跳ぶこと。 ○リズミカルな助走からの走り高跳び ・５～７歩程度のリズミカルな助走をする。 ・上体を起こして力強く踏み切る。 ・はさみ跳びで，足から着地する。 ◎リズミカルな助走から踏み切ることが苦手…３～５歩程度の短い助走での走高跳や跳び箱などの台から踏み切る場などで，力強く踏み切って体が浮くことを経験できるようにしたり，「トン・トン・ト・ト・トン」など，一定のリズムを声に出しながら踏み切る場を設定したりする。	・走り高跳びでは，その行い方を理解するとともに，試技の回数やバーの高さの決め方などのルールを定めて競争したり，自己の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指したりしながら，リズミカルな助走から踏み切って跳ぶことができる。
	(2)思考力，判断力，表現力等 自己の能力に適した課題の解決の仕方，競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 ○ＩＣＴ機器を活用して自己の課題を見付ける例 ・自己や仲間の走りや跳び方の様子をタブレットやデジタルカメラなどのＩＣＴ機器を活用して確認し，動きのポイントと照らし合わせて自己やグループの課題を見付け，自己に適した練習方法を選ぶ。 ○自己やグループの能力に適した課題を設定し，解決のための活動を選ぶ例 ・ハードル走のインターバルを選ぶなど，自己の課題に適した練習の場を選ぶ。 ○記録への挑戦の仕方を選ぶ例 ・リレーで，チーム対抗戦に向けて自己のチームに適した	ア　自己やグループの能力に適した課題を見付け，課題に応じた練習の場や段階を選ぶ。 イ　自己の能力に適した競走（争）のルールや記録への挑戦の仕方を選ぶ。

	作戦（レーンや走順など）を選ぶ。 ○学び合ったことを他者に伝える例 ・活動後に，運動のポイント，学習の記録，仲間の動きのよさなどを学習カードに書いたり，振り返りの時間に発表したり，感想文を書いたりする。	ウ　★自己や仲間の動きの変化や伸びを見付けたり，考えたりしたことを他者に伝える。
第５・６学年　陸上運動	（３）学びに向かう力，人間性等 運動に積極的に取り組み，約束を守り助け合って運動をしたり，勝敗を受け入れたり，仲間の考えや取組を認めたり，場や用具の安全に気を配ったりすること。 ◎リレーに意欲的に取り組めない…チーム内で一人一人の走る距離を変えたり，勝敗を競うのではなく目標記録に近づくことを課題としたリレーを行ったりする。 ◎ハードルにぶつかることへの恐怖心がある…ハードルの板をゴムや新聞紙を折りたたんだものやスポンジ製のものに変える。 ◎ハードルのインターバルの歩数がうまく合わないために，自己の課題に意欲的に取り組めない…インターバルの歩数を決めてから場を選ぶなど，自己の能力に適した練習の場や課題の選択ができるようにしたり，同じような課題をもつ仲間と協力して練習できるようにしたりする。 ◎リレーの作戦について考える場面や走り高跳びのグループ競争の仕方を決める場面などで，自己の意見をうまく伝えられなかったり，仲間とうまく関わることができない…話合いや振り返りの際に，学習カードを用いて仲間同士で新たな課題を出し合ったり，学習の成果を確認したりする場面を設定する。	ア　短距離走・リレーやハードル走，走り幅跳びや走り高跳びに積極的に取り組む。 イ　短距離走やリレーなどの約束を守り，仲間と助け合う。 ウ　陸上運動をするときに用具の準備や片付け，計測や記録などで，分担された役割を果たす。 エ　短距離走やリレーなどの勝敗を受け入れる。 オ　課題を見付けたり，その解決方法を工夫したりする際に，仲間の考えや取組を認める。 カ　短距離走の場の危険物を取り除いたり，走り高跳びの場を整備したりするとともに，用具の安全に気を配る。

D　水泳運動系（水遊び，水泳運動）　凡例：◎…運動遊びが苦手な児童への配慮の例

	指導内容	内容の取扱い
第1・2学年　水遊び	（1）知識及び技能 次の運動の楽しさに触れ，その行い方を知るとともにその動きを身に付ける。 ア　水の中を移動する運動遊び 水の中を移動する運動遊びでは，その行い方を知るとともに，まねっこ遊びやリレー遊びなどで，いろいろな姿勢で歩いたり，自由に方向や速さを変えて走ったりすること。 ◎水かけっこで，顔に水がかかることが苦手…背中合わせになったり，友達との距離を広げたりするなど，遊び方を工夫する。 ◎まねっこ遊び（ワニ）で，水面に対して体を水平にした姿勢になり手だけで歩くことが苦手…より浅い場所で歩いたり，しゃがんだ姿勢でゆっくりと移動したりするなど，段階定期な遊び方を工夫する。 ◎電車ごっこ，リレー遊び，鬼遊びで，水の抵抗や浮力の影響で歩いたり走ったりすることが苦手…友達の後ろに続いて移動したり，手で水を強く書いたりすることを助言するなどの配慮をする。 イ　もぐる・浮く運動遊び もぐる・浮く運動遊びでは，その行い方を知るとともに，石拾いや伏し浮きなどで，息を止めたり吐いたりしながら，いろいろな姿勢でもぐったり浮いたりすること。 ◎もぐる遊びで，水に顔をつけることが苦手…少しずつ顔に水がかかるようにシャワーを浴びたり，顎→鼻→目へと徐々に水につける部分を増やしたりする。 ◎もぐる遊びで，水の浮力を受け，輪をくぐることが苦手…輪の深さや数を変えたり，二人組でつくった手のトンネルをくぐったりする。 ◎浮く遊びで，足が沈み，伏し浮きをすることが苦手…息を大きく吸って止めたり，顎を引いて頭を水の中につけたり，無駄な力を抜いて体を真っ直ぐにしたりすることを助言する。 ◎バブリングで，水中で息を吐くことが苦手…手の平にすくった水を吹き飛ばしたり，水面に浮いたものを吐いた息で移動させたりするなど，顔をつけずに息をまとめて強く吐くことのできる遊びをする。	○水につかっての水かけっこ，まねっこ遊び ・胸まで水につかって大きく息を吸ったり吐いたりする。 ・水を手ですくって体のいろいろな部分にかけたり，いろいろな方向に飛ばしたり，友達と水をかけ合ったりする。 ・水につかっていろいろな動物（アヒル，カニ，カエル，ワニなど）の真似をしながら歩いたり，腰や膝を伸ばした一直線の姿勢になり手を使って歩いたりする。 ○水につかっての電車ごっこ，リレー遊び，鬼遊び ・水の抵抗や浮力に負けないように，自由に歩いたり走ったり，方向を変えたりする。 ・手で水をかいたり，足でプールの底を力強く蹴ったりジャンプをしたりしながら速く走る。 ○水中でのじゃんけん，にらめっこ，石拾い，輪くぐりなどのもぐる遊び ・水に顔をつけたり，もぐって目を開けたりする。 ・水中で息を止めたり吐いたりしながらもぐる遊びをする。 ・浮力に負けないように，手や足を使っていろいろな姿勢でもぐる。 ○くらげ浮き，伏し浮き，大の字浮きなど浮く遊び ・壁や補助具につかまったり，友達に支えてもらったりして浮く。 ・補助具や友達につかまり，体を伸ばした姿勢にして浮いて進む。 ・息を吸って止め，全身の力を抜いて浮く。 ○バブリングやボビング ・大きく息を吸ってもぐり，水中で息を止めたり吐いたりする。 ・息を止めてもぐり，口や鼻から少しずつ息を吐きながら水面まで跳び上がって息をまとめて吐いた後，空中ですぐに吸ってまたもぐる。

	◎ボビングで，動きと呼吸のリズムを合わすことが苦手…友達と手をつないで一緒にボビングをするなどの場を設定したり，「プクプクプク（弱く吐く），ブハ！（水面を出たら大きく強くまとめて吐く），スゥー（すぐに吸う）」などの呼吸のリズムのイメージができる言葉を助言したりする。	・頭の上に手を挙げながら（膝を曲げて）もぐり，手をさげながら（膝を伸ばして）跳び上がる動きを繰り返す。
第1・2学年 水遊び	（2）思考力・判断力・表現力等 水の中を移動したり，もぐったり浮いたりする簡単な遊び方を工夫するとともに，考えたことを友達に伝える。 ア　水の中を移動する運動遊びやもぐる・浮く運動遊びの簡単な遊び方や場を選ぶこと。 イ　友達の良い動きを見つけたり，考えたりしたことを友達に伝えること。	・まねっこをする動物を選ぶ。 ・石拾いや輪くぐりの場を選ぶ。 ・バブリングやボビングを取り入れて遊ぶ。 ★水中でのいろいろな歩き方や走り方を友達に伝える。
	（3）学びに向かう力，人間性など 運動遊びに進んで取り組み，順番やきまりを守り誰とでも仲良く運動をしたり，水遊びの心得を守って安全に気を付けたりする。 ◎水に対する恐怖心がある…安全面からもペアでの学習（バディシステム）を取り入れ，友達と一緒に行う水遊びの楽しさに触れることができるようにしたり，水慣れの時間を十分に確保したり，少しでもできたことを称賛したりする。 ◎友達と一緒に水遊びをすることを好まない…友達と協力して一緒に取り組む水遊びを紹介したり，友達同士で互いの動きのよさを認め合う機会を設定したりする。 ◎既に初歩的な泳ぎを身に付けている…ワニ歩きで頭までつかりながら行うよう助言し，その動きのよさを全体に伝えたり，石拾いで石の数や色を指定して（連続して行うボビングの回数を指定して）児童にとってより適した課題を提示したりする。	・水につかって動物の真似をしたり鬼遊びをしたり，いろいろな姿勢でもぐったり浮いたりするなど，水遊びに進んで取り組む。 ・水遊びをする際に，順番やきまりを守り，誰とでも仲よくする。 ・水遊びで使用する用具の準備や片付けを，友達と一緒にする。 ※準備運動や整理運動をしっかり行う，丁寧にシャワーを浴びる，プールサイドは走らない，プールに飛び込まない，友達とぶつからないように動くなどの水遊びの心得を守る。また，水遊びをする前には，体（爪，耳，鼻，頭髪等）を清潔にしておく。

第3・4学年 水泳運動	（1）知識及び技能 次の運動の楽しさや喜びに触れ，その行い方を知るとともに，その動きを身に付ける。 ア　浮いて進む運動では，け伸びや初歩的な泳ぎをする。 イ　もぐる・浮く運動では，息を止めたり吐いたりしながら，いろいろなもぐり方や浮き方をする。	※初歩的な泳ぎとは，呼吸しながらのばた足泳ぎやかえる足泳ぎなど，近代泳法の前段階となる泳ぎのことである。このような泳ぎでは，浮いて呼吸をしながら手や足を使って進むことが大切であり，近代泳法の手や足の動かし方などの泳形にこだわる必要がない泳ぎである。
	ア　浮いてすすむ運動 ・浮いて進む運動では，その行い方を知るとともに，プールの底や壁を蹴った勢いを利用して進むけ伸びをしたり，浮いて呼吸をしながら手や足を使って進む初歩的な泳ぎをしたりすること。 ◎け伸びで，体を一直線に伸ばすことが苦手…補助具や友達の手につかまり，大きく息を吸って伏し浮きの姿勢になるまで待つように助言したり，体を伸ばした状態になったところを友達に引っ張ってもらったりする。 ◎け伸びで，プールの底や壁を力強く蹴ることが苦手…水の中に体を十分に沈め，膝を曲げて体を小さく縮めてから底や壁を蹴るように助言したり，け伸びで進む距離を友達と競争したり自己の記録を伸ばしたりする場を設定したりする。 ◎初歩的な泳ぎで，手や足の動きと呼吸のタイミングを合わせることが苦手…陸上で動きのイメージができる言葉「伸びて，イーチ・ニィー・サーン（手で水をかいたり，足を動かしたりして），ブハ！（息をまとめて吐く），伸びて」とともにタイミングを確認する場を設定したり，友達にゆっくりと引っ張ってもらいながら息継ぎのタイミングを声かけしてもらったりする。	○け伸び ・け伸びにつながるように，友達に手を引かれたり足を押されたりした勢いを利用して，伏し浮きの姿勢で続けて進む。 ・プールの底を両足で蹴り，体を一直線に伸ばした姿勢で進んだり，友達の股の下をくぐり抜けたりする。 ・体を縮めた状態になってプールの壁に両足を揃えてから，力強く両足で蹴り出した勢いで，顎を引いて腕で頭を挟んで体を一直線に伸ばした姿勢で進む。 ○初歩的な泳ぎ ・補助具を用いて浮き，呼吸をしながら手や足を動かして進む初歩的な泳ぎをする。 ・補助具を用いて仰向けの姿勢で浮き，呼吸をしながら手や足を動かして進む初歩的な泳ぎをする。 ・水面に顔を付け，手や足をゆっくりと動かし進むなど，呼吸を伴わない初歩的な泳ぎをする。 ・ばた足泳ぎやかえる足泳ぎなど，頭の上方に腕を伸ばした姿勢で，手や足をバランスよく動かし，呼吸をしながら進む。
	イ　もぐる・浮く運動 ・もぐる・浮く運動では，その行い方を知るとともに，呼吸を調整しながらいろいろなもぐり方をしたり，背浮きの姿勢で浮いたり，簡単な浮き沈みをしたりすること。 ◎プールの底にタッチをする際，浮力の影響でもぐることが苦手…息を吐きながらもぐることや手や足を大きく使うことを助言したり，水深が浅い場を設定したりする。 ◎いろいろなもぐり方をする際，もぐり方を変えることが苦手…友達ともぐり方の真似をし合う場を設定したり，陸上でできる動きを水の中でできないかを助言したりす	○プールの底にタッチ，股くぐり，変身もぐりなどのいろいろなもぐり方 ・プールの底から足を離して，体の一部分をプールの底につけるようにもぐる。 ・手や足を動かした推進力を利用して，上体からもぐったり，友達の股の下やプールの底に固定した輪の中をくぐり抜けたりする。 ・座った姿勢でもぐってから大の字の姿勢に変わったり，仰向けの姿勢でもぐってから伏し浮きの姿勢に変わったり，体を回転させたりするなど，水の中で姿勢を変える。

第3・4学年 水泳運動	る。 ◎だるま浮きで，体を小さく縮めることが苦手…両膝を抱え込まずに持つ程度にした簡単な方法に挑戦することや，膝を抱えると一度は沈むがゆっくりと浮いてくることを助言する。 ◎背浮きで，腰が沈まないようにして浮くことが苦手…補助具が体から離れないようにしっかり抱えて浮くように助言したり，友達に背中や腰を支えてもらう場を設定したりするなどの配慮をする。 ◎変身浮きで，浮き方を変えることが苦手…一つの浮き方で浮いている時間を延ばしたり，「つぼみがだんだん開いて，またしぼんでいく」などお話づくりで変身していくイメージをもって挑戦したりする場を設定する。 ◎連続したボビングが苦手…低学年で扱った呼吸のリズムを再度確認したり，友達と手をつないでボビングをしたりする場を設定する。	○背浮き，だるま浮き，変身浮きなどのいろいろな浮き方 ・補助具を抱えたり挟んだりして，浮力を生かしたいろいろな浮き方をする。 ・大きく息を吸い込み全身の力を抜いて，背浮きやだるま浮きなどのいろいろな浮き方をする。 ・伏し浮きから大の字浮き，伏し浮きからだるま浮き，背浮きから伏し浮きなど，ゆっくりと浮いた姿勢を変える変身浮きをする。 ○だるま浮きやボビングなどを活用した簡単な浮き沈み ・息を大きく吸った状態でもぐり体が浮いてくる動きをしたり，浮いた姿勢から息を吐き体が沈んでいく動きをしたりする。 ・浮いた姿勢から手や足を利用して口を水面上へ出す。 ・大きく息を吸ってだるま浮きをした状態で，友達に背中を押して沈めてもらい，息を止めてじっとして水面に浮上する動きをする。 ・ボビングを連続して行ったり，連続したボビングをしながらジャンプをして移動したりする。
	（2）思考力・判断力・表現力等 自己の能力に適した課題を見付け，水の中での動きを身に付けるための活動を工夫するとともに，考えたことを友達に伝えること。 ア 自己の能力に適した課題を見付け，その課題の解決のための活動を選ぶこと ○進んだ距離やできた回数を確かめて自己の課題を見付ける。 ○真っ直ぐに体を伸ばしたけ伸びにするための活動を選ぶ。 ○手や足をバランスよく動かし，呼吸をしながら進むための活動を選ぶ。 イ 課題の解決のために考えたことを友達に伝えること ○け伸びや初歩的な泳ぎでの動きを友達と見合ったり補助をし合ったりする過程で，考えたことを伝える。 ○ いろいろなもぐり方や浮き方を友達に伝える。 （3）学びに向かう力，人間性等 運動に進んで取り組み，きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり，友達の考えを認めたり，水泳運動の心得を守って安全に気を付けたりする。	

	◎水に対する恐怖心や違和感を抱く…低学年での水遊びを単元や授業の始めに取り入れたり，ゲーム的な要素のある運動をしたりする。 ◎友達と練習することが苦手…自己の能力に適した距離や時間等の明確な目標をもって挑戦する場を設定し，その成果を友達と見合ったり，友達と課題を一緒に解決する活動を取り入れたりする。 ◎既にクロールや平泳ぎができる…け伸びの距離をより伸ばすことを助言したり，いろいろなもぐり方をする場面で腹や背中をプールの底に付けたり逆立ちや連続回転をしたりすることを助言したりするなど，挑戦する課題を提示する。	・け伸びや初歩的な泳ぎをしたり，いろいろなもぐり方や浮き方をしたりするなど，水泳運動に進んで取り組む。 ・け伸びをする際に順番にスタートしたり，決まった場所で友達と練習したりするなど，水泳運動のきまりを守り，誰とでも仲よく励まし合う。 ・水泳運動の練習で使用する用具の準備や片付けを，友達と一緒にすること。 ・互いの動きを見合ったり補助をし合ったりするときに見付けた動きのよさや課題について伝え合う際に，友達の考えを認める。 ※準備運動や整理運動を正しく行う，バディで互いを確認しながら活動する， シャワーを浴びてからゆっくりと水の中に入る，プールに飛び込まないなど， 水泳運動の心得を守って安全を確かめる。
第5・6学年 水泳運動	（1）知識及び技能 (1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい，その行い方を理解するとともに，その技能を身に付けること。 ア　クロールでは，手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳ぐこと。 イ　平泳ぎでは，手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳ぐこと。 ウ　安全確保につながる運動では，背浮きや浮き沈みをしながら続けて長く浮くこと。 ア　クロール クロールでは，その行い方を理解するとともに，左右の手を入れかえる動きに呼吸を合わせて，続けて長く泳ぐこと。 ◎前方に伸ばした手が下がり，手のかきに呼吸を合わせることが苦手…両手を必ず前方で揃えてから片手ずつかくための練習をする場や， 仲間に手を引っ張ってもらいより前方に手を伸ばす練習をする場を設定したり，補助具をおさえる手に力を入れすぎないように助言したりする。 ◎頭が前方に上がり，横向きの息継ぎが苦手…歩きながら息継ぎの練習をする場を設定したり，へそを見るようにして顎を引き，耳まで浸かって息継ぎをするように助言したりする。 ◎手や足をゆっくりと動かすことが苦手…一定の距離を少ないストローク数で泳ぐ場や，決められたストローク数で泳ぐ距離を仲間と競い合う場を設定する。	○25～50m程度を目安にしたクロール ・手を左右交互に前方に伸ばして水に入れ，水を大きくかく。 ・柔らかく足を交互に曲げたり伸ばしたりして，リズミカルなばた足をする。 ・肩のローリングを用い，体を左右に傾けながら顔を横に上げて呼吸をする。 ○ゆったりとしたクロール ・１ストロークで進む距離が伸びるように，頭の上方で両手を揃えた姿勢で，片手ずつ大きく水をかく。 ・１ストロークで進む距離が伸びるように，ゆっくりと動かすばた足をする。 ・呼吸する側の手をかく動きに合わせて，呼吸をすること。

第5・6学年 水泳運動	イ　平泳ぎ 平泳ぎでは，その行い方を理解するとともに，手の動きに合わせて呼吸し，キックの後には息を止めてしばらく伸びて，続けて長く泳ぐことができるようにする。 ◎かえる足の動きが苦手…プールサイドに腰かけて足の内側で水を挟む動きだけを練習したり，壁や補助具につかまって仲間に足を支えてもらい練習したりする場を設定する。 ◎手や足の動きと呼吸のタイミングを合わせることが苦手…陸上で動きの確認をする場を設定したり，水中を歩きながら仲間が息継ぎのタイミングを助言したりする。 ◎キックの後にすぐ手をかいてしまい，伸びることが苦手…け伸びをしてから「かいて，蹴る」動きを繰り返すことを仲間と確かめ合ったり，「かいて，蹴って，伸びる」の一連の動作をしたら一度立つように助言し，少ないストローク数で泳ぐ距離を伸ばす場を設定したりする。 ウ　安全確保につながる運動　防災 安全確保につながる運動では，その行い方を理解するとともに，背浮きや浮き沈みをしながら，タイミングよく呼吸をしたり，手や足を動かしたりして，続けて長く浮くことができるようにする ◎背浮きの姿勢での呼吸を続けることが苦手…浅い場所で踵を付けたまま背浮きになる姿勢の練習をしたり，補助具を胸に抱えたり，仲間に頭や腰を支えてもらったりして続けて浮く練習をしたりする。 ◎浮き沈みの動きに合わせた呼吸をすることが苦手…体が自然に浮いてくるまで待ってから息継ぎをすることや，頭を大きく上げるのではなく首をゆっくりと動かし呼吸することを助言する。 ※なお，着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方については，安全確保につながる運動との関連を図り，各学校の実態に応じて積極的に取り扱うこと。	○25～50m程度を目安にした平泳ぎ ・両手を前方に伸ばし，ひじを曲げながら円を描くように左右に開き，水をかく。 ・足の親指を外側に開いて左右の足の裏や脚の内側で水を挟み出すとともに，キックの後に伸びの姿勢を保つ。 ・手を左右に開き水をかきながら，顔を前に上げ呼吸をする。 ・伸びた姿勢から顔を前方にゆっくりと起こしながら手をかきはじめ，肘を曲げながら顔を上げ呼吸した後，キックをした勢いを利用して伸びる。 ○ゆったりとした平泳ぎ ・１ストロークで進む距離が伸びるように，キックの後に顎を引いた伏し浮きの姿勢を保つ。 ・キックの勢いをしっかり利用するようにゆっくりと手をかく。 ○10～20 秒程度を目安にした背浮き ・顔以外の部位がしっかりと水中に入った背浮きの姿勢を維持する。 ・息を一度に吐き出し呼吸する。 ・背浮きの姿勢を崩さないように，手や足をゆっくりと動かす。 ○３～５回程度を目安にした浮き沈み ・大きく息を吸ってだるま浮きをした状態で，仲間に背中を押して沈めてもらい，息を止めてじっとして水面に浮上する浮き沈みを続ける。 ・浮いてくる動きに合わせて両手を動かし，顔を上げて呼吸をした後，再び沈み，息を止めて浮いてくるまで姿勢を保つ浮き沈みを続ける。
	(2)思考力，判断力，表現力等 ア　自己の課題を見付け，その課題の解決の仕方を考えたり，課題に応じた練習の場や段階を選んだりすること。 イ　自己の能力に適した記録への挑戦の仕方を選ぶこと。 ウ　課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。	・学習カードや掲示物などを活用して，自己の課題を見つける。 ・距離や回数，時間を確認して，自己の課題を見付ける。 ・手や足の動きと呼吸を合わせるための活動を選ぶ。 ・距離や回数を基にして記録への挑戦の仕方を選ぶ。 ★クロールや平泳ぎでの自己や仲間の課題を解決する過程で見付けたことや考えたことを他者に伝える。

	自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。	★安全確保につながる運動での仲間の動きのよさを他者に伝える。
第5・6学年 水泳運動	（3）学びに向かう力，人間性等 運動に積極的に取り組み，約束を守り助け合って運動をしたり，仲間の考えや取組を認めたり，水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりすること。 ◎水に対する恐怖心や違和感を抱く…すぐに泳法の練習を行うのではなく，もぐったり浮いたりしながら呼吸の仕方について確認する場を設定する。 ◎仲間とうまく関わりながら学習を進めることが苦手…ペアやグループ編成を工夫したり，その児童の伸びや仲間との関わりの成果を仲間同士で積極的に認める場を設定したり，仲間と一緒に達成する課題を設定したりする。 ◎クロールや平泳ぎが50m以上泳ぐことができる…設定した距離をより少ないストローク数で泳ぐことに挑戦する場を設定したり，いろいろな泳ぎ方で競うリレーを取り入れたりする。	・水泳運動が自己保全のために必要であることを生かし，クロールや平泳ぎをしたり，背浮きや浮き沈みをしたりするなどの水泳運動に積極的に取り組む。 ・自己や仲間の課題を解決するための練習では，練習場所やレーンの使い方，補助の仕方などの約束を守り，仲間と助け合う。 ・水泳運動で使用する用具の準備や片付けなどで，分担された役割を果たす。 ・課題を見付けたり，解決方法を工夫したりする際に，仲間の考えや取組を認める。 ※プールの底・水面などに危険物がないかを確認したり，自己の体の調子を確 かめてから泳いだり，仲間の体の調子にも気を付けるなど，水泳運動の心得を守って安全に気を配ること。

Ｅ　ボール運動系（ゲーム・ボール運動）　凡例：◎…運動遊びが苦手な児童への配慮の例

	指導内容	内容の取扱い
第1・2学年　ゲーム	（1）知識及び技能 次の運動遊びの楽しさに触れ，その行い方を知るとともに，易しいゲームをすること。 ア　ボールゲーム ・簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって，易しいゲームをすること ○的当てゲーム ○シュートゲーム ○相手コートにボールを投げ入れるゲーム ○攻めがボールを手などで打ったり蹴ったりして行うゲーム ◎ボールを捕ったり止めたりすることが苦手…柔らかいボールを用いたり，空気を少し抜いたボールを用いたりする ◎ボールが飛んだり，転がったりしてくるコースに入ることが苦手…柔らかいボールを用い，１対１でゴールを守る練習をしたりする ◎ボールの勢いに怖さを感じる…柔らかいボールを用いたり，速さの出にくい軽いボールを用いたりする イ　鬼遊び ・一定区域で，逃げる，追いかける，陣地を取り合うなどをすること ○一人鬼，二人組鬼，子増やし鬼　　○宝取り鬼，ボール運び鬼 ◎鬼になってなかなか捕まえられない…短い時間で鬼を交代したり，逃げる場所を制限したり，狭くしたりする ◎逃げることが苦手…安全地帯を設けたり，鬼の人数を徐々に増やしたり，鬼でない児童の人数を増やしたりする ◎宝取り鬼で，相手の陣地から宝をとるのが苦手…宝を置く場所や宝の数を増やしたり，鬼の人数を徐々に増やしたり，陣地の形を変えたりする ◎ボール運び鬼で，相手の陣地にボールを運ぶことが苦手…チーム内での役割が分かるようにしたり，攻めと守りが入り交じる場を制限したり，守りの人数を減らしたり，ボールを運ぶ側の人数を増やしたりする	・コート内で攻守入り交じって，的やゴールに向かってボールを投げたり蹴ったりする簡単な規則で行われるゲーム（ゴール型ゲームに発展）をすること ・攻めと守りが分かれたコートで，相手コートにボールを投げ入れる簡単な規則で行われる易しいゲーム（ネット型ゲームに発展）をすること ・攻めと守りを交代しながら，ボールを手などで打ったり，蹴ったりする簡単な規則で行われる易しいゲーム（ベースボール型ゲームに発展）などをすること ・一定の区域で逃げる，追いかける，陣地を取り合うなどの簡単な規則で鬼遊びをしたり，工夫した区域や用具で鬼遊びをしたりすること

第1・2学年 ゲーム	（2）思考力，判断力，表現力等 簡単な規則を工夫したり， 攻め方を選んだりするとともに，考えたことを友達に伝えること。 ア　ボールゲームや鬼遊びの簡単な遊び方を選ぶこと イ　友達のよい動きを見付けたり，考えたりしたことを友達に伝えること	・場や提示された規則の中から，楽しくゲームや鬼遊びができる場や得点の方法など，自己に適した場や規則を選ぶこと ・易しいボールゲームで，ボールを捕ったり止めたりするときに行った工夫を，動作や言葉で友達に伝えること ★鬼遊びで，少人数で連携して相手（鬼）をかわしたり，走り抜けたりする行い方について，動作や言葉で友達に伝えること
	（3）学びに向かう力，人間性等 運動遊びに進んで取り組み， 規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり，勝敗を受け入れたり，場や用具の安全に気を付けたりすること。 ◎恐怖心などでボールゲームに意欲的に取り組めない…柔らかいボールを用意したり，大きなボールやゆっくりとした速さになるボールを用意したりする ◎ゲーム中に何をすればよいのかが分からないなどで，ボールゲームや鬼遊びに意欲的に取り組めない…行い方や課題を絵図で説明したり， 活動内容を掲示したりする ◎場や規則が難しいなどで，ボールゲームや鬼遊びに意欲的に取り組めない…場の設定や規則を易しくして児童が取り組みやすくする ◎新しく提示した動きやゲームが分からないなどでボールゲームや鬼遊びに意欲的に取り組めない…動きをゆっくりと示したり，一緒にそのチームに入ってゲームをしたりする ◎ゲームに勝てなかったり，鬼に捕まりやすかったりするなどでボールゲームや鬼遊びに意欲的に取り組めない…勝敗を受け入れることが大切であることを話したり，安全地帯など場の設定を工夫したりする	・ボールゲームや鬼遊びに進んで取り組むこと ・順番や規則を守り，誰とでも仲よくすること ・勝敗を受け入れること ・使用する用具等の準備や片付けを， 友達と一緒にすること ※危険物が無いか，安全にゲームができるかなどの場の安全に気を付けること
第3・4学年 ゲーム	（1）知識及び技能 次の運動の楽しさや喜びに触れ，その行い方を知るとともに，易しいゲームをすること。 ア　ゴール型ゲーム ・コート内で攻守入り交じって，ボールを手や足でシュートしたり，空いている場所に素早く動いたりする易しいゲーム及び陣地を取り合って得点ゾーンに走り込むなどの易しいゲームをすること	・易しいゲームとは，基本的なボール操作で行え，プレイヤーの人数，コートの広さ（奥行きや横幅など），ネットの高さ，塁間の距離，プレイ上の緩和や制限，ボールその他の運動用具や設備などを修正し，児童が取り組みやすいように工夫したゲームをいう

第3・4学年 ゲーム	○ハンドボール，ポートボール，ラインサッカー，ミニサッカーなどを基にした易しいゲーム（味方チームと相手チームが入り交じって得点を取り合うゲーム） ○タグラグビー，フラッグフットボールなどを基にした易しいゲーム（陣地を取り合うゲーム） ◎パスを出したり，シュートをしたりすることが苦に…ボールを保持する条件を易しくするとともに，ボールを保持した際に周囲の状況が確認できるように言葉がけを工夫する。 ◎ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動することが苦手…守る者の位置を見るように言葉がけを工夫する。	・ボールを持ったときにゴールに体を向けること。 ・味方にボールを手渡したり，パスを出したり，シュートをしたり，ゴールにボールを持ち込んだりすること。 ・ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動すること。
	イ　ネット型ゲーム ・軽量のボールを片手，両手もしくは用具を使って，自陣の味方にパスをしたり，相手コートに返球したり，弾むボールを床や地面に打ちつけて相手コートに返球したりして，ラリーの続く易しいゲームをすること。 ○ソフトバレーボールを基にした易しいゲーム ○プレルボールを基にした易しいゲーム ○バドミントンやテニスを基にした易しいゲーム ○天大中小など，子供の遊びを基にした易しいゲーム ◎いろいろな高さのボールを片手，両手もしくは用具を使ってはじいたり，打ちつけたりすることが苦手…飛んできたボールをキャッチして打つことを認める ◎ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることが苦手…プレイできるバウンド数を多くしたり，飛んできたボールをキャッチしてラリーを継続したりする。	・いろいろな高さのボールを片手，両手もしくは用具を使ってはじいたり，打ちつけたりすること。 ・相手コートから飛んできたボールを片手，両手もしくは用具を使って相手コートに返球すること。 ・ボールの方向に体を向けたり，ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすること。
	ウ　ベースボール型ゲーム ・ボールを蹴ったり打ったりする攻めや捕ったり投げたりする守りなどの基本的なボール操作と， ボールの飛球方向に移動したり，全力で走塁したりするなどのボールを持たないときの動きによって，攻守を交代する易しいゲームをすること ○攻める側がボールを蹴って行う易しいゲーム ○手や用具などを使って打ったり，静止したボールを打ったりして行う易しいゲーム ◎ボールをフェアグラウンド内に蹴ったり打ったりすることが苦手…大きなボールや軽いボールを用いたり，手や大きなバット，軽いバット，ラケットなどを用いて打ったり，静止したボールを蹴ったり打ったりすることができるようにする ◎投げる手と反対の足を一歩前に踏み出してボールを投げること	・ボールをフェアグラウンド内に蹴ったり打ったりすること。 ・投げる手と反対の足を一歩前に踏み出してボールを投げること。 ・向かってくるボールの正面に移動すること。 ・ベースに向かって全力で走り，かけ抜けること。

3・4学年 ゲーム	が苦手…的当てゲームを取り入れたり，紙鉄砲やタオルを用いて遊ぶ場を設定したりして，投げる動きが自然に身に付くような練習をする。 (2)思考力，判断力，表現力等 規則を工夫したり，ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに，考えたことを友達に伝えること。 ア　規則を工夫すること イ　ゲームの型に応じた簡単な作戦を選ぶこと ウ　課題の解決のために考えたことを友達に伝えること (3) 学びに向かう力，人間性等 運動に進んで取り組み，規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり，勝敗を受け入れたり，友達の考えを認めたり，場や用具の安全に気を付けたりすること。 ◎学習の仕方が分からないために，ゲームに意欲的に取り組めない…学習への取組の手順を掲示物で確認できるようにする。 ◎場や規則が難しいと感じ，ゲームに意欲的に取り組めない…文字やイラスト等を用いて掲示しながら説明したり，より易しい規則に変更したりする。 ◎新しく提示した動きが分からないために，ゲームや練習に意欲的に取り組めない…よい動きの友達やチームを観察したり，掲示物などの具体物を用いて説明したりする。 ◎審判の判定に納得しなかったりゲームに勝てなかったりすることで，ゲームに意欲的に取り組めない…判定に従うことやフェアなプレイの大切さについて，継続して伝えていくようにする。 ◎ゲームに参加している実感がなく，楽しさを味わえない…チームの人数を少なくして，役割を明確にしたり触球回数を増やせるようにしたりする。 ◎友達と仲よくゲームに取り組めない…試合の前後に相手や味方同士で挨拶や握手を交わしたり，相手や味方同士でよいプレイや取組を称賛したりする。	・攻めと守りの局面でプレイヤーの人数に違いを設け，攻めを行いやすいようにするなどの規則を選ぶこと。 ・少人数のゲームで，ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を選ぶこと。 ★易しいネット型ゲームで，高さの違うボールを片手，両手もしくは用具を使って強さや方向を変えてはじいた工夫を，動作や言葉，絵図などを使って，友達に伝えること。 ★易しいベースボール型ゲームで，友達の正面に移動する動きのよさを，動作や言葉，絵図などを使って，友達に伝えること。 ・順番や規則を守り，誰とでも仲よくすること。 ・勝敗を受け入れること ・使用する用具等の準備や片付けを，友達と一緒にすること ・危険物が無いか，安全にゲームができるかなどの場の安全に気を付けること ・易しいゴール型ゲーム，ネット型ゲーム，ベースボール型ゲームに進んで取り組むこと ・規則を守り，誰とでも仲よくすること。 ・使用する用具などの準備や片付けを，友達と一緒にすること。 ・勝敗を受け入れること。 ・ゲームやそれらの練習の中で互いに動きを見合ったり，話し合ったりして見付けた動きのよさや課題を伝え合う際に，友達の考えを認めること。 ※ゲームやそれらの練習の際に，使用する用具などを片付けて場の危険物を取り除くなど，周囲を見て場や用具の安全を確かめること。

	指導内容	内容の取扱い
第5・6学年 ボール運動	（1）知識及び技能 次の運動の楽しさや喜びを味わい，その行い方を理解するとともに，その技能を身に付け，簡易化されたゲームをすること。 ア　ゴール型 ・ボール操作とボールを持たないときの動きによって，簡易化されたゲームをすること。 ○バスケットボール，サッカー，ハンドボールなどを基にした簡易化されたゲーム（攻守が入り交じって行うゴール型） ○タグラグビー，フラッグフットボールなどを基にした簡易化されたゲーム（陣地を取り合うゴール型） ◎得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをすることが苦手…シュートが入りやすい場所に目印を付けたり，ボールを保持した際に最初にゴールをみることを助言したりする。 ◎ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることが苦手…仲間がゴールの位置を教えるようにする。 イ　ネット型 ・個人やチームによる攻撃と守備によって，簡易化されたゲームをすること。 ○ソフトバレーボールやプレルボールを基にした簡易化されたゲーム ○バトミントンやテニスを基にした簡易化されたゲーム ◎片手，両手もしくは用具を使って，相手コートにボールを打ち返すことが苦手…飛んできたボールを短時間保持することを認めたり，うまくはじくことができる児童と比較してどこが違うか考えたりする場を設定する。 ◎自陣のコート（中央付近）から相手コートに向けサービスを打ち入れることが苦手…手を使って投げ入れたり，軽い用具や柄の短い用具を用いたり，軽いボールを用いたり，一歩前からサービスすることを認めたり，ネットの高さを低くしたりする。 ◎味方が受けやすいようにボールをつなぐことが苦手…飛んできたボールをキャッチしてパスしたりすることができるようにする。 ウ　ベースボール型 ・ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって，簡易化されたゲームをすること。 ○ソフトボールを基にした簡易化されたゲーム	・「簡易化されたゲーム」とは，ルールや形式が一般化されたゲームを児童の発達の段階を踏まえ，実態に応じたボール操作で行うことができ、プレイヤーの人数（プレイヤーの人数を少なくしたり，攻撃側のプレイヤーの人数が守備側のプレイヤーの人数を上回るようにしたりすること），コートの広さ（奥行きや横幅など），ネットの高さ，塁間の距離，プレイ上の制限（攻撃や守備のプレイ空間，触球方法など），ボールその他の運動用具や設備などを修正し，児童が取り組みやすいように工夫したゲームをいう。 ・ゴール型では，その行い方を理解するとともに，投げる，受ける，蹴る，止める，運ぶ，手渡すといったボール操作とボール保持者からボールを受けることのできる場所に動くなどのボールを持たないときの動きによって，攻撃側にとって易しい状況の中でチームの作戦に基づいた位置取りをするなどの攻守入り交じった簡易化されたゲームや陣地を取り合う簡易化されたゲームをすること。 ・ネット型では，その行い方を理解するとともに，ボール操作とチームの作戦に基づいた位置取りをするなどのボールを持たないときの動きによって，軽くて柔らかいボールを片手，両手もしくは用具を使って操作したり相手が捕りにくいボールを返球したりするチームの連携プレイによる簡易化されたゲームや，自陣から相手コートに向かって相手が捕りにくいボールを返球する手や用具などを使った簡易化されたゲームをすること。 ・ベースボール型では，その行い方を理解するとともに，静止したボールやゆっくりとした速さで投げられたボールを打つ打撃や，捕球したり送球したりす

第5・6学年 ボール運動	○ティーボールを基にした簡易化されたゲーム ◎打球方向に移動し，捕球することが苦手…ゆっくりと投げられたボールを移動して手に当てる練習を工夫したり，柔らかいボールを素手で捕る練習を工夫したりする。 ◎守備の隊形をとって得点を与えないようにすることが苦手…チーム練習の中で守備位置やその役割を確認したり，互いに言葉がけをしたりする。	る守備などのボール操作と,チームとして守備の隊形をとったり走塁をしたりするボールを持たないときの動きによって,攻守交代が繰り返し行える簡易化されたゲームをすること。
	(2)思考力，判断力，表現力等 ルールを工夫したり，自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。	・ルールを工夫すること。 ・自己やチームの特徴に応じた作戦を選ぶこと。 ★課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
	(3) 学びに向かう力，人間性等 運動に積極的に取り組み，ルールを守り助け合って運動をしたり，勝敗を受け入れたり，仲間の考えや取組を認めたり，場や用具の安全に気を配ったりすること。 ◎味方や相手が投げるボールに恐怖心を抱くためにゲームに意欲的に取り組めない…柔らかいボールを用意したり，大きなボールやゆっくりとした速さになるボールを用意したりする。 ◎チームの中で何をすればよいかが分からないためにゲームに意欲的に取り組めない…チーム内で分担する役割を確認する。 ◎場やルールが難しいためにゲームに意欲的に取り組めない…場の設定やルールをチームで一つずつ確認する。 ◎新しく提示した動きが分からないためにゲームに意欲的に取り組めない…代表の児童やチームが行う見本を観察したり，ゲームの中のポジションを確認したり,その動きを動画で確認したりする場を設定する。 ◎技能が高いにもかかわらずゲームに意欲的に取り組めない…リーダーとしてチームをまとめるようにしたり，仲間に動きのアドバイスをする役割を担うようにしたりする。 ◎ゲームに負け続けるためにゲームや練習に意欲的に取り組めない…チームに合った作戦を選び直したり,新たな作戦を試したりすることを促す。 ◎チーム内で仲間とうまく関わることができないためにゲームに意欲的に取り組めない…チーム内の役割を明確にしたり，その役割に取り組むように助言したりする。 ◎仲間と仲よく助け合ってゲームに取り組めない…役割を果たしたこと，最後まで全力でプレイしたこと，味方を励ます言葉がけがあったことなどの取組を，授業のまとめで取り上げて称賛したり，児童が相互に称え合ったりする場面を設定する。	・ゴール型，ネット型，ベースボール型の簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組むこと。 ・ルールやマナーを守り，仲間と助け合うこと。 ・ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで，分担された役割を果たすこと。 ・ゲームの勝敗を受け入れること。 ・ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり，話し合ったりする際に，仲間の考えや取組を認めること。 ※ゲームや練習の際に,使用する用具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに,用具の安全に気を配ること。

F　表現運動系（表現リズム遊び・表現運動）　凡例：◎…運動遊びが苦手な児童への配慮の例

	指導内容	内容の取扱い
第1・2学年　表現リズム遊び	（1）知識及び技能 次の運動遊びの楽しさに触れ，その行い方を知るとともに，題材になりきったりリズムに乗ったりして踊る。 ア　表現遊び ・身近な題材の特徴を捉え、全身で踊ること。 ○特徴が捉えやすく多様な感じの動きを多く含む題材(鳥，昆虫，恐竜，動物園の動物)，速さに変化のある動きを多く含む題材(飛行機，遊園地の乗り物，おもちゃ) ◎題材の特徴を捉えて踊ることが苦手…全身の動きで特徴を捉えている友達の動きを見合い，真似をする。 ◎続けて踊ることが苦手…「大変だ！○○だ！」の複数の例示から選べるようにする。 イ　リズム遊び ・軽快なリズムに乗って踊ること。 ○弾んで踊れるロックやサンバなどの軽快なリズムの曲 ◎リズムに乗って踊ることが苦手…友達や教師の動きの真似をしながら，リズムに合わせてスキップで弾んだり，かけ声や手拍子を入れたりして踊る。 ◎友達と関わって踊ることが苦手…数人で手をつなぎ，簡単な動きで弾んだり回ったり移動したりして一緒に踊る。 ○ジェンカ（フィンランド），キンダーポルカ（ドイツ），タタロチカ（ロシア）など，軽快なリズムと易しいステップの繰り返しで構成される簡単なフォークダンス	▲「身近な題材」とは，低学年の児童の発達の段階に応じて，動物や乗り物など，身近で関心が高く，特徴が捉えやすくて具体的な動きを多く含む題材として示している。それらの題材の特徴を捉えて，跳ぶ，回る，ねじる，這う，素早く走るなどの全身の動きで，そのものになりきって即興的に踊る。 ・軽快なリズムに乗って踊るとは，スキップで弾んで踊れる軽快なリズムの曲を取り上げ，へそ（体幹部）を中心にリズムに乗って踊ったり，友達と調子を合わせて即興的に踊ったりする。 ・軽快なリズムに乗って踊るという視点が，フォークダンスと共通することから，簡単なフォークダンスを含めて指導することができる。
	（2）思考力、判断力、表現力等 身近な題材の特徴を捉えて踊ったり，軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに，考えたことを友達に伝える。 ○題材の特徴にふさわしい様子や動き、リズムの特徴を捉えた動きを選んだり見付けたりする。 ○表現遊びで見付けた気に入った動きを友達に伝える。 ○リズム遊びで友達のよい動きを伝える。	・身近な題材の特徴を捉えて踊ったり，軽快なリズムに乗って踊ったりする表現遊びやリズム遊びの簡単な踊り方を工夫する。 ★よい動きを見付けたり，考えたりしたことを友達に伝える。 ※友達とぶつからないよう場の安全に気を付ける。
	（3）学びに向かう力、人間性等 運動遊びに進んで取り組み，誰とでも仲よく踊ったり，場の安全に気を付けたりする。 ◎題材から表したい様子や動きを思い浮かべることに意欲的に取り組めない…単元の導入でその題材に関連する絵	・題材になりきって踊ったり，軽快なリズムに乗って踊ったりする運動遊びに進んで取り組む。

	本や図鑑などを提示し，興味や関心を高める。 ◎リズムに乗って踊ることに意欲的に取り組めない…その児童にとって身近で関心があり，自然に体を弾ませたくなるような選曲をする。	・表現遊びやリズム遊びに取り組む際に，誰とでも仲よくする。 ・表現リズム遊びをする場の設定や使った用具の片付けを，友達と一緒にする。 ・友達とぶつからないように周りの安全に気を付けて踊る。
第3・4学年　表現運動	（1）知識及び技能 次の運動の楽しさや喜びに触れ，その行い方を知るとともに，表したい感じを表現したりリズムに乗ったりして踊る。 ア．表現 ・身近な生活などの題材からその主な特徴を捉え，表したい感じをひと流れの動きで踊ること。 ○「具体的な生活からの題材」－「○○づくり」（料理，粘土造形など），「１日の生活」（洗濯物，掃除，スポーツなど）など ○「空想の世界からの題材」－「○○探検」（ジャングル，宇宙，海底など） などの未知の想像が広がる題材や，忍者や戦いなどの二人組で対立する動きを含む題材 ◎題材の特徴を捉えることが苦手…題材の多様な場面を絵や文字で描いたカルタをめくりながら動く。 ◎動きの誇張や変化の付け方が苦手…友達の動きを見合い， 真似をするようにする。 ◎ひと流れの動きにすることが苦手…気に入った様子を中心に， 動きが急変する場面の例を複数挙げて動く。 イ．リズムダンス ・軽快なリズムに乗って全身で踊ること。 ○軽快なテンポやビートの強いロックのリズム ○陽気で小刻みなビートのサンバのリズム ◎リズムの特徴を捉えて踊ることが苦手…リズムに合わせて手拍子をしたり，リズムを表す言葉がけをしながら踊ったりする。 ◎動きに変化を付けて踊ることが苦手…友達の動きを見て，真似をする。 ◎友達と関わって踊ることが苦手…二人組で，スキップで弾んだり，回ったり，動きの真似をし合う。	・「身近な生活などの題材」とは，中学年の児童の発達の段階に応じて，「具体的な生活からの題材」やそれと対比する「空想の世界からの題材」など，ダイナミックで変化に富んだ多様な表現に取り組みやすい題材として示している。 ・それらの中から児童の関心や能力にふさわしい題材を取り上げ，その主な特徴や感じを捉えて，表したい感じを中心に動きを誇張したり変化を付けたりしてメリハリ（緩急・強弱）のあるひと流れの動きにして即興的に表現する。 ・軽快なリズムに乗って全身で踊るとは，スキップで弾んで踊れる軽快なリズムの曲を取り上げ，ロックの後打ちやサンバのシンコペーション（拍子の強弱を逆転させたり変化させたりしたリズム）などのリズムの特徴を捉え，へそ（体幹部）を中心に，リズムに乗って全身で弾んで踊ったり，動きに変化を付けて踊ったり，友達と関わり合って踊ったりする。
	（2）思考力、判断力、表現力等 自己の能力に適した課題を見付け，題材やリズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに，考えたことを友達に伝える。 ○自己の能力に適した課題を見付ける ○友達のよい動きを取り入れる	・自己の能力に適した課題を見付け，その課題の解決のための活動を選ぶ。

	○友達が工夫したよいところを伝える ○リズムダンスで工夫した動きを伝える	★課題の解決のために考えたことを友達に伝える。
	（3）学び合う力、人間性等 運動に進んで取り組み，誰とでも仲よく踊ったり，友達の動きや考えを認めたり，場の安全に気を付けたりする。 ◎踊ることに意欲的に取り組めない…授業の導入で，円形になり，顔を見合わせながら軽快なリズムに乗って弾んだり手拍子をしたりして，心と体をほぐす。 ◎友達と関わりながら踊ることに意欲的に取り組めない…友達と組んでできる簡単な動きを示した中から選べるようにする。	・表したい感じをひと流れの動きで踊ったり，軽快なリズムに乗って全身で踊ったりする運動に進んで取り組む。 ・表現やリズムダンスに取り組む際に，誰とでも仲よくする。 ・表現やリズムダンスを行う場の設定や用具の片付けを，友達と一緒にする。 ・表現やリズムダンスでの友達の動きや楽しく踊るための友達の考えを認める。 ※友達とぶつからないように周りの安全を確かめて踊る。
第5・6学年　表現運動	（1）知識及び技能 次の運動の楽しさや喜びを味わい，その行い方を理解するとともに，表したい感じを表現したり踊りで交流したりする。 ア．表現 ・いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え，表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ったり，簡単なひとまとまりの動きにして踊ったりする。 ○「激しい感じの題材」…「激しく○○する」バーゲンセール，火山の爆発，大型台風接近，「急に○○する」ロボットが壊れた，竜巻発生，怒りの爆発 ○「群が生きる題材」…「祭り」，「スポーツの攻防」，「出口を探せ！」 ○「多様な題材」…「わたしたちの地球」，「ニュース○○」，「○月×日，私のダイアリー」 ◎題材の特徴を捉えることが苦手…二人～四人組で，題材の特徴的な様子や動きを出し合いながら踊る。 ◎ひと流れの動きにすることが苦手…表したい感じやイメージから捉えた変化とメリハリのある動きを，教師や仲間のリードで一緒に踊る。 ◎簡単なひとまとまりの動きにすることが難しい…一番表したいことを中心に「はじめーなかーおわり」の構成になっているか教師や他のグループに見てもらう。 イ．フォークダンス ・日本の民踊や外国の踊りから，それらの踊り方の特徴を捉え，音楽に合わせて簡単なステップや動きで踊る。 ○日本の民踊	・「いろいろな題材」とは，高学年の児童の発達の段階に応じて「激しい感じの題材」，「群（集団）が生きる題材」などの変化と起伏のある表現へ発展しやすい題材と，題材を一つに固定しないで幅の広い捉え方や動きを含む題材として「多様な題材」を示している。 ・「いろいろな題材」の中から，題材の特徴を捉え，表したい感じやイメージを強調するように，動きを誇張したり変化を付けたりしてメリハリ（緩急・強弱）のあるひと流れの動きにして即興的に表現したり，グループで変化と起伏のある「はじめーなかーおわり」の構成を工夫した簡単なひとまとまりの動きにしたりして表現する。 ◆日本の民踊とは，それぞれの地域で親しまれている民踊や日本の代表的な民踊で，歌詞に伴う手振り，低く踏みしめるような足どりと腰の動き，輪踊り，一人踊りが多いなどの日本の民踊

第5・6学年 表現運動	軽快なリズムの踊り(阿波踊り，春駒)や力強い踊り(ソーラン節，エイサー)など，特徴や感じが異なる踊りや簡単な動きで構成されている踊り。 ○外国のフォークダンス 特徴や感じが異なる踊りや簡単な隊形・ステップ・組み方で構成される踊り。(マイム・マイム，コロブチカ，グスタフス・スコール) ◎踊ることが苦手…低学年で既習した簡単な踊りや，前時に学習した踊りを授業の導入で行う。 ◎踊りの特徴を捉えて踊ることが苦手…踊りの由来や背景を伝え，映像を見て踊りのイメージを捉える。 ◎踊り方を身に付けることが苦手…教師が曲を口ずさみながら全体を大まかに通して踊り，難しいところは部分練習をする。	に共通する特徴をもつ踊り。 ◆外国の踊りとは，世界の国々で親しまれている代表的なフォークダンスで，軽快な音楽に乗せたいろいろなステップ，輪や列になって手をつないで踊る，パートナーと組んで踊るなど，国によって様々な特徴をもつ踊り。 ・それらの踊りの中から踊りの特徴を捉え，基本的なステップや動きを身に付けて，音楽に合わせてみんなで楽しく踊って交流する。 ★踊りの由来や背景を理解し，踊りを通して日本の地域や世界の文化に触れる。 ※学校や地域の実態に応じてリズムダンスを加えて指導することができる。
	(2)思考力、判断力、表現力等 自己やグループの課題の解決に向けて，表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 ○自己やグループの課題を見付ける。 ○課題に応じて動きを選び，課題にふさわしい簡単なひとまとまりの動きを構成する。 ○課題に応じた見合いや交流の仕方を工夫する。 ○表現で工夫した成果やフォークダンスで身に付けた踊りの特徴を他者に伝える。	・自己やグループの課題を見付け，その課題の解決の仕方を考えたり，課題に応じた見合いや交流の仕方などを選んだりする。 ★課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 ※活動の場の安全に気を配る。
	(3) 学びに向かう力、人間性等 運動に積極的に取り組み，互いのよさを認め合い助け合って踊ったり，場の安全に気を配ったりすること。 ◎仲間の前で踊ることに意欲的に取り組めない…授業の導入で，リズムダンスを取り入れ，心と体をほぐす。 ◎表したい感じやイメージを表現することに意欲的に取り組めない…関心や能力の違いに応じ題材を選ぶ。 ◎民踊やフォークダンスに意欲的に取り組めない…映像を見せて興味・関心をもたせる。踊りに必要な簡単な小道具や衣装を着けて踊りの雰囲気を高める。	・表したい感じやイメージを表現したり，日本の民踊や外国のフォークダンスで交流したりする運動に積極的に取り組む。 ・表現やフォークダンスに取り組む際に，互いの動きや考えのよさを認め合い，仲間と助け合う。 ・表現やフォークダンスを行う場の設定や用具の片付けなどで，分担された役割を果たす。 ※活動する場所の危険物を取り除くとともに，仲間とぶつからないよう，場の安全に気を配る。

G 保 健

	指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
第3学年 保健	1 健康な生活 （1） 知識 健康な生活について理解すること。 ア 健康な生活 ・心や体の調子がよいなどの健康の状態は，主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること イ 1日の生活の仕方 ・毎日を健康に過ごすには，運動，食事，休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること，また，体の清潔を保つことなどが必要であること ウ 身の回りの環境 ・毎日を健康に過ごすには，明るさの調節，換気などの生活環境を整えることなどが必要であること	環境 ・健康の状態には，気持ちが意欲的であること，元気なこと，具合の悪いところがないことなどの心や体の調子がよい状態があることを理解できるようにする。 ・健康の状態には，1日の生活の仕方などの主体の要因や身の回りの環境の要因が関わっていることを理解できるようにする。 ・心や体が健康であることは，人と関わりながら明るく充実した毎日の生活を送れることにつながり，健康がかけがえのないものであることに触れるようにする。 ・健康の保持増進には，1日の生活の仕方が深く関わっており，1日の生活のリズムに合わせて，運動，食事，休養及び睡眠をとることが必要であることを理解できるようにする。 ・日常生活に運動を取り入れることの大切さについて触れるようにする。 ・手や足などの清潔，ハンカチや衣服などの清潔を保つことが必要であることを理解できるようにする。 ・健康の保持増進には，生活環境が関わっており，部屋の明るさの調節や換気などの生活環境を整えることが必要であることを理解できるようにする。
	（2） 思考力・判断力・表現力 健康な生活について課題を見付け，その解決に向けて考え，それを表現すること。	★健康な生活に関わる事象から課題を見付け，健康な生活を目指す視点から，解決の方法を考え，それを伝えることができるようにする。

	指導内容	内容の取扱い
第4学年 保健	2　体の発育・発達 （1）　知識 体の発育・発達について理解すること。	
	ア　体の発育・発達 ・体は，年齢に伴って変化することや体の発育・発達には，個人差があること	・体の発育・発達については，身長，体重などを適宜取り上げ，これらは年齢に伴って変化することを理解できるようにするとともに，個人差があることを理解できるようにする。
	イ　思春期の体の変化 ・体は，思春期になると次第に大人の体に近づき，体つきが変わったり，初経，精通などが起こったりすることや異性への関心が芽生えること	・思春期には，体つきに変化が起こり，人によって違いがあるものの，男子はがっしりした体つきに，女子は丸みのある体つきになるなど，男女の特徴が現れることを理解できるようにする。 ・思春期には，初経，精通，変声，発毛が起こり，また，異性への関心も芽生えることについて理解できるようにする。 ・個人差があるものの，大人の体に近づく現象であることを理解できるようにする。 ※指導に当たっては，発達の段階を踏まえること，学校全体で共通理解を図ること，保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。
	ウ　体をよりよく発育・発達させるための生活 ・体をよりよく発育・発達させるには，適切な運動，食事，休養及び睡眠が必要であること	・体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には，体の発育・発達によい運動，多くの種類の食品をとることができるようなバランスのとれた食事，適切な休養及び睡眠などが必要であることを理解できるようにする。 ・運動については，生涯を通じて骨や筋肉などを丈夫にする効果が期待されること，食事については，特に，体をつくる基になるたん白質，不足がちなカルシウム，不可欠なビタミンなどを摂取する必要があることについて触れるようにする。
	（2）　思考力・判断力・表現力 体がよりよく発育・発達するために，課題を見付け，その解決に向けて考え，それを表現すること。	★体の発育・発達に関わる事象から課題を見付け，体のよりよい発育・発達を目指す視点から，適切な方法を考え，それを伝えることができるようにする。

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第5学年　保健	1　心の健康 （1）　知識 心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに，簡単な対処をすること。	
	ア　心の発達 ・心は，いろいろな生活経験を通して，年齢に伴って発達すること	・心は人との関わり，あるいは自然とのふれあいなど様々な生活経験や学習を通して，年齢に伴って発達することを理解できるようにする。 ・家族，友達，地域の人々など人との関わりを中心として取り扱うようにし，心が発達することによって，自己の感情をコントロールしたり，相手の気持ちを理解したりすることができるようになることに触れるようにする。 ・自己の気持ちを上手に伝えるなど，よりよいコミュニケーションが大切であることに触れるようにする。
	イ　心と体との密接な関係 ・心と体には，密接な関係があること	・不安や緊張時には，動悸が激しくなったり，腹痛を起こしたりすること，体調が悪いときには，集中できなかったり，落ち込んだ気持ちになったり，体調がよいときには，気持ちが明るくなったり，集中できるようになったりすることなど，心と体は深く影響し合っていることを理解できるようにする。
	ウ　不安や悩みへの対処 ・不安や悩みへの対処には，大人や友達に相談する，仲間と遊ぶ，運動をするなどいろいろな方法があること。	・不安や悩みがあるということは誰もが経験することであり，そうした場合には，家族や先生，友達などと話したり，相談したりすること，仲間と遊ぶこと，運動をしたり音楽を聴いたりすること，呼吸法を行うなどによって気持ちを楽にしたり，気分を変えたりすることなど様々な方法があり，自分に合った適切な方法で対処できることを理解できるようにする。 ・自己の心に不安や悩みがある状態に気付くことや不安や悩みに対処するために様々な経験をすることは，心の発達のために大切であることに触れるようにする。 ※不安や悩みへの対処として，体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などを行うことができるようにする。
	（2）　思考力・判断力・表現力 心の健康について，課題を見付け，その解決に向けて思考し判断するとともに，それらを表現すること。	★心の健康に関わる事象から課題を見付け，心をよりよく発達させたり不安や悩みに対処したりする視点から，解決の方法を考え，適切なものを選び，それらを説明することができるようにする。

	指導内容	内容の取扱い
第5学年 保健	2　けがの防止 （1）　知識 けがの防止について理解するとともに，けがなどの簡単な手当をすること。	
	ア　交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止 ・交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には，周囲の危険に気付くこと，的確な判断の下に安全に行動すること，環境を安全に整えることが必要であること。	・毎年多くの交通事故や水の事故が発生し，けがをする人や死亡する人が少なくないこと，また，学校生活での事故や，犯罪被害が発生していることを理解できるようにするとともに，これらの事故や犯罪，それらが原因となるけがなどは，人の行動や環境が関わって発生していることを理解できるようにする。 ・交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがを防止するためには，周囲の状況をよく見極め，危険に早く気付いて，的確な判断の下に安全に行動することが必要であることを理解できるようにする。 ※交通事故の防止については，道路を横断する際の一時停止や右左の安全確認などを，学校生活の事故によるけがの防止については，廊下や階段の歩行の仕方，運動場などでの運動や遊び方などを，犯罪被害の防止については，犯罪が起こりやすい場所を避けること，犯罪に巻き込まれそうになったらすぐに助けを求めることなどを取り上げるようにする。 ・心の状態や体の調子が的確な判断や行動に影響を及ぼすことについて触れるようにする。 ・交通事故，水の事故，学校生活の事故や，犯罪被害の防止には，危険な場所の点検などを通して，校舎や遊具など施設・設備を安全に整えるなど，安全な環境をつくることが必要であることを理解できるようにする。 ・通学路や地域の安全施設の改善などの例から，様々な安全施設の整備や適切な規制が行われていることに触れるようにする。
	イ　けがの手当 ・けがなどの簡単な手当は，速やかに行う必要があること。	・けがをしたときには，けがの悪化を防ぐ対処として，けがの種類や程度などの状況をできるだけ速やかに把握して処置すること，近くの大人に知らせることが大切であることを理解できるようにする。 ・自らできる簡単な手当には，傷口を清潔にする，圧迫して出血を止める，患部を冷やすなどの方法があることを理解できるようにする。 ・すり傷，鼻出血，やけどや打撲などを適宜取り上げ，実習を通して，傷口を清潔にする，圧迫して出血を止める，患部を冷やすなどの自らできる簡単な手当ができるようにする。

	指導内容	内容の取扱い
第5学年 保健	（2） 思考力・判断力・表現力 けがを防止するために，危険の予測や回避の方法を考え，それらを表現すること。	★けがの防止に関わる事象から課題を見付け，危険の予測や回避したり，けがを手当したりする方法を考え，それらを伝えることができるようにする。
第6学年 保健	3 病気の予防 （1） 知識 病気の予防について理解すること。 ア 病気の起こり方 ・病気は，病原体，体の抵抗力，生活行動，環境が関わりあって起こること。	・日常経験している病気として「かぜ」などを取り上げ，病気は，病原体，体の抵抗力，生活行動，環境などが関わりあって起こることを理解できるようにする。
	イ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防 ・病原体が主な要因となって起こる病気の予防には，病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。	・病原体が主な要因となって起こる病気として，インフルエンザ，麻疹，風疹，結核などを適宜取り上げ，その予防には，病原体の発生源をなくしたり，移る道筋を断ち切ったりして病原体が体に入るのを防ぐこと，また，予防接種や適切な運動，食事，休養及び睡眠をとることなどによって，体の抵抗力を高めておくことが必要であることを理解できるようにする。
	ウ 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防 ・生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には，適切な運動，栄養の偏りのない食事をとること，口腔の衛生を保つことなど，望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。	・生活行動が主な要因となって起こる病気として，心臓や脳の血管が硬くなったりつまったりする病気，むし歯や歯ぐきの病気などを適宜取り上げ，その予防には，全身を使った運動を日常的に行うこと，糖分，脂肪分，塩分などを摂りすぎる偏った食事や間食を避けたり，口腔の衛生を保ったりすることなど，健康によい生活習慣を身に付ける必要があることを理解できるようにする。
	エ 喫煙，飲酒，薬物乱用と健康 ・喫煙，飲酒，薬物乱用などの行為は，健康を損なう原因となること。	・喫煙については，せきが出たり心拍数が増えたりするなどして呼吸や心臓のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れること，受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすことを理解できるようにする。 ・喫煙を長い間続けるとがんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについて触れるようにする。

	指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
第6学年　保健		・飲酒については，判断力が鈍る，呼吸や心臓が苦しくなるなどの影響がすぐに現れることを理解できるようにする。 ・飲酒を長い間続けると肝臓などの病気の原因になるなどの影響があることについて触れるようにする。 ※低年齢からの喫煙や飲酒は特に害が大きいことについても取り扱うようにし，未成年の喫煙や飲酒は法律によって禁止されていること，好奇心や周りの人からの誘いなどがきっかけで喫煙や飲酒を開始する場合があることについて触れるようにする。 ・薬物乱用については，シンナーなどの有機溶剤を取り上げ，一回の乱用でも死に至ることがあり，乱用を続けると止められなくなり，心身の健康に深刻な影響を及ぼすことを理解できるようにする。 ・覚醒剤を含む薬物乱用は法律で厳しく規制されていることに触れるようにする。
	オ　地域の様々な保健活動の取組 ・地域では，保健に関わる様々な活動が行われていること。	・人々の病気を予防するために，保健所や保健センターなどでは，健康な生活習慣に関わる情報提供や予防接種などの活動が行われていることを理解できるようにする。
	（2）　思考力・判断力・表現力 病気を予防するために，課題を見付け，その解決に向けて思考し判断するとともに，それらを表現すること。	★病気の予防に関わる事象から課題を見付け，病気を予防する視点から解決の方法を考え，適切な方法を選び，それらを説明することができるようにする。

第１０節　外 国 語

第１　目　　標

（小学校 ）

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと， 話すこと，書くことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

⑴ 外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解するとともに，読むこと，書くことに慣れ親しみ，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

⑵ コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，身近で簡単な事柄について，聞いたり話したりするとともに，音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

⑶ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

※「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは，外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，コミュニケーションを行う目的や場面，状況等に応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，再構築すること。

（中学校 ）

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

⑴ 外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解するとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

⑵ コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり，これらを活用して表現したり伝え合ったり することができる力を養う。

⑶ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら,主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

標準授業時数	小学校				中学校		
	外国語活動		外国語		外国語		
	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
	３５	３５	７０	７０	１４０	１４０	１４０

第２　各言語の目標及び内容

１ 目　　標

英語学習の特質を踏まえ，以下に示す，聞くこと，読むこと，話すこと［やり取り］，話すこと［発表］，書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して，第１の（1）及び（2）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに，その過程を通して，第１の（3）に示す資質・能力を育成する。

⑴ 聞くこと

ア ゆっくりはっきりと話されれば，自分のことや身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。

イ ゆっくりはっきりと話されれば，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，具体的な情報を聞き取ることができるようにする。

ウ ゆっくりはっきりと話されれば，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，短い話の概要を捉えることができるようにする。

⑵ 読むこと

ア 活字体で書かれた文字を識別し，その読み方を発音することができるようにする。

イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

⑶ 話すこと［やり取り］

ア 基本的な表現を用いて指示，依頼をしたり，それらに応じたりすることができるようにする。

イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして，伝え合うことができるようにする。

⑷ 話すこと［発表］

ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

イ 自分のことについて，伝えようとする内容を整理した上で，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

ウ 身近で簡単な事柄について，伝えようとする内容を整理した上で，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用 いて話すことができるようにする。

⑸ 書くこと

ア 大文字，小文字を活字体で書くことができるようにする。また，語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基 本的な表現を書き写すことができるようにする。

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について，例文を参考に，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

2 内 容

▲：他校種とのつながり，◎：他学年とのつながり，★：他教科とのつながり
※：特に配慮を要する事項，◆：参考事項（神戸の特色等）

【知識及び技能】

（1）英語の特徴やきまりに関する事項

指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
実際に英語を用いた言語活動を通して，次に示す言語材料のうち，1に示す五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに，言語材料と言語活動とを効果的に関連付け，実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。	
ア　音声 次に示す事項のうち基本的な語や句，文について取り扱うこと。	
(ｱ) 現代の標準的な発音	・小学校の外国語科では，標準的な発音を指導するものとし，多様な人々とのコミュニケーションが可能となる発音を身に付けさせる。また，日本語と英語の音声の特徴や違いに気付かせることに十分留意する必要がある。
(ｲ) 語と語の連結による音の変化	・英語を話すときには，一語一語を切り離して発音せず，複数の語を連続して発することが多い。このように語と語を連結させることによって英語を滑らかにかつリズミカルに話すことができる。 （例）2語が連結する場合 I have a pen.（have と a が連結）　It is good.（it と is が連結） ※音の変化の指導に当たっては，音声で十分に慣れ親しんだ表現として繰り返し触れさせるとともに，英語のリズムを大切にしながら発音させるようにすることが重要である。
(ｳ) 語や句，文における基本的な強勢	・英語の語や句，文にはそれぞれ強く発音される部分とそうでない部分がある。強く発音される部分は大きく長めに，そうでない部分は弱くすばやく発音されることから強勢がほぼ等間隔に置かれることになり，英語特有のリズムが生まれる。英語は日本語と違って強弱によってアクセントを付ける場合が多い。このような日本語とは異なる英語のリズムを理解させ，習得させることが重要である。 （例）語における強勢　ápple thirtéen fávorite 句における強勢　on Mónday for my bírthday 文における強勢　I gó to scho'ol. Whát do you líke? ※小学校の外国語科においては，音声で十分慣れ親しませることを通して，強勢があることによって英語特有のリズムが生まれることに気付かせることが重要である。
(ｴ) 文における基本的なイントネーション	・イントネーションは話者の気持ちや意図，相手との関係など，その場の状況などによって変化するが，英語の文には文がもつ基本的なイントネーションがある。 ・下降調のイントネーションは平叙文や命令文に見られることが多い。また，wh- 疑問文も原則としてこのイントネーションが用いられる。 （例）I like soccer very much.↘　Go straight.↘　Where do you want to go?↘ ・上昇調のイントネーションは yes－no 疑問文や言葉を列挙するときなどに見られることが多い。 （例）Are you a baseball player?↗　I like English,↗ Japanese,↗ and math.↘

	※音声で十分慣れ親しんだ表現について，基本的なイントネーションに気付き，話す場合に用いることができるように指導することが必要である。
(ｵ) 文における基本的な区切り	・英語において，特に長い文は文の構成や意味のまとまりを捉えて区切る必要がある。また，文を聞くときにも，区切りに注意すると意味を捉えることに役立つ。小学校段階では，過度に意味のまとまりを意識させながら区切って話す練習を行うのではなく，表現に繰り返し触れさせることによって区切りに関する気付きを促すようにする。 ▲文を適切に区切りながら読ませることは中学校の外国語科の指導内容となる。
イ　文字及び符号	
(ｱ) 活字体の大文字，小文字	・英語で用いられる文字は，ローマ字（あるいはラテン文字）と呼ばれ，大文字及び小文字がある。英語の文字の読み方には，名称と音がある。小学校段階では，文字の名称を聞いてその文字を選んだり，文字を見てその名称を発音したりすることができるように指導することとする。 ▲中学校の外国語科においては，発音と綴りを関連付けて指導することとしている。 ※文字の細部を指導するのではなく，コミュニケーションを行うために文字を書くことを意識させ，ほかの文字と区別して認識できるように丁寧に書いたり，適度な速さで書いたりすることを意識させることが重要である。文字の書き順については，書きやすさと読みやすさの点から標準的な書き順を扱うこととする。 ◎文字を指導する際には，小学校第３学年の国語科において日本語のローマ字表記が指導されていることを踏まえ，児童の学習状況を見ながら英語の文字との違いに気付かせながら指導したり，日本語のローマ字表記で用いられない文字については十分触れさせてから書くようにしたりするなど指導の工夫をすることが必要である。 ※筆記体については，中学校の外国語科において，生徒の学習負担に配慮しながら指導することができるとされている内容であり，小学校の外国語科では扱わない。
(ｲ) 終止符や疑問符，コンマなどの基本的な符号	・符号のうち，基本的な終止符（ . ）や疑問符（ ? ）コンマ（ , ）を指導する。通常，平叙文の文末には終止符を，疑問文の文末には疑問符を最後の語に付けて用いる。次の文を続ける時には，スペースを空ける。 (例) 終止符と疑問符 This is my hero. He is good at tennis.（hero や tennis と終止符の間にスペースを入れない） Can you sing well?（well と疑問符の間にスペースを入れない） ・コンマは，語や句，文を区切る記号の一つである。小学校の外国語科において扱うコンマは，呼び掛けを示す際，語や句を三つ以上列挙する際に用いられるものである。二つの語や句を and で結ぶ際には，通常コンマを用いない。コンマは，その前の語に続けて用いる。 (コンマを使用する例) Hello, Kumi.（Hello とコンマの間にスペースを入れない） I like baseball, tennis, and swimming.（baseball や tennis と，その後のコン

	マの間にスペースを入れない） （コンマを使用しない例） I like baseball and tennis. ※音声で十分慣れ親しんだ基本的な表現の中で終止符や疑問符，コンマなどの符号を示したり，児童に書き写させたりするようにする。
ウ　語，連語及び慣用表現 (ｱ) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる，第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む 600 ～ 700 語程度の語	・5・6年生の2学年間に指導する語は，今回の改訂で第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む 600 ～ 700 語程度の語とした。 ※この 600 ～ 700 語というのは発信語彙と受容語彙の両方を含めた語彙サイズであり，これらの全てを覚えて使いこなさなければならない，ということではない。 ※児童の発達の段階に応じて，聞いたり読んだりすることを通して意味が理解できるように指導すべき語彙のことを受容語彙，話したり書いたりして表現できるように指導すべき語彙のことを発信語彙という。 ※小学校段階では，初めて外国語に触れるため，「聞くこと」，「話すこと」と「読むこと」，「書くこと」とでは求めるレベルが違うことを踏まえると，聞いて意味を理解できるようにする語彙と，話して表現できるようにする語彙が中心となると考えることができる。
(ｲ) 連語のうち，get up，look at などの活用頻度の高い基本的なもの	・ここでいう「連語」とは，get up，look at などのように，二つ以上の語が結び付いて，まとまった意味を表すものを指している。学習指導要領に挙げられている連語はあくまでも例示であり，例えば， stand up，be good at，how much など，例示されている以外の連語を取り上げることも考えられる。
(ｳ) 慣用表現のうち，excuse me，I see，I'm sorry，thank you，you're welcome などの活用頻度の高い基本的なもの	・ここでいう「慣用表現」とは，ある特定の場面で用いる定型的な表現を指している。コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するためには，日常生活でよく用いられる様々な慣用表現を身に付けさせることも重要である。これらの慣用表現を場面に応じて使用することによって，円滑なコミュニケーションが可能となる。 ※学習指導要領に挙げられている慣用表現はあくまでも例示であり，例えば，“I got it.” “I have no idea.” “No problem.” など，例示されている以外の慣用表現を取り上げることも考えられる。
エ　文及び文構造 次に示す事項について，日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに基本的な表現として，意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。	・繰り返し話したり，聞いたりすることによって英語の語順に気付かせ，その規則性を内在化させたり，自ら話したり書いたりする中でどのように語と語を組み合わせれば自分の伝えたいことが表現できるのかということに意識を向けさせたりするようにする。 ※文を「文型」という型によって分類するような指導に陥らないように配慮し，文の構造自体に目を向けるようにする。
(ｱ) 文 a 単 文	・単文（主語と述語の関係が一つだけ含まれる）を指導する。 (例) I want a new ball.　I'm happy.　She can play baseball well. ▲重文と複文は中学校の外国語科において指導する。

b 肯定，否定の平叙文	・肯定文は英語の基本的な語順を学ぶ上で基礎となるものであり，その特徴を十分理解させる。 （例）I play baseball.　He is a good soccer player.　She can swim fast. ・否定文は否定語や語形の変化などを伴うことが多いので，肯定文との違いを理解させるように指導する。 （例）I don't like soccer very much.　She isn't a teacher.　I can't play the piano.
c 肯定，否定の命令文	・肯定の命令文は，主語を示さず，動詞の原形を使用する。 （例）Go straight for three blocks.　Please be quiet, David. ・否定の命令文は，主語を示さず，Don't の後に動詞の原形を使用する。 （例）Don't run here.　Don't be noisy, Ken. ・一般動詞と be 動詞の用法の点から命令文の特徴を理解させるのではなく，命令文を基本的な表現として扱い，繰り返し触れさせたり，活用させたりするようにし，使用する場面の設定に配慮する。
d 疑問文のうち，be 動詞で始まるものや助動詞（can，do など）で始まるもの，疑問詞（who，what，when，where，why, how）で始まるもの	・自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄についての疑問文を取り扱うようにし，音声で十分慣れ親しませた上で疑問文とその応答の仕方などを言語活動の中で活用できるようにする。 ・be動詞で始まるものや助動（can, do など）で始まる疑問文 （例１）A: Do you like blue?　B: Yes, I do. （例２）A: Are you from Canada? B: No, I'm not.　I'm from Australia. （例３）A: Can you dance well?　B: Yes, I can. ・疑問詞（who，what，when，where，why，how）で始まる疑問文 （例１）A: When is your birthday?　B: It is March 10th. （例２）A: What time do you get up?　B: I usually get up at 6：00.
e 代名詞のうち，I，you，he，she などの基本的なものを含むもの	・I，you，he，she などの基本的な人称代名詞を含む文を指導する。 （例１）I want a new ball. （例２）A: Where do you want to go?　B: I want to go to Italy. （例３）This is my hero.　She can swim fast.　She is cool. ※he や she などの人称代名詞を含む文を扱う際には，児童の発達の段階を考慮して，その場にいない人を話題にするなどの場面設定をし，児童がhe，she などの使い方を言語活動を通して分かるようにするとともに，文法の解説をしたり複雑な文になったりしないように留意する。
f 動名詞や過去形のうち，活用頻度の高い基本的なものを含むもの	・動名詞や過去形を含む文のうち，五つの領域別の目標を達成するのにふさわしい表現を指導する。 （例１）I am good at swimming.

（例２）I enjoyed fishing.

（例３）I went to Okinawa.　I saw the blue sea.　It was beautiful.

※動名詞や過去形を文から取り出して指導することはしない。

▲中学校の外国語科においては，動名詞や過去形は「文法事項」として扱われ，使い方の理解を深めると同時に，別の場面や異なる表現の中で活用できるように指導することとしている。

(ｲ) 文構造

a［主語＋動詞］

・主語と動詞を的確に捉えることができるよう指導する。

（例１）I sometimes get up at 6:00.

（例２）I went to Okinawa.

b［主語＋動詞＋補語］のうち，

主語＋ be 動詞＋｛名詞／代名詞／形容詞｝

・［主語＋動詞］に補語が加わった文構造のうち，動詞が be 動詞の場合の文構造を扱う。

・主語＋ be 動詞＋名詞

（例）My name is Sakura.　David is a good tennis player.

My best memory is our school trip.

・主語＋ be 動詞＋代名詞

（例）This is me.

・主語＋ be 動詞＋形容詞

（例）I am happy.　Ken is strong.　It was fun.

c［主語＋動詞＋目的語］のうち，

主語＋動詞＋｛名詞／代名詞｝

・［主語 ＋動詞］に目的語が加わった文構造を扱う。

・主語＋動詞＋名詞

（例）I like apples very much.　I usually wash the dishes.

・主語＋動詞＋代名詞

（例）This is my cap.　I like it.

I like baseball.　I play it on Saturdays.

・主語＋動詞＋動名詞

（例）I like playing the piano.　　I enjoyed swimming.

※動詞が wantであるとき，目的語として，名詞的扱いとなる to 不定詞をとることがあるが，want ＋ to 不定詞を取り扱う場合には，児童の発達の段階を考慮して，五つの領域別の目標を達成するのにふさわしい表現として指導するように留意する。

【思考力, 判断力, 表現力等】

（2）情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項

指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
具体的な課題等を設定し，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報 を整理しながら考えなどを形成し，これらを表現することを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
ア　身近で簡単な事柄について，伝えようとする内容を整理した上で，簡単な語句や基本的な表現を用いて，自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。	・自分のこと，友達や家族，学校生活など身近で簡単な事柄について，コミュニケーションの目的や場面，状況等に応じて内容を整理した上で，簡単な語句や基本的な表現の中から適切なものを選び，自分の考えや気持ちなどを伝え合うようにする。 ※コミュニケーションを行う際，英語で伝え合うだけでなく，自分の考えと，コミュニケーションする相手の考えを比較したり，新たな考えを知識として取り入れたりしながら，自分の考えを再構築することが重要である。 ・言語活動の質の高まりによる自分の考えの変容について，自ら学習のまとめを行ったり，振り返りを行ったりすることで，「思考力，判断力，表現力等」を高める必要がある。
イ　身近で簡単な事柄について，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりすること。	・自分のこと，友達や家族，日常生活について，絵や写真等，言語外情報を伴って示された簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりするようにする。 ・音声で十分慣れ親しんだ語句が文字のみで示された場合，文字の音を頼りに，その語句の読み方を推測して読むなど，児童が「思考力，判断力，表現力等」を働かせてコミュニケーションを行うことができるような目的や場面，状況等を明確に設定する必要がある。 ・児童に英語の文構造を理解させるために， 語の配列等の特徴を日本語との比較の中で捉えて指導を行うなどの工夫も考えられる。 ※単に，語順を意識して英語を書くだけでなく，例えば，外国の姉妹校の同年代の児童とメールや手紙で「将来の夢」について伝え合い，自分たちの夢との共通点や相違点を知ることで，多様な考え方や価値観に触れ，様々な国の人々とのコミュニケーションへの意欲を高めるなど，主体的な学びにつながる学習活動を展開する必要がある。

（3）言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
⑵ に示す事項については，⑴ に示す事項を活用して，例えば，次のような言語活動を通して指導する。	
ア　聞くこと (ｱ) 自分のことや学校生活など，身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を聞いて，それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。	・「自分のことや学校生活など，身近で簡単な事柄」を取り扱い，ゆっくりはっきりと話される英語を聞くことができるようにする。 ※どの児童も自信をもってこの活動に取り組むことができるよう，聞かせる事柄や聞かせる英語の速さに留意するなどの配慮をすることが大切である。

(ｲ) 日付や時刻，値段などを表す表現など，日常生活に関する身近で簡単な事柄に ついて，具体的な情報を聞き取る活動。	・学級の友達の誕生日や好きな季節などを聞き取ったり，話し手が先週の休日に行った場所やそこでしたことなどを聞き取ったりするなど，日常生活に関する身近で簡単な事柄についての事実や出来事などの具体的な情報を扱う。 ※日常生活に関する身近な事柄を表す語句等は，中学校以降の英語学習において何度も触れることになる汎用性の高いものであり，これらを表す語句や英語表現について，音声で十分慣れ親しみ， 聞いてその意味が分かるようにしておくことはとても重要なことである。
(ｳ) 友達や家族，学校生活など，身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を，イラストや写真などを参考にしながら聞いて，必要な情報を得る活動。	・短い会話や説明などある程度まとまりのある英語を聞いて必要な情報を得られるようにする。 ※この活動に取り組む前には，何を聞き取ればよいのか，また何を聞き取りたいのかを明らかにし，目的意識をもった聞き方ができるように指導することが肝要である。 ・一語一句全てを詳細に聞き取ろうとするのではなく，自分にとって必要な情報を得ようとする聞き方を身に付けることは，中学校以降，徐々に多くの英文を聞く活動に取り組むようになることを見通したとき，とても重要である。
イ　読むこと	
(ｱ) 活字体で書かれた文字を見て，どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。	・「識別する」とは，活字体で書かれた文字の中から，例えば A，B や a，b という文字を見て，それらが，/ei/，/biː/ を表した文字であると認識することである。 (例) 自己紹介の場面で，自分の名前を“My name is Haruna.”と紹介した後，“H, a, r, u, n, a.”と自分の名前の綴りを言って，自分の名前を相手にしっかりと伝える活動等が考えられる。
(ｲ) 活字体で書かれた文字を見て，その読み方を適切に発音する活動。	・英語の文字には，名称以外に，語の中で用いられる場合の文字が示す音がある。文字の音の読み方は，(ｳ) や (ｴ) の言語活動を行う際に，文字を識別し，語句の意味を捉えることに役立つ。 ※文字の音の読み方を指導する際は，文字の名称の読み方との混同や種類の多さによる混乱から難しさを感じることがないよう留意する必要がある。
(ｳ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから，自分が必要とする情報を得る活動。	・海外旅行のパンフレットを模した紙面を読んで，行きたい国で有名な食べ物やお勧めの季節などの情報を得る活動や，テレビ番組欄を模した紙面を読み，曜日や見たいスポーツ（スポーツ番組名）などの情報を得る活動が考えられる。
(ｴ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を，絵本などの中から識別する活動。	・この事項が示している活動には大きく二種類ある。一つ目は，文を読んで，その中から音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を識別する活動である。二つ目は，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれた文を読んで，その意味を捉える活動である。 ※どちらの活動に取り組ませる場合も，その前段階として，読ませる語句や表現に音声で十分に慣れ親しませることは必須である。
ウ　話すこと（やり取り）	
(ｱ) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり，相手に指示や依頼をして，それらに応じたり断ったりする活動。	・年度初めに学級の友達と行う自己紹介や，道案内， レストランで客と店員になりきって行う活動などに取り組むことを示している。 ・「挨拶」，「自己紹介」，「買物」，「食事」，「道案内」，「旅行」など，「特有の表現がよく使われる場面」を設定して行われることが多くなると考えられる。

(ｲ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどを伝えたり，簡単な質問をしたり，質問に答えたりして伝え合う活動。	・自分が好きな日本の食文化について互いの考えや気持ちを伝え合う活動に取り組むことを示している。 ※やり取りがある程度は継続するように，相手が言ったことを繰り返したり，応答したり，質問したりすることができるようになるための指導も必要である。 ※教師が当該表現を意識的に繰り返し使用するといった「やってみせる指導」が大切である。そして，段階的に児童同士がやり取りをする機会をもてるようにし，そのやり取りの中で児童に当該表現を継続的に使用することで活用できるようにする。
(ｳ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり，相手に関する簡単な質問をその場でしたりして，短い会話をする活動。	・「質問に対してその場で答えたり」，「質問をその場でしたり」する即興的な活動に取り組むことを示している。ただし，即興的といっても， 学習の段階を考慮し，話題を「自分に関する」ことに，そして質問は「簡単な」ものにそれぞれ限定し，児童が行う会話は「短い」ものとしている。 (例) A：What sports do you like? B：I like baseball. A：Do you like ～（野球選手の名前）？ B：Yes. ※すぐにできないのは自然なことであるため，この活動に取り組ませた後すぐに，「質問できましたか」「質問に答えることができましたか」などと活動の成果を確認することは避けた方がよい。
エ　話すこと（発表）	
(ｱ) 時刻や日時，場所など，日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。	・自分の休日の過ごし方について説明する活動に取り組むことを示している。 ※多様な語句は，一度に限って指導するのではなく，視聴覚教材などを活用しながら聞かせることで意味を捉えることができるようにし，その後， 例えば同じ動詞や連語を複数回の授業で繰り返し使用するなど，何度も聞いたり言ったりすることができるような指導を行うことが必要である。 (例) “On Sunday, I usually get up at seven. I always walk with my dog. I usually eat breakfast at eight.”
(ｲ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて，自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。	・自己紹介で使用することが想定される語句や英語表現としては，“My name is ～.”“My birthday is ～.”“I like/have/play/watch ～.”“I can ～.”“I′m good at ～.” “I want to ～.”などが考えられる。 ※学校の状況や児童の実態に応じた工夫をすることが必要になる。 (例) 自己紹介の内容が少しでも豊かになるよう，いくつかの動詞や頻度を表す副詞を使って自己紹介をさせることが考えられる。また，まずは複数人と自己紹介をし合い，そこで得た情報を踏まえて，自己紹介し合った中の誰かになりきって話し，誰になりきっているかを当てるという活動を行うことも考えられる。
(ｳ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて，学校生活や地域に関することなど，身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどを話す活動。	▲中学校生活への期待等を学級全体の前やグループの中で話す活動に取り組むことを示している。 (例) “Hello, everyone. I want to join the badminton club. I like badminton very much. I want to make many friends. Thank you.” ※全ての児童が自分の考えをもったり，それを伝えるための英語表現を言うことができるようになったりするための指導を，単元や単位時間の授業の中で行うこと

	も必要である。 ※練習する時間を設けることを考えると，発音やイントネーションなどの音声に関する指導も行うことが望ましい。
オ　書くこと	
㋐ 文字の読み方が発音されるのを聞いて，活字体の大文字，小文字を書く活動。	・児童が何も見ることなく自分の力で活字体の大文字，小文字を書くことができるように指導する。 ・「聞くこと」の活動により文字の読み方について十分慣れ親しませ，文字を識別したり発音したりさせ，その後,この事項の活動に取り組ませるという順序性を踏まえた指導を行う。 ※活字体の大文字，小文字を一度に全て取り扱うのではなく，児童の実態に応じて一度に取り扱う文字の数や種類に配慮する。 ※いわゆる「ドリル学習」のような，単調な繰り返しの学習に終始するのではなく，何らかの書く目的をもたせたり，ゲーム的要素を取り入れたりするなど，児童の学習意欲を高める工夫をする。 ・「書くこと」の活動は教師が想像する以上に時間がかかる場合がある。授業においては十分な時間を確保するとともに，四線上に正しく書くことができるようにする。 ・年間を通じて，全ての「書くこと」の活動において，文字を書くことができているか，できるようになってきているかを丁寧に見届け，指導に生かす。
㋑ 相手に伝えるなどの目的をもって，身近で簡単な事柄について，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。	・この事項では，「簡単な語句」を書き写すものとする。 （例）諸外国の魅力などについて話される英語を聞いて，内容や使用されている表現を知る。そして，「読むこと」の活動により， 国名を表す名詞を読んで意味が分かるようにした後，国名一覧を見ながら，自分が行きたい国の国名を表す語を書き写す。カードを作って行ってみたい国を紹介するといった目的をもたせ，装飾枠やイラストを付した国紹介カードに書かせる。
㋒ 相手に伝えるなどの目的をもって，語と語の区切りに注意して，身近で簡単な事柄について，音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。	・この事項では，「基本的な表現」を書き写すものとする。 ・語と語の区切りに注意させることも指導する。 （例）一日の学校生活について話される英語を聞いて，内容や使用されている英語表現を知る。紙面上で何人かの登場人物が書いている英文（We study/have English on Monday and Wednesday. We study/have English on Tuesday and Thursday. など）を読み，自分自身の学級で英語の授業がある曜日を表現できるよう，書かれている英文を見ながら一文を書き写す。自分が理想とする時間割を書かせたり，自分と同じ時間割にした人を探したりするなどの目的をもたせる工夫をすることが考えられる。 ・ここでの「書き写す」とは，語句や文を見ながらそれらをそのまま書くことである。一方で，「書く」とは，例となる文を見ながら，自分の考えや気持ちを表現するために，例となる文の一部を別の語に替えて書くことである。
㋓ 相手に伝えるなどの目的をもって，名前や年齢，趣味，好き嫌いなど，自分に関する簡 単な事柄について，	・児童が，言葉を選んで書くことができるよう，例となる語句や表現を示すことが必須となる。 ・人名や地名のローマ字表記は英語の中でも用いることを指導するようにする。 ◎第３学年の国語科においては，第１表（いわゆる訓令式）により，日本語の音が

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。	子音と母音の組み合わせで成り立っていることを理解すること，第２表（いわゆるヘボン式と日本式）により，例えばパスポートにおける氏名の記載など，外国の人たちとコミュニケーションを行う際に用いられることが多い表記の仕方を理解することが重視されている。 ◎高学年の外国語科においては，国際的な共通語として英語を使用する観点から，できるだけ日本語の原音に近い音を英語を使用する人々に再現してもらうために，いわゆる「ヘボン式ローマ字」で表記することを指導する。

② 言語の働きに関する事項

指導内容	内容の取扱い
言語活動を行うに当たり，主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	
ア　言語の使用場面の例	
(ｱ) 児童の身近な暮らしに関わる場面 ・家庭での生活 ・学校での学習や活動 ・地域の行事　など	(例) A: What time do you get up? B: I usually get up at six. (例) A: Do you have Japanese class on Wednesdays? B: Yes, I do.（ No, I don't.　I have math on Wednesdays.） (例) A: Let's go to the summer festival. B: Yes, let's.（I'm sorry. I can't.）
(ｲ) 特有の表現がよく使われる場面 ・挨拶 ・自己紹介 ・ 買物 ・食事 ・ 道案内・旅行　など	(例) A: Hello,（Takeshi）.　How are you? B: I'm fine, thank you.　How are you? (例) A: Hi, I'm(　).　I'm from Brazil. I like soccer. B: Oh, you can play soccer very well. (例)　客: How much is the bag? 店員: It's nine hundred yen. (例) A: What would you like? B: I'd like pizza. (例) A: Where is the park? B: Go straight for three blocks. Turn right. You can see it on your right.
イ　言語の働きの例	
(ｱ) コミュニケーションを円滑にする ・挨拶をする ・呼び掛ける ・相づちを打つ　など ・聞き直す ・繰り返す　など	(例)・Good morning. ・Good afternoon. (例)・Hello, Ken. ・Excuse me. (例) A: I want to be a vet. B: Oh, I see. (例)・Sorry? (例) A: I went to Osaka.

(ｲ) 気持ちを伝える ・礼を言う ・ 褒める ・ 謝る　など (ｳ) 事実・情報を伝える ・説明する ・報告する ・発表する　など (ｴ) 考えや意図を伝える ・申し出る ・意見を言う ・賛成する ・承諾する ・断る　など (ｵ) 相手の行動を促す ・質問する ・依頼する ・命令する など	B: Osaka.　I see. (例)・Thank you very much. (例)・Good job. (例)・I'm sorry. (例)・This is my favorite place. (例)・We went to Kyoto. (例)・My best memory is our school trip.　We went to Nara. (例)・May I help you? (例)・I want to watch wheelchair basketball on TV. (例)・That's a good idea. (例) A: Let's play baseball. (例) B: O.K. (例) B: Let's play basketball. (例) B: Sorry.　I can't play basketball. (例) A: What sport do you like? (例) B: I like soccer. (例)・Come here, please. (例)・Turn right at the third corner.

3　指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっては，第３学年及び第４学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意しながら，次の事項に配慮するものとする。

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，具体的な課題等を設定し，児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら，コミュニケーションの目的や場面，状況などを意識して活動を行い，英語の音声や語彙，表現などの知識を，五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

イ 学年ごとの目標を適切に定め，２学年間を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること。

ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は，２の(1) に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また，第３学年及び第４学年において第４章外国語活動を履修する際に扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

エ 児童が英語に多く触れることが期待される英語学習の特質を踏まえ，必要に応じて，特定の事項を取り上げて第１章総則の第２の３の (2) のウの (ｲ) に掲げる指導を行うことにより，指導の効果を高めるよう工夫すること。このような指導を行う場合には，当該指導のねらいやそれを関連付けて指導を行う事項との関係を明確にするとともに，単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。

オ 言語活動で扱う題材は，児童の興味・関心に合ったものとし，国語科や音楽科，図画工作科など，他の教科等で児童が学習したことを活用したり，学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。

カ 障害のある児童などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うこと。

キ 学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し，授業を実施するに当たっては，ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等，指導体制の充実を図るとともに，指導方法の工夫を行うこと。

⑵ ２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

ア ２の（1）に示す言語材料については，平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。また，児童の発達の段階に応じて，聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と，話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。

イ 音声指導に当たっては，日本語との違いに留意しながら，発音練習などを通して２の（1）のアに示す言語材料を指導すること。また，音声と文字とを関連付けて指導すること。

ウ 文や文構造の指導に当たっては，次の事項に留意すること。

(ｱ) 児童が日本語と英語との語順等の違いや，関連のある文や文構造のまとまりを認識できるようにするために，効果的な指導ができるよう工夫すること。

(ｲ) 文法の用語や用法の指導に偏ることがないよう配慮して，言語活動と効果的に関連付けて指導すること。

エ 身近で簡単な事柄について，友達に質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため， ペア・ワーク，グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際，他者とコミュニケーションを行うことに課題がある児童については，個々の児童の特性に応じて 指導内容や指導方法を工夫すること。

オ 児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態，教材の内容などに応じて，視聴覚教材やコンピュータ，情報通信ネットワーク，教育機器などを有効活用し，児童の興味・関心をより高め，指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

カ 各単元や各時間の指導に当たっては，コミュニケーションを行う目的，場面，状況などを明確に設定し，言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより，児童が学習の見通しを立てたり，振り返ったりすることができるようにすること。

⑶ 教材については，次の事項に留意するものとする。

ア 教材は，聞くこと，読むこと，話すこと［やり取り］，話すこと［発表］，書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を総合的に育成するため，１に示す五つの領域別の目標と２に示す内容との関係について，単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに，実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げること。

イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活，風俗習慣，物語， 地理，歴史，伝統文化，自然などに関するものの中から，児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし，次の観点に配慮すること。

(ｱ) 多様な考え方に対する理解を深めさせ，公正な判断力を養い豊かな心情を育てることに役立つこと。

(ｲ) 我が国の文化や，英語の背景にある文化に対する関心を高め，理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと。

(ｳ) 広い視野から国際理解を深め，国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員 としての自覚を高めるとともに，国際協調の精神を養うことに役立つこと。

その他の外国語

その他の外国語については，英語の１に示す五つの領域別の目標，２に示す内容及び３に示す指導計画の作成と内容の取扱いに準じて指導を行うものとする。

第３ 指導計画の作成と内容の取扱い

１ 外国語科においては，英語を履修させることを原則とすること。

２ 第１章総則の第１の２の（2）に示す道徳教育の目標に基づき，道徳科などとの関連を考慮しながら，第３章特別の教科道徳の第２に示す内容について，外国語科の特質に応じて適切な指導をすること。

第 4 章

特別の教科　道徳

第４章　特別の教科　道　　徳

第１　目　　標

（小学校）

道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。　（第１章総則　第１の２の中段）

学校における道徳教育は，特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道徳科はもとより，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，児童の発達の段階を考慮して，適切な指導を行わなければならない。　（第１章総則　第１の２の前段）

道徳教育を進めるに当たっては，人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭，学校，その他社会における具体的な生活の中に生かし，豊かな心をもち，伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛し，個性豊かな文化の創造を図るとともに，平和で民主的な国家及び社会の形成者として，公共の精神を尊び，社会及び国家の発展に努め，他国を尊重し，国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意しなければならない。（第１章総則　第１の２の後段）

（中学校）

道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，人間としての生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。　（第１章総則　第１の２の中段）

学校における道徳教育は，特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道徳科はもとより，各教科，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，生徒の発達の段階を考慮して，適切な指導を行わなければならない。　（第１章総則　第１の２の前段）

道徳教育を進めるに当たっては，人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭，学校，その他社会における具体的な生活の中に生かし，豊かな心をもち，伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛し，個性豊かな文化の創造を図るとともに，平和で民主的な国家及び社会の形成者として，公共の精神を尊び，社会及び国家の発展に努め，他国を尊重し，国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意しなければならない。（第１章総則　第１の２の後段）

※「道徳科における見方・考え方」とは，様々な事象を，道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え，自己の（人間としての）生き方について考えること。　（　）内は中学校のみ

	小学校						中学校		
標準 授業時数	１年	２年	３年	４年	５年	６年	１年	２年	３年
	３４	３５	３５	３５	３５	３５	３５	３５	３５

第２　各学年の目標及び内容

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要である道徳科においては，以下に示す項目について扱う。

（「第３章　特別の教科　道徳」の「第２　内容」）

「第２　内容」の学年段階ごとに示されている内容項目は，その全てが道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育における学習の基本となるものである。それぞれの内容項目の発展性や特質及び児童（生徒）の発達の段階などを全体にわたって理解し，児童（生徒）が主体的に道徳性を養うことができるようにしていく必要がある。

【小学校第１学年及び第２学年】

A　主として自分自身に関すること

(1)　よいことと悪いこととの区別をし，よいと思うことを進んで行うこと。　【善悪の判断，自律，自由と責任】

(2)　うそをついたりごまかしをしたりしないで，素直に伸び伸びと生活すること。　【正直，誠実】

(3)　健康や安全に気を付け，物や金銭を大切にし，身の回りを整え，わがままをしないで，規則正しい生活をすること。　【節度，節制】

(4)　自分の特徴に気付くこと。　【個性の伸長】

(5)　自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。　【希望と勇気，努力と強い意志】

B　主として人との関わりに関すること

(6)　身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること。　【親切，思いやり】

(7)　家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。　【感謝】

(8)　気持ちのよい挨拶，言葉遣い，動作などに心掛けて，明るく接すること。　【礼儀】

(9)　友達と仲よくし，助け合うこと。　【友情，信頼】

C　主として集団や社会との関わりに関すること

(10)　約束やきまりを守り，みんなが使う物を大切にすること。　【規則の尊重】

(11)　自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。　【公正，公平，社会正義】

(12)　働くことのよさを知り，みんなのために働くこと。　【勤労，公共の精神】

(13)　父母，祖父母を敬愛し，進んで家の手伝いなどをして，家族の役に立つこと。　【家族愛，家庭生活の充実】

(14)　先生を敬愛し，学校の人々に親しんで，学級や学校の生活を楽しくすること。　【よりよい学校生活，集団生活の充実】

(15)　我が国や郷土の文化と生活に親しみ，愛着をもつこと。　【伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度】

(16)　他国の人々や文化に親しむこと。　【国際理解，国際親善】

D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること

(17)　生きることのすばらしさを知り，生命を大切にすること。　【生命の尊さ】

(18)　身近な自然に親しみ，動植物に優しい心で接すること。　【自然愛護】

(19)　美しいものに触れ，すがすがしい心をもつこと。　【感動，畏敬の念】

【小学校第３学年及び第４学年】

A　主として自分自身に関すること

(1)　正しいと判断したことは，自信をもって行うこと。　【善悪の判断，自律，自由と責任】

(2)　過ちは素直に改め，正直に明るい心で生活すること。　【正直，誠実】

(3)　自分でできることは自分でやり，安全に気を付け，よく考えて行動し，節度のある生活をすること。　【節度，節制】

(4)　自分の特徴に気付き，長所を伸ばすこと。　【個性の伸長】

(5)　自分でやろうと決めた目標に向かって，強い意志をもち，粘り強くやり抜くこと。　【希望と勇気，努力と強い意志】

B　主として人との関わりに関すること

(6)　相手のことを思いやり，進んで親切にすること。　【親切，思いやり】

(7)　家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に，尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。　【感謝】

(8)　礼儀の大切さを知り，誰に対しても真心をもって接すること。　【礼儀】

(9)　友達と互いに理解し，信頼し，助け合うこと。　【友情，信頼】

(10)　自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，相手のことを理解し，自分と異なる意見も大切にすること。　【相互理解，寛容】

C　主として集団や社会との関わりに関すること

(11)　約束や社会のきまりの意義を理解し，それらを守ること。　【規則の尊重】

(12)　誰に対しても分け隔てをせず，公正，公平な態度で接すること。　【公正，公平，社会正義】

(13)　働くことの大切さを知り，進んでみんなのために働くこと。　【勤労，公共の精神】

(14)　父母，祖父母を敬愛し，家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。　【家族愛，家庭生活の充実】

(15)　先生や学校の人々を敬愛し，みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。　【よりよい学校生活，集団生活の充実】

(16)　我が国や郷土の伝統と文化を大切にし，国や郷土を愛する心をもつこと。　【伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度】

(17)　他国の人々や文化に親しみ，関心をもつこと。　【国際理解，国際親善】

D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること

(18)　生命の尊さを知り，生命あるものを大切にすること。　【生命の尊さ】

(19)　自然のすばらしさや不思議さを感じ取り，自然や動植物を大切にすること。　【自然愛護】

(20)　美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。　【感動，畏敬の念】

【小学校第５学年及び第６学年】

A　主として自分自身に関すること

(1)　自由を大切にし，自律的に判断し，責任のある行動をすること。　【善悪の判断，自律，自由と責任】

(2)　誠実に，明るい心で生活すること。　【正直，誠実】

(3)　安全に気を付けることや，生活習慣の大切さについて理解し，自分の生活を見直し，節度を守り節制に心掛けること。　【節度，節制】

(4)　自分の特徴を知って，短所を改め長所を伸ばすこと。　【個性の伸長】

(5)　より高い目標を立て，希望と勇気をもち，困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。　【希望と勇気，努力と強い意志】

(6)　真理を大切にし，物事を探究しようとする心をもつこと。　【真理の探究】

B　主として人との関わりに関すること

(7)　誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にすること。　【親切，思いやり】

(8)　日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し，それに応えること。【感謝】

(9)　時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接すること。　【礼儀】

(10)　友達と互いに信頼し，学び合って友情を深め，異性についても理解しながら，人間関係を築いていくこと。　【友情，信頼】

(11)　自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，謙虚な心をもち，広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。　【相互理解，寛容】

C　主として集団や社会との関わりに関すること

(12)　法や決まりの意義を理解した上で進んでそれらを守り，自他の権利を大切にし，義務を果たすこと。　【規則の尊重】

(13)　誰に対しても差別することや偏見をもつことなく，公正，公平な態度で接し，正義の実現に努めること。　【公正，公平，社会正義】

(14)　働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに，その意義を理解し，公共のために役に立つことをすること。　【勤労，公共の精神】

(15)　父母，祖父母を敬愛し，家族の幸せを求めて，進んで役に立つことをすること。　【家族愛，家庭生活の充実】

(16)　先生や学校の人々を敬愛し，みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに，様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。　【よりよい学校生活，集団生活の充実】

(17)　我が国の郷土の伝統と文化を大切にし，先人の努力を知り，国や郷土を愛する心をもつこと。　【伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度】

(18)　他国の人々や文化について理解し，日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。　【国際理解，国際親善】

D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること

(19)　生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し，生命を尊重すること。　【生命の尊さ】

(20)　自然の偉大さを知り，自然環境を大切にすること。　【自然愛護】

(21)　美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。　【感動，畏敬の念】

(22)　よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し，人間として生きる喜びを感じること。　【よりよく生きる喜び】

第３　内容項目ごとの概要，学年段階ごとの指導の要点

	小学校第１学年及び第２学年(19)	小学校第３学年及び第４学年(20)
A　主として自分自身に関すること		
善悪の判断， 自律，自由と責任	(1)　よいことと悪いこととの区別をし，よいと思うことを進んで行うこと。	(1)　正しいと判断したことは，自信をもって行うこと。
正直，誠実	(2)　うそをついたりごまかしをしたりしないで，素直に伸び伸びと生活すること。	(2)　過ちは素直に改め，正直に明るい心で生活すること。
節度，節制	(3)　健康や安全に気を付け，物や金銭を大切にし，身の回りを整え，わがままをしないで，規則正しい生活をすること。	(3)　自分でできることは自分でやり，安全に気を付け，よく考えて行動し，節度のある生活をすること。
個性の伸長	(4)　自分の特徴に気付くこと。	(4)　自分の特徴に気付き，長所を伸ばすこと。
希望と勇気， 努力と強い意志	(5)　自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行うこと。	(5)　自分でやろうと決めた目標に向かって，強い意志をもち，粘り強くやり抜くこと。
真理の探究		
B　主として人との関わりに関すること		
親切，思いやり	(6)　身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること。	(6)　相手のことを思いやり，進んで親切にすること。
感謝	(7)　家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	(7)　家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に，尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。
礼儀	(8)　気持ちのよい挨拶，言葉遣い，動作などに心掛けて，明るく接すること。	(8)　礼儀の大切さを知り，誰に対しても真心をもって接すること。
友情，信頼	(9)　友達と仲よくし，助け合うこと。	(9)　友達と互いに理解し，信頼し，助け合うこと。
相互理解，寛容		(10)　自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，相手のことを理解し，自分と異なる意見も大切にすること。
C　主として集団や社会との関わりに関すること		
規則の尊重	(10)　約束やきまりを守り，みんなが使う物を大切にすること。	(11)　約束や社会のきまりの意義を理解し，それらを守ること。
公正，公平，社会正義	(11)　自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。	(12)　誰に対しても分け隔てをせず，公正，公平な態度で接すること。
勤労，公共の精神	(12)　働くことのよさを知り，みんなのために働くこと。	(13)　働くことの大切さを知り，進んでみんなのために働くこと。
家族愛， 家庭生活の充実	(13)　父母，祖父母を敬愛し，進んで家の手伝いなどをして，家族の役に立つこと。	(14)　父母，祖父母を敬愛し，家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。
よりよい学校生活， 集団生活の充実	(14)　先生を敬愛し，学校の人々に親しんで，学級や学校の生活を楽しくすること。	(15)　先生や学校の人々を敬愛し，みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。
伝統と文化の尊重， 国や郷土を愛する態度	(15)　我が国や郷土の文化と生活に親しみ，愛着をもつこと。	(16)　我が国や郷土の伝統と文化を大切にし，国や郷土を愛する心をもつこと。
国際理解，国際親善	(16)　他国の人々や文化に親しむこと。	(17)　他国の人々や文化に親しみ，関心をもつこと。
D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること		
生命の尊さ	(17)　生きることのすばらしさを知り，生命を大切にすること。	(18)　生命の尊さを知り，生命あるものを大切にすること。
自然愛護	(18)　身近な自然に親しみ，動植物に優しい心で接すること。	(19)　自然のすばらしさや不思議さを感じ取り，自然や動植物を大切にすること。
感動，畏敬の念	(19)　美しいものに触れ，すがすがしい心をもつこと。	(20)　美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。
よりよく生きる喜び		

	小学校第５学年及び第６学年(22)	中学校(22)	
A　主として自分自身に関すること			
善悪の判断， 自律，自由と責任	(1)　自由を大切にし，自律的に判断し，責任のある行動をすること。	(1)　自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	自主，自律， 自由と責任
正直，誠実	(2)　誠実に，明るい心で生活すること。		
節度，節制	(3)　安全に気を付けることや，生活習慣の大切さについて理解し，自分の生活を見直し，節度を守り節制に心掛けること。	(2)　望ましい生活習慣を身に付け，心身の健康の増進を図り，節度を守り節制に心掛け，安全で調和のある生活をすること。	節度，節制
個性の伸長	(4)　自分の特徴を知って，短所を改め長所を伸ばすこと。	(3)　自己を見つめ，自己の向上を図るとともに，個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	向上心， 個性の伸長
希望と勇気， 努力と強い意志	(5)　より高い目標を立て，希望と勇気をもち，困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。	(4)　より高い目標を設定し，その達成を目指し，希望と勇気をもち，困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。	希望と勇気， 克己と強い意志
真理の探究	(6)　真理を大切にし，物事を探究しようとする心をもつこと。	(5)　真実を大切にし，真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。	真理の探求，創造
B　主として人との関わりに関すること			
親切，思いやり	(7)　誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にすること。	(6)　思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深めること。	思いやり，感謝
感謝	(8)　日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し，それに応えること。		
礼儀	(9)　時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接すること。	(7)　礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動をとること。	礼儀
友情，信頼	(10)　友達と互いに信頼し，学び合って友情を深め，異性についても理解しながら，人間関係を築いていくこと。	(8)　友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち，互いに励まし合い，高め合うとともに，異性についての理解を深め，悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。	友情，信頼
相互理解，寛容	(11)　自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，謙虚な心をもち，広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	(9)　自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，それぞれの個性や立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解し，寛容の心をもって謙虚に他に学び，自らを高めていくこと。	相互理解，寛容
C　主として集団や社会との関わりに関すること			
規則の尊重	(12)　法や決まりの意義を理解した上で進んでそれらを守り，自他の権利を大切にし，義務を果たすこと。	(10)　法や決まりの意義を理解し，それらを進んで守るとともに，そのよりよい在り方について考え，自他の権利を大切にし，義務を果たして，規律ある安定した社会の実現に努めること。	遵法精神，公徳心
公正，公平， 社会正義	(13)　誰に対しても差別することや偏見をもつことなく，公正，公平な態度で接し，正義の実現に努めること。	(11)　正義と公正さを重んじ，誰に対しても公平に接し，差別や偏見のない社会の実現に努めること。	公正，公平， 社会正義
勤労， 公共の精神	(14)　働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに，その意義を理解し，公共のために役に立つことをすること。	(12)　社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め，公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。	社会参画， 公共の精神
		(13)　勤労の尊さや意義を理解し，将来の生き方について考えを深め，勤労を通じて社会に貢献すること。	勤労
家族愛， 家庭生活の充実	(15)　父母，祖父母を敬愛し，家族の幸せを求めて，進んで役に立つことをすること。	(14)　父母，祖父母を敬愛し，家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	家族愛， 家庭生活の充実

よりよい学校生活，集団生活の充実	(16) 先生や学校の人々を敬愛し，みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに，様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。	(15) 教師や学校の人々を敬愛し，学級や学校の一員としての自覚をもち，協力し合ってよりよい校風をつくるとともに，様々な集団の意義や集団の中で自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。	よりよい学校生活，集団生活の充実
伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度	(17) 我が国の郷土の伝統と文化を大切にし，先人の努力を知り，国や郷土を愛する心をもつこと。	(16) 郷土の伝統と文化を大切にし，社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め，地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し，進んで郷土の発展に努めること。	郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度
		(17) 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに，日本人としての自覚をもって国を愛し，国家及び社会の形成者として，その発展に努めること。	我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度
国際理解，国際親善	(18) 他国の人々や文化について理解し，日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。	(18) 世界の中の日本人としての自覚をもち，他国を尊重し，国際的視野に立って，世界の平和と人類の発展に寄与すること。	国際理解，国際貢献
D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること			
生命の尊さ	(19) 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し，生命を尊重すること。	(19) 生命の尊さについて，その連続性や有限性なども含めて理解し，かけがえのない生命を尊重すること。	生命の尊さ
自然愛護	(20) 自然の偉大さを知り，自然環境を大切にすること。	(20) 自然の崇高さを知り，自然環境を大切にすることの意義を理解し，進んで自然の愛護に努めること。	自然愛護
感動，畏敬の念	(21) 美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。	(21) 美しいものや気高いものに感動する心をもち，人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。	感動，畏敬の念
よりよく生きる喜び	(22) よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し，人間として生きる喜びを感じること。	(22) 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し，人間として生きることに喜びを見いだすこと。	よりよく生きる喜び

第４　神戸市小学校道徳教育重点内容

１　各学年を通じて配慮すること

平成30年４月１日より全面実施する改正学習指導要領「第３章　特別の教科　道徳」の「第１　目標」には，「第１章総則の第１の２に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。」とある。道徳科が目指すものは，学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。その中で，道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう，計画的，発展的な指導を行うことが重要である。

また，これまでに記述してきた「第３章　特別の教科　道徳」の「第２　内容」は，教師と児童が人間としてのよりよい生き方を求め，共に考え，共に語り合い，その実行に努めるための共通の課題である。ここに挙げられている内容項目は，児童が人間として他者とよりよく生きていく上で学ぶことが必要と考えられる道徳的価値を含む内容を，短い文章で平易に表現したものである。

各内容項目について児童の実態を基に把握し直し，指導上の課題を具体的に捉え，児童自身が道徳的価値の理解を基に自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深めることができるよう，実態に応じた指導をしていくことが大切である。このように道徳的価値の自覚を深める指導を通して，児童自らが振り返って成長を実感したり，これからの課題や目標を見付けたりして，自己の生き方についての考えを深める学習ができるよう工夫する必要がある。

内容項目は，関連的，発展的に捉え，年間指導計画の作成や指導に際して重点的な扱いを工夫することで，その効果を高めることができる。各学校においては，児童や学校の実態などを考慮して道徳教育の目標を設定し，重点的な指導を工夫することが大切である。重点的指導とは，各学年段階で重点化されている内容項目や学校として重点的に指導したい内容項目をその中から選び，教育活動全体を通じた道徳教育において具体的な指導を行うことである。

さらに，道徳的諸価値について理解することが何より大切である。道徳的価値とは，よりよく生きるために必要なものであり，人間としての在り方や生き方の礎となるものである。児童が将来，様々な場面に出会った際に，その状況に応じて自己の生き方を考え，主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うためには，道徳的価値の意義及びその大切さの理解が必要になる。

本市は，「第２期　神戸市教育振興基本計画」において，神戸の教育理念「人は人によって人になる」，目指す子供像「心豊かに　たくましく　生きる人間」を引き継ぐとともに，「教育日本一のまち神戸」を目指すことを中期的目標として掲げている。そして，目標実現に向けての道筋を「４つの方向性」で表し，総合的に一歩ずつ目標に向かっていく。その内容の中で，「方向性①　一人一人の自立に向けた力を伸ばす」「３．豊かな心の育成」においては，道徳教育や様々な体験活動・自主的活動を通して，子供たちの規範意識の向上，命を大切にする教育や，いじめの未然防止等を推進し，子供たちの豊かな心を育むことを明記している。

そこで，本市の実態を捉え，以下のように重点指導内容を示す。子供の道徳性を育む基盤となる道徳的価値の形成を図る指導を徹底するとともに自己の生き方についての指導を充実する観点から，各学年を通じて「善悪の判断，自律，自由と責任」や「生命の尊さ」を育む指導をすることに配慮していくことが大切である。

現代的な課題に関する指導

（「第３章　特別の教科　道徳」の「第３　指導計画の作成と内容の取扱い」の２）
児童の発達の段階や特性等を考慮し，第２に示す内容との関連を踏まえつつ，情報モラルに関する指導を充実すること。また，児童の発達の段階や特性等を考慮し，例えば，社会の持続可能な発展などの現代的な課題の扱いにも留意し，身近な社会的課題を自分との関係において考え，それらの解決に寄与しようとする意欲や態度を育てるよう努めること。なお，多様な見方や考え方のできる事柄について，特定の見方や考え方に偏った指導を行うことのないようにすること。

現代的な課題の扱いについて（防災・キャリア・環境・福祉等）

道徳科の内容で扱う道徳的諸価値は，現代社会の様々な課題に直接関わっている。児童には，発達の段階に応じて現代的な課題を身近な問題と結び付けて，自分との関わりで考えられるようにすることが求められる。現代社会を生きる上での課題を扱う場合には，問題解決的な学習を行ったり話合いを深めたりするなどの指導方法を工夫し，課題を自分との関係で捉え，その解決に向けて考え続けようとする意欲や態度を育てることが大切である。

例えば，食育，健康教育，消費者教育，**防災教育**，**福祉に関する教育**，法教育，社会参画に関する教育，伝統文化教育，国際理解教育，**キャリア教育**など，学校の特色を生かして取り組んでいる現代的な教育課題については，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動における学習と関連付け，それらの教育課題を主題とした教材を活用するなどして，様々な道徳的価値の視点で学習を深めたり，児童自身がこれらの学習を発展させたりして，人として他者と共によりよく生きる上で大切なものとは何か，自分はどのように生きていくべきかなどについて，考えを深めていくことができるような取り組みが求められる。

例えば，持続可能な発展を巡っては，**環境**，貧困，人権，平和，開発といった様々な問題があり，これらの問題は，生命や人権，自然環境保全，公正・公平，社会正義，国際親善など様々な道徳的価値に関わる葛藤がある。また，障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成 25 年法律第 65 号）の施行を踏まえ，障害の有無などに関わらず，互いのよさを認め合って協働していく態度を育てるための工夫も求められる。

その際，これらの諸問題には多様な見方や考え方があり，一面的な理解では解決できないことに気付かせ，多様な価値観の人々と協働して問題を解決していこうとする意欲を育むよう留意することが求められる。そのためには，複数の内容項目を関連付けて扱う指導によって，児童の多様な考え方を引き出せるように工夫することなどが考えられる。

なお，これらの現代的な課題の学習では，多様な見方や考え方があることを理解させ，答えが定まっていない問題を多面的・多角的視点から考え続ける姿勢を育てることが大切である。安易に結論を出させたり，特定の見方や考え方に偏って指導を行ったりすることのないよう留意し，児童が自分と異なる考えや立場についても理解を深められるよう配慮しなければならない。

▲：他校種とのつながり　◎：他学年とのつながり　★：他教科とのつながり
※：特に配慮を要する事項　◆：参考事項（神戸らしさ等）

(1) 重点指導内容「善悪の判断，自律，自由と責任」

自立心や自律性は，児童が自己実現を目指し，人格を形成していく上で核となるものであり，自己の生き方を広げ，人間関係を広げ，社会参画をしていく上で基盤となる重要な要素である。

特に，小学校の段階においては，児童が自己を肯定的に受け止め，自分の生活を見直し，自立した生活をつくり，将来に向けて夢や希望をもち，よりよい生活や社会をつくり出していこうとする態度の育成が求められている。

その際，児童が自己理解を深め，自己を肯定的に受け止めることと，自己に責任をもち，自律的な態度をもつことの両面を調和のとれた形で身に付けていくことができるようにすることが重要である。

	指導内容	内容の取扱い
第1学年 及び 第2学年	**A 主として自分自身に関すること** **【善悪の判断，自律，自由と責任】** (1) よいことと悪いこととの区別をし，よいと思うことを進んで行うこと。	・この段階においては，何事にも興味，関心を示し意欲的に行動することが多い反面，まだ集団生活に十分に慣れていないために，引っ込み思案になったり物おじしたりすることも少なくない。 ※指導に当たっては，積極的に行うべきよいことと，人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養うことが大切である。よいと思ったことができたときにすがすがしい気持ちを思い起こさせるなど，小さなことでも遠慮しないで進んで行うことができる意欲と態度を育てる指導を充実していく。 ・人としてしてはならないことをしないことについて，一貫した方針をもち，毅然とした態度で指導していくことが重要である。 ◆「こうべっ子豊かな心育成プラン」（平成26年度策定）に基づき，道徳教育や様々な体験活動・自主的活動を通して，子供たちの規範意識の向上，命を大切にする教育や，いじめの未然防止等を推進し，子供たちの豊かな心を育む。
第3学年 及び 第4学年	**A 主として自分自身に関すること** **【善悪の判断，自律，自由と責任】** (1) 正しいと判断したことは，自信を持って行うこと。	・この段階においては，様々な学習や生活を通して，正しいことや正しくないことについての判断力が高まってくる。しかし，正しいことと知りつつもそのことをなかなか実行できなかったり，悪いことと知りながらも周囲に流されたり，自分の弱さに負けたりしてしまうこともある。 ※指導に当たっては，正しいことを行えないときの後ろめたさや自ら信じることに従って正しいことを行ったときの充実した気持ちを考え，正しいと判断したことは自信をもって行い，正しくないと判断したことは行わないようにする態度を育てる必要がある。 ・正しくないと考えられることを人に勧めないことはもとより，人から勧められたときにきっぱりと断ったり，正しくないと考えられることをしている人を止めたりできるように指導することが大切である。 ◆「こうべっ子豊かな心育成プラン」（平成26年度策定）に基づき，道徳教育や様々な体験活動・自主的活動を通して，子供たちの規範意識の向上，命を大切にする教育や，いじめの未然防止等を推進し，子供たちの豊かな心を育む。

第５学年　及び　第６学年	**A　主として自分自身に関すること** **【善悪の判断，自律，自由と責任】** (1)　自由を大切にし，自律的に判断し，責任のある行動をすること。 **【正直，誠実】** (2)　誠実に，明るい心で生活すること。	・この段階においては，自主的に考え，行動しようとする傾向が強まる時期である。一方で，自由の捉え違いをして相手や周りのことを考えず自分勝手な振る舞いをしてしまうことも見られる。また，自律的で責任のある行動をすることの意味やよさが分かりにくい児童もいる。 ※指導に当たっては，自由と自分勝手の違いや，自由だからこそできることやそのよさを考えたりして，自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感できるようにすることが大切である。 ・また，自由に伴う自己責任の大きさについては，自分の意志で考え判断し行動しなければならない場面やその後の影響を考えることなどを通して，多面的・多角的に理解できるようにすることが重要である。そのことが自らの自律的で責任のある行動についてのよさの理解を一層深めることにつながる。 ◆「こうべっ子豊かな心育成プラン」（平成26年度策定）に基づき，道徳教育や様々な体験活動・自主的活動を通して，子供たちの規範意識の向上，命を大切にする教育や，いじめの未然防止等を推進し，子供たちの豊かな心を育む。 ・道徳教育は，自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標としている。その上で，児童の発達や特性等を考慮し，情報モラルに関する指導の充実，社会の持続可能な発展などの現代的な課題の扱いについても留意し，身近な社会的課題を自分との関係において考え，それらの解決に寄与しようとする意欲や態度を育てるよう努める。
中学校	**A　主として自分自身に関すること** **【自主，自律，自由と責任】** (1)　自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	・中学校の段階では，入学して間もない時期には，周囲を気にして他人の言動に左右されてしまうことも少なくない。 ・学年が上がるにつれて，自我に目覚め，自主的に考え，行動することができるようになる。自由を求める傾向が強くなり，社会通念としての規範や今までの自分の価値観を捉え直そうとする時期でもある。 ・しかし，一方では，自由の意味を履き違えて，社会の規範を顧みない生活を送ったり，また，自分自身の行為が自分や他者にどのような結果をもたらすかということを深く考えないまま，無責任な言動をとったりすることもある。 ※指導に当たっては自己の気高さに気付かせ，何が正しく，何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても，自ら考え，判断し，自分の自由な意志に基づいて決定し，それに対して責任をもたなければならないことを実感させる経験を通し，失敗を含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。 ◆「こうべっ子豊かな心育成プラン」（平成26年度策定）に基づき，道徳教育や様々な体験活動・自主的活動を通して，子供たちの規範意識の向上，命を大切にする教育や，いじめの未然防止等を推進し，子供たちの豊かな心を育む。

(2) 重点指導内容「生命を尊重する心」

生命を尊重する心とは，自他の生命の尊厳さを感じ取り，生命あるすべてのものをかけがえのないものとして大切にしようとする心のことである。その育成は，道徳教育の目標に生命に対する畏敬の念を生かすことを示しているように，豊かな心をはぐくむことの根本に置かれる重要な課題の一つである。

いじめなどの生命を軽視するような問題行動などが社会的な問題となっている現在，児童が生きることを喜ぶとともに，一方で自他の生命に関する問題として老いや死などについて考え，自他共に生命の尊さについて自覚を深めていくことは，特に重要な課題である。

	指導内容	内容の取扱い
第1学年 及び 第2学年	**D 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること** **【生命の尊さ】** (17) 生きることのすばらしさを知り，生命を大切にすること。	※この段階においては，生命の尊さを知的に理解するというより，日々の生活体験の中で生きていることのすばらしさを感じ取ることが中心となる。 ※指導に当たっては，これらの当たり前のことで見過ごしがちな「生きている証」を実感させたい。 ・また，自分の誕生を心待ちにしていた家族の思いや，自分の生命に対して愛情をもって育んできた家族の思いに気付くなど，自分の生命そのもののかけがえのなさに気付けるようにすることが大切である。そのことを喜び，すばらしいことと感じることによって，生命の大切さを自覚できるようにすることが求められる。 ※社会的な関わりの中での生命や，自然の中での生命，さらには，生命の尊厳性など，多面的な視点から考えを深めていくことが重要である。 ◆「命の大切さ」「人と人とのつながり」など，防災教育と関連させて，命の大切さを指導していく。防災 ★生活科において，自分と身近な人々，社会及び自然と直接関わる活動や体験を通して，自然に親しみ，生命を大切にするなど自然との関わりに関心をもつこと。
第3学年 及び 第4学年	**D 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること** **【生命の尊さ】** (18) 生命の尊さを知り，生命あるものを大切にすること。	・この段階になると，現実性をもって死を理解できるといわれる。そのため，特にこの時期に生命の尊さを感得できるように指導することが必要である。 ※指導に当たっては，生命は唯一無二であることや，自分一人のものではなく多くの人々の支えによって守り，育まれている尊いものであることについて考えたり，与えられた生命を一生懸命に生きることのすばらしさについて考えたりすることが大切である。 ・あわせて，自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする心情や態度を育てることが求められる。 ・誕生の話から生を受けたことの素晴らしさを感じたり，病気やけがの様子から自分の生命の尊さを知ったりして，同様に生命あるものすべてを大切にしようとする心を育てることができる。 ◆「命の大切さ」「人と人とのつながり」など，防災教育と関連させて，命の大切さを指導していく。防災

第５学年　及び　第６学年	**Ｄ　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること** **【生命の尊さ】** (19) 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し，生命を尊重すること。	・この段階においては，個々の生命が互いを尊重し，つながりの中にあるすばらしさを考え，生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに，生死や生き方に関わる生命の尊厳など，生命に対する畏敬の念を育てることが大切である。 ※指導に当たっては，家族や仲間とのつながりの中で共に生きることのすばらしさ，生命の誕生から死に至るまでの過程，人間の誕生の喜びや死の重さ，限りある生命を懸命に生きることの尊さ，生きることの意義を追い求める高尚さ，生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さなど，様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し生命を尊重する心情や態度を育むことができるようにすることが求められる。 ◆「命の大切さ」「人と人とのつながり」など，防災教育と関連させて，命の大切さを指導していく。防災
中学校	**Ｄ　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること** **【生命の尊さ】** (19) 生命の尊さについて，その連続性や有限性なども含めて理解し，かけがえのない生命を尊重すること。	・中学校の段階では，生命のかけがえのなさについての理解を一層深めるとともに，人間の生命の有限性だけでなく連続性を考えることができるようになっている。 ・学年が上がるにつれて，生命について，連続性や有限性だけでなく，自分が今ここにいることの不思議（偶然性），社会的関係性や自然界における他の生命との関係性などの側面からより多面的・多角的に捉え，考えさせ，生命の尊さを理解できるようになり，かけがえのない生命を尊重することについてより深く学ぶことができるようになる。 ※指導に当たっては，まず，人間の生命のみならず身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊さに気付かせ，生命あるものは互いに支え合って生き，生かされていることに感謝の念をもつよう指導することが重要な課題となる。 ・自分が今ここにいることの不思議（偶然性），生命にいつか終わりがあること，その消滅は不可逆的で取り返しがつかないこと（有限性），生命はずっとつながっているとともに関わりあっていること（連続性）など，改めて考えていくことが大切である。 ※生命倫理に関わる現代的な課題を取り上げ，話合い，多様な考えを交流することにより，生命とは何か，その尊さを守るためにはどのように考えていったらよいかなど，生命尊重への学びをより深めることもできる。 ◆「命の大切さ」「人と人とのつながり」など，防災教育と関連させて，命の大切さを指導していく。防災

２　学年段階ごとに配慮すること

今日的な課題及び児童の発達の段階や特性等を踏まえ，基本的な生活習慣，規範意識，人間関係を築く力，社会参画への意欲や態度などを育成するといった観点から，学年段階ごとに取り組むべき重点を示すことが大切である。いじめの問題への対応など，児童が現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性のある力を育成していくことも道徳教育に求められている。道徳教育を通じて，個人が直面する様々な状況の中で，そこにある事象を深く見つめ，自分はどうすべきか，自分に何ができるかを判断し，そのことを実行する手立てを考え，実践できるようにしていくなどの改善が必要である。発達段階に応じて，答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え，向き合う「考える道徳」，「議論する道徳」へと転換を図るものである。自己統制の面での課題も指摘されていることから，社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識を小学校段階からしっかりと身に付けさせていくことが求められている。

(1)　第１学年及び第２学年　重点指導内容「善悪の判断，自律，自由と責任」「節度，節制」「規則の尊重」

低学年の段階では，あいさつなどの基本的な生活習慣，社会生活上のきまりを身に付け，善悪を判断し，人間としてしてはならないことをしないことについて配慮する必要がある。

特に１年生は，新しい場所での生活をスタートする。この期の児童に対しては，学校での生活に適応していくとともに，例えば，嘘をつかない，人を傷つけない，人のものを盗まないなど，人としてしてはならないことや善悪について自覚でき，基本的な生活習慣や社会生活上のルールなどが身に付くようにしていくことが求められる。

幼児期との接続に配慮するとともに，家庭との連携を密にしながら，自己のよりよい生活についての考えを深めることなどに結び付く基本的な道徳的価値を繰り返し指導することが大切である。

	指導内容	内容の取扱い
善悪の判断，自律，自由と責任	**A　主として自分自身に関すること** **【善悪の判断，自律，自由と責任】** (1)　よいことと悪いこととの区別をし，よいと思うことを進んで行うこと。	・この段階においては，何事にも興味，関心を示し意欲的に行動することが多い反面，まだ集団生活に十分に慣れていないために，引っ込み思案になったり物おじしたりすることも少なくない。 ※指導に当たっては，積極的に行うべきよいことと，人間として，してはならないことを正しく区別できる判断力を養うことが大切である。よいと思ったことができたときにすがすがしい気持ちを思い起こさせるなど，小さなことでも遠慮しないで進んで行うことができる意欲と態度を育てる指導を充実していく。 ・人としてしてはならないことをしないことについて，一貫した方針をもち，毅然とした態度で指導していくことが重要である。

節度，節制	**A　主として自分自身に関すること** **【節度，節制】** (3)　健康や安全に気を付け，物や金銭を大切にし，身の回りを整え，わがままをしないで，規則正しい生活をすること。	・この段階においては，児童の日常生活における行動を通して，周囲に対する気配りや思いやりをもち互いの健康に心掛け，安全のきまりを守ってそれを実践すること，物の価値を認識させるために，物は多くの人の努力と勤労によって作られていること，金銭の価値についても正しく理解させ，物を大切にできるようにすること，身の回りを整えて気持ちのよい生活ができるようにすることなどの具体的な指導を進める必要がある。 ※指導に当たっては，時刻を守り時間を大切にすることや生活に一定のリズムを与え，わがままをしない規則正しい生活が自分にとって大切なことであり，そのような生活が快適な毎日を送ることにつながることを気付かせ，基本的な生活習慣を確実に身に付けることができるように繰り返し指導する必要がある。
礼儀	**B　主として人との関わりに関すること** **【礼儀】** (8)　気持ちのよい挨拶，言葉遣い，動作などに心掛けて，明るく接すること。	・礼儀は，相手の人格を尊重し，相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことであり，心と形が一体になって表れてこそ，そのよさが認められる。特に，この段階においては，はきはきとした気持ちのよい挨拶や言葉遣い，話の聞き方や食事の所作などの具体的な振る舞い方を身に付けることを通して明るく接することのできる児童を育てることが大切である。 ※指導に当たっては，日常生活を送るために欠かせない基本的な挨拶などについて，具体的な状況の下での体験を通して実感的に理解を深めさせることが重要である。また，外出時や公共の場での振る舞い方など社会との関わりの中での礼儀についても考えさせることが重要である。
規則の尊重	**C　主として集団や社会との関わりに関すること** **【規則の尊重】** (10)　約束やきまりを守り，みんなが使う物を大切にすること。	・この段階においては，まだ自己中心性が強く，ともすると周囲への配慮を欠いて自分勝手な行動をとることも少なくない。また，身の回りの公共物や公共の場所の使い方や過ごし方についてどうするのがよいのか，そしてそれはなぜなのかといった理解は十分とは言えない。 ※指導に当たっては，身近な約束やきまりを取り上げ，それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し，しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てることが大切である。また，みんなで使う場所や物を進んで大切にし，工夫して使いたいという判断力や態度を身に付けられるように指導することが必要である。

(2) 第３学年及び第４学年　重点指導内容「希望と勇気，努力と強い意志」「友情，信頼」「公正，公平，社会正義」

中学年では，集団や社会のきまりを守り，身近な人々と協力し助け合う態度を身に付けることに配慮することが求められる。

この段階の児童は，児童期の中でも最も活発になるといわれる。学校生活に慣れ，行動範囲や人間関係が広がり，いたずらをすることが多く見られるようになるといわれる。他方，社会的認識能力をはじめとする思考能力が発達し，視野が拡大するとともに，内省する心も育ってくる。感性や情操もさらに発達する。

低学年の重点を踏まえた指導の充実を基本として，特に身近な人々と協力し助け合う態度への配慮が大切である。

	指導内容	内容の取扱い
希望と勇気，努力と強い意志	**A　主として自分自身に関すること** **【希望と勇気，努力と強い意志】** (5)　自分でやろうと決めた目標に向かって，強い意志をもち，粘り強くやり抜くこと。	・この段階においては，勉強や運動だけでなく，様々なことに興味・関心を広げ，活動的になる。自分の好きなことに対しては，自ら目標を立て，継続して取り組むようになり，計画的に努力する構えも身に付いていく。その反面，つらいことや苦しいことがあると，途中であきらめてしまうこともある。そこで，自分がやらなければならないことだけではなく，更に自主性を発揮し，自分でやろうと決めた目標に向かって強い意志をもって，粘り強くやり遂げる精神を育てることが大切になる。 ※指導に当たっては，目標を立て，あきらめずに粘り強くやり抜く強い意志が必要であることや苦しくて途中であきらめてしまう人間の弱さ，今よりよくなりたいという願い，努力しようとする姿について考えを深めていくことが求められる。目標を実現するためには，自分自身の努力だけでなく，家庭や教師など，周りの人の励ましや賞賛があることに気付き，粘り強く努力しようとする態度を育てることが大切である。
友情，信頼	**B　主として人との関わりに関すること** **【友情，信頼】** (9)　友達と互いに理解し，信頼し，助け合うこと。	・この段階においては，活動範囲が広がることで，集団との関わりも増え，友達関係も広がってくる。また，気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し，楽しもうとする傾向があり，集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし，自分の利害にこだわることで，友達とトラブルを引き起こすことも少なくない。 ※指導に当たっては，友達のことを互いによく理解し，信頼し，助け合うことで，健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切である。そのためには，友達のよさを発見することで友達のことを理解したり，友達とのよりよい関係の在り方を考えたり，互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることができるように指導することが大切である。

公正，公平，社会正義	**C　主として集団や社会との関わりに関すること** **【公正，公平，社会正義】** (12)　誰に対しても分け隔てをせず，公正，公平な態度で接すること。	・この段階においては，誰に対しても分け隔てをしないで接することの大切を理解できるようになる。しかし，ともすると自分の仲間を優先することに終始して，自分の好みで相手に対して不公平な態度で接してしまうことも少なくない。 ※指導に当たっては，不公平な態度が周囲に与える影響を考えさせるとともに，そのことが人間関係や集団生活に支障を来たし，いじめなどにつながることを理解させることが求められる。誰に対しても分け隔てをせず，公正，公平な態度で接することができるようにすることが重要である。

(3) 第５学年及び第６学年　重点指導内容「個性の伸長」「親切，思いやり」「公正，公平，社会正義」

高学年では，法やきまりの意義を理解すること，相手の立場を理解し，支え合う態度を身に付けること，集団における役割と責任を果たすこと，国家・社会の一員としての自覚をもつことなどに配慮することが大切になる。

この段階は，小学校における最高学年段階に当たる。小学校教育の完成期であり，学校における最高学年段階の児童としての自覚ある行動が求められる。なかでも，遵法意識をはじめとする社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識を確実に身に付けさせることが求められている。

この時期の児童は，知識欲も旺盛で，集団における自己の役割の自覚もかなり進む。そこで，自己や社会の未来への夢や目標を抱き，理想を求めて主体的に生きていく力の育成が期待される。また，この段階においては，悩みや葛藤等の心の揺れ，心理的な側面も含めた人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ，道徳的価値の自覚の中で自己の生き方についての考えを一層深められるような指導の工夫への配慮も重要になる。

思春期にさしかかる時期であり，自己のこれからの生活や進路への不安，友達関係や親子の関係等の中での行き違いなど，悩みや葛藤等を感じたりすることが多くなる。人間としての生き方についての自覚を深めていく中学校段階との接続を意識した指導への配慮が求められる時期でもある。

このような観点から，指導内容の重点化とともに，教材や指導方法についての工夫に配慮することが必要である。

	指導内容	内容の取扱い
個性の伸長	**A　主として自分自身に関すること** **【個性の伸長】** (4)　自分の特徴を知って，短所を改め長所を伸ばすこと。	・この段階においては，自己の生き方を見つめ，自分の特徴を多面的・多角的に捉えることが必要である。そうすることにより，自分自身の長所と短所の両面が見えてくる。その際，まず，自分が気付いた長所に目を向けて現状を維持し続けることの大切さや，更に積極的に長所を伸ばそうとする態度を育てる必要がある。そして同時に自分の短所などもしっかり見極め，短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえ，それを課題として改善していく努力も重ねつつ，自分自身を伸ばしていくことが大切である。また，自己を振り返って改めるところは改め，自己を高めようとする意欲や態度は，継続されなければ将来にわたっての自己実現とはならず，本当の個性にはなっていかない。 ※指導に当たっては，このことをよく理解し，具体的な実践を試みることができるようにすることも重要である。

親切，思いやり	**B　主として人との関わりに関すること** **【親切，思いやり】** (7)　誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にすること。	・この段階においては，自他を客観的に捉えることができるようになってくる。そのため，相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。また，家の周囲や学校といった狭い範囲だけでなく，地域社会における公共の場所など活動範囲がより一層広がり，より多様な人々と接する機会が多くなってくる。 ※指導に当たっては，特に相手の立場に立つことを強調する必要があり，自分自身が相手に対してどのように接し，対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。また，人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え，思いやりの心とそれが伴った親切な行為を，児童が接する全ての人に広げていくことも大切である。そのためには，児童が多様な人々と触れ合い，助けあって何かをするような機会を増やすとともに，それらの体験を生かし，思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫する必要がある。
公正，公平，社会正義	**C　主として集団や社会との関わりに関すること** **【公正，公平，社会正義】** (13)　誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく，公正，公平な態度で接し，正義の実現に努めること。	・この段階においては，差別や偏見がいじめなどの問題につながることを理解できるようになる。一方，いじめなどの場面に出会ったときにともすると傍観的な立場に立ち，問題から目を背けることも少なくない。こうした問題は，自分自身の問題でもあるという意識をもたせることが大切である。その上で，社会正義の実現は決して容易ではないことを自覚させ，身近な差別や偏見に向き合い，公平で公正な態度で行動できるようにすることが求められる。 ※指導に当たっては，不正な行為は絶対に行わない，許さないという断固たる態度を育てることが大切である。日頃から自分自身の考えをしっかりもち，同調圧力に流されないで必要に応じ自分の意志を強くもったり，学校や関係機関に助けを求めたりすることに躊躇しないなど，周囲の雰囲気や人間関係に流されない態度を育てるようにする。また，社会的な差別や不公正さなどの問題はいまだに多く生起している状況があるため，これらについて考えを巡らせ，社会正義の実現について考え，自覚を深めていく指導を適切に行うことが大切である。

第５　指導計画の作成と内容の取扱い

各学校においては，道徳教育の全体計画に基づき，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら，道徳科の年間指導計画を作成するものとする。なお，作成に当たっては，第２に示す各学年段階の内容項目について，相当する各学年において全て取り上げることとする。その際，児童や学校の実態に応じ，２学年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導，一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする。　（第３章　第３の１）

１　指導計画作成の方針と推進体制の確立

道徳科の指導は，学校の道徳教育の目標を達成するために行うものであることから，学校においては，校長が道徳教育の方針を明確にし，指導力を発揮して，全教師が協力して道徳教育を展開するため，道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心として，道徳教育の全体計画に基づく道徳科の年間指導計画を作成する必要がある。

２　年間指導計画の意義と内容

⑴　年間指導計画の意義

年間指導計画は，道徳科の指導が，道徳教育の全体計画に基づき，児童の発達の段階に即して計画的，発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画である。具体的には，道徳科において指導しようとする内容について，児童の実態や多様な指導方法等を考慮して，学年段階に応じた主題を構成し，この主題を年間にわたって適切に位置付け，配列し，学習指導過程等を示すなど授業を円滑に行うことができるようにするのである。

なお，道徳科の主題は，指導を行うに当たって，何をねらいとし，どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものであり，「ねらい」とそれを達成するために活用する「教材」によって構成される。

ア　６年間を見通した計画的，発展的な指導を可能にする。

イ　個々の学級において道徳科の学習指導案を立案するよりどころとなる。

ウ　学級相互，学年相互の教師間の研修などの手掛かりとなる。

⑵　年間指導計画の内容

ア　指導の時期

学年ごとの実施予定の時期を記載する。

イ　主題名

ねらいと教材で構成した主題を，授業の内容が傍観できるように端的に表したものを記述する。

ウ　ねらい

道徳科の内容項目を基に，ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相を端的に表したものを記述する。

エ　教材

教科用図書やその他，授業において用いる副読本等の中から，指導で用いる教材の題名を記述する。なお，その出典等を併記する。

オ　主題構成の理由

ねらいを達成するために教材を選定した理由を簡潔に示す。

カ　学習指導過程と指導の方法

ねらいを踏まえて，教材をどのように活用し，どのような学習指導過程や指導方法で学習を進めるのかについて簡潔に示す。

キ　他の教育活動等における道徳教育との関連

他の教育活動において授業で取り上げる道徳的価値に関わってどのような指導が行われるのか，日常の学級経営においてどのような配慮がなされるのかなどを示す。

ク　その他

例えば，校長や教頭などの参加，他の教師の協力的な指導の計画，保護者や地域の人々の参加・協力の計画，複数の時間取り上げる内容項目の場合は各時間の相互の指導の関連などの構想，年間指導計画の改善に関わる事項を記述する備考欄などを示すことが考えられる。

なお，道徳科の指導の時期，主題名，ねらい及び教材を一覧にした配列表だけでは年間指導計画としては機能しにくい。そのような一覧表を示す場合においても，学習指導過程等を含むものなど，各時間の指導の概要が分かるようなものを加えることが求められる。

3　年間指導計画作成上の創意工夫と留意点

(1)　主題の設定と配列を工夫する

(2)　計画的，発展的な指導ができるように工夫する

(3)　重点的指導ができるように工夫する

各学年段階の内容項目の指導については，児童や学校の実態に応じて重点的指導を工夫し，内容項目全体の効果的な指導が行えるよう配慮する必要がある。その場合には，学校が重点的に指導しようとする内容項目の指導時間数を増やし，一定の期間をおいて繰り返し取り上げる，何回かに分けて指導するなどの配列を工夫したり，内容項目によっては，ねらいや教材の質的な深まりを図ったり，問題解決的な学習など，多様な指導方法を用いたりするなどの工夫が考えられる。

(4)　各教科等，体験活動等との関連的指導を工夫する

(5)　複数時間の関連を図った指導を取り入れる

(6)　特に必要な場合には他学年段階の内容を加える

(7)　計画の弾力的な取扱いについても配慮する

(8)　年間指導計画の評価と改善を計画的に行うようにする

4　指導の基本方針

(1)　道徳科の特質を理解する

(2)　教師と児童，児童相互の信頼関係を基盤におく

(3)　児童の自覚を促す指導方法を工夫する

(4)　児童の発達や個に応じた指導を工夫する

(5)　問題解決的な学習，体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする

(6)　道徳教育推進教師を中心とした指導方法を充実する

5　道徳科の特質を生かした学習指導の展開

(1)　道徳科の学習指導案

①　内容

ア　主題名

イ　ねらいと教材

ウ　主題設定の理由

エ　学習指導過程

② 学習指導案作成の主な手順

ア ねらいを検討する

イ 指導の重点を明確にする

ウ 教材を吟味する

エ 学習指導過程を構想する

③ 学習指導案作成上の創意工夫

(2) 道徳科の特質を生かした学習指導

ア 導入の工夫

イ 展開の工夫

ウ 終末の工夫

6 学習指導の多様な展開

(1) 多様な教材を生かした指導

(2) 体験の生かし方を工夫した指導

(3) 各教科等と関連をもたせた指導

例えば，国語科における物語文の学習，社会科における郷土や地域の学習，体育科におけるチームワークを重視した学習，特別活動における集団形成の学習など，各教科等と道徳科の指導のねらいが同じ方向であるとき，学習の時期を考慮したり，相互に関連を図ったりして指導を進めると，指導の効果を一層高めることができる。

(4) 道徳科に生かす指導方法の工夫

ア 教材を提示する工夫

イ 発問の工夫

ウ 話合いの工夫

エ 書く活動の工夫

オ 動作化，役割演技など表現活動の工夫

カ 板書を生かす工夫

キ 説話の工夫

第 5 章

外国語活動

第５章　外 国 語 活 動

第１　目　　標

(外国語活動)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，話すことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

⑴ 外国語を通して，言語や文化について体験的に理解を深め，日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。

⑵ 身近で簡単な事柄について，外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

⑶ 外国語を通して，言語やその背景にある文化に対する理解を深め，相手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

※「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは，外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，コミュニケーションを行う目的や場面，状況等に応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，再構築すること。

(外国語)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

⑴ 外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解するとともに，読むこと，書くことに慣れ親しみ，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

⑵ コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，身近で簡単な事柄について，聞いたり話したりするとともに，音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

⑶ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

標準授業時数	小学校				中学校		
	外国語活動		外国語		外国語		
	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
	３５	３５	７０	７０	１４０	１４０	１４０

第２　各言語の目標及び内容

英　　語

１ 目　　標

英語学習の特質を踏まえ，以下に示す，聞くこと，話すこと［やり取り］，話すこと［発表］の三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して，第１の⑴及び⑵に示す資質・能力を一体的に育成するとともに，その過程を通して，第１の⑶に示す資質・能力を育成する。

⑴ 聞くこと

ア　ゆっくりはっきりと話された際に，自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。

イ　ゆっくりはっきりと話された際に，身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。

ウ　文字の読み方が発音されるのを聞いた際に，どの文字であるかが分かるようにする。

⑵ 話すこと［やり取り］

ア　基本的な表現を用いて挨拶，感謝，簡単な指示をしたり，それらに応じたりするようにする。

イ　自分のことや身の回りの物について，動作を交えながら，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

ウ　サポートを受けて，自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

⑶ 話すこと［発表］

ア　身の回りの物について，人前で実物などを見せながら，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

イ　自分のことについて，人前で実物などを見せながら，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

ウ　日常生活に関する身近で簡単な事柄について，人前で実物などを見せながら，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

2　内　容

【知識及び技能】

▲：他校種とのつながり，◎：他学年とのつながり，★：他教科とのつながり
※：特に配慮を要する事項，◆：参考事項（神戸の特色等）

（1）英語の特徴等に関する事項

指　導　内　容	内　容　の　取　扱　い
実際に英語を用いた言語活動を通して，次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。	
ア　言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること。	・言葉を使って伝え合う体験を通して,相手に対する理解を深めたり,自分の思いを伝えたりして,英語で伝え合えた満足感や達成感を味わったり，コミュニケーションを図ることの大切さを実際に体験したりすることが大切である。 ◆「主体的にコミュニケーションを図る」とは，「伝えたい相手」に「伝えたい内容」を「伝え合う必然性のある場面」において,自ら発話したり,相手の伝えたい内容を受け止めようとして聞いたりすることであり,神戸市ではこれらのことを大切にしている。 ◎英語を用いて相手とやり取りをすることの面白さを知ることが,高学年以降の外国語学習への動機付けを高めていくことにつながる。
イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。	・相手と豊かな人間関係を築くために,ジェスチャーや動作等の非言語手段を用いながら,言語を使って相手と分かり合える良さを知ることで言語によるコミュニケーションの大切さを実感させることが大切である。
⑺ 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに，日本語との違いを知り，言葉の面白さや豊かさに気付くこと。	・音声面に関しては,児童の柔軟な適応力を十分に生かし,英語の音声やリズムに慣れ親しませることが大切である。 ・実際に英語で歌ったりチャンツをしたりすることを通して,英語特有のリズムやイントネーションを体得することにより,児童が日本語と英語の音声面等の違いを知ることで,言葉の面白さや豊かさに気付かせることが大切である。 (例)ミルク（日本語では,mi-ru-kuの3音節）・milk（英語では,1音節）
⑴ 日本と外国との生活や習慣，行事などの違いを知り，多様な考え方があることに気付くこと。	・多様な文化の存在を知り,また,日本の文化と多文化の比較により,様々な考え方があることに気付くとともに,我が国の文化を発信することにつながっていく。

㈣ 異なる文化をもつ人々との交流などを体験し，文化等に対する理解を深めること。	※単なる知識として指導するのではなく,体験的な活動を通して具体的に気付かせていく。 ◆ＡＬＴや留学生,地域に住む外国人など,異なる文化をもつ人々との交流などを通して,体験的に文化等の理解を深めることが大切である。 ◆「国際都市神戸」には，世界のたくさんの国から来られた外国人が住んでおり，また，共に学んでいる外国人児童も多い事を理解して指導にあたる。

【思考力, 判断力, 表現力等】

（２）情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項

指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
具体的な課題等を設定し，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報 や考えなどを表現することを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
ア　自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を使って相手に配慮しながら，伝え合うこと。	・児童の発達段階に適した,身の回りで経験したことのある場面において,自分のことや,学校の友達や教師,身の回りの物や自分の大切にしている物,学校や家庭での出来事など,身近で簡単な事柄について,これまで慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を使って伝え合うようにする。 ※伝え合う相手を意識させることが重要であり,目の前にいる相手の反応を確かめたり,反応を感じたりしながら,言葉による伝え合いを体験させていくようにする。
イ　身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどが伝わるよう工夫して質問したり,答えたりすること。	・外国語によるコミュニケーションを円滑に行うためには,どうすれば相手により伝わるかを思考しながら,表現する内容や表現方法を自己選択し,尋ねたり答えたりするようにする。 ★自分の考えや気持ちを相手により理解してもらうために,ゆっくり話したり,繰り返したり,動作を交えたりするなどの工夫を行うとともに,実物を見せたり,他教科等で作成した成果物を活用したりすることも考えられる。

（３）言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
⑵ に示す事項については，⑴ に示す事項を活用して，例えば，次のような言語活動を通して指導する。	
ア　聞くこと ㋐ 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容が分かったりする活動。	・学級担任又は外国語活動を担当する教師やＡＬＴなどの外部人材が単独で,もしくは複数の指導者同士がやり取りして聞かせるなど,児童の実態や指導体制に応じて工夫することが大切である。 ・聞き取りやすい声で,ゆっくりはっきりと話すように努め,外国語による活動経験が乏しい中学年の児童であっても,おおよその内容が推測できるよう,具体的な場面設定をするようにする。 ・児童の様子を観察しながら，慣れ親しんだ別の語句や表現に言い換えたり,動作やイラスト,写真を添えたりするなどして,理解を促す手立てを講じ，「聞いて分かった」という喜びや達成感を味わわせることが重要である。
㋑ 身近な人や身の回りの物に関する簡	・生活の中で用いられている音声などが具体的な場面や事物と結びつき,その意味

単な語句や基本的な表現を聞いて，それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。	を自ずと理解していくというような，体験的な理解が大変重要であるので，音声と事物を結びつける活動を通して，児童自身がその意味を理解し語句や表現に慣れ親しんでいくことが求められている。
(ｳ) 文字の読み方が発音されるのを聞いて，活字体で書かれた文字と結び付ける活動。	※ここでの「文字」とは，英語の活字体の大文字と小文字を指し，「読み方」とは，文字の「名称」を指している。 ※知識として指導するのではなく，あくまでも活動を通して，体験的に文字に親しませることが重要である。 ・活動に際し，困難が認められた場合には，十分な間隔を空けてゆっくり一つ一つの文字を発音したり，発音した後に「文字」を示したりするなどして，児童の抵抗感を軽減し達成感がもてるような手立てを講じる必要がある。 ・本活動の前段階として，歌やチャンツの中で文字の読み方に親しませたり，文字の形を指で作ってみたり，形に着目して仲間分けをしたりするなど，児童が文字に親しみ，興味・関心が高まるよう，多様な活動を経験させておくことが大切である。
イ　話すこと（やり取り）	
(ｱ) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり，感謝や簡単な指示，依頼をして，それらに応じたりする活動。	・「知り合い」とは，初対面でなく日頃から馴染みのある人を指しており，児童にとって身近で日常的な場面設定の中で，言語活動が行われるよう留意する必要がある。 ※「話すこと」を急がせないよう留意する。まず，音声を十分に聞かせた上で，繰り返し言うなどの様々な活動を通してそれらに慣れ親しませ，段階的に「話す」活動へつなげることが求められる。加えて児童が発する表現等が例え曖昧であっても「英語を使おうとする」意欲や態度を認め，賞賛し，支援を行うなどして，英語を用いたコミュニケーションの楽しさを児童が実感できるように配慮することが重要である。
(ｲ) 自分のことや身の回りの物について，動作を交えながら，好みや要求などの自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動。	・「伝え合う」とは，話し手は聞き取りやすい声で言ったり動作を交えたりしながら聞き手を意識して分かりやすく伝え，聞き手はうなずくなどの反応を繰り返して相手の考えや気持ちを受容しながら聞こうとするなどの態度を育てることが求められる。 ※「伝え合う」ことへの意欲が高まるような場面設定や題材の選択を行い，活動を通して，児童が，自己理解・他者理解を深め，コミュニケーションの楽しさを実感できるように配慮することが重要である。
(ｳ) 自分や相手の好み及び欲しい物などについて，簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。	◆児童にとって身近で具体的な場面設定の中で言語活動を行い，「誰に」，「何のために」という，「相手意識」や「目的意識」をもって，質問したり答えたりする必然性のある活動とすることが重要である。
ウ　話すこと（発表）	
(ｱ) 身の回りの物の数や形状などについて，人前で実物やイラスト，写真など	・児童の発達や興味・関心に沿った「話したくなる」適切なテーマを設定することが重要である。

を見せながら話す活動。	・話し手は，聞き手に配慮して，明瞭な聞き取りやすい声の大きさで言ったり動作を交えたりしながら分かりやすく話し，聞き手もうなずくなどの反応を繰り返して相手の話を受容しようとするなどの態度を育てることに留意する必要がある。 ※単元（及び授業）の早い段階で，児童にとっての最終モデルを指導者が実際に示し，活動のイメージをもたせるとともに意欲を喚起することが大切である。 ※児童一人一人が自信をもって発表できるよう，個に応じた支援を行うとともに，練習など準備の時間を十分確保する必要がある。
(ｲ) 自分の好き嫌いや，欲しい物などについて，人前で実物やイラスト，写真などを見せながら話す活動。	・ここでは，「好き嫌い」，「欲しい」という自分の感情や気持ち，つまり主観的なものについて話すことを意味している。 ・活動を通して，児童が，自己理解・他者理解を深め，コミュニケーションの楽しさを実感できるようにすることが重要である。 ・活動形態についても，ペアやグループ，学級全体に向けた発表などが考えられるが，児童の実態に合わせて柔軟に扱うよう配慮する。
(ｳ) 時刻や曜日，場所など，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，人前で実物やイラスト，写真などを見せながら，自分の考えや気持ちなどを話す活動。	・「考えや気持ち」とは，（イ）の項目と同様，主観的なものを意味している。 ・例えば，校内の自分のお気に入りの場所について，イラストや写真などを見せながら，“My favorite place is the music room.　I like music.”などと自分の考えや気持ちを話す活動などが考えられる。

② 言語の働きに関する事項

指 導 内 容	内 容 の 取 扱 い
言語活動を行うに当たり，主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	
ア　言語の使用場面の例 (ｱ) 児童の身近な暮らしに関わる場面	それぞれの場面における特有の表現例。
・家庭での生活	・家庭での生活 例１　I wake up（at 6:00）.　I go to school.　I go home. I take a bath.　I do my homework. 例２　A: What time is it? B: It's 8:30. 例３　I eat lunch. 例４　This is my pet. 例５　A: I'm tired. B:Are you O.K?
・学校での学習や活動	・学校での学習や活動 例１　A: Do you have a ruler? B: Yes, I do. I have a ruler. / No, I don't. I don't have a ruler. 例２　A: How many? B: Two.

	例３　This is my favorite place.　I like music.
	例４　This is the music room.
・地域の行事	・地域の行事
	例１　Let's dance bon-odori.
	例２　I like Kobe festival.
・子供の遊び　など	・子供の遊び
	例１　Rock, scissors, paper. One, two, three.
	例２　A: What's this?
	B: Hint, please.
	例３　A: Let's play dodgeball outside.
	B: Yes, let's.
	例４　A: Let's play cards.
	B: Sorry, I can't.
	例５　I like tag.
(ｲ) 特有の表現がよく使われる場面	
・挨拶	・挨拶
	例１　Good morning/afternoon.
	例２　A: Hello. How are you?
	B: I'm good.
	例３　A: Let's start.
	B: Yes, let's.
	例４　Hello. Goodbye. See you.
・自己紹介	・自己紹介
	例１　Hello（Hi）, I am Haruto. I like blue. I like baseball.
	I don't like soccer.
	例２　A: Do you like soccer?
	B: Yes, I do. I like soccer.
・買物	・買物
	例１　A: Hello.　Do you have a pen?
	B: Sorry, no, I don't.
	例２　A: What do you want?
	B: I want potatoes, please.
	例３　A: How many?
	B: Two, please.
	A: Here you are.
	B: Thank you.
・食事	・食事
	例１　A: What food do you like?
	B: I like pudding.
	例２　This is my pizza.
	例３　A: What do you want?

	B: A banana, please.
・道案内　など	・道案内 例１　Go straight.　Turn right/left. 例２　This is the swimming pool/music room/gym.
イ　言語の働きの例	
(ｱ) コミュニケーションを円滑にする	
・挨拶をする	・挨拶をする 例１　Hello. 例２　Hi.
・相づちを打つ　など	・相づちを打つ 例１　Yes. 例２　O.K. ・実際に挨拶をしたり，相づちを打ったりすることなどによって，相手とのコミュニケーションが円滑になることに気付かせることが重要である。また，身振りや表情，ジェスチャーなどの非言語的要素の活用も重要であることを指導する。
(ｲ) 気持ちを伝える	
・礼を言う	・礼を言う 例　Thank you.
・褒める　など	・褒める 例１　Good. 例２　Great. ・実際に場面設定をして礼を言ったり，褒めたりすることなどによって，自分の気持ちを相手に伝えることができることに気付かせることが重要である。
(ｳ) 事実・情報を伝える	
・説明する	・説明する 例１　This is a fruit.　It's green.　It's sweet. (果物を説明している) 例２　I wake up at 6:00.　(自分の生活について説明している)
・答える　など	・答える 例１　A: Do you like pizza? B: Yes, I do.　(相手の質問に対して，答えている) 例２　A: How are you? B: I'm happy. (相手の質問に対して，答えている) ・この事項の指導の際には，事実や情報を伝えるために，身振りや表情，ジェスチャーなどの非言語的要素の活用も重要であることを指導する。
(ｴ) 考えや意図を伝える	
・申し出る	・申し出る 例　A: Let's play cards. B: Yes, let's.
・意見を言う　など	・意見を言う 例　A: I like Mondays.

	・この事項の指導の際には，考えや意図を伝えるために，身振りや表情，ジェスチャーなどの非言語的要素の活用も重要であることを指導する。
(オ) 相手の行動を促す	
・ 質問する	・質問する 例１　Do you like blue? 例２　What's this?
・依頼する	・依頼する 例１　A: The A card, please. B: Here you are. 例２　A: Hint, please. B: O.K.
・ 命令する　など	・命令する 例１　Go straight. 例２　Turn right. ・この事項の指導の際には，表現を教えるだけでなく，実際に質問したり，依頼したりすることなどによって，相手に働き換えて行動を促すことができることに気付かせることが重要である。

第３　指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっては，第５学年及び第６学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意しながら，次の事項に配慮するものとする。

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，具体的な課題等を 設定し，児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら，コミュニケーションの目的や場面，状況などを意識して活動を行い，英語の音声や語彙，表現などの知識を，三つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

イ 学年ごとの目標を適切に定め，２学年間を通じて外国語活動の目標の実現を図るようにすること。

ウ 実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は，２の (1) に示す事項について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また，英語を初めて学習することに配慮し，簡単な語句や基本的な表現を用いながら，友達との関わりを大切にした体験的な言語活動を行うこと。

エ 言語活動で扱う題材は，児童の興味・関心に合ったものとし，国語科や音楽科，図画工作科など，他教科等で児童が学習したことを活用したり，学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。

オ 外国語活動を通して，外国語や外国の文化のみならず，国語や我が国の文化についても併せて理解を深めるようにすること。言語活動で扱う題材についても，我が国の文化や，英語の背景にある文化に対する関心を高め，理解を深めようとする態度を養うのに役立つものとすること。

カ 障害のある児童などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うこと。

キ 学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が指導計画を作成し，授業を実施するに当たっては，ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等，指導体制の充実を図るとともに，指導方法の工夫を行うこと。

⑵ **２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。**

ア 英語でのコミュニケーションを体験させる際は，児童の発達の段階を考慮した表現を用い， 児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定すること。

イ 文字については，児童の学習負担に配慮しつつ，音声によるコミュニケーションを補助するものとして取り扱うこと。

ウ 言葉によらないコミュニケーションの手段もコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ，ジェスチャーなどを取り上げ，その役割を理解させるようにすること。

エ 身近で簡単な事柄について，友達に質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため， ペア・ワーク，グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際，相手 とコミュニケーションを行うことに課題がある児童については，個々の児童の特性に応じて 指導内容や指導方法を工夫すること。

オ 児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態，教材の内容などに応じて，視聴覚教材やコンピュータ，情報通信ネットワーク，教育機器などを有効活用し，児童の興味・関心をより高め，指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

カ 各単元や各時間の指導に当たっては，コミュニケーションを行う目的，場面，状況などを明確に設定し，言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより，児童が学習の見通しを立てたり，振り返ったりすることができるようにすること。

第３　指導計画の作成と内容の取扱い

１ 外国語活動においては，言語やその背景にある文化に対する理解が深まるよう指導するとともに，外国語による聞くこと，話すことの言語活動を行う際は，英語を取り扱うことを原則とすること。

２ 第１章総則の第１の２の ⑵ に示す道徳教育の目標に基づき，道徳科などとの関連を考慮しながら，第３章特別の教科道徳第２に示す内容について，外国語活動の特質に応じて適切な指導をすること。

第 6 章

総合的な学習の時間

第６章　総合的な学習の時間

第１　目　　標

〈小学校〉〈中学校〉

探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

⑴ 探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習のよさを理解するようにする。（知識及び技能）

⑵ 実社会や実生活の中から問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。（思考力，判断力，表現力等）

⑶ 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，積極的に社会に参画しようとする態度を養う。（学びに向かう力，人間性等）

※「探究的な見方・考え方」とは，各教科等における見方・考え方を総合的に活用して，広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え，実社会・実生活の課題を探究し，自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方のこと。

標準授業時数	小学校				中学校		
	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
	70	70	70	70	50	70	70

第２　各学校において定める目標及び内容

１　目 標　　各学校においては，第１の目標を踏まえ，各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。

２　内 容　　各学校においては，第１の目標を踏まえ，各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

３　各学校において定める目標及び内容の取扱い

指導内容	内容の取扱い
⑴ 各学校において定める目標については，各学校における教育目標を踏まえ，総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。	・特に教科等横断的なカリキュラム・マネジメントという視点から，極めて重要な役割を担うことが今まで以上に鮮明となった。 ・総合的な学習の時間の目標は，学校の教育目標と直接的につながるという，他教科等にはない独自な特質を有するということを意味している。 **※資質・能力については，目標の「三つの柱」に即して，設定する。**
⑵ 各学校において定める目標及び内容については，他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ，他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を重視すること。	・教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育むとともに，各教科等で身に付けた資質・能力を相互に関連付け，学習や生活に生かし，それらが総合的に働くようにする。 ・各教科等の教育内容を相互の関係で捉え，学校の教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していく。
⑶ 各学校において定める目標及び内容については，日常生活や社会との関わりを重視すること。	・実際の生活の中にある問題や地域の事象を取り上げ，それらを実際に解決していく過程が大切である。 ・総合的な学習の時間では，それぞれの児童が具体的で関係的な認識を，自ら構築していくことを期待している。

⑷ 各学校において定める内容については，目標を実現するにふさわしい探究課題，探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を示すこと。 **※探究課題とは，探究的に関わりを深める人・もの・ことを示したもの。**	・今回の改訂では新たに，「目標を実現するにふさわしい探究課題」，「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の二つを定めることが示された。 ・探究課題とは，指導計画の作成段階において各学校が内容として定めるものであって，学習活動の中で児童が自ら設定する課題のことではない。
⑸ 目標を実現するにふさわしい探究課題については，学校の実態に応じて，例えば，国際理解，情報，環境，福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題，地域の人々の暮らし，伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題，児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。	・目標を実現するにふさわしい探究課題とは，目標の実現に向けて，学校として設定した児童が探究的な学習に取り組む課題であり，従来「学習対象」として説明されてきたものに相当する。 ・横断的・総合的な学習としての性格をもち，探究的な見方・考え方を働かせて学習することがふさわしく，それらの解決を通して育成される資質・能力が，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくことに結び付いていくような，教育的に価値のある諸課題であることが求められている。
⑹ 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については，次の事項に配慮すること。 ア 知識及び技能については，他教科等及び総合的な学習の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ，社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすること。 イ 思考力，判断力，表現力等については，課題の設定，情報の収集，整理・分析，まとめ・表現などの問題の解決や探究的な学習の過程において発揮され，未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること。 ウ 学びに向かう力，人間性等については，自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること。	・探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力とは，各学校において定める目標に記された資質・能力を，各探究課題に即して具体的に示したものであり，教師の適切な指導の下，児童が各探究課題の解決に取り組む中で，育成することを目指す資質・能力のことである。 ・「知識及び技能」については，具体的な事実に関する知識，個別的な手順の実行に関する技能に加えて，複数の事実に関する知識や手順に関する技能が相互に関連付けられ，統合されることによって概念として形成されるようにする。 ・「思考力，判断力，表現力等」についても，「知識及び技能」を未知の状況において活用できるものとして身に付けるようにする。 ・「学びに向かう力，人間性等」については，「自分自身に関すること」及び「他者や社会との関わりに関すること」の両方の視点を含むようにする。
⑺ 目標を実現するにふさわしい探究課題及び探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については，教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力が育まれ，活用されるものとなるよう配慮すること。	・教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力としては，それぞれの学習活動との関連において，言語活動を通じて育成される言語能力（読解力や語彙力等を含む。），言語活動やＩＣＴを活用した学習活動等を通じて育成される情報活用能力，問題解決的な学習を通じて育成される問題発見・解決能力などが考えられる。

第３　指導計画の作成と内容の取扱い

１．指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。	
⑴ 年間や，単元（題材）など内容のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，児童や学校，地域の実態等に応じて，児童が探究的な見方・考え方を働かせ，教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や児童の興味・関心に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図ること。	・「知識及び技能」が習得されること，「思考力，判断力，表現力等」を育成すること，「学びに向かう力，　人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう，単元など内容や時間のまとまりを見通しながら，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要である。 ・児童や学校の実態，指導の内容に応じ，「主体的な学び」，「対話的な学び」，「深い学び」の視点から授業改善を図ることが重要である。
⑵ 全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては，学校における全教育活動との関連の下に，目標及び内容，学習活動，指導方法や指導体制，学習の評価の計画などを示すこと。 **※以下のカリキュラム・マネジメントの側面を大事にする。** ① 内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと。 ② 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと。 ③ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと。	・全体計画とは，指導計画のうち，学校として，第３学年から第６学年までを見通して，この時間の教育活動の基本的な在り方を概括的・構造的に示すものである。一方，年間指導計画とは，全体計画を踏まえ，その実現のために，どのような学習活動を，どのような時期に，どのくらいの時数で実施するのかなどを示すものである。 ・各学校においては，校長のビジョンとリーダーシップの下で総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画を作成しなければならない。
⑶ 他教科等及び総合的な学習の時間で身に付けた資質・能力を相互に関連付け，学習や生活において生かし，それらが総合的に働くようにすること。その際，言語能力，情報活用能力など全ての学習の基盤となる資質・能力を重視すること。	・今回の改訂では，これまで以上に総合的な学習の時間と各教科等との関わりを意識しながら，学校の教育活動全体で教科等横断的に資質・能力を育成していくカリキュラム・マネジメントが求められている。 ・年間指導計画を工夫し単元配列表を作成することで，各教科等で学ぶ１年間の学習内容や扱われる題材と，総合的な学習の時間の内容や学習活動との関連を概観し，捉えることができる。
⑷ 他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ，第１の目標並びに第２の各学校において定める目標及び内容を踏まえた適切な学習活動を行うこと。	・特定の教科等の知識や技能の習得を図る学習活動が行われていたり，運動会の準備などと混同された学習活動が行われていたりするなどの事例が見られるとの指摘もある。これらについては，総合的な学習の時間としてふさわしくないものであることは言うまでもない。 ・総合的な学習の時間において探究的な学習が行われる中で体験活動を実施した結果，学校行事として同様の成果が期待できる場合にのみ，特別活動の学校行事を実施したと判断してもよい。（「第１章総則の第２の３の⑵のエ」）

(5) 各学校における総合的な学習の時間の名称については，各学校において適切に定めること。	・各学校において，この時間の目標や内容，学習活動の特質，学校の取組の経緯を踏まえて，例えば，地域のシンボルや学校教育目標，保護者や地域の人々の願いに関連した名称など，この時間の趣旨が広く理解され，児童や保護者，地域の人々に親しんでもらえるように適切な名称を定めればよい。
(6) 障害のある児童などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うこと。	・様々な事象を調べたり，得られた情報をまとめたりすることに困難がある場合は，必要な事象や情報を選択して整理できるように，着目する点や調べる内容，まとめる手順や調べ方について具体的に提示するなどの配慮をする。 ・様々な情報の中から，必要な事柄を選択して比べることが難しい場合は，具体的なイメージをもって比較することができるように，比べる視点の焦点を明確にしたり，より具体化して提示したりするなどの配慮をする。など
(7) 第１章総則の第１の２の(2)に示す道徳教育の目標に基づき，道徳科などとの関連を考慮しながら，第３章特別の教科道徳の第２に示す内容について，総合的な学習の時間の特質に応じて適切な指導をすること。	・主体的に判断し学習活動を進めたり，粘り強く考え解決しようとしたり，自己の目標を実現しようとしたり，他者と協調して生活しようとしたりする資質・能力を育てることも重要であり，このような資質・能力の育成は道徳教育につながる。 ・課題の解決に向けて探究する中で，道徳科において学習した道徳的価値についてより深く理解したり，自分の生き方と関連付けて考えられるようになったりすることが考えられる。

２．第２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。 (1) 第２の各学校において定める目標及び内容に基づき，児童の学習状況に応じて教師が適切な指導を行うこと。	・児童が自ら学ぶことを妨げるような事例や，どのような活動をするのかということに目を向け過ぎるあまり，総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力が身に付いているのかが見えにくい事例も見られる。 ・児童の主体性を生かした学習と教師の適切な指導が相まってこそ，より質の高い学習が実現され，総合的な学習の時間の目標が達成される。また，そのことが児童の学習活動への満足感や達成感も高める。
(2) 探究的な学習の過程においては，他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や，言語により分析し，まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。その際，例えば，比較する，分類する，関連付けるなどの考えるための技法が活用されるようにすること。	・他者と協働して課題を解決しようとする学習活動を行うことが重要である。他者へ説明することにより生きて働く知識及び技能の習得が図られる点や他者から多様な情報が収集できること，また，よりよい考えが作られることなどが意義として挙げられる。

	・言語により分析し，まとめたり表現したりする学習活動を行うことが重要である。体験したことや収集した情報を，言語により分析したりまとめたりすることは，自らの学びを意味付けたり価値付けたりして自己変容を自覚し，次の学びへと向かうために特に大切にすべきことである。 ・「考えるための技法」を活用していくことも重要である。「考えるための技法」とは，考える際に必要になる情報の処理方法を，例えば「比較する」，「分類する」，「関連付ける」など，技法のように様々な場面で具体的に使えるようにするものである。
(3) 探究的な学習の過程においては，コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用して，情報を収集・整理・発信するなどの学習活動が行われるよう工夫すること。その際，コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得し，情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮すること。	・コンピュータなどの情報機器や情報通信ネットワークなどを探究的な学習において活用する場合，児童の発達段階や学習過程に応じて，情報手段の基本的な操作スキルを習得することが望まれる。 ・情報手段の基本的な操作の習得に当たっては，探究的な学習の過程における実際の情報収集・整理・発信などの場面を通して習得することが望ましい。
(4) 自然体験やボランティア活動などの社会体験，ものづくり，生産活動などの体験活動，観察・実験，見学や調査，発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。	・総合的な学習の時間で重視する体験活動は，自分の身体を通して外界の事物や事象に働きかけ学んでいくものである。 ・事象を精緻に観察すること，科学的な見方で仮説を立て実験し，検証すること，実際に事象を見学したり事実を確かめるために調査したりすることなどを行い，情報の収集を行う。また，そうした情報をまとめて整理したり，関連付けたりする発表や討論を行う。これらの学習活動によって学習の深まりが期待できる。
(5) 体験活動については，第１の目標並びに第２の各学校において定める目標及び内容を踏まえ，探究的な学習の過程に適切に位置付けること。	・総合的な学習の時間では体験活動を重視している。しかし，ただ単に体験活動を行えばよいわけではなく，それを探究的な学習の過程に適切に位置付けることが重要である。 ・探究的な学習の過程に適切に位置付けるとは，設定した探究課題に迫り，課題の解決につながる体験活動であること，児童が主体的に取り組むことのできる体験活動であること，が挙げられる。 ・学校行事と関連付けて体験活動を実施することもあり得るが，必ず総合的な学習の時間の目標及び内容を踏まえたものであること，探究的な学習の過程に位置付いていることなどを満たさなければならない。

(6) グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態，地域の人々の協力も得つつ，全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと。	・興味・関心別のグループ，表現方法別のグループ，調査対象別のグループなど多様なグループ編成や，学級を越えた学年全体での活動，さらには教え合いや学び合いの態度を育むために異年齢の児童が一緒に活動することにも考慮する必要がある。 ・様々な学習形態があるが，その長所，短所を踏まえた上で，学習活動に即して適切な学習形態を選択したり組み合わせたりする必要がある。
(7) 学校図書館の活用，他の学校との連携，公民館，図書館，博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携，地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。	・学校図書館やコンピュータ室の図書や資料を充実させ，タブレット端末を含むコンピュータ等の情報機器や校内ネットワークシステムを整備・活用することが望まれる。 ・司書教諭，学校図書館司書等による図書館利用の指導により，児童が情報を収集，選択，活用する能力を育成することができる。
(8) 国際理解に関する学習を行う際には，探究的な学習に取り組むことを通して，諸外国の生活や文化などを体験したり調査したりするなどの学習活動が行われるようにすること。	・グローバル化が一層進む中で，横断的・総合的な課題として国際理解に関する課題を扱い，探究的な学習を通して取り組んでいくことは，意義のあることである。 ・スキルの習得に重点を置くなど単なる外国語の学習を行うことは，これまでと同様，総合的な学習の時間にふさわしい学習とは言えない。国際理解に関する学習を行っている学校においては，探究的な学習として適切な学習が行われるよう，丁寧な点検を行わなければならない。
(9) 情報に関する学習を行う際には，探究的な学習に取り組むことを通して，情報を収集・整理・発信したり，情報が日常生活や社会に与える影響を考えたりするなどの学習活動が行われるようにすること。第１章総則の第３の１の(3) のイに掲げるプログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には，プログラミングを体験することが，探究的な学習の過程に適切に位置付くようにすること。	・自分自身が危険に巻き込まれないことや情報社会に害を及ぼさないことなどの情報モラルについても，機を見て丁寧に指導する必要がある。 ・プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には，プログラミングを体験することだけにとどまらず，情報に関する課題について探究的に学習する過程において，　自分たちの暮らしとプログラミングとの関係を考え，プログラミングを体験しながらそのよさや課題に気付き，現在や将来の自分の生活や生き方と繋げて考えることが必要である。 ・総合的な学習の時間においてプログラミングを体験することは，それが探究的な学習の過程に適切に位置付けられていることが欠かせない。

1．指導計画 について

(1) 指導計画を構成する６つの要素

総合的な学習の時間の指導計画の作成に際しては，以下の六つについて考える必要がある。

①この時間を通してその実現を目指す「目標」

②「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」からなる「内容」

③「内容」との関わりにおいて実際に児童が行う「学習活動」。これは，実際の指導計画においては，児童にとって意味のある課題の解決や探究的な学習活動のまとまりとしての「単元」，さらにそれらを配列し，組織した「年間指導計画」として示される。

④「学習活動」を適切に実施する際に必要とされる「指導方法」

⑤「学習の評価」。これには，児童の学習状況の評価，教師の学習指導の評価，①～④の適切さを吟味する指導計画の評価が含まれる。

⑥ ① ～⑤の計画，実施を適切に推進するための「指導体制」

(2) 全体計画 (学校として，この時間の教育活動の基本的な在り方を示すもの)

①必須の要件として記すもの

- 各学校における教育目標
- 各学校において定める目標
- 各学校において定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題，探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

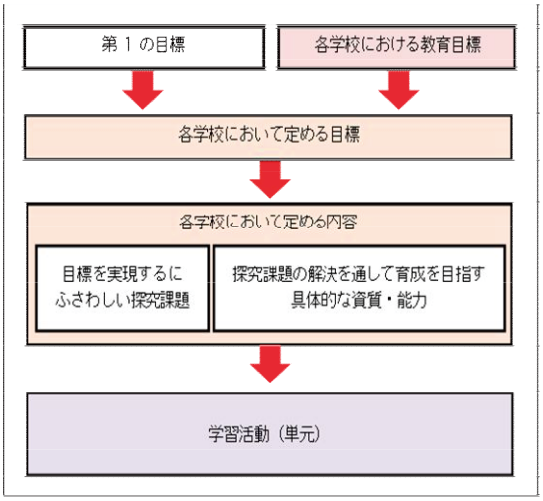
②基本的な内容や方針等を概括的に示すもの

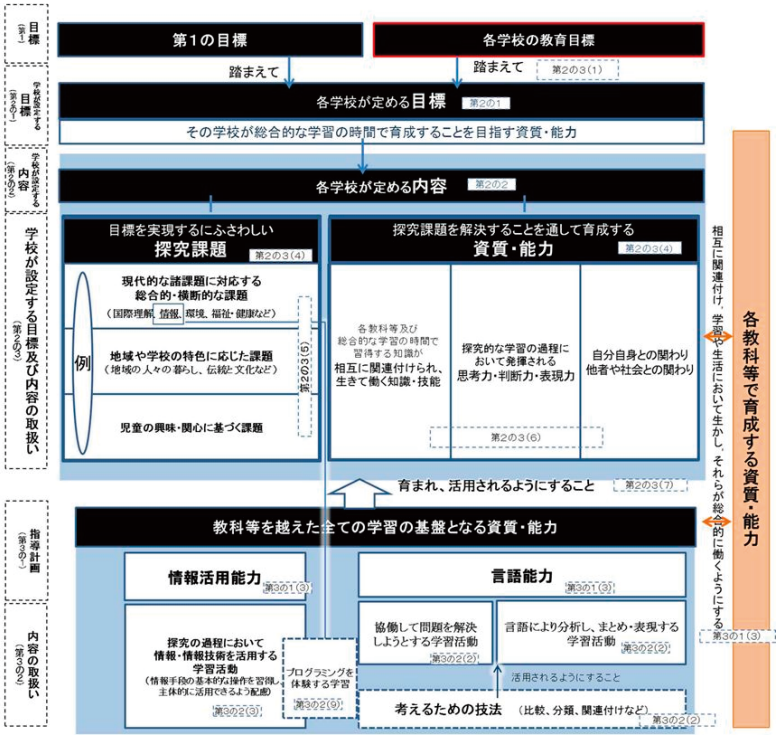
- 学習活動　・ 指導方法
- 指導体制（環境整備，外部との連携を含む）　・ 学習の評価

③その他，各学校が全体計画を示す上で必要と考えるもの。

- 年度の重点・地域の実態・学校の実態・児童の実態・保護者の願い・地域の願い・教職員の願い
- 各教科等との関連・地域との連携・中学校との連携・近隣の小学校との連携 など

〈目標と内容と学習活動の関係〉





教育課程小　様式7－1　　平成〇年度　　学校番号　（　　）

7　総合的な学習の時間　　**(1)総合的な学習の時間　全体計画**　　神戸市立　　小学校

名称【 〇 〇 タイム　　】　　記入者名

教育目標	〇〇〇〇〇〇〇〇〇の子の育成

学校・児童の実態	本校の「総合的な学習の時間」の目標	教職員の願い
・ ・	探究的な見方・考え方を働かせ，地域の人，もの，ことに関わる総合的な学習を通して，目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し，自己の生き方を考えることができるようにするために，以下の資質・能力を育成する。 (1) 地域の人，もの，ことに関わる探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに，地域の特徴やよさに気付き，それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。 (2) 地域の人，もの，ことの中から問いを見いだし，その解決に向けて仮説を立てたり，調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに，考えたことを，根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。 (3) 地域の人，もの，ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え，自ら社会に参画しようとする態度を育てる。	・

右記の例のように目標を記載してください。上段及び(1)(2)(3)を各校に合わせて記述してください。

各校の教育目標を踏まえて、総合的な学習の時間を通して**育成を目指す資質・能力を左記(1)(2)(3)のように示すこと**

各学校において定める内容				
学年	目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成する具体的な資質・能力		
		知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
3年	商店街の人々の生き方と町の人々の取組	商店街が時代とともに現在の様子に推移してきたことを理解するとともに、店の人々は、商店街を大切に守り続けていることを知る。また、商店街の人々の魅力や商店街が町づくりに貢献していること、町の人々をつないでいることにも気付く。	商店街の人々や町の人々にインタビューをしたり、店での体験をしたりしながら、商店街の様子について情報を収集する。商店街のよさや問題点などについて整理・分析し、商店街の人々の思いや願い、自分たちの思いなどを表現したり、発信したりする。	商店街の人々などへのインタビューや体験などを通して、商店街の人々の思いなどを知るとともに、友達と協力して活動することの大切さに気付く。また、地域の一員として、自分たちに何ができるかを考え、実践しようとする。
4年				
5年	防災のための安全・安心な町づくりとその取組	阪神淡路大震災での困難や地域で震災が起きた際の問題点について理解を深める。また、そのことに対応する組織や取組があることを知り、地域には非常時に、安全・安心な暮らしができる仕組みがあることに気付く。	人と防災未来センターでの見学などをもとに、非常時の必要なことについての情報を収集する。震災時の問題や備え等について市役所の防災担当者から話を聞くなどして整理・分析する。地域での安全・安心な暮らし方についての方法等を発信する。	防災担当者や震災を体験した人と関わりながら、地域や自分の防災への意識を高め、非常時の備え等について追求する。友達と話し合い、安全・安心な町づくりのための考えを進んでまとめたり、地域の一員として自分にできることを考え、実践しようとする。
6年				

「探究課題」→**単元名とは違います。**学習対象について記載してください。
※探究課題の例
- **身近な自然環境とそこに起きている環境問題（環境）**
- **身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々（福祉）**
- **地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観（国際理解）**
- **地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々（伝統文化）**

探究課題は、主たるものを一つ挙げてください。
※年間で複数ある場合は、中心的に取り組むものを挙げてください。

課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などについて記載します。

自分自身に関すること、他者や社会との関わりに関することなどを記載します。

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
・3年は環境、4年は福祉、5年は防災、6年は健康を扱う ・2月に各学年で発表会を行い、学習の成果を発信する	・協働的、対話的な学習活動の充実を図る ・教科等と関連付け、言語活動の充実を図る	・地域人材等の積極的な活用を図る ・担任外の教員も含めたチームティーチングを行う	・ポートフォリオを作成し評価の充実を図る ・単元ごとの教師による評価をし指導方法を改善する

⑶ 年間指導計画（1 年間における児童の学びの変容を想定し，具体的な学習活動を構想し単元を配列したもの）

①児童の学習経験に配慮すること

・総合的な学習の時間に初めて取り組む第３学年の場合は，生活科など低学年における学習経験について把握するとともに，生活科等の学習活動とこれから行う総合的な学習の時間の学習活動の関連性についてもあらかじめ確認しておくことが大切である。

②季節や行事など適切な活動時期を生かすこと

・１年間の季節や行事の流れを生かすことが重要である。季節の変化，地域や校内の行事等について，時期と内容の両面から， 総合的な学習の時間の展開に生かしたり関連付けたりすることができるのかを，あらかじめ検討することが大切である。

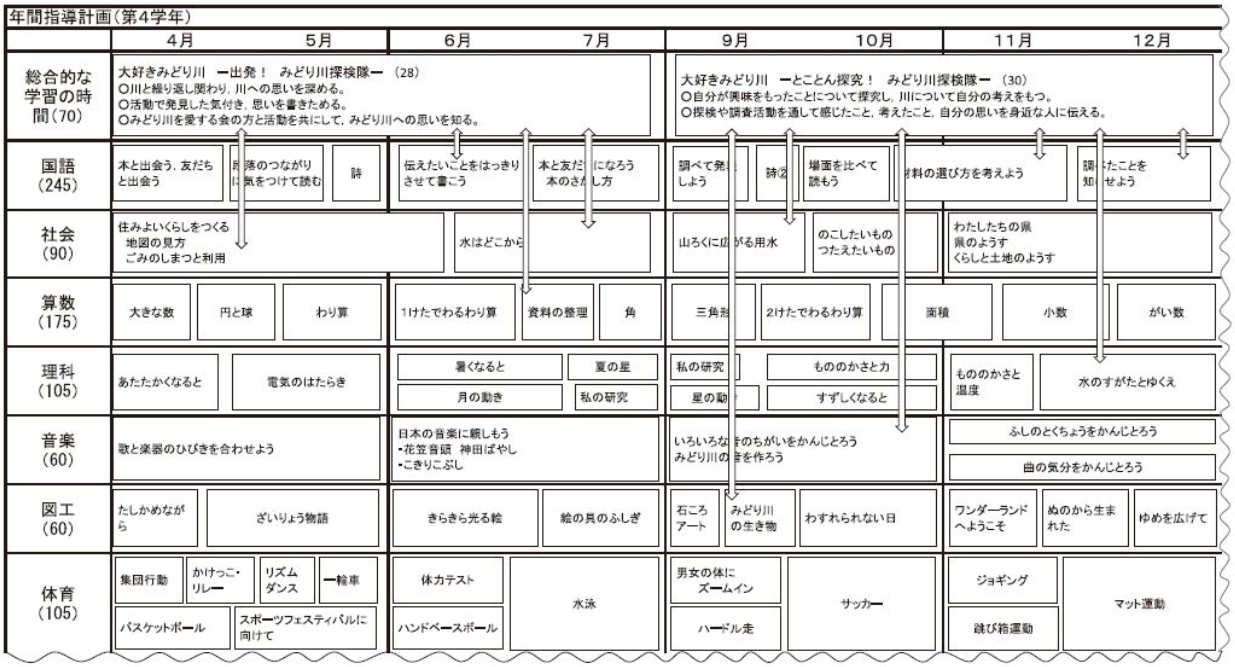
③各教科等との関連を明らかにすること

・各教科等で身に付けた資質・能力を十分に把握し，組織し直し，改めて現実の生活に関わる学習において活用されることが期待されている。そうした資質・能力を適切に活用することが，総合的な学習の時間における探究的な学習活動を充実させることにつながる。

④外部の教育資源の活用及び異校種との連携や交流を意識すること

・総合的な学習の時間を効果的に実践するには，保護者や地域の人，専門家などの多様な人々の協力，社会教育施設や社会教育団体等の施設・設備など，様々な教育資源を活用することが大切である。また，総合的な学習の時間の年間指導計画の中に，幼稚園や保育所，中学校や特別支援学校等との連携や，幼児・児童・生徒が直接的な交流を行う単元を構成することも考えられる。

総合的な学習の時間と各教科等の単元を関連付けた年間指導計画（例）



２．各学校において定める目標の設定

⑴ 第１の目標の構成に従って，以下の２点を踏まえること

○「探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通すこと」，「よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成すること」という，目標に示された二つの基本的な考え方を踏襲すること。

○ 育成を目指す資質・能力については，「育成すべき資質・能力の三つの柱」である「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力， 人間性等」の三つのそれぞれについて，第１の目標の趣旨を踏まえること。

⑵ 設定例

目標の記述の仕方については決まった型があるわけでないが，例えば，以下のような示し方が考えられる。

○　探究的な見方・考え方を働かせ，地域の人，もの，ことに関わる総合的な学習を通して，目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し，自己の生き方を考えることができるようにするために，以下の資質・能力を育成する。

⑴ 地域の人，もの，ことに関わる探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに，地域の特徴やよさに気付き，それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。

⑵ 地域の人，もの，ことの中から問いを見いだし，その解決に向けて仮説を立てたり，調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに，考えたことを，根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。

⑶ 地域の人，もの，ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え，自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

３．各学校が定める内容

総合的な学習の時間の内容は，「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を各学校が定める。つまり，「何を学ぶか」とそれを通して「どのようなことができるか」ということを各学校が具体的に設定するということであり，他教科等にない大きな特徴の一つである。

⑴ 目標を実現するにふさわしい探究課題

・従来「学習対象」と説明してきたものに相当する。

・横断的・総合的な学習としての性格をもち，探究的な見方・考え方を働かせて学習することがふさわしく，それらの解決を通して育成される資質・能力が，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくことに結び付いていくような，教育的に価値のある諸課題であることが求められる。

・以下の三つの要件を満たすものを探究課題として設定する。

① 探究的な見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい課題であること

② その課題をめぐって展開される学習が，横断的・総合的な学習としての性格をもつこと

③ その課題を学ぶことにより，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくことに結び付いていくような資質・能力の育成が見込めること

・課題の例

①現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題

国際理解，情報，環境，福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題とは，社会の変化に伴って切実に意識されるようになってきた現代社会の諸課題のことである。そのいずれもが，持続可能な社会の実現に関わる課題であり，現代社会に生きる全ての人が，これらの課題を自分のこととして考え，よりよい解決に向けて行動することが望まれている。

②地域や学校の特色に応じた課題

地域の人々の暮らし，伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題とは，町づくり，伝統文化，地域経済，防災など，各地域や各学校に固有な諸課題のことである。全ての地域社会には，その地域ならではのよさがあり特色がある。古くからの伝統や慣習が現在まで残されている地域，地域の気候や風土を生かした特産物や工芸品を製造している地域など，様々に存在している。これらの特色に応じた課題は，よりよい郷土の創造に関わって生じる地域ならではの課題であり，児童が地域における自己の生き方との関わりで考え，よりよい解決に向けて地域社会で行動していくことが望まれている。

③児童の興味・関心に基づく課題

児童の興味・関心に基づく課題とは，児童がそれぞれの発達段階に応じて興味・関心を抱く課題のことである。例えば，将来への夢や憧れをもち挑戦しようとすること，ものづくりなどを行い楽しく豊かな生活を送ろうとすること，生命の神秘や不思議さを明らかにしたいと思うこと，などが考えられる。これらの児童が自ら設定した課題は，一人一人の生活と深く関わっており，児童が自己の生き方との関わりで考え，よりよい解決に向けて行動することが望まれている。

・以下の三つの課題を意識し，各学校の目標の実現にふさわしい探究課題を設定する。

三つの課題	探究課題の例
横断的・総合的な課題 （現代的な諸課題）	地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観（国際理解）
	情報化の進展とそれに伴う日常生活や社会の変化（情報）
	身近な自然環境とそこに起きている環境問題（環境）
	身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々（福祉）
	毎日の健康な生活とストレスのある社会（健康）
	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題（資源エネルギー）
	安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々（安全）
	食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者（食）
	科学技術の進歩と自分たちの暮らしの変化（科学技術）など
地域や学校の特色に 応じた課題	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織（町づくり）
	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々（伝統文化）
	商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会（地域経済）
	防災のための安全な町づくりとその取組（防災）　など
児童の興味・関心に 基づく課題	実社会で働く人々の姿と自己の将来（キャリア）
	ものづくりの面白さや工夫と生活の発展（ものづくり）
	生命現象の神秘や不思議さと，そのすばらしさ（生命）など

⑵ 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力とは，各学校において定める目標に記された資質・能力を各探究課題に即して具体化したものであり，児童が各探究課題の解決に取り組む中で，教師の適切な指導により実現を目指す資質・能力のことである。

① 知識及び技能

・総合的な学習の時間では，各教科等の枠を超えて，知識や技能の統合がなされていくことにより，概念的な知識については，教科や分野などを越えて，より一般化された概念的なものを学ぶことができる。

例　・それぞれには特徴があり，多種多様に存在している（多様性）

・互いに関わりながらよさを生かしている（相互性）　・物事には終わりがあり，限りがある（有限性）

② 思考力，判断力，表現力等

・これまでの「学習方法に関すること」に相当する。

・①課題の設定，②情報の収集，③整理・分析，④まとめ・表現の探究的な学習の過程が繰り返され，連続することによって実現される。この過程では，「探究的な見方・考え方」を働かせながら，それぞれの過程で期待される資質・能力が育成される。

③ 学びに向かう力，人間性等

・これまでの「自分自身に関すること」「他者や社会との関わりに関すること」に相当する。

・自分自身に関することとしては，主体性や自己理解，社会参画などに関わる心情や態度，他者や社会との関わりに関することとしては，協働性，他者理解，社会貢献などに関わる心情や態度が考えられる。

4　考えるための技法の活用

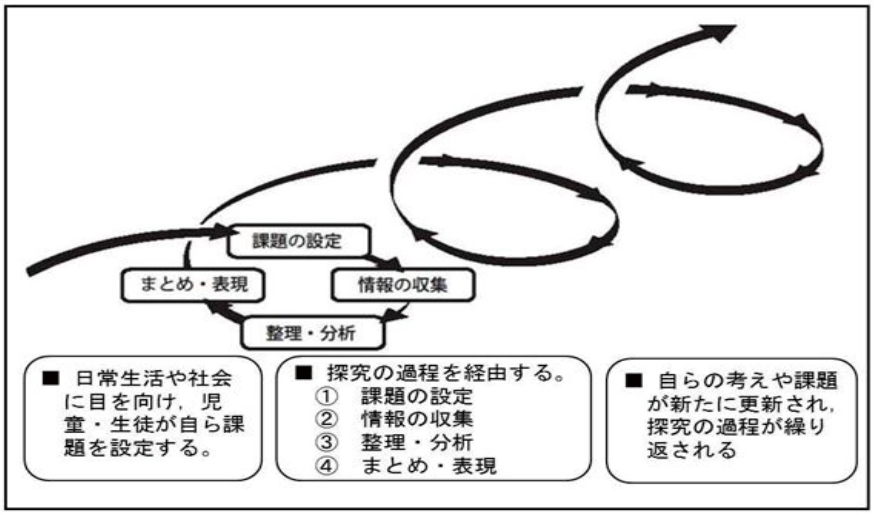
今回の改訂では，「探究的な学習の過程においては，他者と協働して問題を解決しようとする学習活動や，言語により分析し，

まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。その際，例えば，比較する，分類する，関連付けるなどの「考えるための技法」が活用されるようにすること。」とした。思考力・判断力・表現力等に係る「考えるための技法」につながるものを分析し，概ね小学校段階において活用できると考えられるものを以下に示す。

○ 順序付ける　・ 複数の対象について，ある視点や条件に沿って対象を並び替える。
○ 比較する　・ 複数の対象について，ある視点から共通点や相違点を明らかにする。
○ 分類する　・ 複数の対象について，ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。
○ 関連付ける　・ 複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。・ ある対象に関係するものを見付けて増やしていく。
○ 多面的に見る，多角的に見る　・ 対象のもつ複数の性質に着目したり，対象を異なる複数の角度から捉えたりする。
○ 理由付ける（原因や根拠を見付ける）　・ 対象の理由や原因，根拠を見付けたり予想したりする。
○ 見通す（結果を予想する）　・ 見通しを立てる。物事の結果を予想する。
○ 具体化する（個別化する，分解する）　・ 対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり，対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。
○ 抽象化する（一般化する，統合する）　・ 対象に関する上位概念や法則を挙げたり，複数の対象を一つにまとめたりする。
○ 構造化する　・ 考えを構造的（網構造・層構造など）に整理する。

5　探究的な学習過程

総合的な学習の時間における児童の学習の姿



○探究的な学習とするためには，学習過程が以下のようになることが重要である。

①【課題の設定】体験活動などを通して，課題を設定し課題意識をもつ
②【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする
③【整理・分析】収集した情報を，整理したり分析したりして思考する
④【まとめ・表現】気付きや発見，自分の考えなどをまとめ，判断し，表現する

もちろん，こうした探究の過程は，いつも①～④が順序よく繰り返されるわけではなく，順番が前後することもあるし，一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合もある。およその流れのイメージであるが，このイメージを教師がもつことによって，探究的な学習を具現するために必要な教師の指導性を発揮することにつながる。また，この探究の過程は何度も繰り返され，高まっていく。

６．探究課題・学習事項・学習活動等 【参考例】

参考事項 ★：他教科等との関連 ◆：神戸らしさ等

第３学年

探究課題・学習事項・学習活動（例）	内容の取扱い
環境	
・身近な自然とのふれあい ・山・川・海・池などにいる動植物の観察や生態調べ 水質調査・川の昔と今・川の上流と下流の違い 山・川・海・池の生き物の飼育観察 川のクリーン作戦 ・自然や動植物の季節による変化や違い ・生き物マップ作り ・エコ活動　間伐材での木工クラフト・牛乳パックの紙すきなど ・米作り　田植え・稲刈り・調理・わら細工作り ・大豆栽培　大豆収穫・豆腐作り・きな粉作り・味噌作り ・野菜作り　野菜栽培・収穫・模擬店で販売	・自然の中での活動を通して，豊かな感受性や自然を大切にする心を育てるなどを大切にする。 ・体験活動については，ただ単に体験活動を行うだけでなく問題の解決や探究活動の過程に位置付けるようにする。 ・体験活動とともに，調べたことをまとめたり表現したりするなどの言語活動が行われるようにする。 ・農家の人・ＪＡ・地域の人などの協力を得て，学習活動を深まりのあるものにすることも考えられる。 ★社会科（地域学習），※食育として実施 ★理科（植物・昆虫の学習） ◆環境体験学習（神出自然教育園，森林植物園，六甲自然の家等）
地域・伝統文化	
・地域の伝統文化を守る人々の思いや願い 地域の行事・祭りの歴史や由来を調べる 地域の行事・祭りに参加する ・地域の特徴や様子を知る取組 町探検・町じまん・町のひみつの発見 マップ作り 公共施設・公園・神社・寺・名所・旧跡・駅・工場など 町の名人・名物ブック作り 町のカルタ作り ・地域の人々の思い 自治会・老人会・婦人会との交流	・地域の行事や祭りを調べたり，地域の人々とかかわりながら聞き取ったりしたことをまとめて報告したり，発表したり，実際に地域行事に参加したりすることにより探究的な学習活動とすることが考えられる。 ・互いに学び合う活動や地域の人々との交流活動など，他者と協働して課題解決しようとする学習活動を展開する必要がある。 ・学習を通して自分の地域のよさに気付き，地域への誇りと愛着を育んでいくようにする。 ・地域に関して収集した資料や情報は学校で蓄積・管理し，共有化しておくことで，学習活動や指導計画に生かせるようにする。 ★社会科（地域，伝統文化），道徳科（伝統と文化の尊重）
国際理解	
・地域に暮らす外国人との交流 ・外国の生活・文化調べ ・外国文化の体験 遊び・音楽・料理・服装・民話など ・外国語体験活動	・探究的な見方・考え方を働かせ，諸外国の生活や文化を調べたり，体験したりすることを通して，人種や文化の多様性を理解し，それぞれのよさを学べるようにする。 ・各校の実情により，英語の他に韓国語・ベトナム語などの外国語を取り扱うことができる。 ◆「地球っ子プログラム」の活用
昔のくらし	
・昔の人々のくらしの知恵や工夫のすばらしさ 昔と今のくらしの共通点・相違点調べ 昔のくらしの体験・七輪・洗濯板を使った活動 昔の遊び道具作り 地域の老人会との交流	・地域・家庭・関係機関との連携を図り，深まりのある活動を進めるよう留意する。 ・体験的・実践的な活動を取り入れ，生活に生かされる学習になるようにする。 ◆施設見学（埋蔵文化財センター，明石市立文化博物館等）

第３学年　総合的な学習の時間　単元計画例（全２５時間）　**環境**

探究課題	身近な自然やその中に息づく命			
単元名	いいとこ〇〇　～ぼくらの裏山～			
単元目標	・裏山の自然を体感し,そこに息づくたくさんの命の大切さに気付く。【知識・技能】 ・裏山の自然の豊かさを探究し,物語や歌,地図などに工夫して表現する。【思考力・判断力・表現力等】 ・〇〇小学校の恵まれた自然環境を大切にするため,自分たちに何ができるかを考え進んで実践する。【学びに向かう力・人間性等】			
単元の展開	第１次（６時間）	第２次（３時間）	第３次（１３時間）	第４次（３時間）
	裏山を見てみよう	物語作りの計画を立てよう	裏山マップをもとに物語を作ろう	物語を交流しよう
主な学習活動	〇裏山オリエンテーリング ・現地調査① 〇探究課題を設定する。	〇物語作りの計画を立てる。	〇裏山を探検し,裏山マップを作る。 〇裏山ソングを作る。 〇裏山に住む小人の物語を作る。 ・現地調査②③④	〇△△小学校の３年生と裏山の交流会をする。
・活動内容 →教師の支援 ● 評 価	・木々の観察をする。 ・裏山にある気の中で自分がマザーツリーだと思う木の幹の太さを調べる。 ・くねくねの木,つるつるの木,つるだらけの木,穴ぼこの木など,お気に入りのツリーを探す。 ・お気に入りのツリーで起こるショートストーリーを作る。 ・裏山を舞台にした小人物語を作るというテーマを設定する。（個人テーマ） →裏山を舞台にした小人物語のイメージをもたせることで,書くために準備することを考えることができるようにする。 ●裏山の豊かな自然やよさに気付き,自分の学習課題を設定する。【学】	・「三年とうげ」で学習した物語の構成を思い出す。 ・登場人物を考え,小人のペープサートを作る。 ・物語の舞台となるマップ作りのために,裏山のどんなところを調べていけばよいか考える。（グループテーマ） →裏山の豊かな自然や,よさを伝えるために,既習の内容でできることを考えさせる。 ●国語の授業で身に付けた力を,物語作りの計画を立てることに生かしている。【学】	・友達と裏山を探検しながら,自然を観察する。 ・裏山の楽しさが伝わる歌を作る。 ・物語の舞台に適した場所を探す。 ・お気に入りの場所に名前を付け,マップに書き入れる。 →物語や歌,地図など様々な方法で表現ができるようにする。 ・マップを使ってあらすじを紹介し合う。 ・裏山で出合った自然や命に思いを馳せながら,裏山に住む小人の物語を作る。 ①はじまり ②出来事の起こり ③出来事の変化 ④むすび ・多様な方法で,物語のクライマックスを紹介し合う。 →現地調査を繰り返し行うことで,裏山の自然やそこで息づく命を調べられるようにする。 ●裏山の自然やそこで息づく命を観察している。【知・技】 ●観察したことをもとに,物語や歌,地図などに表現している。【思・判・表】	・△△小学校の裏山の発表を聞く。 ・裏山マップ,裏山ソング,裏山小人物語を発表し,感想を伝え合う。 ・この学習の前と後で,お互いの裏山に対する思いがどう変わったか確かめ合う。 →裏山がある学校同士で交流することで,お互いの裏山のよさについて再確認することができるようにする。 ●裏山の良さを作った作品などをもとに伝えている。【思・判・表】

第４学年

探究課題・学習事項・学習活動（例）	内容の取扱い
福祉・健康 ・アイマスク，車椅子などを用いてハンディキャップ体験をする。 パラリンピアンと出会い，障害者スポーツについて学ぶ。 ・地域の高齢者とのふれあいや，施設訪問をする。 デイサービスとの交流 ・学校保健委員会	・調べたことや体験活動などで分かったことを発表・討論することを通して，具体的にどのように行動を起こせばよいのかを考えたりそれを深めたりすることができる。 ・他者の生き方を自己の生き方や将来の姿と重ね合わせることによって，他者のよさを発見し，自分のよさを自覚する機会とすることが期待できる。 ・学んだことをこれからの暮らしに生かすことができる。 ◆しあわせの村，各区社会福祉協議会等 ★国語（説明文）
地域・伝統文化 ・住んでいる地域，神戸市，兵庫県について調べてまとめる。 地域の名産 ○○山 ・地域の伝統文化や伝統芸能について調べ，体験する。 ・陶芸体験	・地域のために活動している人について知ることを通して，自分も地域の一員としてできることはないかを考え，行動できるようにする必要がある。 ・グループごとの調べ学習を交流することにより，異なる視点から地域のよさに気づくことができるようにする必要がある。 ・自分の住む地域のよさに気付き，地域への誇りと愛着を育む。 ・地域社会に参画しようとする意識を高めることにもつながる。 ★社会科（神戸市の学習） ★道徳科（伝統と文化の尊重）
キャリア教育 ・10 年間の自分の成長を振り返る。（２分の１成人式） ・将来の夢を考える。 ・お祝いの会を計画・立案する。	・自分のよさや可能性に気づき，自分の人生や将来について考えることができるようにする。 ・職業調べやゲストティーチャーの話を聞く体験等を通して将来への希望をもてるようにすることも考えられる。 ・横断的・総合的な学習や探究的な学習としての性格をもち，探究的に学習することがふさわしい自己の生き方に結び付くような課題であるかどうかの吟味が必要である。 ★学級活動（３）「一人一人のキャリア形成と自己実現」
環境 ・ごみ・水 ・地域の森や川の環境 ○○川の命 ・どんぐりプロジェクト ・空気の汚れ調べ，水質調査	・調べたことや実験などで分かったことを発表・討論することを通して，具体的にどのように行動を変えればよいのかを考えたりそれを広めたりすることができる。 ・継続的な活動を通して，自然を大切にする気持ちや態度を育てることも大切である。 ★社会科（ごみ・上下水道に関する学習） ◆クリーンセンター，水の科学博物館等

第４学年　総合的な学習の時間　単元計画例（全３４時間）　**福祉**

探究課題	身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々			
単元名	Heart to Heart　～ともに生きる～			
単元目標	・施設の高齢者に喜んでもらえる「交流会」を企画・実行することを通して,相手に寄り添うことの大切さに気付く。【知識・技能】 ・「高齢者となかよくなりたい」という課題の解決に向けて必要な情報を集め,友達と協力して整理・分析し,伝え方や表現方法を工夫する。【思考力・判断力・表現力等】 ・高齢者を喜ばせるために自分は何ができるのか相手に寄り添って考えて進んで実践する。【学びに向かう力・人間性等】			
単元の展開	第１次（８時間）	第２次（８時間）	第３次（８時間）	第４次（１０時間）
主な学習活動	障害について考えよう	デイサービスセンターってどんなところ	もっとなかよくなろう	みんなでもっとなかよくなろう
	○障害について調べる。 ○探究課題を設定する。	○デイサービスセンターを調べる。 ・現地調査①②,現地調査報告会① ・現地調査③,現地調査報告会②	○仲良くなるために何をしたらよいかを考える。 ・ゲストティーチャー招聘①② ・現地調査④,現地調査報告会③	○本当に喜んでもらえるものが何か,今の自分たちにできることを考え,実践する。 ・現地調査⑤ ・現地調査報告会④
・活動内容 →教師の支援 ●評価	・調べたいテーマを設定する。（個人テーマ） ・本やインターネットを使って調べる。（情報の収集） ・調べたことを模造紙にまとめる。（整理・分析） ・調べたことを発表し,気づいたことを話し合う。（まとめ・表現） →子供たちの話合いの中から障害者だけではなく,高齢者の中にも同じように困っている人がいることを気づかせる。（新たなテーマ設定） ●障害について理解を深めるとともに,他にも困ってる人がいるのではないかと,自分の学習課題を設定する。【学】	・児童と高齢者のペアを作り,(ぼくのおじいちゃん,わたしのおばあちゃん)を決め相手を大切にしたいという意識を強める。（テーマ設定） ・施設を見学し,高齢者がどのようにすごしているのかを調べる。 ・ペアの高齢者の理解を深めるために紹介カードを作成する。（情報の収集） ・七夕交流会を計画し,短冊を書いたり,歌を歌ったりする。 →ペアの高齢者に合わせた七夕交流の内容を考えることができるようにする。（まとめ・表現） ・互いのペアの高齢者について紹介する。 ●自分の考えに根拠を示しながらわかりやすく伝える。【思・判・表】	・高齢者の方といっしょにしたいことを出し合い,グループを作る。 →相談しながら本当に喜んでくれることはどんなことかを考えさせる。（テーマ設定） ・交流会の前に運動会の演技を披露したり,音楽会の合唱を披露したりする。（まとめ・表現） ●喜んでもらえることは何かを考え,交流会を計画する。【知・技】 ●交流会でのプログラムについて,自分のイメージを表現する。【表】 ・自分たちが考えたレクリエーションのグループテーマごとに報告し合う。（テーマ設定） ●自分の考えに根拠を示しながらわかりやすく伝える。【表】	・交流会に向けて今の自分にできることを考える。（情報の収集） ・自分たちが考えた方法について施設長に助言をもらう。 →事前に施設スタッフと実践できる内容について打合せをし,できることとできないことを知らせてもらえるようにする。 ・グループで取り組むことをそれぞれの活動場所で実施する。（表現） ●ペアの高齢者に喜んでもらうため考えたことを実践する。【学】 ・「Heart to Heart 」の学習をふり返り,まとめる。（まとめ）

第５学年

探究課題・学習事項・学習活動（例）	内容の取扱い
自然学校 ・プログラム作り，グループ活動計画とその実行 ・自然の偉大さ，美しさ，自然にかかわる体験活動 ・ハチ高原（但馬地方）の自然・地理・産業調べ，神戸との比較 ・自然学校報告会	・体験活動は，教師による一方的な押し付けではなく，探究課題の解決に向けて児童が主体的に取り組む過程に適切に位置付ける。例えば「自然学校を成功させよう」と課題を設定し，プログラム作りやグループ活動の計画や実行に取り組む。自分で役割を見付けて参加したり，意見が異なる友達とも対話を通して協力しながら活動したりすることを通して主体性や協働性を育成する。例えば「ハチ高原の自然と人々の暮らし」と課題を設定し，児童が仮説を立てて主体的探究的に課題に取り組む。体験したことや収集した情報を整理したり，神戸と比較して気付いたりしたことを基に４年生を招待した「自然学校報告会」を計画する。相手意識をもち内容や表現方法を工夫しながら協働的に取り組むことを通して，思考力・判断力・表現力を育成する。
環境 ・地域の環境調査 ・環境破壊，地球温暖化，環境保護についての調査 ・環境エネルギー学習 ・環境会議，環境サミット ・飼育・栽培活動	・調査したり実験したりしたことを整理・分析する時，児童の助けとなるように意識的に『思考ツール』を使用する。（ウエビング，ＫＪ法，Ｘチャート，ベン図など） ・探究的な活動を通して，自分の生活を見直し，進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとしたりする心情や態度を育む。 ◆施設見学（関西電力，灘浜サイエンススクエア等） ★理科（天気の変化）
生命 ・生命現象の神秘，不思議，すばらしさ ・命の学習　　・学校保健委員会	◆妊婦体験や助産師や乳幼児との交流（「神戸っ子応援団」等による「命の感動体験学習」） ★理科（動物の誕生），体育（保健）
防災 ・震災学習（体験を聞く会） ・防災のための安全な町づくりとその取組 （安全マップづくり，防災訓練）	・外部人材の活用の際には，学習のねらいについて事前に十分な打ち合わせをすることに配慮する。 ・地域に関して収集した資料や情報については，学校で蓄積・管理し，共有化することが大切である。 ◆「しあわせはこぼう」の活用，施設見学（人と防災未来センター等） ★理科（自然災害），社会科（自然環境と国民生活との関連）
情報 ・プログラミング体験 ・情報化社会の利便性と危険性 ・ＩＣＴを活用した授業（テレビ番組作りなど）	・コンピュータを用いて自分が意図した処理を行うよう指示するにはどうすればよいか，論理的に考えて操作し，実生活や実社会における課題解決に生かそうとする横断的・総合的な学習を計画する。操作技能の習得が目的ではない。 ★社会科（産業と情報とのかかわり）

第５学年　総合的な学習の時間　単元計画例（全３５時間）　防災

探究課題	地域の防災のための対策とそれに取り組む仕組みや人々		
単元名	□□の町の安全・安心		
単元目標	・□□の町が阪神淡路大震災で大きな被害を受けたことや,復興に向けて取り組んできた町の人々の思いを知るとともに,自分たちにできる「防災」「減災」についての知識・技能を身に付ける。【知識・技能】 ・「防災」という視点から地域が安全・安心かどうか様々な方法で調べ,その結果の整理・分析をもとに,自分たちにできることを考えていくことができる。【思考力・判断力・表現力等】 ・町の「防災」について,様々な人とかかわりながら進んで調べ,より安全・安心な町にしていくために自分たちにできることを実践していく。【学びに向かう力・人間性等】		
単元の展開	第１次（８時間）	第２次（１２時間）	第３次（１５時間）
主な学習活動	○防災に対する知識を身に付けよう	○□□の町の震災に対する備えについて調査しよう	○安全・安心な□□の町にしよう ～安全・安心プロジェクト～
・活動内容 →教師の支援 ●評価	・人と防災未来センターで,阪神淡路大震災の被災の様子や防災・減災についての情報を集める。 ・地域の方に震災当時の被災体験や町の復興についての話を聞く。 ・「イザ,カエルキャラバン！学校用プログラム」（NPO 法人プラス・アーツ）で防災・減災についての知識や技を学ぶ。 →施設見学や地域の方の体験談,防災プログラムなど,「防災」・「減災」について体験的に学べる場を設ける。 →それぞれの体験後に,何を学んだか振り返ることを大切にすることで,次の課題を見い出せるようにする。 ●阪神淡路大震災や防災・減災について進んで調べ,情報を集める。【学】 ●防災・減災についての様々な知識や技能を知る。【知・技】 ●□□の町は地震で大きな被害を受け,復興してきたことを知る。【知・技】	・地域に出かけて,避難場所や防災設備などがどこにどのくらいあるか調べる。 →区役所や地域防災コミュニティーの方などに,地域の備えについて聞く場を設ける。 ・地域の人々の防災意識について調査するためのアンケートを作成する。 →アンケート項目が次の活動につながることを助言し,クラスやグループで見通しをもって話し合い,作成していけるようにする。 ・アンケート調査を実施し,結果を集計してグラフや表にまとめる。 →アンケート結果を分かりやすく表現する方法を教科学習で学んだことと関連づけて考えられるようにする。 ・アンケート結果をもとに,取り組みたい課題を設定する。 ●防災という視点で地域の安全・安心を考えることを通して,自ら課題をもち,情報を収集して解決していくことができる。【思・判・表】 ●課題解決に必要な情報の収集や整理・分析の方法を身に付ける。【知・技】	・安全・安心プロジェクトの計画を立てる。 **プロジェクト①　□□震災メモリアルギャラリー** ・□□の町の被災の様子を伝えていくために,学校に保管されている震災当時の写真パネルを自分たちの手で校内に展示する。 →１．１７の震災関連行事に合わせた期間に展示し,保護者や他学年,地域の方などに広く見てもらえるようにする。 **プロジェクト②　□□版カエルキャラバン** ・自分が学んできた防災・減災の知識を広めていく方法を工夫して準備し,イベントを開く。(防災かるた,紙芝居,バケツリレー等) →授業参観で保護者対象に体育館で行うなど日程や場の調整を行う。 ●各プロジェクトにおいて,学習してきたことを分かりやすく表現することができる。【思・判・表】 ●より安全・安心な□□の町にしていくために,様々な人とかかわりながら自分たちが考えた取組を実践する。【学】

第６学年

探究課題・学習事項・学習活動（例）	内容の取扱い
平和・人権・国際理解 ・日本と世界の結びつきについて，日本の良さや問題点を多角的に調べ，発信していく活動。 ・諸外国調べ ・日本と諸外国との文化面や生活面等の比較 ・平和学習	・日本の良さについて調べるなかで，国内だけでなく日本と関わりをもつ国々にも視点を向け，知りたいこと，調べてみたいことを自ら考え，主体的に学習を進めていく態度を育てる。 ・WHO や JICA の職員の方をゲストティーチャーとしたり，施設見学をしたりしながら，国際社会について考えを深め，自分の役割や自分にできることを考える。 ◆WHO，JICA 等 ★国語科（説明文），社会科（人権・国際理解），算数（表とグラフ）
町づくり ・神戸の「ひと」・「もの」・「こと」に出会い，歴史を調べたり未来を考えたりしながら，町づくりを探究する活動。 ・歴史調査 ・地域調査 ・未来の町づくり ・都市構想 ・神戸学	・神戸の歴史や現在に目を向け，神戸の発展や変遷に関心をもち，永年受け継がれた文化や習慣にふれ，先人の知恵，苦労，願いを学び，自分たちの生き方に生かす。 ・過去，現在を調べることによって得た知識を，未来につなげる活動を通して，自分たちの住む神戸の良さを再確認しながら，神戸を誇りに思う気持ちを育む。 ・神戸の歴史を調べるにあたっては，過去の戦争を学ぶことも考えられる。平和で安全な町やくらしを創造するために，どうすればいいかという問題意識をもつことも考えられる。 ・地域人材等をゲストティーチャーとして活用することで，児童の探究的な活動を深めることが可能となる。 ◆神戸市立博物館，区役所，市役所等 ★国語科（説明文），社会科（歴史），算数科（表とグラフ）
修学旅行 ・修学旅行候補地のよさや特色を調べ，プレゼンテーションしながら，児童自身で行先を決定し，その計画実施していく活動。 ・グループ活動の計画，実施。	・児童の実態，興味関心をもとに学習テーマを設定することが必要で，学習の展開を児童の話合いをもとに決定し，進めていくことが望ましい。 ・プレゼンテーションを行うに際しては，ICT 機器を活用し，論理的に表現することで，一層，児童の考えを確かなものにしていく。
キャリア ・感動にみちた卒業の日に向け，自他の行動をふり返り，将来へのビジョンや決意をもつ活動。	・単なる職業探し，職業訓練という体験活動で終わるのではなく，自分の将来の夢・願い・憧れをもち，挑戦していこうとする気持ちを養うことができる。 ・様々な職種のゲストティーチャーを招いたり，実際にその職業を体験したりする活動を通すことで，児童自身が課題を設定し，解決に向けて行動することができる。 ◆様々な職種の方 ★国語科（説明文），算数科（表とグラフ）， ★道徳科（よりよく生きる喜び）， ★学級活動（３）「一人一人のキャリア形成と自己実現」

第６学年　総合的な学習の時間　単元計画例（全５０時間）

探究課題	町づくりや地域活性のために取り組んでいる人々や組織			
単元名	わたしたちの神戸港			
単元目標	・神戸港や神戸のまちの発展に関する事柄,また,その発展に関わってきた人々の願いについて理解し,課題解決に必要な情報の収集や整理・分析の方法を身に付ける。【知識・技能】 ・課題解決に向けて必要な情報を収集し,整理・分析するとともに,自分の考えについて根拠を示しながら分かりやすく伝える。【思考力・判断力・表現力等】 ・自ら課題を設定して調べ,他者と協働して解決するとともに,さらに魅力的な神戸のまちとして発展していくため,自分たちに何ができるかを考え,実践する。【学びに向かう力・人間性等】			
単元の展開	第１次（４時間）	第２次（２０時間）	第３次（１６時間）	第４次（１０時間）
	神戸港調査隊・神戸港サミット		神戸港研究会Ⅰ・神戸港研究会Ⅱ・神戸港サミット	
主な学習活動	○神戸港の歴史について調べる。 ○探究課題を設定する。	○神戸港の過去や現在を調べる。 ・現地調査①②,現地調査報告会① ・現地調査③,現地調査報告会②	○神戸港の未来（50年後）を考える。 ・ゲストティーチャー招聘①② ・現地調査④,現地調査報告会③	○未来の実現に向けて,今の自分たちにできることを考え,実践する。 ・現地調査⑤　・現地調査報告会④
・活動内容 →教師の支援 ● 評価	・神戸港の歴史を記した年表を読み取る。 ・映像資料を視聴する。（NHKテレビ番組等） ・調べていきたいテーマを設定する。（個人テーマ） →年表や映像資料をもとに,神戸港が1868年の開港以前からも重要な港として栄えてきたことや,神戸のまちが港とともに発展してきたことをおさえる。 ●神戸港や神戸のまちの発展に関する事柄について理解を深めるとともに,現在の神戸港や神戸のまちについて自分の学習課題を設定する。【知･技】【学】	・神戸港調査隊①では,ポートターミナルと旧居留地でフィールドワークを行う。 ・調べていきたいテーマを設定する。（グループテーマ） ・神戸港調査隊②③では,新港突堤,旧居留地,メリケンパーク,元町商店街でフィールドワークを行う。 →効率よくフィールドワークを行うために,グループテーマ（「船」・「港」・「ひと」・「まち」）ごとに場所を絞る。 ・神戸港サミット①②では,グループテーマごとに調べてきたことを交流し合う。 →思考ツール（ＫＪ法など）を用いて,調べたことを整理できるようにする。 →友達の発表を聞き,自分の調べたことと比較したり関連付けたりできるようにする。 →これまで調べたことをもとに,今後取り組みたい課題を設定させる。 ●課題解決に必要な情報を収集し,整理・分析の方法を身に付ける。【知・技】 ●自分の考えに根拠を示しながら分かりやすく伝える。【思・判・表】	・これまで及び今後の神戸港の発展について,新たな視点を得られるよう港やまちの発展に関わってきたゲストティーチャーの方の話を聞き,未来の神戸港や神戸のまちを想像する。 →グループテーマごとにゲストティーチャーを招聘する。 →未来の神戸港をイメージしやすくするために,開港 100 年の映像資料を視聴する。（NHKテレビ番組等） →思考ツール（Ｘチャートなど）を用いて,自分のイメージと他者のイメージを関連付けたり比較したりできるようにする。 ●神戸港の発展に関わってきた人々の願いについて理解する。【知・技】 ●未来の神戸港やまちの様子について,自分のイメージを表現する。【思・判・表】 ・自分たちが考えた未来の神戸港やまちの様子が実現可能か調査し,その結果をグループテーマごとに報告し合う。 ●自分の考えに根拠を示しながら分かりやすく伝える。【思・判・表】	・神戸がさらに魅力的なまちとして発展していくため,市民の一人として,今の自分にできることを考える。 →思考ツール（ピラミッドチャートなど）を用いて,グループごとに行うことを決めるようにする。 →できることできないことを知らせ,現地調査の準備に取り組む。 ●神戸がさらに魅力的なまちとして発展していくために必要なことを考え,根拠を示しながら分かりやすく伝える。【思・判・表】 ・グループで取り組むことをそれぞれの活動場所で実施する。 ●神戸がさらに魅力的なまちとして発展していくため考えたことを実践する。【学】 ・「わたしたちの神戸港」の学習をふり返り,まとめる。

第 7 章

特 別 活 動

第７章　特別活動

第１　目　　標

（小学校）

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ，様々な集団活動に自主的，実践的に取り組み，互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して，次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

⑴　多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し，行動の仕方を身に付けるようにする。

⑵　集団や自己の生活，人間関係の課題を見いだし，解決するために話し合い，合意形成を図ったり，意思決定したりすることができるようにする。

⑶　自主的，実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして，　集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに，自己の生き方についての考えを深め，自己実現を図ろうとする態度を養う。

※「集団や社会の形成者としての見方・考え方」とは，各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら，自己及び集団や社会の問題を捉え，よりよい人間関係の形成，よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結びつけること。

（中学校）

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ，様々な集団活動に自主的，実践的に取り組み，互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して，次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

⑴　多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し，行動の仕方を身に付けるようにする。

⑵　集団や自己の生活，人間関係の課題を見いだし，解決するために話し合い，合意形成を図ったり，意思決定したりすることができるようにする。

⑶　自主的，実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして，集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに，人間としての生き方についての考えを深め，自己実現を図ろうとする態度を養う。

標準授業時数	小　学　校						中　学　校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
	34	35	35	35	35	35	35	35	35

※特別活動の授業時数は，小学校学習指導要領で定める学級活動（学校給食に係るものを除く。）に充てるものとする。

第２　各活動の目標及び内容

【学級活動】

１　目　標

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし，解決するために話し合い，合意形成し，役割を分担して協力して実践したり，学級での話合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに，自主的，実践的に取り組むことを通して，第１の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

２　内　容

１の資質・能力を育成するため，全ての学年において，次の各活動を通して，それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し，主体的に考えて実践できるよう指導する。

★：他教科等のつながり　◎：他学年とのつながり　▲：他校種とのつながり　※：特に配慮を要する事項

	内 容 項 目	内 容 に つ い て
全学年	（1）学級や学校における生活づくりへの参画	
	ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決	○学級や学校における生活をよりよくするための課題を見いだし，解決するために話し合い，合意形成を図り，実践すること。 ・自分と異なる意見や少数の意見も尊重し，安易に多数決で決定することなく，折り合いをつけて集団としての意見をまとめることの大切さを理解する。 ・課題としては，学級内の生活上の諸問題の解決や集会活動の計画，楽しく豊かな学級生活を送るためのきまりや工夫などが考えられる。 ・「課題の発見」→「解決方法の話合い」→「解決方法の決定」→「決めたことの実践」→「振り返り」を児童が主体的に行えるようにする。
	イ　学級内の組織づくりや役割の自覚	○学級生活の充実や向上のため，児童が主体的に組織をつくり，役割を自覚しながら仕事を分担して，協力し合い実践すること。 ・係活動においては，学級を楽しく豊かにするために必要な係を出し合い，合意形成によって組織をつくるなど主体的に行う。 キャリア ・学級の成員全員が何らかの役割を分担し，学級の一員として，みんなから必要とされているという認識をもったり，仲間と共に活動をしているという充実感が得られたりすることができるような組織を工夫する。 キャリア ・相互に理解し合えるよう，一人一人の役割や所属する組織を固定せず，柔軟で弾力性に富んだ組織になるように工夫する。 キャリア
	ウ　学校における多様な集団の生活の向上	○児童会など学級の枠を超えた多様な集団における活動や学校行事を通して学校生活の向上を図るため，学級としての提案や取組を話し合って決めること。 ・学級としての提案や取組を話し合って決める活動であり，学級活動と児童会活動，学校行事をつなぐものである。 ◎運動会などの学級の枠を超えた学校行事において，児童の自発的，自治的な活動としての取組について話し合い，提案を行ったり，代表委員会からの提案を受けて学級として取り組んだりする。
	（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全	
	ア　基本的な生活習慣の形成	○身の回りの整理や挨拶などの基本的な生活習慣を身に付け，節度ある生活にすること。

		▲持ち物の整理整頓や衣服の着脱，挨拶，言葉遣いなど基本的な生活習慣に関わる課題は，幼稚園や保育所等との接続に配慮し，児童の実態に応じて指導する。 ・活動の振り返りを大切にして，どうすれば改善できるかを繰り返し考えることで日常化を図ることや，成果を実感して実践への意欲を高めるようにする。 ※教師の一方的な説話にならないよう，具体的な資料を活用して児童の理解を深めるなどの工夫をし，日常生活の実践に結び付けるようにする。
	イ　よりよい人間関係の形成	○学級や学校生活において互いのよさを見付け，違いを尊重し合い，仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること。 ・友達と仲よく，仲直り，男女の協力，互いのよさの発見，違いを認め合う，よい言葉や悪い言葉，友情を深める，などの指導内容が考えられる。 ・社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れる。 ★就学前教育における人間関係に関する内容や道徳科の「主として人とのかかわりに関すること」等と関連させて指導する。
	ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成	○現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや，事件や事故，災害等から身を守り安全に行動すること。 ★保健に関する指導としては，心身の発育・発達，心身の健康を高める生活，健康と環境とのかかわり，病気の予防，心の健康などがある。 ★安全に関する指導としては，防犯を含めた身の回りの安全，交通安全，防災など，自分や他の生命を尊重し，危険を予測し，事前に備えるなど日常生活を安全に保つために必要な事柄を理解する内容がある。 防災 ・必要な情報を自ら収集し，よりよく判断し行動する力を育む。防災 ★健康教室，防犯教室，交通安全教室，避難訓練などの学校行事と関連付けて指導を行う。 防災
	エ　食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成	○給食の時間を中心としながら，健康によい食事のとり方など，望ましい食習慣の形成を図るとともに，食事を通して人間関係をよりよくすること。 ★学校の教育計画と関連付けながら食に関する指導の全体計画を作成し，各教科等における食に関する指導を相互に関連付け，総合的かつ効果的な指導が行われるようにする。 ★心身の健康に関する内容にとどまらず，自然の恩恵への感謝，食文化，食料事情などについても各教科等の指導と関連を図り指導する。

	（3）一人一人のキャリア形成と自己実現 ア　現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成	○学級や学校での生活づくりに主体的に関わり，自己を生かそうとするとともに，希望や目標をもち，その実現に向けて日常の生活をよりよくしようとすること。 ・学級や学校生活に希望や目標をもち，日常生活での不安や悩みの解決に向けた個人の目標を設定したり，個性の伸長を図るために自己を理解したりして，よりよく意思決定できるようにする。 キャリア ・児童の思いや保護者の願い，教師の思いを盛り込んだ学級目標の実現を目指し，児童一人一人がこれからの学習への取組み方や生活の仕方などについて意思決定をする。 キャリア
	イ　社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解	○清掃などの当番活動や係活動等の自己の役割を自覚して協働することの意義を理解し，社会の一員として役割を果たすために必要となることについて主体的に考えて行動すること。 ◎他の児童と多様性を認め合いながら，力を合わせて働くことの大切さや自分のよさを生かすことについて考えることができるようにするとともに，自分の仕事に対して工夫しながら役割を果たすことができるようにする。 キャリア ・　学級全員で分担する清掃や給食，交替しながら行う日番，飼育，栽培等の当番活動や係活動，学校内外でのボランティア活動など，集団やみんなのために一生懸命働く活動を取り上げる。 キャリア
	ウ　主体的な学習態度の形成と学校図書館の活用	○学ぶことの意義や現在及び将来の学習と自己実現のつながりを考えたり自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら，学習の見通しを立て，振り返ること。 ・各教科等を学習する意義や学習習慣の定着に向けた取組や学習を深めるための資料の活用など，主体的に学ぶための方法や工夫などについても意思決定できるような工夫をする。 ★司書教諭，学校図書館司書，ＩＣＴに関わるボランティアなどの協力を得て，学校図書館の仕組みの理解や利用の仕方に関する実践活動を行ったりするなど，具体性と変化をもたせる。
中学校全学年	（1）学級や学校における生活づくりへの参画 ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決	○学級や学校における生活をよりよくするための課題を見いだし，解決するために話し合い，合意形成を図り，実践すること。
	イ　学級内の組織づくりや役割の自覚	○学級生活の充実や向上のため，生徒が主体的に組織をつくり，役割を自覚しながら仕事を分担して，協力し合い実践すること。
	ウ　学校における多様な集団の生活の向上	○生徒会など学級の枠を超えた多様な集団における活動や学校行事を通し

		て学校生活の向上を図るため，学級としての提案や取組を話し合って決めること。
	（2） 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全	
	ア 自他の個性の理解と尊重，よりよい人間関係の形成	○自他の個性を理解して尊重し，互いのよさや可能性を発揮しながらよりよい集団生活をつくること。
	イ 男女相互の理解と協力	○男女相互について理解するとともに，共に協力し尊重し合い，充実した生活づくりに参画すること。
	ウ 思春期の不安や悩みの解決，性的な発達への対応	○心や体に関する正しい理解を基に，適切な行動をとり，悩みや不安に向き合い乗り越えようとすること。
	エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成	○節度ある生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや，事件や事故，災害等から身を守り安全に行動すること。
	オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成	○給食の時間を中心としながら，成長や健康管理を意識するなど，望ましい食習慣の形成を図るとともに，食事を通して人間関係をよりよくすること。
	（3） 一人一人のキャリア形成と自己実現	
	ア 社会生活，職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用	○現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり，自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら，学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て，振り返ること。
	イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成	○社会の一員としての自覚や責任を持ち，社会生活を営む上で必要なマナーやルール，働くことや社会に貢献することについて考えて行動すること。
	ウ 主体的な進路の選択と将来設計	○目標をもって，生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し，自己の個性や興味・関心と照らして考えること。

3 学級活動の指導計画

（1）学級や学校の実態や児童の発達の段階などを考慮し，児童による自主的， 実践的な活動が助長されるようにする キャリア

○学級活動の指導計画については，特別活動の全体計画や目標を踏まえ，学級や学校の実態や児童の発達の段階などを考慮し，学級経営との関連を図りながら，指導する内容，取り上げる議題例や題材，授業時数などを示すなどして作成する。

○学級活動「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」に関する内容は，主として児童の自発的，自治的な活動を特質としたものを扱う。年間指導計画においては，児童の活動として望ましい内容(予想される議題例)や時期， 方法，授業時数などについて，あらかじめ大まかな枠組みを定める。実際の活動については，児童の手によって一層具体的な活動計画が立てられて実施

することができるような弾力性，融通性に富むものにする。 キャリア

○学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」， 学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容は，一人一人の意思決定とそれに基づく実践等を大事にする。その際，できるだけ児童による話合いを生かして考えを深め，一人一人の主体的な意思決定へつなげるように配慮する。 キャリア

（2）内容相互，各教科，道徳科，外国語活動及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図る

○★「カリキュラム・マネジメント」の実現に向けて，児童にどのような資質・能力を育むかを明確にし，効果的な学習内容や活動を組み立て，各教科等における学びと関連付けていく。

★学級活動で取り扱う内容について各教科等の学習内容との関連を図って指導の効果を高めたり，各教科等の学習内容との関連を踏まえて学級活動の指導内容を重点化したりする。

（3）家庭や地域の人々との連携などを工夫する

○学級活動における楽しく豊かな学級や学校の生活づくりや健全な生活態度を育成する活動， キャリア形成のための活動を効果的に展開するために，個々の家庭の状況に配慮したり，家庭での指導との連携を図ったり，地域の人材，施設を活用したりする。

（4）その他の配慮事項

○時間の配当を工夫する

★特別活動の基盤となる学級活動については，児童の継続的な活動を促進する上から，毎週計画的に実施することを基本としつつ，具体的な実践活動によっては弾力的に扱うようにする。

○内容の配分を工夫する

「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」と「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」，「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」の三つの内容から構成されているので，それぞれに充てる授業時数は，学校や児童の実態及び低・中・高学年の内容に応じて適切に配分する。

（5）学級としての指導計画の作成

○学級や学校としての年間指導計画の作成 ★◎▲

・学校や学年，学級の指導目標 ・育成を目指す資質・能力 ・指導内容（予想される議題例，題材名）と時期

・指導の時間配当 ・特別活動の他の内容との関連 ・他教科等との関連 ・評価の観点

○１単位時間の指導計画

「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」の指導の１単位時間の指導計画に示す内容

・議題 ・児童の実態と議題選定の理由 ・育成を目指す資質・能力 ・事前の活動(本時に至るまでの活動の流れ)

・本時のねらい ・児童の活動計画 ・教師の指導計画（指導上の留意点） ・使用する教材や資料

・事後の活動 ・評価の観点

「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」，「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」の１単位時間の指導計画に示す内容

・題材 ・児童の実態と題材設定の理由 ・育成を目指す資質・能力 ・事前指導 ・本時のねらい

・指導過程（本時の展開，導入・展開・終末） ・使用する教材・資料 ・事後指導 ・評価の観点

（6）学級活動の活動形態

・話合い活動 ・係活動 ・集会活動

（7）学級活動の各活動における指導過程の例

○学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」における指導過程の例

問題の発見・確認 → 話合い～合意形成 → 実践～振り返り

○学級活動(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」，学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」おけ

る指導過程の例

問題の発見・確認　→　話合い～意思決定　→　実践～振り返り

（8）各学年において取り上げる指導内容の重点化を図る

○児童及び学級の実態を踏まえる

○学年において取り上げる指導内容の重点化を図る

○発達の課題を踏まえる

4　学級活動の内容の取扱い

（1）　指導に当たっては，各学年段階で特に次の事項に配慮すること。

〔第１学年及び第２学年〕

話合いの進め方に沿って，自分の意見を発表したり，他者の意見をよく聞いたりして，合意形成して実践することのよさを理解すること。基本的な生活習慣や，約束やきまりを守ることの大切さを理解して行動し，生活をよくするための目標を決めて実行すること。

〔第３学年及び第４学年〕

理由を明確にして考えを伝えたり，自分と異なる意見も受け入れたりしながら，集団としての目標や活動内容について合意形成を図り，実践すること。自分のよさや役割を自覚し，よく考えて行動するなど節度ある生活を送ること。

〔第５学年及び第６学年〕

相手の思いを受け止めて聞いたり，相手の立場や考え方を理解したりして，多様な意見のよさを積極的に生かして合意形成を図り，実践すること。高い目標をもって粘り強く努力し，自他のよさを伸ばし合うようにすること。

（2）　２の(3)の指導に当たっては，学校，家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て，学んだことを振り返りながら，新たな学習や生活への意欲につなげたり，将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際，児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

【児童会活動】

1　目　標

異年齢の児童同士で協力し，学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて，計画を立て役割を分担し，協力して運営することに自主的，実践的に取り組むことを通して，第１の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

2　内　容

１の資質・能力を育成するため，学校の全児童をもって組織する児童会において，次の各活動を通して，それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し，主体的に考えて実践できるよう指導する。

★：他教科等のつながり　◎：他学年とのつながり　▲：他校種とのつながり　※：特に配慮を要する事項

	内　容　項　目	内　容　に　つ　い　て
主として	（1）児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営	◎児童が主体的に組織をつくり，役割を分担し，計画を立て，学校生活の課題を見いだし解決するために話し合い，合意形成を図り実践すること。 キャリア ※年間や学期，月ごとなどによる活動計画を立て，役割を分担し，協力し

高学年		て運営に当たることができるようにする。 ・代表委員会やそれぞれの委員会等の活動を進めるために必要な役割を，自ら見いだし，話し合って設置するなどの主体的な取組を大切にする。
全学年	（2）異年齢集団による交流	◎児童会が計画や運営を行う集会等の活動において，学年や学級が異なる児童と共に楽しく触れ合い，交流を図ること。 ・全校児童集会においては，児童の自発的，自治的な活動を効果的に進めるとともに，異年齢集団による交流のよさを一層重視して計画や運営ができるようにする。 ・代表委員会や各委員会などからの連絡や報告，発表などの活動も異年齢集団による交流として行う。
全学年	（3）学校行事への協力	◎学校行事の特質に応じて，児童会の組織を活用して，計画の一部を担当したり，運営に協力したりすること。 ・教師の適切な指導の下，児童が，学校行事の各種類の内容の特質に応じて，代表委員会や委員会活動などの児童会の組織を活用して，計画の一部を担当したり，学校行事の運営に協力したりする。 ・運動会，音楽会，集団宿泊行事等の学校行事の一部を，児童の発意・発想を生かした計画によって実施したり，各委員会の活動内容を生かした活動を取り入れて実施したりする活動が考えられる。
中学校	（1）生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営	◎生徒が主体的に組織をつくり，役割を分担し，計画を立て，学校生活の課題を見いだし解決するために話し合い，合意形成を図り実践すること。 キャリア
	（2）学校行事への協力	◎学校行事の特質に応じて，生徒会の組織を活用して，計画の一部を担当したり，運営に主体的に協力したりすること。
	（3）ボランティア活動などの社会参画	○地域や社会の課題を見いだし，具体的な対策を考え，実践し，地域や社会に参画できるようにすること。

3　児童会活動の指導計画

（1）　学級や学校の実態や児童の発達の段階などを考慮し，児童による自主的，　実践的な活動が助長されるようにする

○児童数や学級数，指導に当たる教職員の組織，施設，設備などの学校の実態を考慮し創意工夫して指導計画を作成する。教師の作成する指導計画は，形式的，画一的，固定的なものではなく，児童の活動として取り上げるべき具体的な内容，方法，　時間などについて，あらかじめ基本的な枠組みを定めておく。

（2）　内容相互及び各教科，道徳科，外国語活動，総合的な学習の時間などの指導との関連を図る　★

○学級活動の「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」やクラブ活動の指導との関連を図ることが大切である。具体的には，学級活動やクラブ活動で育んだ資質・能力が児童会活動に生かされ，児童会活動で育んだ資質・能力が学級活動やクラブ活動で生かされるようにする。

（3） 家庭や地域の人々との連携，社会教育施設等の活用などを工夫する ◎ 福祉 キャリア

▲児童会集会活動の異年齢集団による交流の活動として，近隣の幼稚園や小学校，異校種の学校等との交流を行う等の活動を設定し，協力を得る必要がある。また，学校行事に協力する児童会活動として，運動会を行う際に地域の高齢者や障害のある人々を招待する場合，地域の福祉に携わる活動や仕事をしている人々の協力を得ることが考えられる。

（4） 学校の実態を踏まえて児童会活動の組織を編成する ◎ キャリア

○児童会の構成，組織は，施設や設備，教師や児童の数など学校の規模を考慮し，児童の希望を十分反映させて，それぞれの学校が創意を生かし独自の組織を作成する。代表委員会の活動においては，代表委員の構成や人数などは学校により異なり，各委員会の活動においても種別や数などは各学校で異なる場合が考えられる。

（5） 学校が作成する児童会活動の年間指導計画

○全校の教師により指導計画を作成する

○指導計画に示す内容

・学校における児童会活動の目標 ・児童会活動の実態と指導方針 ◎代表委員会，各委員会の組織と構成

・活動時間の設定 ・年間に予想される主な活動 ・活動に必要な備品，消耗品 ・活動場所

・指導上の留意点 ・委員会を指導する教師の指導体制 ・評価の観点や方法

（6） 児童会の計画や運営と活動の形態

○活動の形態 ・代表委員会活動 ・委員会活動 ・児童会集会活動

◎代表委員会活動は，主として高学年の代表児童が参加して，学校全体の生活を共に楽しく豊かにするための集団生活や人間関係などの諸問題について話し合い， 解決を図るための活動である。そして，各学級での話合いを生かすなど全校児童の意向を反映し，自発的，自治的に行われる活動である。 キャリア

◎委員会活動は，主として高学年の全児童が，いくつかの委員会に分かれて，学校全体の生活を共に楽しく豊かにするための活動を分担して行うものである。これは，学校生活の充実と向上を目指す自発的，自治的な活動である児童会活動の形態の一つであるから，児童の発意・発想を生かし，創意工夫するなど，自主的，実践的に取り組むことができるように指導計画を作成する必要がある。 キャリア

◎児童会集会活動は，児童会の主催で行われる集会活動である。形態としては，全校の児童で行われるもの，複数学年の児童で行われるもの， 同一学年の児童で行われるものなど，多様に考えられる。

（7） 児童による活動計画の作成

○児童会活動の計画や運営は，主として高学年による自発的，自治的な活動であることから，児童による活動計画の作成が必要である。

○児童が作成する児童会活動の年間の活動計画に示す内容

・活動の目標 ・各月などの活動内容 ・役割分担 など

○児童が作成する１単位時間の集会活動等の活動計画に示す内容

・活動名 ・実施の日時 ・活動の目標 ・活動内容，プログラム

・参加するために準備すること ・役割分担 など

（8） 委員会への所属

◎委員会活動においては，児童は，年間通して同一の委員会に所属して活動することが望ましい。

（9） 時間の取り方

○特別活動の授業のうち，児童会活動，クラブ活動及び学校行事については，それらの内容に応じ，年間，学期ごと，月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。（学習指導要領第１章総則第２の３（２）による）

○代表委員会や各委員会で話合いをする時間を月に１単位時間程度設けることや児童会主催による規模の大きい集会活動を学

期に1，2回程度設けるなどの工夫が考えられる。

4　児童会活動の内容の取扱い

（1）　児童の自発的，自治的な活動が効果的に展開されるようにする。

※児童が，教師の適切な指導の下に，全校児童の活動であることを理解しながら学校の諸問題について話し合い，代表委員会や各委員会としての意見をまとめ，合意形成したことについて自己の責任を果たし，協力して実現できるようにする活動の機会をより多く設定する。

※異年齢集団による活動の場や機会をより多く設定し，充実させることにより，高学年のリーダーシップを育て，学校としての活力を高め，学校文化の形成等を通して学校の教育目標の実現につながることが大切である。

※適切な指導によって，互いの人格を尊重し合って生きることの大切さを学ぶ場や機会となり，いじめの未然防止等を含めた生徒指導の充実にもつながるものである。

（2）　内容相互の関連を図るよう工夫する。

○児童会活動の活性化や充実には，学級における指導が大きく影響するため，学級活動との関連を図って指導する必要がある。

○児童会活動の計画や運営に低学年の児童が関わることができるように，代表委員会の活動内容が伝わるようにしたり，低学年の児童の意見が児童会活動に反映されるようにしたりすることも考えられる。

○それぞれの委員会の活動によって，代表委員会，各委員会，各クラブの活動状況について情報が広く児童に伝わるようにすることも配慮する。

○学校行事との関連においても，各行事の趣旨に応じて，児童会が協力することは，双方の活動の充実や発展に寄与するものと考えられる。

【クラブ活動】

1　目　標

異年齢の児童同士で協力し，共通の興味・関心を追求する集団活動の計画を立てて運営することに自主的，実践的に取り組むことを通して，個性の伸長を図りながら，第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

2　内　容

1の資質・能力を育成するため，主として第4学年以上の同好の児童をもって組織するクラブにおいて，次の活動を通して，それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し，主体的に考えて実践できるよう指導する。

★：他教科等のつながり　◎：他学年とのつながり　▲：他校種とのつながり　※：特に配慮を要する事項

	内　容　項　目	内　容　に　つ　い　て
主として第4	（1）クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営	○児童が活動計画を立て，役割を分担し，協力して運営に当たること。 ※年間や学期，月ごとなどに児童が活動計画を立てる。児童による自発的，自治的な活動が効果的に展開できるようにする。 ◎児童が自分たちの思いや願いを込めて活動計画を立てたり，異年齢の活動グループをつくって，グループごとに輪番で運営したりする。　キャリア
	（2）クラブを楽しむ活動	◎異なる学年の児童と協力し，創意工夫を生かしながら共通の興味・関心を追求すること。　キャリア

・5・6年		・興味，関心をより深く追求していく喜びや計画したことが実現できた満足感，学級や学年が異なる児童と協力して活動を進めたり，役割や責任を果たしたりすることができた喜びなどを実感できるようにする。 ・学校や地域の実態によっては，他のクラブや地域の人々などとの交流を図るなどして，一層クラブを楽しむことができるようにすることも考えられる。
	（3）クラブの成果の発表	○活動の成果について，クラブの成員の発意・発想を生かし，協力して全校の児童や地域の人々に発表すること。 ・発表の機会としては，年間の計画のまとめとして，展示や映像，実演による発表などを行う「クラブ発表会」などが考えられる。運動会などの学校行事や全校児童集会での発表，校内放送や展示による発表，地域の行事に参加しての発表や地域の方を招待しての発表などが考えられる。 ・次年度にクラブを選択する際のオリエンテーションの機会とすることも考えられる。また，クラブを実際に体験する期間などを設けて，次年度のクラブ選択の際の参考にできるようにすることも考えられる。

3　クラブ活動の指導計画

（1）　学級や学校の実態や児童の発達の段階などを考慮し，児童による自主的，実践的な活動が助長されるようにする

○学校の実態などを考慮して，設置するクラブの数や人数，活動内容などを定めて指導計画を作成する。

○教師が作成する指導計画は，形式的，画一的，固定的なものではなく，児童の活動として取り上げるべき具体的な内容，方法，時間などについて，あらかじめ基本的な枠組みを定めておく。

（2）　内容相互及び，各教科，道徳科，外国語活動，総合的な学習の時間などの指導との関連を図る　★

○学級活動の「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」や児童会活動の指導との関連を図ることが大切である。具体的には，学級活動や児童会活動で育んだ資質・能力がクラブ活動に生かされ，クラブ活動で育んだ資質・能力が学級活動や児童会活動で生かされるようにすることが考えられる。

（3）　家庭や地域の人々との連携，社会教育施設等の活用などを工夫する　福祉

○地域の行事へ参加したり，地域の課題解決に向けて取り組んだりするなど活動の幅を広げて展開することによって，身に付けた資質･能力を生きて働くものとして実感させることなどが考えられる。また，地域人材を活用したクラブ活動や地域の方を招いたクラブ発表会等を通して，地域の活性化や学校との信頼関係の構築につなげていく。

（4）　クラブの設置

○児童の興味・関心ができるだけ生かされるようにする

○教科的な色彩の濃い活動を行うクラブ活動の組織にならない

○学校や地域の実態を踏まえる

（5）　学校が作成するクラブ活動の年間指導計画

○全校の教職員が関わって指導計画を作成する

○指導計画に示す内容

・学校におけるクラブ活動の児童の目標　・クラブ活動の実態と指導の方針　・クラブの組織づくりと構成

・活動時間の設定　・年間に予想される主な活動　・活動に必要な備品，消耗品　・活動場所

・指導上の留意点　・クラブを指導する教師の指導体制　・評価の観点と方法　など

◎実施学年

・主として第４学年以上の児童による活動であるが，例えば小規模校においては第３学年以下の学年からの実施も考えられる。

◎クラブへの所属

・学級や学年が異なる児童により組織され，個性の伸長を基盤として社会性の育成を目標とすることから，計画的，継続的に行われることが大切である。したがって，児童は，その学年において同一クラブに所属して活動することを原則とすることが望ましい。

○時間の取り方

・特別活動の授業のうち，児童会活動，クラブ活動及び学校行事については，それらの内容に応じ，年間，学期ごと，月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。（学習指導要領第１章総則第２の３（２）による）

・クラブ活動の特質である「児童の自発的，自治的な活動」を効果的に展開するために，各学校が必要と思われる授業時数を年間，学期ごと，月ごとなどに適切に設定する。

４　クラブ活動の内容の取扱い

○児童の自発的，自治的な活動が効果的に展開されるようにすること。その際，よりよい生活を築くために自分たちできまりをつくって守る活動などを充実するよう工夫すること。 キャリア

（１）　児童の自発的，自治的な活動が効果的に展開されるようにする。

※教師の適切な指導の下に，高学年の児童が下学年の児童の思いや願いを生かして活動したりすることができるよう配慮する必要がある。

※児童の手で実践できない活動など，児童の自発的，自治的な活動として任せることのできない条件を明確にして指導に当たる必要がある。

（２）　内容相互の関連を図るよう工夫する。

・共通の特質をもつ学級活動や児童会活動の指導との関連を図って，全体として児童の自発的，自治的な活動が一層効果的に展開できるようにする。

・クラブ活動で育まれた自主性，実践的な学びを各教科等で深めるなど，相互に効果的な関連を図ることが大切である。

【学校行事】

１　目　標

全校又は学年の児童で協力し，よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して，集団への所属感や連帯感を深め，公共の精神を養いながら，第１の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

２　内　容

１の資質・能力を育成するため，全ての学年において，全校又は学年を単位として，次の各行事において，学校生活に秩序と変化を与え，学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うことを通して，それぞれの学校行事の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し，主体的に考えて実践できるようになるよう指導する。

★：他教科等のつながり　◎：他学年とのつながり　▲：他校種とのつながり　※：特に配慮を要する事項

	内 容 項 目	内 容 に つ い て
全学年	（1）儀式的行事 入学式，卒業式，始業式，終業式 修了式，開校（閉校）記念に関する儀式， 着任式，離任式，朝会　等	◎学校生活に有意義な変化や折り目を付け，厳粛で清新な気分を味わい，新しい生活の展開への動機付けとなるようにすること。 ・いたずらに形式に流れたり，厳粛な雰囲気を損なったりすることなく，各行事のねらいを明確にし，絶えず内容に工夫を加えることが望ましい。 ・入学式や卒業式においては，学級活動との関連を図って，それらの行事の意義を理解させる。 ・入学式や卒業式においては，国旗を掲揚し，国歌を斉唱することが必要である。 ・全校児童の参加が望ましいが，施設などの関係でやむなく全員が参加できない場合には，少なくとも複数の学年の児童が参加するように配慮する。
	（2）文化的行事 ★児童が各教科等における日頃の学習の成果を総合的に発展させ，発表し合い，互いに鑑賞する行事 音楽会，学芸会，描画会，造形の会， 学習発表会，作品展示会，書初会， 読書感想発表会，クラブ発表会　等 ○児童の手によらない作品や催し物を鑑賞する行事 音楽鑑賞会，演劇鑑賞会，美術館見学会， 地域の伝統文化等の鑑賞会	◎平素の学習活動の成果を発表し，自己の向上の意欲を一層高めたり，文化や芸術に親しんだりするようにすること。 キャリア ・言語能力育成の観点から，異年齢の児童が一堂に会して，互いに発表し合う活動を効果的に実施できるようにする。その時，何らかの形で全員が参加しているという意識をもつことができるようにする。 ・児童の発表意欲を尊重し，自主的，実践的な活動を十分に認め，できるだけ主体的に運営できるよう配慮する。そのため，児童会活動やクラブ活動などの組織を必要に応じて活用する。 ・練習，準備の在り方を工夫，改善するとともに，年間指導計画を作成する際にあらかじめ適切な時間を設定しておく。 ・より質の高い芸術や文化などに触れる機会を設定して，児童の豊かな感性を養うことができるよう配慮する。 ・地域を理解し，郷土への愛着を深める観点から，地域の伝統や文化に触れる機会を積極的に設定するよう配慮する。
	（3）健康安全・体育的行事 健康診断，発育測定，学校保健委員会，避難訓練，防災訓練，交通安全教室， 防犯教室，運動会，球技大会　等	★心身の健全な発達や健康の保持増進，事件や事故，災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得，運動に親しむ態度の育成，責任感や連帯感の涵養，体力の向上などに資するようにすること。 ★病気の予防など健康に関する行事については，学校や地域の実態に即して実施し，できるだけ集中的，総合的，組織的に行われるよう配慮する。また，学級活動（2）の健康にかかわる指導や児童会活動，体育科の保健の学習内容などと関連を図るようにする。 ・避難訓練，防災訓練等については，表面的，形式的な指導に終わることなく，具体的な場面を想定するなど適切に行う必要がある。 防災 ・地域の環境や地形，自然災害等に応じた避難訓練や地域住民と共同して実施する防災訓練などは，特に重視して行うようにする。 防災

		・運動会については，実施に至るまでの指導の過程を大切にするとともに，体育科の学習内容と関連を図るなど時間の配当にも留意する。 ・運動会においては，学校の特色や伝統を生かすことも大切である。
	（4）遠足・集団宿泊的行事 遠足，校外学習，修学旅行，自然学校，野外活動　等	◎自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって，見聞を広め，自然や文化などに親しむとともに，よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。 環境 ・児童が主体的，実践的に活動できるような場を十分に考慮し，児童の意見をできるだけ取り入れた活動ができるようにする。 ・あらかじめ，実地調査を行い，現地の状況や安全の確認など，現地施設の従業員等との事前の打合せを十分に行う。 ・実施に当たっては，地域社会の社会教育施設等を積極的に活用する。 ・学級活動などにおいて，事前に指導を十分に行い，児童の参加意欲を高めるとともに，保護者にも必要事項について知らせておく。 ・必要に応じて，事前に参加する児童の健康診断や健康相談を行い，食物アレルギー等に関する個々の児童の健康状態を把握しておく。 ・よりよい人間関係を形成する態度を養うなどの教育的な意義が一層深まるとともに，いじめの防止や不登校児童の積極的態度の醸成や自己肯定感の向上等の高い教育効果が期待されるため，一定期間（１週間（５日間）程度）にわたって行うことが望まれる。 ★長期にわたって宿泊を伴う体験的な活動においては，目的地において教科の内容に関わる学習や探究的な活動を効果的に展開することも考えられる。その場合には，教科等や総合的な学習の時間などの学習活動を含む計画を立て，授業時数に含めて扱うなど，柔軟な年間指導計画の作成について工夫するよう配慮する。 環境 ※事故防止のための万全な配慮をする。自然災害などの不測の事態に対しても，避難の手順等は事前に確認し，自校との連絡体制を整えるなど適切な対応ができるようにする。
	（5）勤労生産・奉仕的行事 飼育栽培活動，校内美化活動，地域社会の清掃活動，公共施設等の清掃活動，福祉施設との交流活動　等	○勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに，ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。 福祉 ・学校や地域社会に奉仕し，公共のために役立つことや働くことの意義を理解するなど，あらかじめ，児童が十分にその行事の教育的意義を理解し，社会参画への意欲を高めて，進んで活動できるように指導する。 ・勤労体験や学校外におけるボランティア活動などの実施に当たっては，保護者の参加や地域の関係団体と連携するなど工夫して実施する。 ・「勤労生産・奉仕的行事」については，総合的な学習の時間で，ボランティ

		ア活動や栽培活動を行うことによって代替することが考えられる。
中学校	（1）儀式的行事	○学校生活に有意義な変化や折り目を付け，厳粛で清新な気分を味わい，新しい生活の展開への動機付けとなるようにすること。
	（2）文化的行事	○平素の学習活動の成果を発表し，自己の向上の意欲を一層高めたり，文化や芸術に親しんだりするようにすること。
	（3）健康安全・体育的行事	○心身の健全な発達や健康の保持増進，事件や事故，災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得，運動に親しむ態度の育成，責任感や連帯感の涵養，体力の向上などに資するようにすること。 防災
	（4）旅行・集団宿泊的行事	○平素と異なる生活環境にあって，見聞を広め，自然や文化などに親しむとともに，よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。
	（5）勤労生産・奉仕的行事	○勤労の尊さや生産の喜びを体得し，職場体験活動などの勤労観・職業観に関わる啓発的な体験が得られるようにするとともに，共に助け合って生きることの喜びを体得し，ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。 キャリア 福祉

3　学校行事の指導計画

（1）　学校の創意工夫を生かし，学級や学校，地域の実態，児童の発達の段階などを考慮する

○学校の教育目標や指導の重点，地域の特色や学校の伝統などから，行事の重点化を図るなど自校の実態に即した特色ある学校行事の指導計画を作成する。

○児童数や学級数の多少，指導に当たる教師の人数や組織などの人的条件，講堂，体育館，運動場などの物的条件などに配慮して指導計画を作成する。

（2）　児童による自主的，実践的な活動が助長されるようにする

○児童が活動意欲をもつことができるように，特に，児童会活動との関連を密にして， 学校行事の一部を児童が分担し，自主的，実践的にその運営に参画できるようにする。

（3）　内容相互及び各教科，道徳科，外国語活動，総合的な学習の時間などの指導との関連を図る

★特別活動の他の内容や各教科等で身に付けた資質・能力などを，学校行事においてよりよく活用できるようにする。また，学校行事で身に付けた資質・能力を各教科等の学習に生かす。

（4）　家庭や地域の人々との連携，社会教育施設等の活用などを工夫する

○体験的な活動を効果的に展開するために，家庭や地域の協力を得たり，社会教育施設を活用したりするなどの工夫をする。

○学校の所在する地域の特性を十分に考慮する。

（5）　その他の配慮事項

○全教職員が関わって作成する。

○指導計画に示す内容

学校行事の年間指導計画には，次のような内容を示す。

・各行事のねらいと育成を目指す資質・能力　　・五つの種類ごとの各行事を実施する時期と内容及び授業時数

★学級活動や児童会活動，クラブ活動，各教科等との関連　　・評価の観点 など

○年間指導計画の見直し

・各行事が教育的価値を十分に発揮し教育効果を高めることができるように，弾力性，融通性に富むものであることが望ましい。

〇時間の取り方

・特別活動の授業のうち，児童会活動，クラブ活動及び学校行事については，それらの内容に応じ，年間，学期ごと，月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。（学習指導要領第１章総則第２の３（２）による）

★学校行事の特質からみて，各学校の実態に即し，教育課程全体を見通して，適切な授業時数の配当計画を立てる。
これまでの学校行事の実施の経過を詳細に検討し，無理のない実施可能な授業時数の予定を立てる。

４　学校行事の内容の取扱い

（１）　児童や学校，地域の実態に応じて，２に示す行事の種類ごとに，行事及びその内容を重点化するとともに，各行事の趣旨を生かした上で，行事間の関連や統合を図るなど精選して実施すること。また，実施に当たっては，自然体験や社会体験などの体験活動を充実するとともに，体験活動を通して気付いたことなどを振り返り，まとめたり，発表し合ったりするなどの事後の活動を充実すること。　キャリア

（２）　異年齢集団による交流を重視するとともに，幼児，高齢者，障害のある人々などとの交流や対話，障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を通して，協働することや，他者の役に立ったり社会に貢献したりすることの喜びを得られる活動を充実すること。　◎　福祉

（３）　その他の留意事項

〇特定の時期に行事が集中することがないようにする。活動の内容については，児童の負担が過重にならないよう，児童の発達の段階や行事の内容などについて留意する。

★計画の作成や実施に当たっては，平素の学習活動との関連を考慮する。児童一人一人がねらいを明確につかみ，積極的に活動できるようにするため，事前・事後の活動についても留意する。

★大きな集団が組織的に行動する計画や指導に当たっては，体育科における集団行動の指導との関連を図る。

※事故防止のために万全の計画を立て，不測の事態に対しても適切に対応し，関係諸機関との連絡体制を整えるなど必要な処置がとれるようにする。

〇幼児，高齢者，障害のある人々などと触れ合う学校行事を行う場合は，地域の関係施設を活用したり，地域の関係諸団体との連携を図ったりして効果的に体験できるようにする。

〇学校行事の評価の観点や方法などについて，計画の段階から見通しを立てておくとともに，実施後の児童の振り返りの様子，保護者や地域住民からの感想や要望及び教職員の評価内容を反映させて，学校行事の改善につながるようにする。

第 8 章

小中一貫カリキュラム

小中一貫カリキュラム　国語　〔知識及び技能〕

			小１・２	小３・４	小５・６
学習内容の系統	言葉の特徴やきまりに関する事項	言葉の働き	事物の内容を表す働き 経験したことを伝える働き	考えたことや思ったこと を表す働き	相手とのつながりを つくる働き
			気付く		
		話し言葉と書き言葉	・音節と文字との関係 ・アクセントによる語の意味の違いなどに気付く ・姿勢や口形，発声や発音に注意して話す	・相手を見て話したり聞いたりする ・言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話す	・話し言葉と書き言葉との違いに気付く
			○長音・拗音・促音・撥音などの表記 ○助詞の「は」,「へ」及び「を」の使い方 ○句読点の打ち方 ○かぎ（「」）の使い方	○漢字と仮名を用いた表記 ○送り仮名の付け方 ○改行の仕方	・文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分ける ・送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書く
			理解して文や文章の中で使う		
			・平仮名及び片仮名を読み，書く ・片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使う	・句読点を適切に打つ ・日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書く（第３学年）	
		漢字	【第１学年】80 字 【第２学年】160 字	【第３学年】200 字 【第４学年】202 字	【第５学年】193 字 【第６学年】191 字
			・学年別配当表の当該学年までに配当されている漢字を読む（第１学年は第１学年分のみ） ・当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使う ・当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使う（第２学年以上）		
		語彙	身近なことを表す語句	様子や行動，気持ちや性格を表す語句	思考に関わる語句
			量を増やす　　話や文章の中で使う		
			言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き	言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し	語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し
			語彙を豊かにする		
					語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して
					語や語句を使う
		文や文章	主語と述語との関係	○主語と述語との関係 ○修飾と被修飾との関係 ○指示する語句と接続する語句の役割 ○段落の役割	○語句の係り方や語順 ○文と文との接続の関係 ○話や文章の構成や展開 ○話や文章の種類とその特徴
			気付く		
				理解する	
		言葉遣い	・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使う ・敬体で書かれた文章に慣れる	・丁寧な言葉を使う ・敬体と常体との違いに注意しながら書く	・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れる
		表現の技法			・比喩や反復などの表現の工夫に気付く
		音読朗読	・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する	・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読する	・文章を音読したり朗読したりする

		中１	中２	中３
言葉の特徴やきまりに関する事項	言葉の働き		相手の行動を促す働きがあることに 気付く	
	話し言葉と書き言葉	・音声の働きや仕組みについて理解を深める	・話し言葉と書き言葉の特徴について理解する	
	漢字	【読む】小学校＋300 字程度から 400 字程度 【書く】学年別漢字配当表のうち 900 字程度 文や文章の中で使う	【読む】第１学年＋ 350 字程度から 450 字程度 【書く】学年別漢字配当表 文や文章の中で使う	【読む】第２学年＋その他の常用漢字の大体 【書く】学年別漢字配当表 文や文章の中で使い慣れる
	語彙	事象や行為，心情を表す語句の量を増すとともに 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して 話や文章の中で使うことを通して	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに 類義語と対義語，同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し 話や文章の中で使うことを通して 語感を磨き語彙を豊かにする	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し 慣用句や四字熟語などについて理解を深め 話や文章の中で使うとともに 和語・漢語・外来語などを使い分けることを通して 語感を磨き語彙を豊かにする
	文や文章	単語の類別について理解するとともに 指示する語句と接続する語句の役割について 理解を深める	単語の活用，助詞や助動詞などの働き，文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに 話や文章の構成や展開について 理解を深める	話や文章の種類とその特徴について 理解を深める
	言葉遣い		・敬語の働きについて理解し，話や文章の中で使う	・敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し，適切に使うこと。
	表現の技法	・比喩，反復，倒置，体言止めなどの表現の技法を理解し使う		
	音読 朗読			

<table>
<tr><td rowspan="5">情報の扱いに関する事項</td><td>情報と情報の関係</td><td>共通，相違，事柄の順序など</td><td>考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など</td><td>原因や結果など</td></tr>
<tr><td colspan="3">情報と情報の関係について理解する</td></tr>
<tr><td>情報の整理</td><td></td><td>・比較や分類の仕方
・必要な語句などの書き留め方
・引用の仕方や出典の示し方
・辞書や事典の使い方</td><td>・情報と情報との関係付けの仕方
・図などによる語句と語句との関係の表し方</td></tr>
<tr><td colspan="3">理解し使う</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="11">我が国の言語文化に関する事項</td><td rowspan="3">伝統的な言語文化</td><td>昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして</td><td>易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして</td><td>親しみやすい古文や漢文，近代以降の文語調の文章を音読するなどして</td></tr>
<tr><td>我が国の伝統的な言語文化に親しむ</td><td colspan="2">言葉の響きやリズムに親しむ</td></tr>
<tr><td>長く親しまれている言葉遊びを通して
言葉の豊かさに気付く</td><td>長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り
使う</td><td>古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して
昔の人のものの見方や感じ方を知る</td></tr>
<tr><td rowspan="3">言葉の由来や変化</td><td></td><td>・漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解する</td><td>語句の由来などに関心をもち
時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き
共通語と方言との違いを理解する
・仮名及び漢字の由来，特質などについて理解する</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">書写</td><td>・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書く
・点画の書き方や文字の形に注意しながら，筆順に従って丁寧に書く
・点画相互の接し方や交わり方，長短や方向などに注意して，文字を正しく書く</td><td>・文字の組み立て方を理解し，形を整えて書く
・漢字や仮名の大きさ，配列に注意して書く
・毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め，筆圧などに注意して書く</td><td>・用紙全体との関係に注意して，文字の大きさや配列などを決めるとともに，書く速さを意識して書く
・毛筆を使用して，穂先の動きと点画のつながりを意識して書く
・目的に応じて使用する筆記具を選び，その特徴を生かして書く</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">読書</td><td>読書に親しみ
いろいろな本があることを知る</td><td>幅広く読書に親しみ
読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く</td><td>日常的に読書に親しみ
読書が，自分の考えを広げることに役立つことに気付く</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">定着のポイント</td><td>・語彙を豊かにするとは，使用する語句の量や範囲を広げながら，語句相互の意味関係を理解することで，自分の語彙を豊かにしていく
・主語と述語の適切な係り受けについては，表現するときだけでなく，文章を読むときにも意識できるようにする
・音読については，明瞭な発音で文章を読むこと，ひとまとまりの語や文として読むこと，言葉の響きやリズムなどに注意して読むようにする</td><td>・漢字辞典を使って漢字の読みや意味などを自分で調べる活動を積極的に取り入れ，習慣として定着させる
・語彙の性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することを通して，語句の量を増し，使い方の範囲を広げ，語彙を豊かにする
・辞書や事典については，調べる学習などにおいて活用することが求められるため，国語科に限らず，他教科等の調べる学習や日常生活の中でも積極的に利用できるようにする
・読書によって知識や常識を得るための基盤として，学校図書館などの施設の利用方法や，必要な本などの選び方を身に付けるようにする</td><td>・話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化などへの理解を通して，語句の意味や使い方に対する認識を深め，語彙の質を高めるなどして語彙を豊かにしていく。
・朗読は，読者として自分が思ったことや考えたことを踏まえ，聞き手に伝えようと表現性を高めて，文章を声に出して読むことであり，児童一人一人が思ったり考えたりしたことを，表現性を高めて伝えることに重点を置くようにする
・情報の整理については，図示などにより，語句と語句との関係を表すことを通して，考えをより明確なものにしたり，思考をまとめたりすることができることを理解するようにする</td></tr>
<tr><td colspan="2">育成したい資質・能力</td><td colspan="3">日常的に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，
我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="7">情報の扱いに関する事項</td><td>情報と情報の関係</td><td>原因と結果，意見と根拠など
情報と情報との関係について理解する</td><td>意見と根拠，具体と抽象など</td><td>具体と抽象など
情報と情報との関係について理解を深める</td></tr>
<tr><td>情報の整理</td><td>情報の整理の仕方
引用の仕方
出典の示し方について
理解を深め，使う</td><td>情報と情報との関係の
様々な表し方を
理解し使う</td><td>情報の信頼性の確かめ方を</td></tr>
<tr><td rowspan="5">我が国の言語文化に関する事項</td><td>伝統的な言語文化</td><td>古文や漢文を音読し
古典特有のリズムを通して
古典の正解に親しむ
様々な種類の作品がある
ことを
知　る</td><td>作品の特徴を生かして
朗読するなどして
古典に表れたものの見方や考え方
を</td><td>歴史的背景などに注意して
古典を読むなどして
長く親しまれている言葉や
古典の一節を引用するなどして
使う</td></tr>
<tr><td>言葉の由来や変化</td><td>共通語と方言の果たす役割
理解する</td><td></td><td>時間の経過による言葉の変化や
世代による言葉の違いについて
理解する</td></tr>
<tr><td>書写</td><td>字形を整え，文字の大きさ，配列
などについて理解して
楷書で書く
漢字の行書の基礎的な書き方を
理解して
身近な文字を行書で書く</td><td>漢字の行書とそれに調和した仮
名の書き方を理解して
読みやすく速く書く
目的や必要に応じて
楷書又は行書を選んで書く</td><td>身の回りの多様な表現を通して
文字文化の豊かさに触れ
効果的に文字を書く</td></tr>
<tr><td>読書</td><td>知識や情報を得たり，
自分の考えを広げたりすること
に役立つことを
理解する</td><td>様々な立場や考え方が
書かれていることを
知る
自分の考えを広げたり
深めたりする読書に
生かす</td><td>自分の生き方や
社会との関わり方を支える
読書の意義と効用について
理解する</td></tr>
<tr><td colspan="2">定着のポイント</td><td>・音声的特質を理解し，日常の言語活動を振り返る契機にする
・教科書を読むことや読書を通して，漢字の読みの習熟と応用を図る
・他教科の学習や日常の会話の中でも，漢字の書きについて意識する
・実際に書く活動を通して，漢字を正しく用いる態度と習慣を養う
・様々な語句について，話や文章の中でどのように使用されているか，自分が理解したり表現したりするときにどのように用いればよいかについて考える</td><td>・日頃使用している言葉を見つめ直すことが，言語能力の向上につながることを実感する
・多義的な意味を表す語句は，文脈に沿って，その意味を吟味する
・敬語を相手や場面に応じて適切に使い分けることができるようにする
・具体と抽象は，状況や必要に応じて使い分けられていることを理解する
・作品の特徴を生かして朗読することなどを通して，古典の世界に親しむようにする
・本や文章などの多様な在り方を理解して，読む対象を選択する際の観点としたり，読み進める際の参考にしたりする</td><td>・話や文章で表現する際に，機を捉えて和語，漢語，外来語の使い分けを考えるなどして，微妙な言葉の違いについて知り，語感を磨く
・一つの情報だけで確認するのではなく，複数の情報にあたる
・長く親しまれている言葉の意味を理解することで，生徒が一層言葉に興味を持ち積極的に使うことができるようにする
・通時的な言葉の変化に対する意識を持たせるようにする
・言葉というものが生活と密接に関連していることを実感する
・新しい知識を得たり，自分の考えを広げたり深めたりすることを通して，読書をすることの意味を実感する</td></tr>
<tr><td colspan="2">育成したい資質・能力</td><td colspan="3">社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，
我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。</td></tr>
</table>

小中一貫カリキュラム　国語　「A　話すこと・聞くこと」

			小１・２	小３・４	小５・６
学習内容の系統	話すこと	話題の設定	身近なことや経験したことなどから	目的を意識して 日常生活の中から	目的や意図に応じて 日常生活の中から
		情報の収集		集めた材料を比較・分類して	集めた材料を比較・関係付けて
		内容の検討	伝え合うために必要な事柄を選ぶ		伝え合う内容を検討する
		構成の検討	相手に伝わるように 行動したことや経験したことに基づいて	理由や事例などを挙げながら 話の中心が明確になるように	話の内容が明確になるように 事実と感想，意見とを区別するなど
		考えの形成	話す事柄の順序を考える	話の構成を考える	
		表現	伝えたい事柄や相手に応じて	話の中心や話す場面を意識して	資料を活用するなどして
		共有	声の大きさや速さなどを 工夫する	言葉の抑揚や強弱，間の取り方 などを工夫する	自分の考えが伝わるように 表現を工夫する
	聞くこと	話題の設定	身近なことや経験したことなどから	目的を意識して 日常生活の中から	目的や意図に応じて 日常生活の中から
		情報の収集	伝え合うために必要な事柄を選ぶ	集めた材料を比較・分類して	集めた材料を比較・関係付けて 伝え合う内容を検討する
		構造と内容の把握	知らせたいことや聞きたいことを 落とさないように集中して聞き	必要なことを 記録したり，質問をしたりしながら聞き	目的や意図に応じて
		精査・解釈	話の内容を捉えて	話し手が伝えたいことや自分が 聞きたいことの中心を捉え，	話の内容を捉え 話し手の考えと比較しながら，
		考えの形成	感想をもつ	自分の考えをもつ	自分の考えをまとめる
		共有			
	話し合うこと	話題の設定	身近なことや経験したことなどから	目的を意識して 日常生活の中から	目的や意図に応じて 日常生活の中から
		情報の収集		集めた材料を比較・分類して	集めた材料を比較・関係付けて
		内容の検討	伝え合うために必要な事柄を選ぶ		伝え合う内容を検討する
		話合いの進め方の検討	互いの話に関心をもち	目的や進め方を確認し 司会などの役割を果たしながら話し合い	互いの立場や意図を明確にしながら 計画的に話し合い
		考えの形成	相手の発言を受けて話をつなぐ	互いの意見の共通点や相違点 に着目して，考えをまとめる	考えを広げる　まとめる
		共有			
定着のポイント			・話す事柄の順序をよく考えることで，自分の伝えたいことを表現できる実感を味わわせ，工夫して話そうとする態度へつなぐことができる ・互いの話に関心をもって話し合うためには，話がつながることの楽しさやよさを実感できるようにすることが大切である	・様々な場面で話すことを通して，繰り返し表現の工夫を行う場を設けることが有効である ・話の内容を予想して聞いたり，聞いた内容と自分が知っていることを比べたりすることなどが，自分の考えをもつために有効である	・話合いにおいては，立場が対立的な関係にある場合においても，互いに言い負かすことを目的とせず，異なる立場からの考えを聞き，意見の基となる理由を尋ね合うことで，互いに考えを広げたりまとめたりすることが大切である
育成したい資質・能力			順序立てて考える力 感じたり想像したりする力	筋道立てて考える力 豊かに感じたり想像したりする力	
			日常生活における人との関わりの中で伝え合う力		
			もつ	自分の思いや考えを まとめる	広げる
言語活動例			・紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動 ・尋ねたり応答したりするなどして，少人数で話し合う活動	・説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動 ・質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動 ・互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動	・意見や提案など自分の考えを話したり，それらを聞いたりする活動 ・インタビューなどをして必要な情報を集めたり，それらを発表したりする活動 ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動

<table>
<tr><th></th><th></th><th>中１</th><th>中２</th><th>中３</th></tr>
<tr><td rowspan="6">話すこと</td><td>話題の設定</td><td colspan="3">目的や場面に応じて</td></tr>
<tr><td>情報の収集</td><td>日常生活の中から</td><td colspan="2">社会生活の中から</td></tr>
<tr><td>内容の検討</td><td>集めた材料を整理し</td><td>異なる立場や考えを想定しながら
集めた材料を整理し</td><td>多様な考えを想定しながら
材料を整理し</td></tr>
<tr><td colspan="3">伝え合う内容を検討する</td></tr>
<tr><td>構成の検討</td><td colspan="2">自分の立場や考えが明確になるように</td><td>自分の立場や考えを明確にし</td></tr>
<tr><td>考えの形成</td><td>話の中心的な部分と付加的な部分，
事実と意見との関係などに注意して</td><td>根拠の適切さや
論理の展開などに注意して</td><td>相手を説得できるように
論理の展開などを考えて</td></tr>
<tr><td colspan="2">話の構成を考える</td><td colspan="2">話の構成を工夫する</td></tr>
<tr><td rowspan="2">表現</td><td>相手の反応を踏まえながら</td><td>資料や機器を用いるなどして</td><td>場の状況に応じて言葉を選ぶなど</td></tr>
<tr><td rowspan="2">共有</td><td colspan="3">自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する</td></tr>
<tr><td rowspan="6">聞くこと</td><td>話題の設定</td><td colspan="3">目的や場面に応じて</td></tr>
<tr><td>情報の収集</td><td>日常生活の中から</td><td colspan="2">社会生活の中から</td></tr>
<tr><td>内容の検討</td><td>集めた材料を整理し</td><td>異なる立場や考えを想定しながら
集めた材料を整理し</td><td>多様な考えを想定しながら
材料を整理し</td></tr>
<tr><td colspan="3">伝え合う内容を検討する</td></tr>
<tr><td>構造と内容の把握</td><td>必要に応じて記録したり質問したり
しながら話の内容を捉え</td><td>論理の展開などに注意して聞き</td><td>話の展開を予測しながら聞き</td></tr>
<tr><td>精査・解釈</td><td rowspan="2">共通点や相違点などを踏まえて</td><td rowspan="2">話し手の考えと比較しながら</td><td>聞き取った内容や表現の仕方を
評価して</td></tr>
<tr><td>考えの形成</td><td rowspan="2">自分の考えをまとめる</td><td rowspan="2">自分の考えを
広げたり深めたりする</td></tr>
<tr><td>共有</td></tr>
<tr><td rowspan="6">話し合うこと</td><td>話題の設定</td><td colspan="3">目的や場面に応じて</td></tr>
<tr><td>情報の収集</td><td>日常生活の中から</td><td colspan="2">社会生活の中から</td></tr>
<tr><td>内容の検討</td><td>集めた材料を整理し</td><td>異なる立場や考えを想定しながら
集めた材料を整理し</td><td>多様な考えを想定しながら
材料を整理し</td></tr>
<tr><td colspan="3">伝え合う内容を検討する</td></tr>
<tr><td>話合いの進め方の検討</td><td>話題や展開を捉えながら
話し合い</td><td>互いの立場や考えを尊重しながら
話し合い</td><td>進行の仕方を工夫したり互いの発言を
生かしたりしながら話し合い</td></tr>
<tr><td>考えの形成</td><td>互いの発言を結び付けて</td><td>結論を導くために</td><td>合意形成に向けて</td></tr>
<tr><td>共有</td><td colspan="2">考えをまとめる</td><td>考えを
広げたり深めたりする</td></tr>
<tr><td colspan="2">定着のポイント</td><td>・分かりやすく伝えるために，自分の考えや根拠が明確になるように話を構成する
・話合いにおいては，目指している到達点を常に意識し，互いの考えを結び付けて，建設的に話し合い，考えをまとめる</td><td>・自分の立場や考えを明確にするためには，話の全体を俯瞰して，聞き手を意識した論理の展開を工夫する
・どのような立場や背景を基に発言されているのかを考え，互いの共通点や相違点，新たな提案を踏まえて話し合う</td><td>・話合いを目的に沿って効率よく進めるためには，目的に合った話合いの進め方を提案したり，話合いの進み具合を把握したり，それまでの話合いの経緯を振り返ってこれからの展開を考えたりする</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">育成したい資質・能力</td><td>筋道立てて考える力
豊かに感じたり想像したりする力
日常生活における
人との関わりの中で伝え合う力</td><td>論理的に考える力
共感したり想像したりする力</td><td>論理的に考える力
深く共感したり豊かに想像したりする力</td></tr>
<tr><td colspan="2">社会生活における
人との関わりの中で伝え合う力</td></tr>
<tr><td colspan="3">自分の思いや考えを
確かなものにする　／　広げたり深めたりする</td></tr>
<tr><td colspan="2">言語活動例</td><td>・紹介や報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動
・互いの考えを伝えるなどして，少人数で話し合う活動</td><td>・説明や提案など伝えたいことを話したり，それらを聞いて質問や助言などをしたりする活動
・それぞれの立場から考えを伝えるなどして，議論や討論をする活動</td><td>・提案や主張など自分の考えを話したり，それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動
・互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動</td></tr>
</table>

小中一貫カリキュラム　国語　「B　書くこと」

		小１・２	小３・４	小５・６
学習内容の系統	題材の設定		相手や目的を意識して	目的や意図に応じて
	情報の収集	経験したことや想像したことなどから		感じたことや考えたことなどから
	内容の検討	必要な事柄を集めたり確かめたりし	集めた材料を比較したり，分類したりして	集めた材料を分類したり，関連付けたりして
		伝えたいことを明確にする		
	構成の検討	自分の思いや考えが明確になるように 事柄の順序に沿って 簡単な構成を考える	書く内容の中心を明確にし 内容のまとまりで段落をつくって段落相互の関係に注意して 文章の構成を考える	筋道の通った文章となるように 文章全体の構成や展開を考える
	考えの形成	語と語や文と文の続き方に注意して内容のまとまりがわかるように	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり事実と感想，意見とを区別して自分の考えが伝わるように 引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように
		書き表し方を工夫する		
	推敲	文章を読み返す習慣を付ける 間違いを正す 語と語や文と文との続き方を確かめる	相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして 文や文章を整える	文章全体の構成や書き表し方などに着目して
	共有	文章に対する**感想**を伝え合い	文章に対する**感想や意見**を伝え合い	
		自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける		
定着のポイント		・各教科等の学習や児童の日常生活での経験などと関連させ，児童一人一人にとって書くことのよさを実感できるものとなるようにする ・文章を読み返す習慣を付けるためには，間違いに気付いて正すことでよりよく伝わる文章になることを実感できるようにする	・文や文章を整える際には，主語と述語，修飾語と被修飾語の関係の明確さ，長音，拗音，促音，撥音，助詞などの表記の仕方のほかに，敬体と常体，断定や推量，疑問などの文末表現の使い方などに注意して間違いを正すようにする	・筋道の通った文章にするためには，「事柄の順序」に沿った構成や，「書く内容の中心を明確に」した構成を工夫することに加え，例えば，「考えと理由や事例」「原因と結果」などのつながりや配列を意識して文章全体の筋道を整えていくことが大切である
育成したい資質・能力		順序立てて考える力 感じたり想像したりする力	筋道立てて考える力 豊かに感じたり想像したりする力	
		日常生活における人との関わりの中で伝え合う力		
		自分の思いや考えを		
		もつ	**まとめる**	**広げる**
言語活動例		・身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動 ・日記や手紙を書くなど，思ったことや伝えたいことを書く活動 ・簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動	・調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動 ・行事の案内やお礼の文章を書くなど，伝えたいことを手紙に書く活動 ・詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動	・事実を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動 ・短歌や俳句をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動 ・事実や経験を基に，感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動

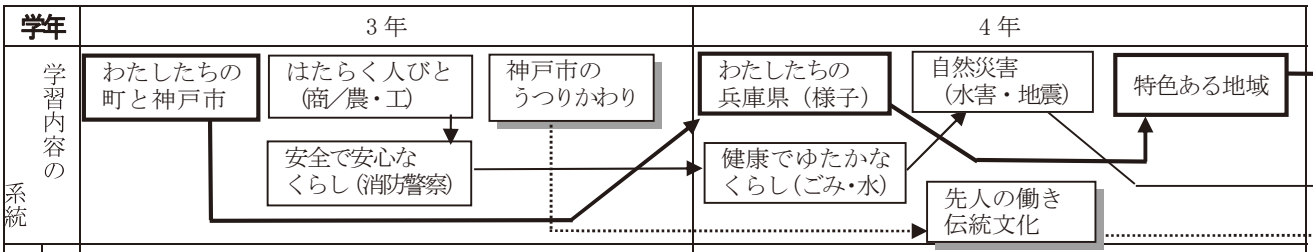
<table>
<tr><th></th><th>中１</th><th>中２</th><th>中３</th></tr>
<tr><td>題材の設定
情報の収集
内容の検討</td><td colspan="3">目的や意図に応じて
日常生活の中から　／　社会生活の中から
集めた材料を整理し　／　多様な方法で集めた材料を整理し　／　集めた材料の客観性や信頼性を確認し
伝えたいことを明確にする</td></tr>
<tr><td>構成の検討</td><td>書く内容の中心が明確になるように
段落の役割などを意識して
文章の構成や展開を考える</td><td>伝えたいことが分かりやすく伝わるように
段落相互の関係などを明確にし
文章の構成や展開を工夫する</td><td>文章の種類を選択し多様な読み手を説得できるように
論理の展開などを考えて
文章の構成を工夫する</td></tr>
<tr><td>考えの形成</td><td>根拠を明確にしながら</td><td>根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり，表現の効果を考えて描写したりするなど</td><td>表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど
自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する</td></tr>
<tr><td>推敲</td><td>読み手の立場に立って，表記や語句の用法，叙述の仕方などを確かめて</td><td>読み手の立場に立って，表現の効果などを確かめて</td><td>目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて
文章を整える　／　文章全体を整える</td></tr>
<tr><td>共有</td><td>根拠の明確さなどについて読み手からの助言などを踏まえ</td><td>表現の工夫とその効果などについて読み手からの助言などを踏まえ</td><td>論理の展開などについて読み手からの助言などを踏まえ
自分の文章のよい点や改善点を見いだす</td></tr>
<tr><td>定着のポイント</td><td>・文章を書く目的を明確にする
・材料を整理する
・構成や展開を考えながら書く
・読み手の立場に立って，伝えようとしていることが伝わるかどうかを確かめながら文章を読み返す
・自分の文章が他者にどう読まれているかを自覚し，次の書くことへ生かす具体的な視点を得る</td><td>・集めた材料を整理する際には，目的や意図に応じた観点を設ける
・どのように段落を設けるか，設けた段落をどのような順序で展開するかなどについて考える
・読み手の立場から検討し，誤解のない表現や，効果的な表現にしていく
・着目した表現についてどのような理由で効果的なのか，どのように書けばより効果があるのか等を具体的に考える</td><td>・基本となる組立て方を基本に据えて論理の展開を考える
・表現の仕方を考える際には，目的や意図，題材などに合わせて，第３学年までに学習した表現に係る様々なことを活用しながら工夫する
・資料が伝えたいことと自分の考えとの関係について補足したりする</td></tr>
<tr><td>育成したい資質・能力</td><td>筋道立てて考える力
豊かに感じたり想像したりする力
日常生活における人との関わりの中で伝え合う力
自分の思いや考えを
確かなものにする</td><td>論理的に考える力
共感したり想像したりする力
社会生活における人との関わりの中で伝え合う力
広げたり深めたりする</td><td>論理的に考える力
深く共感したり豊かに想像したりする力</td></tr>
<tr><td>言語活動例</td><td>・本や資料から文章や図表などを利用して説明したり記録したりするなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動
・行事の案内や報告の文章を書くなど，伝えるべきことを整理して書く活動
・詩を創作したり随筆を書いたりするなど，感じたことや考えたことを書く活動</td><td>・多様な考えができる事柄について意見を述べるなど，自分の考えを書く活動
・社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど，伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。
・短歌や俳句，物語を創作するなど，感じたことや想像したことを書く活動</td><td>・関心の有る事柄について批評するなど，自分の考えを書く活動
・情報を編集して文章にまとめるなど，伝えたいことを整理して書く活動</td></tr>
</table>

小中一貫カリキュラム　国語　「C　読むこと」

		小１・２	小３・４	小５・６
学習内容の系統	構造と内容の把握	説明文：時間的な順序や事柄の順序を考えながら → 内容の大体を捉える 物語文：場面の様子や登場人物の行動など → 内容の大体を捉える	段落相互の関係に着目しながら → 考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉える 登場人物の行動や気持ちなどについて → 叙述を基に捉える	事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ → 文章全体の構成を捉えて要旨を把握する 登場人物の相互関係や心情などについて → 描写を基に捉える
	精査・解釈	説明文：文章の中の重要な語や文を考えて → 選び出す 物語文：場面の様子に着目して → 登場人物の行動を具体的に想像する	目的を意識して，中心となる語や文を見付けて → 要約する 登場人物の気持ちの変化や性格，情景について → 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する	目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして → 必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりする 人物像や物語などの全体像を → 具体的に想像したり，表現の効果を考えたりする
	考えの形成	文章の内容と自分の体験とを結び付けて → 感想をもつ	文章を読んで理解したことに基づいて → 感想や考えをもつ	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し → 自分の考えを広げる
	共有	文章を読んで感じたことや分かったことを → 共有する	文章を読んで感じたことや考えたことを → 共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付く	文章を読んでまとめた意見や感想を → 共有し，自分の考えを広げる
定着のポイント		・内容の大体を捉えるには，一つの段落の特定の部分にとどまらず，文章全体に何が書かれているかを大づかみに把握するようにする ・着目した場面の様子などの叙述を基に，主人公などの登場人物について，何をしたのか，どのような表情・口調・様子だったのかなどを具体的にイメージしたり，行動の理由を想像したりするようにする	・物語の複数の場面の叙述を結び付けながら，気持ちの変化を見出して想像し，叙述を結び付けることで，変化やそのきっかけを多面的に読むようにする ・情景について具体的に想像する際には，場面の移り変わりとともに変化していく登場人物の気持ちと併せて考えていくことが重要である	・物語などの全体像は，登場人物や場面設定，個々の叙述などを基に，その世界や人物像を想像することで捉える。内容面だけでなく，「どのように描かれているか」という表現面に着目して読むようにする ・表現の効果を考えるには，感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述，暗示性の高い表現，メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目しながら読むようにする
育成したい資質・能力		順序立てて考える力 感じたり想像したりする力	筋立てて考える力 豊かに感じたり想像したりする力	
		日常生活における人との関わりの中で伝え合う力		
		自分の思いや考えを → もつ	→ まとめる	→ 広げる
言語活動例		・事物の仕組みを説明した文章などを読み，分かったことや考えたことを述べる活動 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動 ・学校図書館などを利用し，図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み，分かったことなどを説明する活動	・記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動 ・詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動 ・学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動	・説明や解説などの文章を比較するなどして読み，分かったことや考えたことを，話し合ったり文章にまとめたりする活動 ・詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動 ・学校図書館などを利用し，複数の本や新聞などを活用して，調べたり考えたりしたことを報告する活動

<table>
<tr><th></th><th>中１</th><th>中２</th><th>中３</th></tr>
<tr><td rowspan="3">構造と内容の把握</td><td>説明文
中心的な部分と付加的な部分，事実と意見との関係などについて
叙述を基に捉え要旨を把握する</td><td>文章全体と部分との関係に注意しながら
主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを</td><td>文章の種類を踏まえて
論理や物語の展開の仕方などを</td></tr>
<tr><td>物語文
場面の展開
登場人物の相互関係
心情の変化などについて
描写を基に捉える</td><td colspan="2">捉える</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">精査・解釈</td><td>目的に応じて必要な情報に着目して要約したり，場面と場面，場面と描写などを結び付けたりして
内容を解釈する</td><td>目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり，登場人物の言動の意味などについて考えたりして</td><td>文章を批判的に読みながら
ものの見方や考え方について考える</td></tr>
<tr><td></td><td>文章と図表などを結び付けその関係を踏まえて
内容を理解する</td><td></td></tr>
<tr><td>文章の構成や展開，表現の効果について
根拠を明確にして考える</td><td>文章の構成や論理の展開，表現の効果について
観点を明確にして考える</td><td>文章の構成や論理の展開，表現の仕方について
評価する</td></tr>
<tr><td>考えの形成
共有</td><td>文章を読んで理解したことに基づいて
自分の考えを確かなものにする</td><td>文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け
自分の考えを広げたり深めたりする</td><td>文章を読んで考えを広げたり深めたりして人間，社会，自然などについて
自分の意見を持つ</td></tr>
<tr><td>定着のポイント</td><td>・キーワードやキーセンテンスなどに留意して情報を整理し，正確に要旨を捉えられるようにする
・なぜそのような構成や展開になっているのか，どのような効果につながるのかなど，自分なりの意味付けをする
・目的を明確にした上で要約に取り組み，必要な情報を正確に捉えて要約できるようにする
・表現が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で，どのように働いているかを考える</td><td>・書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること，その結果どのような効果が生まれているのかを考える
・構成や論理の展開を把握した上で，なぜそのような構成にしたのか，論理の展開に飛躍がないかなどについて，自分なりの考えをもつことができるようにする
・複数の文章を比較する際，注目する部分を絞り込んだ上で，それらの特徴が文章全体の特徴にどのように関わっているのかを考える</td><td>・文章に表れているものの見方や考え方について，自分の知識や経験などと照らし合わせて，納得や共感ができるか否かなどを考える
・社会生活の中の様々な事象について，より広い視野をもって自分の意見を形成することができるようにする</td></tr>
<tr><td rowspan="3">育成したい資質・能力</td><td>筋道立てて考える力
豊かに感じたり想像したりする力</td><td>論理的に考える力
共感したり想像したりする力</td><td>論理的に考える力
深く共感したり豊かに想像したりする力</td></tr>
<tr><td>日常生活における人との関わりの中で伝え合う力</td><td colspan="2">社会生活における人との関わりの中で伝え合う力</td></tr>
<tr><td colspan="3">自分の思いや考えを
確かなものにする　広げたり深めたりする</td></tr>
<tr><td>言語活動例</td><td>・説明や記録などの文章を読み，理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動
・小説や随筆などを読み，考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動
・学校図書館などを利用し，多様な情報を得て，考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動</td><td>・報告や解説などの文章を読み，理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動
・詩歌や小説などを読み，引用して解説したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動
・本や新聞，インターネットなどから集めた情報を活用し，出典を明らかにしながら，考えたことなどを説明したり提案したりする活動</td><td>・論説や報道などの文章を比較するなどして読み，理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動
・詩歌や小説などを読み，批評したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動
・実用的な文章を読み，実生活への生かし方を考える活動</td></tr>
</table>

小中一貫カリキュラム　社会



地理的環境と人々の生活

地域
- (1) 身近な地域や市の様子
- イ(ア)「仕事の種類や産地の分布」
- (1) 県の様子
- (5) 県内の特色ある地域の様子

日本
- ア(ア)「47都道府県の名称と位置」

世界

現代社会の仕組みや働きと人々の生活

経済・産業
- (2) 地域に見られる生産や販売の仕事
- (2) 人々の健康や生活環境を支える事業
- 内容の取扱い(3)イ「開発，産業などの事例(選択)」

政治
- (3) 地域の安全を守る働き
- (3) 自然災害から人々を守る活動
- イ(ア)「市役所などの公共施設の場所と働き」

国際関係
- イ(イ)「外国との関わり」
- 内容の取扱い(4)ウ「国際化」
- 内容の取扱い(4)ア「国際交流に取り組む地域」

歴史と人々の生活

地域
- (4) 市の様子の移り変わり
- 内容の取扱い(4)ア「地場産業，伝統的な文化(選択)」
- (4) 先人の働き　伝統文化
- 内容の取扱い(1)イ「公衆衛生の向上」
- イ(ア)「過去に発生した地域の自然災害」

日本

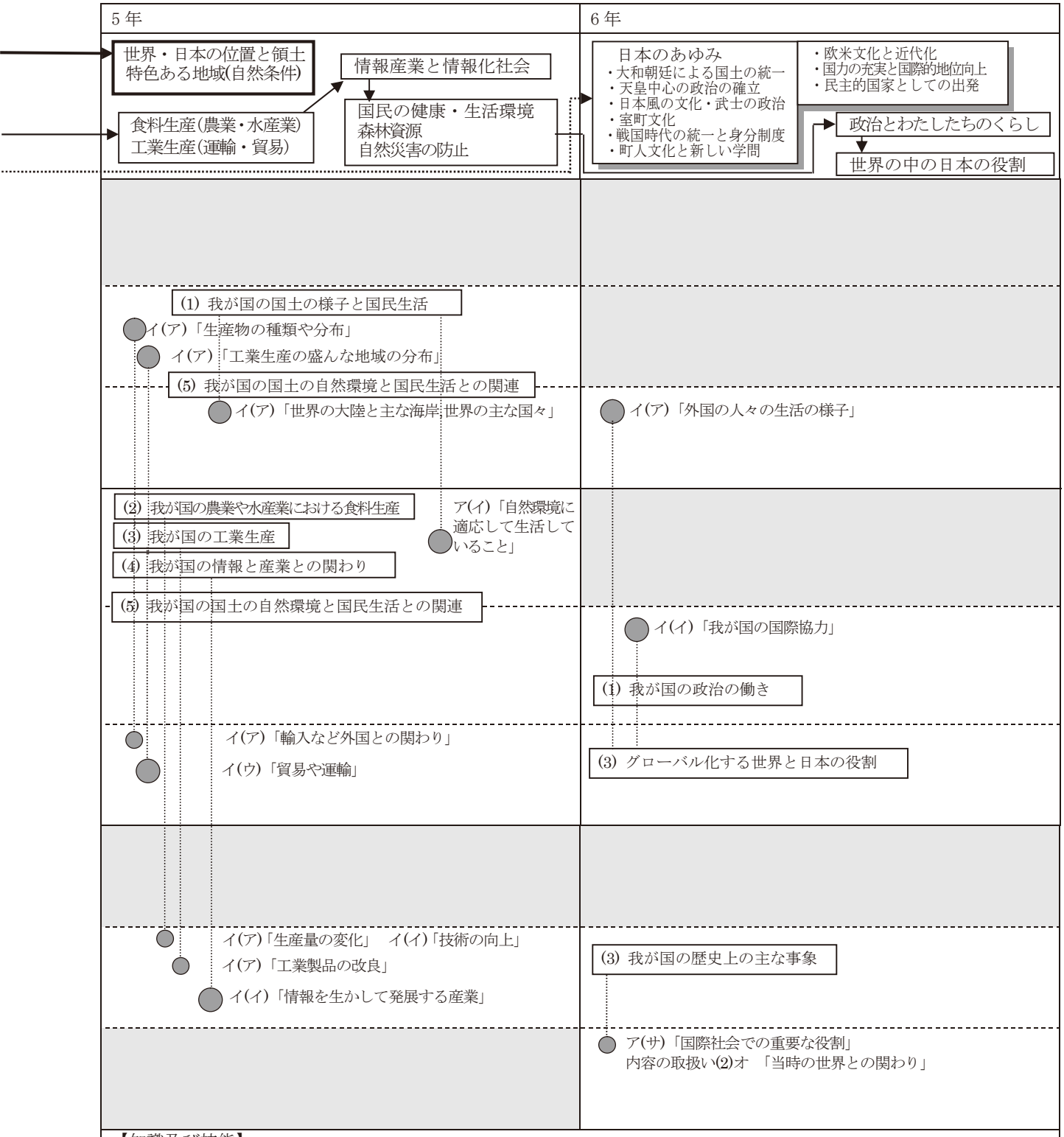
世界

育てたい力

【知識及び技能】
- 身近な地域や市区町村の地理的環境
- 地域の安全を守るための諸活動
- 地域の産業と消費生活の様子
- 地域の様子の移り変わりについて
- 自分たちの都道府県の地理的環境の特色
- 地域の人々の健康と生活環境を支える働き
- 自然災害から地域の安全を守るための諸活動
- 地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働き
- 調査活動，地図帳や各種の具体的資料を通して，必要な情報を調べまとめる技能

【思考力・判断力・表現力等】
- 社会的事象の特色や相互の関連，意味を考える力
- 社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力
- 考えたことや選択・判断したことを表現する力

【学びに向かう力，人間性等】
- 社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度
- よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度
- 思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚



【知識及び技能】

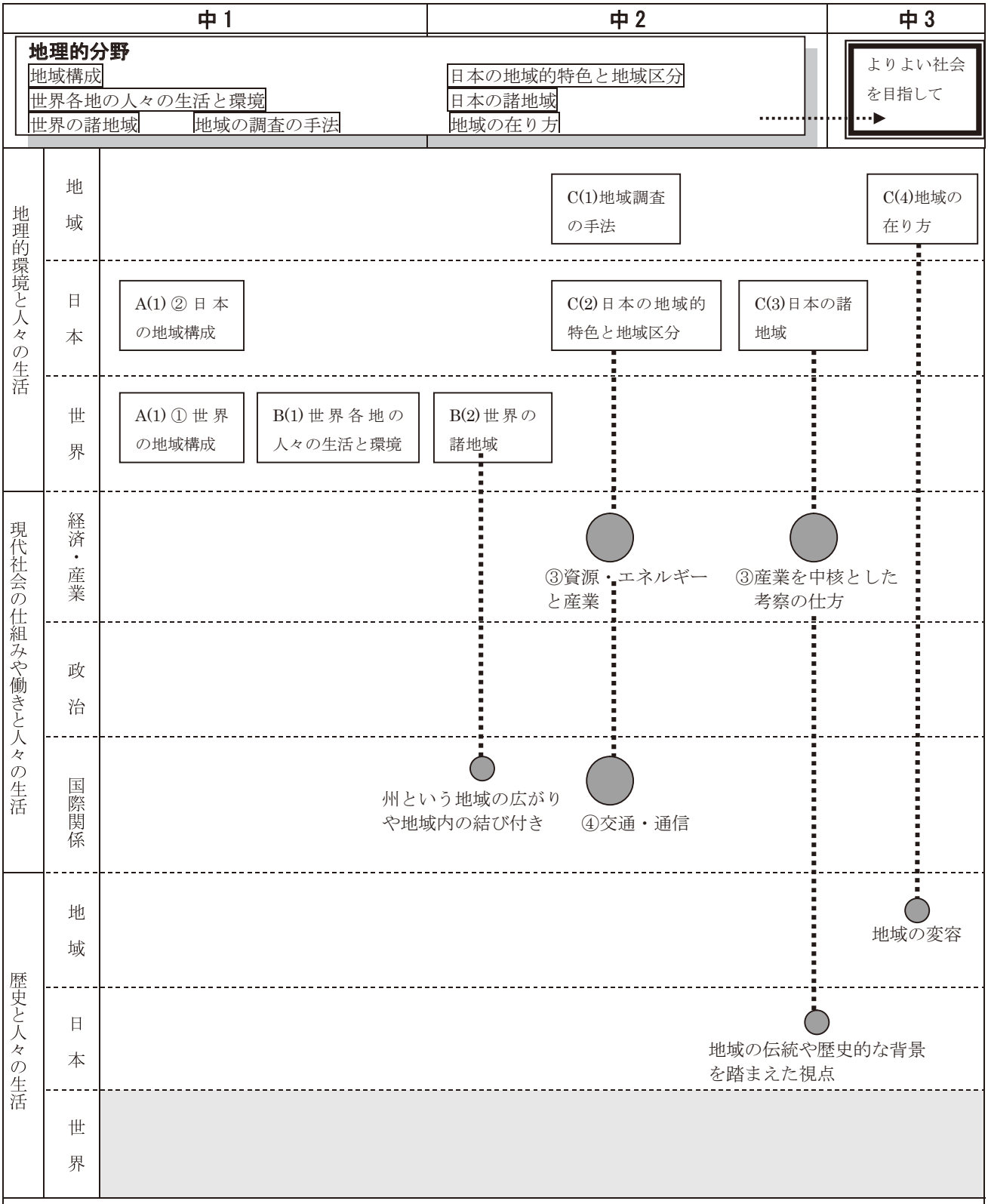
- 我が国の国土の地理的環境の特色
- 産業の現状
- 社会の情報化との関わり
- 我が国の政治の考え方と仕組みや働き
- 国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産
- 我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割
- 地図帳や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめる技能

【思考力・判断力・表現力等】

- 社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力
- 社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力
- 考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力

【学びに向かう力，人間性等】

- 社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度
- よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度
- 多角的な思考や理解を通して，我が国の国土に対する愛情，我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚
- 多角的な思考や理解を通して，我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情，我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚



【知識及び技能】

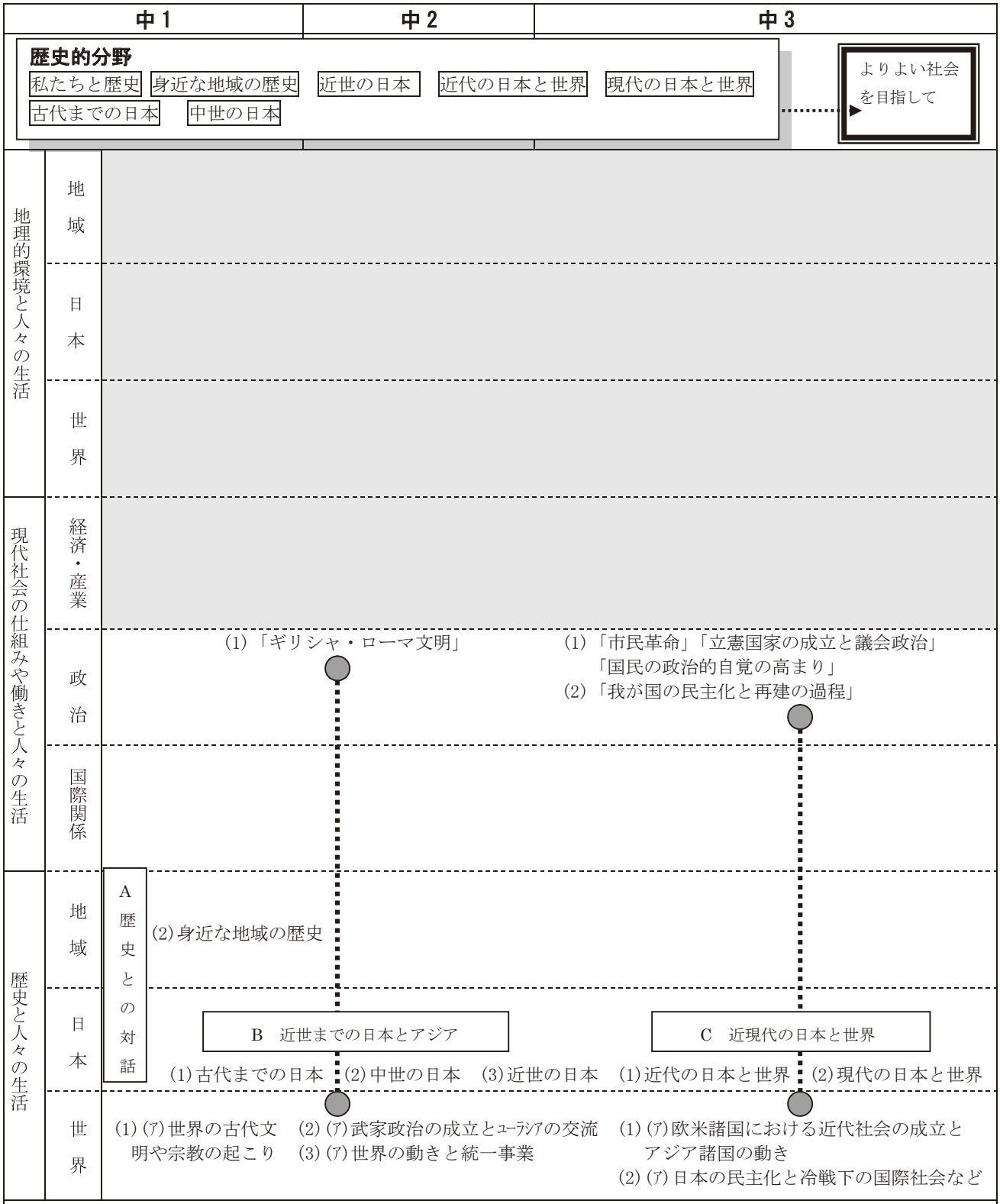
我が国の国土及び世界の諸地域に関して，地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに，調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力・判断力・表現力等】

地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域などに着目して，多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力，人間性等】

日本や世界の地域に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情，世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。



【知識及び技能】

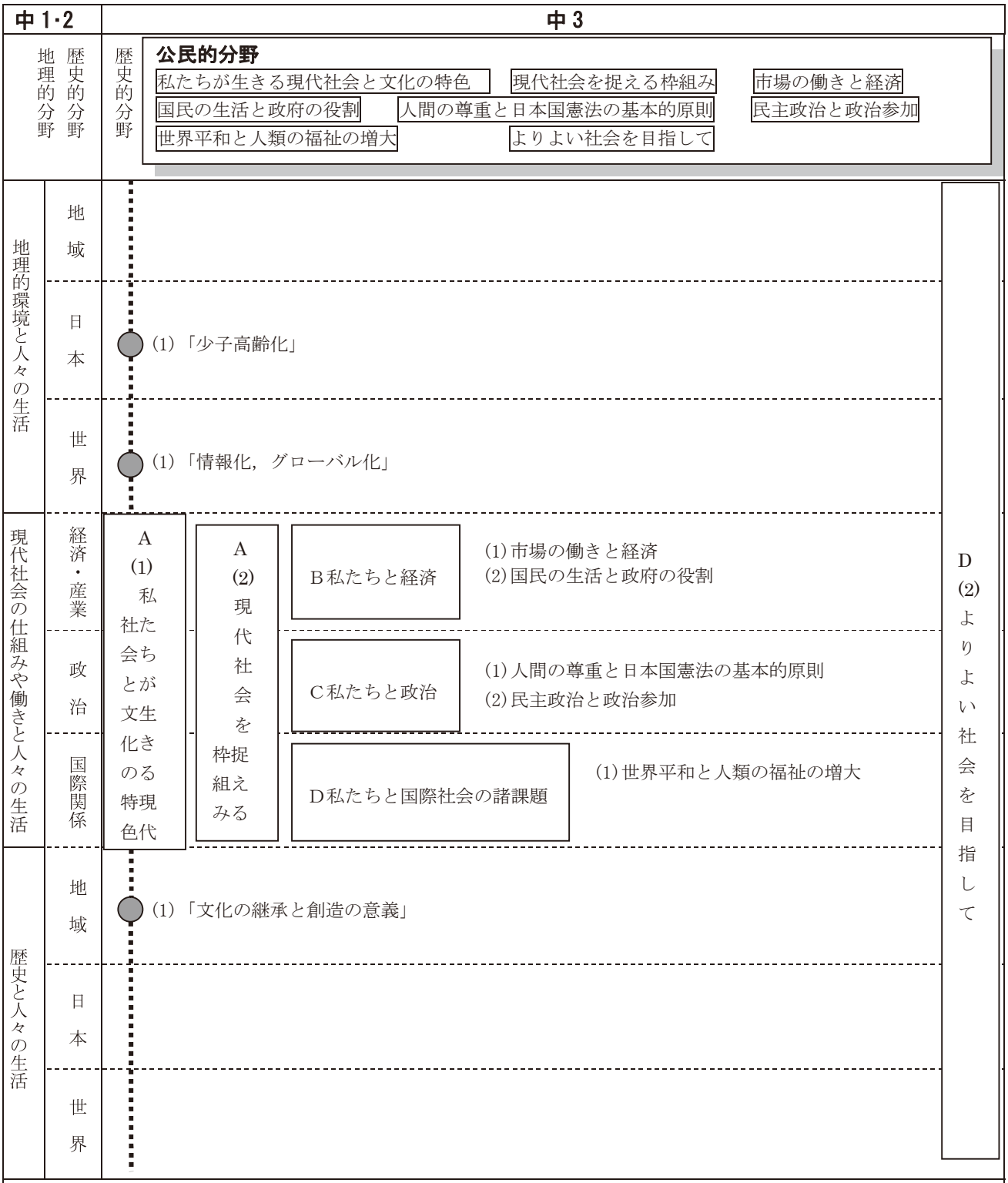
我が国の歴史の大きな流れを，世界の歴史を背景に，各時代の特色を踏まえて理解するとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力・判断力・表現力等】

歴史に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力，人間性等】

歴史に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情，国民としての自覚，国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深め，国際協調の精神を養う。



【知識及び技能】

個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し，民主主義，民主政治の意義，国民の生活の向上と経済活動との関わり，現代の社会生活及び国際関係などについて，個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに，諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力・判断力・表現力等】

社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり，現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力，人間性等】

現代の社会的事象について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

〈小中一貫カリキュラム　算数・数学　「数と計算」「数と式」領域①〉

<table>
<tr><th colspan="2">学年</th><th>小１</th><th>小２</th><th>小３</th><th>小４</th></tr>
<tr><td colspan="2">学習内容の系統</td><td>簡単な３位数
(120 程度まで)</td><td>３～４位数
(１万まで)

簡単な分数
($\frac{1}{2}$, $\frac{1}{3}$ など)</td><td>万の単位
(１億まで)
・「数直線」10 倍,100 倍
1000 倍, $\frac{1}{10}$ の大きさ
・「等号」「不等号」
小数
・「小数点」「$\frac{1}{10}$の位」
分数
・「分母」「分子」</td><td>億・兆の単位
「和」「差」「積」「商」
概数，概数の計算
(加減乗除の見積もり)
・「以上」「以下」「未満」
小数
・小数第２位以下
小数が倍を表すこと
分数
・「真分数」「仮分数」「帯分数」同値分数</td></tr>
<tr><td rowspan="2">定着のポイント</td><td>課　題</td><td>・目盛りが途中から示されている数直線上の目盛りと数との対応
・「一の位」,「十の位」の意味と用語</td><td>・数の相対的な大きさの問題
10000は，100を□こ集めた数</td><td>・数の相対的な大きさの問題
2800000は，10000を□こ集めた数
・「一万の位」などの意味と用語</td><td>・大きな数の10倍, 10でわる計算
7000億×10
６兆÷10
・概数の表し方
上から２けたまで
一万の位までの概数</td></tr>
<tr><td>つまずきを防ぐための工夫</td><td>十進位取り記数法の見方の指導
10のかたまりに着目させる活動を十分に行う

（例)43については，一の位は３，十の位は４であり，これは１が３個，10が４個ある，ということを数図カードや数え棒など具体物と対応させて確かめる</td><td>数を量として体感させる指導
数カードなどの半具体物を使った操作的活動や100のかたまり（数え棒の束）を視覚的にとらえる学習を通して抽象化してイメージし，10や100を単位にして考えるようにする</td><td>十進位取り記数法の理解を確実にする
具体物から数へと抽象化を進めて，10や100や1000を単位として考えると，１の位と同じように考えることができるようにする</td><td>位と数の大きさの関係の理解
大きな数でも，数直線上で数をよむことに慣れさせる

日常生活の中での活用の仕方を考えさせる
日常生活の中での活用の仕方を考えさせる</td></tr>
<tr><td colspan="2">育てたい力</td><td>・数えたり，等分したりして，整理して表す

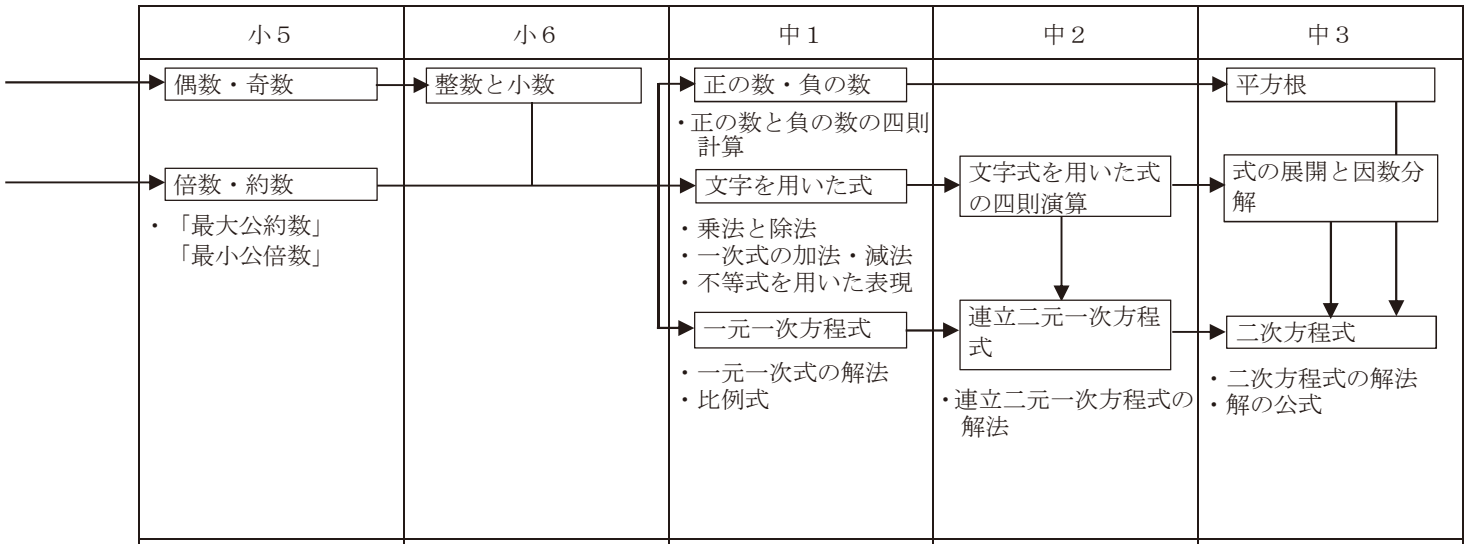
・数の意味を理解し，用いることができる</td><td>・整数が使われている場面を見付ける

・数の意味を理解し，用いることができる</td><td>・整数，小数，分数の計算の意味や仕方を考え，説明する

・小数や分数の大きさを比べる

・整数の表し方に理解を深め，用いることができる</td><td>・概数が使われる場面を見出す

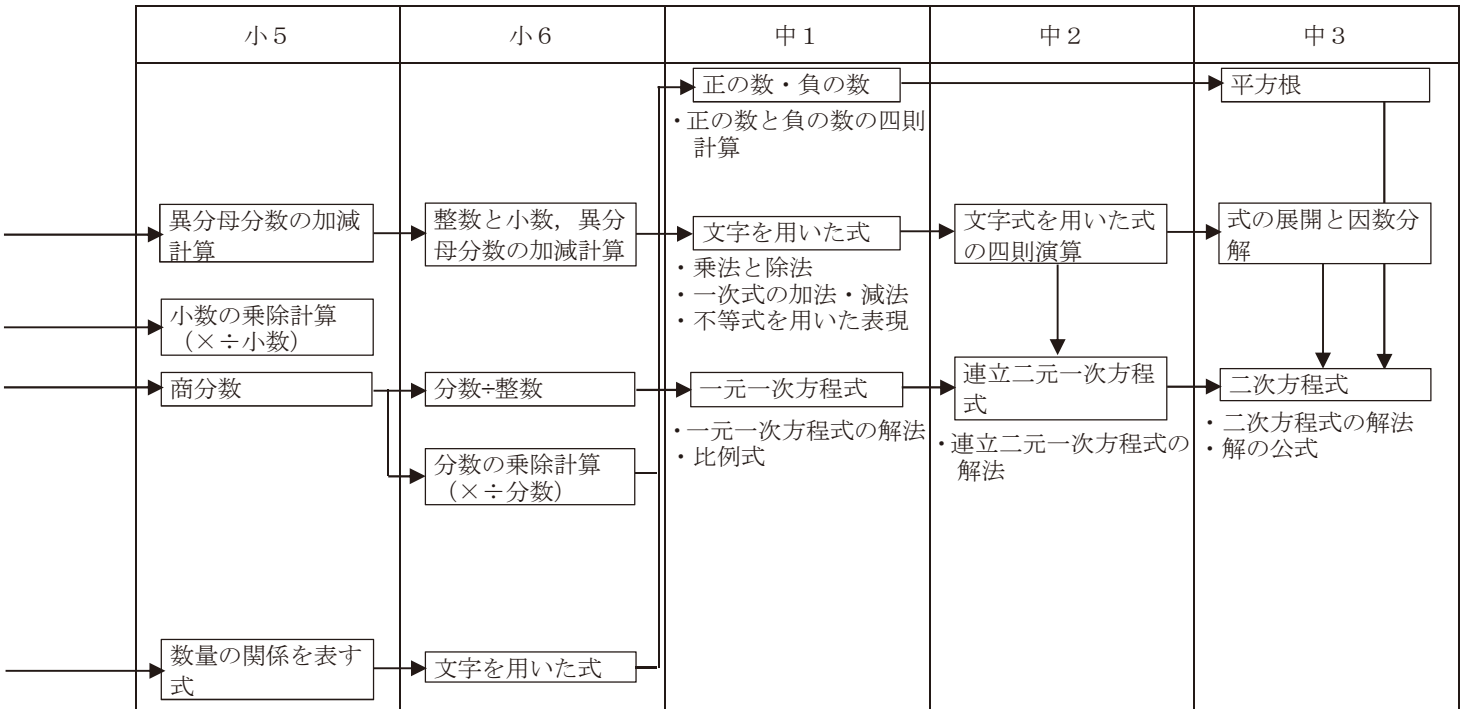
・十進位取り記数法を理解し，用いることができる</td></tr>
</table>



・小数の1/10倍，1/100倍の大きさを求める問題 310.6の1/100の数は ・分数と小数の関係 4/5は小数では ・倍数と約数の混同	・分と時間との関係 10分＝1/6時間	・分と時間との関係 10分＝1/6時間 ・負の数をひくこと ・(負の数)×(負の数)＝(正の数) ・分数を含む文字式の計算 ・文字式の表す意味 ・方程式をつくるために着目する数量	・等式変形 ・連立二元一次方程式の解法 ・二元一次方程式と一次関数	・根号を含む式の計算 ・多項式と単項式の乗法，除法 ・因数分解の意味理解 ・平方完成を用いた二次方程式の解法
十進位取り記数法の特徴の習熟 10倍では，小数点が右へ一つ動き，1/10倍では小数点が左へ１つ動く意味を考えさせる 分数の表し方や意味を考える 分数と整数，分数と小数が数としては同じであることを理解させる 具体例をもとに 具体的な事例をもとに倍数，約数の意味を丁寧に指導する 公倍数，公約数の理解へと繋げる	単位の換算の体験 分と時間との関係を割合の学習と関連付けて考えさせる	数の拡張や計算方法を理解させるための活動 数直線の活用や演繹的な計算を通して，数についての理解を深めさせる 学び直しの場の設定 分数を含む整式の計算を通して通分することの意味について理解を深めさせる 小学校との連携 小学校における学習内容を踏まえ，文字式で表すこと，式の意味を読み取ることを指導する	操作的な活動 上皿天秤などを用いる操作的な活動を通して等式の性質についての具体的なイメージをもたせる 学び直しの場の設定 代入法や加減法により(二元)→(一元)に処理することの意味を一次方程式と関連付けて指導する また，一次関数の学習の際に再度，二元一次方程式取り上げ，二元方程式の解と一次関数のグラフとの関連について考察させる	数の拡張や計算方法を理解させるための活動 日常生活にある無理数を用いて，平方根の必要性を理解させる また，電卓等を用いて平方根の計算法則を実感させることも大切である 素因数分解との関連 因数分解を学習する際に自然数の素因数分解との関連を調べ，因数分解の意味を理解させる スパイラルな指導 生徒の実態に応じたスパイラルな指導により平方完成等の式変形の技能を習得する
・小数の計算の意味や仕方を考え，説明する	・分数の計算の意味や仕方を考え，説明する	・方程式について理解し，一元一次方程式を用いて考察できる ・文字を用いて数量関係などを式に表現したり，式の意味を読み取ったりする	・連立二元一次方程式について理解し，それを用いて考察できる ・具体的な事象の中に数量の関係を見出し文字を用いて表現したり意味を読み取ったりできる	・二次方程式について理解し，それを用いて考察できる ・目的に応じて式を変形したりその意味を読み取ったりできる
・整数・小数の性質に理解を深め，計算に有効に用いることができる	・割合を表す分数について,その意味を理解し，用いることができる	・文字を用いた式の計算ができる	・文字を用いた式の四則演算ができる	・文字を用いた簡単な多項式について，式の展開や因数分解ができる

〈小中一貫カリキュラム　算数・数学　「数と計算」「数と式」領域②〉

学年		小１	小２	小３	小４
学習内容の系統		簡単な２位数の加減計算 １位数どうしの加法とその逆の減法 加減法の式による表現と読み	簡単な３位数の加減計算 乗法九九 簡単な２位数の乗法計算 ２位数どうしの加法とその逆の減法計算 加法の交換法則，結合法則 乗法の交換法則，乗数と積の関係 加減の相互関係 乗法の式による表現と読み	３～４位数の加減法筆算 簡単な小数・分数の加減計算 そろばん 乗法の筆算（Ⅱ~□×□~□） 除法(九九１回適用) 簡単な÷１位数＝２位数の除法計算 乗法の性質(交換,結合,分配) □を用いた式 除法の式による表現と読み	概数，概数の計算(加減乗除の見積り) 小数第２位以下の加減計算 同分母分数の加減計算 そろばん 小数×÷整数 除法の筆算（Ⅱ~□÷□~□） 除法の性質(A÷B=A×p÷B×p 等) 四則混合や( )の式 四則計算の性質のまとめ 数量の関係を表す式
定着のポイント	課　題	・繰り下がりのあるひき算	・繰り下がりのあるひき算	・交換・結合の法則 ２×３×２＝ ２×（３×２）	・商が２桁になるわり算の筆算
	つまずきを防ぐための工夫	10までの数の合成・分解の徹底指導 減加法・減減法を使い分けられる技能の習熟を図る	計算の意味の理解と習熟 具体物を使った丁寧な理解と定着のための継続的な習熟指導に努める かけ算の指導 九九を構成するときに図で考えたものを式に表したり式で表したものから考え方を推測したりする	関係図を活用して考える 関係図を用いて，２倍の３倍が６倍になるというような数量の関係を理解させ，四則計算のきまりに導く わり算の指導 場面を情景図や線分図などに表しながらとらえて考える 式や図を用いて自分の考えを説明する学習に取り組む	商の見通しを立てる活動の重視 簡単な２位数×１位数の暗算を事前に振返ることで，見通しを立てる活動へ繋げていく
育てたい力		・計算の意味や仕方を表す ・加法・減法の意味を理解し，用いることができる ・加法や減法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすることができる	・計算の性質やきまりを見付ける ・加法・減法の意味の理解を深め，用いることができる ・乗法の意味を理解し用いることができる ・乗法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすることができる	・加減乗除の意味や仕方を考え，説明する ・加減乗除の意味を理解し，適切に用いることができる ・そろばんを用いて加法・減法の計算ができる ・除法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすることができる	・計算の仕方や結果を適切に判断する ・除法について理解を深め，計算ができる ・整数の四則演算ができる ・小数の加減乗除を理解し用いることができる ・同分母分数の加法・減法の意味を理解し用いることができる



小５	小６	中１	中２	中３
・小数×小数，小数÷小数の問題	・分数と小数が混じった混合計算	・負の数をひくこと ・(負の数)×(負の数)＝(正の数) ・方程式をつくるために着目する数量	・等式変形 ・連立二元一次方程式の解法 ・二元一次方程式と一次関数	・根号を含む式の計算 ・多項式と単項式の乗法，除法 ・因数分解の意味理解 ・平方完成を用いた二次方程式の解法
見通しをもって計算できるようにする 小数点の処理について確実に指導する	小数を分数で表すことを考える 分数と整数，分数と小数が数としては同じであることを理解させる	数の拡張や計算方法を理解させるための活動 数直線の活用や演繹的な計算を通して，数についての理解を深めさせる 学び直しの場の設定 分数を含む整式の計算を通して通分することの意味について理解を深めさせる 小学校との連携 小学校における学習内容を踏まえ，文字式で表すこと，式の意味を読み取ることを指導する	操作的な活動 上皿天秤などを用いる操作的な活動を通して等式の性質についての具体的なイメージをもたせる 学び直しの場の設定 代入法や加減法により(二元)→(一元)に処理することの意味を一次方程式と関連付けて指導する また，一次関数の学習の際に再度，二元一次方程式取り上げ，二元方程式の解と一次関数のグラフとの関連について考察させる	数の拡張や計算方法を理解させるための活動 日常生活にある無理数を用いて，平方根の必要性を理解させる また，電卓等を用いて平方根の計算法則を実感させることも大切である 素因数分解との関連 因数分解を学習する際に自然数の素因数分解との関連を調べ，因数分解の意味を理解させる スパイラルな指導 生徒の実態に応じたスパイラルな指導により平方完成等の式変形の技能を習得する
・小数の計算の意味や仕方を考え，説明する	・分数の計算の意味や仕方を考え，説明する	・方程式について理解し，一元一次方程式を用いて考察できる	・連立二元一次方程式について理解し，それを用いて考察できる	・二次方程式について理解し，それを用いて考察できる
・整数・小数の性質の理解を深め，計算に有効に用いる ・小数の乗法・除法の意味の理解を深め，用いることができる ・同分母分数の加法・減法の意味を理解し用いることができる	・分数の乗法・除法の意味の理解を深め，用いることができる ・小数・分数の加減乗除を理解し，用いることができる	・文字を用いて数量関係などを式に表現したり，式の意味を読み取ったりする ・文字を用いた式の計算ができる	・具体的な事象の中に数量の関係を見出し文字を用いて表現したり意味を読み取ったりできる ・文字を用いた式の四則演算ができる	・文字を用いた簡単な多項式について，式の展開や因数分解ができる ・目的に応じて式を変形したりその意味を読み取ったりできる

〈小中一貫カリキュラム　算数「測定」領域（小３まで）〉　　〈算数「変化と関係」領域（小４より）〉

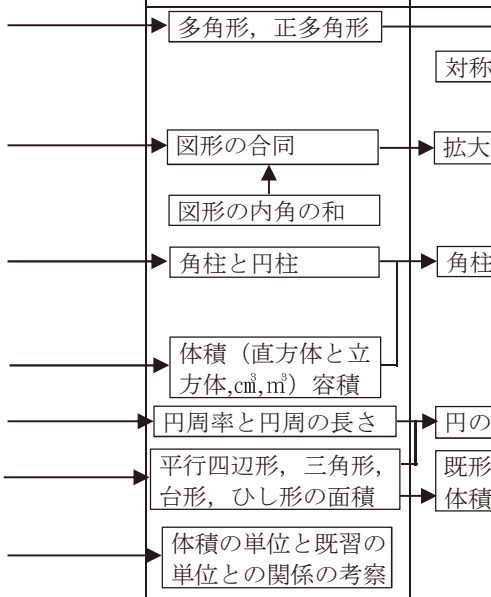
学年		小１	小２	小３	小４
学習内容の系統		長さの直接/間接比較，任意単位による測定 広さの直接/間接比較，任意単位による測定 かさの直接/間接比較，任意単位による測定 時計の読み方 ・○時，○時半，○時○分	長さの単位と測定 ・mm，cm，m かさの単位と測定 ・mL，dL，L 時刻と時間 ・日，時，分	長さの単位と測定 ・km 重さの単位と測定 ・g，kg，t 単位の関係の統合的な考察 時刻や時間の計算 ・秒	割合を用いた二つの数量の関係の比較 伴って変わる二つの数量の関係
定着のポイント	課題	・媒介物を通した間接比較の問題	・長さの単位の換算 20cm5mm＝□mm ・およその長さの見当を付けること ・体積の単位の換算 300mL＝□dL	・長さの単位の換算 ６km＝□m ・ものの長さを測るための適切な道具の選択 ・午前・正午・午後という言葉	・数量の関係を数直線図を用いて表す
	つまずきを防ぐための工夫	体験的な活動 直接比較や媒介物を通した比較を通して量の大きさについての感覚を豊かにできるようにする 任意単位のいくつ分という比べ方のよさ 体験を通して気づかせて，普遍単位の考え方の基礎を培う	普遍単位の必要性 直接比較→間接比較→普遍単位による比較と学習を進める ものさしの使い方の徹底指導 目盛りの読み方，直線の引き方は徹底指導し習熟をはかる １cm，１mの量感目測ができる 体感できる活動を丁寧に行う mL，dL，Lの量感かさの概念の理解 自分ではかる活動を大切にする	日常生活の中で量感をつかませる 実際の長さを測定したり，見積もったり，簡単な地図を利用してイメージさせる 巻尺の使い方の習熟 重さに関する体験的な活動重視 重さの概念理解，見当付け，測定器具の選択ができるようにする 文字盤のある時計 時間の計算は，文字盤のある時計をイメージさせて考える	数直線図を活用して考える 異なる二つの数量を図に表現することで比較する考え方を導く
育てたい力		・直接比べる ・他のものを用いて比べる	・およその見当を付ける ・単位を用いて測定する	・単位の関係を調べる	・図を用いて伴って変わる二つの数量の関係を考察する
		・量と測定についての理解の基礎となる経験を豊かにすることができる ・日常生活の中で時刻を読むことができる	・単位と測定の意味を理解し，用いることができる ・長さ，体積の測定ができる ・時間について理解し用いることができる	・長さについて理解を深め，用いることができる ・重さの測定ができる ・およその見当を付けることができる ・目的に応じて単位や計器を適切に選んで測定できる ・時間について理解し用いることができる	・数量の関係を表す式について理解できる

〈数学「数と式」「関数」領域〉

小５	小６	中１	中２	中３
割合(百分率) ・％ 異種の二つの量の割合 ・速さ	比 ・比の値，：	一元一次方程式	連立二元一次方程式	二次方程式
比例の定義	比例と反比例	比例と反比例	一次関数	関数 $y=ax^2$
		文字を用いた式	文字式を用いた式の四則演算	式の展開と因数分解
・数直線図を使った割合の問題の解決 ・小数を含む二量を単位量当たりで比較する ・比例する場面の選択 ・変わり方を表にまとめそのきまりを見付ける	・単位量あたりの考え方が利用できる場面の選択 ・変わり方を表に表しそのきまりを見付ける ・平均を求める ・全体を１として割合を使って考える	・関数関係の意味 ・座標の表し方 ・比例の関係の意味 ・反比例の関係の意味 ・比例，反比例の表・式・グラフ	・一次関数の値の変化 ・一次関数の式を求める ・一次関数の特徴を表，式，ｸﾞﾗﾌで捉えるとともに，それらを相互に関連付ける ・連立二元一次方程式とその解の意味	・二次方程式の必要性と意味及びその解の意味 ・関数 $y=ax^2$ について理解する ・いろいろな事象の中に，関数関係があることを理解する
割合の指導の工夫 数直線図をかいて解く指導を通して割合の概念を育てる 数直線図を活用して考える 異なる二つの数量を図に表現することで比較する考え方を導く 比例するか確かめる 比例するかどうかを実際に数値をあてはめて確かめながら考えていく	単位量あたり 考えを図で表現し，単位量あたりで考えていることの理解を深める 変わり方のきまりを見付けて 変わり方を表に表す経験を増やす 平均を量的に 平均を面積図などを使って量的にとらえて考える 割合を使う問題 数直線図，線分図などをかいて割合を考える	関数の意味 「…は…の関数である」ことの意味を理解し，数量の関係の基本的なﾓﾃﾞﾙとして比例，反比例を関数として捉え直す 文字を用いるよさ 数量の関係や法則などを，文字を用いて式に表したり，式の意味を読み取ったり，文字を用いた式の計算したりして，文字を用いるよさを知る	一次関数の決定条件 一次関数の決定条件（傾きと他の１点の座標・２点の座標）を用いて一次関数の式を求める方法を反復練習し定着させる 表,式,ｸﾞﾗﾌの相互関係 特徴を表，式，グラフで捉え，それらを相互に関連付け一次関数についての理解を深める 方程式とグラフ グラフを用いて，二元一次方程式の解の意味の理解を深める	表,式,ｸﾞﾗﾌの相互関係 関数 $y=ax^2$ の表,式,グラフに関する知識が定着した段階で，表，式，グラフを相互に関連付けることを通して，関数 $y=ax^2$ の理解を深める場面を設定する 具体的な場面で活用 具体的な問題の解決を通して，二次方程式の必要性を理解できる
・表を用いて伴って変わる二つの数量の関係を考察する	・比例の関係を用いて問題を解決する	・具体的な場面と関連付けて，一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現する	・一元一次方程式と関連付けて，連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現する	・因数分解や平方根の考えを基にして二次方程式を解く方法を考察し表現する
・簡単な比例の関係を理解できる ・数量の関係を表す式について理解できる ・百分率について理解できる	・比について理解する ・比例と反比例について理解できる	・等式の性質を基にして一元一次方程式を解く方法を考察し表現する ・比例，反比例として捉えられる二つの数量について，表式，ｸﾞﾗﾌなどを用いて調べ，それらの変化や対応の特徴を見いだす	・一次関数として捉えられる二つの数量について，変化や対応の特徴を見いだし，表，式，ｸﾞﾗﾌを相互に関連付けて考察し表現する ・一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現する	・関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量について，変化や対応の特徴を見いだし，表，式，ｸﾞﾗﾌを相互に関連付けて考察し表現す ・関数 $y=ax^2$，を用いて具体的な事象を捉え考察し表現する

〈小中一貫カリキュラム　算数・数学　「図形」領域〉

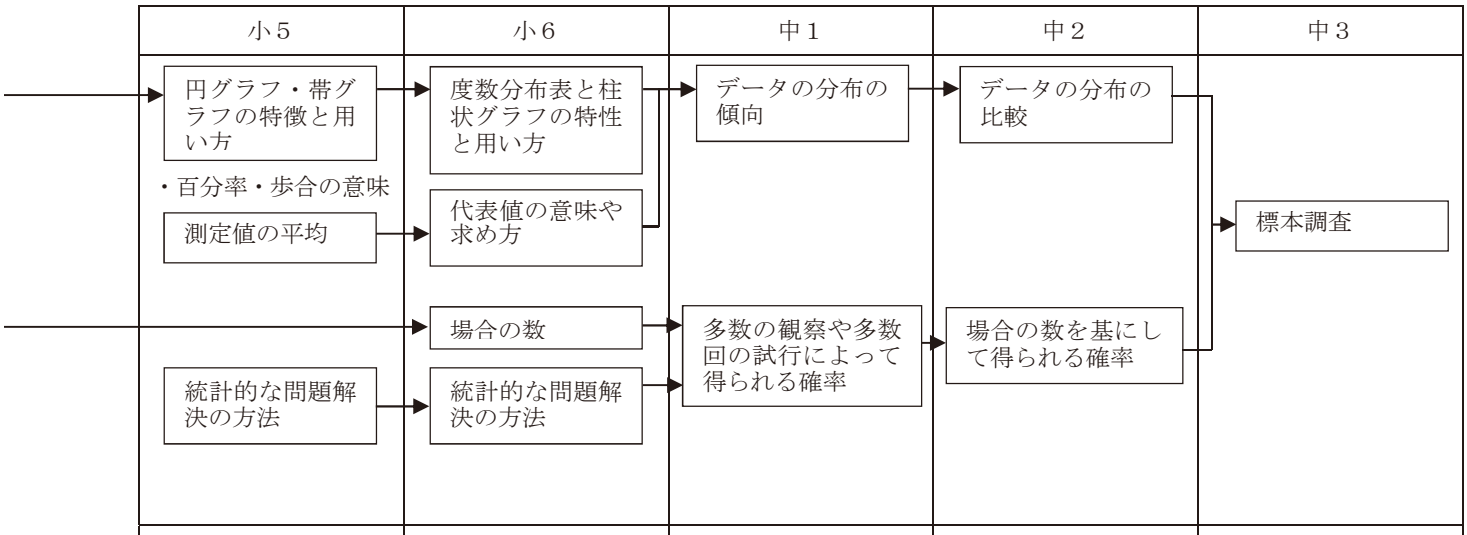
学年		小１	小２	小３	小４
学習内容の系統		前後，左右，上下などの方向や位置 立体図形の素地（観察と形作り） 平面図形の素地（観察と形作り）	三角形 四角形 ・直線 正方形，長方形 直角三角形 ・「直角」 ・「辺」「頂点」「面」 箱の形	二等辺三角形 正三角形 角 円・球	平行四辺形，台形 ひし形 ・「対角線」 「垂直」「平行」と四角形 角度 立方体と直方体，見取図，展開図 ・平面 ものの位置の表し方（平面，空間） 面積(長方形と正方形) ・㎠，㎡，㎢，a，ha 面積の単位と既習の単位との関係の考察
定着のポイント	課　題	・箱の分類に関する問題	・いろいろな三角形の中から直角三角形を探す問題 ・直角三角形を並べていろいろな形を作る	・定規とコンパスを用いた二等辺三角形や正三角形の作図 ・コンパスを用いて辺の長さをうつし取る活動 ・球の切り口の形	・三角定規を使った平行や垂直な線の作図 ・台形と平行四辺形，ひし形の特徴
	つまずきを防ぐための工夫	体験的な活動 実生活で見る立体を多く持ってきて，意欲を高めながら直接触って感覚を豊かにできるようにする	体験的な活動 紙を折ったり，格子状に並んだ点を結んでかく活動を通して，図形を構成する要素をとらえるようにする 図形の美しさを体感させる 実際にできた模様を見せて意欲を高めるようにする	コンパスの使い方の理解と習熟 辺の長さを比較する（測定する）器具でコンパスを用いる有用性を示す 明確な視点 辺の長さに着目して分類していくため，視点をはっきりと示すようにする	概念の形成 身の回りの具体物か平行な二直線や垂直な二直線を見付ける 三角定規による作図 三角定規をスライドさせて作図することの意味を十分に理解させる 辺や角に着目した分類 分類の視点をきちんと示した表で考える
育てたい力		・いろいろな形を見付ける ・形を作ったり分解したりする	・正方形や長方形，三角形をかいたり，作ったり，敷き詰めたりする	・定規やコンパスを用いて作図する	・平行四辺形やひし形台形を敷き詰める ・見取図や展開図で表現する
		・形を認めたり特徴をとらえたりすることができる ・前後，左右，上下などの言葉を正しく用いることができる	・三角形，四角形を理解できる ・正方形，長方形，直角三角形を理解できる ・箱の形を理解できる	・二等辺三角形，正三角形を理解できる ・角を理解できる ・円，球を知り，それらの中心，半径，直径について理解できる	・平行や垂直の関係を理解できる ・平行四辺形，ひし形，台形を理解できる ・立方体，直方体を理解できる ・直線や平面の平行や垂直の関係について理解できる



小５	小６	中１	中２	中３
多角形，正多角形 図形の合同 図形の内角の和 角柱と円柱 体積（直方体と立方体,cm³,m³）容積 円周率と円周の長さ 平行四辺形，三角形，台形，ひし形の面積 体積の単位と既習の単位との関係の考察	対称な図形 拡大図と縮図 角柱，円柱の体積 円の面積 既形による面積や体積の概測	平面図形 ・基本的な作図 ・図形の移動 空間図形 ・直線や平面の位置関係 ・投影図 ・球の表面積・体積	基本的な平面図形と平行線の性質 ・平行線と角 ・多角形の角 図形の合同 ・三角形の合同条件 ・証明	円周角と中心角 図形の相似 ・三角形の相似条件 ・図形の基本的な性質 ・平行線と線分の比 ・相似な図形の相似比，面積比，体積比
・立体の展開図や見取図をかく ・面や辺の位置関係（平行・垂直） ・対応する頂点や辺，角	・縮図や拡大図の作図 ・縮図をかいて実際の長さを求める問題 ・点対称の図形をかく問題	・基本的な作図 ・線対称と点対称 ・四角錐の表面積 ・回転体（円錐）の体積 ・円柱と円錐の体積比	・図形の性質や条件を記号を用いて表す ・多角形の内角の和 ・証明の意義や必要性 ・三角形の合同条件	・相似な図形の意味 ・相似条件を用いた証明 ・平行線と線分の比 ・三平方の定理
立体の作成 多くの展開図を自分で作成し，実際に立体を作る 空間認識を育む 立体図形を触り，いろいろな角度から見る経験をしながら辺や面を理解させる 体験的な活動 図形を自由に動かして対応する辺や角を実際に探す	日常生活に活用する コピーなどでよく使っている実物を提示することで見当をつけ，拡大縮小の概念を形成させる 対称な図形の作図 特に点対称の図形は念頭操作では分かりにくいため，実際に図形を動かしてみることが大切である また，対称性の美しさにも目を向ける	数学的活動 作図の手順を一歩的に与えるのではなく図形の対称性に着目したりして自分で作図の手順を考え，その手順を順序良く説明する活動を大切にする 観察，操作，実験 また，立体の学習では，実態模型等を用いた活動を通して理解を深めるとともに図形の計量についての能力を伸ばす	観察，操作，実験 合同図形について観察や操作的な活動を通して実感し，合同条件の理解を深める また，証明の必要性を理解するためには観察，操作や実験などの活動によって帰納的に導かれたものと演繹的に導かれたものの違いを理解することも大切である 数学的活動 四角形や五角形などの内角の和を帰納的に調べて，きまりを見いだしその理由を三角形の内角の和が180°に基づいて明らかにする	観察，操作，実験 三角形の相似や平行線の比について観察や操作的な活動を通して実感し，合同条件の理解を深める また，三平方の定理では方眼紙のます目を利用して直角三角形をかき，その周りにできる正方形の面積に着目し，観察操作や実験などの活動を通して学習することも有効である スパイラルな指導 スパイラルな指導計画に基づいて証明技能の定着を図る
・合同な図形をかいたり，作ったりする ・帰納的に説明したり演繹的に説明したりする ・見取図や展開図をかく	・身の回りの縮図や拡大図，対称的な図形を見付ける	・論理的に考察し表現できる	・図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ論理的に考察し表現できる	・図形の性質を三角形の相似条件などで確かめ，相似な図形の性質を用いて考察できる
・多角形や正多角形を理解できる ・合同を理解できる ・円周率について理解できる ・角柱や円柱について理解できる	・縮図や拡大図を理解できる ・対称な図形を理解できる	・活動を通して考察し空間図形について理解できる ・図形の計量ができる ・見通しをもって作図し，図形の関係について理解できる	・図形の合同について理解できる ・基本的な平面図形の性質を基にしてそれらを確かめることができる	・活動を通して円周角や中心角の関係を見出して理解できる ・活動を通して三平方の定理を見出して理解できる

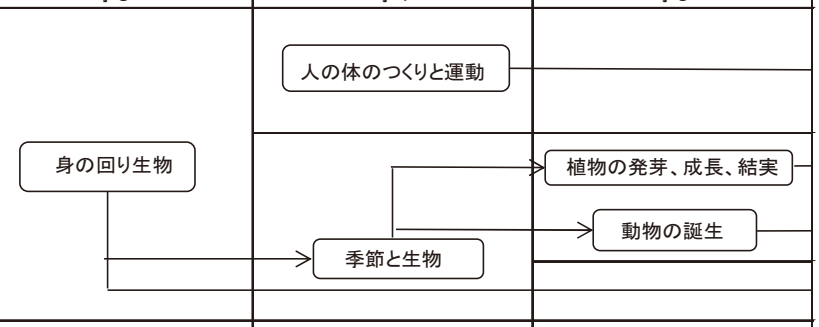
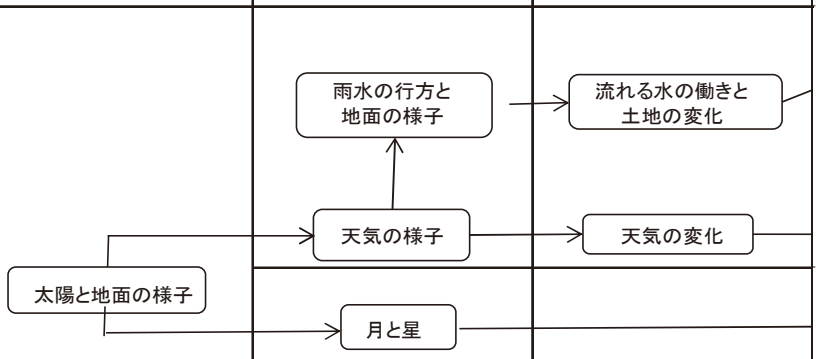
〈小中一貫カリキュラム　算数・数学「データの活用」領域〉

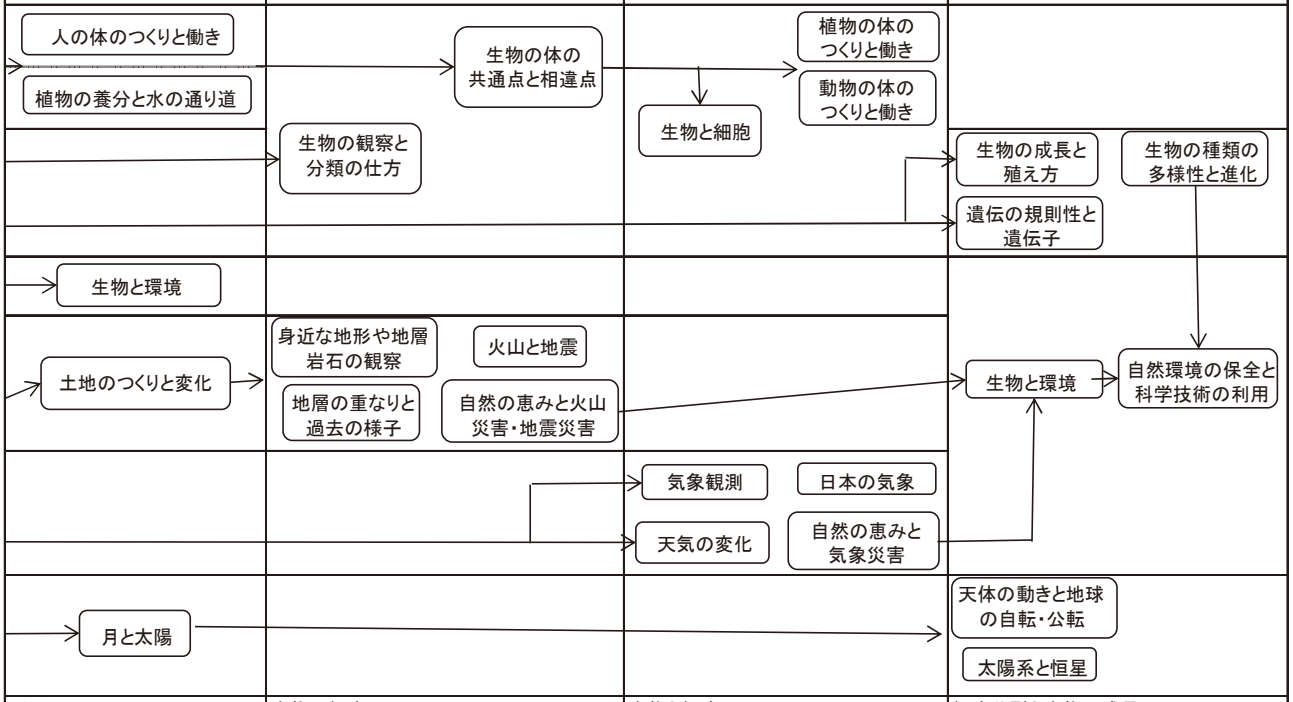
<table>
<tr><th colspan="2">学年</th><th>小１</th><th>小２</th><th>小３</th><th>小４</th></tr>
<tr><td colspan="2">学習内容の系統</td><td>ものの個数の簡単な絵，図への表現と読み</td><td>簡単なグラフへの表現と読み
簡単な表への表現と読み
数を用いて事象を整理分類</td><td>棒グラフの特徴と用い方
・最小目盛り 2,5,20,50 等の棒グラフ
二次元表の意味と読み
資料の分類整理</td><td>折れ線グラフの特徴と用い方
二次元表の読み
二重の観点での資料の分類整理</td></tr>
<tr><td rowspan="2">定着のポイント</td><td>課　題</td><td>・ものの個数に対応して絵や図で表現する</td><td>・表やグラフから特徴を読み取ること</td><td>・棒グラフの項目の取り方や並べ方，表題の付け方，目盛りの付け方</td><td>・資料を二つの観点から分類整理して表を用いて表す</td></tr>
<tr><td>つまずきを防ぐための工夫</td><td>図の大きさを揃えたり，均等に配置したりする工夫
数や順序を〇などの図で表す</td><td>特徴を読み取る活動を重視
身の回りにあるいろいろな数量を分類整理して，数えたものを表やグラフに表したときに，大きさが比べやすいことや違いを読み取りやすいことに気付かせる</td><td>複数のグラフの比較や用紙の選択
同じグラフを異なる目盛りの付け方で表した複数のグラフを比較したり，適切な用紙を選択したりする</td><td>身近で具体的な資料を分類整理する
身近で具体的な資料を使って，順序よく数えたり，起こり得る場合を整理したり数えた資料に色や印をつけたりして，二つの観点であっても落ちや重なりがないように考える</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">育てたい力</td><td>・具体的な場面を図や式に表す</td><td>・身の回りにある数量を分類整理して，簡単な表やグラフを用いて表す</td><td>・表や棒グラフをかいたり読んだりする
・資料を分類整理し，表を用いて表す</td><td>・表や折れ線グラフなどを用いて表し，数量の関係を調べる</td></tr>
<tr><td>・ものの個数を絵や図を用いて表したり読み取ったりすることができる</td><td>・身の回りの数量を分類整理し，簡単な表やグラフで表したり読みとったりすることができる</td><td>・棒グラフの読み方やかき方について理解できる</td><td>・折れ線グラフの読み方やかき方について理解できる
・落ちや重なりがないように資料を調べる
・資料を二つの観点から分類整理できる</td></tr>
</table>



小５	小６	中１	中２	中３
・円グラフや帯グラフの読み取り	・ねらいにあった資料の整理をする ・落ちや重なりがないように調べる	・ヒストグラムや相対度数の必要性と意味 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味	・四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味 ・箱ひげ図で表すこと ・確率の必要性と意味 ・確率を求めること	・標本調査の必要性と意味 ・無作為抽出による標本調査 ・標本調査による母集団の傾向の理解
いろいろな場面でグラフをかいたり読んだりする いろいろな場面で棒グラフ，折れ線グラフ，円グラフや帯グラフをかいたり，読んだりすることで，表やグラフを活用できるようにする	資料の平均 集団の特徴を表す値として平均が用いられることに触れる 散らばりの様子 平均が同じであっても散らばりの様子によって資料の特徴がかわることに気付かせる 整理して考える過程を重視 結果を明らかにするより，具体的な事実に即して，図や表を用いて表しながら，順序よく調べていく過程を重視して指導する	資料の傾向 ヒストグラムから資料の傾向を読み取る場合，階級の幅の異なる複数のヒストグラムを作り検討することが必要である 操作，実験，調査 実験に多数回の試行を行うなどの経験を通して，あることがらの起こる割合が，一定の値に近づくことを実感を伴って理解できるようにする	資料の比較 四分範囲や箱ひげ図を活用するだけでなく，必要に応じてこれまでに学習した代表値やヒストグラムなども活用して多面的に考察すること 日常生活との関連 確率を求めることだけを目的とするのではなく，不確定な事象を捉え説明したり，目的に応じて判断したりすることを重視する	日常生活との関連 日常生活の具体的な事象を用いて，全数調査と比較するなどして標本調査の必要性と意味の理解を深める PCの利用 大量のデータの整理をする場合や，大きな数，端数のある数を扱う場合は，コンピュータ等を利用することで効率化を図る
・目的に応じて表やグラフを選び，活用する ・データに基づいた問題解決の方法で考察する	・統計的に考察したり表現したりする ・目的に応じてデータを収集したり，適切な方法を選択したりできる	・目的に応じてデータを収集して分析し，そのデータの分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断する	・四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り，批判的に考察し判断する	・標本調査の方法や結果を批判的に考察し，表現する
・円グラフや帯グラフを用いて表したり，特徴を調べたりすることができる ・測定値の平均について理解できる	・資料の平均や度数分布を表す表やグラフについて理解できる ・起こりうる場合を順序よく調べることができる	・多数の観察や多数回の試行の結果を基にして，不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現する	・同様に確からしいことに着目し，場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現する ・確率を用いて不確定な事象を捉えて考察し表現する	・簡単な場合について標本調査を行い，母集団の傾向を推定し判断する

小中一貫カリキュラム　理科　（生命・地球）

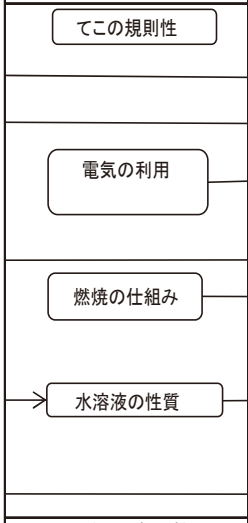
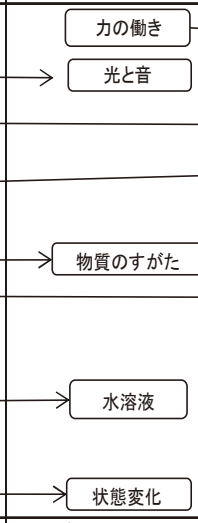
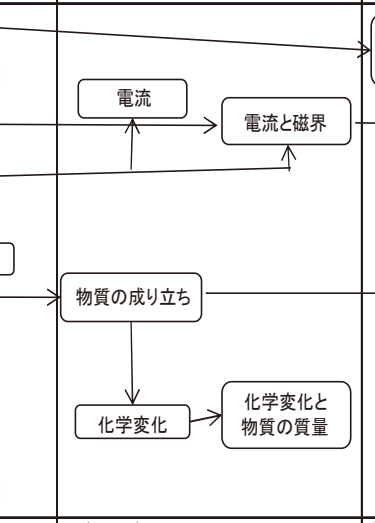
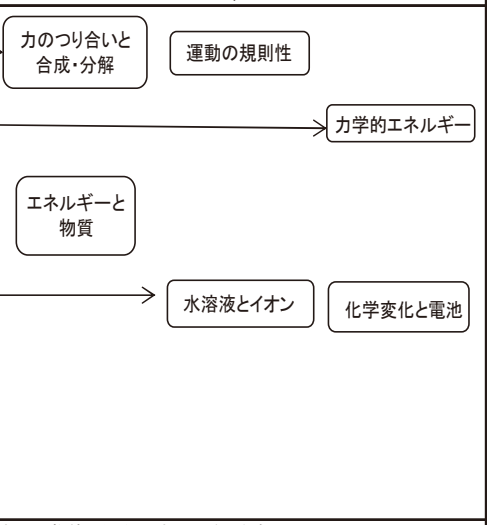
	学年	小1	小2	小3	小4	小5
学習内容の系統	生物の構造と機能	生活科				
	生命の連続性					
	生物と環境の関わり					
	地球の内部と地表面の変動					
	地球の大気と水の循環					
	地球と天体の運動					
	内容項目	学校と生活 家庭と生活 地域と生活 公共物や公共施設の利用 季節の変化と生活 自然や物を使った遊び 動植物の飼育・栽培 生活や出来事の伝え合い 自分の成長		身の回りの生物と環境との関わり 昆虫の成長と体のつくり 植物の成長と体のつくり	骨と筋肉 骨と筋肉の働き 動物の活動と季節 植物の成長と季節	種子の中の養分 発芽の条件 成長の条件 植物の受粉、結実 卵の中の成長 母体内の成長
				日陰の位置と太陽の位置の変化 地面の暖かさや湿り気の違い	地面の傾きによる水の流れ 土の粒の大きさと水のしみ込み方 天気による1日の気温の変化 水の自然蒸発と結露 月の形と位置の変化 星の明るさ、色 星の位置の変化	流れる水の働き 川の上流・下流と川原の石 雨の降り方と増水 雲と天気の変化 天気の変化の予想
定着のポイント	観察・実験	身近な自然の観察（公園・野原・川など） 四季の変化 動植物の飼育・栽培		昆虫や植物の成長過程と体のつくり 身の回りの生物の様子やその周辺の環境とのかかわり 日陰の位置の変化と太陽の動き　日向と日陰の地面の様子	人や他の動物の体のつくりと運動との関係 動物の活動や植物の成長の季節との関係 天気と気温の変化　水と水蒸気 月や星の動き	植物の発芽や成長・受粉・結実 動物の発生や成長 流水の働きと土地の変化 天気の変化
	器具の操作技能	はさみ、のり、セロハンテープ		観察器具の操作（虫眼鏡　携帯型顕微鏡　方位磁針　遮光板）、測定器具の操作(温度計)	観察器具の操作（虫眼鏡　温度計　方位磁針）測定器具の操作（自動記録温度計）	観察器具の操作（顕微鏡　解剖顕微鏡）
	つまづきを防ぐための工夫	身近な自然を観察したり，生き物を飼ったり育てたりする		虫眼鏡、携帯顕微鏡を繰り返し操作する 飼育や栽培などの直接体験を重視して継続観察を行う 絵や文で観察したことを表現する	直接体験を重視して年間を通して継続観察を行う 絵や文で観察したことを、気温などと関係づけて表現する	条件を制御して、変える条件・変えない条件を明確にして、実験する 顕微鏡等の名称を理解して、繰り返し操作する
育成する資質・能力	思考力・判断力・表現力	体験を通して、気づいたことや考えたことなどを言葉、絵や動作化等多様な方法で、他者と伝え合ったり、振り返ったりすること		（比較しながら調べる活動を通して） 自然の事物・現象について追究する中で、差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現すること	（関係付けて調べる活動を通して） 自然の事物・現象について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること	（条件を制御しながら調べる活動を通して） 自然の事物・現象について追究する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること
	学びに向かう力、人間性等	自然に自ら働きかけ，意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。		主体的に問題を解決しようとする態度を養う 生物を愛護する（生命を尊重する）態度を養う		



小6	中1	中2	中3
呼吸 消化・吸収 血液循環 主な臓器の存在 でんぷんのでき方 水の通り道 生物と水、空気との関わり 食べ物による生物の関係 （水中の小さな生物を含む） 人と環境	生物の観察 生物の特徴と分類の仕方 植物の体の共通点と相違点 動物の体の共通点と相違点 （中2から移行）	生物と細胞 葉・茎・根のつくりと働き （中1から移行） 生命を維持する働き 刺激と反応	細胞分裂と生物の成長 生物の殖え方 遺伝の規則性と遺伝子 生物の種類の多様性と進化 （中2から移行） 自然界のつり合い 自然環境の調査と環境保全 地域の自然災害 自然環境の保全と科学技術の利用 （第1分野と共通）
土地の構成物と地層の広がり （化石を含む） 地層のでき方 火山の噴火や地震による土地の変化 月の位置や形と太陽の位置	身近な地形や地層、岩石の観察 地層の重なりと過去の様子 火山活動と火成岩 地震の伝わり方と地球内部の働き 自然の恵みと火山災害・地震災害 （中3から移行）	気象要素（圧力（中1の第1分野からの移行）を含む） 気象観測 霧や雲の発生 前線の通過と天気の変化 日本の天気の特徴 大気の動きと海洋の影響 自然の恵みと気象災害（中3から移行）	日周運動と自転 年周運動と公転 太陽の様子 惑星と恒星 月や金星の運動と見え方
人や他の動物の体のつくりとはたらき 植物の体内の水などの行方や葉で養分を作る働き 土地のつくりと変化　月の位置や形と太陽の位置	校庭や学校周辺の生物の観察 動植物の体のつくり 身近な地形や地層、岩石の観察 火山岩、深成岩の観察	植物と動物の細胞のつくり 植物の葉、茎、根のつくり 光合成、呼吸、蒸散のはたらき 消化、呼吸 外界の刺激に対する反応 大気圧の実験 霧や雲の発生	細胞分裂と生物の成長 植物の根端の観察 天体の日周運動の観察 星座の年周運動の観察 太陽の南中高度の観察 太陽や月の観察
測定器具の操作（気体検知管指示薬）、観察器具の操作（双眼鏡　双眼実体顕微鏡等）	観察器具の操作 観察記録の仕方 分類の仕方の基礎	観察器具の操作 観察記録の仕方	観察器具の操作 観察記録の仕方
顕微鏡を確実に操作する 人や植物の体のつくりと働きについて理解する 環境とのかかわりや環境問題について、水や空気、生物と関係づけて考える	顕微鏡については個別化を進め、操作方法・観察方法の習得を図る。 対照実験の条件設定を理解する。 地震波の到達時刻と震源地からの距離との関係を表すグラフを理解する。	生命を尊重する態度を養う。 実験、観察を通して、生物の各器官の働きについて理解する。 露点、湿度について飽和水蒸気量のグラフを通して理解する。	生命の連続性についての意識と生命尊重の態度を養う。 モデルを活用するなど、遺伝子の微視的な事柄や遺伝の仕組みを理解する。 観察者の視点から天体の動きを空間的に認識する。
（多面的に調べる活動を通して） 自然の事物・現象について追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現すること	問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、【規則性、関係性、共通点や相違点、分類するための観点や基準】を見いだして表現すること	見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、【規則性や関係性】を見いだして表現すること	見通しをもって観察、実験などを行い、その結果（や資料）を分析して解釈し、【特徴、規則性、関係性】を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること 観察、実験などを行い、自然環境の保全と科学技術の在り方について、科学的に考察して判断すること
	生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う		

小中一貫カリキュラム　理科　（エネルギー・粒子）

	学年	小1	小2	小3	小4	小5
学習内容の系統	エネルギーの捉え方	生活科		風とゴムの力の働き 光と音の性質		振り子の運動
	エネルギーの変換と保存			磁石の性質 電気の通り道	電流の働き	電流がつくる磁力
	エネルギー資源の有効利用					
	粒子の存在				空気と水の性質	
	粒子の結合					
	粒子の保存性			物と重さ		物の溶け方
	粒子のもつエネルギー				金属、水、空気と温度	
	内容項目	学校と生活 家庭と生活 地域と生活 公共物や 公共施設の利用 季節の変化と生活 自然や物を使った遊び 動植物の飼育・栽培 生活や出来事の 伝え合い 自分の成長		風の力の働き ゴムの力の働き 光の反射・集光 光の当て方と明るさや暖かさ 音の伝わり方と大小 磁石に引き付けられる物 異極と同極 電気を通すつなぎ方 電気を通す物	乾電池の数とつなぎ方	振り子の運動 鉄心の磁化、極の変化 電磁石の強さ
				形と重さ 体積と重さ	空気の圧縮 水の圧縮 温度と体積の変化 温まり方の違い 水の三態変化	重さの保存 物が水に溶ける量の限度 物が水に溶ける量の変化
定着のポイント	観察・実験	身近な自然の観察 （公園・野原・川など） 四季の変化 動植物の飼育・栽培		風やゴムの働きや力を働かせたときの現象の違い 光の明るさや暖かさの違い 磁石に付く物と付かない物 電気を通す通さないつなぎ方 電気を通す物と通さない物 物の形や体積，重さなどの違い	乾電池のつなぎ方によって変わる回路を流れる電流の強さ 空気及び水の体積の変化や圧し返す力とそれらの性質 温度の変化と金属，水及び空気の温まり方や体積の変化	振り子の運動の規則性 電流の働き 物が水に溶ける規則性
	器具の操作技能	はさみ、のり、セロハンテープ		観察器具の操作（虫眼鏡、温度計等） 実験器具の操作（乾電池 豆電球 導線） 測定器具の操作（てんびん等）	実験器具の操作（簡易検流計 乾電池 豆電球 導線 発光ダイオード）加熱器具の操作（マッチ ガスライター 実験用ガスコンロ等）	実験器具の操作（電磁石、ふりこ等） 測定器具の操作（メスシリンダー ピペット ガラス棒 はかり（電子天秤・上皿天秤））加熱器具の操作
	つまづきを防ぐための工夫	自然の現象を利用して遊ぶ		数値化による比較 単位の適切な活用	三態（固体・液体・気体）における体積変化や熱伝導等の性質の違いに着目する	実験を複数回行い、その結果を処理する際には、算数科の学習と関連づけて適切に処理する。
	ものづくり	身近にあるものを利用したおもちゃ		風・ゴム・磁石の力で動く物 回路の性質を利用した物 スイッチ テスター	乾電池を用いた動くもの	簡易メトロノーム モーター クレーン
育成する資質・能力	思考力・判断力・表現力	ものづくり等で気づいたことや考えたことなどを言葉、絵や動作化等多様な方法で、他者と伝え合ったり、振り返ったりすること		（比較しながら調べる活動を通して） 自然の事物・現象について追究する中で、差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現すること	（関係付けて調べる活動を通して） 自然の事物・現象について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること	（条件を制御しながら調べる活動を通して） 自然の事物・現象について追究する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること
	学びに向かう力、人間性等	自然に自ら働きかけ，意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。		主体的に問題解決しようとする態度を養う。		

小6	中1	中2	中3
			
てこのつり合いの規則性 てこの利用 発電、蓄電 電気の変換 電気の利用	力の働き 光の反射・屈折 （光の色を含む） 凸レンズの働き 音の性質	回路と電流・電圧 電流・電圧と抵抗 電気とそのエネルギー （電気による発熱を含む） 静電気と電流 （電子、放射線を含む）	水中の物体に働く力（水圧、浮力を含む） 運動の速さと向き 力と運動 仕事とエネルギー 力学的エネルギーの保存 エネルギーとエネルギー資源（放射線を含む） 様々な物質とその利用（プラスチックを含む） 科学技術の発展
燃焼の仕組み 酸性、アルカリ性、中性 気体が溶けている水溶液 金属を変化させる水溶液	身の回りの物質とその性質 気体の発生と性質 水溶液 状態変化と熱 物質の融点と沸点	物質の分解 原子・分子 化学変化 化学変化における酸化と還元 化学変化と熱 化学変化と質量の保存 質量変化の規則性	原子の成り立ちとイオン 酸・アルカリ 中和と塩 金属イオン 化学変化と電池
てこの規則性 電気の性質や働き 物の燃焼と空気の変化 水溶液の性質	光の反射・屈折 凸レンズによる像のでき方 音の伝わり方 2力がつり合う条件 気体の種類と発生 再結晶 状態変化物質の融点、沸点 沸点の違いによる物質の分離	電流と電圧の関係 静電気の起こり方 磁界と磁力線 コイルのまわりの磁界 電磁誘導 物質の生成 金属の酸化、酸化物の還元 化学変化による熱の出入り 質量保存の法則	水圧、浮力 合力や分力の規則性 物体の運動 仕事、仕事率 力学的エネルギーと仕事 酸とアルカリの性質 金属と電解質溶液の反応 電池の基本的な仕組み
実験器具の操作（燃焼実験、てこ実験器、水溶液の実験、手回し発電機、コンデンサ等）、測定器具の操作(気体検知管）観察器具の操作(顕微鏡)	実験器具の操作 記録の仕方 気体の発生方法、捕集方法	器具の操作、火の取扱い 試薬や廃棄物の適切な取扱い	試薬や廃棄物の適切な取扱い
関係を表などに整理する。 反比例の学習と関連を図る。	グラフの作成の基礎 粒子のモデルを用いた微視的な見方・考え方	電流と電圧の関係のグラフ 原子や分子のモデルと関連付けてみる微視的な見方・考え方	物体の運動とグラフ イオンのモデルと関連付けてみる微視的な見方・考え方
てこやてんびんを利用したはかり　風力発電や蓄電器を利用して動くもの。プログラミングを使ったエネルギーの有効利用		簡易モーターの作成 鉄粉の酸化を利用したカイロ	電池づくり
（多面的に調べる活動を通して）自然の事物・現象について追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現すること	問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、【規則性、関係性、共通点や相違点、分類するための観点や基準】を見いだして表現すること	見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、【規則性や関係性】を見いだして表現すること	見通しをもって観察、実験などを行い、その結果（や資料）を分析して解釈し、【特徴、規則性、関係性】を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること 見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するとともに、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること
	物質やエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う		

小中一貫カリキュラム　外国語活動・外国語

<table>
<tr><th colspan="2">学　年</th><th>小３　　小４</th><th>小５　　小６</th></tr>
<tr><td rowspan="3">学習内容の系統</td><td>目標</td><td colspan="2">コミュニケーション能力の「素地」を養う
①言語や文化について体験的な理解
②外国語で自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地
③主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度</td><td>コミュニケーション能力の「基礎」を養う
①外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの理解
②目的や場面、状況などに応じて、外国語で自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の基礎
③主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度</td></tr>
<tr><td>５つの領域別の目標</td><td colspan="2">聞くこと
簡単な語句を聞き取る。文字の読み方が発音されるのを聞いて、どの文字であるか分かるようにする。</td><td>簡単な語句や基本的な表現や具体的な情報を聞き取り、短い話の概要を捉えられるようにする。
読むこと
活字体で書かれた文字を識別し、その読み方の発音や簡単な語句、表現の意味が分かるようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">話すこと（やりとり）
挨拶、感謝、簡単な指示や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や表現を用いて伝え合うようにする。</td><td>指示、依頼や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や表現を用いて伝え合うことができるようにする。
話すこと（発表）
実物などを見せながら、自分の考え、気持ちなどを基本的な表現を用いて話すようにする。</td><td>内容を整理した上で、自分の考え、気持ちなどを基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと
大文字、小文字を活字体で書き、簡単な語句、基本的な表現を書き写すことができるようにする。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">定着のポイント</td><td>課題・工夫</td><td colspan="2">ＡＬＴを活用したコミュニケーション活動
主体的な学び
・繰り返し挑戦し、進んで話そうとする意欲を高める。
・デジタル教材等を活用し、英語のイントネーションを意識させる。
・指導者が，率先して英語を話そうとする姿勢を示す。
ゲーム等の活動
・単に児童が喜ぶようなゲーム等としない。
・「競う」だけではなく、「協力」等の要素を取り入れる。
・慣れ親しませたり，コミュニケーションを促進したりするために活用する。</td><td>教科としての外国語
・単語や英語表現を繰り返し、定着をめざす。
・英語を使う場面の工夫と，体験を重視する。
・「英語が好き」「英語をもっと学びたい」という児童を育成し，中学校での学習につなげる。
文字の指導
・中学年から音声で慣れ親しんだ上で「読むこと・書くこと」を高学年で取り扱う。
・大文字、小文字を活字体で書き、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現を書き写す。</td></tr>
<tr><td>育てたい力</td><td>言語活動</td><td colspan="2">聞くこと 身近で簡単な事柄を聞いておおよその内容が分かったり、簡単な語句、基本的な表現を聞いて、文字やイラスト、写真などと結び付ける活動　読むこと 大文字と小文字を識別する活動・活字体を見て、読み方を適切に発音する活動　話すこと（やり取り） 自分のことや身の回りの物について気持ちや考えを伝え合ったり、挨拶や簡単な質問をしたりして、短い会話をする活動　話すこと（発表） 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、イラストや写真を見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動　書く 文字の読み方を聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動・音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動</td></tr>
<tr><td>態度</td><td colspan="2">英語に親しむ小学生 Let’s enjoy English!
自分のことや自分の気持ちを英語で伝えることができる
・豊かなコミュニケーション力とともに、さまざまな人や文化を受け入れることのできる共生する力や間違うことを恐れず挑戦する力などグローバル社会で生きていく基礎を養っていく。</td></tr>
</table>

中１	中２	中３

言語活動（聞くこと・*読むこと・話すこと（やり取り・発表）・*書くこと）**の統合的な育成**

①知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
②簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる力を養う。
③言語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
＊文字を使った言語活動については，小学校での音声中心の活動から円滑に接続するよう注意して指導する

聞くこと

はっきりと話されれば、日常的な話題について話の概要を、社会的な話題について短い説明の要点を、捉えることができる。

読むこと

日常的な話題について短い文章の概要を、社会的な話題について短い文章の要点を、捉えることができる。

話すこと（やりとり）

関心のある事柄について即興で伝え合ったり、日常的な話題について伝えたり質問に答えたり、社会的な話題について考えたことや感じたこと及びその理由を述べ合うことができる。

話すこと（発表）

関心のある事柄について即興で話したり、日常的な話題についてまとまりのある内容を話したり、社会的な話題について考えたことや感じたこと及びその理由を話すことができる。

書くこと

関心のある事柄について正確に、日常的な話題についてまとまりのある文章を、社会的な話題について考えたことや感じたこと及びその理由を書くことができる。

ＡＬＴを活用したコミュニケーション活動

まとまりのある文章を全体的に捉え、必要な情報を整理して理解する	・聞き取ったり、読み取るべき情報に焦点を当てたタスクの工夫 ・全体を見通した上で総合的に判断し答えを求めるような発問の工夫
得た情報を活用したり、考察し深めたりしてアウトプットにつなげる言語活動の設定	・得た情報を整理し再構成して発表したり、ペアやグループでテーマについて感想や意見を理由など含め交流したりするなどアウトプットにつなげる工夫

聞くこと：話し手の意向を正確に把握。アナウンス等から必要な情報を聞き取る。メッセージを聞き内容を把握。社会的な話題について聞き概要や要点を把握。　読むこと：文章の構成を考え黙読。内容を表現するよう音読。必要とする情報を読み取る。物語り等読み概要を把握。説明等を図表等を参考にして読み要点を把握。　話すこと（やり取り）：質問にその場で応答。メモを活用しながら伝え合う。考えを伝え合ったり、質問をし合ったりして互いに会話を継続させる。　話すこと（発表）：その場で考えを整理して説明。考えや気持ち等をまとめてスピーチ。得た情報の内容に基づき、メモを活用しながら要約したり、考えを話す。　書く：手紙やメールで近況を伝える。出来事などを説明するまとまりのある文を書く。得た情報に基づき、考えや気持ち、理由などを書く。

英語が話せる神戸の中学生 Let's speak English! → **英語が使える高校生** Let's use English!

互いの考えや気持ちを英語で伝え合うことができる

・小学校で親しんだ言語活動の発展、応用及び英語力の定着を目指し、4 技能の総合的な英語運用能力を身につけさせるとともに、多文化共生と国際親善に向けた正しい思考力、判断力を養っていく。

神戸市小学校・義務教育学校（前期課程）教育課程基準作成委員

＜神戸市小・中・義務教育学校教育課程基準策定委員会＞

長澤　憲保（兵庫教育大学大学院教授）　　渡邊　隆信（神戸大学大学院教授）
宮澤　清志（小学校保護者代表）　　横田　暁子（中学校保護者代表）
森　　惠子（地域住民代表）　　中町　則子（幼稚園長会）
戸田　信示（小学校長会）　　来田　勝久（中学校長会）

＜作成委員＞

国　　語

山﨑　悦子　　菱川　　純　　中本　鋼志　　中川　典之　　屋我　千絵　　岩崎　　笑
竹園　　恵　　島崎美和子　　藤岡　大樹　　肥塚　由紀

社　　会

中瀬　　剛　　薮木　忠司　　松田　信吾　　坂本　祐樹　　矢野　洋丞　　山田　重成
田中　章二　　藤原　達郎　　武藤　太平　　深和　優一　　木畑優紀絵　　山口　真人
田中　和江　　田中　稔也

算　　数

山田　　光　　前田　謙二　　十川　祥一　　佐藤　　真　　木下　雄太　　門口　雅広
涌田　　健

理　　科

中山　紀彦　　福崎　統一　　富田　祥子　　田岡　秀樹　　竹本　健介　　阿部　絵美
土屋　真平　　石橋　巨裕　　郡　　守彦　　門脇　衣里

生　　活

加藤　紀久　　河原　恵子　　永福　智美　　近藤美穂子　　川﨑みなみ　　杉本　智美

音　　楽

井上　朱美　　小林　秀行　　重松佐知子　　小林　薫子　　増田　佳織　　福岡　裕人
國松　佳代　　振角このみ

図画工作

中村　　豪　　岡田　修平　　峯松　香織　　小南　昌代　　小田　恵子　　山北貴美恵
根岸　　瞳　　大野　麻夕

家　庭

藤森　朋子　　前田　育代　　山本　涼子　　岡野　新　　小森　裕美　　大畑　詩織

体　育

播谷　昌彦　　大谷　崇　　増田　琢也　　田崎　宏　　原田　丈　　山本　幸二
芝田　克美　　小林　洋介　　黒瀬　将行　　高橋　英樹

外国語活動・外国語

小橋　幸代　　大津　洋一　　小西　美雪　　平田　典子　　野田　潤一　　松﨑　敦子
榎田　悠一　　山下　智也

道　徳

片岡　正　　藤岡　修　　山口　大輔　　白倉　聡子

総合的な学習の時間

古池　茂　　菅　昌恵　　奥井　誠樹　　林　愛子　　西川　智子　　梶谷　祐輔

特別活動

山本　耕己　　小野　徹　　尾﨑美奈穂　　森　友美　　今村明日香　　児嶋　祥継
藤田　晃史　　北元　直樹　　中山　彰　　齋藤　元和　　前川　忠史

教育委員会事務局

藤原　政幸　　山下　准史　　大谷　真一　　内藤　康史　　日比　聡　　浦川　稔弘
山根　修　　梶本　泰宏　　森　広樹　　秋山　広至　　古角　芳忠　　角　素子
前田由紀子　　竹中美香子　　植木　健　　谷後　栄一　　大西裕美子　　橋本　美保
巽　幸代　　光田多賀子　　渡邊　庸平　　幅　美登里　　福田美也子　　安楽　真人
田中　秀滋　　西岡　正樹　　毛利　理枝　　仁ノ内　智　　岡田　洋一　　有原　暢彦
妹尾　和幸　　藤野　雅子

平成31年４月　　印刷・発行

編集者　神　戸　市　教　育　委　員　会

発行者　神　戸　市　教　育　委　員　会

印刷所　旭　成　社